

# 平井遺跡、平井Ⅱ遺跡

—第二阪和国道建設に伴う発掘調査報告書—

2017年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター







# 平井遺跡、平井Ⅱ遺跡

—第二阪和国道建設に伴う発掘調査報告書—

2017年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター





1 平井遺跡 第4次調査 42・61 壺穴建物(南東から)



2 平井遺跡 第3次調査 2方形周溝墓(北西から)

卷頭写真図版 2



1 平井II遺跡 第1次調査 1 土坑遺物出土状況(南西から)



2 平井II遺跡 第1次調査 1 土坑出土 初期須恵器器台

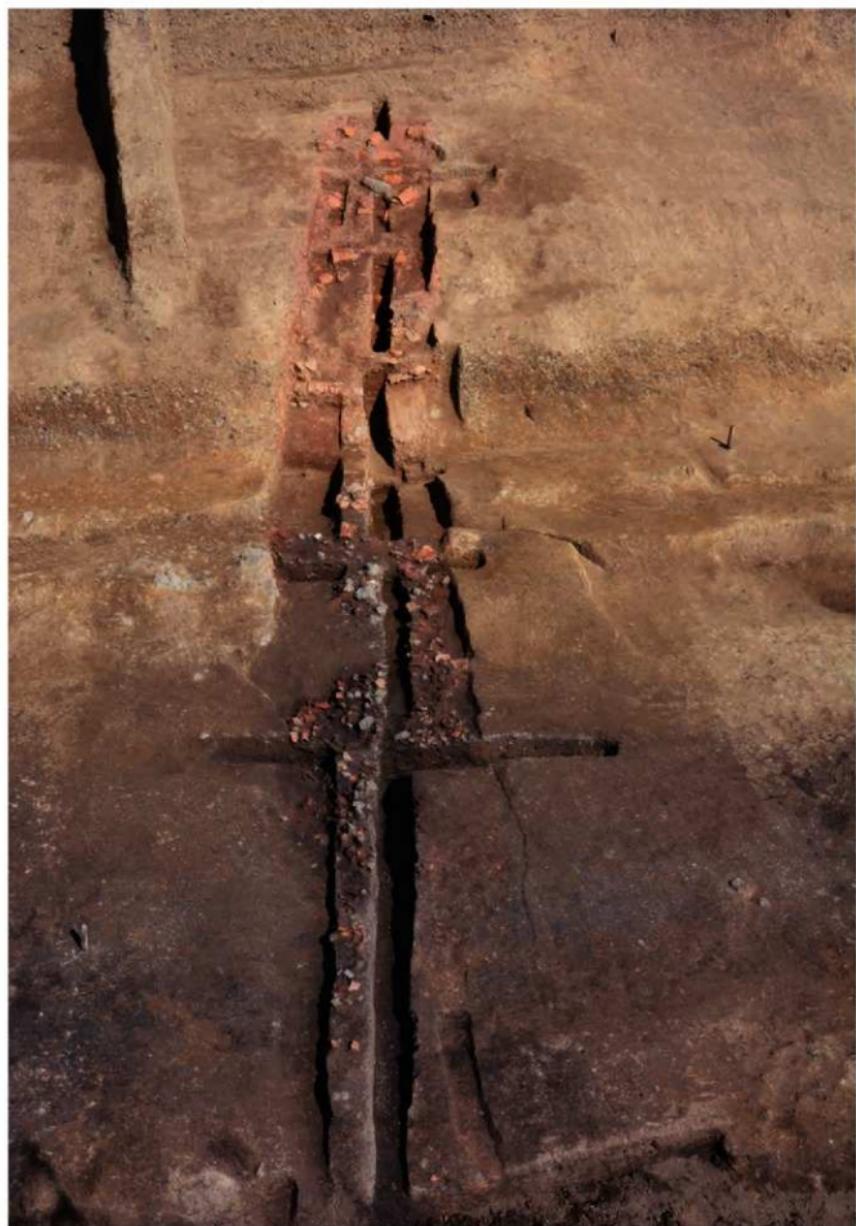


1 平井遺跡 第1次調査 222・257 増輪窯と平井1号墳(南西上空から)



2 平井遺跡 第1次調査 222 増輪窯 床面1(南西から)

卷頭写真図版 4



平井遺跡 第1次調査 257 墓輪窯床面1(南西から)



平井遺跡 第1次調査 257 塚輪窯床面2(南西から)

卷頭写真図版 6



1 平井遺跡 第4次調査 63 横穴式石室(南西から)



2 平井遺跡 第4次調査 85 横穴式石室(南西から)

## 序

紀ノ川下流域は陸路と水路が交わる要衝の地であり、古くから様々な地域の人々の交流がはかられていました。その中でも紀ノ川下流域の北岸は古墳時代の渡来文化が流入した地として知られており、車駕之古址古墳の金製勾玉や大谷古墳の馬青、鳴滝遺跡の大型倉庫群、楠見遺跡の初期須恵器は特に有名です。

当文化財センターでは、第二阪和国道建設に先立ち、これらの遺跡が集中し、紀ノ川河口部の湊があったと考えられている付近の扇状地から丘陵裾部にかけて、平成24年度から同26年度にかけて平井遺跡、平井Ⅱ遺跡の発掘調査を実施してまいりました。これらの遺跡からは、これまで和歌山では存在がほとんど知られていなかった埴輪窯や新たにみつかった古墳、珍しい形象埴輪や陶棺などから、改めて歴史像の組み立てが可能となり、往時の一景観を明らかにすることができました。

平成27年度・同28年度に整理作業を行い、このたびその成果をまとめることができましたので、発掘調査報告書として刊行する次第です。本書が県民の皆様のみならず、広く一般の活用に資することができれば幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたり御指導・御協力を賜りました関係各位、地元の皆様に対し厚くお礼申しあげます。

平成29年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター  
理事長 櫻井敏雄



## 例 言

- 1 本書は、和歌山県和歌山市平井に所在する平井遺跡、平井Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、第二阪和国道建設に先立つもので、平成24年度から同26年度に発掘調査業務を行い、平成27年度から同28年度に出土遺物等整理業務を実施した。
- 3 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、国土交通省の委託を受けた公益財団法人和歌山文化財センターが、和歌山県教育委員会の指導の下に実施した。
- 4 発掘調査及び出土遺物等整理業務に要した経費は、国土交通省(近畿地方整備局)が負担した。
- 5 現地調査に際し、国土交通省(近畿地方整備局)をはじめ、和歌山市教育委員会・関係機関および隣接する地元の方々から多大な御協力を得た。
- 6 発掘調査及び出土遺物等整理業務に際し、以下の方々から御助言を得た。記して、謝意を表す次第である。(敬称略。所属は当時。)  
一瀬和夫(京都橘大学)、犬木 努・長友朋子・三辻利一(大阪大谷大学)、河内一浩(羽曳野市)、  
菅谷文則(奈良県立橿原考古学研究所)、額田雅裕(和歌山市立博物館)、広瀬 覚(奈良文化財研究所)、福永伸哉(大阪大学)、松木武彦(岡山大学)、丸山真史(東海大学)、横田真吾(宮内庁書陵部)、和田晴吾(兵庫県立考古博物館)
- 7 本書は、発掘調査業務担当者と協議のうえ、土井が執筆・編集した。但し、埴輪については、藤井幸司が担当した。
- 8 本文の内、第II章第1節は、額田雅裕氏(和歌山市立博物館)、付章の埴輪の螢光X線分析は、三辻利一氏・犬木 努氏(大阪大谷大学)、動物遺存体の同定は、丸山真史氏(東海大学)、木製品の樹種同定は、須山貴史氏(株式会社イビソク)に執筆して頂いた。
- 9 図版に使用した遺構写真は、調査担当者が各々撮影し、遺物写真は土井・藤井が撮影した。  
但し、木製品及び金属製品は、保存処理後に株式会社イビソクが撮影したものを使用した。
- 10 発掘調査及び出土遺物等整理業務で作成した図面・写真及び台帳等の記録資料は、公益財団法人和歌山県文化財センターが、出土遺物は和歌山県教育委員会が保管している。
- 11 発掘調査・出土遺物等整理業務の調査組織は、以下に示すとおりである。

### 調査組織

事務局	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事務局長	渋谷 高秀	勝浦 久和	嶋田 文紀	米田 良博	南 正人 (管理課長)
埋蔵文化財課長	村田 弘	井石 好裕	井石 好裕	土井 孝之	土井 孝之
発掘調査業務担当					出土遺物等整理業務担当
埋蔵文化財課 (課長補佐)	(課長)	(課長)	(課長)	(課長)	(課長)
井石 好裕	井石 好裕	井石 好裕	土井 孝之	土井 孝之	
	(主任)佐伯和也	(技師)森原かおり			
	(主査)中村淳穂	(調査員)山野晃司			
	(技師)山本光俊				
	(調査員)森原 聖				
	(調査員)山野晃司				

## 凡 例

- 1 遺構実測図及び地区割の基準線は、平面直角座標系第VI系(世界測地系)に基づき、値はm単位で使用している。また、図面に示した北方位は、座標北を示す。
- 2 座標北は、平井遺跡の範囲で磁北から $6^{\circ} 21' 55''$  東偏し、平井II遺跡の範囲で $6^{\circ} 23'$  東偏する。また、座標北は、平井遺跡の範囲で真北から $0^{\circ} 28' 05''$  西偏し、平井II遺跡の範囲で $0^{\circ} 27'$  西偏する。
- 3 遺構実測図の基準高は、東京湾標準潮位(T.P.+)表示である。
- 4 発掘調査及び整理作業で使用した調査コードは、以下のとおりである。

13-01-399	(2013年度－和歌山市・平井遺跡)	第1次調査
13-01-399-2	(2013年度－和歌山市・平井遺跡－同一年度同一遺跡の調査)	第2次調査
14-01-399	(2014年度－和歌山市・平井遺跡)	第3次調査
14-01-399-2	(2014年度－和歌山市・平井遺跡－同一年度同一遺跡の調査)	第4次調査
12-01-437	(2012年度－和歌山市・平井II遺跡)	第1次調査
12-01-437-2	(2012年度－和歌山市・平井II遺跡－同一年度同一遺跡の調査)	第2次調査
13-01-437	(2013年度－和歌山市・平井II遺跡)	第3次調査
13-01-437-2	(2013年度－和歌山市・平井II遺跡－同一年度同一遺跡の調査)	第4次調査

出土遺物・記録資料の整理に当って、全て上記の調査コードを使用している。

- 5 遺構番号は、調査次数毎に1番からの通し番号である。遺構番号には必要に応じて末尾に種類(性格)を付した。但し、遺構が2地区に跨る場合は、先行して調査を行った地区的遺構番号を付して使用している。なお、本書における遺構番号は、全て調査時のものをそのまま使用した。
- 6 本書の遺構・断面土層実測図は、特に縮尺を統一していないが、各々に明示している。
- 7 本書に掲載した遺物番号は、本文・実測図・出土遺物一覧・写真図版において一致する。
- 8 遺物実測図の縮尺は、土器・土製品類は1/4、埴輪類は1/6を原則とするが、それ以外の場合は必要に応じて縮尺を明示している。遺物写真的縮尺は、特に統一していない。
- 9 調査時の土層の色調・土壤の粒径区分及び出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』(2010年版)を使用した。

土層名で2種類以上の記載のある場合は、前者が主体で、後者が副になることを示す。

# 本 文 目 次

第Ⅰ章 調査の経緯と経過 .....	1
第1節 調査に至る経緯 .....	1
第2節 調査の経過 .....	1
第3節 普及活動 .....	3
第4節 技術指導 .....	4
第Ⅱ章 位置と環境 .....	5
第1節 位置と地理的環境 .....	5
第2節 歴史的環境 .....	7
第Ⅲ章 発掘調査の方法と資料整理 .....	11
第1節 調査現場の記録作業 .....	11
1 写真撮影作業 .....	11
3 航空写真撮影・基準点測量 .....	11
第2節 出土遺物等資料の整理 .....	12
1 出土遺物応急整理 .....	12
第3節 調査区の設定 .....	15
第Ⅳ章 調査成果 .....	18
第1節 平井遺跡第1次調査の成果 .....	18
1 第1次調査の概要 .....	18
3 各遺構の調査成果 .....	22
第2節 平井遺跡第2次調査の成果 .....	100
1 第2次調査の概要 .....	100
3 各遺構の調査成果 .....	100
第3節 平井遺跡第3次調査の成果 .....	111
1 第3次調査の概要 .....	111
3 各遺構の調査成果 .....	113
第4節 平井遺跡第4次調査の成果 .....	136
1 第4次調査の概要 .....	136
3 各遺構の調査成果 .....	138
第5節 平井Ⅱ遺跡第1次調査の成果 .....	155
1 第1次調査の概要 .....	155
3 各遺構の調査成果 .....	156
第6節 平井Ⅱ遺跡第2次調査の成果 .....	164
1 第2次調査の概要 .....	164
3 各遺構の調査成果 .....	166
第7節 平井Ⅱ遺跡第3次調査の成果 .....	169
1 第3次調査の概要 .....	169
3 各遺構の調査成果 .....	170
第8節 平井Ⅱ遺跡第4次調査の成果 .....	179
1 第4次調査の概要 .....	179
3 各遺構の調査成果 .....	179

第9節 平井遺跡、平井II遺跡 その他の出土遺物 .....	181
1 石器・石製品.....	181
3 金属製品 .....	184
2 木製品 .....	184
4 動物遺存体 .....	187
第V章まとめ .....	189
第1節 各調査次数での検出遺構と出土遺物 .....	189
1 平井遺跡第1次調査 .....	189
3 平井遺跡第3次調査 .....	190
5 平井II遺跡第1次調査 .....	191
7 平井II遺跡第3次調査 .....	192
2 平井遺跡第2次調査 .....	190
4 平井遺跡第4次調査 .....	191
6 平井II遺跡第2次調査 .....	191
8 平井II遺跡第4次調査 .....	192
第2節 平井遺跡出土埴輪について .....	193
1 円筒埴輪について .....	193
2 形象埴輪の概要について .....	195
3 平井遺跡出土埴輪の位置付け .....	200
付章 .....	205
第1節 平井遺跡出土埴輪の螢光X線分析 .....	205
1 はじめに .....	205
3 分析結果 .....	205
第2節 出土動物遺存体の同定 .....	217
1 動物遺存体の概要 .....	217
3 まとめ .....	217
第3節 出土木製品の樹種同定 .....	219
1 同定試料と方法 .....	219
3 まとめ .....	219
出土遺物一覧 .....	221
写真図版 検出遺構・出土遺物	
報告書抄録・奥付	

# 挿図目次

図1 平井遺跡、平井II遺跡と周辺の地形分類図	6
図2 古墳時代の和歌山平野と平井遺跡、平井II遺跡の位置	6
図3 平井遺跡、平井II遺跡と周辺の道路	8
図4 区画割模式図(1km区画)	15
図5 調査位置と区画割(100m区画)	16
図6 調査範囲と地区割(4m区画)	17
図7 平井遺跡 第1次 調査区南西壁断面土層模式図	20
図8 平井遺跡 第1次 調査区北西壁断面土層模式図	21
図9 平井遺跡 第1次 3東区・5東区 北西壁断面土層模式図	21
図10 平井遺跡 第1次 2北区・4北区 南東壁断面土層模式図	21
図11 平井遺跡 第1次 道構全体平面図	23・24
図12 平井遺跡 第1次 2南区 第1道構面 559土坑実測図	25
図13 平井遺跡 第1次 3東区 第1道構面 342・343満実測図	25
図14 平井遺跡 第1次 3南区 第1道構面 648土坑実測図	26
図15 平井遺跡 第1次 3南区 第1道構面 621土坑実測図	27
図16 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 222埴輪床面1 実測図	29・30
図17 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 222埴輪床面2 実測図	29・30
図18 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 222埴輪床面3 実測図	31
図19 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 222埴輪断面土層実測図	32
図20 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 257埴輪窓検出時実測図	33・34
図21 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 257埴輪床面1 実測図	33・34
図22 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 257埴輪床面2 実測図	35・36
図23 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 257埴輪床面3a 実測図	35・36
図24 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 257埴輪床面3b 実測図	37・38
図25 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 257埴輪床面4 実測図	37・38
図26 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 257埴輪床面5 実測図	39・40
図27 平井遺跡 第1次 1北区・1北区拡張区 第1道構面 002横穴式石室実測図	42
図28 平井遺跡 第1次 1北区 第1道構面 003横穴式石室痕跡実測図	43
図29 平井遺跡 第1次 3北区 第1道構面 260堅穴系小石室実測図	44
図30 平井遺跡 第1次 3北区・4北区・4南区 第1道構面 挖立柱建物1 実測図	46
図31 平井遺跡 第1次 4北区 第1道構面 挖立柱建物2 実測図	47
図32 平井遺跡 第1次 4北区 第1道構面 挖立柱建物3 実測図	48
図33 平井遺跡 第1次 3北区・3南区・4南区 第1道構面 挖立柱建物4 実測図	49
図34 平井遺跡 第1次 4北区・4南区 第1道構面 挖立柱建物5 実測図	50
図35 平井遺跡 第1次 4南区 第1道構面 挖立柱建物6 実測図	51
図36 平井遺跡 第1次 3南区 第1道構面 挖立柱建物10 実測図	52
図37 平井遺跡 第1次 5東区 第1道構面 303土坑実測図	53
図38 平井遺跡 第1次 3東区 第1道構面 341満集石範囲実測図	54
図39 平井遺跡 第1次 4北区 第1道構面 229灌樹実測図	56
図40 平井遺跡 第1次 2北区 第1道構面 029井戸実測図	57
図41 平井遺跡 第1次 第1道構面 道構・遺物包含層出土遺物実測図1	58
図42 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 222埴輪窓(1号窓)出土埴輪実測図1(床面1)	59
図43 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 222埴輪窓(1号窓)出土埴輪実測図2(床面1)	60
図44 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 222埴輪窓(1号窓)出土埴輪実測図3(床面1)	61
図45 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 222埴輪窓(1号窓)出土埴輪実測団4(床面2)	62
図46 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 222埴輪窓(1号窓)出土埴輪実測団5(床面3)	63
図47 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 222埴輪窓(1号窓)出土埴輪実測団6(床面3)	64
図48 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 257埴輪窓(2号窓)出土埴輪実測団1(床面1)	65
図49 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 257埴輪窓(2号窓)出土埴輪実測団2(床面1)	66
図50 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 257埴輪窓(2号窓)出土埴輪実測団3(床面1)	67
図51 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 257埴輪窓(2号窓)出土埴輪実測団4(床面1)	68
図52 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 257埴輪窓(2号窓)出土埴輪実測団5(床面2)	69
図53 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1道構面 257埴輪窓(2号窓)出土埴輪実測団6(床面2)	70

图54 平井道路 第1次 3北区・3北区扯强区 第1遭構面 257埴輪窓(2号窓)出土埴輪実測図7(床面2)	71
图55 平井道路 第1次 3北区・3北区扯强区 第1遭構面 257埴輪窓(2号窓)出土埴輪実測図8(床面2・3)	72
图56 平井道路 第1次 3北区・3北区扯强区 第1遭構面 257埴輪窓(2号窓)出土埴輪実測図9(床面3)	73
图57 平井道路 第1次 3北区・3北区扯强区 第1遭構面 257埴輪窓(2号窓)出土埴輪実測図10(床面4・5)	74
图58 平井道路 第1次 遺物包含層・他出土埴輪実測図1	75
图59 平井道路 第1次 遺物包含層・他出土埴輪実測図2	76
图60 平井道路 第1次 遺物包含層・他出土埴輪実測図3	77
图61 平井道路 第1次 遺物包含層・他出土埴輪実測図4	78
图62 平井道路 第1次 遺物包含層・他出土埴輪実測図5	79
图63 平井道路 第1次 遺物包含層・他出土埴輪実測図6	80
图64 平井道路 第1次 遺物包含層・他出土埴輪実測図7	81
图65 平井道路 第1次 遺物包含層・他出土埴輪実測図8	82
图66 平井道路 第1次 遺物包含層・他出土埴輪実測図9	83
图67 平井道路 第1次 遺物包含層・他出土埴輪実測図10	84
图68 平井道路 第1次 遺物包含層・他出土埴輪実測図11	85
图69 平井道路 第1次 第1遭構面 遺構・遺物包含層・他出土陶柱実測図	86
图70 平井道路 第1次 第1遭構面 遺構・遺物包含層・他出土遗物实测图2	87
图71 平井道路 第1次 第1遭構面 捩立柱建物柱穴出土遗物实测图	88
图72 平井道路 第1次 第1遭構面 遗構出土遗物实测图1	89
图73 平井道路 第1次 第1遭構面 遗構出土遗物实测图2	90
图74 平井道路 第1次 第1遭構面 遗構出土遗物实测图3	91
图75 平井道路 第1次 第1遭構面 遗構出土遗物实测图4	92
图76 平井道路 第1次 第1遭構面 遗構出土遗物实测图5	93
图77 平井道路 第1次 遗物包含層出土遗物实测图1	94
图78 平井道路 第1次 遗物包含層出土遗物实测图2	95
图79 平井道路 第1次 遗物包含層出土遗物实测图3	96
图80 平井道路 第1次 遗物包含層・他出土遗物实测图1	97
图81 平井道路 第1次 遗物包含層・他出土遗物实测图2	98
图82 平井道路 第1次 遗物包含層・他出土遗物实测图3	99
图83 平井道路 第2次 遗構全体平面図	101・102
图84 平井道路 第2次 7区 130土坑实测图	103
图85 平井道路 第2次 7区 176土坑(地顛遭構)実測図	105
图86 平井道路 第2次 7区 10・80土坑断面土層図	105
图87 平井道路 第2次 7区 20土坑实测图	106
图88 平井道路 第2次 7区 木樋実测图	108
图89 平井道路 第2次 遗構出土遗物实测图	109
图90 平井道路 第2次 遗構・遗物包含層・他出土遗物实测图	110
图91 平井道路 第2次 遗物包含層・他出土遗物实测图	111
图92 平井道路 第3次 調査区南西壁断面土層模式図	112
图93 平井道路 第3次 遗構全体平面図	114
图94 平井道路 第3次 1・2区 第2遭構面 33號六建物实测图	115
图95 平井道路 第3次 1・2区 第2遭構面 44號六建物实测图	116
图96 平井道路 第3次 2・2区 第2遭構面 1土坑实测图	117
图97 平井道路 第3次 1・2区 第2遭構面 59土坑实测图	118
图98 平井道路 第3次 1・2区・2・2区 第2遭構面 2方形周溝墓实测图	119
图99 平井道路 第3次 第2遭構面 遗構出土遗物实测图1	128
图100 平井道路 第3次 第2遭構面 遗構出土遗物实测图2	129
图101 平井道路 第3次 第2遭構面 遗構出土遗物实测图3	130
图102 平井道路 第3次 第2遭構面 遗構出土遗物实测图4	131
图103 平井道路 第3次 第2遭構面 遗構・遗物包含層出土遗物实测图	132
图104 平井道路 第3次 遗物包含層出土遗物实测图	133
图105 平井道路 第3次 遗物包含層・他出土遗物实测图	134
图106 平井道路 第3次 遗構・遗物包含層・他出土遗物实测图	135
图107 平井道路 第4次 調査区南北壁断面土層模式図	137
图108 平井道路 第4次 遗構全体平面図	139・140
图109 平井道路 第4次 6・1北区・南区 第2遭構面 42・61號六建物实测图	141
图110 平井道路 第4次 6・1南区 第2遭構面 114・117號六建物实测图	143
图111 平井道路 第4次 6・1南区・6・2南区 第2遭構面 139號六建物实测图	144
图112 平井道路 第4次 6・2南区 第1遭構面 63號六式石室实测图	146
图113 平井道路 第4次 6・2南区 第1遭構面 85號六式石室实测图	147

図114 平井遺跡 第4次 6-2南区 第1遺構面 11土坑実測図	149
図115 平井遺跡 第4次 6-2南区 第1遺構面 29土坑実測図	149
図116 平井遺跡 第4次 第2遺構面 遺構出土遺物実測図	151
図117 平井遺跡 第4次 第2遺構面・第1遺構面 遺構出土遺物実測図	152
図118 平井遺跡 第4次 第1遺構面 遺構出土遺物実測図1	153
図119 平井遺跡 第4次 第1遺構面 遺構出土遺物実測図2	154
図120 平井II遺跡 第1次 遺構全体平面図	155
図121 平井II遺跡 第1次 1区 1土坑実測図	157
図122 平井II遺跡 第1次 1区 4土坑実測図	159
図123 平井II遺跡 第1次 1区 53柱穴実測図	159
図124 平井II遺跡 第1次 1区 59柱穴実測図	159
図125 平井II遺跡 第1次 1区 F土坑実測図	159
図126 平井II遺跡 第1次 遺構出土遺物実測図	161
図127 平井II遺跡 第1次 遺構・遺物包含層・他出土遺物実測図	162
図128 平井II遺跡 第1次 遺構・遺物包含層出土遺物実測図	163
図129 平井II遺跡 第1次 遺物包含層出土遺物実測図	164
図130 平井II遺跡 第2次 遺構全体平面図	165
図131 平井II遺跡 第2次 第2遺構面 2区 261土坑実測図	166
図132 平井II遺跡 第2次 第2遺構面 2区 240~243土坑実測図	167
図133 平井II遺跡 第2次 第2遺構面 2区 244土坑実測図	167
図134 平井II遺跡 第2次 遺構・遺物包含層・他出土遺物実測図	168
図135 平井II遺跡 第3次 4区 第2遺構面 006土坑実測図	170
図136 平井II遺跡 第3次 遺構全体平面図	171・172
図137 平井II遺跡 第3次 6南区 第2遺構面 挖立柱建物・柵列実測図	173
図138 平井II遺跡 第3次 6北区 第2遺構面 118井戸実測図	173
図139 平井II遺跡 第3次 7北区 第2遺構面 001溝断面実測図	174
図140 平井II遺跡 第3次 5北区 第1遺構面 073井戸実測図	175
図141 平井II遺跡 第3次 5北区 第1遺構面 082樹木実測図	176
図142 平井II遺跡 第3次 遺構出土遺物実測図	177
図143 平井II遺跡 第3次 遺構・遺物包含層・他出土遺物実測図	178
図144 平井II遺跡 第4次 遺構全体平面図	179
図145 平井II遺跡 第4次 9区 905土坑実測図	180
図146 平井II遺跡 第4次 遺構・遺物包含層出土遺物実測図	180
図147 平井遺跡、平井II遺跡 遺構・遺物包含層・他出土石器・石製品実測図	182
図148 平井遺跡、平井II遺跡 遺構・遺物包含層出土石器・石製品実測図	183
図149 平井遺跡 第3次 遺構出土木製品実測図	185
図150 平井遺跡 第1次・第3次 遺構出土木製品実測図1	186
図151 平井遺跡 第1次・第3次 遺構出土木製品実測図2	187
図152 平井遺跡 第1次・第4次 遺構・遺物包含層出土金属製品実測図	188
図153 平井遺跡出土の主な円筒埴輪	194
図154 平井遺跡、平井II遺跡出土のその他の形象埴輪	196
図155 石見型埴輪各部の名称	195
図156 平井遺跡出土の主な石見型埴輪	196
図157 平井遺跡と大日山35号墳出土の形象埴輪の比較	198
図158 平井遺跡埴輪群の位置付け概念図	201

## 表 目 次

表1 発掘調査・出土遺物等整理業務工程	2
表2 平井遺跡、平井II遺跡と周辺の遺跡地名一覧	
	9

表3 平井遺跡出土石見型埴輪大別一覧	197
表4 蛍光X線分析と出土位置の関係性	200

## 写 真 目 次

写真1 平井遺跡 第1次調査 257埴輪窯掘削作業状況(南西から) .....	2	写真24 シリコン塗布作業 .....	123
写真2 現地公開風景(平井遺跡 第1次調査) .....	3	写真25 ポリエステル樹脂積層作業 .....	123
写真3 現地説明会風景(平井遺跡 第1次調査) .....	3	写真26 角材で補強 .....	123
写真4 現地指導風景(平井遺跡 第1次調査) .....	4	写真27 脱型作業 .....	123
写真5 車廻之古墳古墳(北東上空から) .....	7	写真28 脱型作業(造構面の剥ぎ取り) .....	123
写真6 大谷古墳(南東上空から) .....	7	写真29 脱型(窓部) .....	124
写真7 喚魂道路(真上空から) .....	10	写真30 搬出・搬入状況 .....	124
写真8 楠見遺跡出土の初期須恵器 .....	10	写真31 257埴輪窯窓掘削状況(南西から) .....	124
写真9 出土遺物(土器類)の洗浄作業 .....	12	写真32 塩輪窯現地保存範囲: 砂養生(南東から) .....	124
写真10 出土遺物への記注作業 .....	12	写真33 塩輪窯現地保存範囲: シート養生(南東から) .....	124
写真11 出土遺物(土器)の接合作業 .....	13	写真34 型設置 .....	125
写真12 遺物充填材による埴輪の復元作業 .....	13	写真35 型修正 .....	125
写真13 塩輪の実測図作成作業 .....	13	写真36 ポリエステル樹脂及びガラス繊維を積層 .....	125
写真14 木製品の実測図作成作業 .....	13	写真37 骨組み・サイズ加工(全体) .....	125
写真15 遺物実測図のトレース作業 .....	13	写真38 骨組み・サイズ加工(部分) .....	126
写真16 遺物実測図のレイアウト作業 .....	13	写真39 脱型(反転) .....	126
写真17 造構図面のトレース作業 .....	14	写真40 彩色 .....	126
写真18 造構図面トレース図のレイアウト作業 .....	14	写真41 完成 .....	126
写真19 各種データのPC入力作業 .....	14	写真42 完成(剥ぎ取りレベル図面) .....	126
写真20 造構写真的整理 .....	14	写真43 保管場所への運搬 .....	127
写真21 作業開始前の養生状況(北西から) .....	123	写真44 保管場所への搬入 .....	127
写真22 剥ぎ取り作業開始 .....	123	写真45 保管場所への納品・設置(仮置き) .....	127
写真23 銀活養生 .....	123	写真46 納品完了 .....	127
		写真47 大谷古墳簡便埴輪 .....	201

## 付章 表・写真目次

### 第1節

図1 平井遺跡出土埴輪の両分布図 .....	207
図2 平井遺跡D群埴輪のk-Ca分布図 .....	208
図3 平井遺跡D群埴輪のRb-Sr分布図 .....	208
図4 平井遺跡A群・E群埴輪の両相関図 .....	209
図5 平井遺跡B群埴輪の両相関図 .....	209
図6 平井遺跡C群埴輪の両相関図 .....	209
図7 平井遺跡D群埴輪の両相関図 .....	209
図8 平井遺跡A群埴輪の両分布図 .....	210
図9 平井遺跡B群埴輪の両分布図 .....	210
図10 平井遺跡C群埴輪の両分布図 .....	210
図11 平井遺跡E群埴輪の両分布図 .....	210

表1 平井遺跡出土埴輪蛍光X線分析一覧 .....	211
---------------------------	-----

### 第2節

表1 動物遺存体種名表 .....	217
表2 平井遺跡出土動物遺存体一覧 .....	218
写真1 第3次調査 イノシシ肩甲骨 .....	218
写真2 第4次調査 ウマ上顎M2 .....	218
写真3 第4次調査 ウマ上顎M3 .....	218

### 第3節

表1 出土木製品の樹種同定結果一覧 .....	219
写真1 出土木製品の光学顕微鏡写真 .....	220

# 写真図版目次

## 巻頭写真図版 1

- 1 平井遺跡 第4次調査 42・61堅穴建物(南東から)
- 2 平井遺跡 第3次調査 2方形周溝墓(北西から)

## 巻頭写真図版 2

- 1 平井II遺跡 第1次調査 1土坑遺物出土状況(南西から)
- 2 平井II遺跡 第1次調査 1土坑出土 初期須恵器台

## 巻頭写真図版 3

- 1 平井遺跡 第1次調査 222・257埴輪窯と平井1号墳(南西上空から)
- 2 平井遺跡 第1次調査 222埴輪窯床面1(南西から)

## 巻頭写真図版 4

- 平井遺跡 第1次調査 257埴輪窯床面1(南西から)

## 巻頭写真図版 5

- 平井遺跡 第1次調査 257埴輪窯床面2(南西から)

## 巻頭写真図版 6

- 1 平井遺跡 第4次調査 63横穴式石室(南西から)
- 2 平井遺跡 第4次調査 85横穴式石室(南西から)

## 写真図版 1 平井遺跡 第1次、平井II遺跡 第3次 調査遺構

平井遺跡、平井II遺跡の調査地と周辺の地形(北西上空から:左側が北東 モザイク写真)

## 写真図版 2 平井遺跡 第1次 調査遺構

1区～5区 第1遺構面 調査遺構全景(真上上空から:左側が北東 モザイク写真)

## 写真図版 3 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 1北区・2北区・4北区 第1遺構面 調査遺構全景(北西上空から)
- 2 4北区・2北区・1北区 第1遺構面 調査遺構全景(南東上空から)

- 3 2南区・4南区・3南区・5南区 第1遺構面 調査遺構全景(北西上空から)

## 写真図版 4 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 3北区・3北区拡張区・5北区 第1遺構面 調査遺構全景(南東上空から)
- 2 3北区・3北区拡張区・5北区 第1遺構面 調査遺構全景(南東から)

- 3 3東区・5東区(第2次 7区含む) 第1遺構面 調査遺構全景(北西から)

## 写真図版 5 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 4南区・3南区・5南区・3北区・3北区拡張区 第1遺構面 調査遺構全景(北西上空から)
- 2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222・257埴輪窯(北西上空から)

- 3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222・257埴輪窯床面1(西から)

## 写真図版 6 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222埴輪窯床面1 完掘状況(南西から)
- 2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222埴輪窯床面1 焚口～焼成部遺物出土状況(南西から)

- 3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222埴輪窯床面1 焚口遺物出土状況細部(南東から)

## 写真図版 7 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222埴輪窯床面2 完掘状況(南西から)
- 2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222埴輪窯床面2 燃焼部・焼成部(南西から)
- 3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222埴輪窯床面2 烧成部(南西から)

## 写真図版 8 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222埴輪窯床面3(南西から)
- 2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222埴輪窯床面3 焚口～焼成部遺物出土状況(南西から)
- 3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222埴輪窯床面3 焚口遺物出土状況細部(南東から)

## 写真図版 9 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222埴輪窯断面土層(南西から)
- 2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222埴輪窯東西断面土層(南西から)
- 3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222埴輪窯燃焼部南北断面土層細部(北西から)

## 写真図版 10 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面1(西から)
- 2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面1 遺物出土状況細部(南西から)
- 3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面1 灰原遺物出土状況(南東から)

## 写真図版 11 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面2(南西から)
- 2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面2 遺物出土状況細部(南西から)
- 3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面2 灰原遺物出土状況(南西から)

## 写真図版 12 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面3(南西から)
- 2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面3 遺物出土状況(南西から)
- 3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面3 遺物出土状況細部(南西から)

## 写真図版 13 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面4(南西から)
- 2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面4(南西から)
- 3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面4 遺物出土状況(西から)

## 写真図版 14 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面5(南西から)
- 2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面5 遺物出土状況(南西から)
- 3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面5 遺物出土状況細部(南東から)

#### 写真図版15 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯焼成部4区(セク3)検出面~床面2 東西断面土層(南西から)
- 2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯焼成部4区(セク3)床面1~2 東西断面土層(南西から)
- 3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯4区 南東側 床面1~基盤層南北断面土層(東から)

#### 写真図版16 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 1北区 第1遺構面 002横穴式石室・003横穴式石室痕(真正上空から)
- 2 1北区・1区北拡張区 第1遺構面 002横穴式石室(南西から)
- 3 1北区 第1遺構面 003横穴式石室痕(南東から)

#### 写真図版17 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 2南区 第1遺構面 559土坑遺物出土状況(南から)
- 2 3南区 第1遺構面 621土坑遺物出土状況(南西から)
- 3 3北区 第1遺構面 268土坑遺物出土状況(南東から)
- 4 3北区 第1遺構面 268土坑遺物出土状況細部(西から)

5 3北区 第1遺構面 260堅穴系小石室遺物出土状況(南西から)

6 3北区 第1遺構面 260堅穴系小石室遺物出土状況(南東から)

7 3北区 第1遺構面 260堅穴系小石室(南西から)

8 1北区 第1遺構面 172土坑遺物出土状況(西から)

#### 写真図版18 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 3南区・4南区 第1遺構面 挖立柱建物群(真正上空から)

2 3南区・4南区 第1遺構面 挖立柱建物群(北から)

3 4南区 第1遺構面 挖立柱建物4(南西から)

#### 写真図版19 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 4南区 第1遺構面 挖立柱建物5(北東から)
- 2 4南区 第1遺構面 挖立柱建物6(北東から)
- 3 3南区 第1遺構面 挖立柱建物10~12・16(北西から)

#### 写真図版20 平井遺跡 第1次 調査遺構

- 1 3東区 第1遺構面 341・342溝重複部掘削状況(北から)

2 5東区 第1遺構面 303土坑遺物出土状況(南西から)

3 4南区 第1遺構面 458土坑断面土層及び遺物出土状況(南から)

4 4北区 第1遺構面 229溜槽遺物出土状況(西から)

5 1北区拡張区 第1遺構面 261火葬墓鉄釘出土状況(北東から)

6 2北区 第1遺構面 029井戸検出状況(東から)

7 2北区 第1遺構面 029井戸石組み洗削り状況(東から)

#### 写真図版21 平井遺跡 第1次・第2次 調査遺構

3東区・5東区・7区 調査遺構全景(真正上空から: 左側が北北東 モザイク写真)

#### 写真図版22 平井遺跡 第1次・第2次 調査遺構

1 3東区・5東区・7区 上段・下段西半部 調査遺構全景(北西上空から)

2 7区上段・下段西半部・5区東・3区東 調査遺構全景(東南上空から)

3 7区 下段東半部 調査遺構全景(北西上空から)

#### 写真図版23 平井遺跡 第1次・第2次 調査遺構

1 3東区・5東区・7区 西端 調査遺構全景(北東から)

2 7区 130土坑遺物出土状況(南から)

3 7区 130土坑遺物出土状況(北西から)

#### 写真図版24 平井遺跡 第2次 調査遺構

- 1 7区 下段西端 調査遺構全景(南東から)
- 2 7区 20土坑断面土層(南から)
- 3 7区 80土坑断面土層(南西から)

#### 写真図版25 平井遺跡 第2次 調査遺構

- 1 7区 下段東半部 調査遺構全景(東南東から)
- 2 7区 176土坑(地鎮遺構) 遺物出土状況(南から)
- 3 7区 池の排水施設(西から)

#### 写真図版26 平井遺跡 第3次 調査遺構

- 1 1-2区 西半部 調査区南西壁断面土層(北東から)
- 2 1-2区 調査区南西壁断面土層(北東から)
- 3 2-2区 調査区南西壁断面土層(北東から)

#### 写真図版27 平井遺跡 第3次 調査遺構

- 1 1-2区・2-2区 第2遺構面 調査遺構全景(南東から)
- 2 1-2区 調査区南西壁断面土層(北東から)

#### 写真図版28 平井遺跡 第3次 調査遺構

- 1 1-2区 第2遺構面 33堅穴建物(南東から)
- 2 1-2区 第2遺構面 33堅穴建物41中央炉・小穴(北東から)

3 1-2区 第2遺構面 44堅穴建物(北東から)

#### 写真図版29 平井遺跡 第3次 調査遺構

- 1 2-2区 第1遺構面 1土坑(北東から)
- 2 1-2区 第2遺構面 59土坑木製品出土状況(北から)
- 3 1-2区 第2遺構面 59土坑東西断面土層(南東から)

#### 写真図版30 平井遺跡 第3次 調査遺構

- 1 1-2区・2-2区 第2遺構面 2方形周溝墓(北西から)
- 2 2-2区 第2遺構面 2方形周溝墓 周溝遺物出土状況(南東から)
- 3 1-2区 第2遺構面 2方形周溝墓周溝断面土層(南西から)

#### 写真図版31 平井遺跡 第4次 調査遺構

6区 第2遺構面 調査遺構全景(真正上空から: 左側が北北東 モザイク写真)

#### 写真図版32 平井遺跡 第4次 調査遺構

- 1 6-1北区 第2遺構面 調査遺構全景(西北西上空から)
- 2 6-1南区・6-2南区 第2遺構面 調査遺構全景(西北西上空から)
- 3 6-1南区・6-2南区 第2遺構面 調査遺構全景(西北西から)

#### 写真図版33 平井遺跡 第4次 調査遺構

- 1 6-2南区東半部 第2遺構面 調査遺構全景(西北西から)
- 2 6-1北区・南区 第2遺構面 42・61堅穴建物(南東から)

3 6-1北区・南区 第2遺構面 42堅穴建物内62中央炉(西北西から)

4 6-1北区・南区 第2遺構面 42堅穴建物内62中央炉断面土層(西北西から)

#### 写真図版34 平井遺跡 第4次 調査遺構

- 1 6-1南区 第2遺構面 114・117堅穴建物(北西から)
- 2 6-1南区 第2遺構面 114・117堅穴建物(北北東から)

- 3 6-1 南区・6-2 南区 第2造構面 139堅穴建物  
(北から)
- 写真図版35 平井遺跡 第4次 調査遺構**  
6区 第1造構面 調査遺構全景(真上上空から:左側が北北東 モザイク写真)
- 写真図版36 平井遺跡 第4次 調査遺構**  
6-2 南区 第1造構面 63横穴式石室(真上上空から:上側が北北東)
- 写真図版37 平井遺跡 第4次 調査遺構**  
1 6-2 南区 第1造構面 63横穴式石室玄室遺物出土  
状況(南西から)
- 2 6-2 南区 第1造構面 63横穴式石室小室遺物出土  
状況(南東から)
- 3 6-2 南区 第1造構面 63横穴式石室玄室奥壁(南  
西から)
- 4 6-2 南区 第1造構面 63横穴式石室玄室右側壁  
(西北西から)
- 5 6-2 南区 第1造構面 63横穴式石室玄室左側壁  
(東南東から)
- 写真図版38 平井遺跡 第4次 調査遺構**  
6-2 南区 第1造構面 85横穴式石室(真上上空から:  
上側が北北東)
- 写真図版39 平井遺跡 第4次 調査遺構**  
1 6-2 南区 第1造構面 85横穴式石室玄室遺物出土  
状況(北北東から)
- 2 6-2 南区 第1造構面 85横穴式石室玄室遺物出土  
状況(北東から)
- 3 6-2 南区 第1造構面 85横穴式石室玄室奥壁(南  
西から)
- 4 6-2 南区 第1造構面 85横穴式石室玄室右側壁  
(西北西から)
- 5 6-2 南区 第1造構面 85横穴式石室玄室左側壁  
(東南東から)
- 写真図版40 平井遺跡 第4次 調査遺構**  
1 6-2 南区 第1造構面 11土坑(北西から)
- 2 6-2 南区 第1造構面 29土坑遺物出土状況(北東  
から)
- 3 6-2 南区 第1造構面 29土坑遺物出土状況細部  
(東から)
- 4 6-2 南区 第1造構面 89土師器皿群出土状況細部  
(西北西から:63横穴式石室)
- 写真図版41 平井II遺跡 第1次 調査遺構**  
1 1区 調査地遠景(西から)
- 2 1区 調査遺構全景(真上上空から:上側が北)
- 3 1区 調査遺構全景(南東から)
- 写真図版42 平井II遺跡 第1次 調査遺構**  
1 1-2 東区 セクションベルト東西断面層(南から)
- 2 1区 1土坑遺物出土状況(南西から)
- 3 1区 1土坑遺物出土状況(南東から)
- 写真図版43 平井II遺跡 第1次 調査遺構**  
1 1区 1土坑遺物出土状況(南西から)
- 2 1区 1土坑遺物出土状況(北西から)
- 3 1区 1土坑遺物出土状況(北西から)
- 写真図版44 平井II遺跡 第1次 調査遺構**  
1 1区 1土坑遺物出土状況細部(南西から)
- 2 1区 1土坑遺物出土状況細部(北東から)
- 3 1区 1土坑遺物出土状況細部(南西から)
- 写真図版45 平井II遺跡 第1次 調査遺構**  
1 1区 53柱穴遺物出土状況(北から)
- 2 1区 53柱穴遺物出土状況(北西から)
- 3 1区 59柱穴遺物出土状況(南東から)
- 4 1区 59柱穴遺物出土状況(北東から)
- 5 1区 4土坑遺物出土状況(東から)
- 6 1区 36土坑完掘状況(南東から)
- 7 1区 B・G・H土坑完掘状況(南東から)
- 8 1区 F土坑桶内完掘状況(南から)
- 写真図版46 平井II遺跡 第2次 調査遺構**  
1 2区 第2造構面 調査遺構全景(南東から)
- 2 2区 第2造構面 調査遺構全景(北西から)
- 3 2区 第2造構面 240-244土坑遺物出土状況(北西  
から)
- 写真図版47 平井II遺跡 第2次 調査遺構**  
1 2区 第2造構面 240土坑遺物出土状況(東から)
- 2 2区 第2造構面 241土坑遺物出土状況(東から)
- 3 2区 第2造構面 242・243土坑遺物出土状況(東か  
ら)
- 4 2区 第1造構面 244土坑遺物出土状況(南から)
- 写真図版48 平井II遺跡 第2次 調査遺構**  
1 2区 第1造構面 調査遺構全景(南東から)
- 2 2区 第1造構面 調査遺構全景(北西から)
- 3 2区 北半部 第1造構面 調査遺構(南東から)
- 写真図版49 平井II遺跡 第2次 調査遺構**  
1 2区 南半部 第1造構面 調査遺構(東から)
- 2 3区 調査遺構全景(北東から)
- 3 3区 調査遺構全景(北から)
- 写真図版50 平井II遺跡 第3次 調査遺構**  
5 南区・5 北区・5 東区・8 区 第2造構面 調査遺構全  
景(真上上空から:左側が北北東 モザイク写真)
- 写真図版51 平井II遺跡 第3次 調査遺構**  
1 7 北区・6 北区 第2造構面、5 北区 第1造構面  
調査遺構全景(北西から)
- 2 7 南区・6 南区 第2造構面、5 南区 第1造構面  
調査遺構全景(北西上空から)
- 3 6 南区 第2造構面 挖立柱建物・櫛列(南上空から)
- 写真図版52 平井II遺跡 第3次 調査遺構**  
1 8 区 第3造構面 調査遺構全景(北西上空から)
- 2 8 区 第3造構面 調査遺構全景(北西から)
- 3 5 北区・6 北区 第2造構面 調査遺構全景(北西から)
- 写真図版53 平井II遺跡 第3次 調査遺構**  
1 5 北区・6 北区 第2造構面 調査遺構全景(南東から)
- 2 7 北区 第2造構面 調査遺構全景(東から)
- 3 5 東区 第2造構面 調査遺構全景(東から)
- 写真図版54 平井II遺跡 第3次 調査遺構**  
1 4 区 第2造構面 調査遺構全景(北東から)
- 2 4 区 第2造構面 006土坑遺物出土状況(北西から)
- 3 4 区 第2造構面 006土坑遺物出土状況細部(北東か  
ら)
- 4 6 北区 第2造構面 118井戸遺物出土状況(北西から)
- 5 6 北区 第2造構面 118井戸遺物出土状況細部(北  
から)
- 6 5 東区 第2造構面 004土坑完掘状況(東から)
- 7 5 東区 第2造構面 勉溝完掘状況(南東から)
- 写真図版55 平井II遺跡 第3次 調査遺構**  
4~8 区 第2造構面及び第1造構面 調査遺構全景(真  
上上空から:左側が北北東 モザイク写真)
- 写真図版56 平井II遺跡 第3次 調査遺構**  
1 5 北区 第1造構面、6 北区・7 北区 第2造構面  
調査遺構全景(南東上空から)

2	5北区 第1遺構面、6北区・7北区 第2遺構面 調査遺構全景(北西上空から)	写真図版77 平井遺跡 第1次 遺物包含層・他出土埴輪2
3	4区 第2遺構面、5東区 第1遺構面 調査遺構全 景(南東上空から)	写真図版78 平井遺跡 第1次 遺物包含層・他出土埴輪3
	写真図版57 平井II遺跡 第3次 調査遺構	写真図版79 平井遺跡 第1次 遺物包含層・他出土埴輪4
1	5南区 第1遺構面、6南区・7南区 第2遺構面 調査遺構全景(南東上空から)	写真図版80 平井遺跡 第1次 遺物包含層・他出土埴輪5
2	5南区 第1遺構面 調査遺構全景(南東から)	写真図版81 平井遺跡 第1次 遺物包含層・他出土埴輪6
3	5北区 第1遺構面 中世の区画溝完掘状況(東から)	写真図版82 平井遺跡 第1次 遺構・遺物包含層・他出土 陶棺
	写真図版58 平井II遺跡 第3次 調査遺構	写真図版83 平井遺跡 第1次 遺構・遺物包含層・他出土 遺物
1	8区 第1遺構面 調査遺構全景(西から)	写真図版84 平井遺跡 第1次 遺構・遺物包含層出土遺物
2	5北区 第1遺構面 073井戸・082溜柵完掘状況(南 東から)	写真図版85 平井遺跡 第1次 遺構出土遺物2
3	5北区 第1遺構面 柱穴・小穴列(南東から)	写真図版86 平井遺跡 第1次 遺構出土遺物3
	写真図版59 平井II遺跡 第3次 調査遺構	写真図版87 平井遺跡 第1次 遺構出土遺物4
1	5北区 第1遺構面 073井戸上層遺物出土状況(北東 から)	写真図版88 平井遺跡 第1次 遺構出土遺物5
2	5北区 第1遺構面 073井戸曲物・遺物出土状況(南 東から)	写真図版89 平井遺跡 第1次 遺物包含層出土遺物1
3	5北区 第1遺構面 073井戸曲物・遺物出土状況細 部(南から)	写真図版90 平井遺跡 第1次 遺物包含層出土遺物2
4	5北区 第1遺構面 073井戸曲物検出状況(南西から)	写真図版91 平井遺跡 第1次 遺物包含層・他出土遺物
5	5北区 第1遺構面 073井戸曲物内遺物出土状況細 部(南東から)	写真図版92 平井遺跡 第2次 遺構出土遺物
6	5北区 第1遺構面 082溜柵遺物出土状況(東から)	写真図版93 平井遺跡 第2次 遺構・遺物包含層出土遺物
7	5北区 第1遺構面 082溜柵木組み状況(南から)	写真図版94 平井遺跡 第3次 遺構出土遺物1
8	5北区 第1遺構面 082溜柵完掘状況(東から)	写真図版95 平井遺跡 第3次 遺構出土遺物2
	写真図版60 平井II遺跡 第4次 調査遺構	写真図版96 平井遺跡 第3次 遺構出土遺物3
1	9区 調査遺構全景(南東上空から)	写真図版97 平井遺跡 第3次 遺構出土遺物4
2	9区 調査遺構全景(北西から)	写真図版98 平井遺跡 第3次 遺物包含層出土遺物
3	9区 調査遺構全景(東から)	写真図版99 平井遺跡 第3次 遺構・遺物包含層・他出土 遺物
	写真図版61 平井遺跡 第1次 遺構出土遺物1	写真図版100 平井遺跡 第4次 遺構出土遺物1
	写真図版62 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪1	写真図版101 平井遺跡 第4次 遺構出土遺物2
	写真図版63 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪2	写真図版102 平井遺跡 第4次 遺構出土遺物3
	写真図版64 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪3	写真図版103 平井遺跡 第4次 遺構・他出土遺物
	写真図版65 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪4	写真図版104 平井II遺跡 第1次 遺構出土遺物
	写真図版66 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪5	写真図版105 平井II遺跡 第1次 遺構・遺物包含層出土 遺物1
	写真図版67 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪6	写真図版106 平井II遺跡 第1次 遺構・遺物包含層出土 遺物2
	写真図版68 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪7	写真図版107 平井遺跡 第2次 遺構・第3次 遺構出 土遺物
	写真図版69 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪8	写真図版108 平井II遺跡 第3次 遺物包含層・他、第 4次 遺構出土遺物・平井遺跡・平井II遺 跡 遺構・遺物包含層出土石器・石製品
	写真図版70 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪9	写真図版109 平井遺跡・平井II遺跡 遺構・遺物包含層・ 他出土石器・石製品
	写真図版71 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪10	写真図版110 平井遺跡・平井II遺跡 遺構・遺物包含層出 土石器・石製品
	写真図版72 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪11	写真図版111 平井遺跡 第1次・第3次 遺構出土木製品
	写真図版73 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪12	写真図版112 平井遺跡 第1次・第4次 遺構・遺物包含 層出土金属製品
	写真図版74 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪13	
	写真図版75 平井遺跡 第1次 塙築出土埴輪14	
	写真図版76 平井遺跡 第1次 遺物包含層・他出土埴輪1	

## 第Ⅰ章 調査の経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

今回の調査対象となる「一般国道26号第二阪和国道」(以下、「第二阪和国道」とする。)は、和歌山県の紀ノ川北岸を南北に縦断し、北側の大坂府に連絡し、府県間のアクセス道路としての役目を担っている。対象となる新設路線は、現道の交通問題に対処し、地域に活力とゆとりをもたらすために、大阪府阪南市から和歌山県和歌山市の間を暫定2車線の主要幹線道路として整備することになっている。

第二阪和国道(和歌山岬道路)建設事業については、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である平井遺跡(図3の399)に該当することから、国土交通省近畿地方整備局和歌山河川国道事務所(以下、「和歌山河川国道事務所」という。)により文化財保護法第94条の通知が提出された。これに対し、和歌山県教育委員会では確認調査が必要である旨の通知を行い、確認調査を実施した。

また、平井II遺跡(図3の439)については、第二阪和国道(和歌山岬道路)建設事業で新たに発見された周知の埋蔵文化財包蔵地である。発見の経緯は、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外に当たる和歌山市平井地内における第二阪和国道(和歌山岬道路)建設工事着手範囲において、遺物の出土を確認した旨の連絡を和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課(以下、「文化遺産課」とする。)が受けた。ただちに現地確認を行った結果、工事着手範囲に埋蔵文化財が展開する可能性が高いことから、和歌山河川国道事務所の了承を得て、既掘削範囲の断面調査及び試掘調査を実施した。

その結果、丘陵裾部を中心とした周囲より標高の高い範囲に埋蔵文化財が展開することが判明したことから、新規発見の埋蔵文化財包蔵地である平井II遺跡として認定された。この認定通知を受け、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である平井II遺跡に該当することから、和歌山河川国道事務所長により文化財保護法第94条の通知が提出された。これに対し、周辺の確認調査及び埋蔵文化財が確認された範囲において記録保存目的の発掘調査を要する旨の通知を和歌山県教育委員会が行った。

以上の経緯を経て、平井遺跡及び平井II遺跡に該当する範囲について、文化遺産課により、合計5次にわたる試掘確認調査が実施された。

### 第2節 調査の経過(図4・5、表1)

以上の計5次わたる平井遺跡及び平井II遺跡の試掘確認調査の結果、記録保存目的の発掘調査を要すると判断された範囲については、当文化財センターが和歌山河川国道事務所から委託を受け発掘調査業務を受託した。

平井遺跡は、第1次調査を平成25(2013)年7月2日～平成26(2014)年3月11日にかけて6,495m<sup>2</sup>について、第2次調査を平成25(2013)年10月3日～平成26(2014)年2月23日にかけて1,884m<sup>2</sup>について、第3次調査を平成26(2014)年4月17日～同年7月7日にかけて673m<sup>2</sup>について、第4次調査を平成26(2014)年6月6日～同年9月10日にかけて1,685m<sup>2</sup>について実施した。

なお、平井遺跡については、本発掘調査中である平成25(2013)年10月には、調査地西の1区の北端で埋没古墳が、調査区東の3区の北端で埴輪窓の窓体を検出したため、当文化財センター

表1 発掘調査・出土遺物等整理業務工程

調査年度	年間	平成24年度（2012年度）				平成25年度（2013年度）				平成26年度（2014年度）				平成27年度（2015年度）				平成28年度（2016年度）							
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平井遺跡 第1次調査	1月																								
平井遺跡 第2次調査	2月																								
平井遺跡 第3次調査	3月																								
平井遺跡 第4次調査	4月																								
平井遺跡 第5次調査	5月																								
平井遺跡 第6次調査	6月																								
平井遺跡 第7次調査	7月																								
平井遺跡 第8次調査	8月																								
平井遺跡 第9次調査	9月																								
平井遺跡 第10次調査	10月																								
平井遺跡 第11次調査	11月																								
平井遺跡 第12次調査	12月																								
出土遺物等整理業務	1月																								
出土遺物等整理業務	2月																								
出土遺物等整理業務	3月																								
出土遺物等整理業務	4月																								
出土遺物等整理業務	5月																								
出土遺物等整理業務	6月																								
出土遺物等整理業務	7月																								
出土遺物等整理業務	8月																								
出土遺物等整理業務	9月																								
出土遺物等整理業務	10月																								
出土遺物等整理業務	11月																								
出土遺物等整理業務	12月																								

から和歌山県教育委員会に報告を行った。この報告により、埋蔵文化財の記録保存を要するとした範囲外に記録保存すべき埋蔵文化財が展開することが判明した。これを受け和歌山県教育委員会は、文化財保護法第94条第2項の規定により平井遺跡の埋蔵文化財の記録保存を要する範囲を変更する旨を和歌山河川国道事務所に通知した。また、当文化財センターでも発掘調査範囲について和歌山河川国道事務所と変更契約を行っている。

さらに、平成26(2014)年2月には、当文化財センターから、文化財保護法第92条第1項の指示事項に基づき、重要遺跡として埴輪窯が2基検出された旨の報告を和歌山県教育委員会に行つた。その結果、和歌山県教育委員会では、文化財保護法第94条第4項の規定により埴輪窯の保存についての協議が必要との判断がなされた。このため、文化財保護法第92条第2項の規定により発掘調査を一時中止するよう通知を受け、調査を一時中断することになった。重要遺跡発見の報告を受け、和歌山県教育委員会では、第二阪和国道(和歌山岬道路)建設事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて和歌山河川国道事務所とその取扱いについて協議を行った。

協議の結果、和歌山河川国道事務所より回答があり、軽量盛土等による土圧軽減を行った上で埴輪窯2基の現地保存措置、また、埋蔵文化財の記録保存措置の一環として、埴輪窯1基の型取り移設保存の実施、そのうえで、先に不時発見され設計変更により現状保存がなされることになった平井1号墳とともに和歌山県指定文化財(史跡)への指定同意されることとなった。なお、以上の協議結果を受けて、平井1号墳及び埴輪窯2基については、「平井1号墳及び平井窯跡群」として和歌山県指定記念物(史跡)として指定されている。

以上の協議結果を受けて、当文化財センターでは平成26年度に実施した平井遺跡第3次調査において記録保存措置の一環として埴輪窯剥ぎ取り保存を行った(詳細については、第IV章第3節にて記述する)。



写真1 平井遺跡 第1次調査 257 塩輪窯掘削作業状況(南西から)

また、平井II遺跡は、第1次調査を平成24(2012)年6月14日～同年10月7日にかけて1,059mについて、第2次調査を平成25(2013)年1月10日～同年2月28日にかけて670mについて、第3次調査を平成25(2013)年7月2日～平成26(2014)年3月11日にかけて3,636mについて、第4次調査を平成25(2013)年10月3日～平成26(2014)年2月23日にかけて309mについて実施した。

今回の発掘調査の対象範囲は平井遺跡と平井II遺跡に及んでいたが、調査地の東端部については、本体工事の関係で先行して平井II遺跡の調査に着手し、平成24(2012)年度に第1次調査と第2次調査を行った。

なお、平井遺跡の第3次調査は、平成26(2014)年3月24日付けて国土交通省近畿地方整備局和歌山河川国道事務所と委託契約を締結し、同年3月25日から業務を開始したが、事業移管のため同年4月1日付けて国土交通省近畿地方整備局浪速国道事務所に契約が引き継がれた。

付加業務として、発掘調査工事及び基準点測量・航空写真測量、航空写真撮影を行った。調査における掘削等は、発掘調査工事として工事請負方式で行った。また、基準点測量及び航空写真測量、航空写真撮影については委託して実施した。なお、発掘調査と並行して応急整理作業(主に出土遺物洗浄作業・登録作業)を行っている。

### 第3節 普及活動

**現地説明会・現地公開** この他、普及活動として、現地説明会・現地公開を開催した。平井II遺跡の第1次調査に伴い平成24(2012)年9月29日(土)に現地説明会を開催し、35名の参加者を得た。また、平井遺跡の第1次調査に伴い1区西端において検出した横穴式石室及び、周辺から出土した陶棺を中心に平成25(2013)年12月21日(土)に現地公開を開催し、本遺跡の調査内容及び出土遺物の説明等を行った。地元の関心は高く、86名の参加者を得た(写真2)。また、平井遺跡の第1次調査に伴い3区において検出した埴輪窯及び、周辺から出土した埴輪を中心に平成26(2014)年2月23日(日)に現地説明会を開催し、県内で初めての調査事例となった埴輪窯の内容及び出土遺物の説明を行った。当日は、関心の高さを示すかのように盛況で225名の参加者を得た(写真3)。



写真2 現地公開風景(平井遺跡 第1次調査)



写真3 現地説明会風景(平井遺跡 第1次調査)

**小学生見学** 地元楠見西小学校の児童を対象に、平成25年12月11日(水)に平井遺跡の第1次調査地で現地見学を実施した。引率教諭と6年生児童計40名が参加した。

**公開シンポジウム** 当文化財センター実施の普及事業として平井遺跡の第1次調査・第2次調査及び平井II遺跡の第1次調査～第3次調査のうち、古墳時代の調査成果をもとにしたシンポジウム「紀ノ川北岸の古墳文化—初期須恵器・埴輪・陶棺からみた地域の歴史—」を開催した。平成26年2月1日(土)に、きのくに志学館講義・研修室(和歌山県立図書館2階)で実施した。外部から講師を招聘し、114名の参加があった。

#### 第4節 技術指導

**有識者による技術指導** また、平井遺跡の第1次調査で検出した埴輪窯の調査方法について、現地において3名の有識者(犬木 務氏(大阪大学教授)、廣瀬 覚氏(奈良文化財研究所研究員)、福永伸哉氏(大阪大学教授))から指導を受けた。

なお、平成26年2月に和歌山県文化財保護審議会記念物・埋蔵文化財部会、同年2月12・13日に当文化財センター調査委員会が開催され、埴輪窯の発掘調査と出土遺物について指導を得た。



写真4 現地指導風景(平井遺跡 第1次調査)

## 第Ⅱ章 位置と環境

### 第1節 位置と地理的環境(図1～3)

平井遺跡(図3の399)及び平井II遺跡(437)は、和泉山脈の南麓、紀ノ川の現河口から約5km遡った右岸の和歌山平野に位置する古墳時代の遺跡である。縄文時代前期頃、紀ノ川河口部には砂州が形成され、それによって湾口が閉じられ内湾化し、そこへ流入する河川によって弥生時代頃までにはその大半が埋積され、和歌山平野が形成された。

和泉山脈と和歌山平野の境界付近には、中央構造線を構成する磯ノ浦断層・鳴滝断層・根来断層がほぼ東西に雁行している。中央構造線は、長野県から九州までの1,000km以上に及ぶ大断層で、和歌山付近では複数の逆断層からなる。根来断層は、そのうち最も顕著な断層の一つで、伊達神社北方には垂直変位7.8mに及ぶ断層崖がみられる(岡田・寒川1978)。

和泉山脈南麓には、鳴滝・雨が谷・晒山の各古墳群など古墳時代の遺跡が数多く分布する。特に、馬具や装飾的な馬具類を出土した大谷古墳(指定6)、その南側の初期須恵器を出土した楠見遺跡(70)、台地上から倉庫群の遺構が検出された鳴滝遺跡(362)など、外来的要素の強い遺跡が集中する。これらは、当時の紀ノ川河口付近に位置した河港に立地した遺跡と考えられる(額田1996)。

図1は、平井付近の和歌山平野の地形分類図である。平井遺跡、平井II遺跡周辺の地形は、和泉山脈から南に派生する高塚山・愛宕山と背見山山塊、その間の浸食谷を南流する打手川などの小河川が形成した隆起複合扇状地(完新世段丘I面)、紀ノ川の堆積作用によって形成された沖積低地に分けることができる。北側の完新世段丘I面と南側の沖積低地との境界には旧紀ノ川の浸食によって形成された約1.5mの段丘崖が認められ、両遺跡は完新世段丘I面に立地している。同面には近世の淡島街道が走り、その前身とされる南海道も南北幅の狭い段丘面上のどこかを通過していたと推定される。

平井遺跡、平井II遺跡の南側は、紀ノ川が形成した沖積低地で、自然堤防・後背低地・旧河道の微地形に細分される。この地域では、古墳時代～古代(6～9世紀)には紀ノ川の流路が現在より北側を流れているとされている。昭和36年(1961)国土地理院撮影の空中写真を観察すると、楠見遺跡の南側には、紀ノ川の本流あるいは有力な支流と推定される明瞭な旧河道が2筋認められる。一つは楠見から梶取をへて狐島・北島に至る川筋、もう一つは楠見付近より西へ流れ土入川から和歌川の川筋をとつて和歌浦へ注いでいたとされる(日下1980)。楠見遺跡より南側は紀ノ川の堆積作用により陸地化した地域で、洪水の時に運ばれてきた土砂が堆積した高まり、自然堤防とその背後に形成された後背低地及び旧河道からなり、たびたび河川の氾濫に遭う不安定な土地であった。

平安時代の永承3年(1048)名草郡都許院収納米帳(平安文遺672号)には、この付近にあった「平井津」とJR和歌山駅付近にあった「吉田津」の記述がみられ、国衙の収納所があったことがわかっている。平井遺跡付近は、紀ノ川の流路が変わるたびに移動した紀伊湊の一つ、平井津にあたると思われ、海上輸送してきた物資を紀ノ川上流・中流へ運ぶために積み替える、紀ノ川水運の要衝の地として中世にも栄えていたと思われる。

#### 【引用文献】

- 1978 岡田篤正・寒川旭「和泉山脈南麓域における中央構造線の断層変位地形と断層運動」地理学評論51 385～405  
1980 日下雅義『歴史時代の地形環境』古今書院  
1996 額田雅裕「紀伊湊と外文化」『紀の川一水の歴史街道一』建設省近畿地方整備局和歌山工事事務所



図1 平井遺跡、平井II遺跡と周辺の地形分類図(出典1)

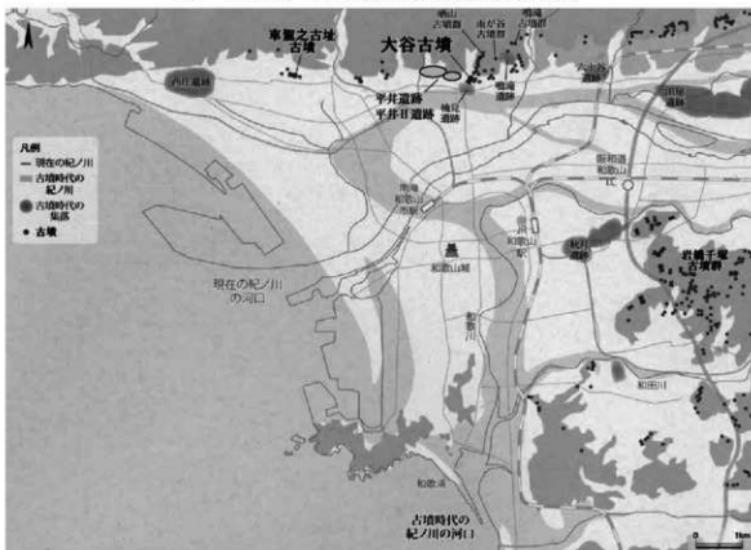


図2 古墳時代の和歌山平野と平井遺跡、平井II遺跡の位置(出典2)

## 第2節 歴史的環境(図3、表2)

ここでは平井遺跡、平井II遺跡の周辺部の古墳時代の遺跡について概観する。

平井遺跡、平井II遺跡から西側に約3.5km離れた和歌山市木ノ本に所在する釜山古墳群(木ノ本古墳群)は、釜山古墳(44-1)、車駕之古址古墳(44-2)(指2)、茶臼山古墳(44-3)で構成される古墳時代中期の古墳群である。釜山古墳群は、予てより大阪府泉南郡岬町に所在する淡輪古墳群との関係が指摘されている。

釜山古墳は、直径40m、高さ7mの円墳で、外側に周濠と外堤が築かれていることが確認されている。3基の古墳の中で東側に位置する。主体部は不明であるが、明治時代に実施された発掘調査では鉄製武具類(直刀、鐵鎌、鐵槍、挂甲小札)、ガラス製小玉、滑石製小玉などが出土したとされている。車駕之古址古墳(写真5)は、前方部を西に向かた全長86mの前方後円墳で、さらに外側には周濠と外堤が築かれている。3基の古墳の中で中央に位置する。和歌山県内で最大規模の古墳である。調査により前方部の造り出しの周辺で多くの埴輪(円筒、蓋、家、匂い)が出土している。また、後円部の斜面の堆積層からは多くの装身具(勾玉、管玉、ガラス小玉)と共に金製勾玉が出土し、車駕之古址古墳が著名となる要因となっている。茶臼山古墳は、前方部を西に向かた全長約53~55mの前方後円墳で、釜山古墳、車駕之古址古墳同様に周濠と外堤が築かれていることが確認されている。3基の古墳の中で西側に位置する。3基の古墳は、出土した遺物等から5世紀中頃から茶臼山古墳→車駕之古址古墳→釜山古墳の順に築造されたと考えられている。

平井遺跡、平井II遺跡近隣周辺では、調査地北東の丘陵上に築かれた国指定史跡大谷古墳(指6)を含む晒山古墳群(62・64・65)や雨が谷古墳群(66)、鳴滝古墳群(71)、鳴滝遺跡(362)、

扇状地に位置する楠見遺跡(70)などが知られており、古墳時代の遺跡が集中している。

晒山古墳群は、5世紀前半~6世紀前半に造られた古墳群である。丘陵先端部には、馬首や馬甲をはじめ、朝鮮半島との深い関わりを示す遺物を出土した大谷古墳(写真6)が5世紀後半に築造されている。雨が谷古墳群は5世紀後半~6世紀前半、鳴滝古墳群は5世紀後半~7世紀に形成された古墳群である。鳴滝遺跡(362)(写真7)は、鳴滝古墳群の北西部に位置しており、倉庫と考えられる大型掘立柱建物が7棟並んだ状態で検出されている。初期須恵器が多量に出土して



写真5 車駕之古址古墳(北東上空から)(出典3)



写真6 大谷古墳(南東上空から)(出典4)

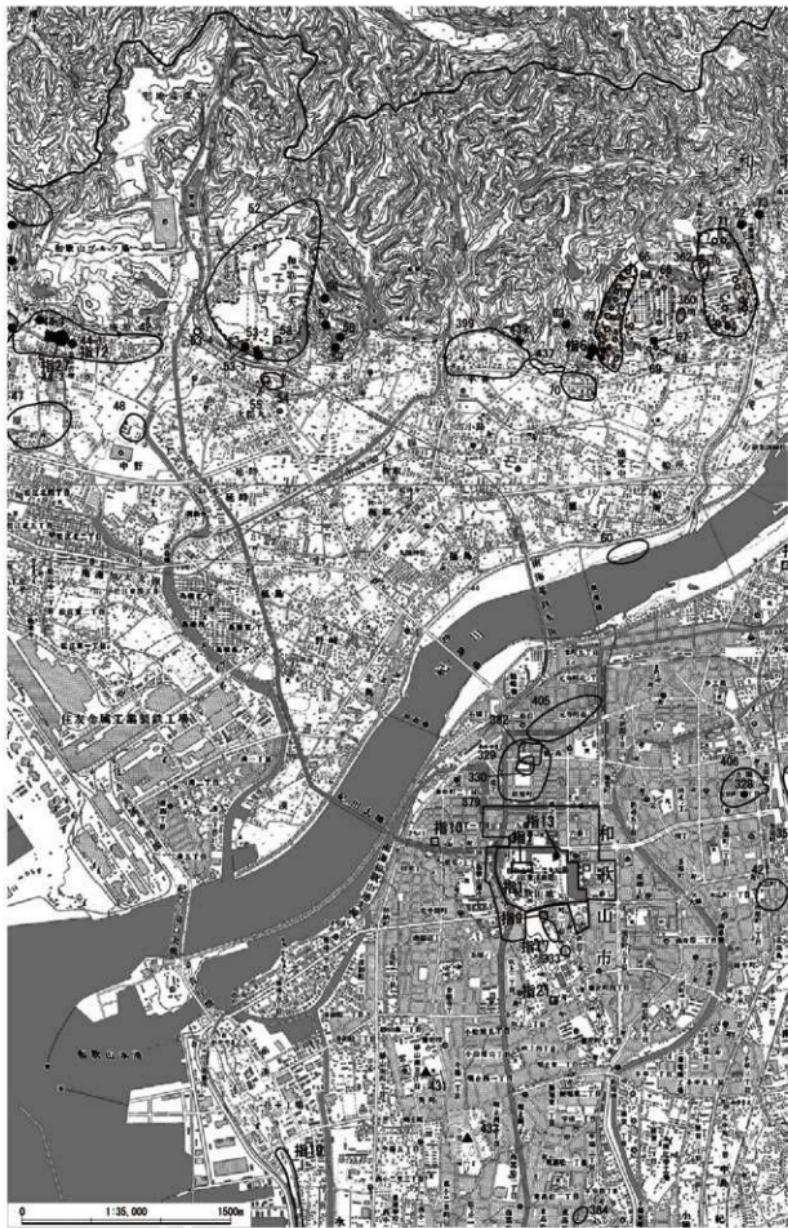


図3 平井遺跡、平井II遺跡と周辺の遺跡

表2 平井遺跡、平井II遺跡と周辺の遺跡地名一覧

埋蔵文化財包蔵地及び史跡指定地

遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代	立地	遺跡概況
41	木ノ本II遺跡	木ノ本	散布地	古墳?	平地	土師器、須恵器
42	木ノ本III遺跡	木ノ本	寺院跡?	平安~鎌倉	平地	鐵冶炉、木炭焼成土坑、石組井戸、溝、石敷き造継、石垣、土師器、製磁土器、須恵器、瓦器、石造物、瓦(軒丸、軒平、鬼)他
43	木ノ本移保	木ノ本	経塚	中世	平地	須恵器、瓦質器、和鏡
44-1	釜山古墳	木ノ本	古墳	古墳	平地	円墳、周濠、埴輪(円筒)、玉類、甲冑、铁刀、铁鎧他
44-2	車籠之古址古墳	木ノ本	古墳	古墳	平地	史跡、前方後円墳(全長53~55m)、周濠、外堤、造り出し、段築、葺石、埴輪列、埴輪(円筒、朝顔)
44-3	茶臼山古墳	木ノ本	古墳	古墳	平地	前方後円墳(全長53~55m)、周濠、外堤、造り出し、段築、葺石、埴輪(円筒、茶臼、蓋、家、圓み、盾)、埴身具(金製勾玉、管玉、ガラス玉)他
47	櫻原遺跡	櫻原	散布地	古墳	平地	土師器、須恵器
48	中野遺跡	中野	散布地	古墳	平地	土師器、須恵器
50	権現山1号墳	木ノ本	古墳	古墳	丘陵	円墳
51	権現山2号墳	木ノ本	古墳	古墳	丘陵	円墳
52	高芝遺跡	木ノ本	不明	不明	丘陵	方形形状の土壇
53	高芝古墳群	中	古墳群	古墳	丘陵	円墳4基、横六式石室
54	栄谷貝塚	中	貝塚	不明	丘陵端	
55	貴志古墳	中	古墳	古墳	丘陵端	堅穴式石室、須恵器(蓋)、土師器(蓋)
56	川原崎遺跡	栄谷	大葬屋	中世?	山腹	60×30mの方形形状の土壇、火葬墓2基、須恵器
57~59	川原崎古墳群	栄谷	古墳群	古墳	山腹	3基
60	国有本遺跡	見紀の川	散布地	弥生~古墳	河川敷	紀の川北岸河底から出土する、弥生土器、須恵器
62-64-65	瀬山古墳群	大谷	古墳群	古墳	丘陵	後方後円墳2基、円墳6基、不明4基、粘土標1基、木棺直葬3基、堅穴式石室(箱式石室)、横六式石室2基、土師器、須恵器、埴輪(円筒、朝顔、盾、家)、铁刀、玉類(ガラス小玉、ガラス管玉)他
63	慶円寺裏山古墳	大谷	古墳	古墳	丘陵	円墳
66	雨が谷古墳群	大谷	古墳群	古墳	丘陵	円墳5基、方墳1基、木棺、横六式石室、須恵器(环、盖、高坏、环身)、环身、环
70	楠見遺跡	大谷	散布地 集落跡	弥生、古墳、墓塚	丘陵端	弥生土器、土師器(环、盖、高坏、环身)、初期須恵器(环、盖、扁、束、高坏、鉢、腰当)、有孔円盤、獨立柱建物、土葬墓、土塼、瓦器神他
71	鳴滝古墳群	善明寺	古墳群	古墳	丘陵	円墳2基、不明9基、木棺直葬1基、粘土標1基、横六式石室5基、土師器、須恵器(环、盖、束、高坏)、装身具(耳環、玉類)、武器(铁刀、闘劍、太刀、铁鎧)、工具(铁鍛、铁鑄、铁斧)、鹿骨器他
72	奥出古墳	圍部	古墳	古墳	丘陵	円墳(径25m)、横六式石室
73	有功經塚	圍部	経塚	中世	丘陵	一字・石絆
328	吉田墓跡	吉田	墓跡	奈良	沖積地	土師器、須恵器
329	鷲ノ森遺跡	西置治廢城下町他	集落跡	弥生~江戸	沖積地	城下町(置治廢城)、屋敷地区両石垣・溝、溝削治炉、竈、弥生土器、土師器、須恵器(环、盖)、土質土器、近世陶器器、輪、下駄他
330	鷲ノ森空庭跡	鷲ノ森	空庭跡	奈良~平安	沖積地	須恵器
333	岡の里古墳	真砂丁	古墳	古墳	丘陵	円墳、堅穴式石室、土師器、須恵器(高坏、提瓶)、铁刀、人骨
360	雨が谷遺跡	善明寺	経塚	中世?	丘陵端	建物跡、瓦器、土師質土器、一字・石絆
362	鳴滝遺跡	善明寺	食庫跡	古墳	丘陵	獨立柱建物、土師器(环、高坏)、初期須恵器(环、蓋、束、高坏、器台)、黑色磨研土器他
379	和歌山城跡	三番丁他	城下町	江戸	平地	三の丸堀跡敷跡、屋敷地区両石垣・溝、井戸、土師質土器、陶磁器(備前、美濃、肥前系、京・信楽系他)他
382	本願寺跡	鷲ノ森	寺院跡	宝町~	沖積地	昭和、横梁造構、道路、井樋矢筒、中國質器、国產陶器(備前、瀬戸美濃他)、鐵劍、刀手、小札、瓦、漆桶、下駄他
384	高松池跡	高松4丁目	空庭跡	江戸	山麓	昭和
399	平井遺跡	平井	集落跡 生産生息場所	弥生~江戸	段丘	堅穴式構、方形周溝構、埴輪窓、古墳(横六式石室)、堅穴系小石室、獨立柱建物、弥生土器、埴輪(円筒、朝顔、蓋、家、石見器、蓋、人物)、馬、土師器、須恵器、瓦器他、陶器他
405	山吹丁遺跡	山吹丁他	散布地	弥生~古墳	沖積地	弥生土器、土師器、須恵器
406	友田町遺跡	友田町	集落跡?	弥生~平安	沖積地	獨立柱建物、溥、須恵器、土師器、黒色土器他
421	木広町遺跡	木広町	散布地	弥生	沖積地	弥生土器(穿孔蓋)
431	砂山南土師器出土地	砂山南三丁目	出土地	奈良~平安	平地	土師器
432	旧聖社境内と鏡出土地	今福二丁目	出土地	平安~江戸	丘陵	鏡
437	平井II遺跡	平井	集落跡	古墳~江戸	段丘	土坑、獨立柱建物、井戸、土師器(蓋、束、高坏、器台)、瓦器他、陶器他
439	平井1号墳	平井	古墳	古墳	丘陵	前方後円墳(全長22m)、須恵器、埴輪(円筒、石見型、馬、家、蓋)
指1	史跡と歌山城	-一番丁	城跡	江戸	丘陵・平地	国史跡、平山城、石垣、石組穴塙、陶器、瓦他
指6	大谷古墳	大谷	古墳	古墳	丘陵	国史跡、前方後円墳(全長67m)、石垣、埴輪(円筒)、葵身具(ガラス玉、網目刺繍)、帶飾り、農具(鉗頭、鉄鎧)、工具(鍛手斧、鉄鎧)、武器(鐵刀、鐵劍、鐵鎧)、武具(薦角付盾、挂鎖)、馬具(鞍、馬具)、甲冑他
指19	水軒堤防	西側	防波・防潮堤防	江戸	海浜	黑史跡、土堤、石堤、石敷き、陶器(備前、瀬戸美濃系、肥前系、京・信楽系)他

和歌山県教育委員会『和歌山県埋蔵文化財包蔵地名表』2007年  
3月31日発行を一部改訂・補充

遺跡内での調査歴観有り

おり、時期は5世紀前半と考えられる。

楠見遺跡(70)は、昭和44(1969)年に関西大学が発掘調査を行い、多量の初期須恵器が出土したことから、注目を集めた(写真8)。平成10(1998)・平成11(1999)・平成13(2001)年度には、当文化財センターが都市計画道路西脇山口線改良工事に先立ち発掘調査を行い、縄文時代後期、弥生時代前期と鎌倉時代前期～室町時代前期の遺構・遺物が多く検出された。古墳時代の遺構密度は低いものの、初期須恵器が少量出土している。また、今回の調査地の東端から南東約100mの地点で、(財)和歌山市文化体育振興事業団が平成12(2000)年に個人住宅建設に先立ち発掘調査を行っており、古墳時代の遺構が検出され、初期須恵器も数点出土している。

平井II遺跡でも、今回の調査で初期須恵器が出土しており、分布の範囲が広がっている。これらのことから平井遺跡、平井II遺跡周辺は、朝鮮半島の影響を色濃く表している地域といえる。



写真7 鳴滝遺跡(真上空から)(出典5)



写真8 楠見遺跡出土の初期須恵器(出典6)

【図・写真出典】

- 1 2003 額田雅裕「和歌山平野における戦国時代ころの地形環境」『和歌山地方史研究』46 和歌山地方史研究会
- 2 2013 「古墳時代の和歌山平野と大谷古墳の位置」『国指定史跡 大谷古墳』和歌山市の文化財 2 和歌山市教育委員会
- 3 2012 「樹木の伐採が終わった古墳」『車駕之古址古墳』和歌山県指定文化財(史跡) 和歌山市教育委員会
- 4 2013 表紙『国指定史跡 大谷古墳』和歌山市の文化財 2 和歌山市教育委員会
- 5 2014 「鳴滝遺跡」『平成26年度秋期特別展 須恵器誕生—新しい土器は古墳時代をどう変えたか—』 和歌山県立紀伊風土記の丘
- 6 2001 「120初期須恵器」『平成13年秋季特別展渡来文化の波—5～6世紀の紀伊国を探る—』 和歌山市教育委員会

## 第三章 発掘調査の方法と資料整理

平井遺跡及び平井II遺跡の発掘調査は、財団法人和歌山県文化財センターの定めた『発掘調査マニュアル(基礎編)』(2006年4月)に準拠して実施した。発掘調査で使用した調査コードは、各々、凡例のとおりである。共に同一年度内で同一遺跡の調査が複数行われたことから、末尾に枝番号を用いてそれぞれの調査を区別している。出土遺物・記録資料はこの調査コードを用い整理・管理している。

発掘調査工事及び測量委託業務を付加業務として実施し、各々再委託して行った。

現地調査では、まず表土及び耕作土等は重機を使用して掘削し、調査地内及び調査地外へ排土・仮置きを行った。その後、遺物包含層以下を人力で掘り下げ、遺構の検出・掘削を行ったが、遺物の取り上げを伴うことから慎重に進めた。人力掘削土はベルトコンベアを使用し、調査地外に排土した。各作業段階で、必要に応じて実測図の作成や写真撮影を実施した。遺構掘削終了後に遺構面を精査し、調査地全景写真を撮影したが、同時に委託業者によりラジコンヘリコプターを使用した航空写真を撮影し、併せて図化作業を行った。調査記録作成後は、埋戻しを行った。

### 第1節 調査現場の記録作業

平井遺跡、平井II遺跡の調査に伴い、下記に示す記録作業を行った。

#### 1 写真撮影作業

記録保存としての写真撮影作業は、大判カメラ(4×5判：白黒フィルム・カラーポジフィルム)・中判カメラ(67判：白黒フィルム・カラーポジフィルム)・小判カメラ(35mm判：白黒フィルム・カラーポジフィルム)・小型デジタル一眼レフカメラにより、主に発掘調査の状況、検出遺構・遺物の出土状況、断面土層等を撮影した。また、補助的に1,420万画素相当の小型デジタル一眼レフカメラにより発掘調査の作業状況や作業工程を記録画像として撮影している。撮影内容は、基本的に写真台帳に調査区・対象・方向・使用フィルムを登録し把握しているほか、デジタル画像データにも内容を記載して保存している。

#### 2 実測図作成作業

記録保存としての実測図作成作業は、各遺構面の検出遺構の遺構位置全体図(縮尺=1:100)、個別遺構の平面実測図(縮尺=1:20)・個別遺構や遺物の出土状況図(縮尺=1:10 or 1:5)・個別遺構の断面土層図(縮尺=1:20 or 1:10)を作成した。

また、調査地の遺存状態の良好な壁面や調査地の縦横断に対して断面土層図(縮尺=1:20)などを記録として作成した。

#### 3 航空写真撮影・基準点測量

調査地の遺構図面作成や遺物の取上げなどのため、国土座標第VI系(世界測地系)により既設の公共基準点を利用して3級基準点・補助点を設置し、各地区内に4級基準点を設置した。併せて、4級基準点にも水準測量を行っている。

発掘調査により検出した遺構は、平井遺跡第1次調査・第2次調査・第4次調査、平井II遺跡第3次調査・第4次調査においてラジコンヘリコプターを使用した調査地全体の航空写真撮影及び航空写真測量による図化(縮尺=1:50・1:100)を行った。

## 第2節 出土遺物等資料の整理

### 1 出土遺物応急整理

出土遺物については、調査現場の監督員詰所において出土遺物の一部について応急的な洗浄作業を実施した。当初は、取り上げ順に作業を行ったが、後半になり、重要な遺構(埴輪窯)や遺物包含層出土の埴輪を中心に優先して実施した。さらに、横穴式石室内の堆積土の洗い出しにより、骨片や歯の一部などを検出した。また、洗浄済遺物からは、陶棺や埴輪、土師器、瓦器椀、石製品、金属製品等の抽出を行った。保存処理に関して緊急性を要する遺物はみられなかったため、調査時において保存処理などは行っていない。

また、出土遺物の総体的な把握と調査報告書作成までのコンテナ収納・管理を目的とした出土遺物登録台帳の作成作業を行い、ほぼ全てを完了した。しかし、この段階では、出土遺物の詳細な内容登録までは行っていない。

### 2 出土遺物等整理業務

調査で出土した遺物は、応急的な整理のみであったため、調査報告書作成に伴い一連の整理作業を行うと共に、現地調査の遺構図面・遺構写真などの調査記録資料の整理を行い、資料登録台帳(データのP C入力)などを作成した。

#### 出土遺物の基礎的な整理作業

出土遺物の内、土器・埴輪類は、通常の遺物収納コンテナ(容量28l)にして392箱である。その他、木器・木製品12点、金属製品36点、石器・石製品43点である。出土遺物の整理は、調査同様に『財団法人和歌山県文化財センター 発掘調査マニュアル(基礎編)』(2006年4月)に準拠して行った。

出土遺物は、応急整理済み(一部の洗浄)の物を省いて遺物の洗浄作業(写真9)、分別作業、遺物への調査コードと出土遺物登録番号の注記作業(写真10)、遺物内容及び点数の台帳登録集計、接合作業(写真11)を行った。



写真9 出土遺物(土器類)の洗浄作業



写真10 出土遺物への注記作業

## 主要遺物を対象とした整理作業

基礎的な作業を経た主要遺物を対象に、遺物充填材(キューテックス・セライト・EVA)による補強・復元作業(写真12)、遺物実測図の作成(写真13・14)、実測遺物の台帳登録(本書に掲載の「出土遺物一覧」として利用)、遺物実測図のトレイス(写真15)、遺物実測図のレイアウト(写真16)、遺物実測図の整理、集計登録データ等入力を行った。



写真11 出土遺物（土器）の接合作業



写真12 遺物充填材による埴輪の復元作業



写真13 墓輪の実測図作成作業



写真14 木製品の実測図作成作業



写真15 遺物実測図のトレイス作業



写真16 遺物実測図のレイアウト作業

## 遺構図面の整理

現地調査の遺構図面の整理は、台帳登録、報告書掲載用図面の作図を行い、調査報告書に掲載する図面原稿を抽出した。抽出した遺構図面について、トレース作業(写真17)、レイアウト作業(写真18)を行った。また、各種データのPC入力作業(写真19)についても行った。

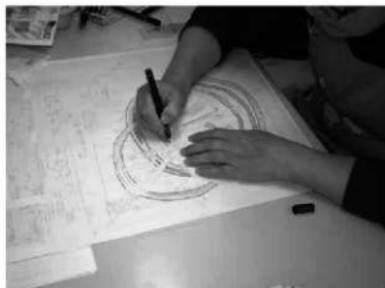


写真17 遺構図面のトレース作業



写真18 遺構図面トレース図のレイアウト作業



写真19 各種データのPC入力作業



写真20 遺構写真の整理

## 遺構写真の整理

調査現場の記録写真には、4×5白黒・カラー、67白黒・カラー、35mm白黒、デジタル写真画像、ラジコンヘリコプターによる航空写真がある。デジタル写真画像を省く各写真は、調査次毎に写真アルバムに収納し、各写真アルバムの背にタイトルを明示した(写真20)。デジタル写真画像は、調査時に日付毎、もしくは地区毎にフォルダに纏められている。

デジタル写真画像・航空写真を省く写真に対して写真登録番号を付し、航空写真を省く写真に対して写真内容の記録を記載した。一部のデジタル写真画像については、調査報告書に使用する目的で、掲載用の写真画像の抽出を行った。

## 出土遺物の内容登録

出土遺物の内容登録に伴う遺物破片点数の数量化は、大凡の時代と主要となる土器類・その他の遺物に分けて作業を進めた。土器の種類は、矛盾のない程度に簡素化している。

時代・時期区分については、大凡の時代設定を行い、大きく弥生時代中期・弥生時代後期・終末期・古墳時代・飛鳥・奈良・平安時代、平安時代末～室町時代、江戸時代に区分した。

### 第3節 調査区の設定

#### 地区割の方法(図4～6)

遺構図面作成や遺物取り上げの際に用いる地区割は、平面直角座標系(世界測地系)の第VI系の座標軸を使用し、平井遺跡、平井II遺跡全体を網羅する北東隅の位置(X = -192,000、Y = -76,000)を基点とし、この基点から西方と南方にそれぞれ1km四方の区画を1単位として大区画を設定した。基点から西方向にはローマ数字のI・IIで、南方向にはアラビア数字の1・2で表記した(図4)。これにより、今回の調査範囲は全て大区画I 1区内に位置することとなる。この基点から、それぞれ100m四方の区画を1単位とした中区画を設定し、北東端を基点とし西方向へアルファベット大文字でA～Jと、南方向へアラビア数字で1～10と表記した(図4・5)。さらに4m四方の区画を1単位とした小区画を設定し、北東端を基点とし西方向へアルファベット小文字でa～yと、南方向へアラビア数字で1～25と表記した(図6)。遺構図面作成や遺物取り上げの際には原則として、4m四方の小区画で行い、大区画一中区画一小区画を組み合わせて表記して用いた(但し、今回の調査範囲は、全て大区画I 1区に入るため、本文の記述における大区画の表記は省略した)。

#### 調査区の設定(図6)

調査区名については、平井遺跡と平井II遺跡で別々に設定した。

平井遺跡では、調査地が段々畠の様相を呈していたことから、当初耕作地の区画により調査区を設定し、第1次調査で北西から南東に向かって1区から5区まで設定し、第2次調査で7区、第4次調査で6区とした。ただ、調査にあたって工事用道路部分を先行して実施することになったため、調査区全体を北と南に分割したことから、結果的にはかなり細分化された調査区となつた。さらに、調査途中において、1区と3区の北側で重要遺構が検出されたことから、北側の丘陵裾部に調査区を拡張することとなった。調査区東端部については、分割をせずに調査を行ったため、3東区として調査区を設定した。

調査区の内訳は、平井遺跡では、第1次調査では1北区、1北区拡張区、2北区、2南区、3北区、3北区拡張区、3東区、3南区、4北区、4南区、5北区、5南区、5東区、第2次調査では7区、第3次調査では1～2区、2～2区、第4次調査では6～1北区、6～1南区、6～2北区、6～2南区となる。基本的には、遺構面は1面であるが、第1次調査の2区の一部と4区及び第3次調査、第4次調査に関しては2面確認されており、航空測量の対象として2面を設定した。

道路建設用地のため、調査区全体は南東から北西方向に向かう長方形形状を呈している。延長は約330m、幅は最大で約45mである。西端の1区が最も高い位置にあり、隣接する2区との高低差は約2.3mある。丘陵全体が南西方向に向かって下がっており、5区の南側が最も低い位置になる。1区と5区の現況地面における最大高低差は、約6.0mである。

平井II遺跡では、第1次調査で1区、第2次調査で2区・3区とし、これを繰りいで第3次調査では4区、5北区、5南区、6北区、6南区、7北区、7南区、8区まで、第4次調査では9区とした。調査前は段々畠の様相を呈していたことから、耕作地の区画により調査区を設定した。平井遺跡と同様に、工事用道路部分を先行して調査することになったため、調査区全体を北と南に分割した。さらに、調査途中で北側の丘陵裾部に調査区が追加された(8区)。また、第1次調査と第2次調査の間の部分については、本体工事の工程上、先行して調査することとなり、当初予定していたものより調査区が細分化された。基本的には、遺構面は1面であるが、5区に関しては2面確認されており、航空測量の対象として2面を設定した。

平井遺跡の調査地と同様に道路建設用地のため、調査区全体は南東から北西方向に向かう不定形な長方形形状を呈している。地形に沿った調査区設定をしていることから、形状は不定形である。延長は約180m、幅は最大で約40mである。北東側の9区を省き、西端の7区が最も高い位置にあり、隣接する6区との高低差は約1.0mある。丘陵全体が南方向に向かって下がっており、4区の南側が最も低い位置になる。7区と4区の現況地面における最大高低差は、約4.4mである。

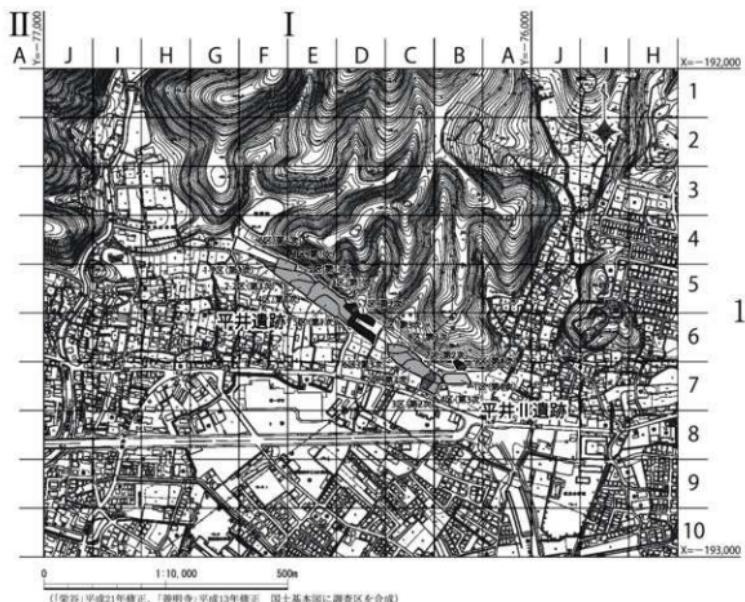
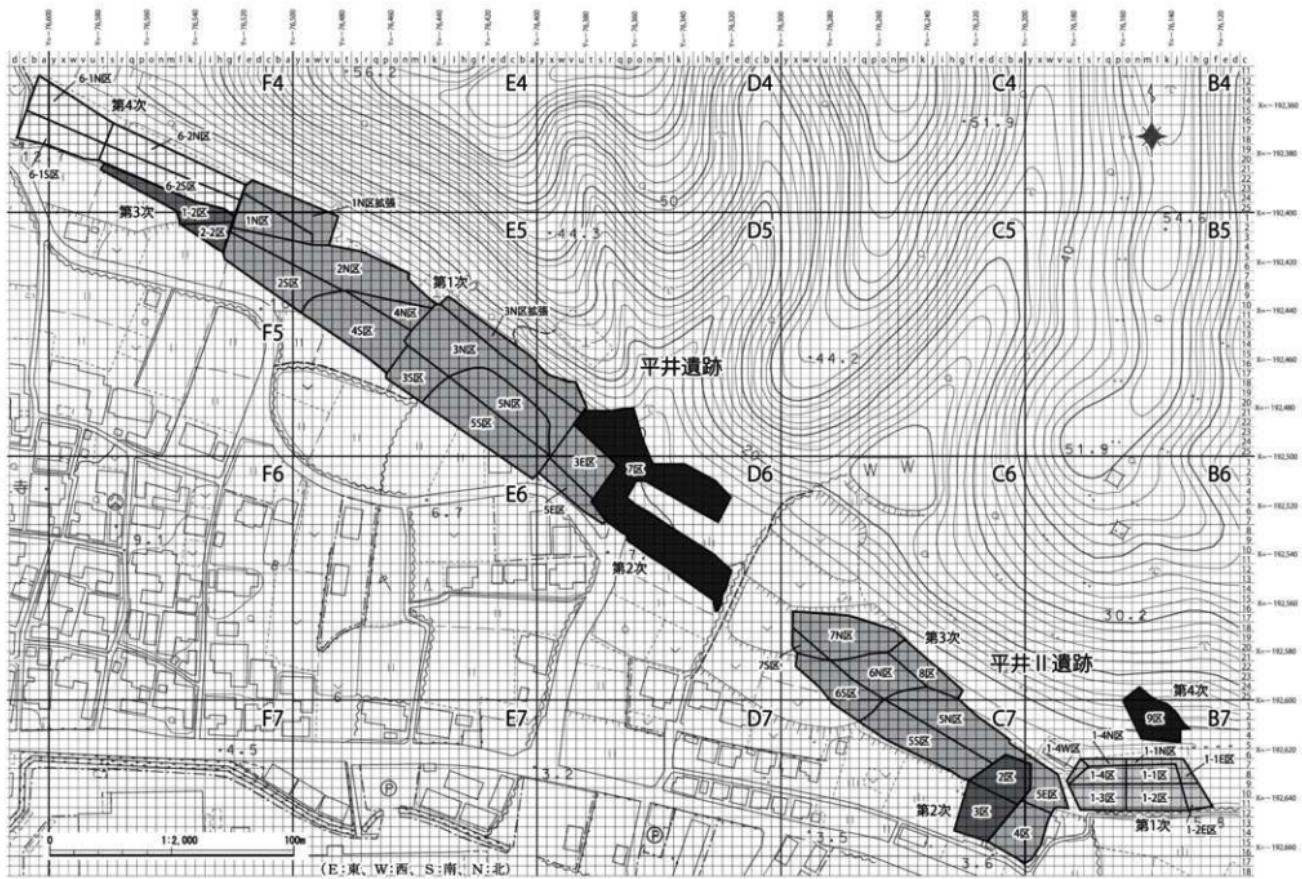


図5 調査位置と区画割(100m区画)

図6 調査範囲と地区割(4m区画)



## 第IV章 調査成果

### 第1節 平井遺跡第1次調査の成果

#### 1 第1次調査の概要

平井遺跡の第1次調査地は、平井II遺跡の第3次調査地から約90m離れた北西方向に位置する。道路建設用地のため、調査区全体は南東から北西方向に向かう長方形を呈している。延長は約200m、幅は約45mである。調査前の現況は耕作地で、水平を保つため段々畑の様相を呈していた。各耕作地の現況地表面の高低差は1.8m～2.3mあり、耕作地の区画により調査区を設定した。遺構面は、基本的には調査区の中央部南側の区画が2面で、それ以外は1面である。第1次調査は、6,495m<sup>2</sup>を対象に実施した。

調査の結果、古墳時代と奈良時代、中世を中心とした遺構や遺物を検出した。

弥生時代は、遺構及び遺構に伴う遺物は少ないが、遺物包含層からまとめて量の弥生時代中期の土器が出土した。

古墳時代は、遺構・遺物が最も多くみつかった時期で、埴輪窓をはじめとして横穴式石室や溝、土坑などが検出されたほか、調査区のほぼ全域から遺物が多く出土した。埴輪窓は、和歌山県内では初めての調査例となるが、調査区東半部の丘陵裾部で2基確認された。遺物は、土師器や須恵器のほか、埴輪の量が多く特徴的である。埴輪は、埴輪窓以外の遺物包含層からも多く出土した。また、調査区西端部から県内では出土例の少ない陶棺が出土した。

奈良時代の遺構には、掘立柱建物・柱穴・小穴や土坑、溝などがあり、特に調査区中央部や東端部では、遺構の分布が南に広がる状況を示している。遺物は、土師器や須恵器が、遺構・遺物包含層からまとめて出土した。

中世の遺構には、柱穴・小穴や井戸、土坑などがまとめて検出され、土師器や須恵器、瓦器、陶磁器などが出土した。井戸には、周囲に石組みが施されたものもみられる。

まず、調査の概略を地区別に述べて、次項からは時期別にまとめることとする。遺構検出は1区・2区・3区・5区で1面、4区で2面行った。出土遺物量は、埴輪を中心として多量で、遺物収納コンテナ229箱分が出土した。

#### 1 北区(1区北拡張区含む)

古墳時代を中心とした遺構や遺物が検出された。丘陵裾部にあたる北側で古墳の横穴式石室が検出されたほか、同様に積み石をもっていたと考えられる石室痕跡がみつかっている。上部は後世に大規模な削平を受けていることから、古墳の状況は不明であるが、この立地位置で古墳が検出されたことは初めてである。また、遺物包含層からまとめて陶棺の破片が出土しており、県内では出土例の少ないものであることから、重要な成果となった。

#### 2 区

近世以降の造成により耕作地が造られているため、大規模な削平をうけていることから、全体に遺構の検出は少ない。ただ、北側中央部で柱穴・小穴や井戸、土坑などがまとめてみつかっ

ており、掘立柱建物も複数棟復元できることから、集落が営まれていたと考えられる。井戸の中には、石組みをもつものもみられる。遺物の出土量も比較的少ないが、須恵器や瓦器、陶磁器などがみられることから、これらの遺構群は中世（鎌倉時代頃）と考えられる。西端部では、遺構は検出されていないが、奈良時代の遺物がまとまって出土しており、調査区外の西側に展開する可能性が考えられた。南側では、より後世の整地が顕著であることから、遺構の検出は少ない。ただ、遺構は検出されなかったものの、弥生時代中期の遺物を多く含む遺物包含層が確認されている。

### 3区(3北区拡張区含む)

北側で古墳時代の埴輪窯が2基検出された。和歌山県内では初めての調査例であり、慎重な調査が求められた。付近の遺物包含層からも埴輪が多く出土した。また、南東部(一部5区含む)では、奈良時代の柱穴・小穴や土坑、溝などがまとまって検出されており、さらに調査区外の南側に広がる様相を示している。この範囲に往時の集落が営まれていたことが考えられる。遺物の出土量も比較的多く、土師器や須恵器などがまとまっている。

### 4区

北側で中世の土坑、井戸などがまとまってみつかっており、掘立柱建物も複数棟復元できることから、集落が営まれていたと考えられる。2区及び3区の遺構群と隣接しており、同じ集落の可能性がある。また、南側では、方形の掘形をもつ奈良時代の掘立柱建物が複数棟検出されており、有力者の屋敷跡の可能性が考えられる。4区では、遺構面が2面確認された。何れも奈良時代の遺構・遺物が主体となることから、段階的な時期差と考えることが可能である。

### 5区

全体に後世の大規模な削平を受けていることから、遺構はあまり検出されなかった。遺物包含層からの遺物の出土量も少なく、後世の整地がかなり深くまで及んでいたことがわかる。

## 2 基本層序と遺構面(図7~10)

基本層序としては、おおむね6層に分けることができる。但し、丘陵斜面で水平を保つため、段差をつけて水田などの耕作地を造成していることから、必ずしも基本層序と同様の層序にならない部分も多い。

**第1層：**第1層は、現代耕作土及び造成土で、調査区全域に広がる。地区により造成による盛土の厚さが異なっている。機械掘削の対象である。

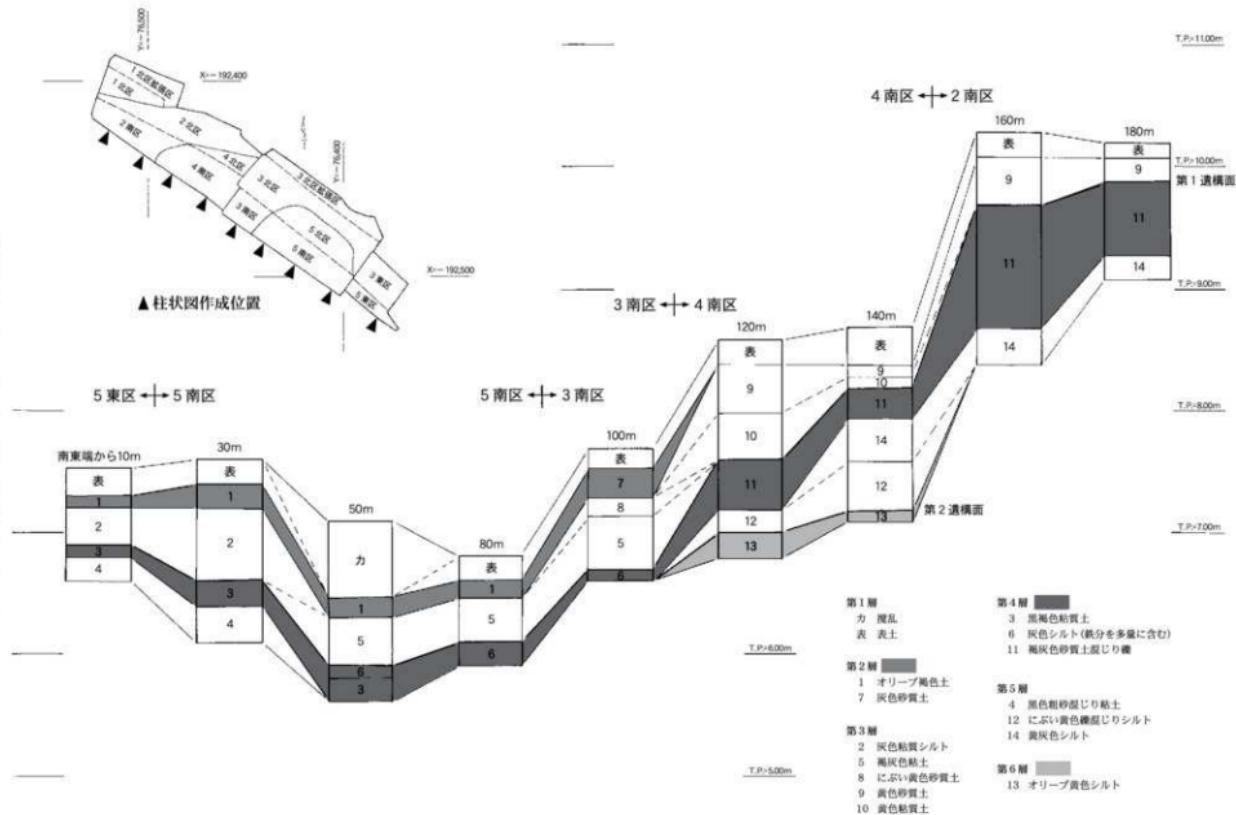
**第2層：**第2層は、黄褐色～灰色を呈するシルト層からなり、鉄分を含む。1区では、礫を多く含む暗灰黄色からにぶい黄褐色シルト層からなり、他の地区と異なる。また、2区・4区・5区では、上層の耕作土の影響でオリーブ褐色となっている。中世以降(主に近世)の耕作土及び造成土と考えられる。地区により造成による盛土の厚さが異なっている。全体に遺物量は少ない。

**第3層：**第3層は、灰色、黄灰色～褐灰色を呈するシルト層で、径0.5～1.0cmの礫が混じる。1区や5区では、粘性が強くなる。3区では、黒褐色粘土が多く含まれる。遺物を多く含んでおり、古墳時代の土師器・須恵器及び埴輪・陶棺、奈良時代の土師器・須恵器、鎌倉時代の土師器・瓦器・青磁などが出土した。また、一定量の江戸時代の遺物を包含することから、当該期の造成土と考えられる。

**第4層：**第4層は、淡黄色～黄褐色を呈するシルト層で、マンガン・礫が混じる。2区では、

図7 平井道路 第1次 調査区南西壁断面土層模式図(1:40)

- 20 -



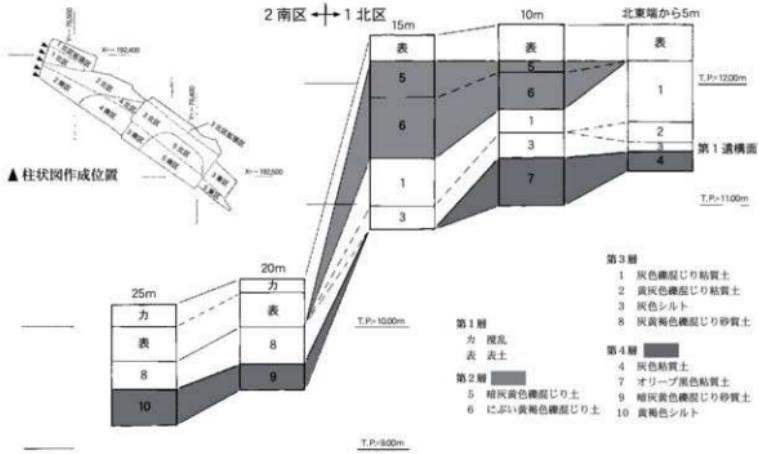


図8 平井遺跡 第1次 調査区北西壁断面土層模式図(1:40)

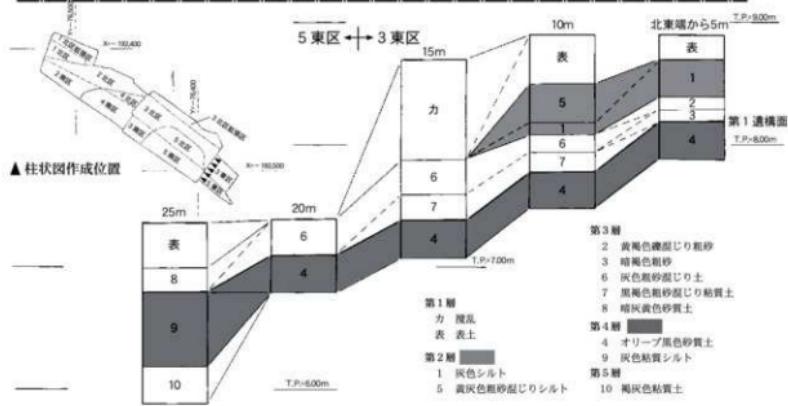


図9 平井遺跡 第1次 3東区・5東区 北西壁断面土層模式図(1:40)

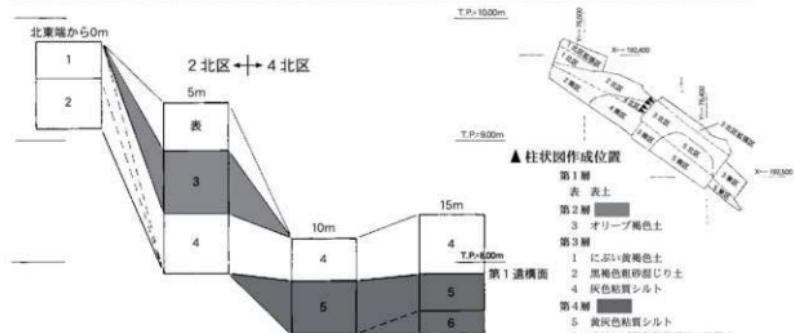


図10 平井遺跡 第1次 2北区・4北区 南東壁断面土層模式図(1:40)

褐色の細砂ブロックを含んでおり、弥生時代中期から室町時代の遺物が出土した。3区ではオリーブ黒色砂質土が堆積している。5区は、風化礫を多く含む灰色のシルト層や黒褐色粘土で構成されており、他の地区とは堆積状況が異なる。第4層の上面には、室町時代以前と考えられる遺構面を形成する。

**第5層**：第5層は、基本的には黄灰色～灰白色及び褐色を呈するシルト層からなり、径0.5～2.0cmの風化礫を多く含む。5区では、黒色粗砂混じり粘土が堆積している。4区では、古墳時代の土器を含む遺物包含層となる。他の地区においては、遺物を含まないため基盤層となる。2区では、弥生時代の遺物もみられる。

**第6層**：第6層は、オリーブ黄色～灰黄色を呈するシルト及び細砂層からなり、上面にマンガンが沈着する。4区では、第6層上面で古墳時代以前と考えられる遺構面を形成する。第6層以下、遺物の出土は皆無であり、調査地における基盤層と考えられる。

### 3 各遺構の調査成果

#### (1) 第2遺構面の検出遺構と出土遺物

現地調査時点で、4区において第2遺構面と理解した遺構が検出されている。主に掘立柱建物・柱穴・小穴がある。その内、掘立柱建物1の各柱穴からは、奈良時代の遺物が出土することから、段階的な時期差を反映した面の違いと考えられる。よって、掘立柱建物1を含めたこれらの遺構については、第1遺構面の項で記述することとする。

#### (2) 第1遺構面の検出遺構と出土遺物(図11～40・41～82、巻頭写真図版3～5、写真図版1～20・61～91・109～112)

##### 古墳時代以前の検出遺構と出土遺物

古墳時代以前では、遺物包含層から縄文時代後期の土器(図41-1)が1点出土したのみで、石器などは出土していない。弥生時代に関しても遺構面は確認されておらず、遺物包含層から弥生土器や石器が出土した状況である。弥生土器は、弥生時代中期の壺や甕などが調査区西部から中央部南寄りの2区・4区でやまとまって出土した。遺物包含層からの出土量が多く、遺構は僅かであることから第1次調査区に隣接する西側の平井遺跡第3次調査区・第4次調査区に展開する。石器・石製品は、極少量である。弥生土器は、遺物包含層から弥生時代中期にまとまりが認められ(586～626)、弥生時代後期・終末期の土器(627～634)が僅かに出土した。

##### 5 5 9 土坑(図12・41、写真図版17・61)

559土坑は、2南区に位置する。平面形は、楕円形ぎみの隅円長方形を呈し、平面規模は、長軸(東西)0.95m・短軸(南北)0.69m、残存の深さは0.09mを測る。遺物は、土坑のほぼ中央南寄りで基底部に接して横たえられた状態で細頸壺(6)が出土した。

遺物は、完成品の弥生時代中期紀伊IV-1様式の細頸壺(6)の他、堆積土から紀伊IV-1様式の太頭広口壺(4)・外面タキ形整彫(11)・脚台付複合口縁鉢の複合口縁部(16)及び脚台部(17)などが出土した。

##### 3 4 2・3 4 3 溝(図13・41・75、写真図版61)

342・343溝は、3東区に位置し、一部、北東側と南東側で平井遺跡第2次調査区(7区)に跨



第1遺構面

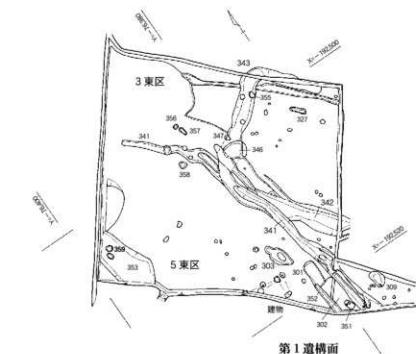
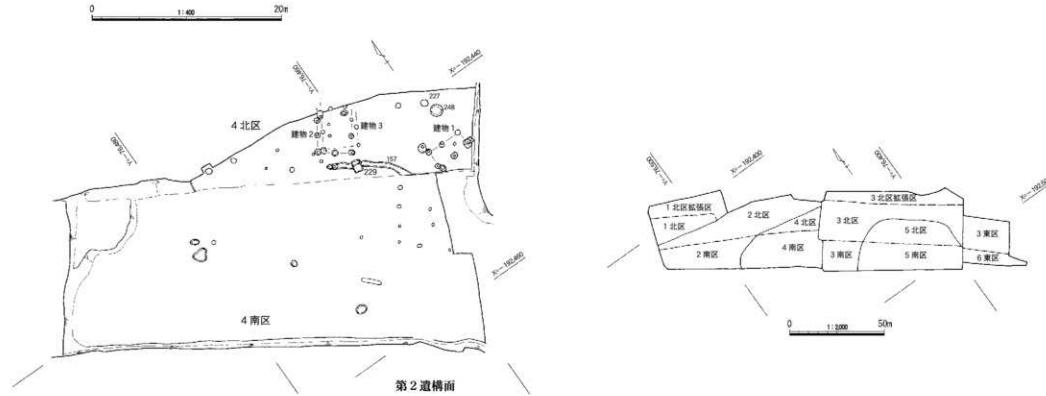


图11 平井道路 第1次 遗構全体平面図

る。342・343溝は、西側で341溝と重複関係にあり、341溝が新しく奈良時代である。遺物の詳細な出土状況が不明であるが、堆積土の下層から弥生時代中期紀伊IV-1様式の遺物、上層から奈良時代の遺物が出土した。溝の平面形がコの字形に廻ることと下層から出土した遺物から弥生時代中期の方形周溝墓の周溝の可能性が考えられる。但し、溝の検出面が北東から南西に向けてかなりの傾斜をもつにもかかわらず、その傾斜に連れて溝の基底部が深くなるなどの矛盾点も存在する。

342溝と343溝の関係を方形周溝墓と考えた場合、平面規模は北東-南西間で14.7m、北西-南東間で16.1mを測る。幅は、北東側A-A'間で1.3m、北西側B-B'間及びC-C'間で1.4



図12 平井遺跡 第1次 2南区 第1構造面  
559土坑実測図

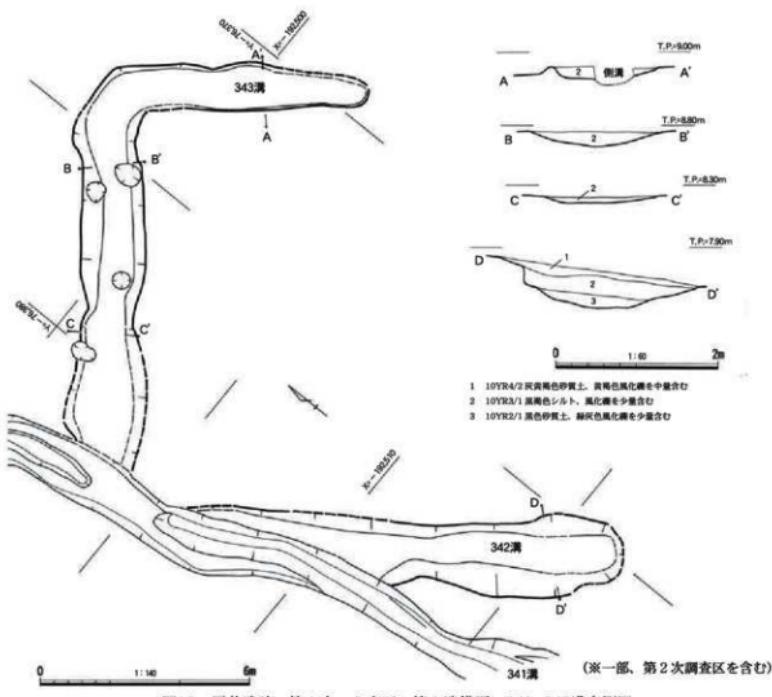


図13 平井遺跡 第1次 3東区 第1構造面 342・343溝実測図

～1.6m、南西側D-D'間で2.5mとなる。深さは、順に0.16m、0.20m、0.08m、0.60mとなる。

遺物は、342溝の下層から弥生時代中期紀伊IV-1様式の短頸壺(水差し形土器)(8)、溝内の層位不明から紀伊IV-1様式の直口壺(7)などが出土した。342溝の上層から奈良時代の土師器高杯(530)、須恵器壺(531・532)・壺(533)などが少量出土した。奈良時代の遺物は、342・343溝が341溝と重複することから、混入した可能性も考えられる。

#### その他の古墳時代以前の検出遺構と出土遺物(図41、写真図版61)

その他、2南区に位置する408土坑から弥生時代中期紀伊IV-1様式の凹線文による加飾鉢(18)、4南区に位置する439土坑から奈良時代の土器と共に庄内式併行期古段階の製塙土器(19)脚台1式が出土した。

また、2北区に位置する057小穴から紀伊IV-1様式の広口壺(3)・高杯(12)、2北区に位置する184小穴から紀伊III-3様式の凹線文と櫛描波状文・櫛描直線文による加飾細頸壺(5)、2北区に位置する199小穴から紀伊III-3様式の櫛描簾状文と櫛描列点文による加飾無頸壺(9)、紀伊IV-1様式と考えられる小型甕(15)、2北区に位置する215小穴から紀伊III-3様式の無頸壺(10)、4南区に位置する465小穴から紀伊IV-1様式の高杯脚台部(14)、4南区に位置する668小穴からIV-1様式の凹線文による加飾広口壺(2)などが出土した。

#### 古墳時代の検出遺構と出土遺物

古墳時代は、平井遺跡で最も多くの遺構・遺物がみつかった時期で、調査区のほぼ全域から土師器や須恵器などの遺物が出土した。但し、古墳時代中期～終末期の遺物が主体的に認められ、古墳時代前期の遺物は少ない状況である。調査区西端部の1北区・1北区拡張区の丘陵裾部で、古墳の横穴式石室が検出されたほか、その周囲から陶棺の破片が多く出土した。一方、調査区東半部の3北区・3北区拡張区の丘陵裾部では、埴輪窯を2基確認することができた。調査区内では、この時期の建物跡や土坑・柱穴・小穴などはほとんど検出されておらず、集落の痕跡は確認できなかった。

#### 6 4 8 土坑(図14・41、写真図版17・61)

648土坑は、3南区に位置する。平面形は、やや歪な橿円形を呈し、平面規模は長軸(北東-南西)0.85m・短軸(北西-南東)0.74m、残存の深さは0.41mを測る。掘り込みの断面形は、深いU字形を呈する。遺物は、土坑の北西側にやや偏って大振りの甕の破片と小型丸底土器(20)が出土した。

遺物は、古墳時代前期(布留式併行期古段階)と考えられる甕、小型丸底土器(20)などが出土した。

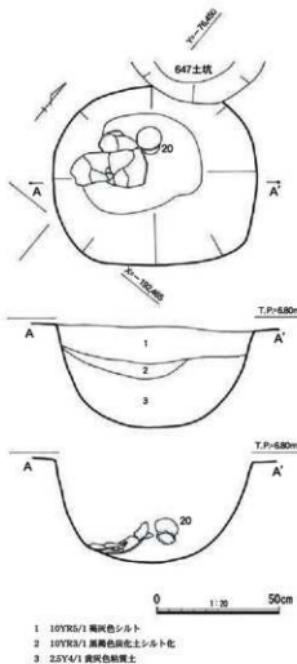


図14 平井遺跡 第1次 3南区 第1遺構面  
648土坑実測図

## 6.2.1 土坑(図15・41、写真図版17・61)

621土坑は、3南区に位置する。平面形は、楕円形ぎみの隅円長方形を呈し、平面規模は長軸(北西—南東)1.26m・短軸(北東—南西)0.97m、残存の深さは0.42mを測る。掘り込みの断面形は、箱形を呈し、法面は垂直ぎみになる。堆積土の2層は、5Y7/3浅黄色シルトがブロック状に入ることから人為的埋土の可能性が高いと考えられる。遺物は、土坑のほぼ中央から基底部より少し浮いた状態で出土した。

遺物は、完存品の古墳時代前期(布留式併行期古段階)の外面タタキ整形甕(22)、小型丸底土器(21)が出土した。

その他、同時期のものとして、4北区に位置する241小穴から古墳時代前期(布留式併行期新段階)と考えられる土師器壺(23)、1北区に位置する011溝から古墳時代前期(布留式併行期古段階)の小型壺(492)・甕(490)・高坏(491)が出土した。

### 埴輪窯

埴輪窯は、3北区・3北区拡張区の丘陵裾部で2基確認された。2基の埴輪窯の間は約25m離れて位置する。埴輪窯の周辺では、窯業生産に関連する工房などはみつかっておらず、埴輪窯のみの検出である。西側で検出した埴輪窯を222埴輪窯、東側で検出した埴輪窯を257埴輪窯とした(以下、本文中において222埴輪窯を「1号窯」、257埴輪窯を「2号窯」と呼称する場合がある)。

### 2.2.2 壁輪窯(1号壁輪窯)(図16~19・42~47・70、巻頭写真図版3、写真図版5~9・62~66)

222壁輪窯は、3北区・3北区拡張区の西寄りの北側壁面(側溝部分)に位置する。調査区3北区の北側側溝を掘削中に検出したものである。丘陵に沿って北東から南西方向に延びる形状で、全体の平面規模は、灰原を含めて全長7.1m以上、窯体の幅1.28m、残存部分の比高は約1.6mを測る。周囲で覆い屋の柱穴などの付帯施設は検出されなかった。

上部は後世の削平を受けており、煙道部は残存しない。窓壁には粘土の貼り付けなどはないが、被熱により焼けた痕跡が明確に残存している。床面3での焼成部の残存の深さは0.4m、床面の傾斜角は37°である。上位の床面2では、残存の深さ0.2m、床面の傾斜角は南側33°~北側27°である。壁輪窯は、焼成部の堆積状況から3回にわたる焼成がおこなわれたと考えられる。

全体のうち、焼成部の長さ約2.0m、燃焼部の長さ約1.1mの比較的小型の窯と推定される。焼

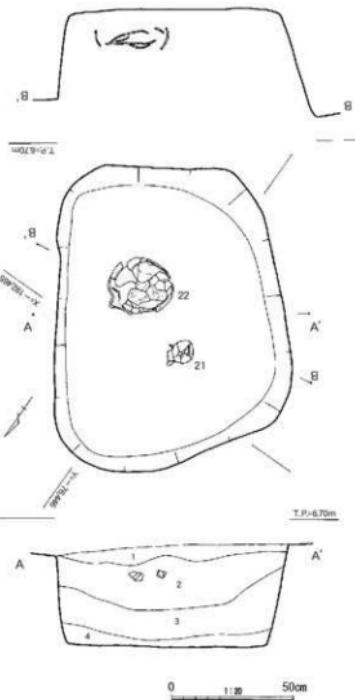


図15 平井遺跡 第1次 3南区 第1遺構面  
621土坑実測図

- 1 7SYR3/1 黒褐色シルト
- 2 7SYR4/1 黄褐色シルトにSYT/3 浅黄色シルトがブロック状に入る
- 3 10SYR4/1 黄褐色粘土
- 4 基盤層 SY6/2 黄オリーブ色砂質土に3層が染み込む

土や炭化物の広がりから類推すると、灰原は長さ4.0m以上、幅(前庭部)は最大約2.9mの範囲に広がっていると考えられる。

内部から出土した埴輪には、円筒埴輪(24~36、52~53)のほか蓋形埴輪(54~55)、石見型埴輪(37~42、56~57、65~68)、人物埴輪(43~48、58~60)、動物埴輪(49~51、61~64、69~71)などの形象埴輪も含まれている。

なお、上位層の最終埋没に伴って、須恵器壺(388)や焼け歪みの著しい移動式竈(390~391)が出土した。移動式竈は、2南区に位置する404土坑から出土した(392)を含め、焼成によって半須恵質化した個体である。

#### 257埴輪窯(2号埴輪窯)(図20~26・48~57、巻頭写真図版3~5、写真図版10~15・67~75)

257埴輪窯は、3北区・3北区拡張区のほぼ中央北側にあたる丘陵裾部に位置する。調査区を北側に拡張して掘削を行った際にみつかったものである。丘陵に沿って北東から南西方向に延びる形状で、全体の規模は、灰原を含めて全長10.1m以上、窯体の幅1.1~1.6m、灰原には幅1.88mの掘り込みがみられる。残存部分の比高は約3.0mを測る。周囲で覆い屋の柱穴などの付帯施設は検出されなかった。

窯壁には粘土の貼り付けなどはないが、被熱により焼けた痕跡が明確に残存している。床面5での焼成部の残存の深さは0.65m、床面の傾斜角は27°である。上位の床面では、残存の深さ0.6~0.4m前後、床面の傾斜角は南側24°~北側27°である。埴輪窯は、焼成部の堆積状況から6回にわたる焼成が行われたと考えられる。

全体のうち、焼成部の長さ約4.2m、燃焼部の長さ約1.56m、灰原の長さ4.5m以上と推定される。222埴輪窯と異なり、焚口側がやや開く細身の形状で、燃焼部の熱が短時間で焼成部に回る構造といえる。但し、焚口から下部にかけても本体部分の幅のまま同じように掘り込まれており、この部分も含めると全長が本体の約2倍になるほどである。この部分には焼土や炭化物、埴輪片が堆積しているものの、壁面には被熱がみられないことから、灰原の一部と考えられる。

内部から出土した埴輪は、円筒埴輪(72~98、130~155、166~172、182~191)を中心であるが、形状は揃っておらず、一部須恵質のものもみられる。床面2での円筒埴輪の検出状況から、床面に据えて焼台として利用されていたと考えられるものもある。家形埴輪(99~108、156~157、177)、盾形埴輪(178)、蓋形埴輪(109~110、161~162、179)、石見型埴輪(111~116、163~164)、器種不明の器財埴輪とみられる一群(117~121)、人物埴輪(122~126、165、180)、鶏形埴輪(127)、馬形埴輪(128~129、158~160、181)などの形象埴輪も含まれている。

一方、調査対象からははずれているが、今回の調査中に調査区北東部(3区北側)の丘陵上(山頂部分)で前方後円墳が新たに発見された(平井1号墳)(巻頭写真図版3)。墳丘採集資料より、円筒埴輪や家形埴輪、蓋形埴輪、石見型埴輪、馬形埴輪などが立て並べられていた可能性が推定され、築造年代は6世紀代と考えられる。

なお、257埴輪窯の南東側の遺物包含層(3北区・5北区等)から多くの埴輪が出土しており、埴輪窯と平井1号墳の両方に関連するものと考えられる(図58~68、写真図版76~81)。円筒埴輪(192~222)のほか家形埴輪(223~234)、蓋形埴輪(235~240)、盾形埴輪(241~246)、双脚輪状文埴輪(247~256)、石見型埴輪(257~294)、胡蝶形埴輪(295~301)、翫形埴輪とみられる一群(302~307)、器財埴輪(308~314)、器財埴輪円筒部(315~323)、人物埴輪(324~

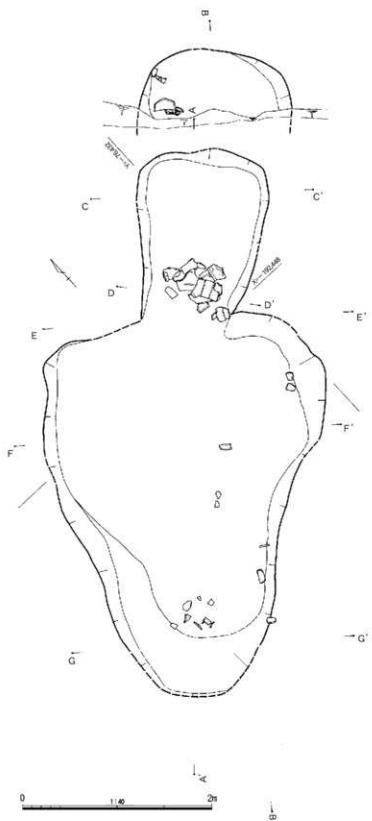


图16 平井道路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1道構面 222埴輪窓床面1実測図

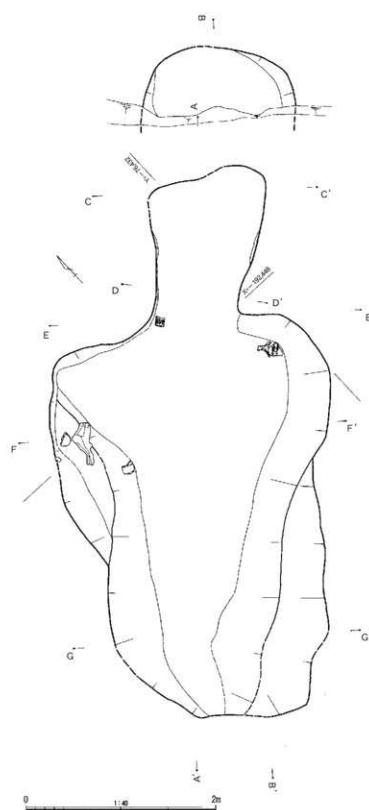


图17 平井道路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1道構面 222埴輪窓床面2実測図

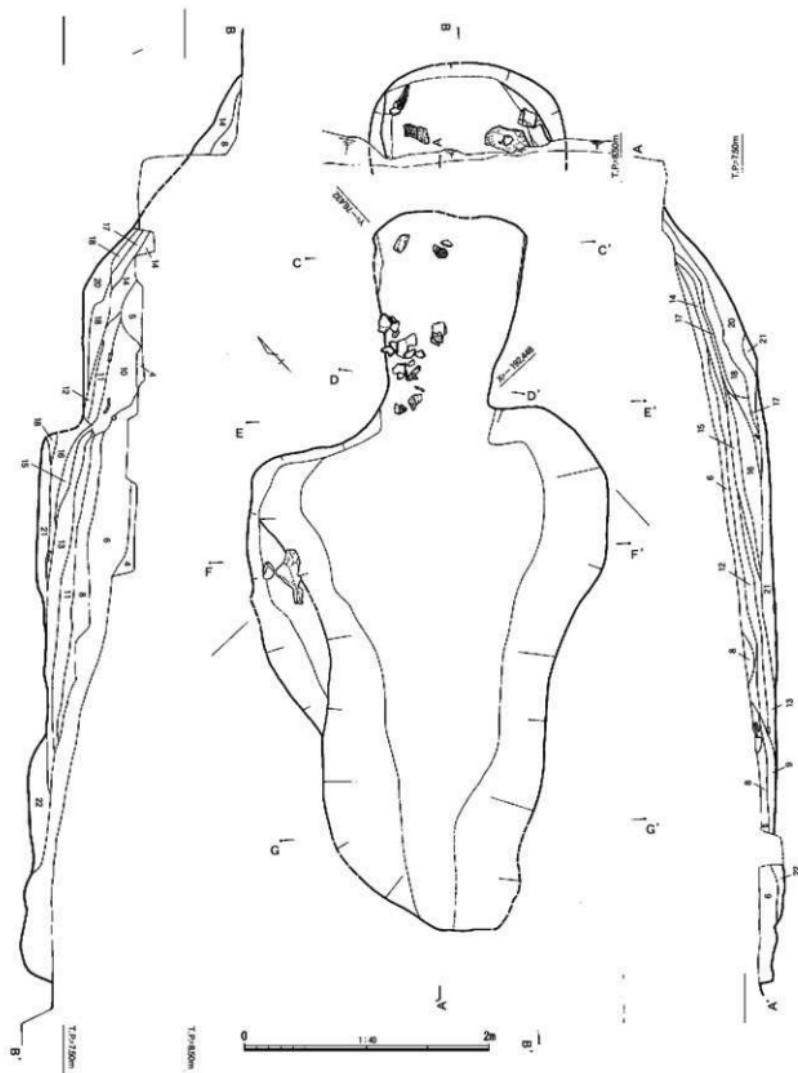


图18 平井遗迹 第1次 3北区・3北区擴張区 第1遺構面 222埴輪窯床面3実測図

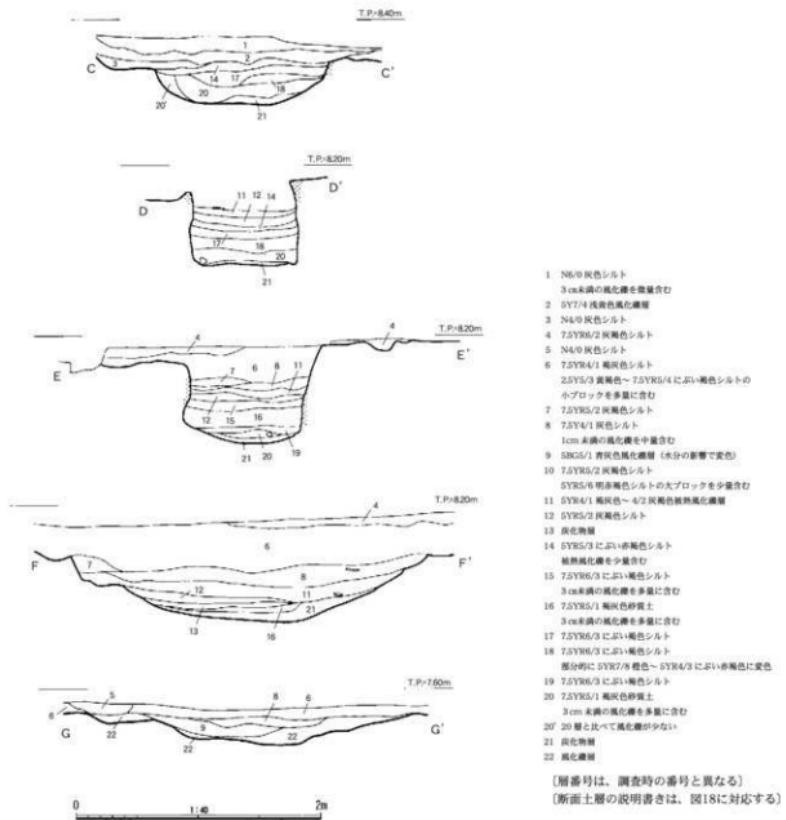


図19 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222埴輪窯断面土層実測図

338)、鶏形埴輪(339)、牛形埴輪(340・341)、馬形埴輪(342～358)などの形象埴輪もみられる。平井1号墳と222埴輪窯(1号窯)が一時期併行関係にあることから、埴輪の受給関係などが推測される。また、257埴輪窯(2号窯)の時期は、5世紀後半に比定できることから、近在の大谷古墳との関係も推測することができる。なお、遺物包含層出土の埴輪には、従来紀ノ川南岸でのみ検出されていたもの(胡蝶形埴輪(295～301)、双脚輪状文埴輪(247～256)など)も含まれており、岩橋千塚古墳群との関係が考えられる。

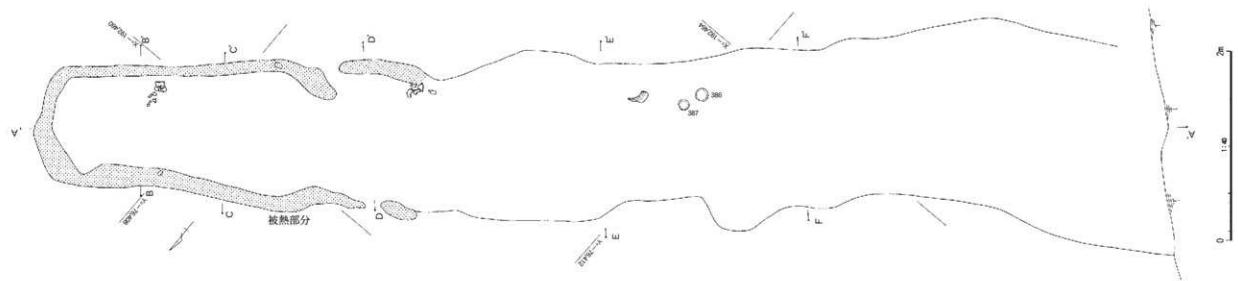


图20 平井道路 第1次 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯検出時実測図

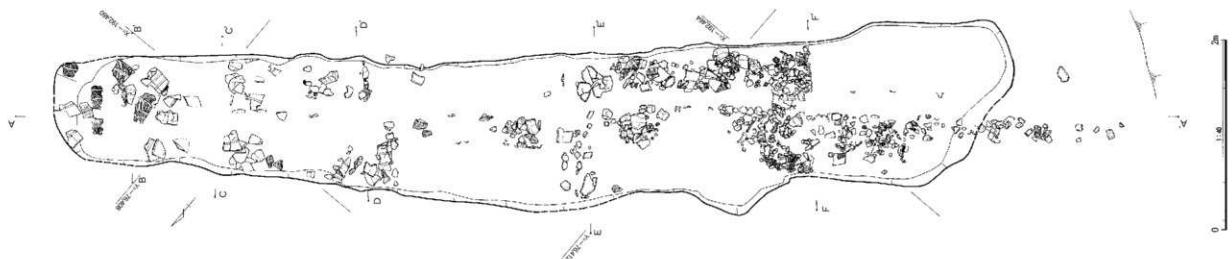


图21 平井道路 第1次 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面1実測図

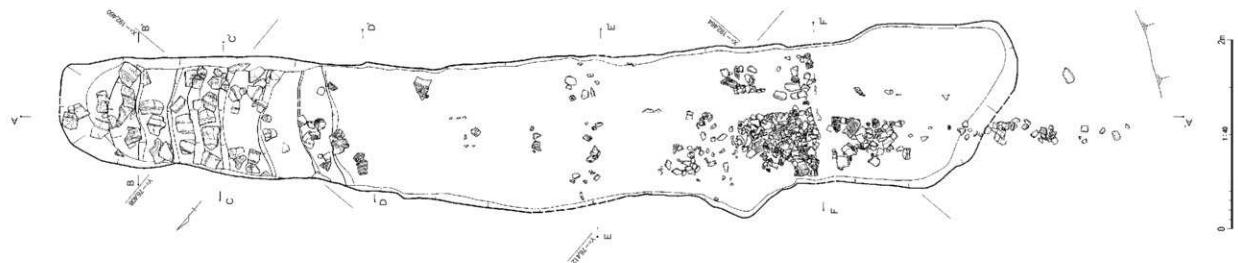


图22 平井遗路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1遗构面 257埴輪窯床面2実測図

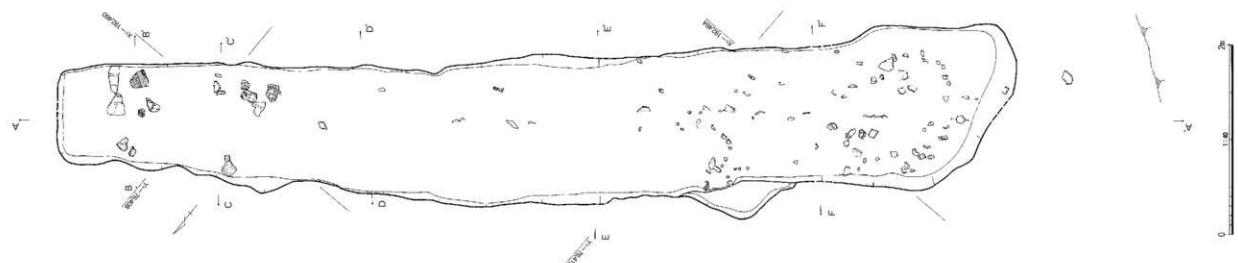


图23 平井遗路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1遗构面 257埴輪窯床面3a実測図

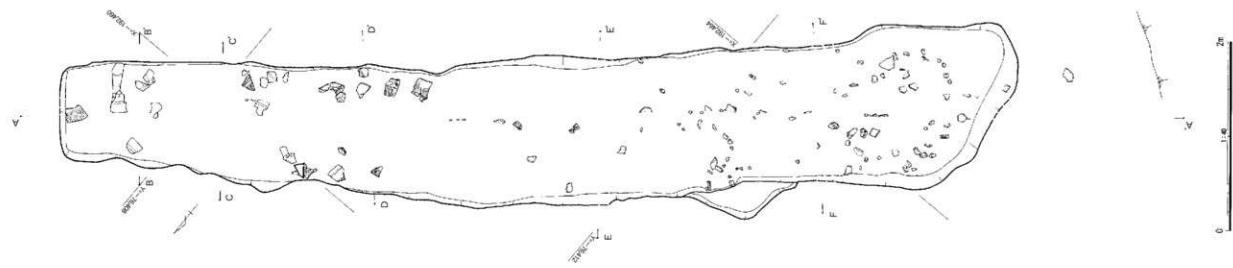


図24 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面 3b実測図

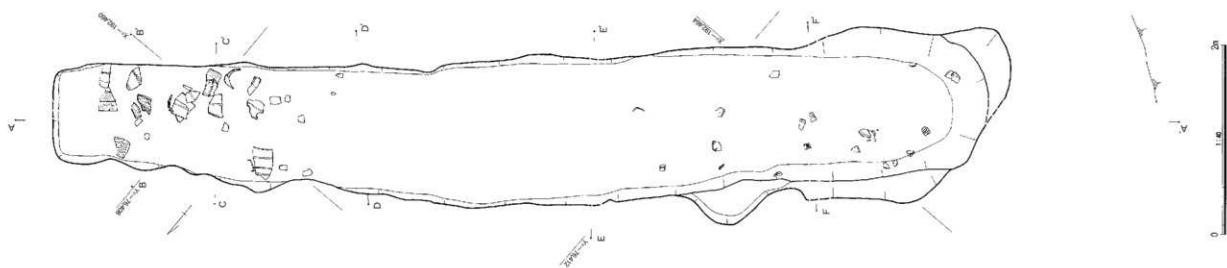


図25 平井遺跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257埴輪窯床面4実測図

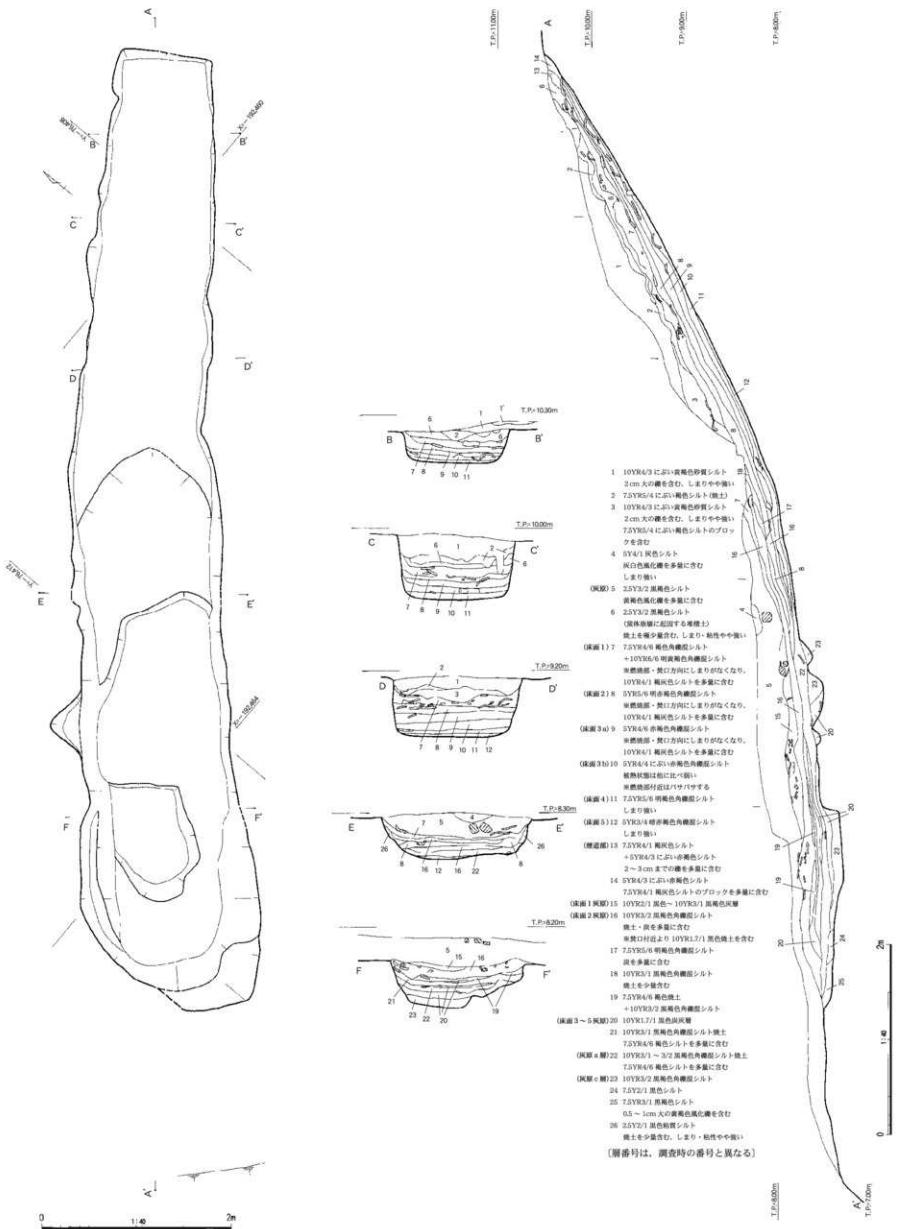


图26 平井遗跡 第1次 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 墓輪窓床面5実測図

## 172 土坑(図69・148、写真図版17)

172土坑は、1北区に位置する。平面形は、不整形である。

遺物は、陶棺(367・369・371)の上に古墳時代の後期の須恵器高环坏部が逆位の状態で出土した。また、砥石(1392)も出土した。

## 陶棺の出土(図69、写真図版82・83)

古墳の横穴式石室が検出された周辺の1区と2区西部で、遺構や遺物包含層などから陶棺の破片(359～376)が多く出土した。陶棺の出土は、和歌山県内では4例目で、出土例が少ないものである。他の例では、破片1点のみや後世の遺物と共に伴するものであるが、当遺跡では破片数が多く、特に同一個体と考えられる。摩耗がほとんどないため、本来はこの地区にあった古墳などに据えられていたものと考えることができる。横穴式石室をもつ古墳との関係は不明であるが、陶棺が出土する遺物包含層は、層序関係から石室をもつ古墳の墳丘を構成するか、その下部の層と考えることができる。このため、陶棺は横穴式石室をもつ古墳より古い時期といえるため、横穴式石室をもつ古墳を营造する際に破壊された可能性も考えられる。

出土した陶棺は、土師質であり、形態は亀甲形に分類されるものと考えられる。個々の破片の観察から、身(369～374)だけではなく、蓋(359～368)や脚(375・376)の一部もみられ、透かし穴(366)や身の接合部(374)、赤彩された破片(368)などが確認できる。現在のところ、全体を復元することはできないため、規模などは不明である。

## 002 横穴式石室(図27・70、写真図版16・83)

002横穴式石室は、1北区・1北区拡張区の丘陵裾部に位置する。後世の造成により上部を大規模に削平されており、基底部の積み石が1段ないし2段分ほどが残存するのみである。墳丘や周濠まで後世に削平されていることから、古墳の形状や規模は不明である。調査区を拡張して、石室より上部にあたる丘陵斜面(1北区拡張区)まで掘削を行ったが、周濠などの付帯施設は確認できなかった。

石室は片袖式ぎみの両袖式と考えられ、玄室南側の東寄りに南に向かう狭い羨道が延びる。玄室の基底石の平面規模は、長軸(北北東～南南西)1.60m・短軸(西北西～東南東)1.10m～1.20mである。玄室の主軸方向は、N-22°30' - Eに振る。玄室を構築する石材は、20～50cm大の割石あるいは角張った石材を組み合わせて使用しており、内部は長方形を呈している。石積みは、小口積み或いは横積みされ統一性は認められない。玄室の南側両隅に比較的大振りの石材を使用して構築されている。床面には、5～10cm大の小割りした和泉砂岩の角礫が敷き詰められている。棺の痕跡も確認できなかったため、埋葬方法は不明である。羨道の配石は長さ約1.0mが確認できるが、非常に狭く人の通行が困難であるため、実際に機能していたかどうかは疑問である。羨道部の配石下部の掘り込みは、幅0.6m・深さ0.35m・検出延長2.0mを測り、排水溝としての機能をもつ可能性が高い。

遺物は、礫床上で玄室の東側に偏った位置から須恵器坏身が2点(378・379)、堆積土から土師器坏(377)が出土した。このことから、横穴式石室は、7世紀前半～中頃の時期と考えられる。また、礫床付近の堆積土の精査により、骨や歯の一部と考えられる破片が少量出土した。玉類などは検出されなかった。

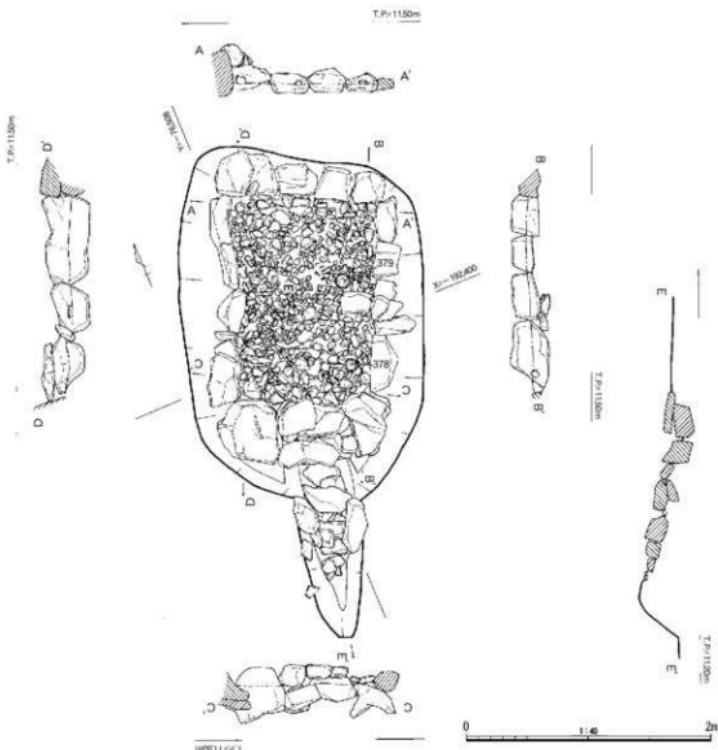


図27 平井遺跡 第1次 1北区・1北区拡張区 第1造構面 002横穴式石室実測図

#### 003横穴式石室痕跡(図28、写真図版16)

003横穴式石室痕跡は、1北区の002横穴式石室の西約12mに位置する。横穴式石室の石材が抜き取られたと考えられる方形の痕跡を検出した。平面形は、歪な平行四辺形を呈する。002横穴式石室とは規模や形状、主軸方向が大きく異なるが、この周辺で大型の角張った石材が多く散乱していたため、後後に横穴式石室が破壊されたものと考えられる。積み石の抜き取り痕跡とみられる凹みの平面規模は、長軸(北北西-南南東)2.60m・短軸(東北東-西南西)2.0mである。横穴式石室の抜き取り痕跡の主軸方向は、奥壁を基準としてみた場合はN-25°-Wに、また、左側壁を基準としてみた場合はN-35°-Wに振る。002横穴式石室でみられた床面に敷き詰められた礫は確認できなかった。003横穴式石室痕跡も、墳丘や周濠まで後世の造成により削平されたものと考えられることから、古墳の形状は不明である。不明な点が多いが、この地区に複数の古墳が造られていたことが明らかとなった。

003横穴式石室痕跡として取り上げられた遺物には、弥生時代中期紀伊III-3様式の高坏脚柱

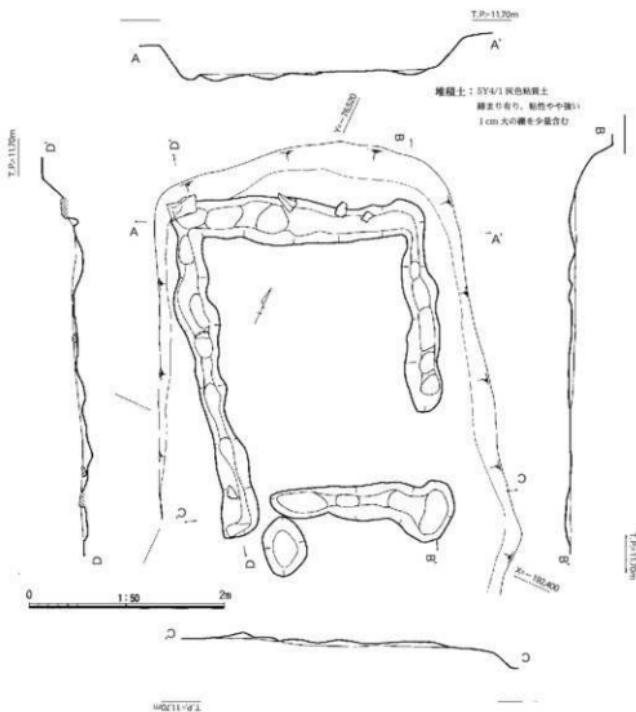


図28 平井遺跡 第1次 1北区 第1遣構面 003横穴式石室痕跡実測図

部、紀伊IV-1様式の高壠脚裾、時期不詳の須恵器の高壠脚裾細片がある。

## 260 竪穴系小石室(図29・70、写真図版17・83)

260号穴系小石室は、3北区に位置する。石室は、和泉砂岩の割石により構築され、長辺に3~4石を並べ、西側小口を板石で、東側小口を割石で閉塞する(一部は、調査時に動いている)。平面形の内法は、長軸(西北西~東南東)0.77m・短軸(北北東~南南西)0.4mを測る。床面には、3~10cm大の小割りした和泉砂岩の角礫が敷き詰められている。

検出状況から、石室を構築するための墓坑を掘り窪め、割石を配置すると共に埋め土により基底面を整地してから角礫を敷き詰める工程が復元できる。

遺物は、土師器長胴甕(380)を縦長に半裁したものを互い違いに埋置し、角礫床上に横たえられる。東側の甕で伏せた中に須恵器坏身(383)・坏蓋(381)が、石室の南西隅に偏って須恵器坏身(384)・坏蓋(382)が出土した。

### その他の古墳時代の検出遺構と出土遺物(図72・74・75、写真図版85)

その他、2北区に位置する105土坑から古墳時代中期と考えられる土師器高杯(434)、古墳時代後期の須恵器環(436)・高杯(435)、2北区に位置する223土坑から古墳時代後期の脚台付壺

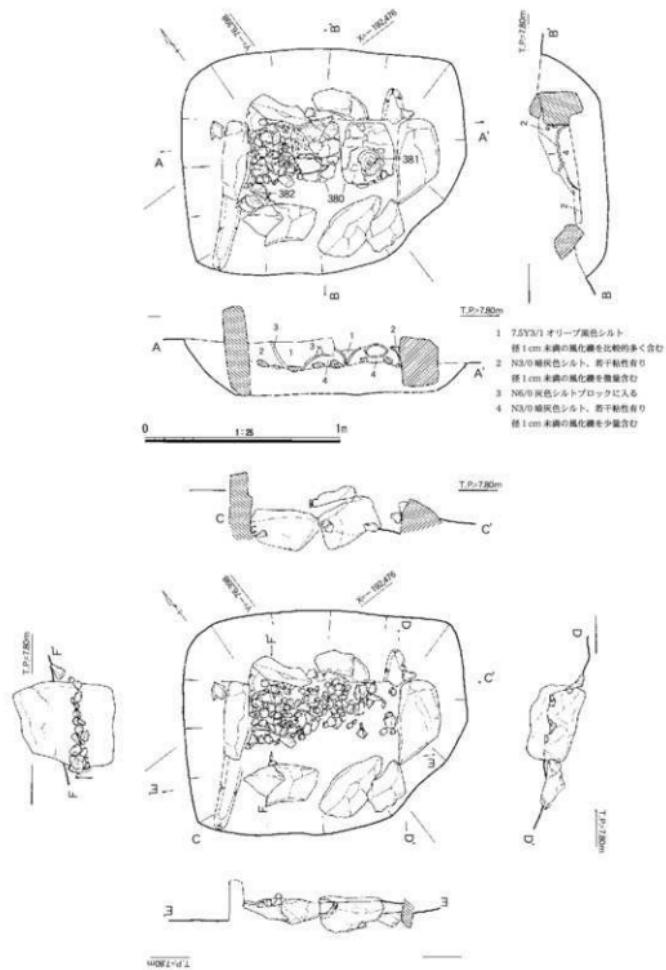


図29 平井遺跡 第1次 3北区 第1造構面 260堅穴系小石室実測図

(441)、3北区に位置する268土坑から奈良時代の土師器甕(442)、庄内式併行期古段階の鉢(443)に混じって古墳時代終末期の須恵器壺(445)・蓋(444)が出土した。

また、1北区・1北区拡張区に位置する008溝から奈良時代の土師器椀(493)・甕(495)に混じって古墳時代中期の土師器高杯(494)、須恵器甕(496)、2北区に位置する103溝から古墳時代終末期の土師器甕(497)、須恵器壺(498・499)、3南区に位置する667溝から土師器甕(548・549)・移動式竈(550)、須恵器甕(551・552)・壺などが出土した。

### 奈良時代の検出遺構と出土遺物

調査区全域から、奈良時代を中心とする遺物が出土したが、特に調査区東端部(3区・5東区)と西端部(2区)に集中している。遺物は後世の遺物包含層に含まれているものが多く、遺構は3区・5東区でまとまって土坑・溝や柱穴・小穴などが検出された。この地区では、遺構の分布が南に広がる状況を示しているため、この方向に建物群が広がることが推定される。遺物は、土師器皿・甕や須恵器坏身・坏蓋・甕、壺などで、溝や土坑からまとまって出土した。一方、3区北西端部から4区にかけての範囲では、方形の掘形をもつ柱穴で構成された掘立柱建物を複数棟検出した。遺物の出土量は比較的少ないが、柱根も残存する場合がある。

#### 掘立柱建物1(図30・71)

掘立柱建物1は、3北区・4北区・4南区に跨って位置する。そのため、良好な遺構写真が得られていない。掘立柱建物1の376柱穴と掘立柱建物4の375柱穴が重複関係にあり、掘立柱建物1が古い。また、380柱穴も重複関係にある。平面規模は、桁行(南北)3間(西側6.66m・東側推定6.90m)・梁間(東西)2間(北側3.81m・南側推定4.05m)で、北側で柱並びがやや不揃いとなる。柱間は、1.86~2.55mと不揃いである。柱穴の掘形は、歪な隅円方形・隅円長方形・楕円形となり、一様でない。第1遺構面において検出した他の掘立柱建物と主軸方向を異にし、棟主軸方向N-4° 30' -Wに振る。

第2遺構面としての検出であるが、出土遺物から第1遺構面として検出した掘立柱建物群と同時代の段階的な時期差を反映したものと考えられる。

柱穴からの遺物は、少ないが、古墳時代終末期の須恵器坏身(399)、奈良時代の土師器坏(393)・皿(394・395)・甕(396)・移動式竈(397・398)、須恵器坏(401・404)・坏蓋(400・402・403)などが出土した。

#### 掘立柱建物2(図31)

掘立柱建物2は、4北区に位置し、125柱穴が掘立柱建物3と重複関係にある。平面規模は、桁行(北北東-南南西)3間(北西側5.16m・南東側推定5.40m)・梁間(西北西-東南東)2間(北東側推定3.69m・南西側3.60m)で、比較的柱並びが揃う。柱間は、1.47~1.89mと不揃いであるが、1.80mないしその前後に収まる場合が多い。柱穴の掘形は、歪な隅円方形・隅円長方形・楕円形・円形となり、一様でない。棟主軸方向は、N-33° 50' -Eに振る。

柱穴からの遺物は、細片が微量のみで時期の確定には至らない。

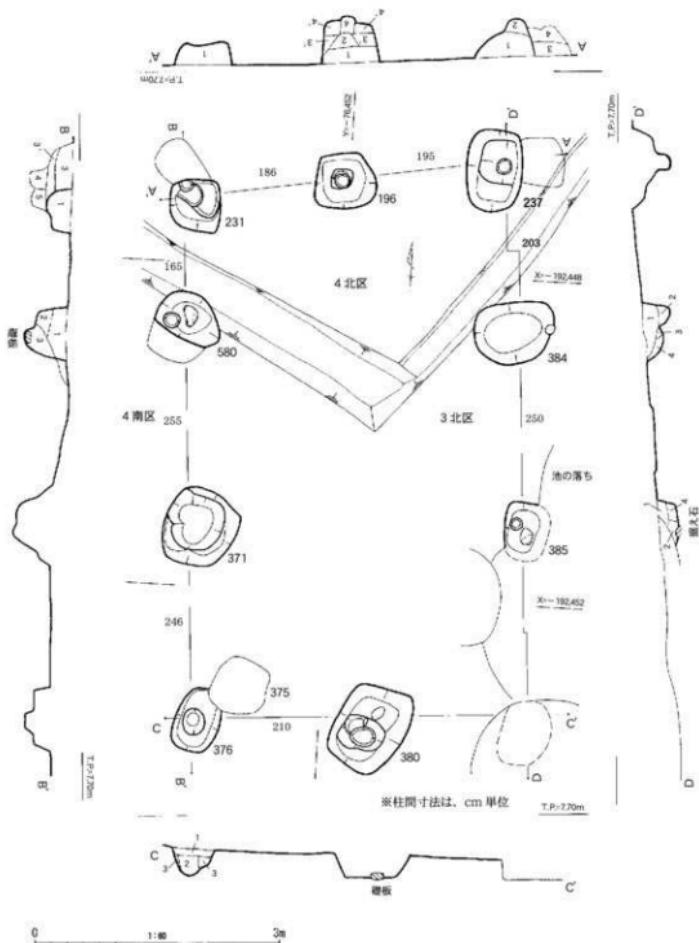
#### 掘立柱建物3(図32)

掘立柱建物3は、4北区に位置し、125柱穴が掘立柱建物2と重複関係にある。平面規模は、桁行(北北東-南南西)3間(北西側5.31m・南東側5.40m)・梁間(西北西-東南東)2間(北東側3.72m・南西側3.66m)で、比較的柱並びが揃う。柱間は、1.65~2.07mと不揃いであるが、1.80m~1.92m前後に収まる場合が多い。柱穴の掘形は、掘立柱建物2と同様に、歪な隅円方形・隅円長方形・楕円形・円形となり、一様でない。棟主軸方向は、N-29° -Eに振る。

柱穴からの遺物は、古墳時代終末期の坏身と考えられる細片と時期判断できない底部細片が出土した。

#### 掘立柱建物4(図33・71・150、写真図版18・84・111)

掘立柱建物4は、3南区・3北区・4南区に跨って位置する。そのため、良好な遺構写真が得



- 1 7.5YR4/1 黄褐色砂質土  
 2 10YR4/1 黄褐色粘質土  
 3 1 黑褐色 5Y4/3 明オリーブ色シルトがブロック状 (0.5 ~ 1cm) に少量入る  
 3' 7.5YR4/1 黄褐色粘質土  
 4 7.5YR4/1 黄褐色粘土, 粒化粒 0.6cm を極少量含む  
 4' 7.5YR4/1 黄褐色シルト  
 5 10YR5/1 黄褐色粘質土, 粒化粒 0.5cm を微量含む
- 384-385 柱穴
- 1 7.5YR4/1 黄褐色砂質土  
 2 10YR4/1 黄褐色粘質土  
 3 2.5Y3/1 黑褐色砂質土  
 4 2.5Y4/1 黄褐色砂質土  
 5 2.5Y3/2 深オーリーブ色シルト ) 順層

図30 平井遺跡 第1次 3北区・4北区・4南区 第1遺構面 掘立柱建物1実測図

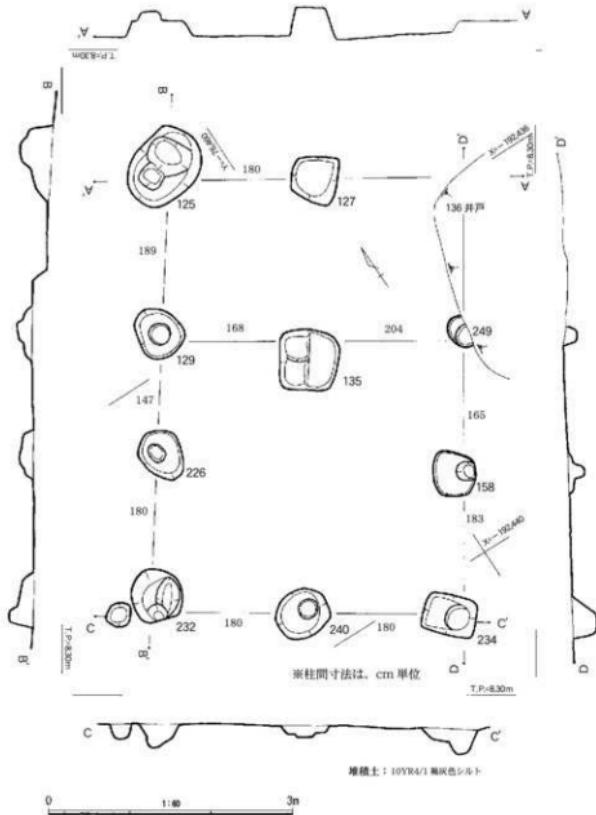


図31 平井遺跡 第1次 4北区 第1遺構面 掘立柱建物2実測図

られていない。掘立柱建物4の375柱穴と掘立柱建物1の376柱穴が重複関係にあり、掘立柱建物4が新しい。また、380柱穴も重複関係にある。平面規模は、桁行(南北)3間(西側4.80m・西側中5.01m・東側中4.92m・東側4.71m)・梁間(東西)3間(北側4.20m・北側中4.32m・南側中4.20m・南側4.05m)で、比較的柱並びが揃う。柱間は、1.20~1.74mと不揃いであるが、桁行が1.50~1.65m前後に、梁間が1.50m前後に収まる場合が多い。柱穴の掘形は、歪な隅円方形・隅円長方形・楕円形・円形となり、他の掘立柱建物より方形を指向するように見受けられる。棟主軸方向は、N-15°-Eに振る。

柱穴からの遺物は、庄内式併行期古段階の高環(405)が混在するものの、奈良時代の土師器环(406・407)・高环・蓋(411)・甕(409)・鍋把手(410)、須恵器鉄鉢形鉢(412)などが出土した。また、372柱穴・375柱穴・588柱穴(1415)・589柱穴(1416)には、柱材が残存していた。588柱穴の

柱材(1415)は径21.3cm・残存の長さ59.7cm、589柱穴の柱材(1416)は径20.1cm・残存の長さ41.8cmである。

### 掘立柱建物 5 (図34・71、写真図版18・19)

掘立柱建物5は、4南区と4北区に跨って位置する。平面規模は、桁行(南北)3間(西側5.97m・東側6.24m)・梁間(東西)2間(南側4.56m・北側4.47m)で、比較的柱並びが揃う。柱間は、1.89～2.40mと不揃いであるが、2.04～2.16m前後に収まる場合が多い。柱穴の掘形は、円形・歪な隅円方形・楕円形となり、円形を指向するように見受けられる。棟主軸方向は、N-17°30' -Eに振る。

柱穴からの遺物は、弥生時代中期紀伊III-3様式の上位突帯文直口壺(413)、紀伊III-1様式の紀伊形甕底部(414)などが混在するものの、奈良時代の土師器皿(415・416)などが出土した。

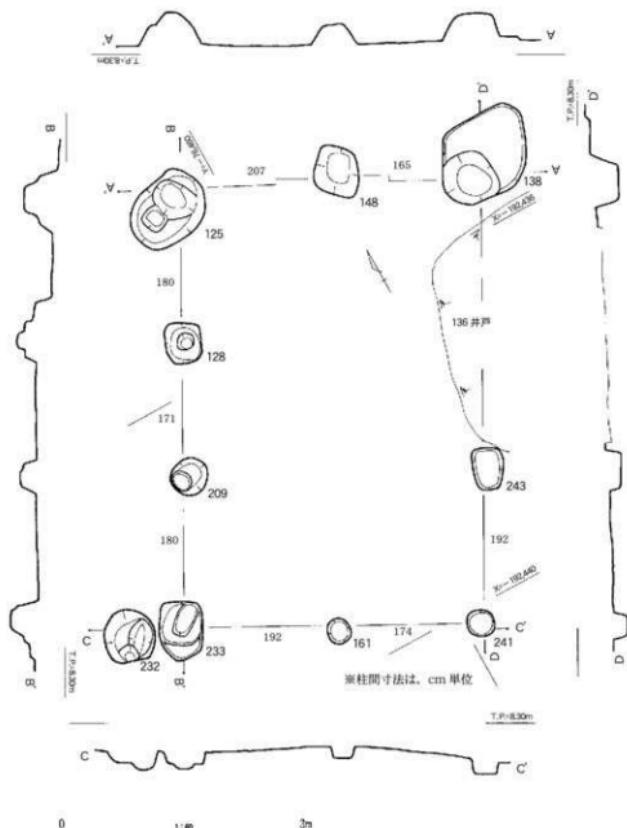


図32 平井遺跡 第1次 4北区 第1遺構面 掘立柱建物3室測図

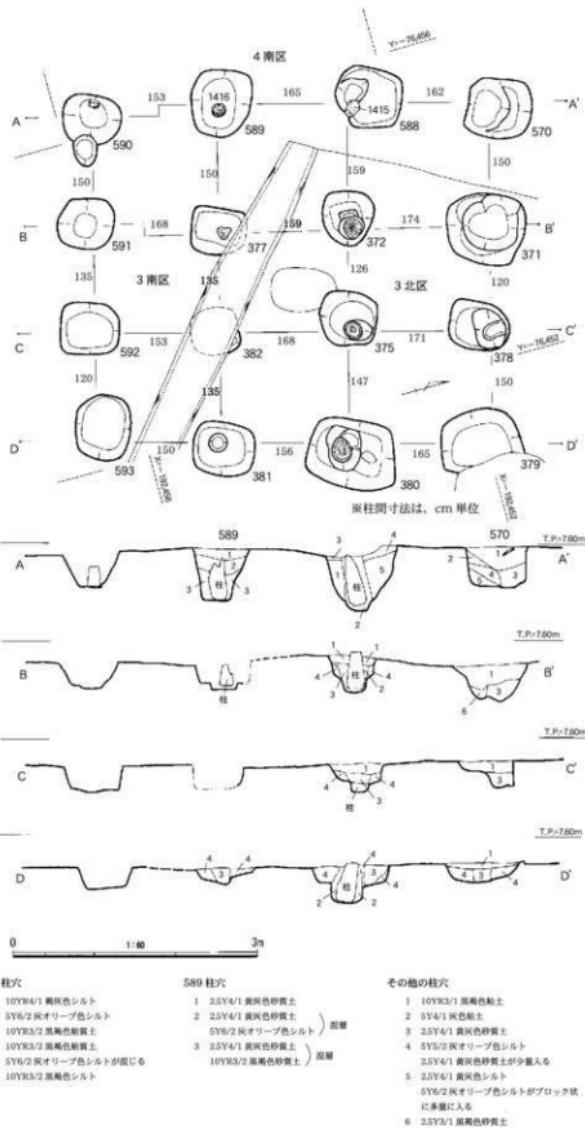


図33 平井遺跡 第1次 3北区・3南区・4南区 第1遺構面 掘立柱建物4実測図

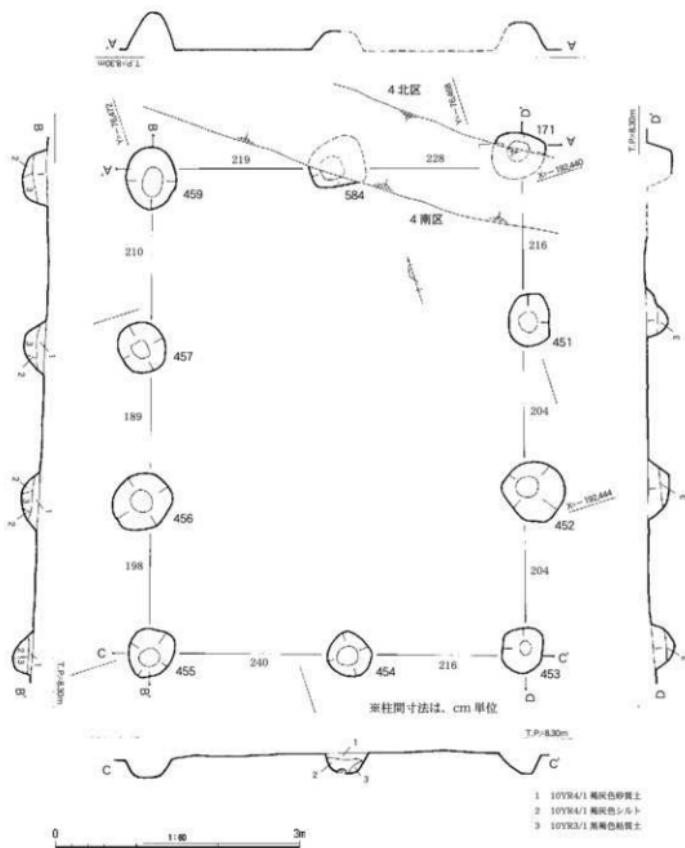


図34 平井遺跡 第1次 4北区・4南区 第1遺構面 掘立柱建物5実測図

#### 掘立柱建物6(図35・71、写真図版18・19・84)

掘立柱建物6は、4北区の掘立柱建物5の東側に位置する。平面規模は、桁行(北北東—南南西)4間(北西側7.20m・南東側7.17m)・梁間(西北西—東南東)2間(北東側3.78m・南西側4.02m)で、北側で柱並びがやや不揃いとなる。柱間は、1.59~2.13mと不揃いであるが、1.80~1.86m前後に収まる場合が多い。柱穴の掘形は、歪な円形・楕円形となり、掘立柱建物5と同様に、円形を指向するように見受けられる。棟主軸方向は、N-31°-Eに振る。

また、掘立柱建物6の北西側と南東側に雨落ち溝と考えられる463溝と464溝が取り付く。463溝は、幅0.39~0.75m・深さ0.18m前後・検出延長8.70m、464溝は幅0.42m・深さ0.15m前後・検出延長3.54mを測る。

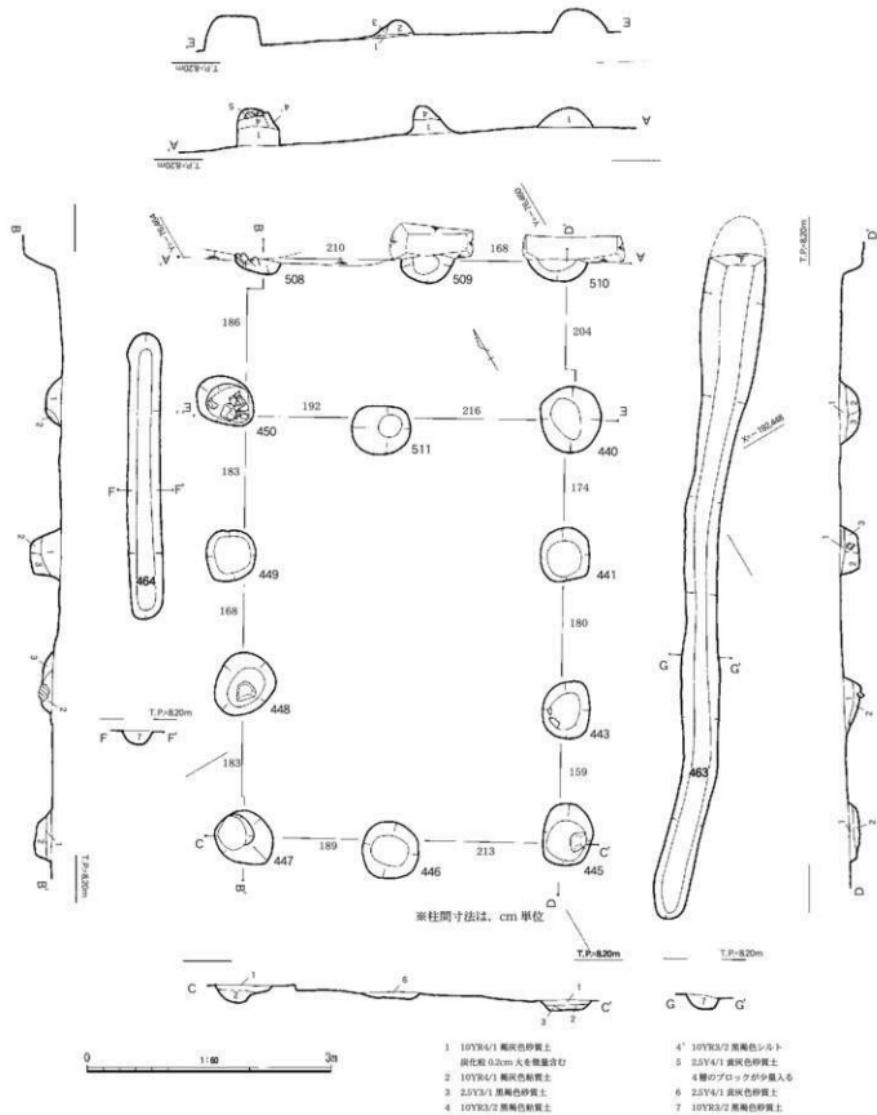


図35 平井遺跡 第1次 4南区 第1遺構面 掘立柱建物6実測図

柱穴からの遺物は、古墳時代終末期の須恵器壺(419)・蓋(421)、奈良時代の土師器壺(417・418)、須恵器壺(420・422)などが出土した。

#### 掘立柱建物7(図71)

掘立柱建物7は、4南区に位置し、南側が調査区外となる。平面規模は、桁行(南北)1間以上(東側3.57m以上)・梁間(東西)2間(北側4.95m)で、東側で柱並びがやや不揃いとなる。柱間は、1.86~2.55mと不揃いである。柱穴の掘形は、歪な隅円方形・円形となり、方形を指向するよう見受けられる。棟主軸方向は、N-9°-Eに振る。

柱穴からの遺物は、古墳時代終末期の須恵器蓋(424・425)、奈良時代の土師器製塙土器(423・426)、須恵器壺などが出土した。

#### 掘立柱建物8a・8b(図71、写真図版18)

掘立柱建物8a・8bは、4南区に位置する。東側の先行する建物を掘立柱建物8a、西側に0.5mずれて後出する建物を掘立柱建物8bとする。掘立柱建物8aの564柱穴と掘立柱建物8bの530柱穴が重複関係にあり、掘立柱建物8aが古い。

掘立柱建物8aの平面規模は、桁行(東西)3間(北側5.25m・南側5.01m)・梁間(南北)2間(西

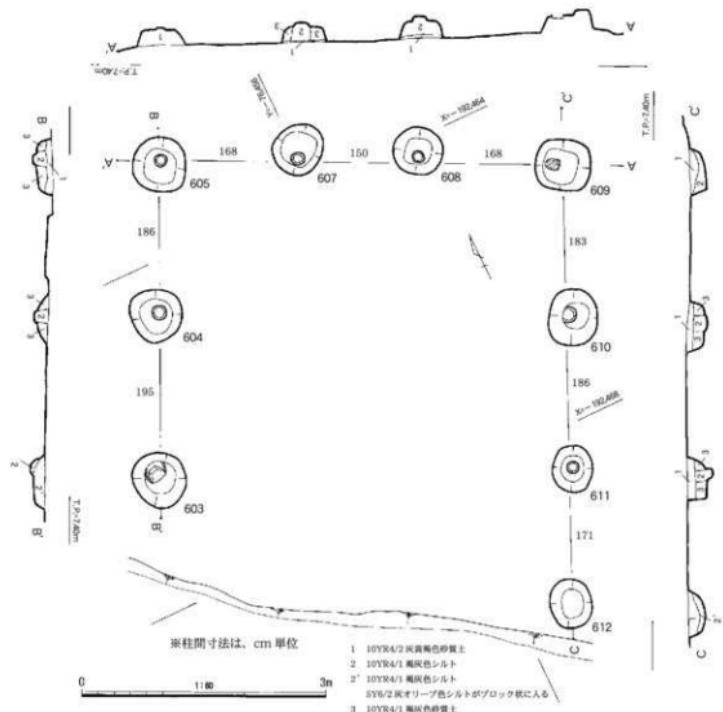


図36 平井遺跡 第1次 3南区 第1遺構面 掘立柱建物10実測図

側4.44m・東側4.08m)で、比較的柱並びが揃う。柱間は、桁行で1.59~1.95mと不揃いであるが、梁間で2.01~2.22mと比較的よく揃う。柱穴の掘形は、歪な円形・楕円形・円形となり、円形を指向するように見受けられる。

掘立柱建物8bの平面規模は、桁行(東西)3間(北側5.04m・南側4.74m)・梁間(南北)2間(西側4.20m・東側4.17m)で、比較的柱並びが揃う。柱間は、桁行で1.44~1.92mと不揃いであるが、梁間で2.04~2.13mと比較的よく揃う。柱穴の掘形は、掘立柱建物8aと同様に、円形を指向するように見受けられる。棟主軸方向は、何れもN-70°-Wに振る。

柱穴からの遺物は、奈良時代の土師器壺(427)・高壺・鍋把手・移動式竈(428)などが出土した。  
掘立柱建物10(図36・71、写真図版19)

掘立柱建物10は、3南区に位置し、南側が調査区外となる。平面規模は、桁行(南北)3間以上(東側5.40m以上)・梁間(東西)3間(北側4.86m)で、比較的柱並びが揃う。柱間は、1.50~1.95mと不揃いである。柱穴の掘形は、円形・歪な円形・隅円方形・楕円形となり、円形を指向するように見受けられる。棟主軸方向は、N-24°30'-Eに振る。

柱穴からの遺物は、極めて少なく、古墳時代終末期の須恵器蓋(432)、奈良時代の土師器皿(431)などがある。

その他、掘立柱建物は、3南区で桁行不明×梁間3間の建物11、桁行2間以上×梁間3間の建物12、桁行3間×梁間2間の建物16、2北区で桁行3間×梁間1間の建物15などがある。各々の柱穴堆積土から奈良時代の遺物が微量出土し、当該期の可能性が高いが明確ではない。

### 303土坑(図37・72・73、写真図版20・85・86)

303土坑は、5東区に位置する。平面形は、南北に長い不整形を呈し、平面規模は長軸(北北西-南南東)3.6m・短軸(北東-南西)1.5m、残存の深さは0.35mを測る。遺物は、土坑の基底部から浮いた状態で奈良時代の土師器高壺(454)を始め、全体に土坑の東側に偏った範囲に多い傾向にある。比較的まとまった遺物量である。

遺物は、奈良時代の土師器皿(453)・柱状部のやや長い高壺(454・455)・甕

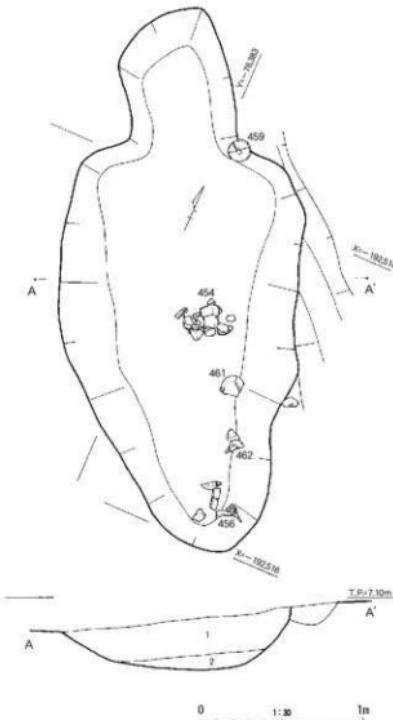


図37 平井遺跡 第1次 5東区 第1遺構面  
303土坑実測図

(456・457)・製塩土器(458)、須恵器壺(461～463)・蓋(459・460)などが出土した。

#### 4 5 8 土坑(図73、写真図版20・86)

458土坑は、4南区に位置する。比較的まとまった遺物量である。

遺物は、奈良時代の土師器皿(471)・壺(472)・鉢(473)・甕(475・476)、須恵器壺(480～483)・蓋(477～479)・壺(485)・高壺(484)・甕(486)などが出土した。

#### 3 4 1 溝(図38、74・75・148、写真図版20・87・110)

341溝は、3東区から5東区にかけて位置する。北から南方向に延び、検出延長33.5m、幅1.05～2.0m、残存の深さは0.4～0.6mを測る。341溝は、342溝と重複関係にあり、341溝が新しい。D6 u 3・4付近で溝の基底部に接して5～50cm大の多量の礫と共に遺物が出土した。礫の中には被熱のために赤変したものが多く認められる。341・342溝の上層部には、広い範囲に10YR4/2灰黄褐色砂質土(1層)が被さる状態にある。

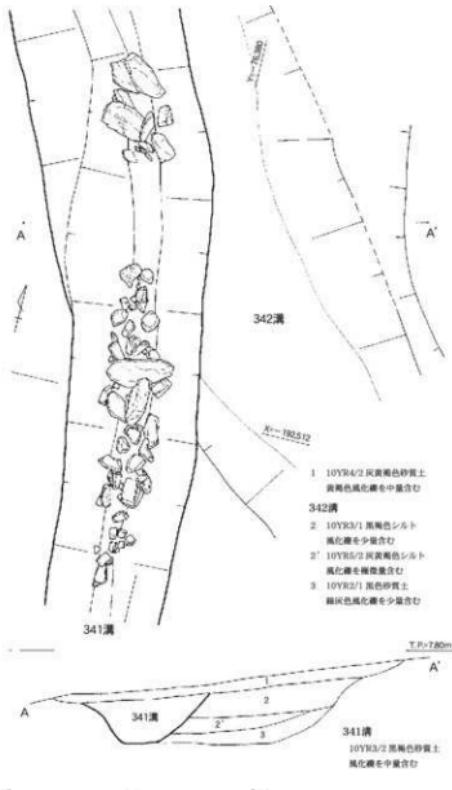


図38 平井遺跡 第1次 3東区 第1遺構面 341溝集石範囲実測図

遺物は、溝の下層から上層にかけて古墳時代終末期の須恵器蓋(环)(522)、奈良時代の土師器皿(502~504)・甕(505~511)・有孔土錐(520・521)・製塙土器(512~519)、須恵器坏(524・525)・広口壺(526)・長頸壺(527)・甕(529)などがまとまって出土した。溝下層からは、弥生時代中期紀伊IV-1様式の把手付鉢が出土した。その他、砥石(1393)も出土した。

#### その他の奈良時代の検出遺構と出土遺物(図72・73・75・76、写真図版85・86)

その他、3北区に位置する292土坑から土師器甕(477)、須恵器壺・甕(448)、5東区に位置する302土坑から土師器管状土錐(452)、須恵器坏(449)・蓋(450)・甕(451)、5東区に位置する309土坑から須恵器坏(466)、315土坑から土師器製塙土器(464)、3東区に位置する346土坑から土師器製塙土器(465)、4南区に位置する439土坑から土師器坏(467)・甕(468~470)、5東区に位置する345柱穴から土師器製塙土器(487)、4南区に位置する133小穴から有孔土錐(488)、4北区に位置する159小穴から須恵器坏(489)などが出土した。

また、5東区に位置する352溝から土師器坏(534)・皿(536~538)・甕(540・541)・管状土錐(542)、須恵器坏(539)・蓋(543~545)、3南区に位置する665溝から土師器皿(546)、須恵器壺(547)などが出土した。

#### 鎌倉・室町時代の検出遺構と出土遺物

調査区のほぼ全域から、鎌倉時代を中心とする中世の遺物が出土した。遺構は、2北区や4北区を中心として柱穴・小穴や井戸、土坑などがまとまって検出された。建物は、柱並びを復元できるもの以外にも想定できることから、掘立柱建物が複数建てられていたことが想定される。ただ、奈良時代の掘立柱建物ほど明確な時期を示す状態でない。井戸は、周囲に石組みが施されたものや素掘りのものがみつかっている。いずれも内部から瓦器焼が出土しており、鎌倉時代と考えられる。この他、遺物は、土師器土釜・小皿、須恵器、陶器などが主に遺物包含層から出土した。

#### 229溜樹(木枠組水溜)(図39・76、写真図版20・88)

299溜樹(木枠組水溜)は、4北区に位置する。平面形は方形で、内法長軸(南北)0.83m・短軸(東西)0.78m、残存の深さは0.44~0.48mを測る。掘形の平面形は、一辺0.93mの方形である。木枠組は、各辺に縦板4枚ないし5枚を立てかけ、4隅に角材を打ち込み、横木で縦板を留める構造である。横木は、南側と北側を下に、東側と西側を上に組む構造になる。また、防水効果を高めるため、基底部に5~10cm、縦板の裏側4~5cmにY6/1灰色粘土を貼り込める。

遺物は、下位層から平安時代後期の瓦器椀(560~562)が、堆積土から土師器皿(558・559)、瓦器椀、青白磁合子身(563)などが出土した。

#### 029井戸(図40・76・151、写真図版20・88・111)

029井戸は、2北区に位置する。井戸の掘形は、円形で長径(東西)2.04m・短径(南北)1.95m、残存の深さは1.60mを測る。南側は、段掘りとなる。井側は、石組みの天端で内径南北0.84m・東西0.63m、基底部に近い部分で径0.54mと狭くなる。石材は、和泉砂岩の丸石もしくは割石を利用して積み上げているが、抜け落ちている部分が多く見受けられる。

遺物は、井戸側内から内面ハケ調整土師器皿(578・579)・小皿(573~576)、留蓋瓦(577)、曲物底板(1419)が出土した。

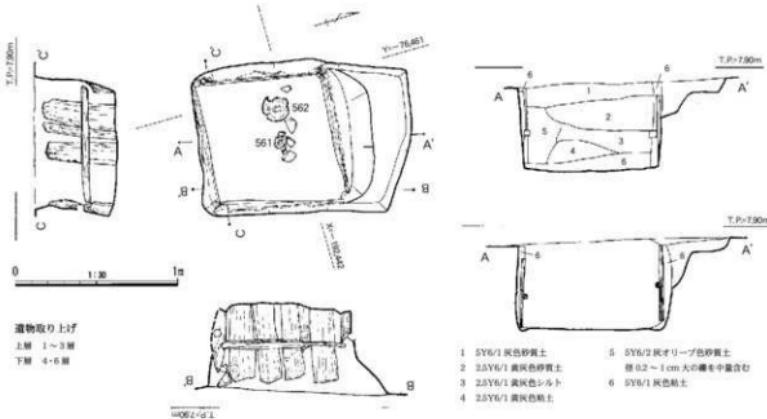


図39 平井遺跡 第1次 4北区 第1遺構面 229溜柵実測図

### 261火葬墓(図152、写真図版20・112)

261火葬墓は、1北区拡張区の斜面地に位置する。平面形は、歪な円形を呈する。

遺物は、鎌倉時代と考えられる瓦器の細片1点と鉄釘(1454~1458)が多数出土した。鉄釘は、頭部が皆折で、全長を把握できたもので幅0.5~0.65cm・長さ5.35~6cmである。

### その他の鎌倉・室町時代の検出遺構と出土遺物(図76、写真図版88)

その他、4北区に位置する石組みの崩壊の著しい136井戸から室町時代の常滑焼甕(580)、掘形から備前焼擂鉢などが出土地した。

### (3) 遺物包含層と出土遺物

第1次調査の遺物包含層からは、まとまった量の遺物が出土した。

ここでは、基本層序と遺構面との関係から、第4層と第3層の遺物を区別して扱う。

### 遺物包含層第4層(図77~79・147・152、写真図版89・90・108・109)

遺物包含層第4層からは、まとまった量の弥生時代中期の土器(586~626)、量的には少ない弥生時代後期前半(628・631)及び後半・終末期の土器(627・629・630・632~634)、奈良時代の土師器・須恵器(635~666)、一定量の鎌倉・室町時代の土器(667~676)がある。また、古墳時代の埴輪窯に関係する埴輪の出土量も多い状況にある。

遺物包含層第4層の中で最も古く位置付けできるのが、弥生時代中期紀伊III-1様式の紀伊形甕(603~607)である。やや新しく紀伊III-2様式の上位突帯文直口壺(600)や紀伊III-3様式の太頸広口壺(592)などがある。量的には口縁部端面に凹線文を施す個体が主体で、紀伊IV-1様式の加飾広口壺(593~599)などがある。広口壺の中には、口縁部内面に櫛描列点文(586・591・593・594・598)や櫛描波状文(592)によって施文されるものもみられる。その他、石器類では、石鎧(1369)・錆泥片岩製の石庖丁(1372)・細粒砂岩製の敲石(1380)などが出土した。

遺物包含層第4層の中でまとまった遺物量で最も新しく位置付けできるのが、室町時代の遺物である。但し、上位層の掘り残しとみられる僅かな江戸時代の遺物と共に寛永通宝(1461)も含まれる。

#### 遺物包含層第3層(図80~82・147、写真図版91・108・112)

遺物包含層第3層からは、弥生時代中期の土器(677~689)や古墳時代の土器(693~700)を含むものの、まとまった量の奈良時代の土器(701~743)がある。その他、石器類では、粗粒砂岩製の敲石(1379)などが出土した。

遺物包含層第3層の中で最も新しく位置付けできるのが、江戸時代の遺物である。江戸時代の土器(768・769)は、一定量のまとまりが認められる。

その他、金属製品では、5北区の褐色土から鉄製の鋤先(1459)が出土した。

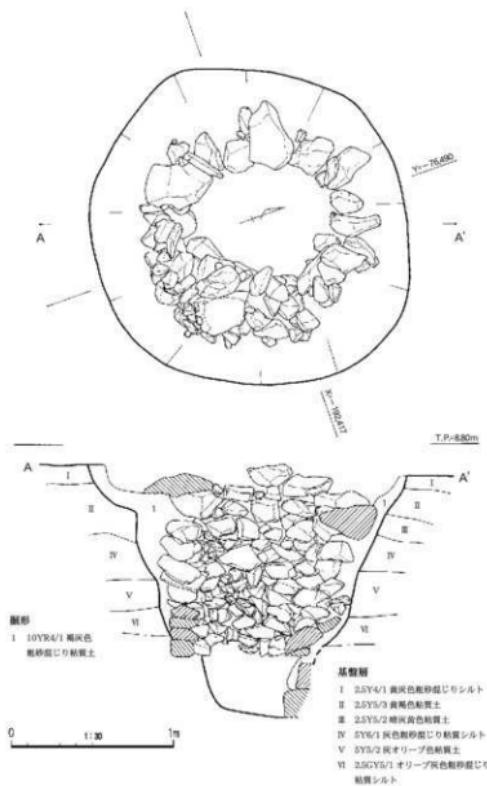
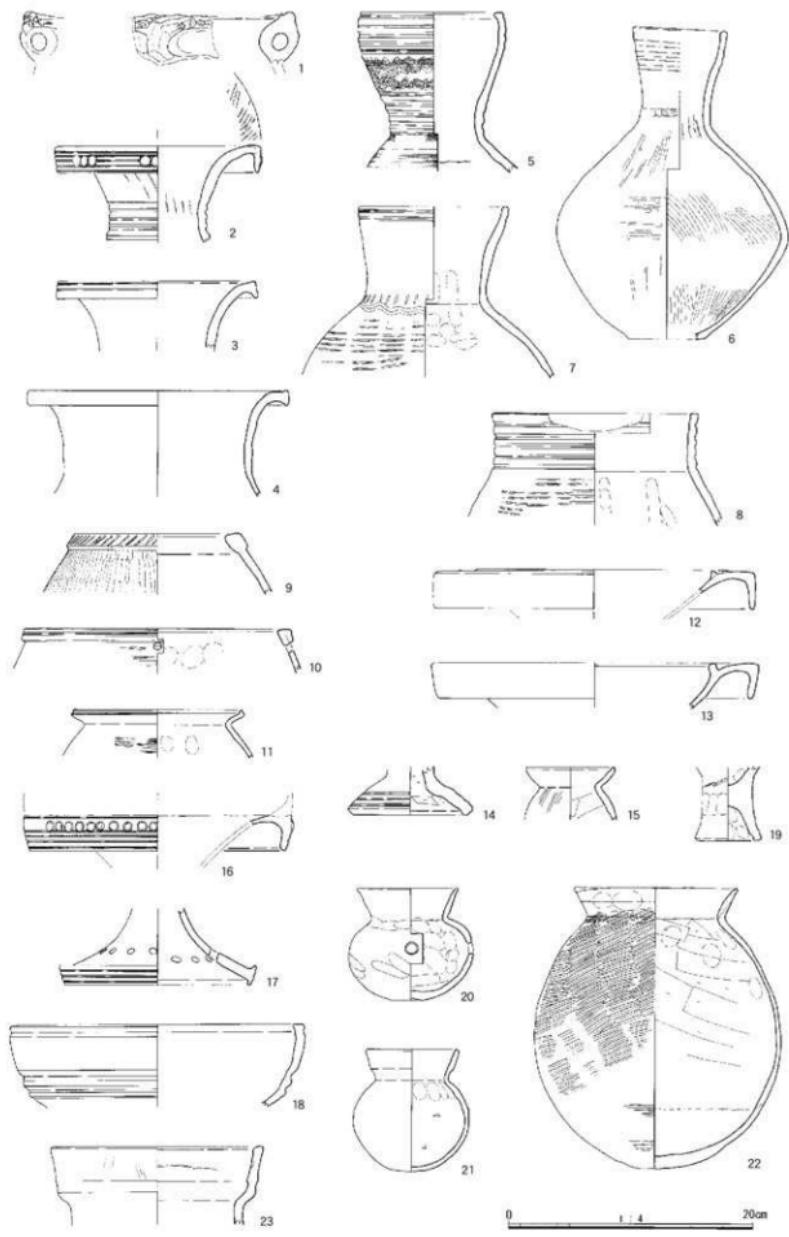
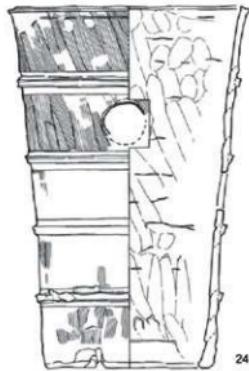


図40 平井遺跡 第1次 2北区 第1遺構面 029戸実測図

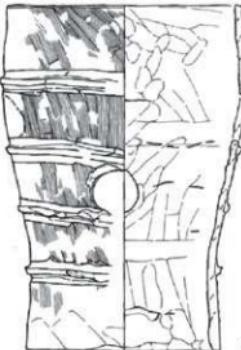


1: 黄褐色罐。2: 668小穴。3: 12: 057小穴。4-6·11-17: 559土坑。5: 184小穴。7: 343溝。8: 342溝。9-15: 199小穴。10: 215小穴。11: 470小穴。12: 465小穴。13: 408土坑。14: 439土坑。15: 648土坑。16-22: 621土坑。23: 241柱穴。

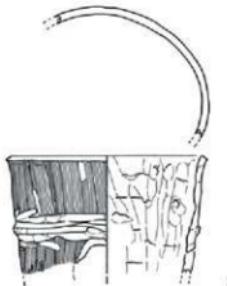
图41 平井遗址 第1次 第1遣構面 遺構・遺物包含層出土遺物実測図1



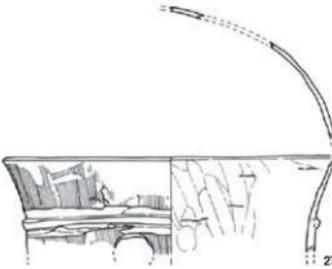
24



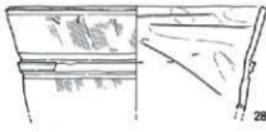
25



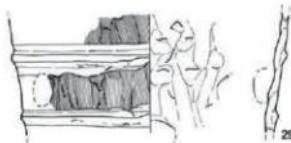
26



27

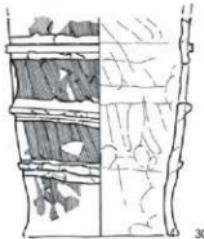


28

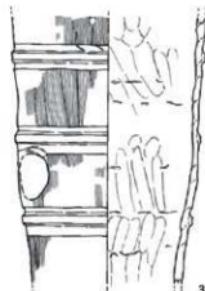


29

0 1 6 30cm



30



31

图42 平井造路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1遣构面 222埴輪窯(1号窯)出土埴輪実測図1(床面1)

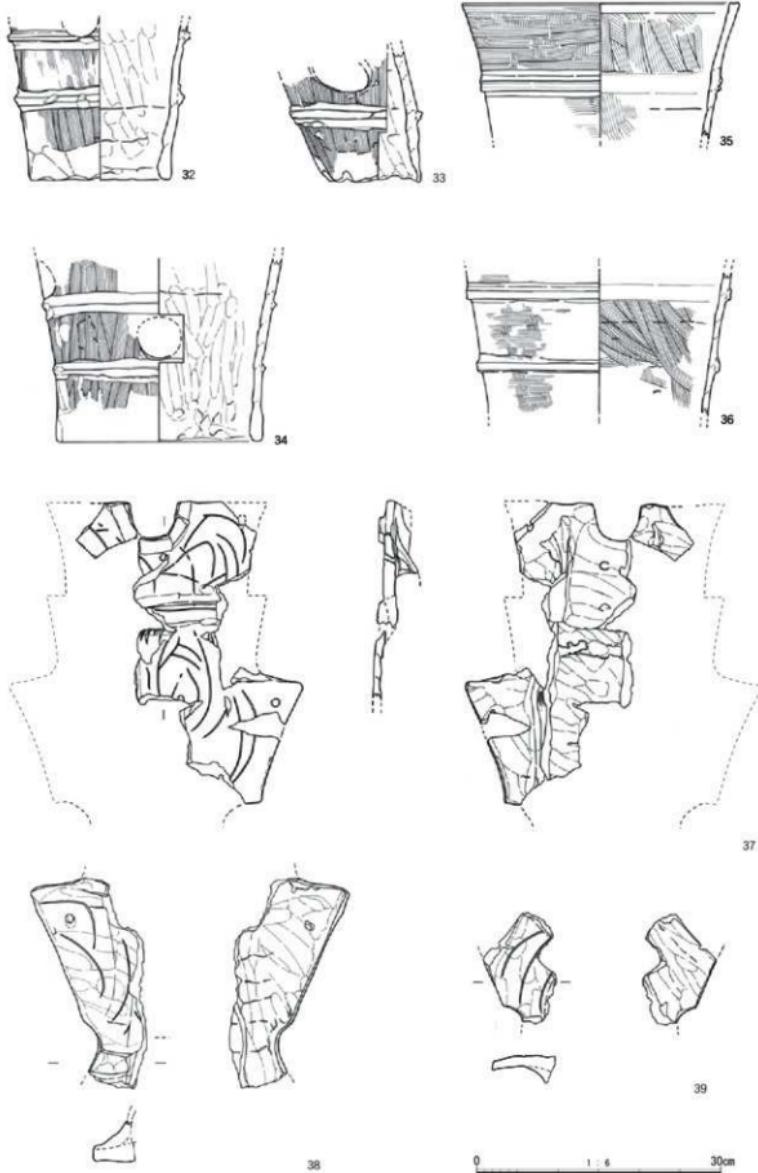


图43 平井遗路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1遗构面 222埴輪窯(1号窯)出土埴輪実測図2(床面1)

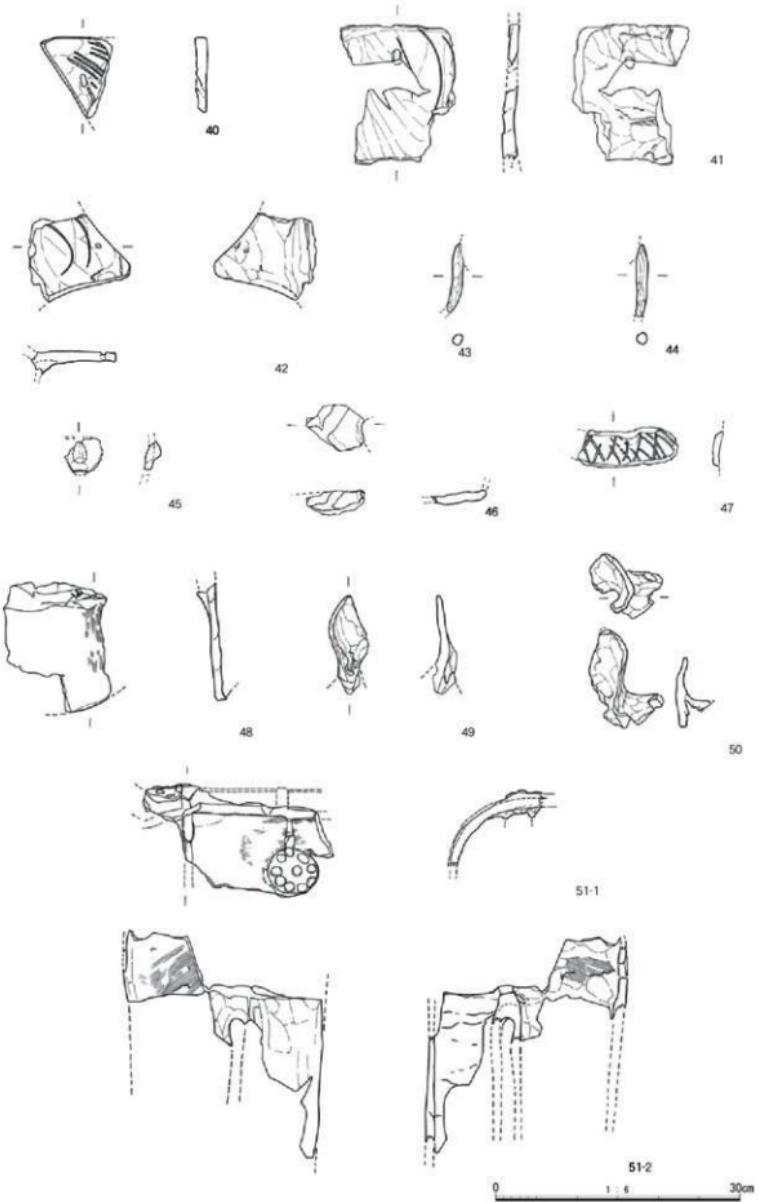


图44 平井遗路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1遗构面 222埴輪窯(1号窯)出土埴輪実測図3(床面1)

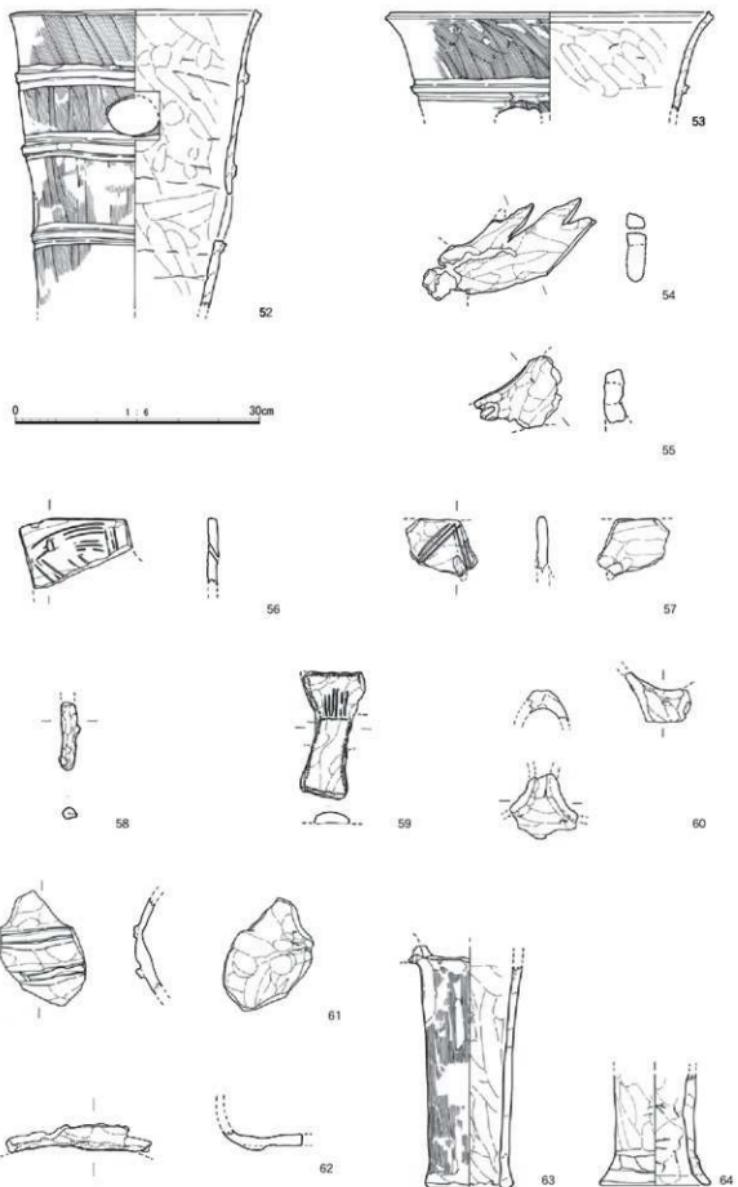


图45 平井造路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1造构面 222号窑(1号窑)出土埴轮实测图4(床面2)

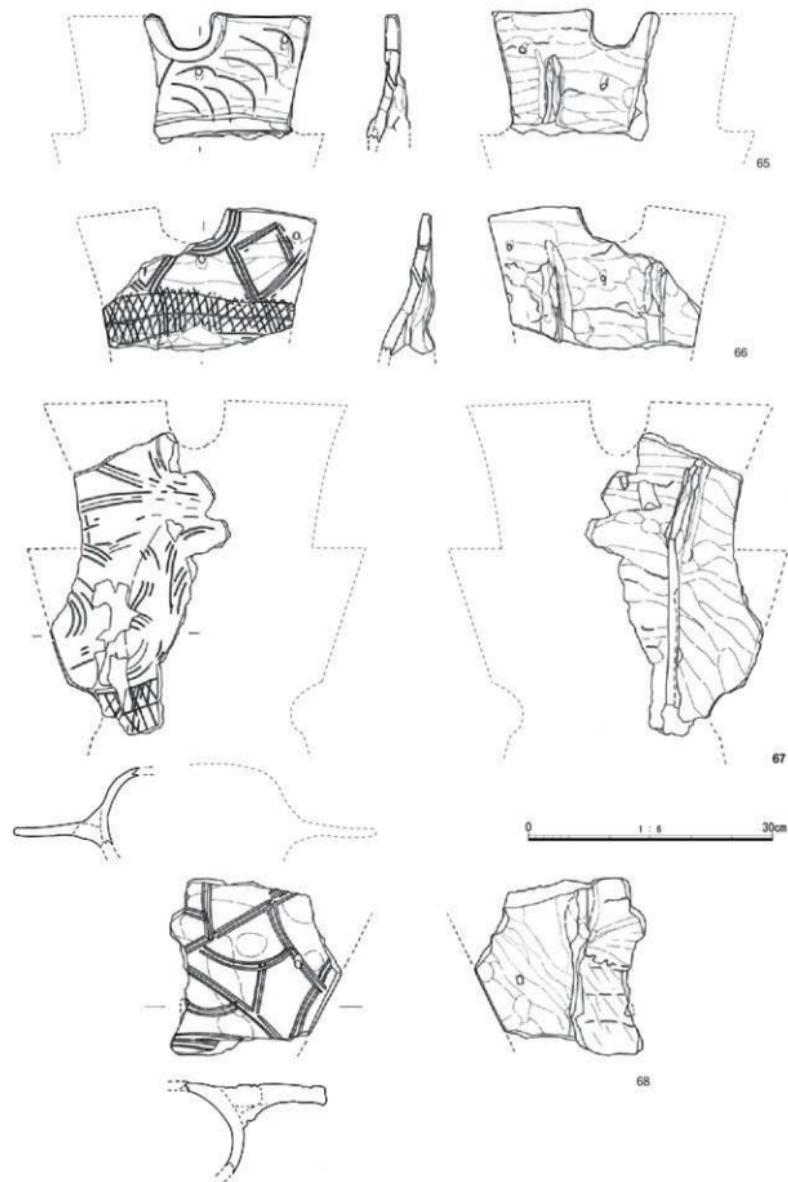
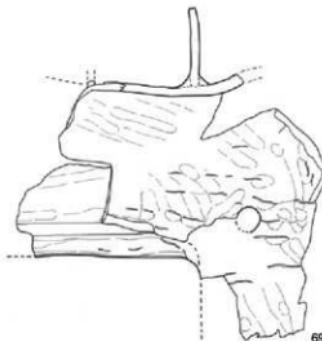
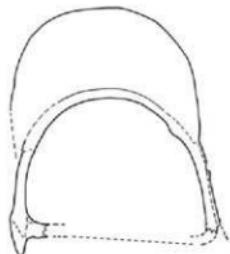
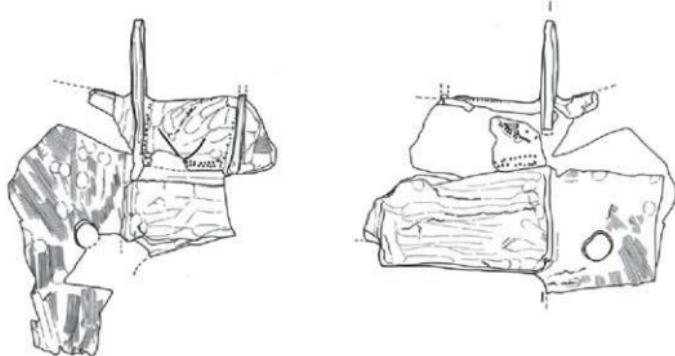


图46 平井造路 第1次 3北区・3北区拡張区 第1遣構面 222埴輪窯(1号窯)出土埴輪実測図5(床面3)



0 1 6 30cm

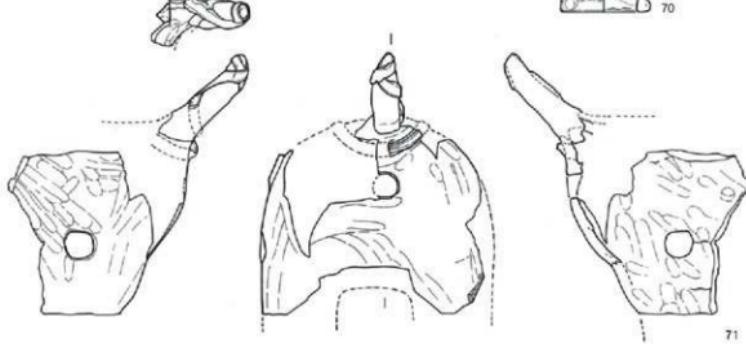
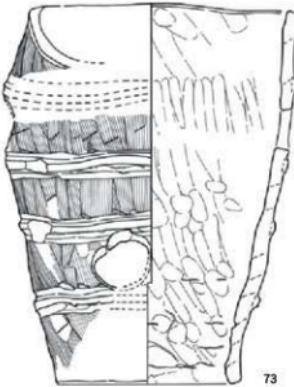
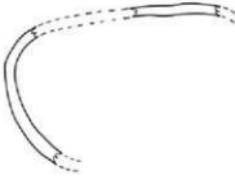
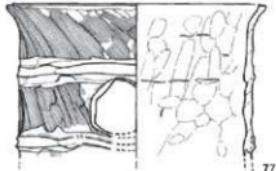
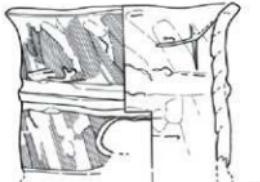
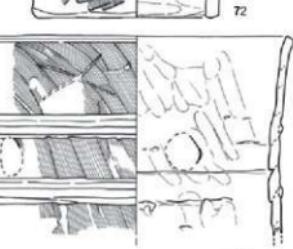
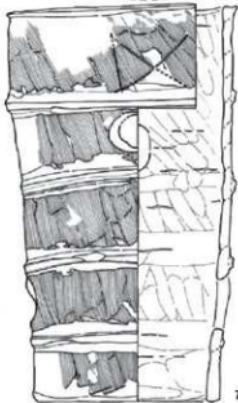
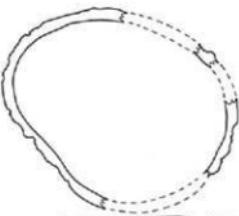


图47 平井遗路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1遣构面 222埴輪窯(1号窯)出土埴輪実測図6(床面3)



0 1:6 30cm

口輪部平面形 突带平面形

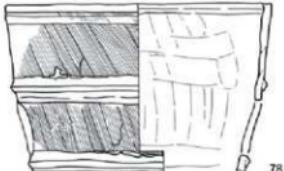


图48 平井遣道路 第1次 3北区·3北区拵张区 第1遣構面 257埴輪窯(2号窯)出土埴輪実測図1(床面1)

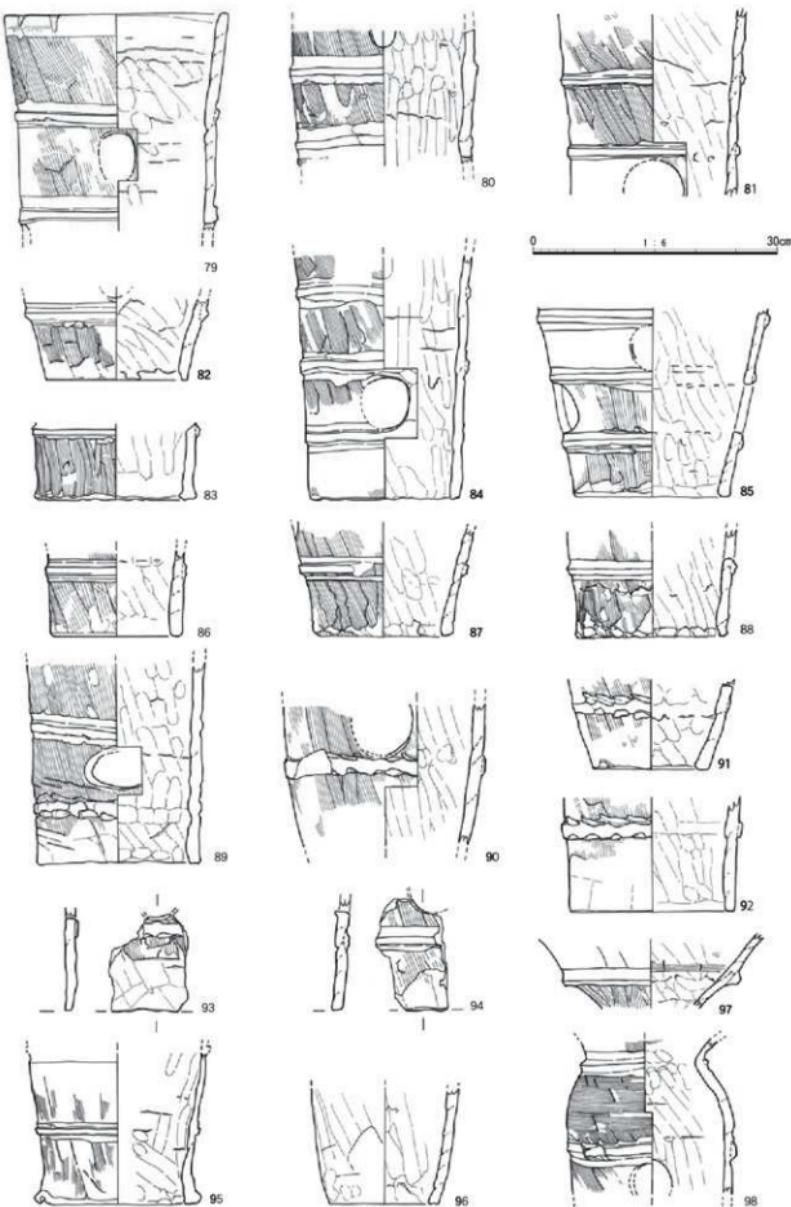


图49 平井遗路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1遗构面 257埴輪窯(2号窯)出土埴輪実測図2(床面1)

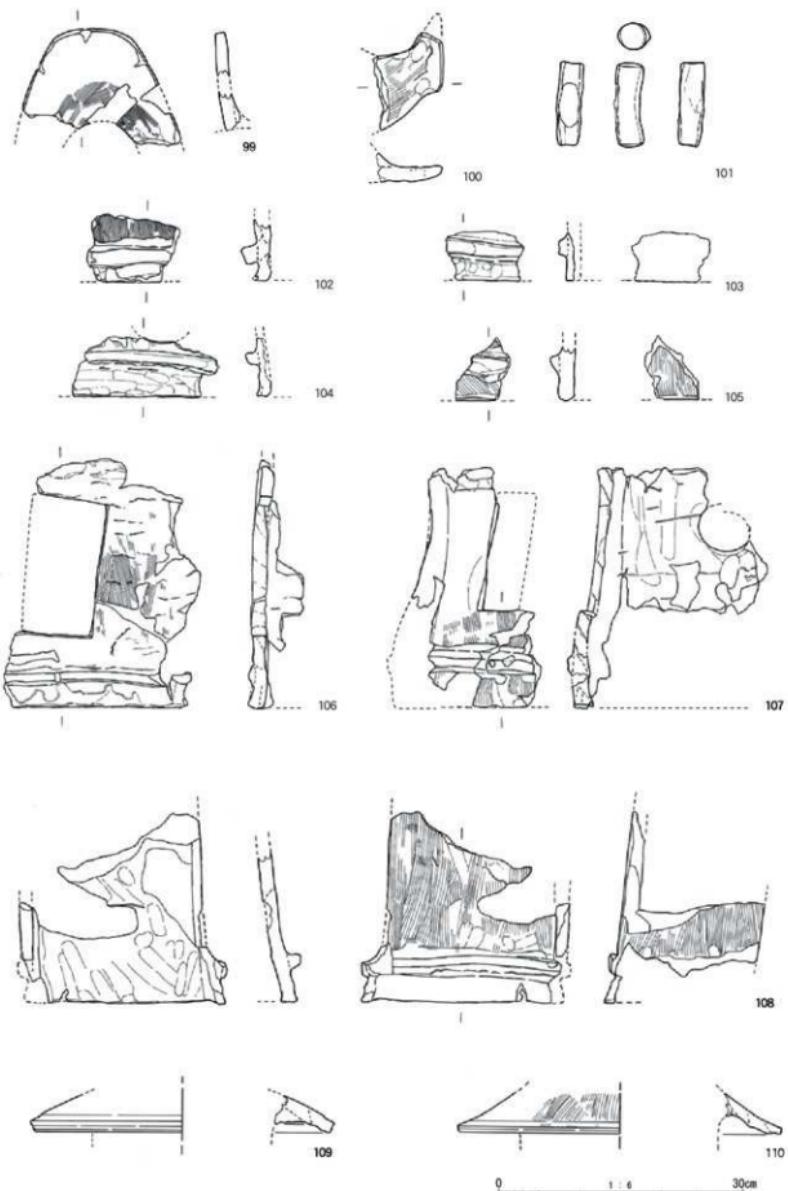


图50 平井遗路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1遗构面 257埴輪窯(2号窯)出土埴輪実測図3(床面1)

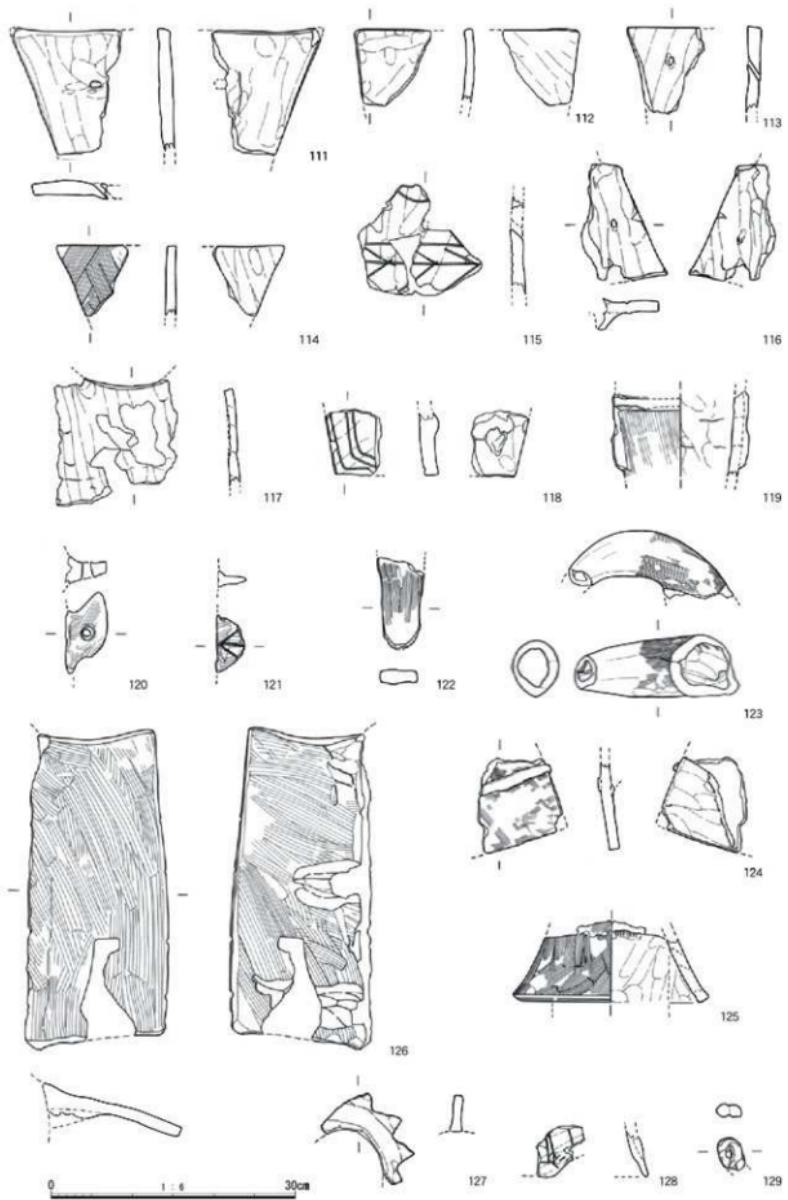


图51 平井遗路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1遣构面 257埴輪窯(2号窯)出土埴輪実測図4(床面1)

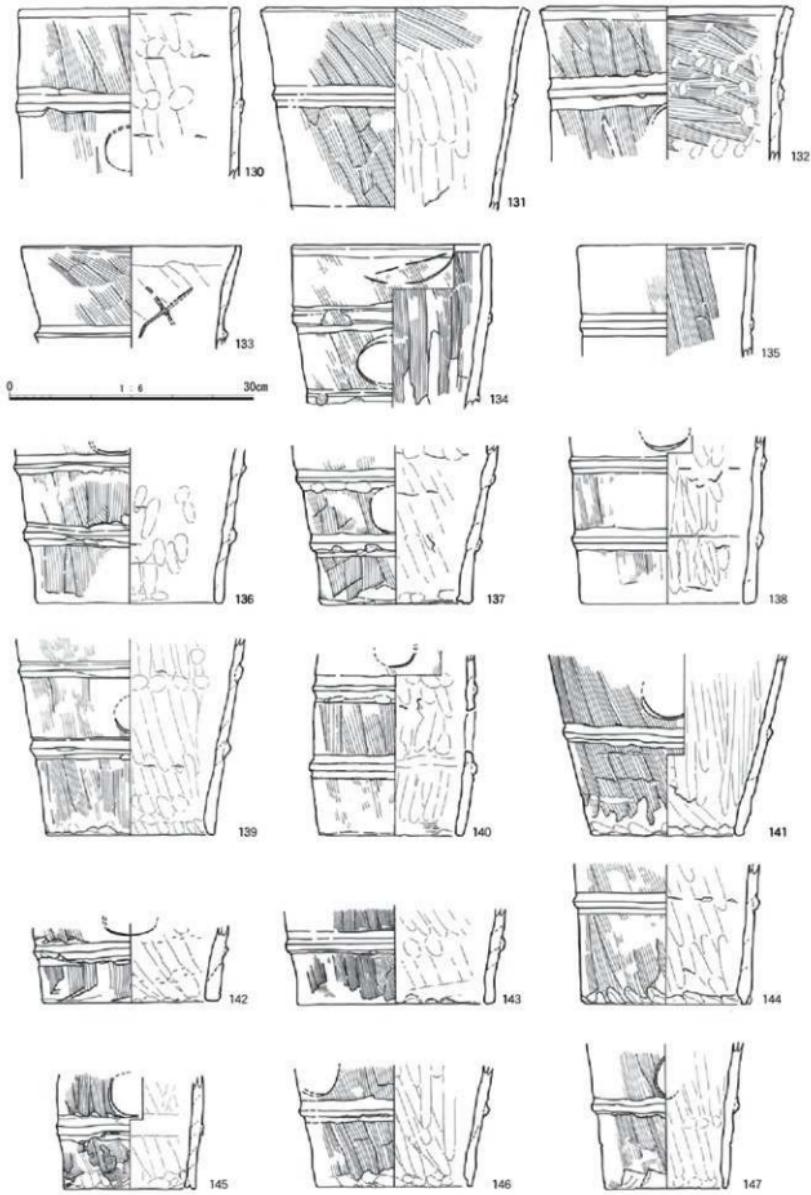


图52 平井遗址 第1次 3北区·3北区扩区 第1遣构面 257号窑(2号窑)出土埴輪実測図5(床面2)

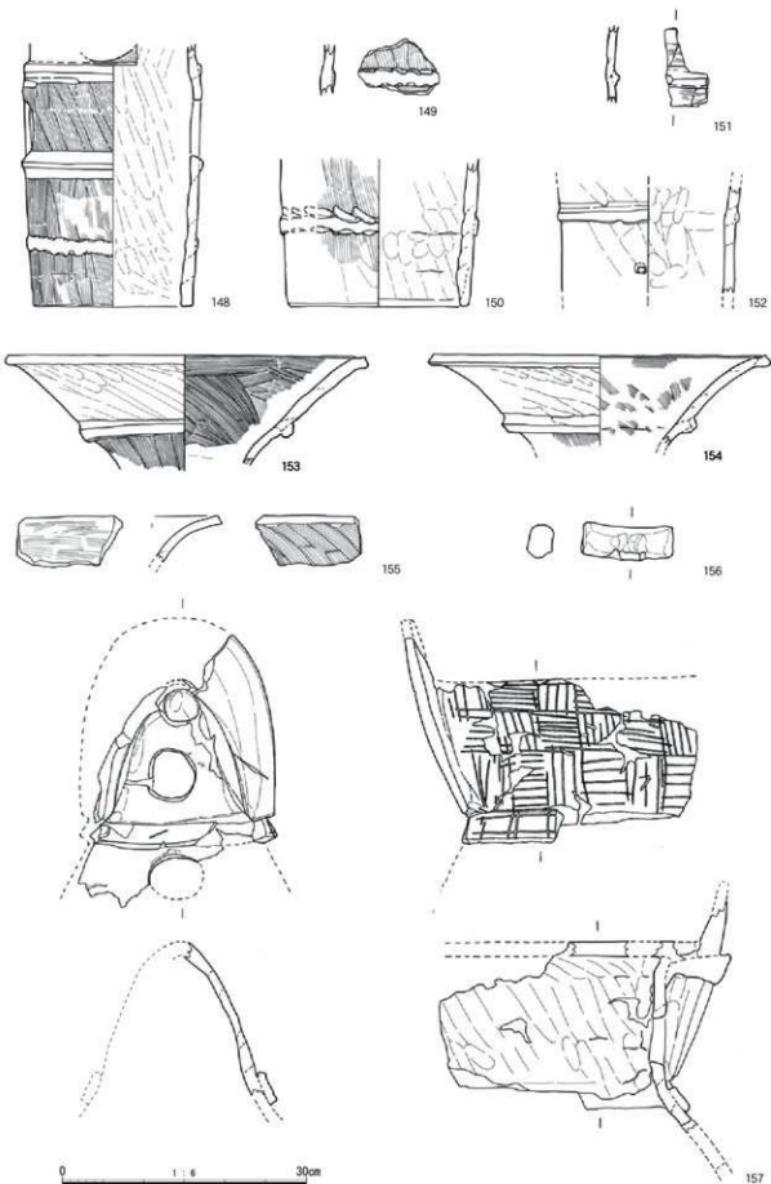
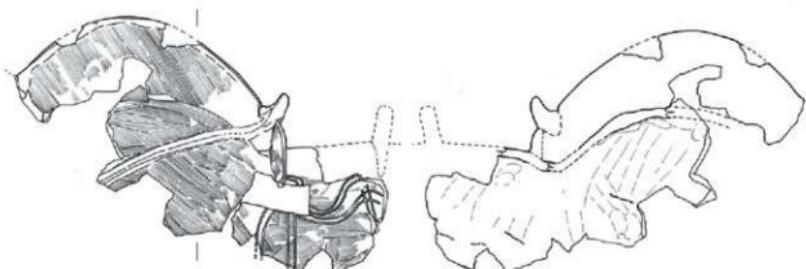
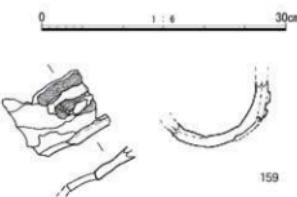


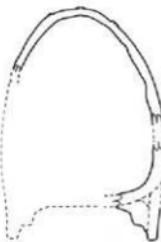
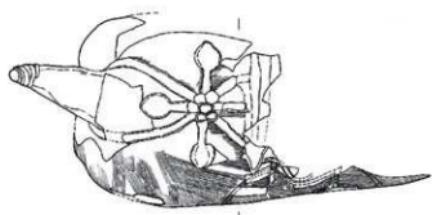
图53 平井遗路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1遗构面 257埴輪窯(2号窯)出土埴輪実測図6(床面2)



158

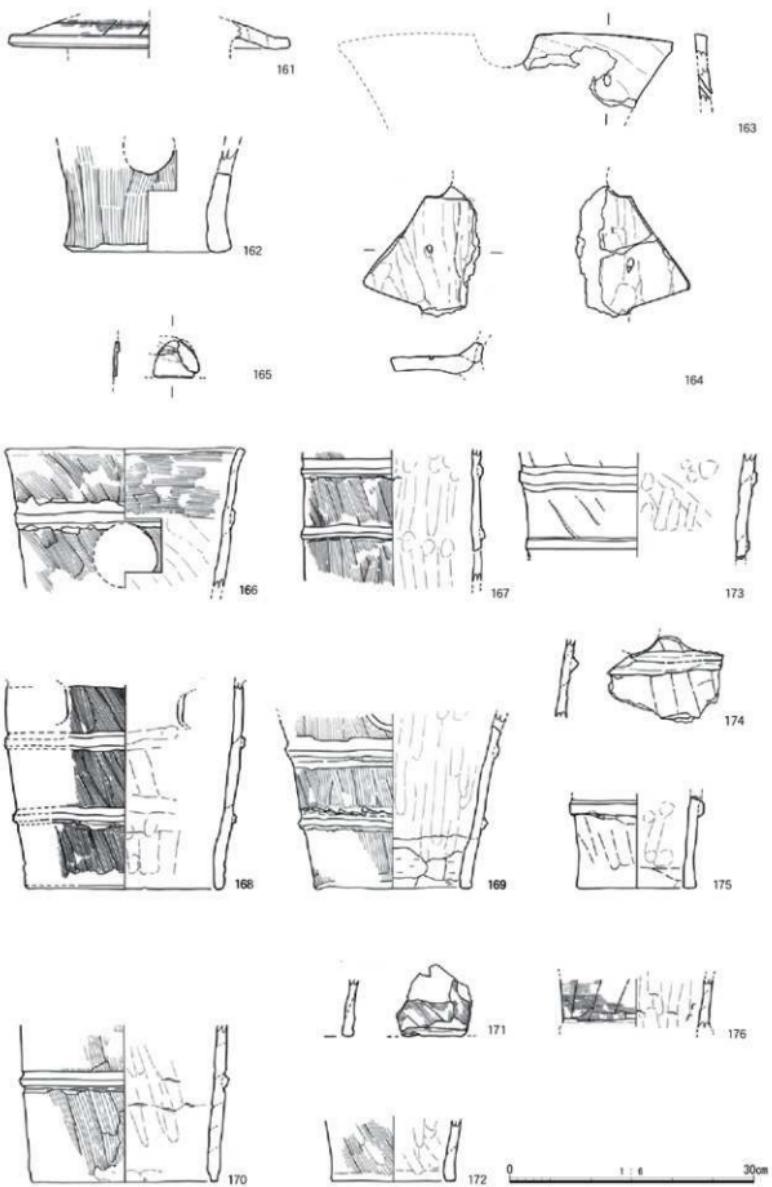


159



160

图54 平井遣路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1遣构面 257埴輪窯(2号窯)出土埴輪実測図7(床面2)



161~165: 床面 2, 166~176: 床面 3

图55 平井遗物 第1次 3北区·3北区扩张区 第1造槽面 257埴輪窯(2号窯)出土埴輪実測図8(床面2·3)

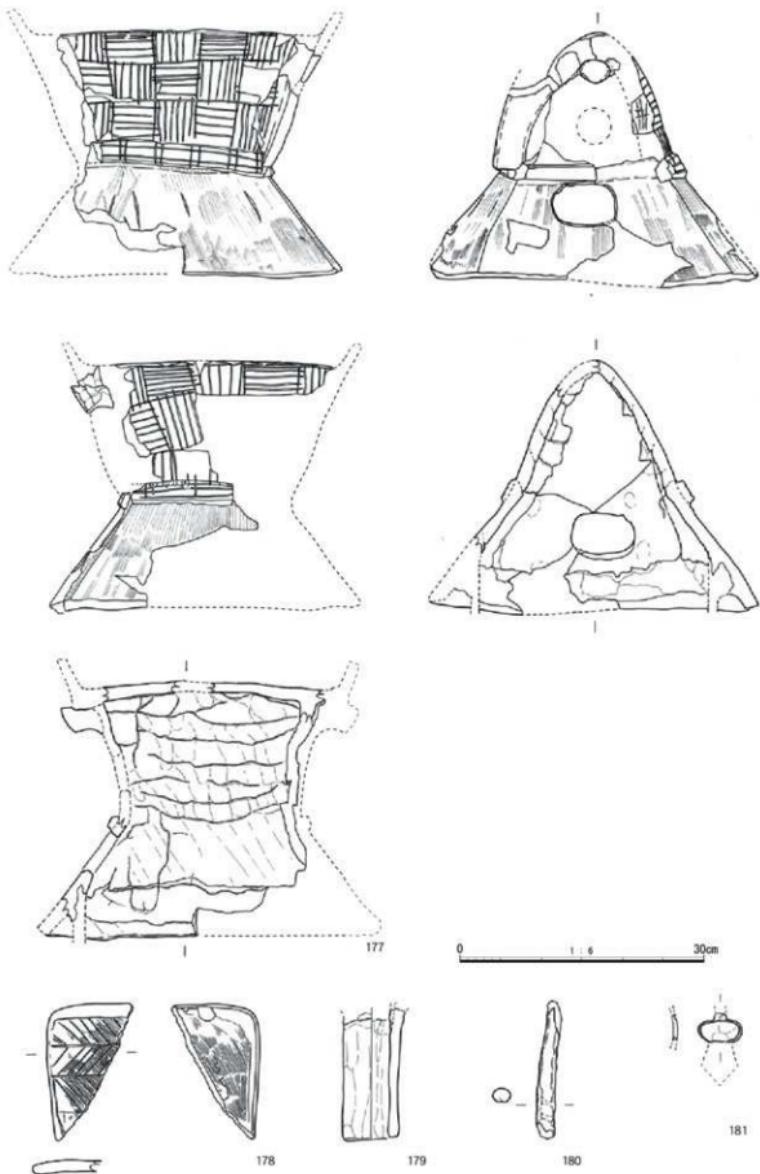
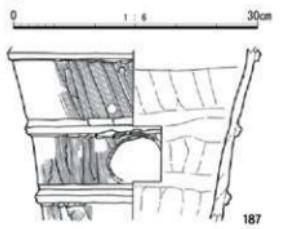
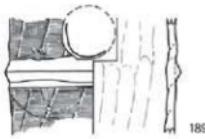
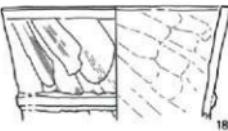
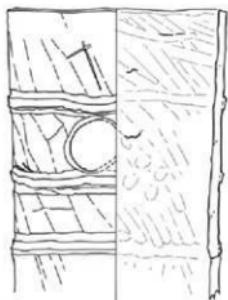
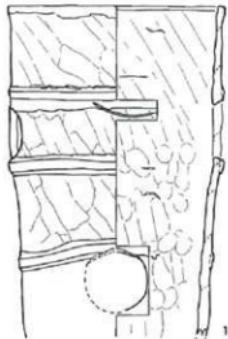
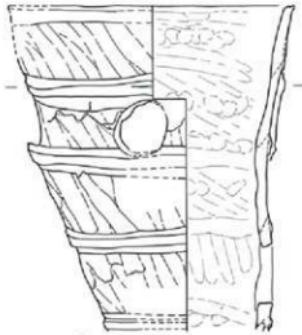
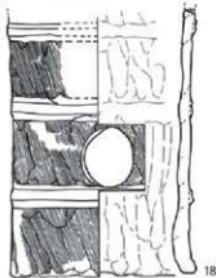
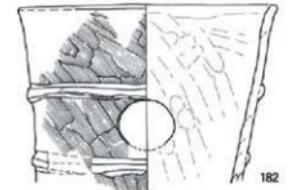


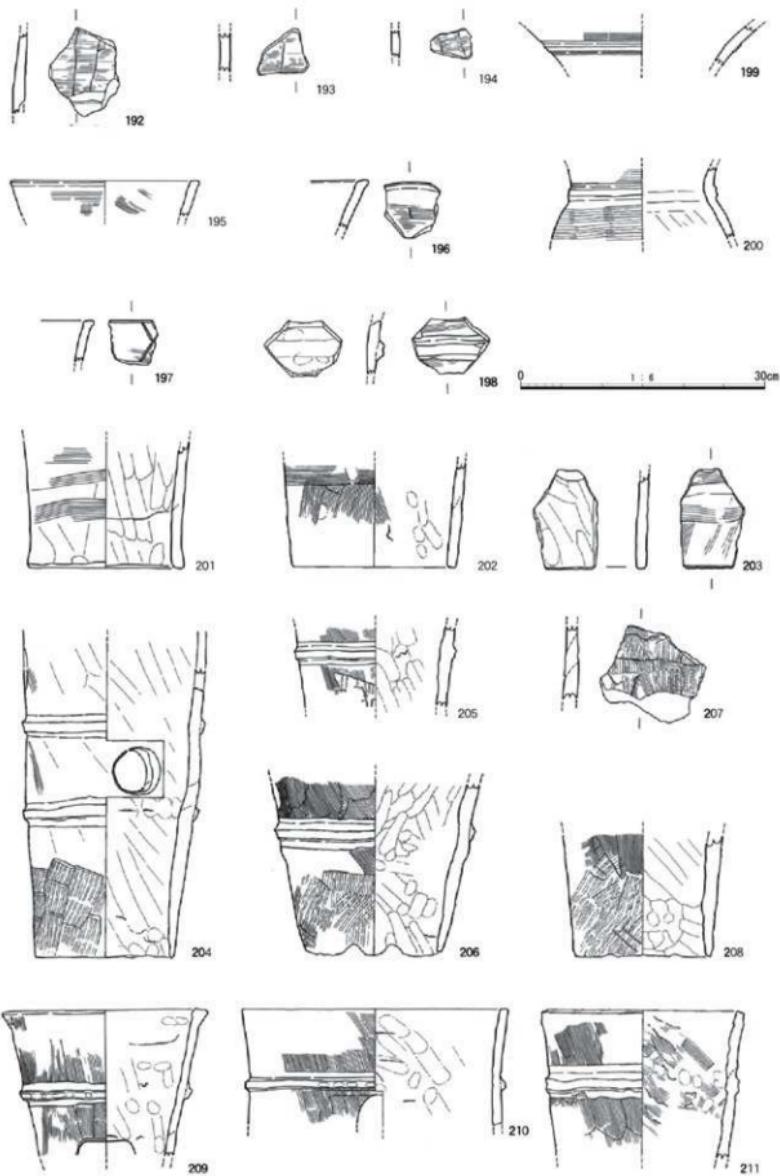
图56 平井遗路 第1次 3北区·3北区扩张区 第1遗构面 257埴輪窯(2号窯)出土埴輪実測図9(床面3)



0 1 : 6 30cm

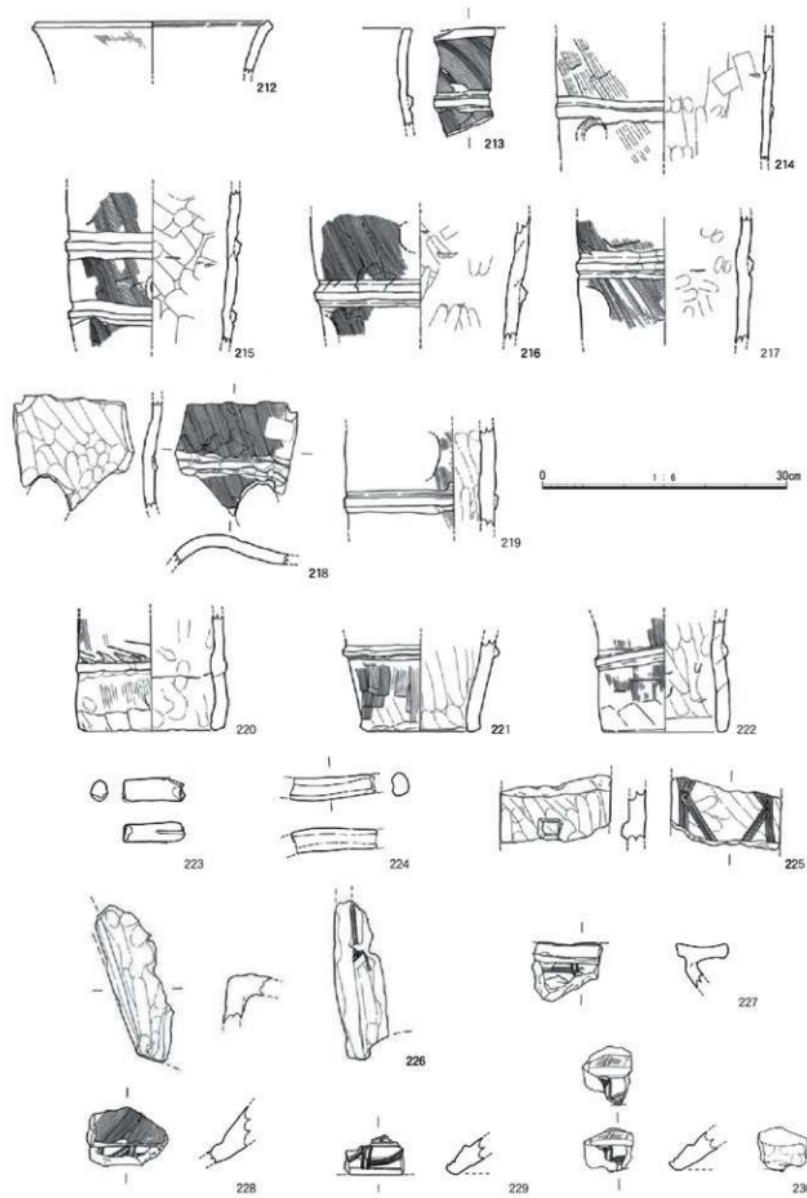
182~186: 床面4, 187~191: 床面5

图57 平井遗跡 第1次 3北区・3北区抜張区 第1造構面 257埴輪窯(2号窯)出土埴輪実測図10(床面4・5)



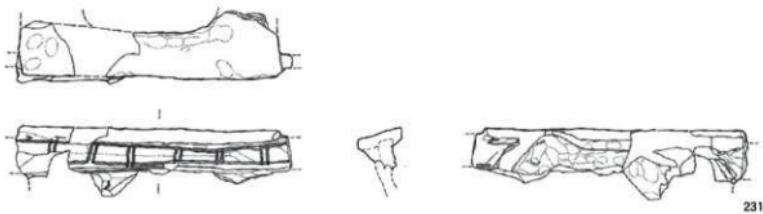
192~195·198~206·208~210:3北区、196·197·207·5北区、211:5東区

图58 平井遗跡 第1次 遗物包含層・他出土埴輪実測図1

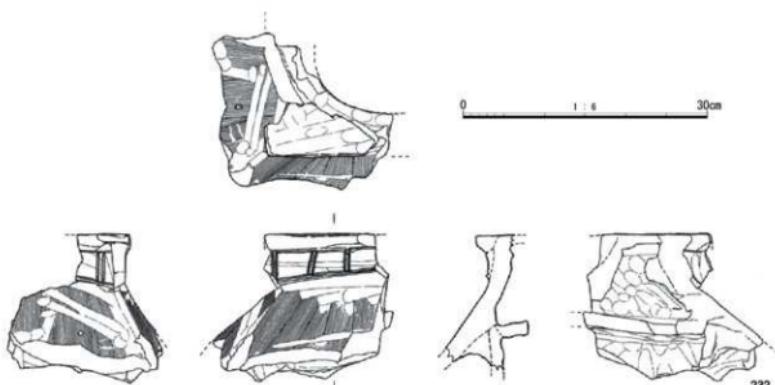


212·213·215~219·221·225·226:3北区。227:3北区拭纸区。214·220·228~230:5北区

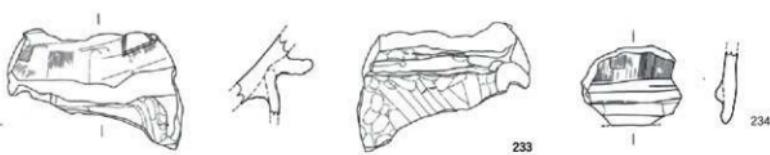
图59 平井遗路 第1次 遗物包含层·他出土埴輪実測図 2



231



232



233



235

236



237

238



239

240

231·233~236·238·240:3北区。239:3北区扩量区+5北区。232:3东区。237:5北区。

图60 平井遗路 第1次 遗物包含层·他出土埴輪実測図3

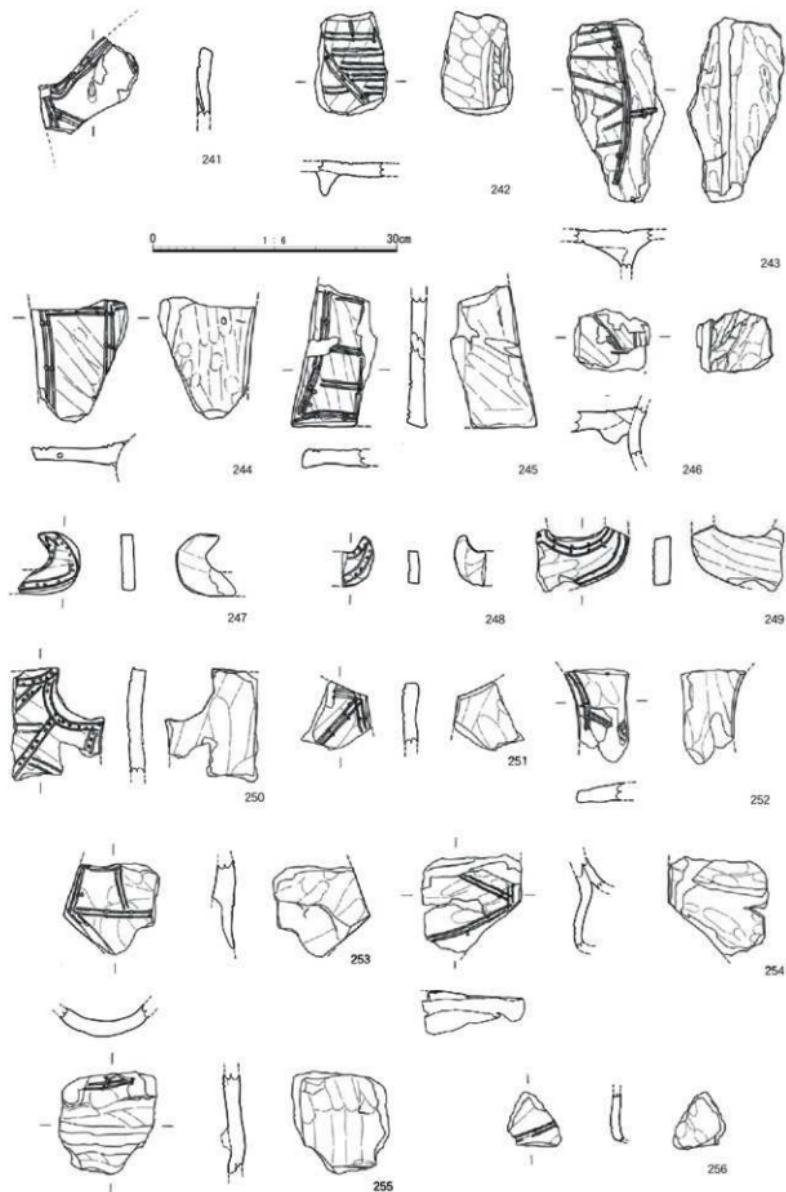
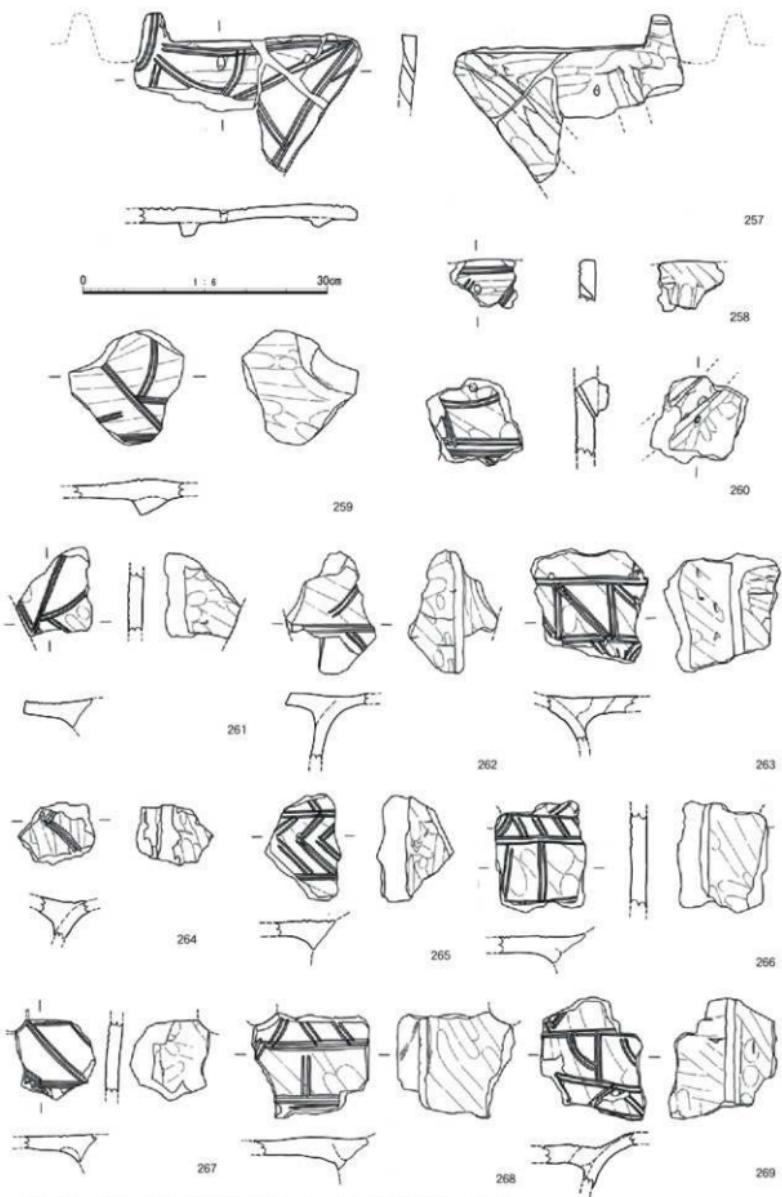
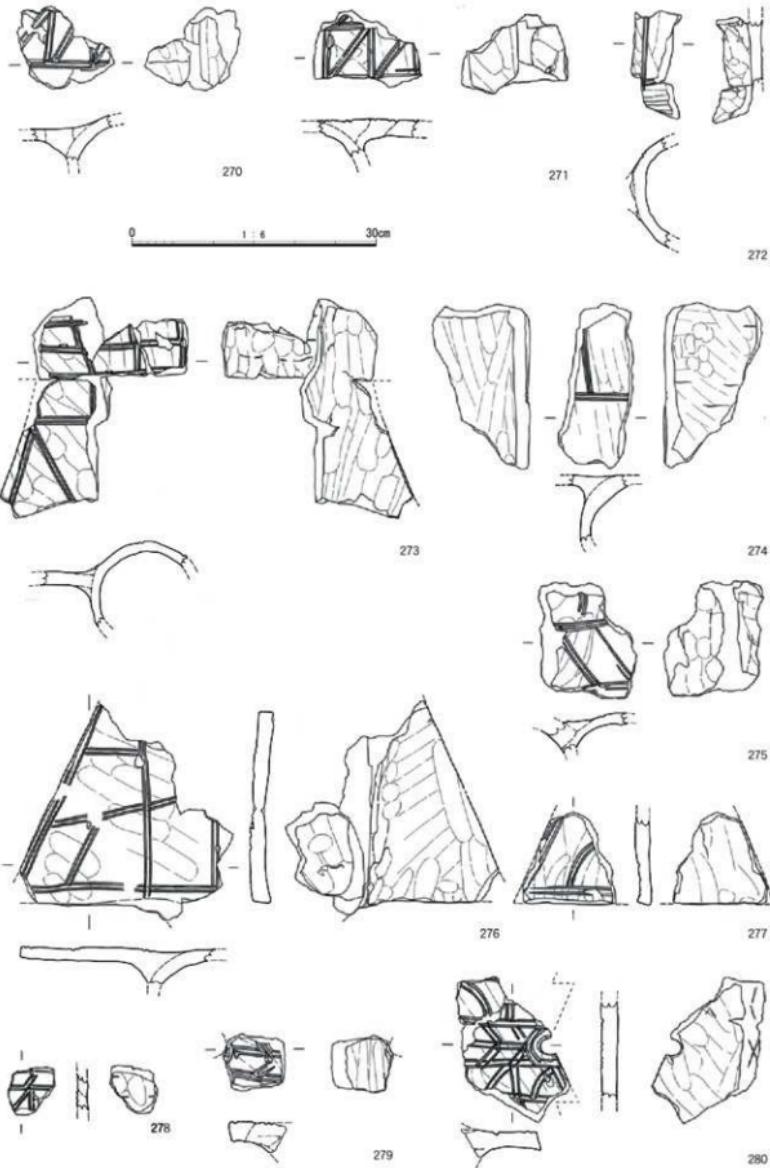


图61 平井遗址 第1次 遗物包含层·他出土埴輪実測図4



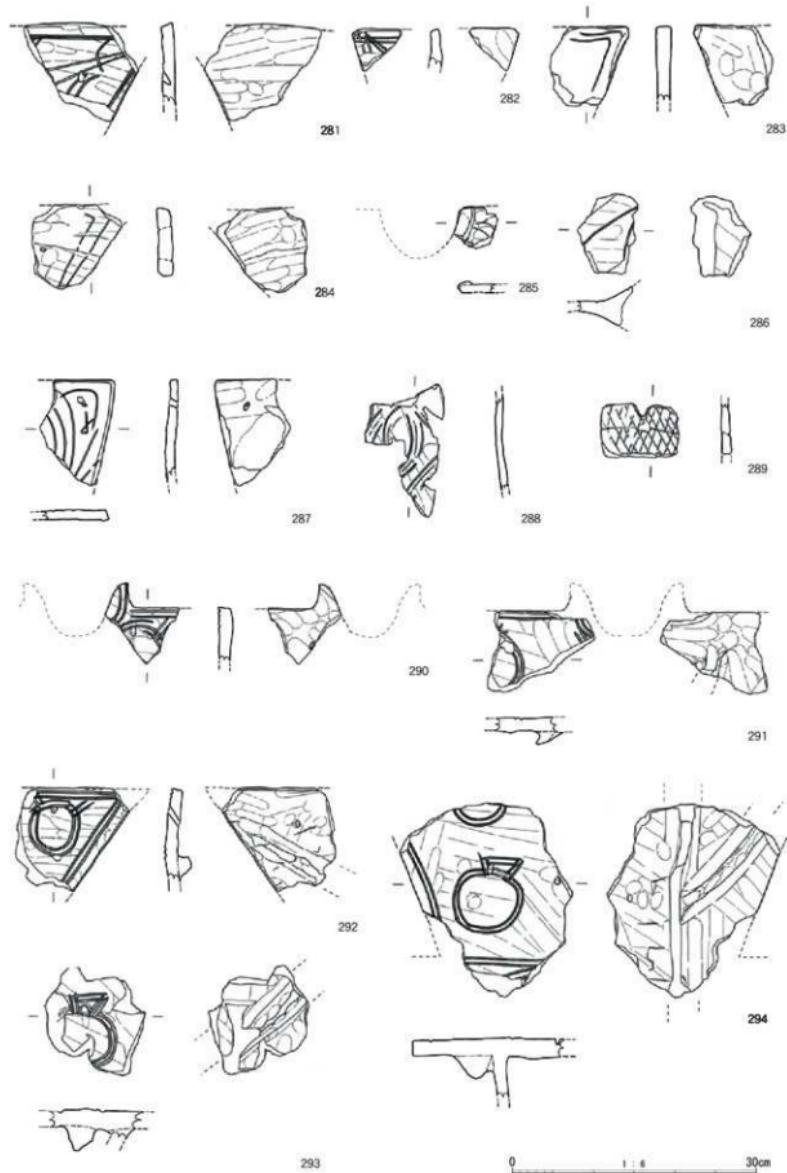
257·258·260·263·265·266·268·269:3 北区、259·261·262·267:3 東区、264:5 北区

图62 平井遗址 第1次 遗物包含层·他出土埴輪実測図 5



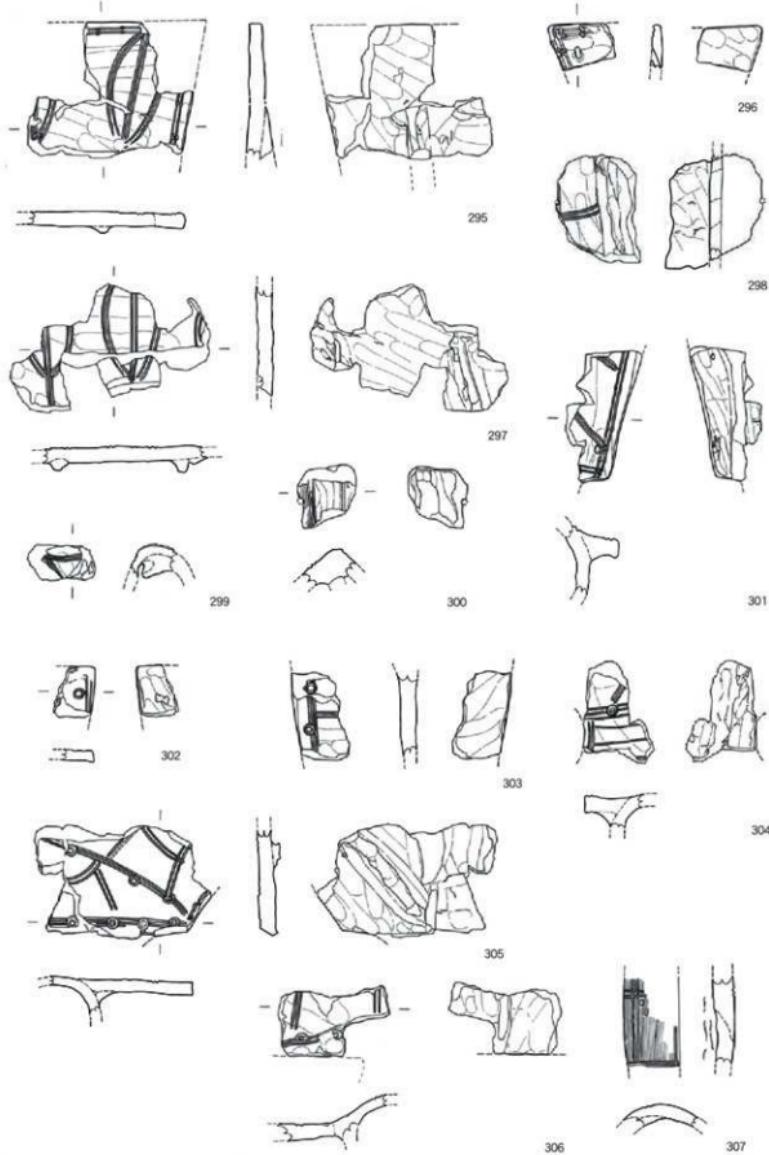
270~272·276~280:3 北区, 273~274:3 東区, 275:5 北区

图63 平井遗址 第1次 遗物包含层·他出土埴輪実測図 6



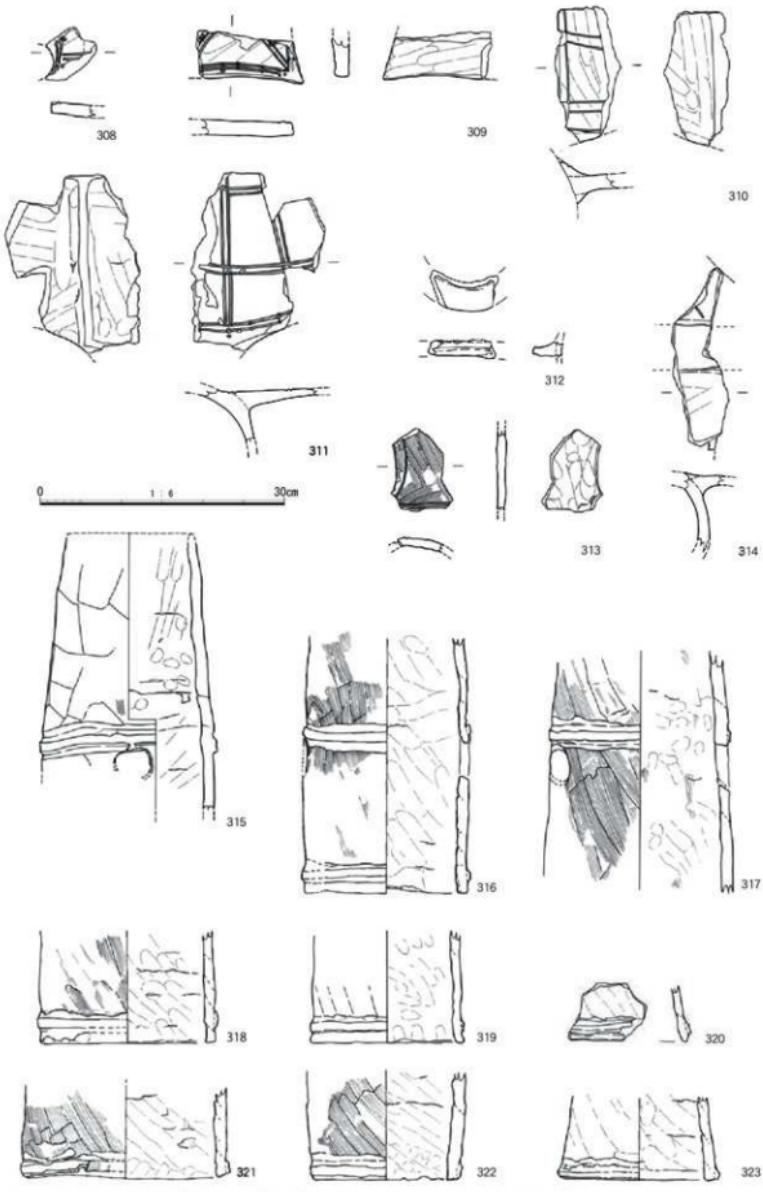
281~282·285·287~294:3北区, 286:3東区, 283·284:5北区

图64 平井遗踪 第1次 遗物包含层·他出土埴輪実測図7



298・299・302・304・306:3北区, 305:3北区+3東区, 295・307:3北区+5北区, 303:3北区+5区, 296・300:3東区, 297・301:5北区

图65 平井遗物 第1次 遗物包含层·他出土埴輪実測図 8



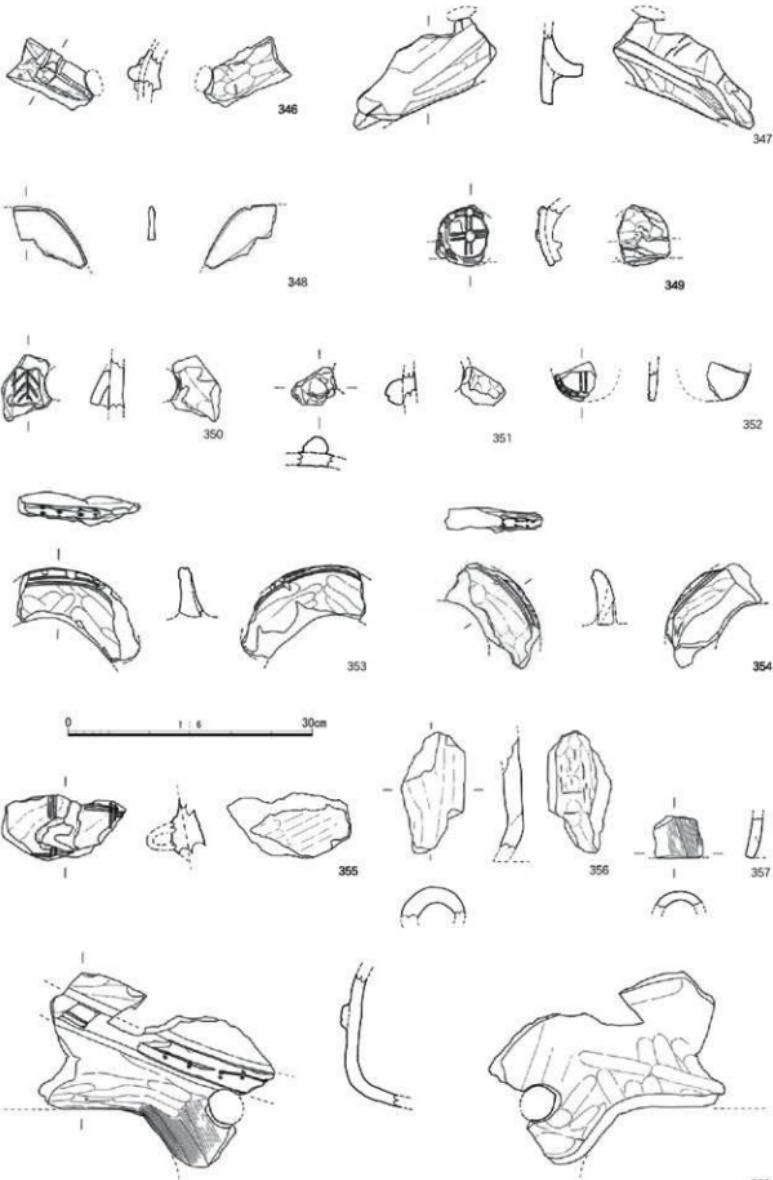
314~316·318~320·323:3北区, 311:3北区+3东区, 308~310·312·313·317·321·322:5北区

图66 平井遗路 第1次 遗物包含层·他出土埴輪実測図 9



325-327·329-330·332-335·336-338·339-344:3北区。324·326·331-333·342-343·345:5北区。328-340:5東区。  
337-341:2北区。334:耕土。

图67 平井遗物 第1次 遗物包含层·他出土埴輪実測図10



346~347~349~350~352~358:3 北区、356:3 北区扩强区、348~353~355:5 北区、351:5 区、357:2 北区

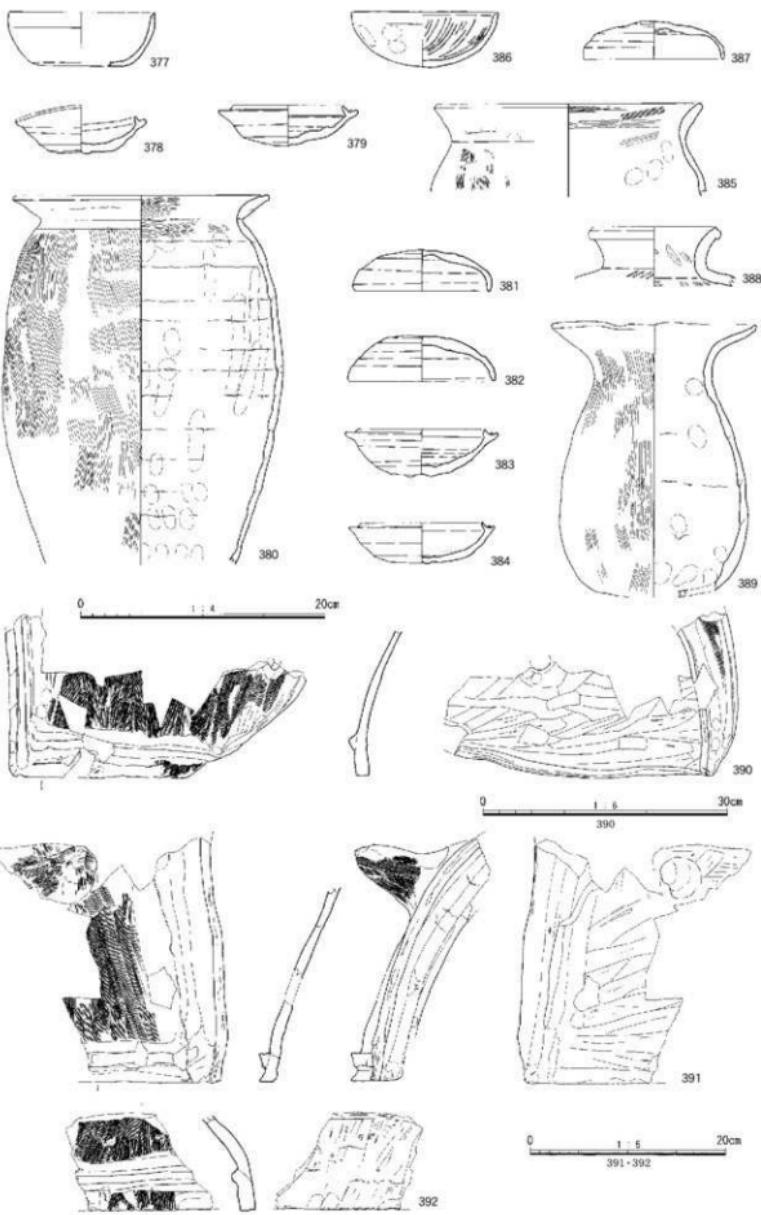
358

图68 平井遗路 第1次 遗物包含层·他出土埴輪実測図11



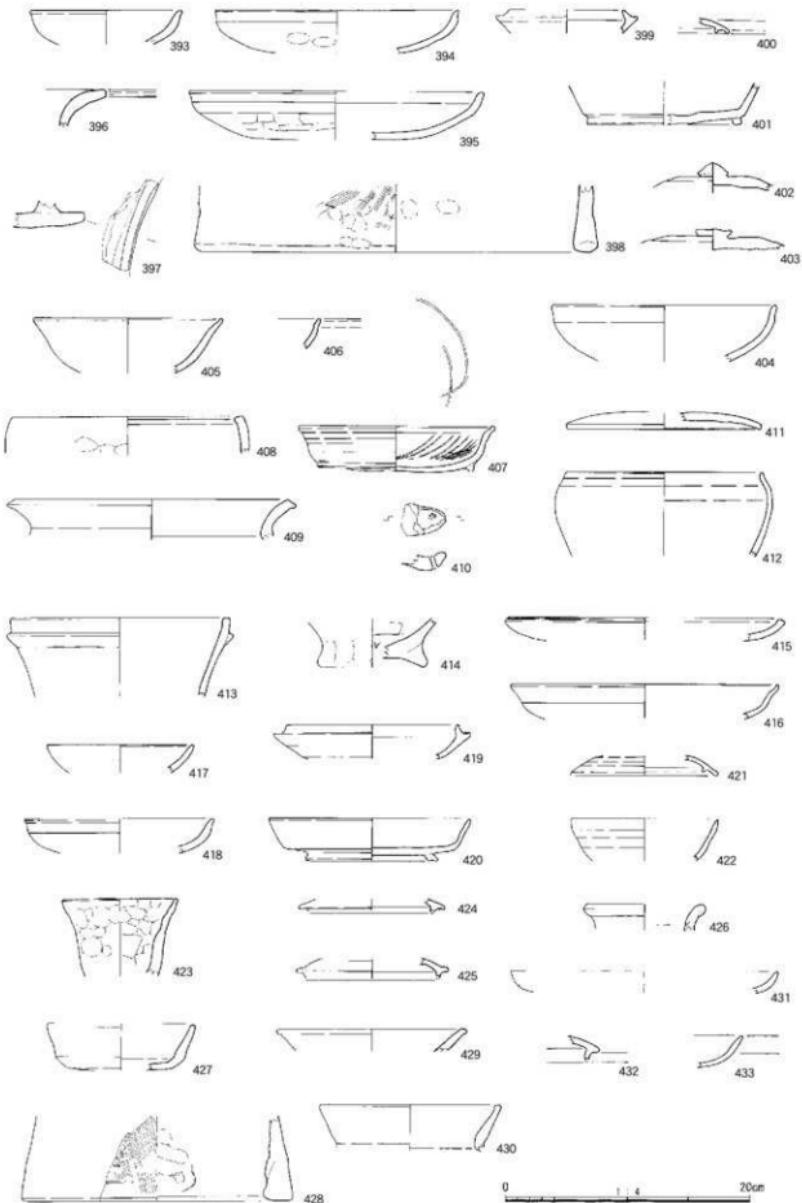
359-374: 排土。360-365・366-368-370-373: 第3次試掘確認調査2トレンチ第3層下層。361: 223土坑。362-364-376: 捣乱。  
363-375: 遺物包含層第3層。367-369-371: 172土坑。372: 遺物包含層第4層。

図69 平井遺跡 第1次 第1遺構面 遺構・遺物包含層・他出土陶棺実測図



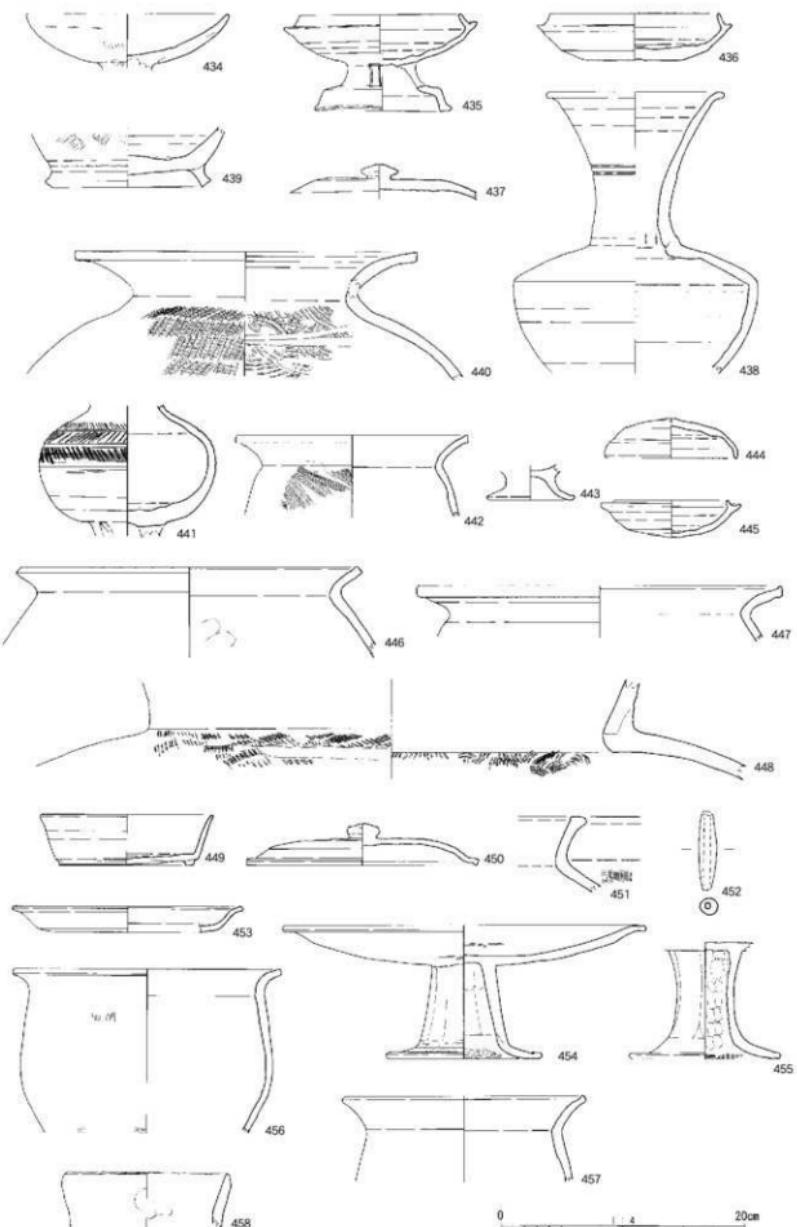
377~379:002横六式石室。380~384:260竖穴系小石室。385:260竖穴系小石室断面。386~387:257埴輪窓檢出面。  
388:222埴輪窓檢出面~基盤層。389:222埴輪窓檢出面~1燃焼部他。390~391:222埴輪窓檢出面~基盤層他。392:404土坑

图70 平井遗蹟 第1次 第1造構面 遺構・遺物包含層出土遺物実測図2



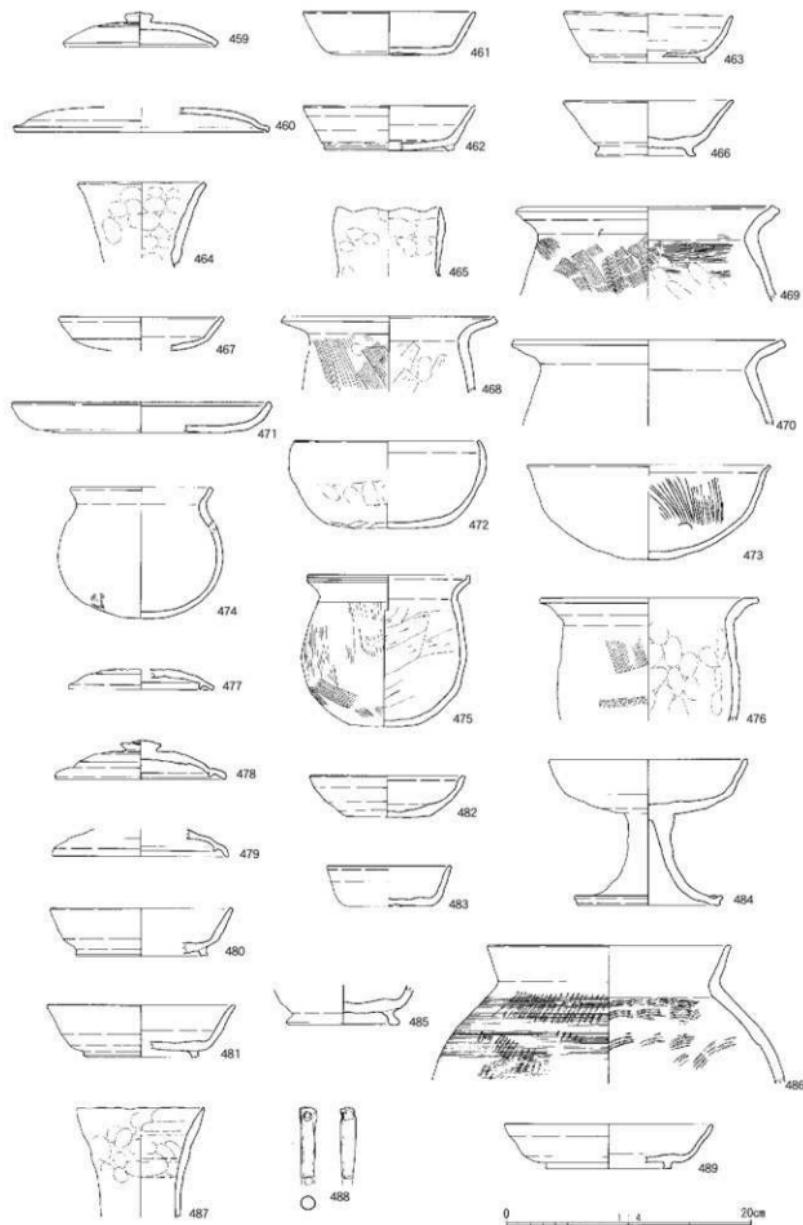
393~404: 挖立柱建物 1, 405~412: 挖立柱建物 4, 413~416: 挖立柱建物 5, 417~422: 挖立柱建物 6, 423~426: 挖立柱建物 7,  
427~428: 挖立柱建物 8b, 429~430: 挖立柱建物 9, 431~432: 挖立柱建物 10, 433: 挖立柱建物 11

图71 平井遺跡 第1次 第1遣構面 挖立柱建物柱穴出土遺物実測図



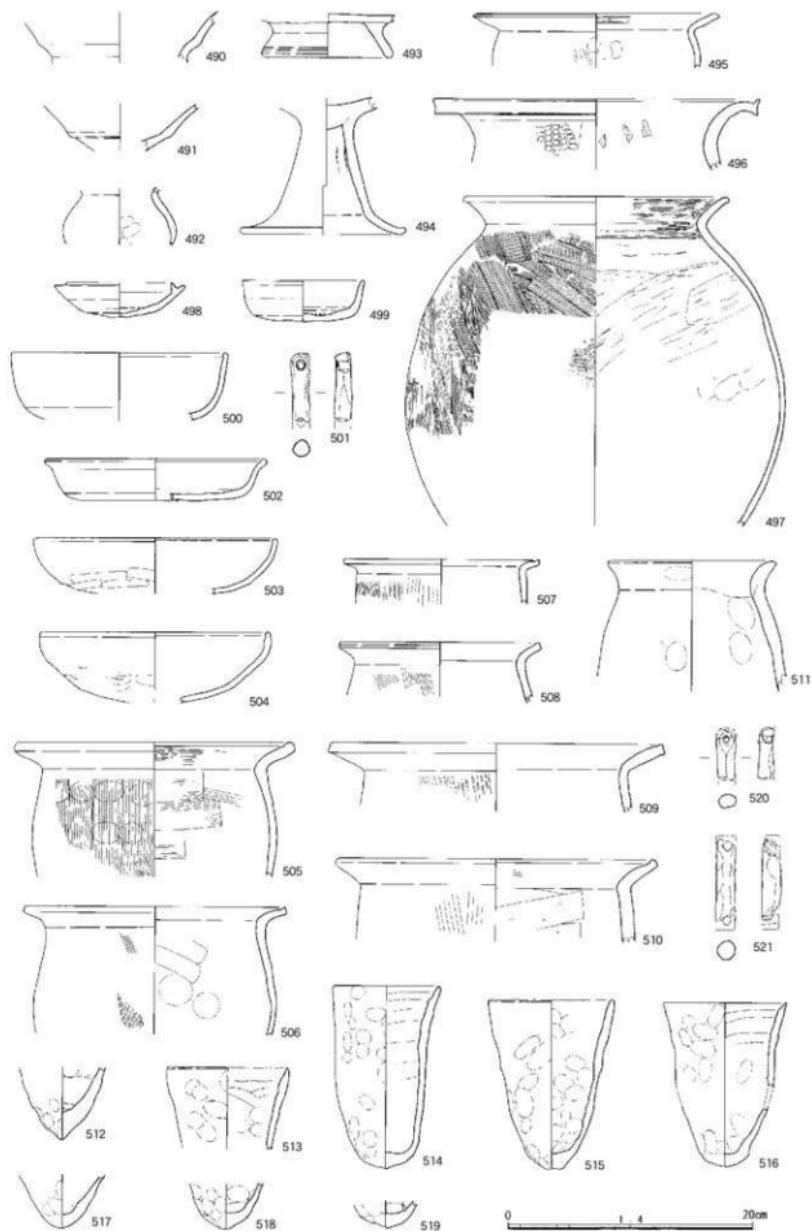
434～436: 105土坑, 437～440: 021土坑, 441: 223土坑, 442～445: 268土坑, 446: 301土坑, 447・448: 292土坑,  
449～452: 302土坑, 453～458: 303土坑

図72 平井遺跡 第1次 第1遺構面 遺構出土遺物実測図1



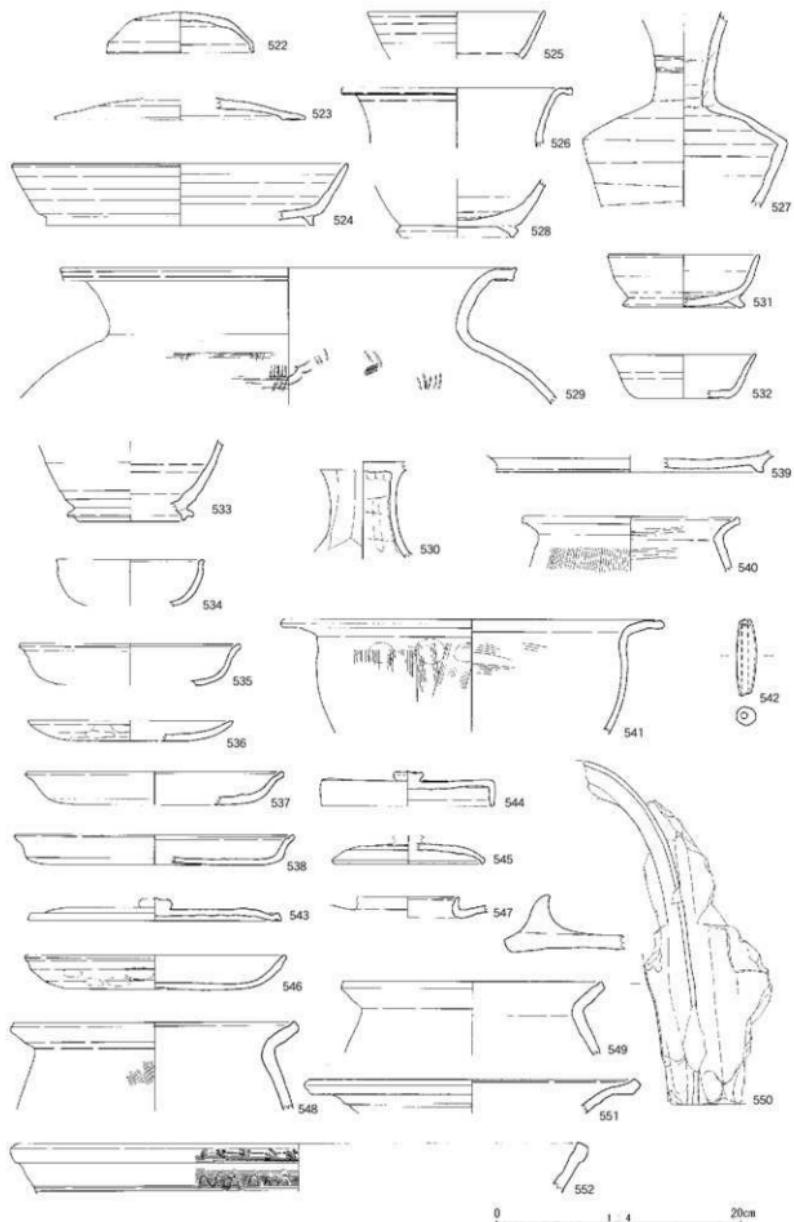
459~463:303 土坑, 464:315 土坑, 465:346 土坑, 466:309 土坑, 467~470:439 土坑, 471~486:458 土坑, 487:345 柱穴, 488:133 小穴, 489:159 小穴

图73 平井遗踪 第1次 第1遣構面 遗構出土遗物实测图 2



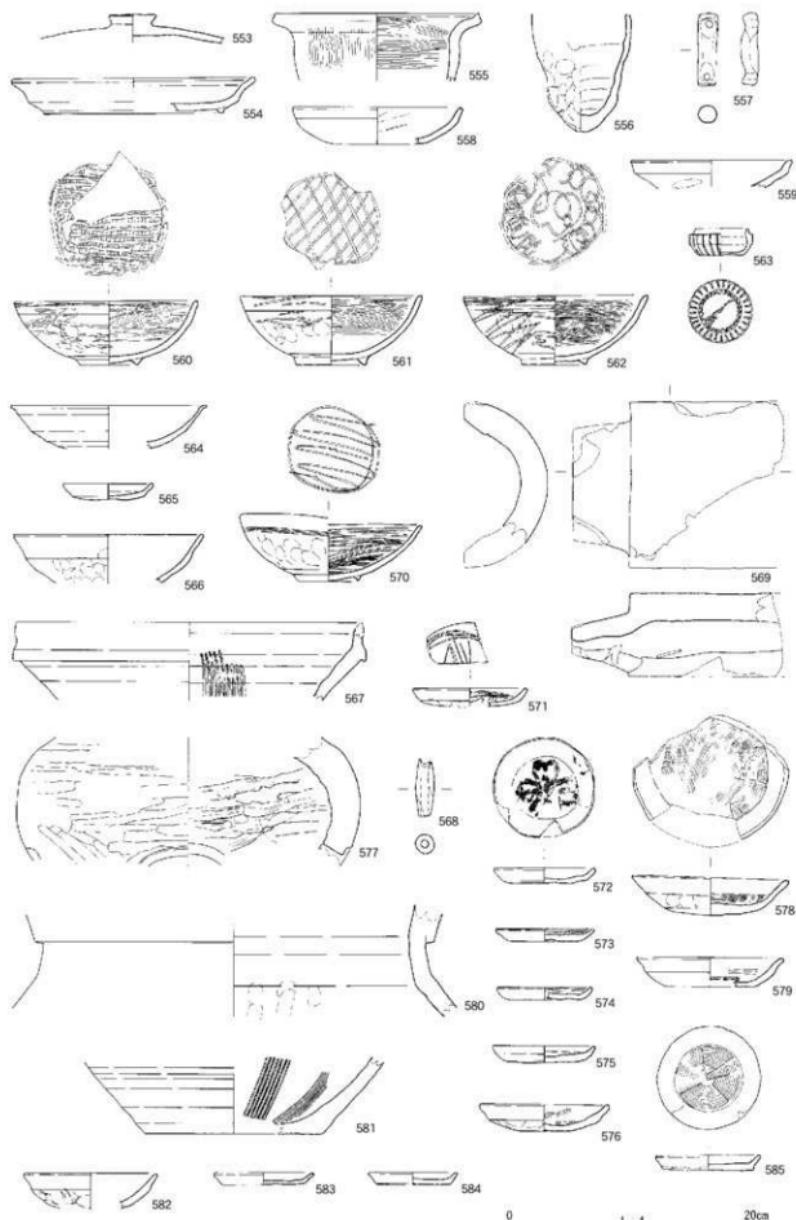
490~492:011溝, 493~496:008溝, 497~499:103溝, 500~501:157溝, 502~521:341溝

图74 平井遗址 第1次 第1遣構面 遣構出土遗物实测图 3



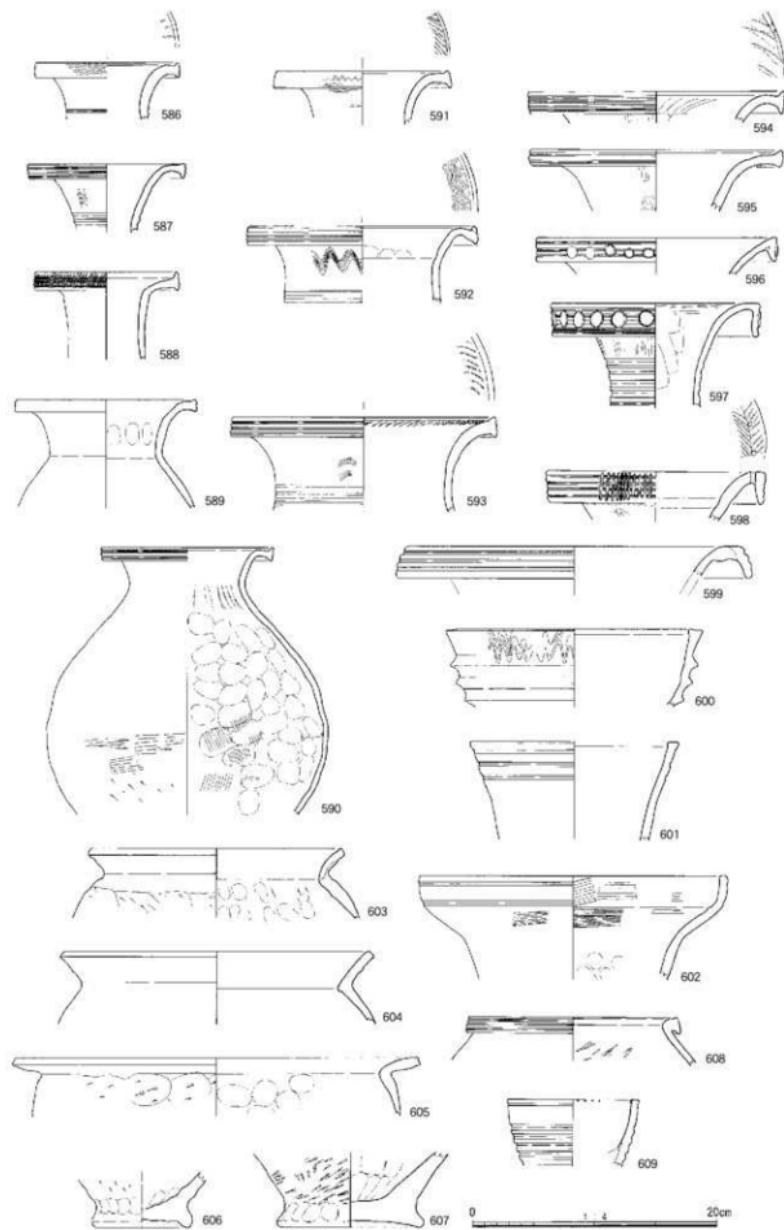
522～529: 341溝、530～532: 342溝、533: 341・342溝、534～545: 352溝、546・547: 665溝、548～552: 667溝

図75 平井遺跡 第1次 第1遺構面 遺構出土遺物実測図4



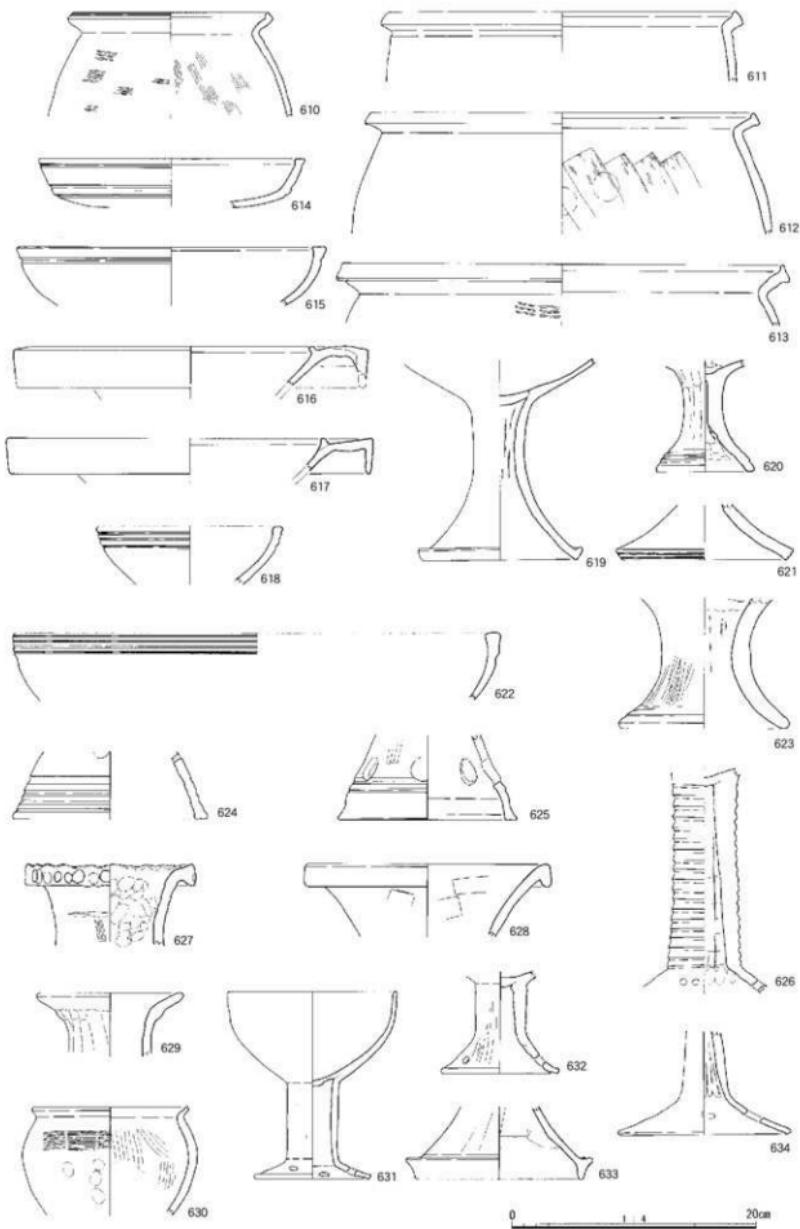
553～557: 353落ち込み、558～563: 229箇所、564: 426土坑、565～569: 上層遺構石密集帯、570・571: 292土坑内埋没、572: 062小穴、573～579: 029井戸、580: 136井戸、581: 137井戸、582・583: 206小穴、584: 081小穴、585: 583溝

図76 平井遺跡 第1次 第1遺構面 遺構出土遺物実測図5



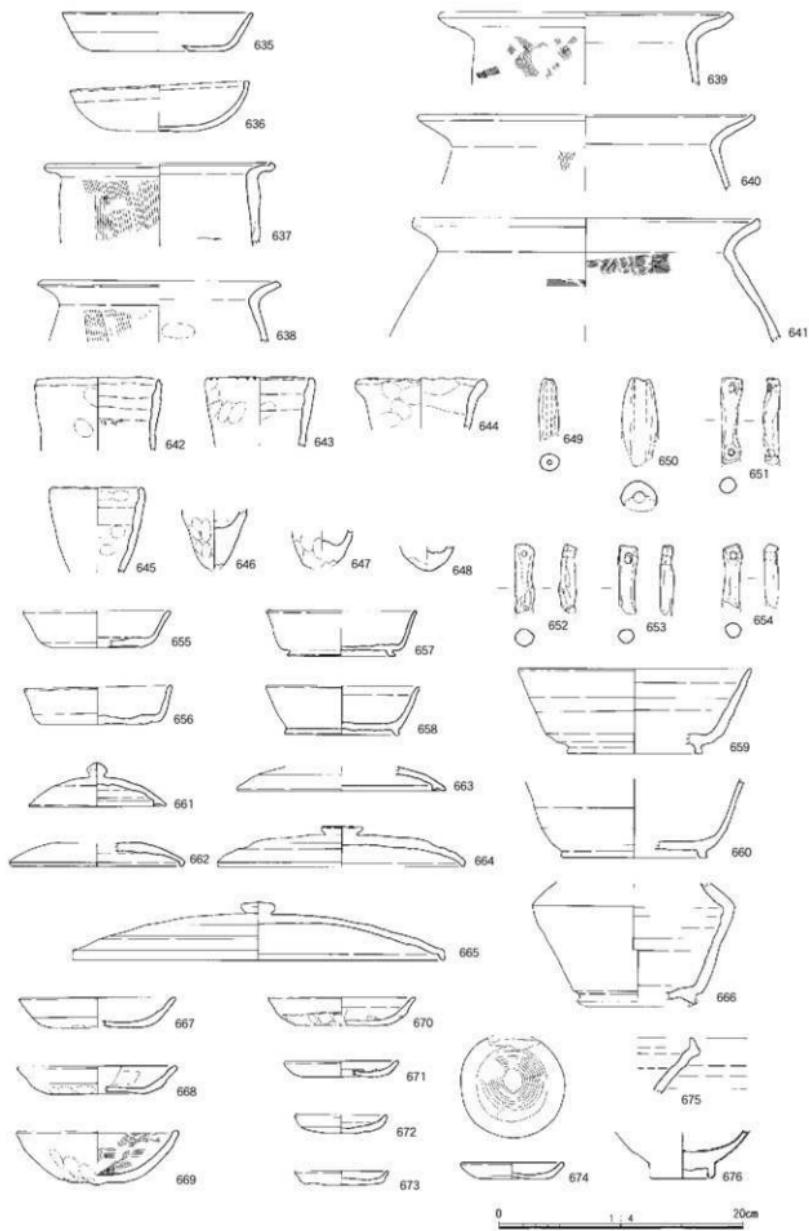
586～609：遺物包含層第4層

图77 平井遺跡 第1次 遺物包含層出土遺物実測図1



610～617・619～630・632～634：遺物包含層第4層、618：遺物包含層第5層、631：遺物包含層第4層より下

図78 平井遺跡 第1次 遺物包含層出土遺物実測図2



635～676：遺物包含層第4層

図79 平井遺跡 第1次 遺物包含層出土遺物実測図3

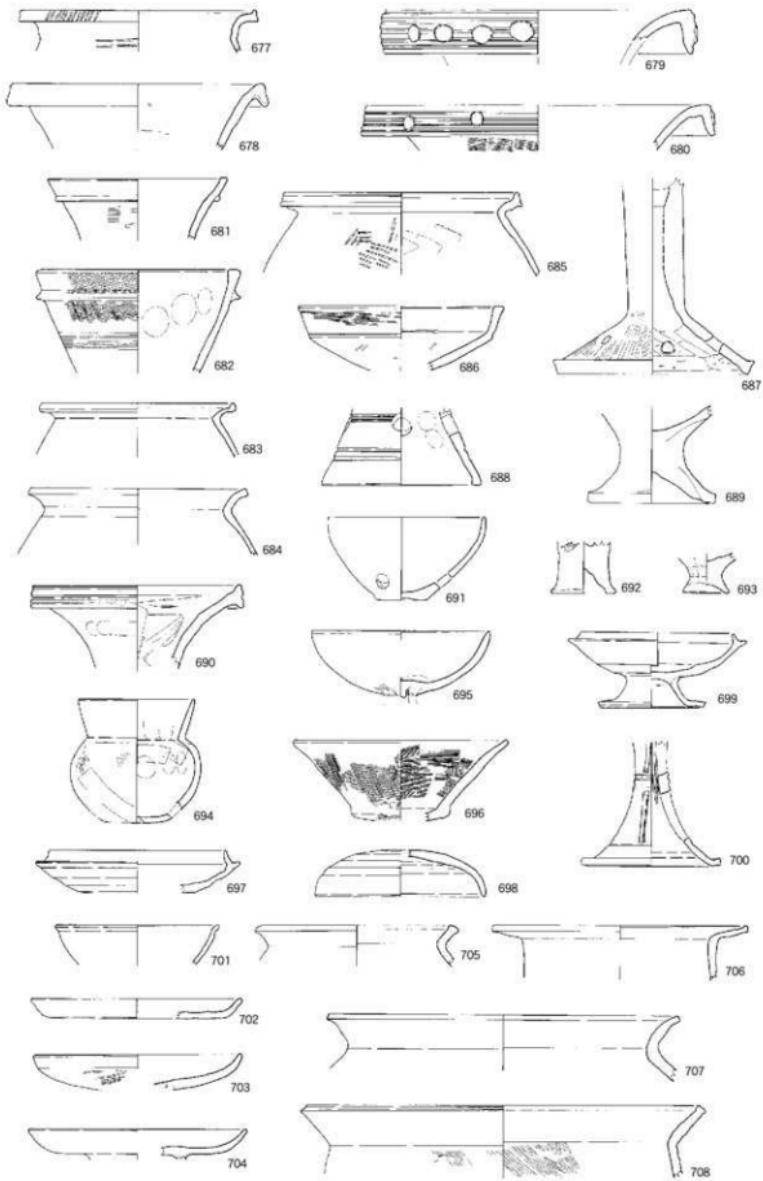
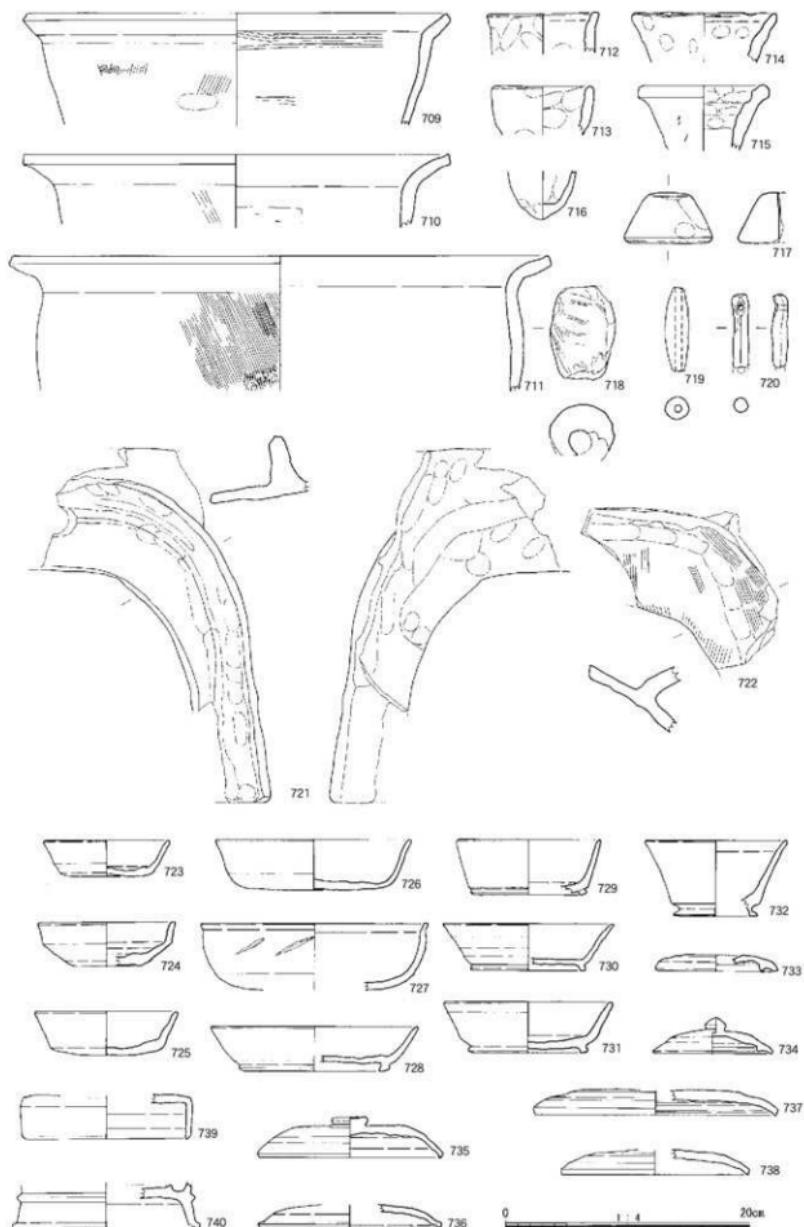
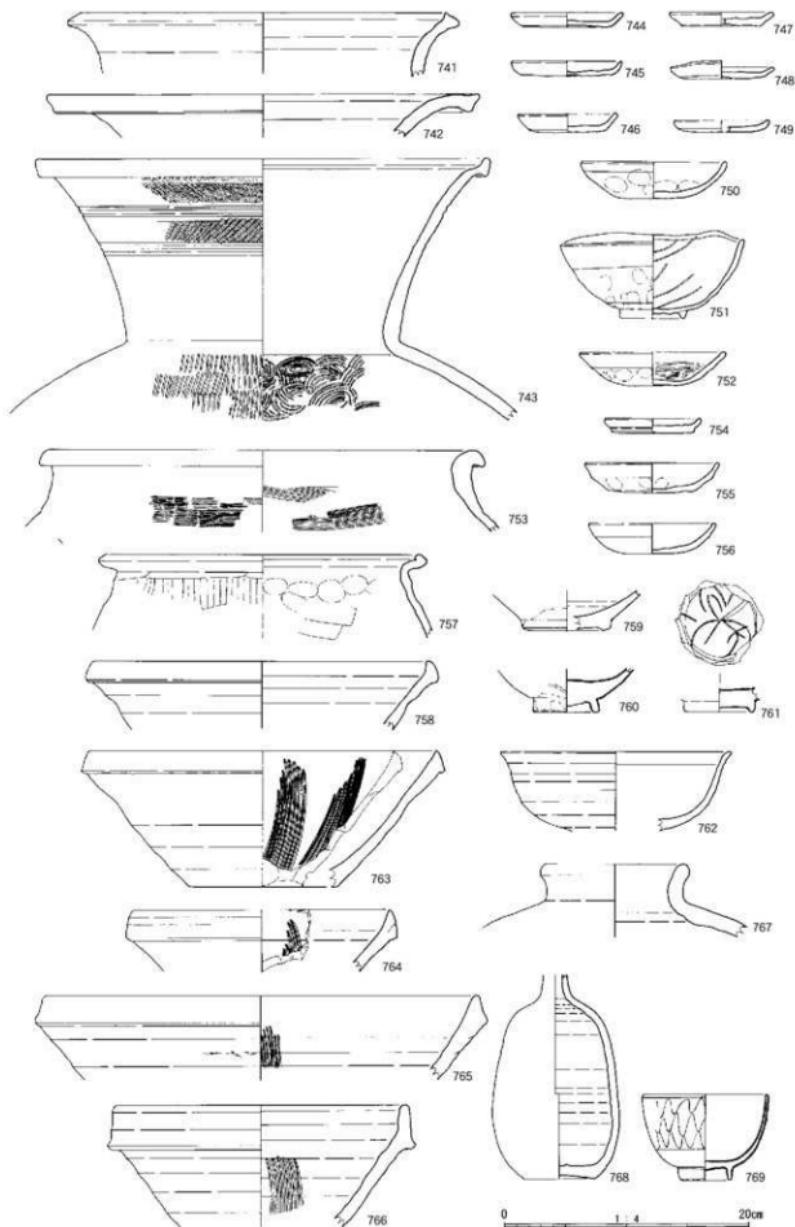


图80 平井遗址 第1次 遗物包含层·他出土遗物实测图1



709~715·717~719·722·724~727·729·731·732·734~736·739:遺物包含層第3層、716:調査区側溝、720~723·728·730~733·737~738:遺物包含層第3~4層、721:層位不明、732~740:耕土。

図81 平井遺跡 第1次 遺物包含層・他出土遺物実測図2



741~745·747~749·752·752·753·756~764·766·768·769:遺物包含層第3層、746·750·751:調査区側溝、754:遺物包含層第1·2層、755:遺物包含層第3·4層、765·767:耕土

#### 図82 平井遺跡 第1次 遺物包含層・他出土遺物実測図3

## 第2節 平井遺跡第2次調査の成果

### 1 第2次調査の概要

調査地は、丘陵裾から平坦地にかけて実施した。調査の結果、奈良時代および中世の遺構を検出した。奈良時代では土坑・柱穴、中世では地鎮遺構・土坑・溝・柱穴、近世では溝・池の排水施設・杭列等の遺構を検出した。また、出土遺物では、遺物包含層や奈良時代の土坑から製塙土器や埴輪片が少量出土した。

調査地では、中央の調査範囲外に現有の池が所在し、そのため調査範囲はこの池を挟んで大きく北と南に分断される状況となった。このため、第二阪和国道建設の本体工事の工程との兼合いもあり、調査地を本体工事の進入路設置範囲である北側から発掘調査に取りかかることとした。調査面積は、1,884m<sup>2</sup>である。

掘削は、表土から遺物包含層上面までを機械を用いて行った。但し、調査区の一部について遺物包含層の存在が認められなかったので、地表面から遺構検出面上の10cmまでを機械掘削し、それより下層を遺構面保護層とし、人力で遺構検出面まで掘り下げた。遺構面保護層掘削後に遺構を検出し、遺構を掘削した。

特に、今回の調査地は地形的に傾斜地ということや、堆積土が大層厚い盛土で覆われていたので、調査区の要所々々に土層観察用の畦(セクションベルト)を残して調査を進めた。このことにより表土、盛土、崩落土、遺物包含層、基盤層の区別が明瞭に確認できた。特に調査地の中央には池があったため、この池に関わる築堤土は一目瞭然となった。遺構検出面は池を挟んで北と南で比高がつき、調査の便宜上、北側を上段、南側を下段と呼称した。

### 2 基本層序と遺構面

上段の土層の堆積状況は、137土坑を挟んで東側と西側では大きく異なる。東側では上層から表土(第1層)、水田もしくは畑地の耕作土が2時期以上(第2層)、その下層は中世遺物包含層(第3層)となり、以下基盤層となる。また、西側は調査区の北端が丘陵裾のため急傾斜地となり、上層から表土(腐食土)、岩盤礫の碎粒を含んだ崩落土もしくは整地土、その下層は基盤層となる。基盤層は一部岩盤層となる箇所も見受けられる。

主に東側で検出した中世遺物包含層(第3層)には、中世の遺物は勿論のこと、須恵器、埴輪等の古墳時代の遺物も少量ながら包含されていた。

下段の基本層序は、上層から表土、盛土(池の築堤)、中世遺物包含層(第3層)、基盤層となる。池築堤の際の盛土には、池を掘削した時の中世遺物包含層(第3層)がブロック状に混在している。この層には中世遺物がかなりの量で含まれていた。

### 3 各遺構の調査成果

#### (1) 検出遺構と出土遺物(図83~91・147・148、写真図版21~25・92・93・108・110)

調査地は、北から南に緩やかな傾斜地となる丘陵裾から平坦地である。調査地の中程には現有の池が存在し、そのほとんどが埋没状態となっている。

以下、主要な検出遺構及び堆積土層について記述する。

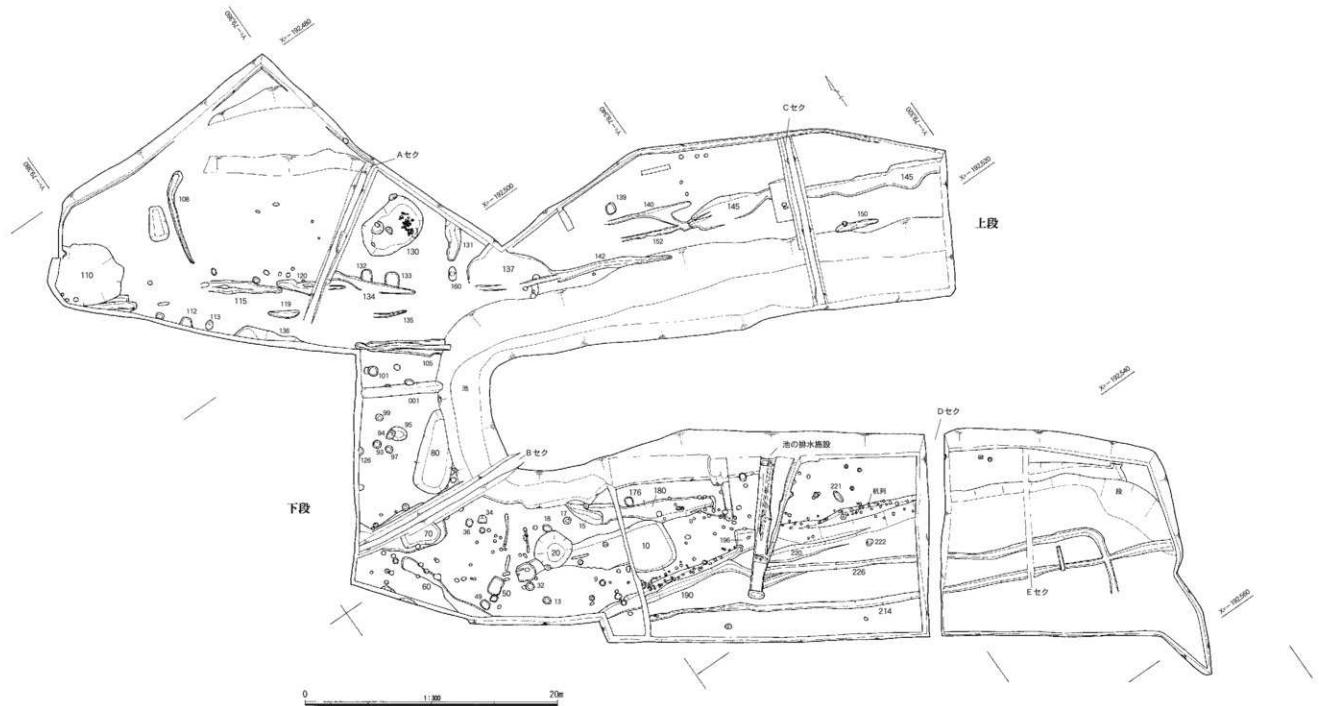


图83 平井遺跡 第2次 遺構全体平面図

## 上段の遺構

この地区で検出できた遺構は、土坑、溝、柱穴・小穴などである。

遺構を検出したのは、標高約11.0～11.6mの基盤層上で、東から西に高くなる。なお、上段の南側は現有の池の掘り込みによって搅乱されていた。

### 130土坑(図84・89・90・148、写真図版23・92・93・110)

130土坑は、137土坑の北西に隣接して位置する。平面規模は、長軸(東西)5.14m・短軸(南北)3.52mの歪な楕円形を呈する。残存の深さは、中心部の最も深い箇所で約0.72mを測る。基底部は、凹凸が著しいものの、概ね浅いU字形を呈する。堆積土はレンズ状の堆積を呈し、大きく3層に分けられる。上層は10YR5/1褐色シルトに径0.5～1cm大の軟質岩の碎粒が混ざる。中層は10YR5/1褐色シルトに径0.5～2cm大の軟岩碎粒が1～2%混ざる。下層は10YR4/1褐色で土質は中層と同様である。130土坑からは遺物収納コンテナ10箱分の遺物が出土した。遺物は、4層の上方から最も多く出土した。

遺物は、弥生時代と考えられる磨石・石皿・砥石と奈良時代の土師器坏(770～773)・皿(774～777)・高坏(778～779)・鉢(780)・甕(781～783)・製塙土器(784～793)、有孔土錐、須恵器坏(794)・広口壺(797)・短頭壺(800)・鉄鉢形鉢(796)・融着の著しい甕(799)、埴輪、砥石(1396)などがある。時期的には、弥生時代の遺物と奈良時代の遺物が混在して出土したが、奈良時代の廃棄土坑と考えられる。

### 137土坑(図90、写真図版21)

137土坑は、調査区の上段中央に位置する。遺構として扱ったが、北側の尾根筋の狭間の浅い谷状地形の延長と考えられる。断面形は緩いV字状となる。堆積土は、大きく2層に分層でき、上層は10YR5/1褐色シルト、下層は10YR7/1灰白色シルトに黄橙色の軟質岩粒を多量に含む。

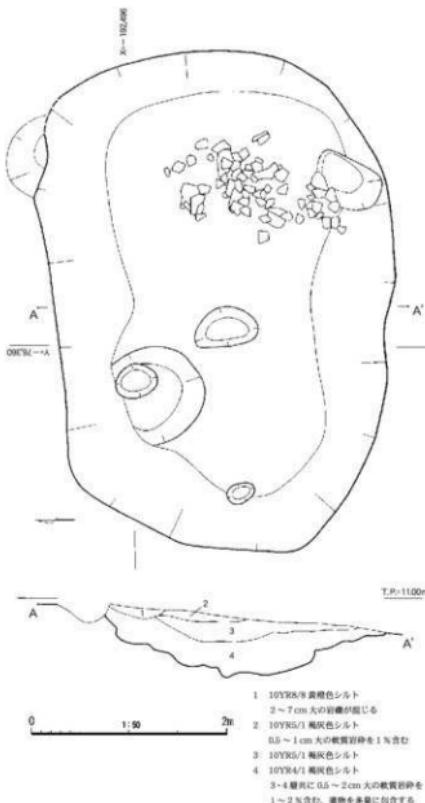


図84 平井遺跡 第2次 7区 130土坑実測図

遺物は、鎌倉時代の瓦器椀(819)、須恵器細片が少量出土した。

#### 115溝(図83、写真図版21)

115溝は、上段の西端南側に位置する。検出延長約10mを測り、両側は途切れ不明である。深い箇所だけが残存した状況である。平面規模は、幅は0.6~1.0mを測り、残存の深さは0.05~0.1mと浅い。

遺物は、鎌倉時代の瓦器椀が出土した。

#### 134溝(図83、写真図版21)

134溝は、調査区の上段中央西寄りに位置する。溝は途切れているが、方向性や規模から判断すると、東側で検出した142溝と同一の溝の可能性が高い。検出延長は、6.5m、幅は0.6m、残存の深さは最も深い箇所で0.18mである。

#### 145溝(図83、写真図版21)

145溝は、調査区の上段東側の緩い傾斜地上に位置する。溝は緩傾斜地に並行して東西方向に延び、検出延長は約30mを測る。幅は0.8~2.0m、残存の深さは0.10~0.14mと浅く、検出面では北側と南側では0.30~0.40mの比高が付く。堆積土は、10YR6/2灰黄褐色シルトに10YR7/8黄橙色の0.5~1cm大の軟質岩粒を含む。

遺物は、鎌倉時代の瓦器椀が微量出土した。

他にも、上段の東側緩傾斜地では、溝状遺構(遺構140・遺構142・遺構150・遺構152)を検出したが、145溝と同様な検出状況である。

#### 110落ち込み(図90、写真図版21)

110落ち込みは、調査区の上段西端に位置する。遺構扱いにしているが、遺物包含層が西側に落ち込んでいるだけの状況の可能性が高い。平井遺跡第1次調査区に続く。本調査区で検出した平面規模は、約5.0m×6.0mで、残存の深さは0.1~0.2mを測る。堆積土は、5YR3/1黒褐色シルトの單一層である。

遺物は、奈良時代の土師器甕・須恵器甕(808)、埴輪片が微量出土した。

### 下段の遺構

下段で検出した遺構は、中世のものがほとんどである。他に奈良時代と考えられる土坑・柱穴・杭列、近世の溝などがある。遺構を検出したのは標高約7.4~7.6mの基盤層上である。

池の築造時期は、盛土や中世遺構面上に掘られた池の底樋を埋設した掘削坑から18世紀と考えられる近世磁器が2点出土していることから、この時期あるいはこれ以降と考えて妥当と思われる。

#### 176土坑(地鎮遺構)(図85・90、写真図版25・93)

176土坑(地鎮遺構)は、180溝に重複して位置する土坑である。平面形は、やや歪な梢円形を呈する。平面規模は、長軸(南北)0.77m・短軸(東西)0.65mである。残存の深さは、0.1mを測り、基底部は比較的平坦である。堆積土は、10YR2.5/1黒褐色シルトと10YR4/1褐灰色シルトに分けられる。土坑の中央西端に瓦器椀を正位に置き、その上からもう一つの瓦器椀が伏せられた状態で出土した。瓦器椀の中に残存するものはなかった。

遺物は、鎌倉時代の瓦器椀(820・821)2点のみである。

### 10土坑(図86・90、写真図版93)

10土坑は、調査区の下段西側の中央に位置する。平面規模は、東西11.1m、幅は西側で約1.2m、東側で3.84mを測る。残存の深さは、0.08~0.34mを測り、堆積土は単一層の10YR3/2黒褐色シルトに黄橙色の径0.5cm内外の細かな軟質岩碎粒が若干混ざる。基底部は、ほぼ平坦で、肩口は緩い傾斜で立ち上がる。

遺物は、平安時代後期と考えられる須恵器甕(817)と共に鎌倉時代の土師器皿(810)・小皿(811~813)、瓦器楕(814~816)などの中世遺物が出土した。

### 20土坑(図87・90、写真図版24)

20土坑は、10土坑に重複して位置する。平面形は、歪な円形を呈し、平面規模は長軸(東西)3.0m・短軸(南北)2.8mを測る。残存の深さは、中心の最も深い箇所で約0.7mを測り、掘り込みの断面形はやや浅いU字形を呈する。堆積土は、レンズ状堆積で、大きく3層に分けられる。上層は10YR7/8黄橙色シルトに径0.5~2.0cm大の礫を2%含む。中層は10YR3/1黒褐色~10YR4/1褐灰色シルト、下層は10YR7/4にぶい黄橙色シルトである。なお、中層、下層も細かな礫が全体に入る。

遺物は、鎌倉時代の土師器皿・脚台(807)や瓦器楕の細片が出土した。

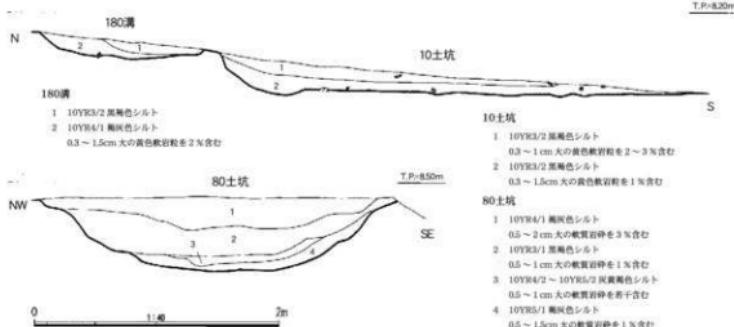


図86 平井遺跡 第2次 7区 10・80土坑断面土層図

### 50土坑(図83、写真図版21)

50土坑は、10土坑の西隣りに位置する。平面形は、長方形を呈し、平面規模は長軸(東北東~西南西)1.5m・短軸(西北西~東南東)1.2mである。残存の深さは、0.03~0.05mと非常に浅い。堆積土は、単一層の10YR4/1褐灰色シルトである。

遺物は、鎌倉時代の瓦器の細片が微量出土した。

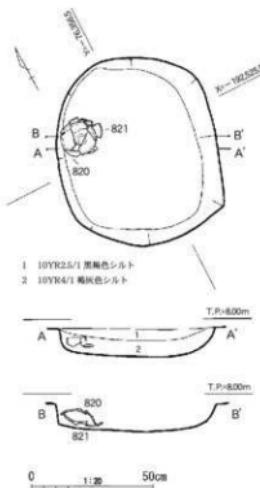


図85 平井遺跡 第2次 7区  
176土坑(地鎮遺構)実測図



図87 平井遺跡 第2次 7区 10・20土坑断面土層図

### 7 0 土坑(図83、写真図版21)

70土坑は、調査区の下段南西隅に位置する。平面形は不整形を呈し、肩口は段付く。平面規模は長軸(東西)約4.2m・短軸(南北)3.6mを測る。残存の深さは0.45mを測り、基底部は平坦である。堆積土は3層に分層でき、ほぼ水平に堆積する。上層は10YR3/1黒褐色シルト、中層は10YR3.5/1黒褐色シルト、下層は10YR3/2黒褐色シルトと類似した土層堆積を呈する。ただ、上層には0.5~1.5cm大の黄橙色の軟質岩碎粒を1~2%を含む。

遺物は、奈良時代の須恵器坏などが出土した。また、この遺構の周辺には無遺物であるが、奈良時代と考えられる一辺0.6~0.8mの方形掘形の柱穴を数基検出した。

### 8 0 土坑(図86、写真図版24)

80土坑は、調査区の西端に位置する。この遺構の北東は、池の掘削時に搅乱されている。残りの平面形から判断して長さ6.75m・幅2.8mの闊円長方形と考えられる。断面形は、やや浅いU字形を呈し、残存の深さは0.6mを測る。堆積土は、レンズ状に堆積し、4層に分層できる。上層から10YR4/1褐灰色、10YR3/1黒褐色、

10YR4/2灰黄褐色~10YR5/2灰黄褐色、10YR5/1褐灰色で、土質は全てシルト質で全ての層に0.5~2.0cm大の黄橙色の軟質岩の碎粒が混ざる。

遺物は、土師器の細片が1点出土したのみで、時期は特定できない。

### 6 0 溝(図83、写真図版21)

60溝は、70土坑の南側に位置する。検出延長は、約8.0mを測り、南は調査区外へと延びる。幅は0.4~0.8m、残存の深さは0.03~0.06mと非常に浅い。堆積土は、10YR6/1褐灰色シルトである。

遺物は、鎌倉時代の瓦器挽の細片が微量出土した。

### 1 8 0 溝(図86・90、写真図版21・93)

180溝は、調査区の中央やや西寄りに位置する。10土坑と重複し、10土坑より古い。北西方向から南東方向に延びる。検出延長は、11.70m、幅は0.6~1.5mを測る。西側は池の掘削により搅乱されている。残存の深さは、0.16~0.32mを測り、堆積土は、10YR3/2黒褐色シルトと10YR4/1褐灰色シルトに分けられる。

遺物は、弥生時代中期紀伊IV-2様式の小型甕(802)・高环脚台部(803)、庄内式併行期古段階の甕(804)が出土した。調査時には、鎌倉時代の瓦器が出土したとの記録があるが、明確でない。

### 1 9 0 溝(図83、写真図版21)

190溝は、調査区の東西方向の中央付近で南側へ落ちる段が付く。この段下で段に沿うように

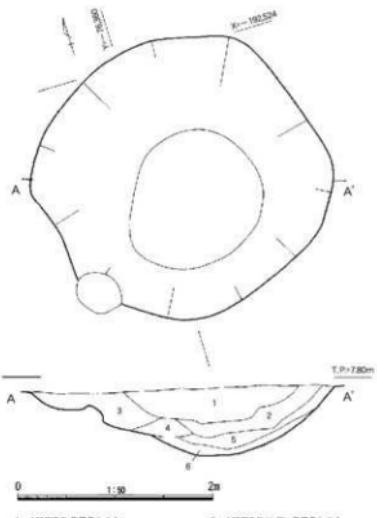


図87 平井遺跡 第2次 7区 20土坑実測図

位置する。なお、遺構の西側は調査区外に延びている。検出延長は、約20m、幅は0.7~1.3mを測る。残存の深さは0.1~0.15mを測り、堆積土は10YR5/1~10YR6/1褐色シルトである。

遺物は、鎌倉時代の瓦器碗の細片などが出土した。

#### 近世の遺構(図88、写真図版25)

近世の遺構には、調査区の南西範囲に位置する2条の溝(214溝・226溝)と杭列及び池の底樋(排水施設)がある。

#### 214溝(図83、写真図版21)

214溝は、調査前から掘削されており、北側の盛土の高まりと畠地を限っていた。基盤層上で検出した規模は、東西延長約45m、幅は約0.35~0.5mを測る。遺物は、溝の基底部から肥前系の磁器が1点出土しており、掘削時期は江戸時代(18世紀)の可能性が高いと考えられる。

#### 226溝(図83、写真図版21)

226溝は、214溝とほぼ平行して延びる溝である。規模もほとんど同じで、214溝の前身溝の可能性が考えられる。なお、遺物は皆無であるが、その規模や方向性、堆積土から判断して近世の可能性が高いと考えられる。

#### 杭列

杭列は、段の落ち際で延長約25mに渡り検出した。杭の間隔には規則性がないが、直径6~8cmの杭を約0.1~0.2m内の間隔で打設している。

#### 木樋(図88、写真図版25)

木樋(池の排水施設)を埋設した掘り込みは、中世遺物包含層上面で検出した。堆積土は、粘性の強い10YR7/8黄橙色シルトで密封されていた。平面規模は、幅1.2m・検出延長14.1mの南北に長い長方形である。池の底から通ずる木樋(木製排水管)を埋設していた。この施設は、長さ3.45m、直径25~30cmの松材を半裁し、その双方を割り抜き、上下に合わせ管としている。次に、これらの管を差し込み方法で延長している。延長約9.0m分を検出した。また、この管の下には長さ0.8~1.0m、直径0.1~0.3mの横木を要所々々に敷き、枕としている。

#### (2) 遺物包含層と出土遺物

##### 遺物包含層第3層(図90・91・147、写真図版93・108)

遺物包含層第3層からは、奈良時代の土器(830~836)や有孔土錘(825~829)を含むものの、まとまった量の鎌倉時代の土器(837~867)がある。その他、石器類では、石鎌(1367)などが出士した。

遺物包含層第3層の中で最も新しく位置付けできるのが、室町時代の遺物(868)であるが、極僅かである。

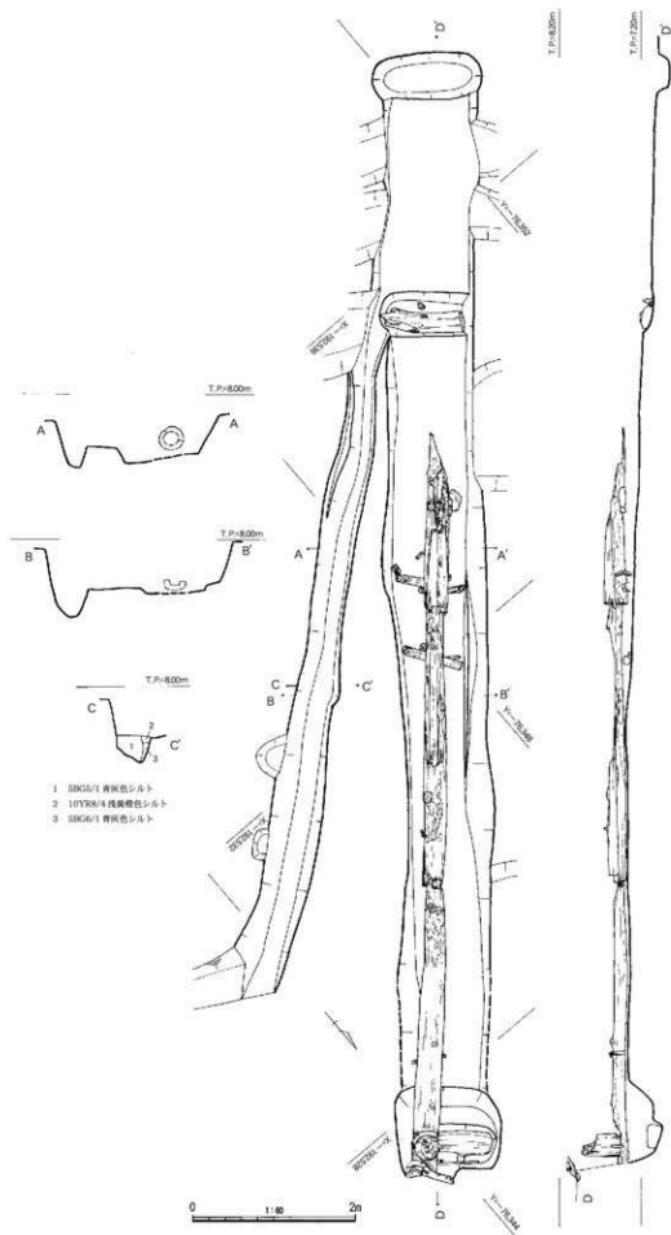
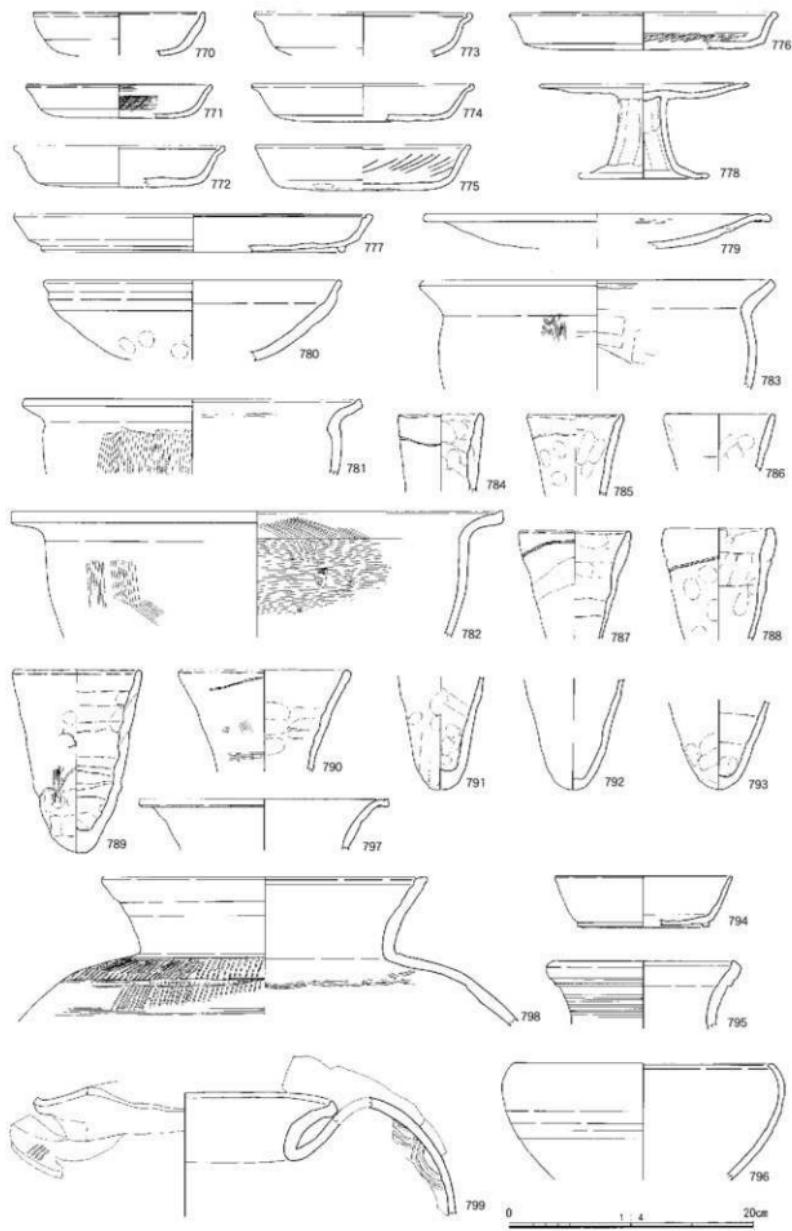
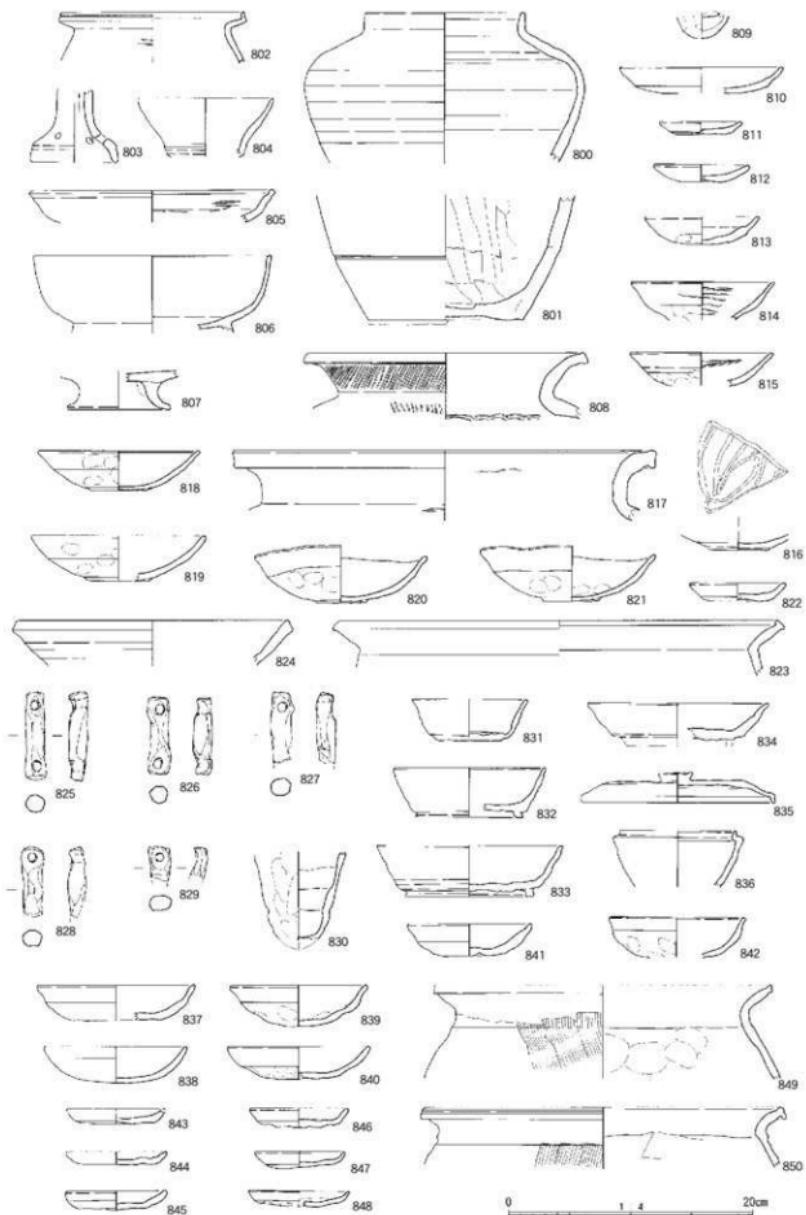


図88 平井遺跡 第2次 7区 木樁実測図



770~799:130土坑

图89 平井遗路 第2次 遗构出土遗物实测图



800~801:130 土坑。802~804:180 汽。805:80 土坑。806:131 土坑。807:20 土坑。808:110 落ち込み。809:58 小穴。810~817:10 土坑。818:146 小穴。819:137 土坑。820~821:176 土坑(地盤遺構)。822~824:185 土坑。825~841:843~850:遺物包含層第3層。842:調査区側溝

図90 平井遺跡 第2次 遺構・遺物包含層・他出土遺物実測図

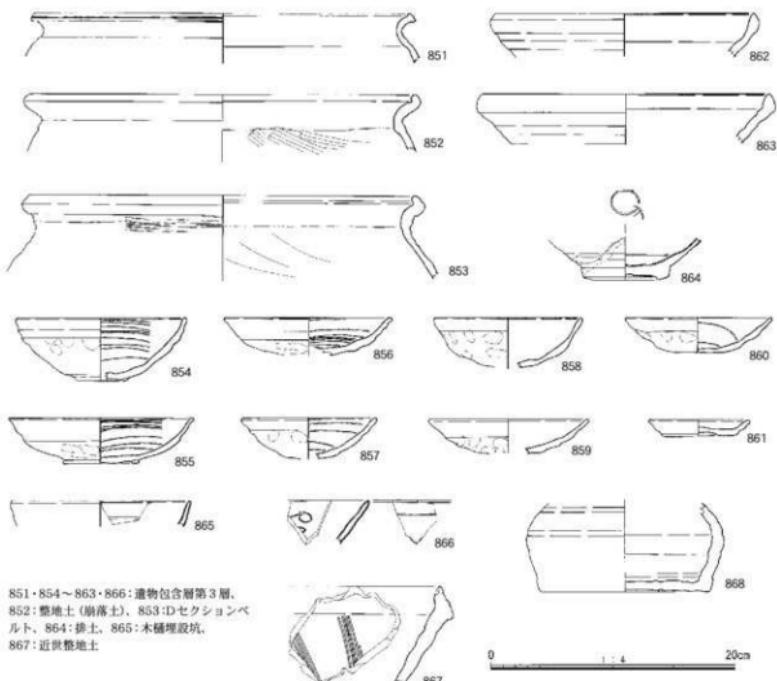


図91 平井遺跡 第2次 遺物包含層・他出土遺物実測図

### 第3節 平井遺跡第3次調査の成果

#### 1 第3次調査の概要

第3次調査の対象地は2地点に分かれる。西側の調査地は、第1次調査地の北西に位置し、調査前の現況は水田である。水田は高低差のある南北2枚に分かれ、北側の水田範囲を1-2区、南側の水田範囲を2-2区と呼称した。1-2区と2-2区の水田面での比高は約2.0mある。遺構面は、1-2区では2面、2-2区は1面である。第3次調査は、673m<sup>2</sup>の調査を行った。調査の結果、主として弥生時代と中世の遺構を検出した。弥生時代の遺構には、竪穴建物2棟や土坑の他、方形周溝墓1基がある。時期は弥生時代中期中葉から後葉と考えられる。中世の遺構には、溝や柱穴・小穴がある。後世の削平のためか、遺構密度は低い。遺物包含層及び遺構から、遺物収納コンテナに計47箱の遺物が出土した。弥生時代中期の土器が大半を占める。

東側の調査区(3北区・3北区拡張区)は、平井遺跡第1次調査で埴輪窯2基が検出され、窯の現地保存を行った調査区である。第3次調査において、257埴輪窯の剥ぎ取り保存を実施し、その後、窯構築面まで掘り下げを行った後、222埴輪窯を含めた保存範囲を砂養生して埋戻しを行

い、その後、シート養生を実施した。

発掘調査途中において、後述するように、新たに弥生時代の遺物包含層と遺構面の展開する範囲が明らかとなつたため、平成26年6月9日付けで和歌山県教育委員会に当該遺物包含層と遺構面の取扱いについての協議を依頼した。協議の結果、記録保存を要する範囲を変更し、一部の範囲(1-2区)を遺構面2面として調査を実施した。

## 2 基本層序と遺構面(図92、写真図版26)

基本層序は、第1層～第6層に大別することができる。

**第1層**: 第1層は、現在の耕作土・床土と表土層である。

**第2層**: 第2層は、褐灰色～灰白色を呈するシルト層で、近世以降の耕作土及び造成土と考えられる。近世及び中世の遺物が少量出土する。

**第3層**: 第3層は、浅黄色～黄灰色～褐灰色を呈するシルト層で、弥生時代から中世の遺物を多く含む遺物包含層である。第3層は、1-2区で第3層・第3-2層・第3-3層として区分して掘り分けられた。出土遺物は、何れの層位においても弥生時代中期中葉から後葉を主体とし、第3層は室町時代を、第3-2層は鎌倉時代を、第3-3層は弥生時代後期中頃を最も新しい遺物相として捉えることができる。

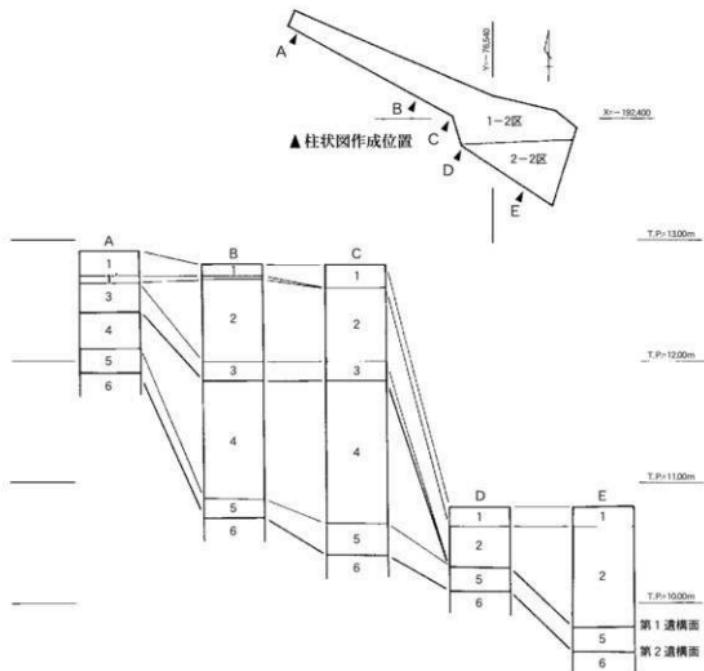


図92 平井遺跡 第3次 調査区南西壁断面土層模式図(1:40)

**第4層**：第4層は、浅黄色～褐灰色を呈する粗砂～砂礫層及び礫を多く含むシルト層である。少量の弥生土器及び極少量の古代の須恵器等が出土した。中世に周辺が水田化される際の造成土と考えられるが、出土遺物は弥生時代中期後葉を主体とする。

**第5層**：第5層は、褐灰色を呈するシルト層で、調査時に弥生時代の遺物のみが出土する遺物包含層と認識された層位である。1-2区では比較的礫を多く含むが、2-2区では極少量である。また、1-2区の東端部及び2-2区北東部の一部の範囲での層厚は薄く、全く遺存していない範囲も見られる。

**第6層**：第6層は、黄灰色～浅黄色を呈するシルト層及び砂礫層である。遺物は出土しておらず基盤層と考えられる。

遺構の検出は、第3層掘削後の第4層上面(第1遺構面)と、第4層及び第5層掘削後の第6層上面(第2遺構面)で行った。なお、第1層及び第2層と第4層は重機により掘削排土を行い、第3層と第5層は人力で掘削を実施した。

### 3 各遺構の調査成果

(1) 第2遺構面の検出遺構と出土遺物(図93～106・147～151、写真図版26～30・94～99・108～111)

当初、1-2区及び2-2区ともに中世を主体とする遺構の検出される遺構面1面と考えていたが、2-2区で弥生時代の遺物包含層(第5層)が認められ、遺構が一部を除き弥生時代の時期ものに限られていたことから、1-2区で第5層の有無を確認したところ、当初、基盤層として考えていた第4層下に第5層が展開していることが明らかとなったことから、県教育委員会に取扱いについて協議を依頼した結果、1-2区においても弥生時代の遺構面である第2遺構面まで調査を実施することになった。なお、2-2区では、基本的に弥生時代の遺構面のみの1面であるが、遺構の時期が同一であることから、両地区の第6層上面(基盤層面)検出遺構を合わせて当該遺構面検出遺構として扱う。

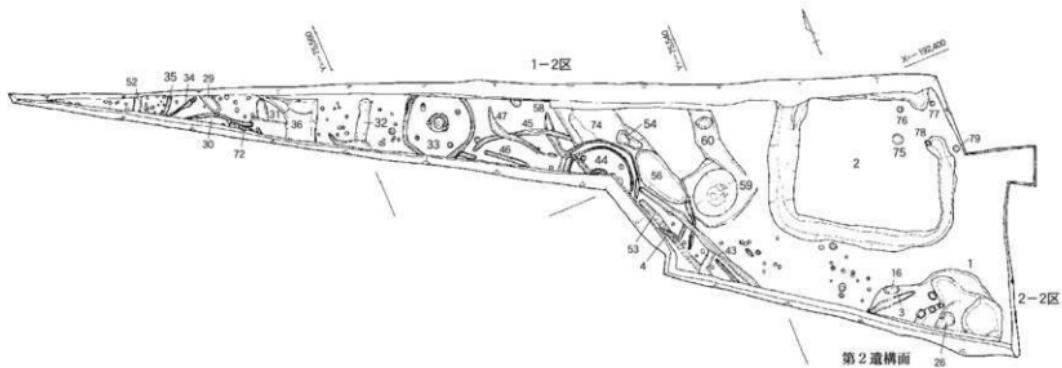
以下、主要な遺構について記述する。

#### 3.3 竪穴建物(図94・99・150、写真図版28・94・111)

33竪穴建物は、1-2区の中央部に位置する。平面形は、西側半分がやや隅円方形ぎみ、東側半分が円形を呈し、南端は調査区外となる。北端は、平井遺跡の第4次調査6-2南区において壁溝の一部が検出されている。平面規模は、南北径4.2m以上、東西径4.38mで、壁高の残存の深さは0.15m前後である。主柱穴(83・38・73・37柱穴)は、4本である。柱間は、2.04mもしくは2.22mと比較的揃っている。床面の中央に径1.0m、深さ0.35mの41中央炉があり、その両側の対応する位置に径0.16m・深さ0.30mの2基の小穴を設けた、いわゆる松菊里系の住居である。中央炉の堆積土の3層が炭灰層になる。中央炉の周りには僅かばかりの高まりのある炉周堤帯が馬蹄形に廻る。また、床面の南東部に砂岩製の台石が据えられていた。

遺物は、堆積土から弥生時代中期紀伊Ⅲ-3様式の細頭壺(869)・上位突帶文直口壺・紀伊形甕(870)・高坏(871)、紀伊Ⅳ-2様式の外面ハケ調整甕・高坏、砂岩製の敲石などが出土した。また、33竪穴建物内の41中央炉・39壁溝・37柱穴・73柱穴からは、紀伊Ⅳ-1様式と考えられる

図93 平井通路 第3次 道構全体平面図



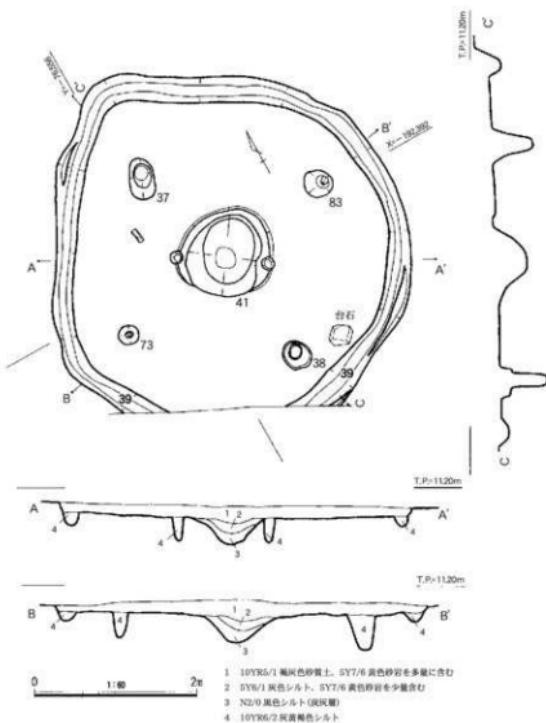


図94 平井遺跡 第3次 1-2区 第2遺構面 33堅穴建物実測図

壺や弥生土器の細片が微量出土した。

33堅穴建物は、遺物内容からして44堅穴建物より先行して終息するものと考えられる。

#### 4.4 堅穴建物(図95・99、写真図版28・94)

44堅穴建物は、1-2区の南東端部に位置する。全体の約半分弱は調査区外である。平面形は円形で、同心円状に1回の建て替え拡張を行っている。平面規模は、拡張前44a堅穴建物が径4.26m、拡張後44b堅穴建物は径5.16mである。壁高の残存の深さは、残りの良い範囲で0.09~0.24mである。主柱穴(70~80柱穴)は、4本となる可能性が高い。柱間は、2.46mである。南側が調査区外となり全容が不明であるが、床面の中央と推定される箇所に径0.75m以上の81中央炉が位置する。中央炉の堆積土の6層が炭灰層になる。また、中央炉の周りには炉周堤帯が廻る。69溝との関係は、不明である。

遺物は、堆積土から弥生時代中期紀伊III-2様式の上位突帶文直口壺(873)、紀伊III-3様式の紀伊形甕(874)、紀伊IV-1様式の太頸広口壺(872)、紀伊IV-1様式~IV-2様式の外面ハ

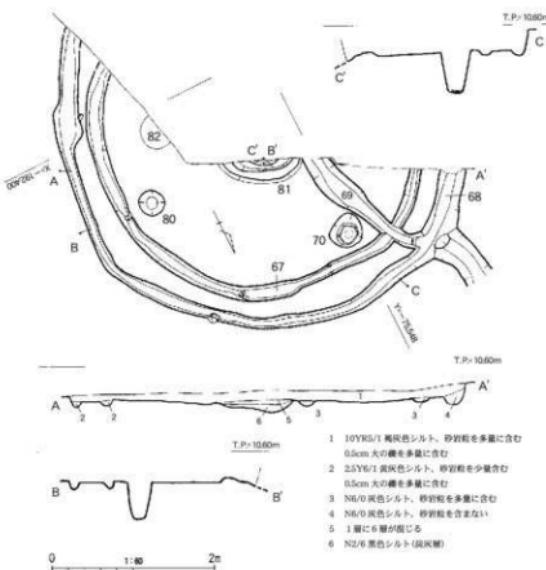


図95 平井遺跡 第3次 1-2区 第2遺構面 44堅穴建物実測図

ケ調整甕(876・878)・外面タタキ整形甕(877・879・880)・凹線文高环(881)、紀伊IV-3様式の楕形高环などが出土した。また、44堅穴建物内の70柱穴からは、紀伊IV-2様式の外面タタキ整形甕(875)が出土し、81中央炉・67内側壁溝(44a堅穴建物)・68外側壁溝(44b堅穴建物)からは弥生土器の細片が微量出土した。

44堅穴建物は、遺物内容からして33堅穴建物より僅かに遅れて終息するものと考えられる。

#### 1 土坑(図96・100・147、写真図版29・95・109)

1 土坑は、2-2区の南東部に位置し、南側は調査区外に延びる。平面形は不整形で、基底部も段差を有し、遺構肩部の北側立ち上りも緩やかである。平面規模は、長軸(西北西-東南東)8.32m・短軸(北北東-南南西)3.92m以上を測り、残存の深さは最も深い箇所で0.68mを測る。基底部の一部には、被熱により赤変した部分が2箇所(図96の網掛け部分)に認められる。

遺物は、基底部や堆積土から完存品に近い弥生土器(900)や石庖丁(1375)が出土し、一定のまとまりが認められる。遺物は、主に弥生時代中期紀伊III-3様式の上位突蒂文直口壺(895)、紀伊IV-1様式の広口壺(891・892~894)・外面ハケ調整甕(896~900)・高环(904)・蓋(906)、紀伊III-2~III-3様式の紀伊形甕(901~903)、緑泥片岩製の石庖丁(1375・1376)、砂岩製の石錐・敲石・砥石などが出土した。また、広口壺(894)の下から紀伊V-3様式と考えられる器台(905)が1点のみ出土した。

1 土坑は、調査時に堅穴建物の可能性も考えられていたが、平面形や基底部等の状況からみて堅穴建物とは判断し難い。

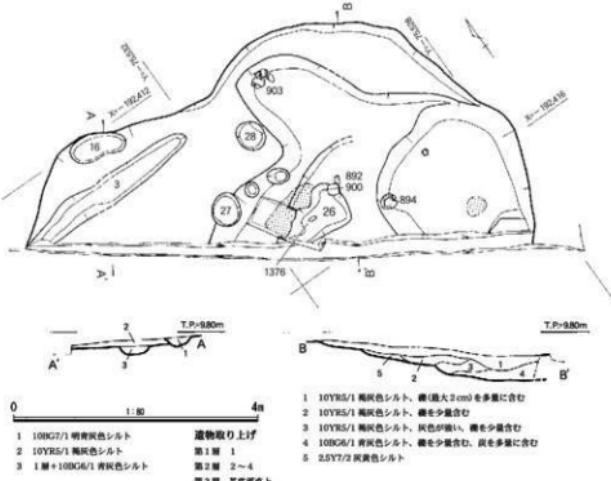


図96 平井遺跡 第3次 2-2区 第2遺構面 1土坑実測図

5.9 土坑(図97・101・147~150、写真図版29・96・108~111)

59号土坑は、1-2区の44号穴建物の東側に位置する大型の土坑である。平面形はほぼ円形を呈し、掘り込みの断面形は幅広のU字形を呈する。平面規模は、長軸(東西)2.96m・短軸(南北)2.6m、残存の深さは最大1.06mである。堆積土は、上位層の1~3層がレンズ状堆積を示す。遺物は、下位層の4層に自然疊と共に多く認めることができる。また、土坑の基底部から5~20cm浮いた状態で木器の未成品4点(1409~1412)が出土した。堆積土の4層と5層の状況から、何らかの井筒を伴う井戸で、井筒は人為的に抜かれた可能性が考えられる。

遺物は、堆積土から完存品を含む弥生土器(907~934)や石器、獸骨(イノシシ肩甲骨)が出土した。木器の未完成品の内、泥除未完成と考えられる(1409・1410)は、表面に隆起が、背面は抉り込みを入れて窪みを付けている。(1411・1412)は、農具の未完成と考えられるものである。

土器は、大きく弥生時代中期(907~921)と後期(922~934)に区別することができる。堆積土の埋積が弥生時代後期に人為的に行われたと考えられるが、層位的な相関関係は不明確である。遺物は、主に弥生時代中期紀伊Ⅲ-3様式の上位突帶文直口壺(915)・細頸壺(914)・皿形高坏(917・918)、紀伊IV-1様式の広口壺(909~911)・太頸広口壺(912・913)・鉢(921)、紀伊IV-2様式の広口壺(907・908)・皿形高坏(919)・口縁端部に特徴のある紀伊形甕(916)、紀伊V-1様式の広口壺(922)・短頸直口壺(923)・脚台付高坏形鉢(927・928)・蓋(930)・異形高坏(926)・鉢脚台部(931)・体部に焼成前の円孔が穿たれた鉢(932)・手捏ねの小型高坏(933)・把手付小型鉢(934)などが出土した。また、石器では、石鎌(1370)・細粒及び粗粒砂岩製の敲石(1381~1383・1390・1391)・泥岩製の砥石(1394・1395)・粗粒砂岩製の砥石(玉砥石)(1397)・石錘(1377)

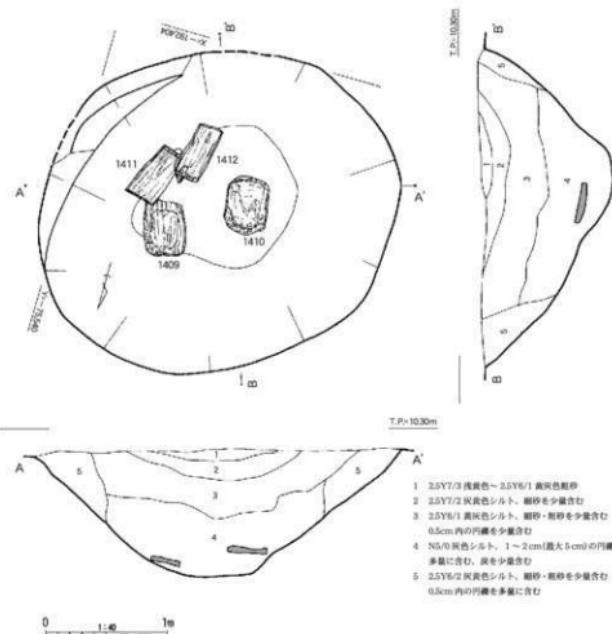


図97 平井遺跡 第3次 1-2区 第2遺構面 59土坑実測図

などがある。なお、遺物の取り上げは、平面形を4分割し、北東側から右回りに59-1・59-2・59-3・59-4としている。

弥生時代後期の土器は、中期の土器の胎土と明らかに異なり、精良であることから識別が可能である。

59土坑は、これらの状況から判断して、本来的には弥生時代中期後半の段階では井戸として、それ以降は木器の未完成の貯木遺構であった可能性も考えられる。その後、後期初頭に廃棄土坑としての役目を荷ったものと考えられる。

## 2方形周溝墓(図98・102・103・105・147・148、巻頭写真図版1・写真図版30・97・99・109・110)

2方形周溝墓は、1-2区の東端部に位置する。北辺溝の一部は調査区外となる。この範囲は、平井遺跡の第4次調査6-2南区において検出できていない。平面規模は、東西11.8m・南北10.0m以上、周溝の幅は0.85～1.75mと、東側につれ狭くなる。掘り込みの断面形は、浅いU字形を呈する。周溝の残存する深さは、西側(A-A間)0.83m・南側(B-B間)0.63m・東側(C-C間)0.20mと、東側につれ浅くなり、一様でない。北東側に陸橋部を有する。墳形は長方形で、平面規模は東西8.8m・南北7.6mである。墳丘の盛土は削平されており、埋葬施設は残存していない。

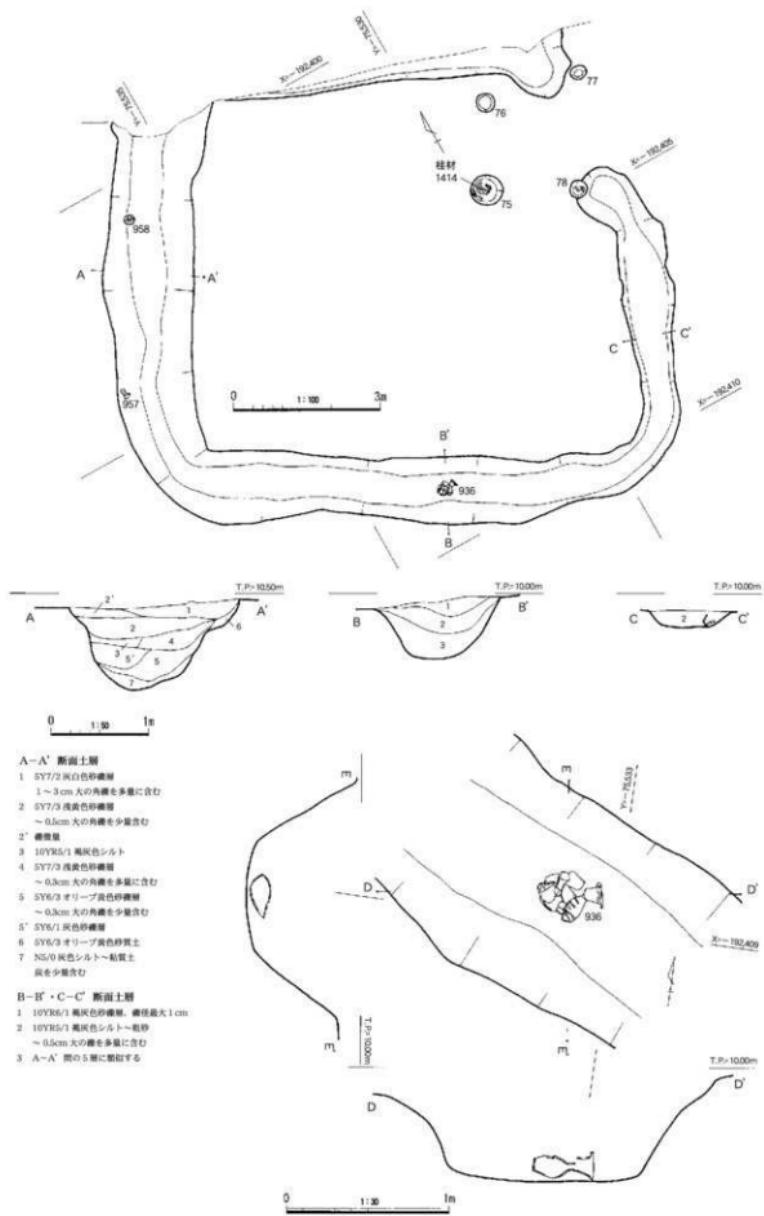


图98 平井遺跡 第3次 1-2区・2-2区 第2遺構面 2方形周溝墓実測図

なお、方形周溝墓の北東部で柱穴数基が検出されたが、重複関係から柱穴が新しい。

遺物は、周溝から完存品を含む弥生土器(935～962)が多数出土し、一定のまとまりを認めることができる。遺物は、主に弥生時代中期紀伊Ⅲ－2様式～3様式の上位突帯文加飾直口壺(944・945)・綾杉状の笠描の施された壺頸部(1007)、紀伊Ⅲ－3様式の加飾広口壺(936)・紀伊形甕(953)・加飾大型鉢(962)・高环(957)、紀伊Ⅳ－1様式の加飾もしくは凹線文広口壺(935・937・939～942)・太頭広口壺(938・1001)・外面タタキ整形甕(1009)・紀伊形甕(950・951)・高环(955・956・958～960)・器台(961)、紀伊Ⅳ－2様式の細頬壺形の直口壺(946)などが出土した。これらの中、広口壺(939)は、生駒山西麓產胎土、高环(959)の内面には帶状に煤が厚く付着している。その他、細粒砂岩製の磨石(1386)・粗粒砂岩製の敲石(1389)がある。

2 方形周溝墓は、これらの遺物内容からして33竪穴建物や44竪穴建物と時期的に併行するものと考えられる。

#### その他の第2遺構面の検出遺構と出土遺物(図99・150、写真図版94・111)

その他、2方形周溝墓の西側に位置する60土坑から弥生時代中期紀伊Ⅳ－2様式に対応する生駒山西麓產胎土の小型細頬壺口縁部(883)、紀伊Ⅳ－1様式の高环部(884)、54土坑から紀伊Ⅳ－1様式の外面ハケ調整甕(885)・高环脚台脛部(886)、33竪穴建物の西側に位置する32溝から紀伊Ⅲ－3様式の紀伊形甕(888)と共に弥生時代後期紀伊Ⅴ－1様式の受け口口縁甕(889)・高环脚台部(890)、調査区北西端に位置する35溝から紀伊Ⅳ－1様式の広口壺(882)、72小穴から紀伊Ⅲ－3様式の紀伊形甕(887)などが出土した。

また、2方形周溝墓の内側に位置する75柱穴には柱材(1414)が遺存していた。時期判断できる遺物を伴わないので時期は不明確である。しかし、平井遺跡第1次調査の掘立柱建物1の柱穴柱材と樹種が同じスギ材であることから奈良時代の可能性を考えられる。

#### (2) 第1遺構面の検出遺構と出土遺物(図93、写真図版99)

1－2区で検出した検出遺構には、溝と柱穴・小穴、落ち込みがある。

##### 2 5溝(図93)

25溝は、幅0.20～0.40mで、残存の深さは0.05m前後しか残存していない。

遺物は、鎌倉時代の土師器細片、平瓦が出土した。

##### 柱穴・小穴

柱穴・小穴は、直径0.30～0.50m前後、残存の深さは残りの良いもので0.10m程度である。近世以降に削平を受けたためか、遺構密度は希薄である。

##### 土坑・水溜め(図151、写真図版111)

その他、平面形が円形もしくは梢円形を呈し、埋土に淡灰色シルトが埋積する土坑が3基(A・B・H土坑)あり、中世末から近世の水溜め遺構と考えられる。遺物は、B土坑から漆器椀(1417・1418)などが出土した。

#### (3) 遺物包含層と出土遺物

遺物包含層からは、弥生時代中期後半を主体とした多くの弥生土器が出土した。

#### 遺物包含層第4－2層(図103、写真図版98)

遺物包含層第4－2層からは、弥生時代中期を主体とした遺物が出土した。主なものとして、弥生時代中期紀伊Ⅲ－3様式の凹線文加飾高環脚台部(967)、紀伊IV－1様式の広口壺(963～966)・甕(968)・加飾高環(969)などがある。

#### 遺物包含層第4層(図104・147、写真図版98・108)

遺物包含層第4層からも、弥生時代中期を主体とした遺物が出土した。主なものとして、弥生時代中期Ⅲ－2様式～3様式の紀伊形甕(972・973)・高環(977)、紀伊IV－1様式の広口壺(970・971)・甕(975・976)・鉢(978)・器台脚台部(979)などがある。その他、石器類では、粘板岩製の磨製石剣(1371)がある。

#### 遺物包含層第3－3層(図104・147、写真図版98・109)

遺物包含層第3－3層からは、弥生時代後期の遺物を一定量含むが、主体は弥生時代中期の遺物である。主なものとして、弥生時代中期紀伊Ⅲ－2様式の上位突帯文直口壺(985)、紀伊IV－1様式～2様式の広口壺(980～984)・上位突帯文直口壺(986)・外面タタキ整形甕(987・990)・外面ハケ調整甕(988)などがある。また、弥生時代後期V－1様式～3様式の長頸壺(993)・外面タタキ整形甕(994)・高環(995・996)・小型高環脚台部(997)・器台(998)などがある。その他、石器類では、粗粒砂岩製の敲石(1378)がある。

#### 遺物包含層第3－2層(図105・106、写真図版99)

遺物包含層第3－2層からは、弥生時代中期・後期、奈良時代、鎌倉時代の遺物が出土した。主なものとして、弥生時代中期Ⅲ－3様式の上位突帯文直口壺(1002・1003)、後期V－4様式の短頸壺(1013)、奈良時代の須恵器壺(1016)などがある。また、鎌倉時代の瓦器椀(1027～1029・1031・1033)などがある。

#### 遺物包含層第3層(図105・106、写真図版99)

遺物包含層第3層からは、鎌倉時代から室町時代を主体としたまとまりのある遺物が出土した。主なものとして、弥生時代中期IV－1様式の甕(1010)、奈良時代の須恵器鉢(1018)、鎌倉時代の土師器皿(1019～1021)・小皿(1023)・土釜(1034)、瓦器椀(1030)、瀬戸平椀(1037)、常滑焼甕(1039)、青磁碗(1036)、瀬戸瓶子(1038)などがある。また、室町時代の瓦質甕(1041)、常滑焼甕(1040)などがある。

#### (4) 3北区・3北区拡張区の調査(写真21～46)

3北区・3北区拡張区は、既述のとおり平井遺跡第1次調査で埴輪窯が2基検出され、現地保存されることになった範囲について諸作業を実施した。

作業は、埋蔵文化財の記録保存措置の一環として、257埴輪窯(2号窯)及び灰原部の外縁を含めた範囲の剥ぎ取り(型取り)保存作業を実施した。作業は、床面4の調査及び記録作成後に実施した。その後、窯体部及び灰原を窯構築面(操業開始面:床面5)まで掘り下げ、写真撮影及び実測作業を行った(写真31)。また、222埴輪窯(1号窯)及び灰原を含む現地保存範囲について、砂を使用して埋戻し作業を行い(写真32)、シートで養生を行い(写真33)、現地作業を完了した。

剥ぎ取り保存を行った257埴輪窯(2号窯)の保存成果品は、和歌山市教育委員会に移管することになり、西山東文化財収蔵庫に納品を行った(写真43～46)。

作業工程は、以下の手順で株式会社スタジオ三十三に委託して行った。

**A 事前作業及び確認**

- 1) 受託業者は、剥ぎ取り前に現地調査を行い、写真撮影及び分割数の判断をし、持ち込み資材及び材料の量を決定した。
- 2) 使用材料は、屋外での展示を考慮し、紫外線や風雨等による劣化に耐え得るものとした。
- 3) 現場への資材及び材料の搬入・搬出は車両の駐車できる場所から、人手によって行った。
- 4) 剥ぎ取り部分以外の範囲の汚れ及び損傷を防ぐため、シート等によって養生を行った。

**B 立体剥ぎ取り(型取り)作業(現地での作業)(写真22)**

- 1) 崩落及び剥落しそうな壁体部分及び型取りを行う部分を錫箔で養生を行った(写真23)。
- 2) 剥ぎ取り部分に型取り用シリコンを塗布積層した(写真24)。
- 3) シリコン硬化後、剥ぎ取り断面の形状を維持するため、ポリエステル樹脂を積層した(写真25)。ポリエステル樹脂は、運送サイズに分割できるよう処理を施した。
- 4) ポリエステル樹脂硬化後、角材等を使用し型の変形防止のための補強を行った(写真26)。
- 5) 補強完了後、レーザー水準器を使用して、断层面の傾きなどを記録した。
- 6) 脱型は、ポリエステル樹脂、シリコンの順に行った(写真27~29)。
- 7) シリコン型に付着してこない必要な遺物及び石等は、抜き取って持ち帰るよう指示した。また、成型に必要な地層面の土も不足分だけ採取し持ち帰った。但し、窯体部及び灰原部分については当文化財センター保管の採取土等を使用することとした。
- 8) サブトレーンチ箇所については剥ぎ取りを行わず、後日復元できるように養生を行った。
- 9) 養生を外し、汚れ及び損傷が無いか確認して剥ぎ取り作業を終了した。
- 10) 現地での作業を終了し分割して搬出し、受託業者の屋内作業場で作業を行うために大型トラックで運搬した(写真30)。

**C 成型・組み立て作業(屋内での作業)**

- 1) 型を組み立て(写真34)、持ち帰った遺物などを写真資料で確認しながらシリコン型にはめ込み修正を行った(写真35)。
- 2) 剥ぎ取り地表面の付着したシリコン型に、ポリエステル樹脂にガラス繊維をはさみ積層した(写真36)。
- 3) ポリエステル樹脂の変形防止のため、ステンレスの骨材等を使用し成形品の補強を行った(写真37・38)。その折に、遺構のレベルを描えた。
- 4) ポリエステル樹脂硬化後にシリコン型を剥し、剥ぎ取り地表面をポリエステル樹脂側に反転させた(写真39)。

**D 仕上げ作業(屋内での作業)**

- 1) 成形品表面に残ったシリコンの除去・清掃を行った。
- 2) 表面の土などの不足部分があれば、写真資料に基づき補充修正した。
- 3) 運送及び保管用に、適当なサイズに成形品を10分割した(写真42)。
- 4) 受託業者は、屋内作業場で検収を受け、修正箇所があれば、指示に従って修正を行った。
- 5) サブトレーンチ箇所については、樹脂等で補完し復元した。
- 6) 全面に彩色を施した(写真40)。



写真21 作業開始前の養生状況(北西から)



写真22 剥ぎ取り作業開始



写真23 銀箔養生



写真24 シリコン塗布作業



写真25 ポリエステル樹脂積層作業



写真26 角材で補強



写真27 脱型作業



写真28 脱型作業(遺構面の剥ぎ取り)

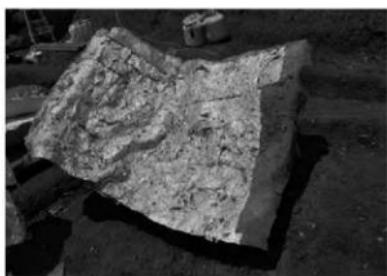


写真29 脱型(窯体部)



写真30 搬出・搬入状況



写真31 257 塗輪窯完掘状況(南西から)



写真32 塗輪窯現地保存範囲: 砂養生(南東から)



写真33 塗輪窯現地保存範囲: シート養生(南東から)



写真34 型設置



写真35 型修正

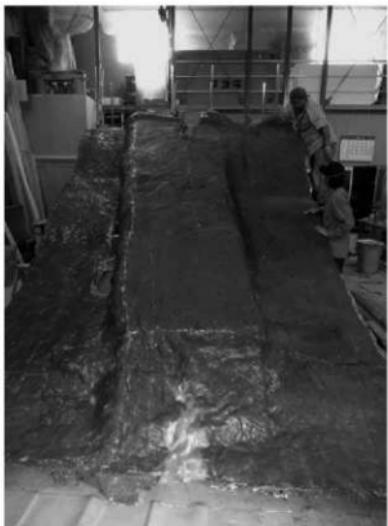


写真36 ポリエステル樹脂及びガラス繊維を積層



写真37 骨組み・サイズ加工(全体)



写真38 骨組み・サイズ加工(部分)



写真39 脱型(反転)



写真40 彩色



写真41 完成

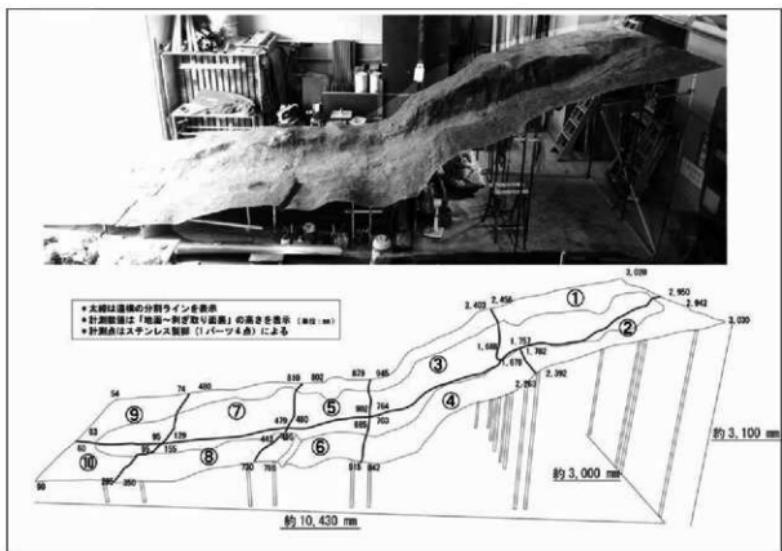


写真42 完成(剥ぎ取りレベル図面)



写真43 保管場所への運搬



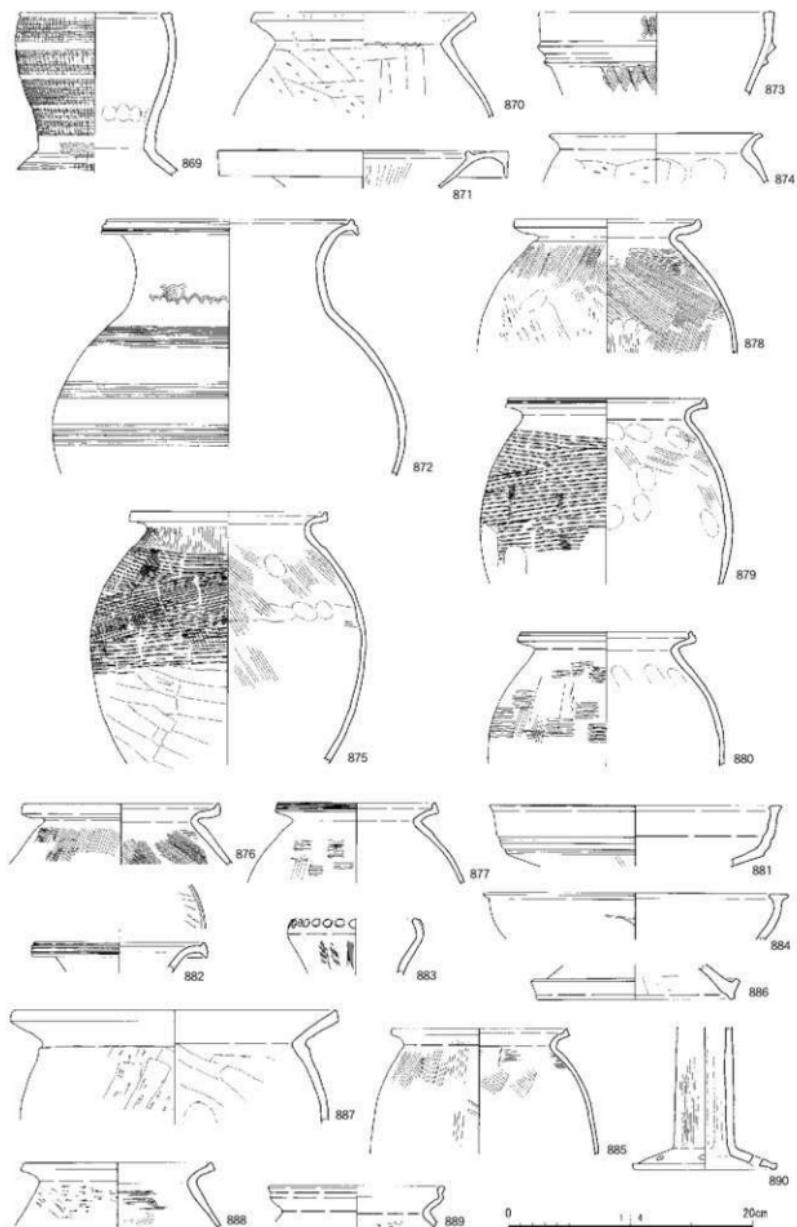
写真44 保管場所への搬入



写真45 保管場所への納品・設置(仮置き)

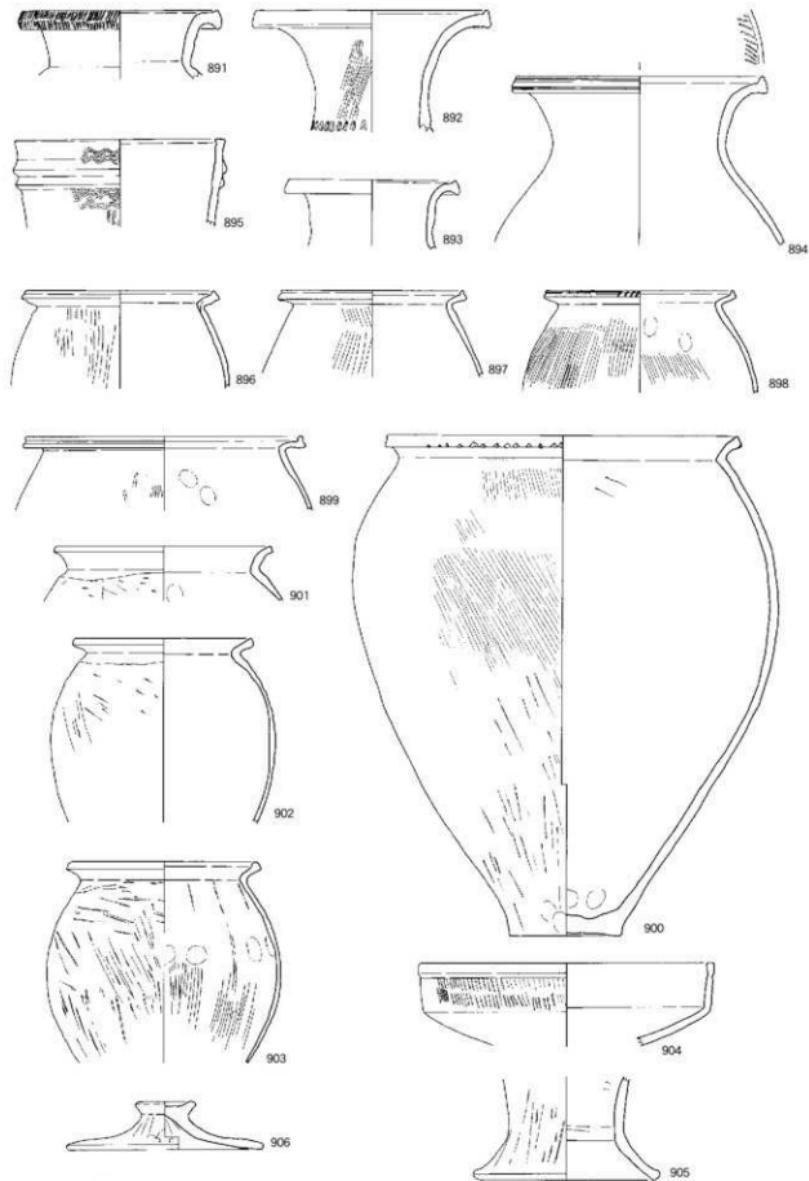


写真46 納品完了



869~871:33竖穴建物, 872~881:44竖穴建物, 882:35溝, 883~884:60土坑, 885~886:54土坑, 887:72小穴, 888~890:32溝

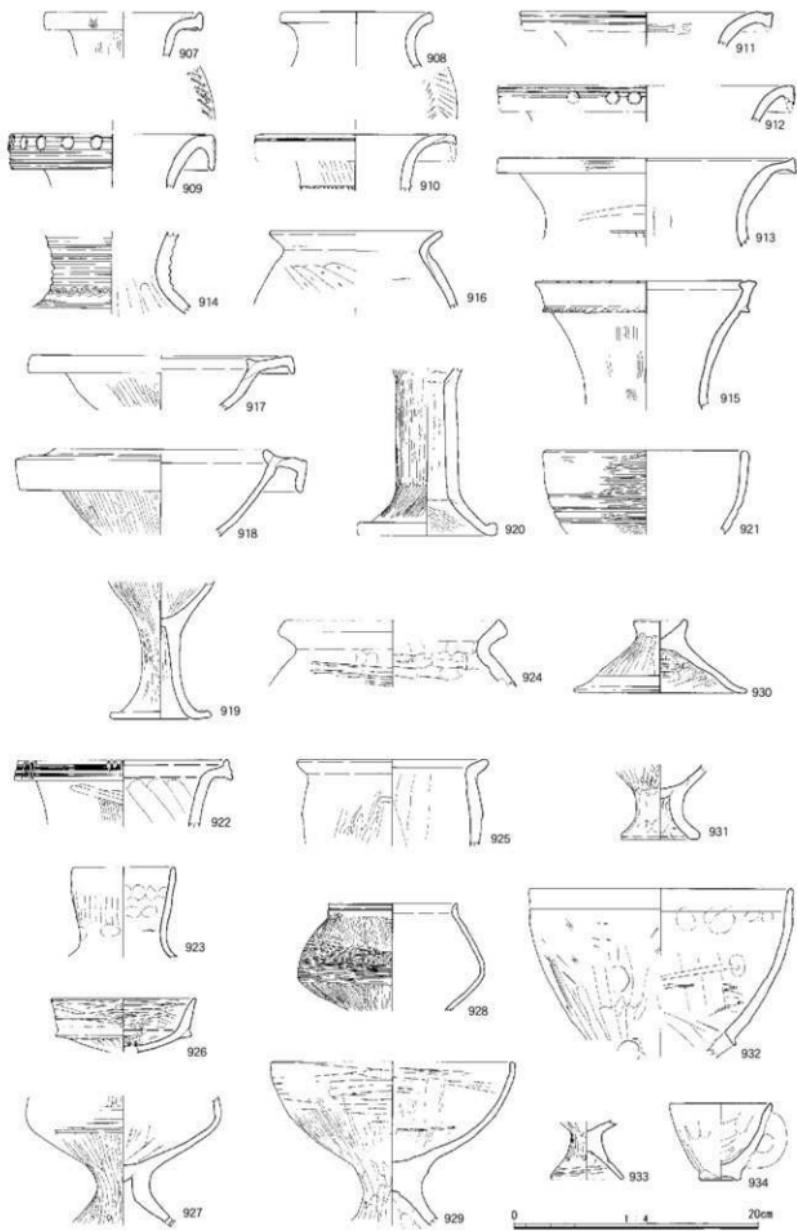
图99 平井遗址 第2次 第2遣構面 遗構出土遗物实测图 1



891～906: 1土坑

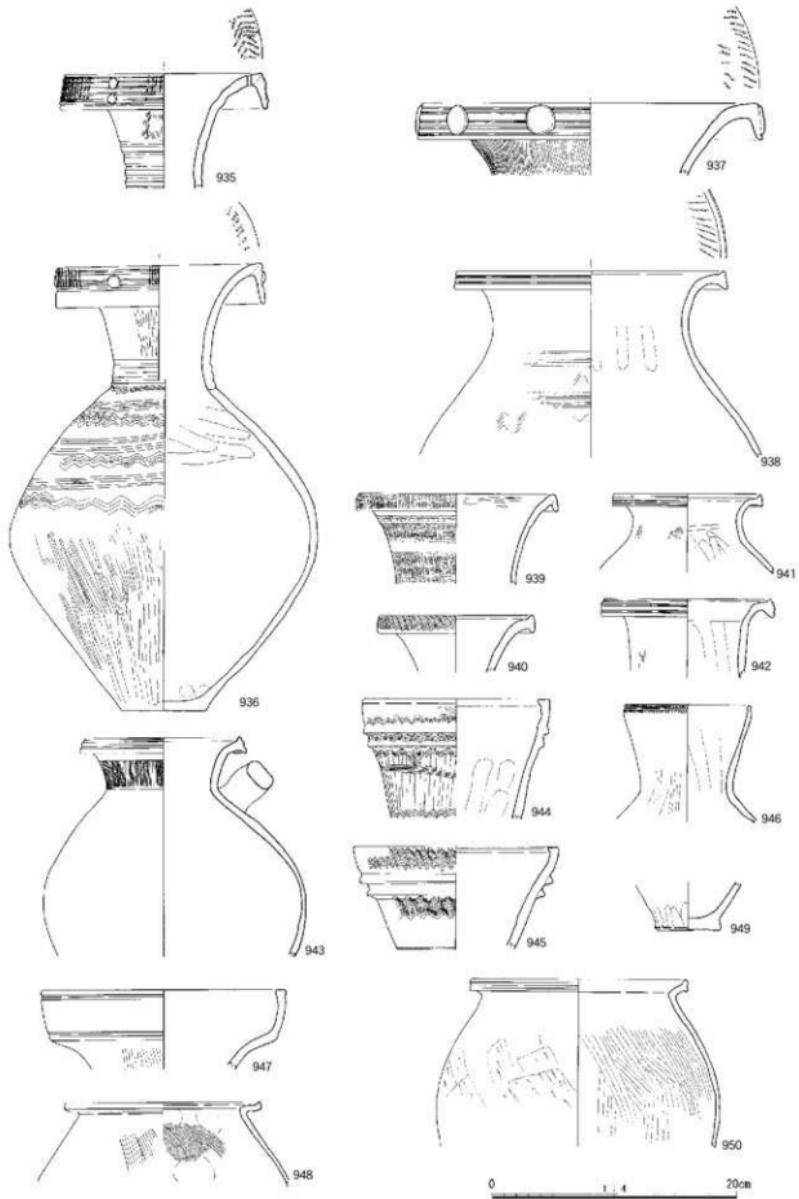
0 1:4 20cm

図100 平井遺跡 第3次 第2遺構面 遺構出土遺物実測図 2



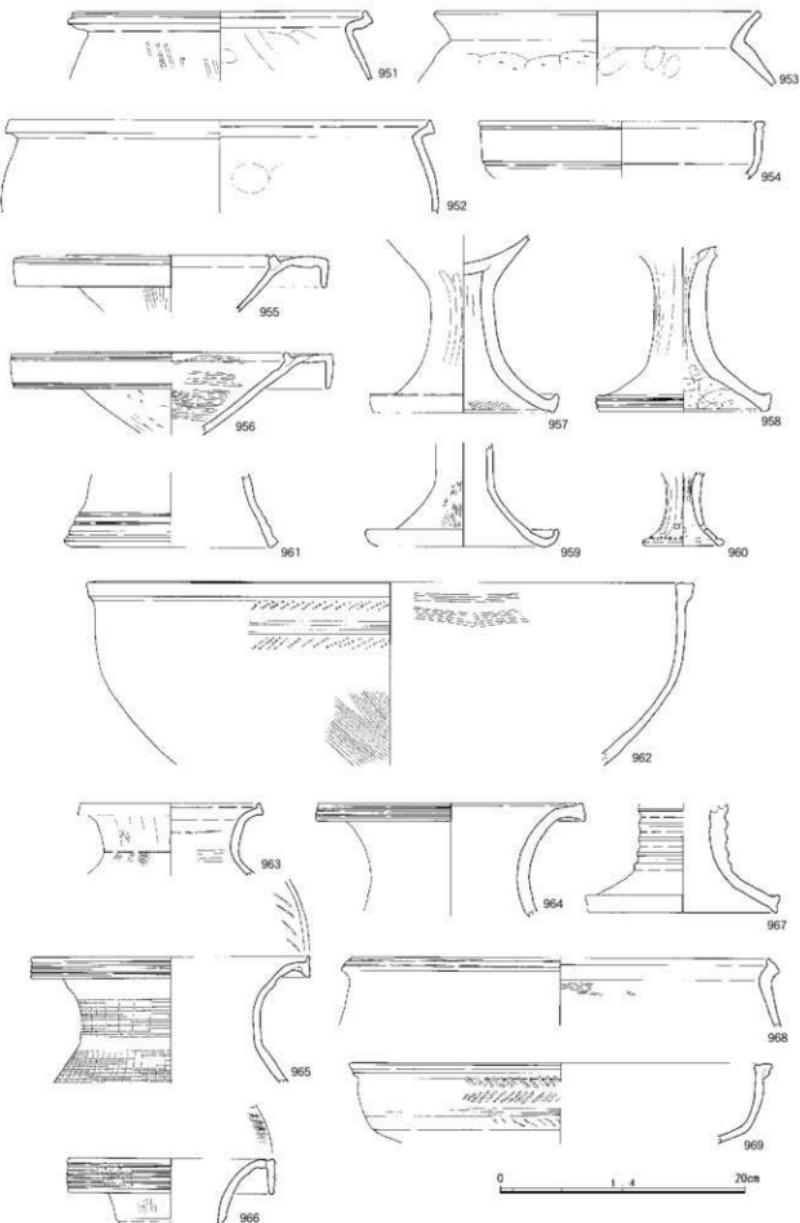
907～934:59 土坑

図101 平井遺跡 第3次 第2遺構面 遺構出土遺物実測図3



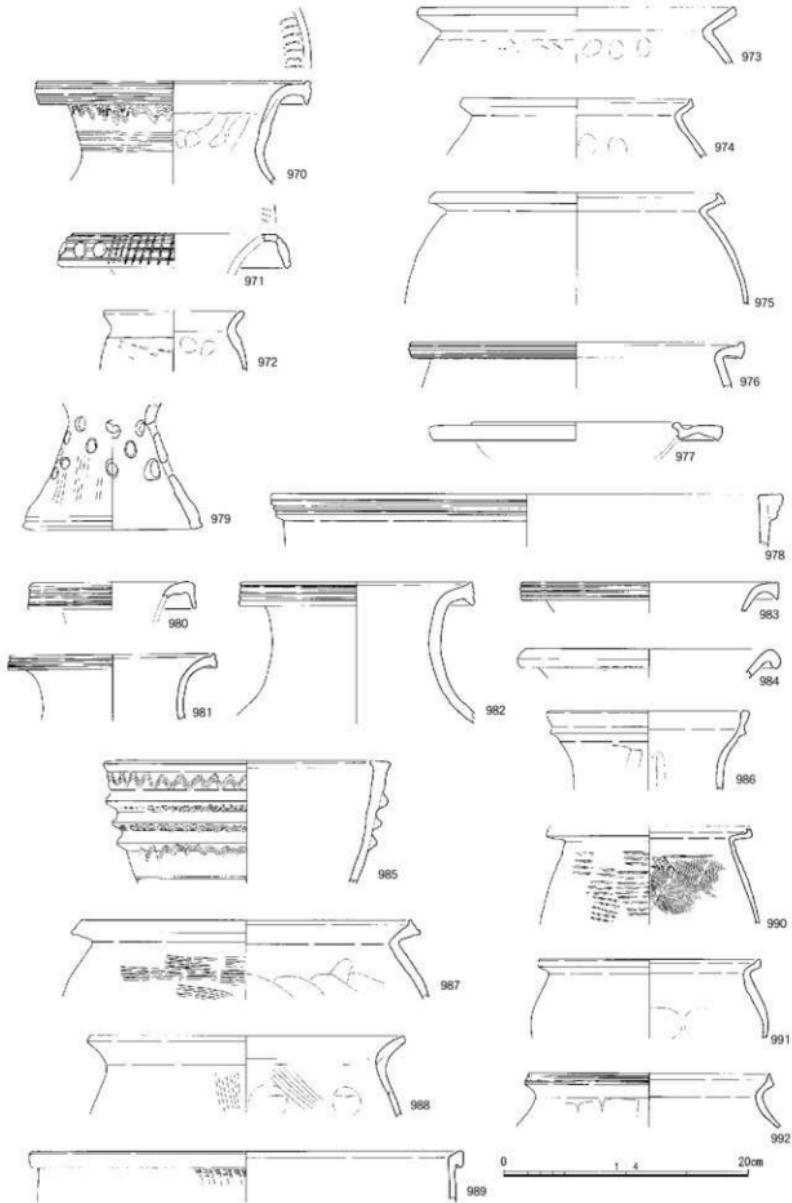
935~950: 2方形周溝基

図102 平井遺跡 第3次 第2遺構面 遺構出土遺物実測図4



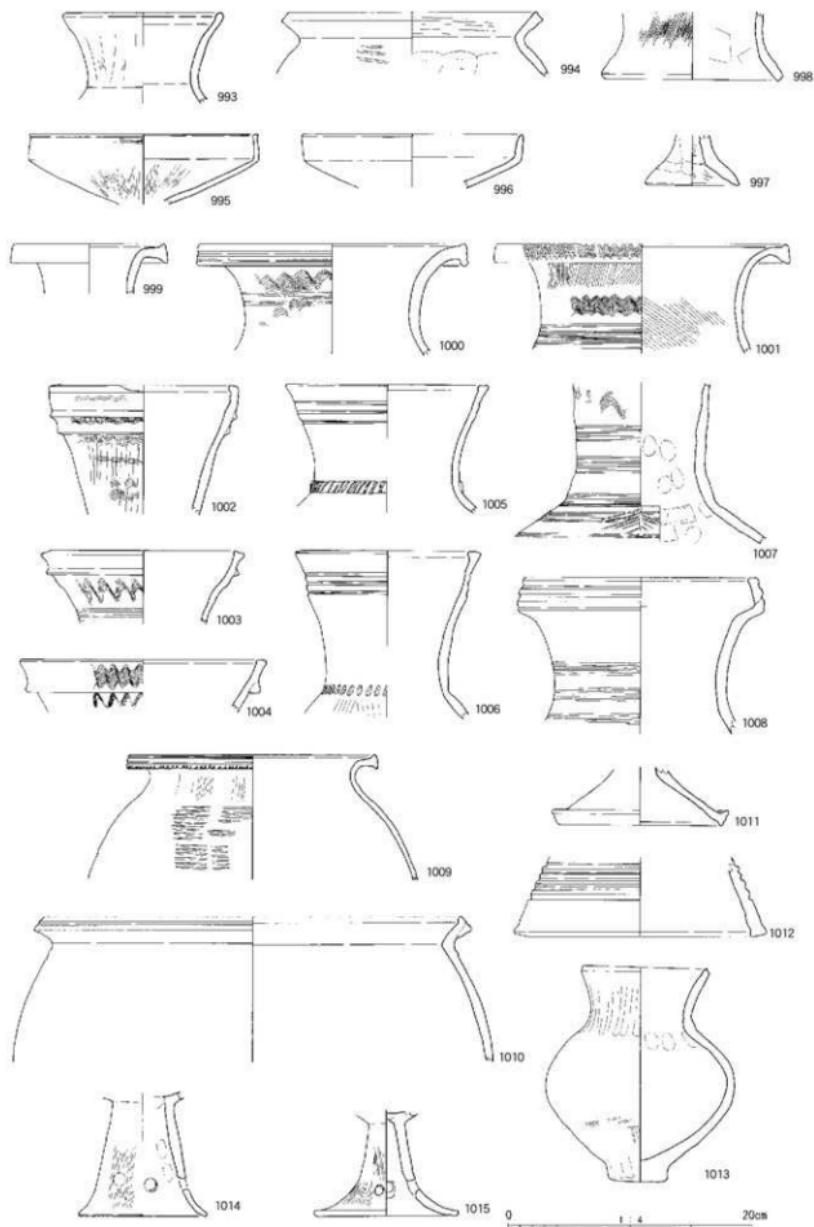
951~962: 2方形周溝墓、963~969: 遺物包含層第4~2層

图103 平井遺跡 第3次 第2遺構面 遺構・遺物包含層出土遺物実測図



970~974·976~979:遺物包含層第4層、975:遺物包含層第4~1層、980~992:遺物包含層第3~3層

图104 平井遺跡 第3次 遺物包含層出土遺物実測図



993～998：遺物包含層第3～2層、999・1000・1005・1008・1012：機械塗面。1001・1007・1009：2方形周溝底。  
1002・1003・1013：遺物包含層第3～2層、1004・1010：遺物包含層第3層、1006・1011・1014：サブトレチ、1015：調査区側溝

図105 平井遺跡 第3次 遺物包含層・他出土遺物実測図

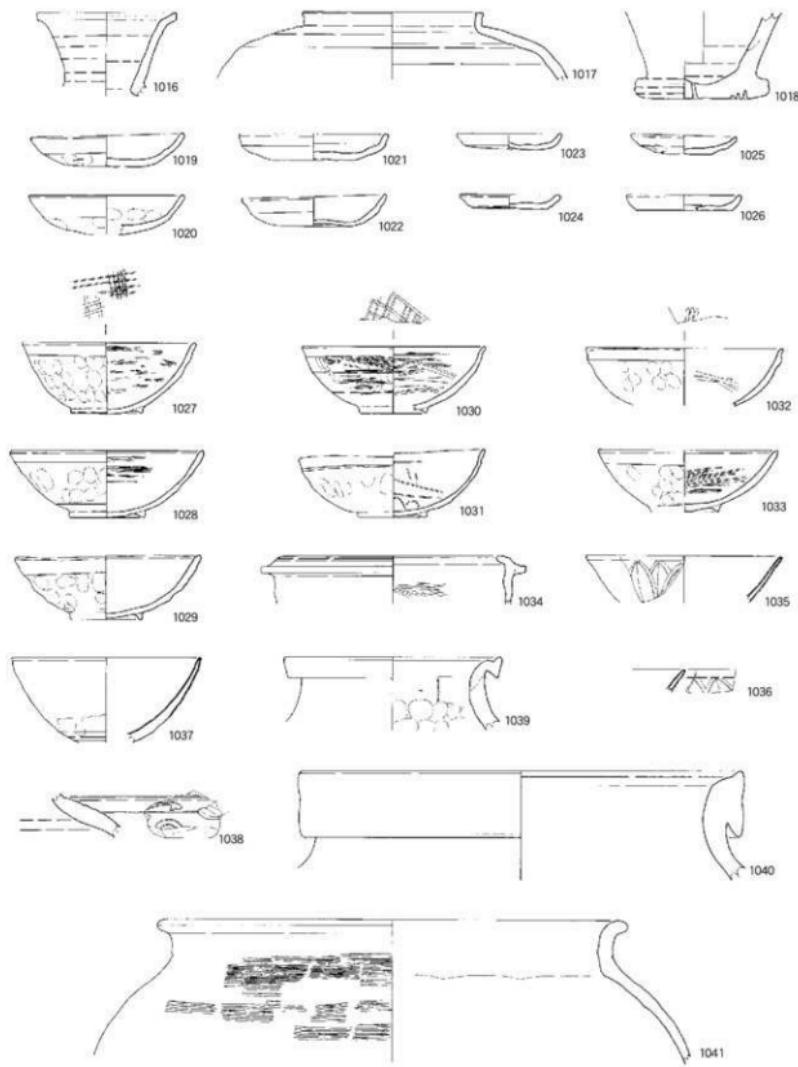


図106 平井遺跡 第3次 遺構・遺物包含層・他出土遺物実測図

## 第4節 平井遺跡第4次調査の成果

### 1 第4次調査の概要

第4次調査対象地は、第3次調査地の北側に隣接し、第1次調査地の北西に位置する。遺構面は、古墳時代以降の遺構が検出された第1遺構面と、主として弥生時代の遺構が検出された第2遺構面とがあるが、遺構面が2面存在するのは調査地の約1/2の範囲である。第4次調査は、1,685m<sup>2</sup>の調査を行った。

調査地の現況は水田で、用水路により東西に2分される。平井遺跡の第1次調査で1～5区の調査区名を使用したことから、第4次調査地を6区とし、用水路西側を6-1区、東側を6-2区と呼称した。また、掘削土の仮置き場を確保する必要があることや、既述のとおり、当該調査地の南側隣接地で実施している第3次調査と調査期間が一部重複する関係上、調査地を南北に2分し、4分割した調査区を、各々、6-1北区・6-1南区・6-2北区・6-2南区と呼称した。調査は、6-1北区と6-2北区を先行し、その後、6-1南区と6-2南区の調査を行う2工程で実施した。

調査の結果、弥生時代中期から後期にかけての竪穴建物5棟、古墳時代終末期の古墳の横穴式石室2基などを検出した。

遺物包含層及び遺構から、遺物収納コンテナ計27箱の遺物が出土した。弥生時代と古墳時代の土器類がほとんどを占めるが、横穴式石室から、耳環4点の他、頭部及び脚部と思われる人骨が出土した。

発掘調査途中において、隣接する第3次調査地から連続して弥生時代の遺物包含層と遺構面の展開することが明らかとなったため、平成26年8月6日付けで和歌山県教育委員会に当該遺物包含層と遺構面の取扱いについての協議を依頼した。協議の結果、記録保存を要する範囲を変更して調査を実施することとなり、平成26年9月3日付けで業務の委託変更契約を締結した。

### 2 基本層序と遺構面(図107)

基本層序は、図107に示したように6層に大別することができる。

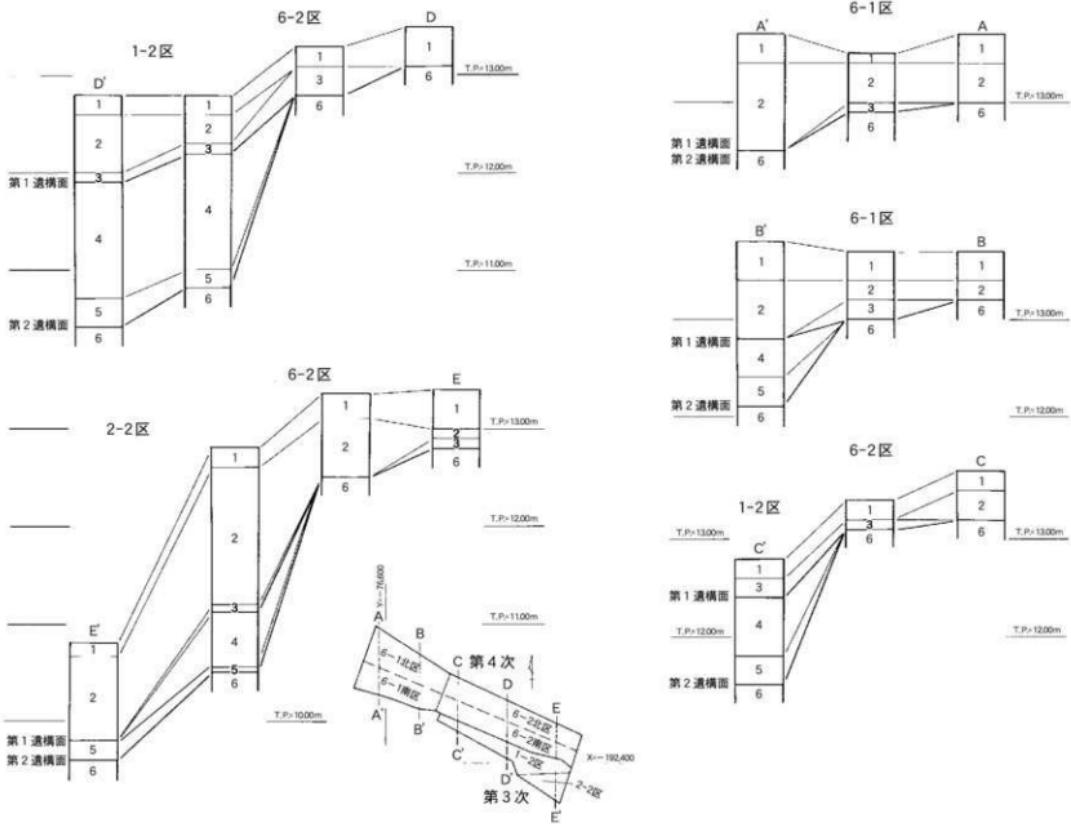
**第1層：**第1層は、現在の耕作土・床土と表土層である。6-1区と6-2区での耕作土上面の比高は、約0.40mあり、6-1区が一段高くなる。

**第2層：**第2層は、褐灰色～灰白色を呈するシルト層で、近世以降の耕作土及び造成土と考えられる。近世及び中世の遺物が少量出土した。調査区のほぼ全域に認められるが、6-2北区では耕作土直下が下記の中世遺物包含層である第3層となる範囲がある。

**第3層：**第3層は、浅黄色～黄灰色～褐灰色を呈するシルト層で、弥生時代から中世の遺物を含む遺物包含層である。細片が多く、遺物量はそれほど多くはない。南に向かうに従って厚みを増し、最大約0.30mが残存する。第3層は、第3層・第3-3層として区分して掘り分けられた。出土遺物は、第3層は室町時代を、第3-3層は奈良時代を最も新しい遺物相として捉えることができる。

**第4層：**第4層は、浅黄色～褐灰色を呈する粗砂～砂礫層及び礫を多く含むシルト層である。堆積状況から中世に周辺が水田化される際の造成土と考えられる。主に6-1南区と6-2南区

図107 平井道跡 第4次 調査区南北断面土層模式図(1:50)



で認められ、南東に向かうに従い厚く堆積する。但し、出土遺物は、弥生時代中期後葉を主体とするが、後期中頃から後半を最も新しい遺物相として捉えることができる。

**第5層**：第5層は、褐色を呈するシルト層で、弥生時代の遺物のみが出土する遺物包含層である。6-1南区と6-2南区で堆積が認められるが、6-1南区の西端部には当該層の存在しない範囲がある。層厚は地点により0.05~0.30mと異なり、出土遺物量も、6-1南区では多いが、6-2南区では少ない。

**第6層**：第6層は、黄灰色~浅黄色を呈するシルト層及び砂礫層である。遺物は出土しておらず基盤層と考えられる。

遺構の検出は、第3層掘削後の第4層上面(第1遺構面)と、第4層及び第5層掘削後の第6層上面(第2遺構面)で行った。なお、第1層及び第2層と第4層は重機により掘削排土を行い、第3層と第5層は人力で掘削を実施した。

### 3 各遺構の調査成果

(1) 第2遺構面の検出遺構と出土遺物(図108~111・116・117・147、写真図版31~34・100・109)

6-1北区のほとんどの範囲は、中世の遺物包含層である第3層が認められないため、基本的には遺構面は1面であるが、遺構の時期が同一であることから、当該遺構面検出遺構として合わせて記述を行う。検出した遺構には、弥生時代の竪穴建物、土坑、柱穴・小穴、溝がある。

以下、主要な遺構について記述する。

#### 4.2 竪穴建物・61竪穴建物(図109・116・148、写真図版33・100・110)

42竪穴建物・61竪穴建物は、6-1南区・6-1北区に跨り位置し、重複関係にある。42竪穴建物が新しく、61竪穴建物が古い。42竪穴建物は2回拡張を行っている。各々、42a竪穴建物・42b竪穴建物・42c竪穴建物とする。堆積土は共に黒褐色を呈し同一の土質で、床面の高さが同一であることから掘削中に峻別することは極めて困難であり、重複関係は断面土層で判断した。

42竪穴建物の平面規模は、42a竪穴建物が68壁溝で径東西4.5m・南北4.65m、42b竪穴建物が60壁溝で径東西4.65m・南北6.0m、42c竪穴建物が59壁溝で径東西7.02m・南北6.90m、壁高の残存の深さは0.23m前後である。平面形は、42a・42b竪穴建物がやや歪な円形、42c竪穴建物がほぼ円形を呈する。主柱穴は、42a竪穴建物が歪な配置になる5本(213・A・B・C・D柱穴)、42b・c竪穴建物が6本(69・109・103炉に重複位置・100・107・97柱穴)と考えられる。柱間は、69柱穴-2.24m-109柱穴-3.15m-103炉に重複位置-2.16m-100柱穴-1.84m-107柱穴-2.56m-97柱穴-2.04m-69柱穴となり、平面形が歪な六角形を呈する。

床面の中央に長軸(西北西-東南東)1.35m・短軸(東北東-西南西)1.03mの楕円形を呈し、深さ0.54mの62中央炉が位置する。その両側の対応する位置に径0.21・0.45m、深さ0.33・0.37mの2基の小穴を設けた、いわゆる松菊里系の住居である。中央炉には、灰層(3層)や炭灰が堆積土と混じって土質化した層(2・4層)が認められる。また、中央炉から東側に向けて104・105溝が延びる。

なお、床面の2箇所には、被熱部分(図109の網掛け部分)が認められる。

遺物は、42竪穴建物の堆積土から弥生時代中期紀伊IV-1様式の広口壺(1042)・器台(1045)、紀伊IV-2様式の外縁ハケ調整壺(1043)、紀伊V-3様式の受け口口縁壺(1044)、紀伊V-3

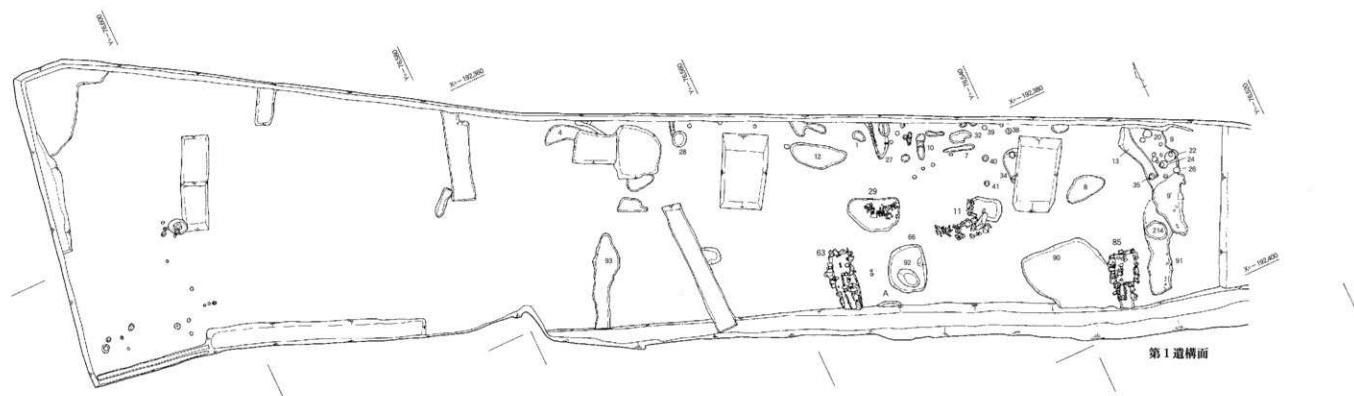
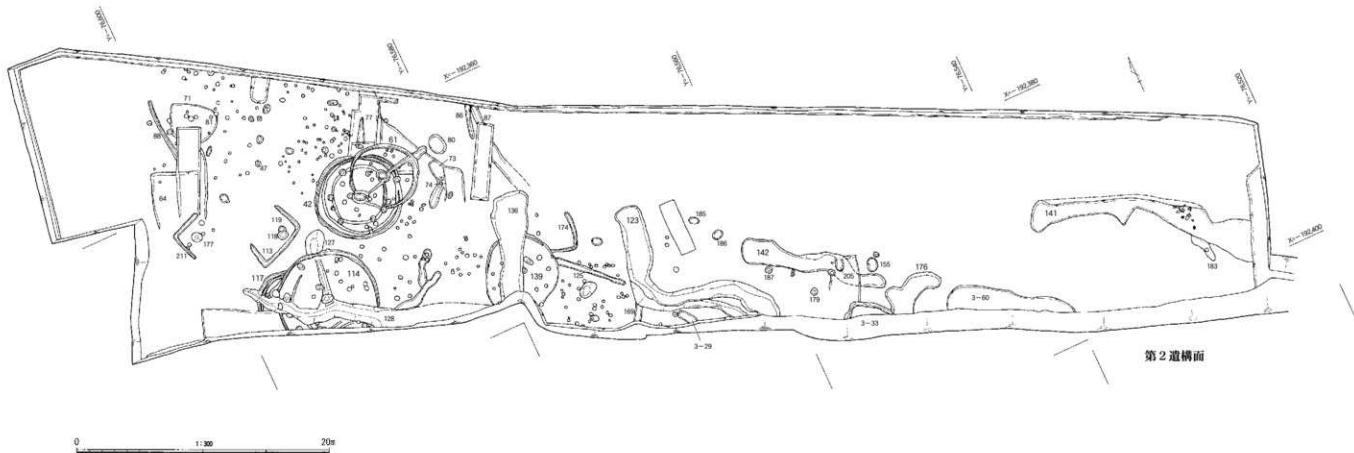


图108 平井遺跡 第4次 遺構全体平面図

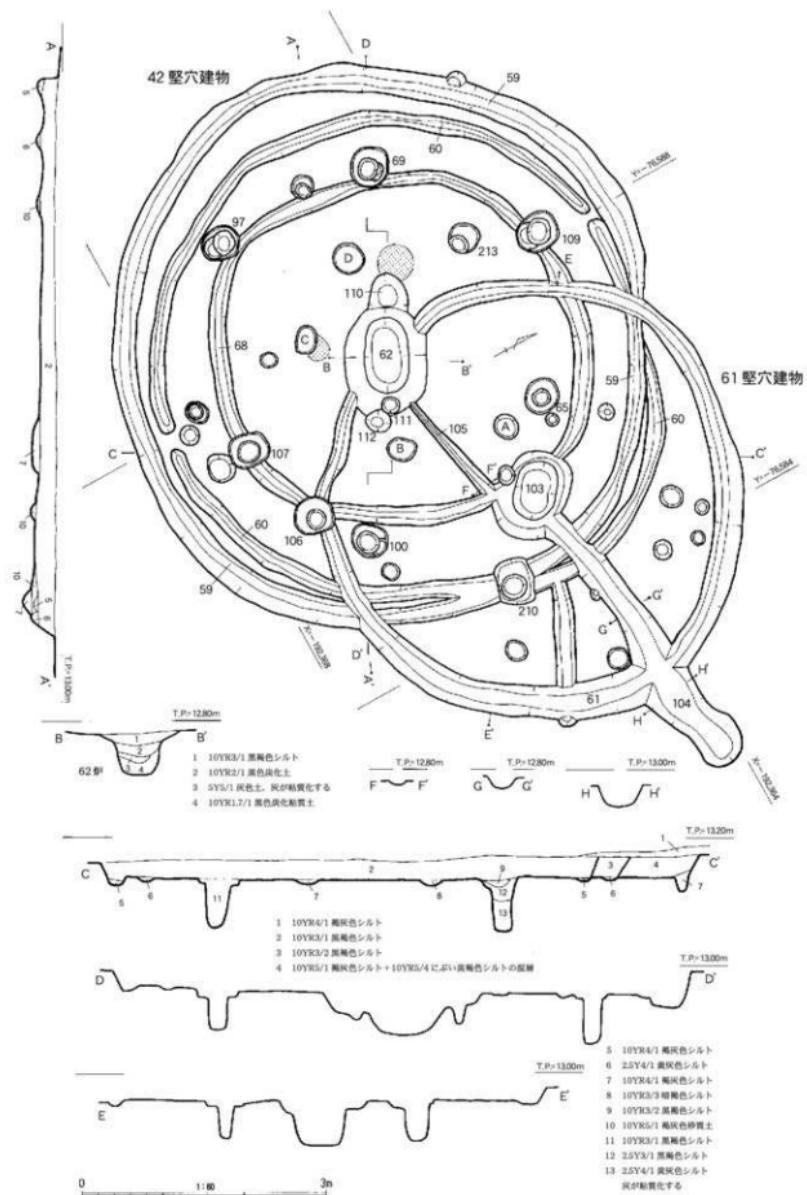


図109 平井遺跡 第4次 6-1 北区・南区 第2造構面 42・61堆穴建物実測図

～4様式の高坏脚台部(1046)、粗粒砂岩製の敲石・泥岩製の砥石(1398)などが出土した。また、42竪穴建物内の62中央炉・59壁溝・60壁溝・各柱穴からは、紀伊IV様式と考えられる弥生土器の細片が微量出土した。また、109柱穴からは、紀伊V様式の高坏と考えられる細片が出土した。

61竪穴建物は、104・105溝と重複関係にあり、104・105溝が新しい。61竪穴建物の平面規模は、東西5.52m・南北5.4m、壁高の残存の深さは0.27m前後である。平面形は、ほぼ円形を呈する。主柱穴は、65・210柱穴の2本と考えられる。柱間は、2.25mを測る。床面の中央に長軸(北西－南東)0.72m・短軸(北東－南西)0.51mの橢円形を呈し、深さ0.63mの103中央炉がある。中央炉の13層が灰層となる。中央炉の周りには、炉周堤帯が廻る。

なお、床面東側の42b竪穴建物の60壁溝と104溝とが重複する103中央炉の東側位置において、僅かに被熱部分が認められる。

61竪穴建物の堆積土からの出土遺物は、明確でないが、61壁溝から紀伊IV様式と考えられる甕・複合口縁鉢の細片及び細粒砂岩製の砥石(1399)が出土した。

#### 114竪穴建物・117竪穴建物(図110・116・147、写真図版34・100・109)

114竪穴建物・117竪穴建物は、6-1区の中央部南、42竪穴建物の南西側に位置し、重複関係にある。114竪穴建物が新しく、117竪穴建物が古い。114竪穴建物の全体の約1/4は調査区外に延びる。平面形は円形で、平面規模は径東西8.10m、壁高の残存の深さは0.15～0.30mである。主柱穴は、7本と考えられ、全体に壁際に近い箇所に位置する。柱間は、143柱穴-2.64m-212柱穴-2.79m-149柱穴-3.15m-147柱穴-3.15m-148柱穴-3.00m-197柱穴となり、比較的広い状況にある。堆積土の多くは後世の自然災害により流出したものと思われ、流出した後に黄灰色を呈する粘土が堆積していた。

また、後世の127溝に削平されるが、床面のほぼ中央に、長軸(東西)0.9m・短軸(南北)0.69m、残存する深さ0.21mの135中央炉が位置する。中央炉には、炭灰が堆積土と混じって土質化した層(2層)が認められる。

なお、床面の西側において、184壁溝が僅かに遺存している。径6m前後の歪な円形もしくは隅円方形の竪穴建物が考えられる。さらに、床面の南側において、別の竪穴建物と考えられる208・209壁溝が確認されている。推定径5～6mの小型の建物となる。

117竪穴建物は、残存する範囲からみて、やや歪な円形を呈する。132・133壁溝から推定径7m前後と考えられる。117竪穴建物も堆積土の多くが流出したものと思われ、その一部しか残存していないが、同心円状に拡張を1回行っていたことが確認できた。主柱穴は、151・138・181柱穴の何れかが該当するものと考えられる。

遺物は、114竪穴建物の堆積土から弥生時代後期紀伊V-3様式の受け口口縁甕(1047)、紀伊V-5様式の外面タタキ整形甕(1048)・高坏(1052～1054)、紀伊V-4様式の小型甕(1049)、様式不明の俵形手捏ね土器(1057)などが出土した。また、114竪穴建物内の126壁溝から紀伊V-3様式の坏部皿形の高坏(1051)、紀伊V-5様式の坏部楕形の高坏(1050)、様式不明の土玉(1056)、粗粒砂岩製の磨石(1388)が出土した。

117竪穴建物の堆積土からは、弥生時代中期紀伊IV-1様式の上位突帶文直口壺、甕の細片が出土した。その他、114竪穴建物・117竪穴建物の何れかに限定できない出土層位から紀伊V-5様式の屈折口縁の鉢(1055)が出土した。

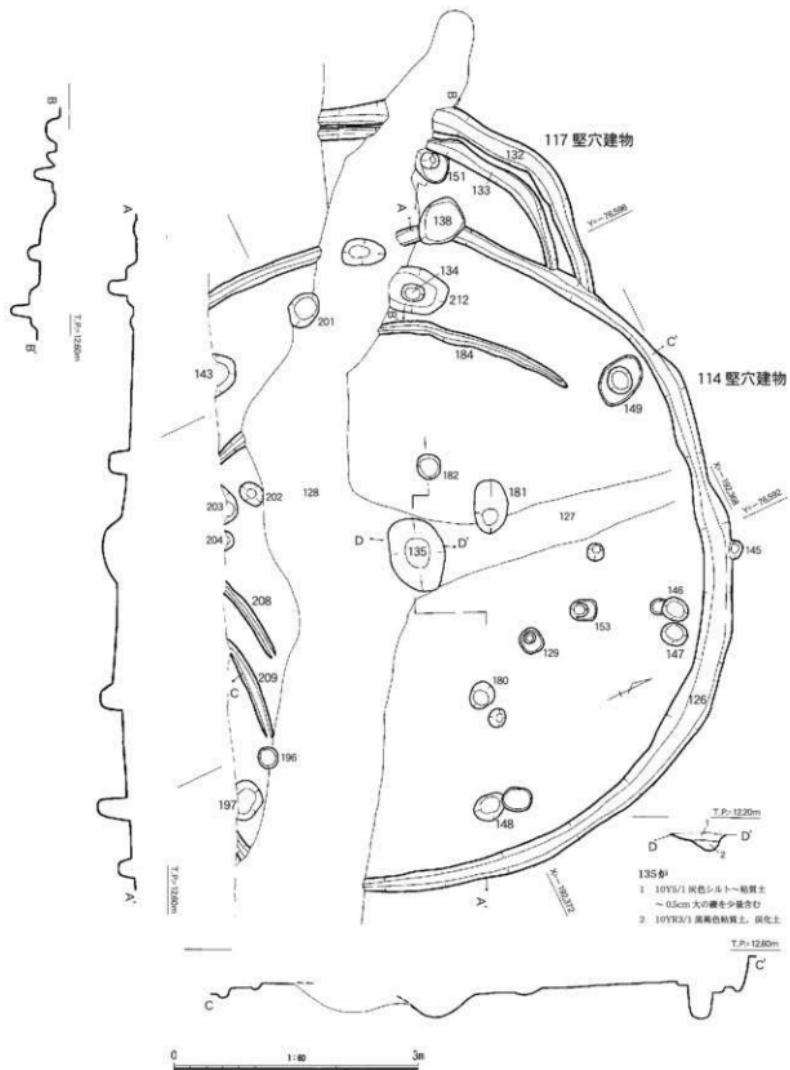


図110 平井遺跡 第4次 6-1南区 第2遺構面 114・117竪穴建物実測図

### 139 竪穴建物(図111・116、写真図版34・100)

139堅穴建物は、6-1南区と6-2南区の境界付近に位置する。中央部を水田に伴う136溝で破壊されている。平面形はやや歪であるが円形で、平面規模は径南北6.12m・東西6.06m、壁

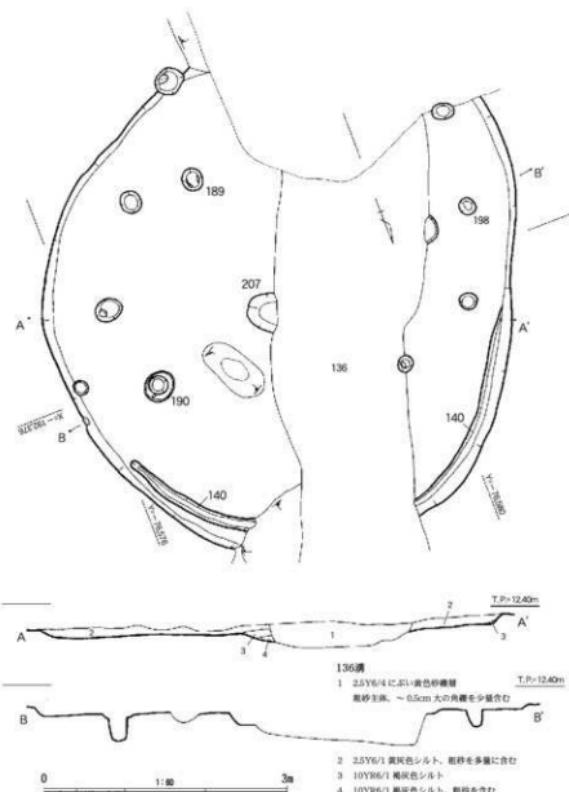


図111 平井遺跡 第4次 6-1南区・6-2南区 第2遺構面 139竪穴建物実測図

高の残存の深さは最大0.12mである。壁溝は、北側約1/3に認められる。主柱穴は、4本と考えられるが、内2基は136溝によって削平されたものと考えられる。189柱穴-190柱穴の柱間は、2.55mである。後世の136溝に削平されるが、床面のほぼ中央に、長軸(東西)0.39m以上・短軸(南北)0.48m、残存する深さ0.21mの207中央炉が位置する。炭灰層は認められない。

遺物は、139竪穴建物の堆積土から弥生時代中期紀伊IV-1様式の外面タタキ整形甕(1058)・高坏脚台部(1059)、紀伊III-3様式の高坏、紀伊IV-1様式の細頸壺・凹線文高坏・外面ハケ調整甕・外面タタキ整形甕などの細片が微量出土した。また、139竪穴建物内の140壁溝・各柱穴からは、紀伊IV様式と考えられる弥生土器の細片が微量出土した。

#### 123・142・176溝状遺構(図108・116・117、写真図版31・32)

6-2南区で検出した深さ20~30cmの溝状の遺構である。北西から南東方向に向かって下降する斜面地上に形成された自然の凹状流路である可能性が高いと考えられる。

遺物は、123溝状遺構から弥生時代中期紀伊IV-1様式の広口壺(1071)・外面タタキ整形甕(1073)・凹線文加飾器台(1074)、後期紀伊V-3様式の広口壺(1070)が出土した。

#### その他の第2遺構面の検出遺構と出土遺物(図116・147、写真図版100・109)

その他、6-2南区に位置する205土坑から弥生時代中期紀伊III-3様式の紀伊形甕(1066)・紀伊IV-1様式の壺(1065)、6-1北区に位置する45土坑から紀伊IV-2様式の広口壺(1060)・甕(1061)・高環脚台部裾(1062)、6-1北区に位置する73土坑から紀伊IV-2様式の小型甕(1063)、6-1南区に位置する128溝から紀伊IV-1様式の甕(1075)・高環脚柱部(1077)、後期紀伊V-3様式の楕円高環(1076)、6-1南区から6-2南区にかけて延びる136溝から紀伊III-2様式の上部突帯文直口壺(1067)・高環脚台部基部(1068)、緑泥片岩製の石庖丁(1374)などが出土した。

#### (2)第1遺構面の検出遺構と出土遺物(図108・112~115・117~119・148・152、写真図版35~40・101~103・110・112)

検出した遺構には、古墳の横穴式石室、古墳時代の土坑、古代から中世にかけての柱穴・土坑・溝がある。

#### 6.3 横穴式石室(図112・117・148・152、写真図版36・37・101・110・112)

6.3横穴式石室は、6-2南区中央部に位置する。主軸方向はN-15°30' Eで、南西方向に開口する両袖式の横穴式石室である。玄室と羨道の基底部の石積み1~2段分のみが残存する。玄室の基底石の平面規模は、長軸(北北東-南南西)2.50m・短軸(西北西-東南東)1.20mである。玄室の南東部には、長さ1.0m・幅0.6mの小室と考えられる部分がある。羨道は、幅0.8~0.9m、長さ2.0m分を検出し、玄室の主軸方位よりやや東に振る。

玄室と羨道の中央部に20cm前後の割石を使用した排水溝を設けている。石室の石材は、奥壁に最大70cm×80cm、左側壁に64cm×77cmの大きさのものを使用し、その他40cm×60cm前後の大型のものが多い。積み石は、玄室では横積みして使用しているものが多くみられ、小口積みの石材もあり統一性が認められない。墓壙は、幅2.40~2.80m前後で、玄室は中心からやや左寄りに偏って構築している。なお、写真図版での右側壁及び左側壁は、開口部から奥壁に向かっての左右を指す。

遺物は、玄室の奥壁に接した床面から10~22cm浮いた位置から固まった状態で出土した。古墳時代終末期の土師器丸底短頸壺(1081)・丸底細頸壺(1082)や須恵器高環(1085)・平瓶(1086)が出土した。また、小室と考えられる区画内から須恵器高環(1084)、積み石と積み石の間から須恵器脚台付長頸壺(1083)が出土した。その他、銅芯銀鍍銀耳環(1422)が1点出土した。耳環は、外径2.2~2.5cm、芯外径0.5~0.5cm、残存重量6.01gである。やや鋏化が進み、中空である。また、玄室内から採取した堆積土の洗浄から銅芯銀鍍銀耳環(1421)・剥離の著しい耳環(1423)、多数の鉄製鉗・釘(1425~1436)、鉄製鉗(1436・1437)、鉄製錐(1438)、刀の鞘口金具と考えられる鉄製品(1439)などが出土した。その他、石製品では、珪化木製の小玉(1400~1403)・滑石製の小玉(1404・1405)がある。

また、出土層位が明確でないが、石室内の堆積土から鎌倉時代の土師器皿・小皿・土釜、瓦器楕(1096)、積み石と積み石の間から鎌倉時代の土師器土釜などが出土した。

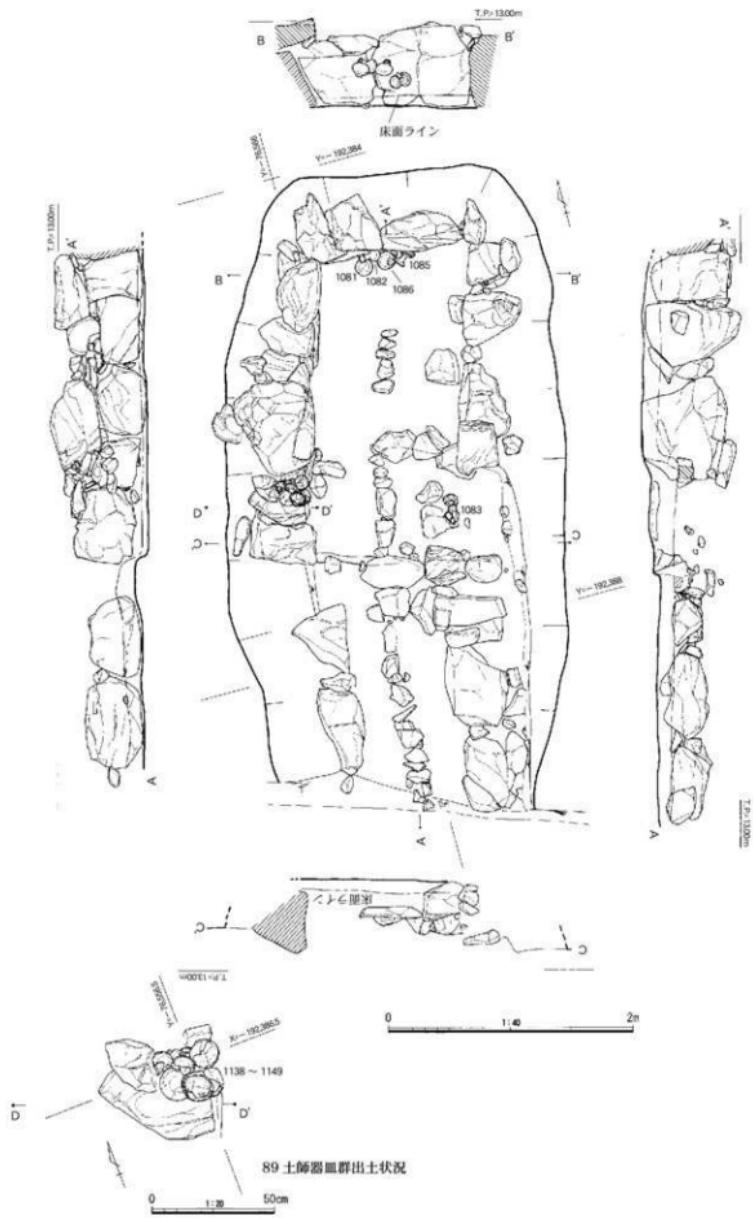


図112 平井遺跡 第4次 6-2南区 第1造構面 63横穴式石室実測図

8 5 横穴式石室(図113・117・152、写真図版38・39・101・102・112)

85横穴式石室は、63横穴式石室の約23m南東に位置する。主軸方向はN-23°30' -Eで、南西方向に開口する両袖式の横穴式石室である。63横穴式石室と同様に玄室と羨道の基底部の石積み1～2段分のみが残存する。玄室の基底石の平面規模は、長軸(北北東－南南西)2.2m・短軸

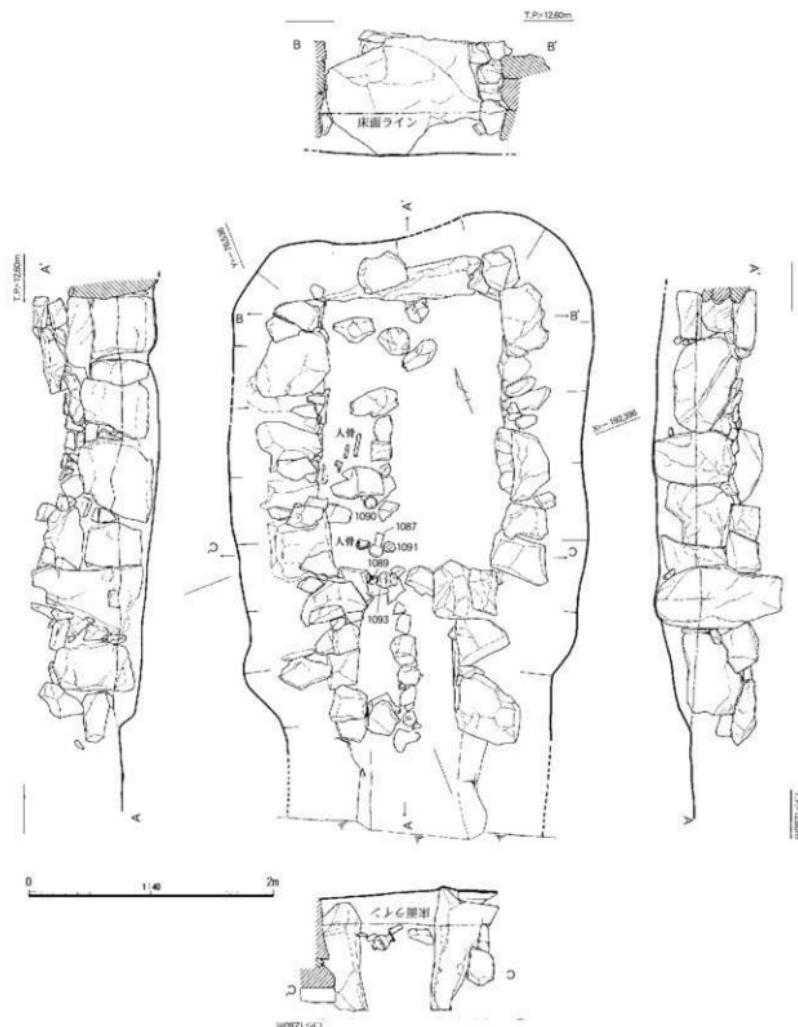


図113 平井遺跡 第4次 6-2南区 第1遺構面 85横穴式石室実測図

(西北西－東南東)1.4mである。玄室の南西部には、長さ1.5m・幅0.5mの小室と考えられる部分がある。羨道は、幅0.8m・長さ1.5m分を検出した。石材の抜き取られた部分を含めると長さは、2.2mである。

羨道の中央部に20cm前後の割石を使用した排水溝を設けている。玄室は、63横穴式石室と同じく50～65cm大の大型の石材を使用している。最も規模の大きな石材は奥壁の1.0m×1.3mで、側壁の数点は横積みあるいは縦積みして使用しているが、小口積みの石材もあり統一性が認められない。また、玄門部に当る位置には、幅54cm・高さ0.9～1.0mの大型の石材を立て門柱立石としている。墓壙は、幅2.8～3.0m前後で、石室はほぼ中央に構築している。

遺物は、玄室の南西隅から古墳時代終末期の土師器丸底細頸壺(1087)や須恵器脚台付壺(1093)・坪身(1089・1090)・壺蓋(1091)が出土した。床面に近い堆積土から土師器高杯(1088)、須恵器脚台部(1094)なども出土した。その他、羨道から銅芯金鍍金耳環(1424)が出土した。耳環は、外径2.2～2.3cm、芯外径0.55～0.7cm、残存重量5.79gである。遺存状態は良好で、中空である。また、玄室内から採取した堆積土の洗浄から多数の鉄製鉗・釘(1440～1450)、鉄製錐(1451)、刀の柄頭金具と考えられる鉄製品(1452)、不明鉄製品(1453)などが出土した。

なお、玄室中央部の左側壁側で配石を伴う小室で人骨が出土した。頭部と脚部の一部と考えられる。

また、85横穴式石室を検出するに際して、検出面から土師器小皿(1095)、瓦器椀(1098)・小皿(1097)、瓦質捕鉢(1099)、備前捕鉢(1100)などの鎌倉時代から室町時代の遺物がまとまって出土した。

#### 1 1 土坑(図114・118、写真図版40・102)

11土坑は、6～2区中央部に位置し、北区・南区に跨る。掘り込みの平面形は、隅円長方形を呈する。平面規模は、長軸(北西－南東)2.20m、短軸(北東－南西)1.36mを測り、掘り込みの残存の深さは0.13mである。土坑として取り扱ったが、最大1.56×0.64mの巨石を起点として、10～20cm大の割石が南西方向に帯状に延びる。但し、掘り込みの南西部で石室の一部かと考えられる角を成す配石があることから、破壊された横穴式石室もしくは竪穴系小石室の残骸である可能性も考えられる。掘り込みと巨石・割石との関係は明確でない。

遺物は、図114の○印の位置から須恵器提瓶(1102)が出土したのみである。

#### 2 9 土坑(図115・118、写真図版40・102)

29土坑は、11土坑同様に6～2区中央部に位置し、北区・南区に跨り、63横穴式石室に隣接する。土坑の平面形は、歪な楕円形もしくは不整形を呈する。平面規模は、長軸(北西－南東)4.09m、短軸(北東－南西)2.55mを測る。残存の深さは、0.07～0.15mと浅く、堆積土中には10～15cm前後の割石が多数含まれる。土坑の中央に、長さ54cm・幅30cmの石材が位置し、土坑の南東側に偏って割石が帯状に広がりをみせる。土坑の基底部に接して、古墳時代終末期の土師器(1103)と須恵器(1104～1106)が出土した。

遺物は、土坑の北西部に固まって須恵器壺(1106)を中心に、土師器壺(1103)、須恵器平瓶(1104)・横瓶(1105)が土圧によって押し潰された状態で出土した。何れも完存品に近い状態であるが、割れが著しい。特に、須恵器壺(1106)は図上での復元である。なお、須恵器横瓶(1105)の内面の当て具痕に青海波文と車輪文が認められる。

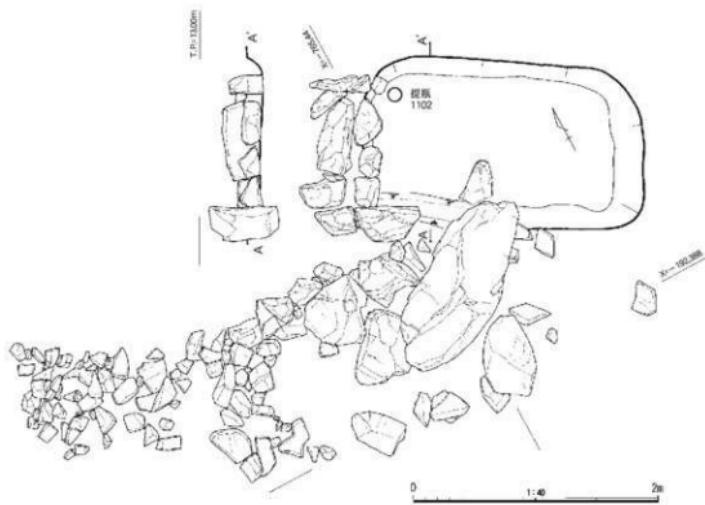


図114 平井遺跡 第4次 6-2南区 第1遺構面 11土坑実測図

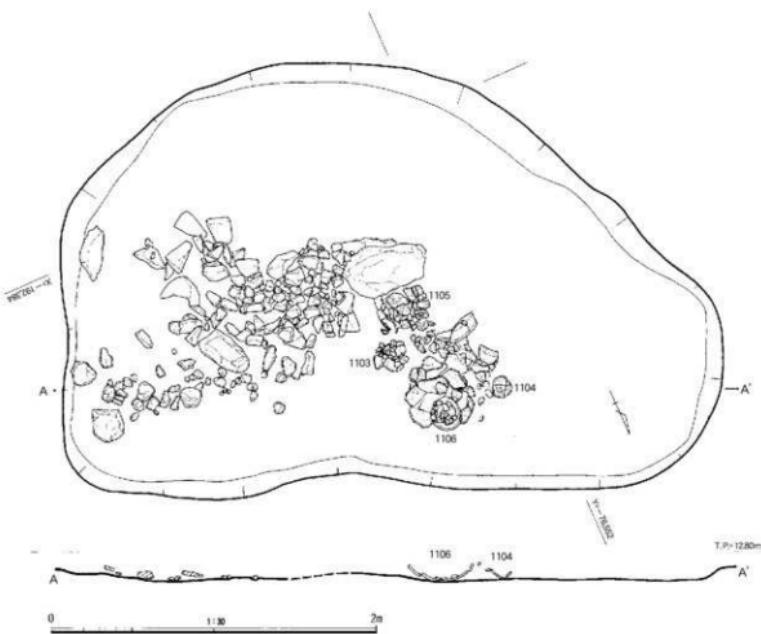


図115 平井遺跡 第4次 6-2南区 第1遺構面 29土坑実測図

## 8.9 土師器皿群(図112・119、写真図版40・103)

89土師器皿群は、63横穴式石室の玄室左側壁の残存する積み石の上に固めて置かれた状態で検出した中世の土師器皿群である。土師器皿(1138~1147)9個体以上・小皿(1148・1149)3個体以上が出土した。皿2枚の口縁部を上下に合わせた状態で検出されたことから、地鎮等何らかの祭祀行為に伴うものと考えられる。中には、見込に墨書の施された皿(1138)も含まれている。

### 1.4.1溝(図108・118、写真図版31・32)

141溝は、6-2南区に位置する。残存の深さ0.20~0.30mの溝状の遺構である。北西から南東方向に向かって下降する斜面地上に形成された自然の凹状流路である可能性が高いと考えられる。

遺物は少ないが、古墳時代終末期の土師器甕(1107・1108)、須恵器椀(1109)・長頸壺(1110)・高坏脚台部(1111)が出土した。また、獸骨と思われる骨片が複数点出土した。

### その他の第1遺構面の検出遺構と出土遺物(図119、写真図版103)

その他、6-2北区に位置する9土坑から鎌倉時代の土師器皿(1112~1115)・小皿(1116~1119)、瓦器椀(1120~1122)・小皿(1123・1124)、6-2南区に位置する84罐群から鎌倉時代の瓦器椀(1125)・小皿(1126)、6-2南区に位置する91土坑から鎌倉時代の土師器皿(1127)・小皿(1129・1130)、瓦器椀(1128)、6-2南区に位置する90土坑から鎌倉時代の土師器土釜(1131)、6-2南区に位置する66土坑から鎌倉時代の土師器皿(1133)、軒平瓦(1137)・丸瓦(1136)、室町時代の土師器皿(1133・1135)・小皿(1132)、6-2南区に位置する102土坑から室町時代乗岡編年中世4b期の備前焼壺(1150)などが出土した。

#### (2) 遺物包含層と出土遺物(図152、写真図版112)

遺物包含層からの出土遺物は、全体的に少量である。

#### 遺物包含層第4層

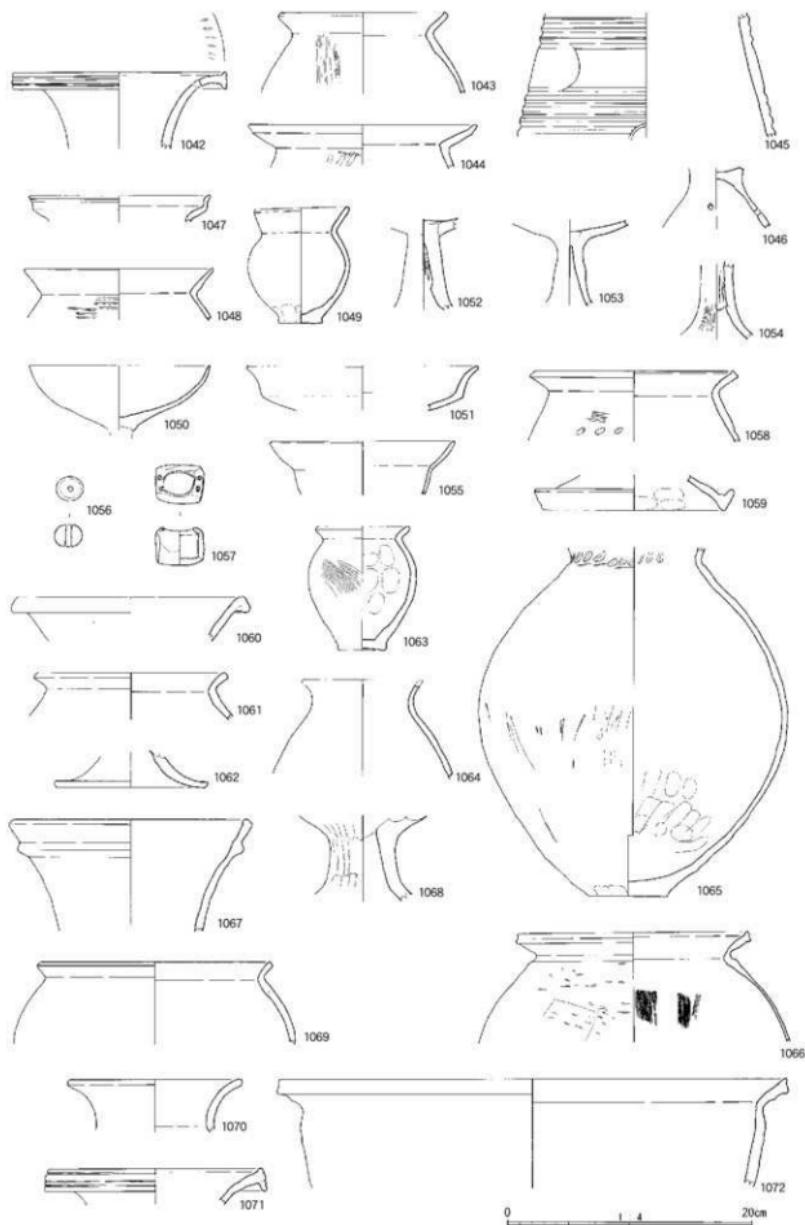
遺物包含層第4層からは、弥生時代中期紀伊III-2様式の紀伊形甕、紀伊IV-1様式の広口壺・細頸壺・甕・鉢などと共に、後期紀伊V-4様式の広口壺・甕・高坏・小型鉢などが出土した。また、僅かであるが、前期紀伊I-2様式の突帶文鉢、紀伊形甕も出土した。

#### 遺物包含層第3-3層

遺物包含層第3-3層からは、弥生時代中期紀伊IV-1様式の広口壺・凹線文加飾太頸壺・高坏、後期紀伊V-1様式の高坏、紀伊V-3~4様式の広口壺・短頸壺・無頸壺・小型高坏・甕などと共に、古墳時代終末期の須恵器坏・蓋、奈良時代の土師器皿・甕、須恵器坏・甕などが出土した。また、緑泥片岩製の石庖丁も出土した。

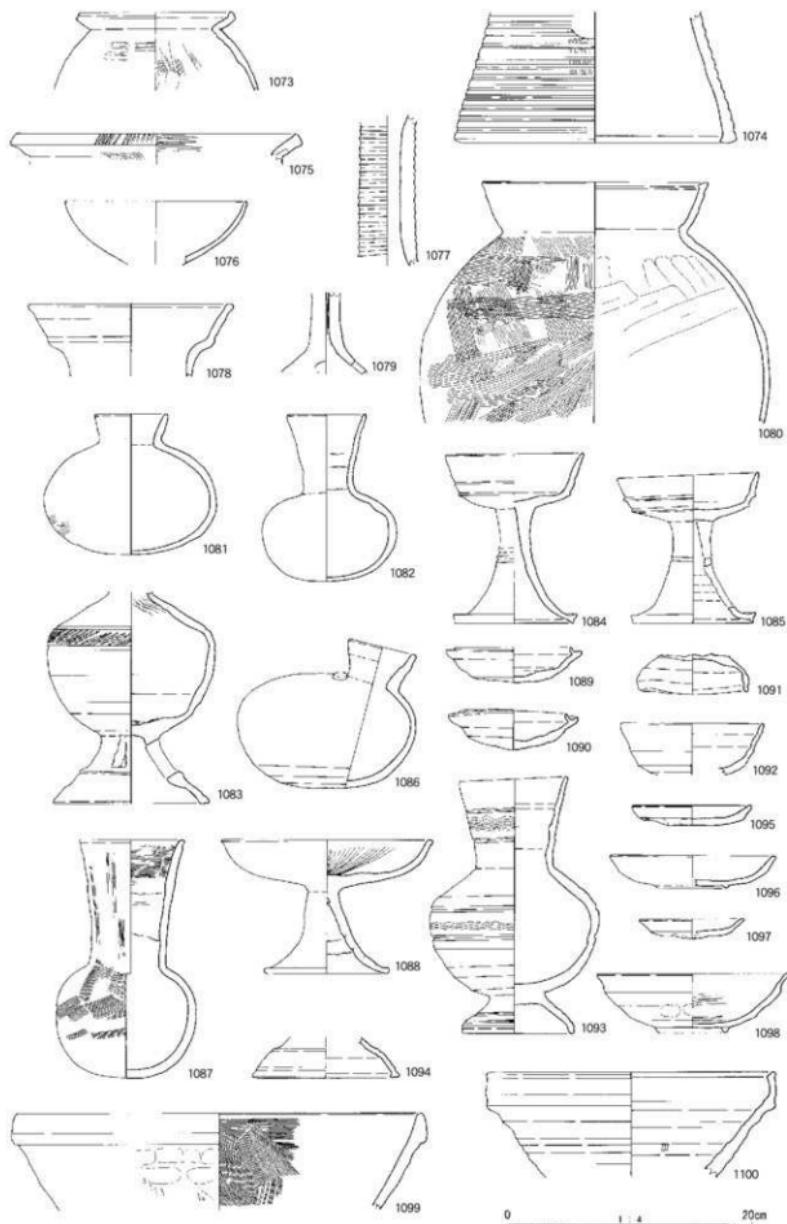
#### 遺物包含層第3層

遺物包含層第3層からは、弥生時代中期紀伊III-2様式に対応する生駒山西麓産胎土の壺、紀伊IV-1様式の凹線文加飾広口壺・甕・高坏、後期V-3・4様式の広口壺・高坏、有溝土鍤、奈良時代の須恵器短頸壺・甕などと共に鎌倉時代の土師器皿・瓦器椀・瀬戸灰釉壺、室町時代の備前焼擂鉢・甕・無文青磁碗・平瓦などが出土した。また、古墳時代と考えられる滑石製の有孔円盤も出土した。その他、金属製品では、聖宋元宝(1460)がある。



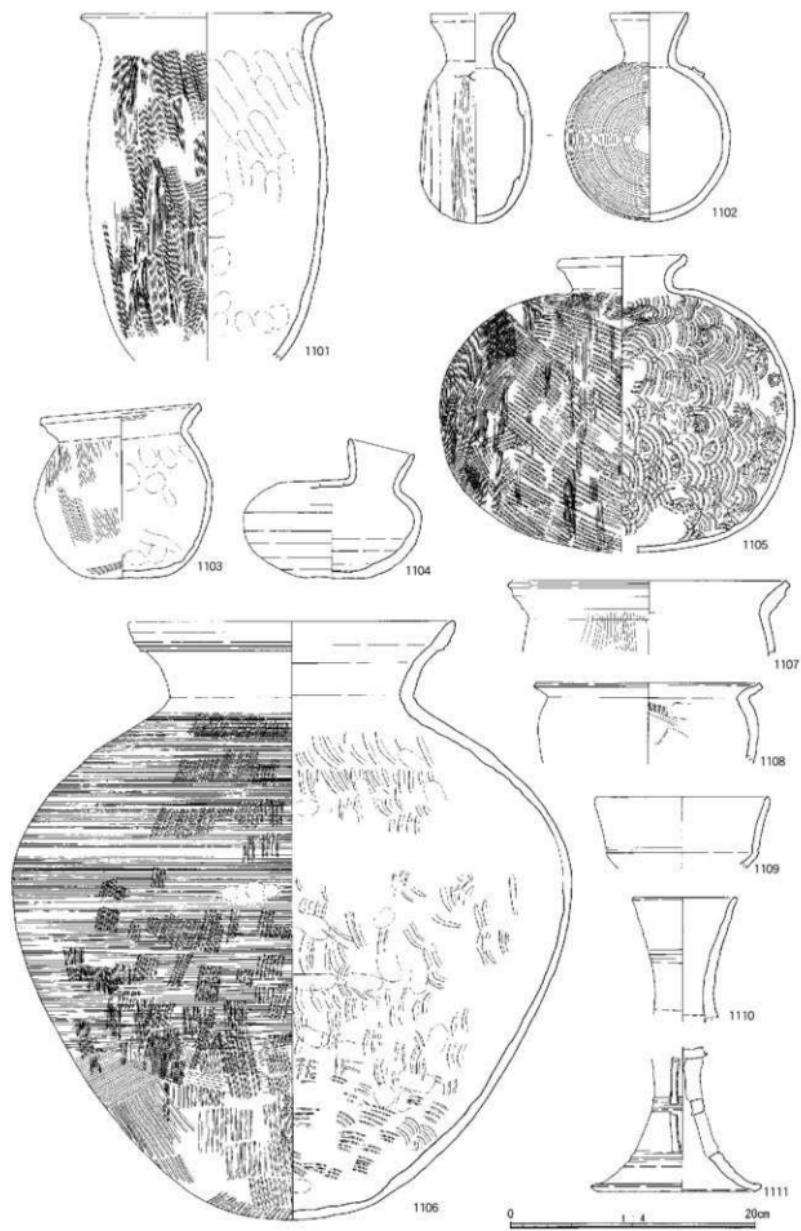
1042~1046: 42号穴建物, 1047~1055: 114~117号穴建物, 1048~1054·1056·1057: 114号穴建物, 1058·1059: 139号穴建物, 1060~1062: 45号土坑, 1063: 73号土坑, 1064: 185号小穴, 1065·1066: 205号土坑, 1067·1068: 136号溝, 1069: 74号小穴, 1070·1071: 123号溝, 1072: 81号小穴

图116 平井遺跡 第4次 第2遣構面 遺構出土遺物実測図



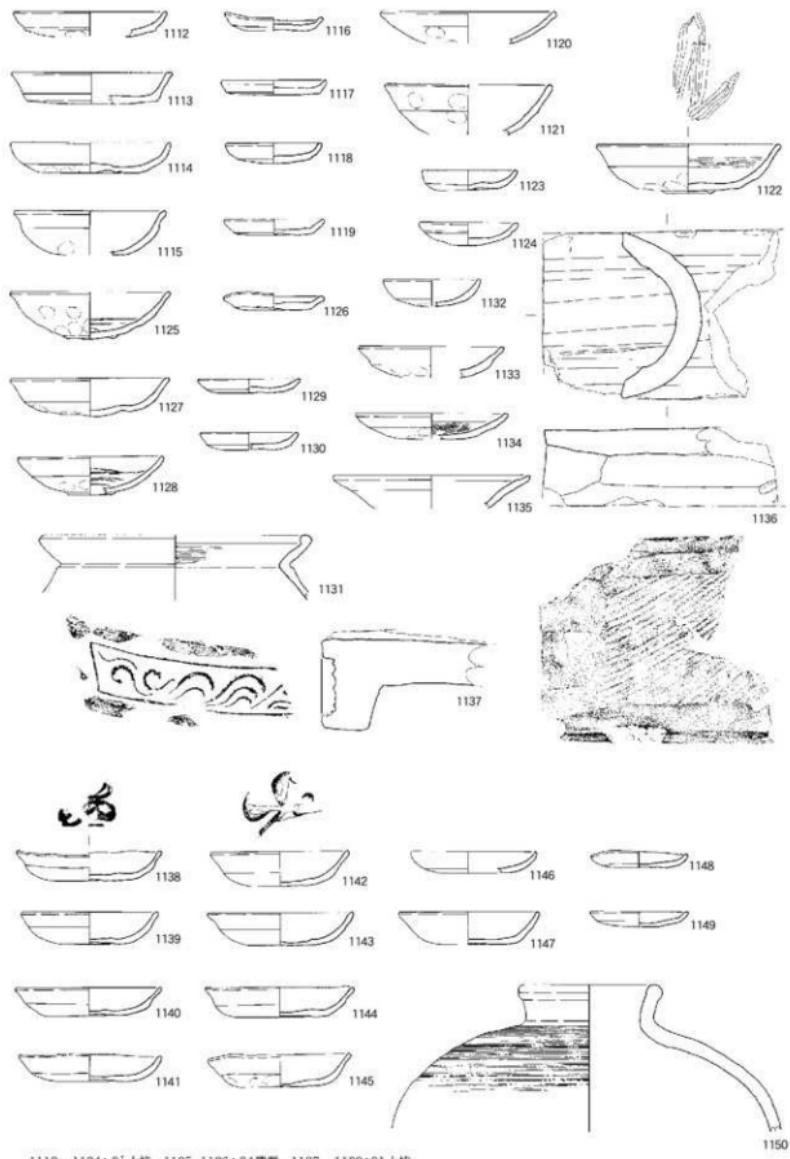
1073~1074:123溝。1075~1077:128溝。1078~1079:127溝。1080:93溝。1081~1086~1096:63横穴式石室。  
1087~1094:85横穴式石室。1095~1097~1100:85横穴式石室検出面

図117 平井遺跡 第4次 第2遺構面・第1遺構面 遺構出土遺物実測図



1101:183土坑、1102:11土坑、1103～1106:29土坑、1107～1111:141溝

図118 平井遺跡 第4次 第1遺構面 遺構出土遺物実測図1



1112～1124: 9' 土坑, 1125・1126: 84 瓦群, 1127～1130: 91 土坑,

1131: 90 土坑, 1132～1137: 66 土坑, 1138～1149: 89 土師器瓦群,

1150: 102 土坑

0 1 4 20cm

図119 平井遺跡 第4次 第1遺構面 遺構出土遺物実測図2

## 第5節 平井II遺跡第1次調査の成果

### 1 第1次調査の概要

平井II遺跡は、国道建設に伴う工事で土器が発見されたことにより新規に埋蔵文化財包蔵地として認定された遺跡である。調査地は、都市計画道路西鷹山口線大谷交差点の北西に位置し、調査地内には調査の契機となった仮設の排水溝が設置されている。第一次調査は、 $1.059\text{m}^2$ の調査を行った。

調査の結果、古墳時代と中世の遺構を検出した。古墳時代の遺構である土坑からは、初期須恵器がまとまって出土した。中世の遺構には、土坑・柱穴・小穴・溝がある。瓦器軸が完存品で出土した柱穴が2基あり、地鎮に開削した遺構と考えられる。また、古墳時代と中世の遺物を含む遺物包含層上面で数多くの近世の土坑や溝を検出した。

遺構及び遺物包含層から、古墳時代から近世にかけての時期の遺物が遺物収納コンテナ46箱分が出土した。古墳時代の遺物には、土師器や上述の初期須恵器のほか、埴輪片がある。中世の遺物には、土師器・瓦器・陶磁器や宋錢などがある。近世の遺物は、陶磁器や

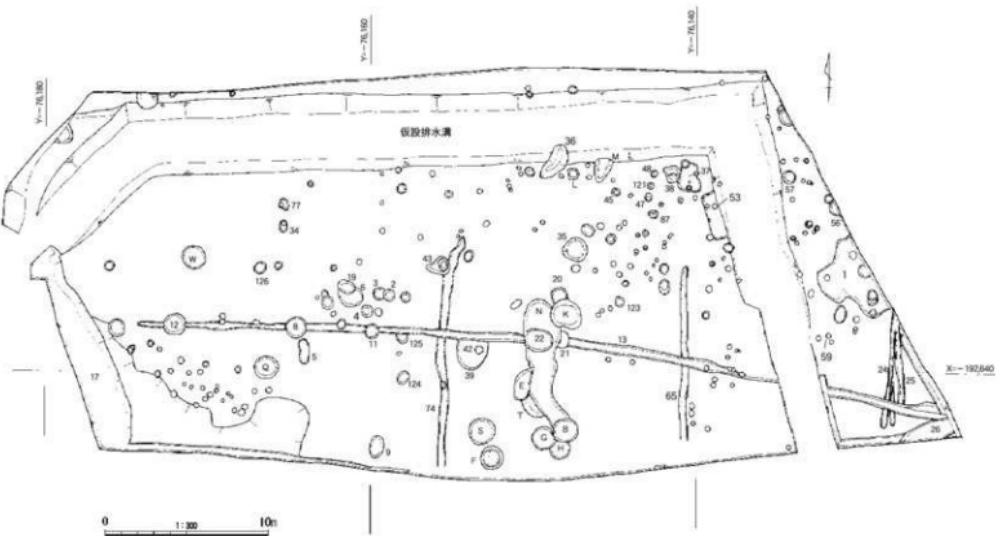


図120 平井II遺跡 第1次 遺構全体平面図

瓦のほか、煙管や錢貨(寛永通寶)・石臼などが出土した。

調査区名は、1区とし、調査区内に十字に設定した土層観察用畔(セクションベルト)を利用して便宜的に1-1区から1-4区に細分した。また、調査の契機となった仮設排水溝によって分断された箇所については、1-1北区などと呼称した。

## 2 基本層序と遺構面(写真図版42)

土層は第1層から第3層に大別することができる。

**第1層**: 第1層は耕作土及び底土で、調査区東端の一部の範囲を除き、調査前の排水溝工事等に伴い掘削除去されていた。

**第2層**: 第2層は、黄色～褐灰色系の砂質土で、古墳時代及び中世の遺物の他、近世(18世紀)の遺物が多数含まれていた。2層に分層が可能で、全体の層厚は20～30cm前後あるが、北に向かうに従って次第に薄くなる。

**第3層**: 第3層は、第3-1層と第3-2層に分層した。第3-1層は第2層に近似した褐灰色～灰黄褐色のシルト層で風化した砂岩礫を含む。当初、セクションベルトに沿って設定したサブトレーナーの掘削時には第2層として判断していたが、掘削を開始したところ近世以降の遺物を全く含まないことから、第3-1層とした。1-2区の西半部と1-3区に堆積し、厚さは10～20cmである。第3-2層は、黒色～黒褐色のシルト層で厚さは約20cmである。風化礫が多量に含まれている。第3-1層及び第3-2層からは古墳時代と中世の遺物が出土した。

なお、第2層及び第3層出土遺物には、古墳時代の初期須恵器と埴輪が含まれている。

**第3層以下**: 第3層以下は、基盤層である。基盤層は、調査区中央部から西側では(円)礫層あるいは砂礫層である。東半部では黄色系のシルト層であるが、深い遺構の基底部が礫層となるものが見受けられることから、シルト層の下位が礫層となることも考えられる。基盤層面は北東から南西に向かって下降しており、調査区北東隅で標高6.2m、南西隅では標高4.7mであり、比高は約1.5mである。

遺構は、第3層上面で近世の土坑等を、基盤層面で古墳時代と中世の土坑、柱穴・小穴などを検出した。

## 3 各遺構の調査成果

### (1) 検出遺構と出土遺物(図120～129・147、写真図版41～45、104～106・108)

以下、主な遺構について記述する。

#### 1 土坑(図121・126・127、巻頭写真図版2、写真図版42～44、104・105)

1土坑は、調査区の東端部1-1東区・1-2東区に跨って位置する。北東側が調査区外に延びるため全容は不明である。平面形は一見不整形であるが、北東側の長方形あるいは正方形の南西辺中央北側が外(南西側)へ張出したような形態にも見える。平面規模は、長軸(北西～南東)5.3m・短軸(南西～北東)1.86m以上で、南西側の張出した部分は長軸(北西～南東)2.3m・短軸(南西～北東)1.3mである。残存の深さは、0.30～0.40mで、堆積土は大きく3層に分層が可能である。2層は、遺物包含層第3-2層同様の風化した砂岩礫を多く含む黒褐色シルトである。3層は、土色や土質は2層と同じであるが、含まれる礫の量は少なく炭が多く含まれている。4

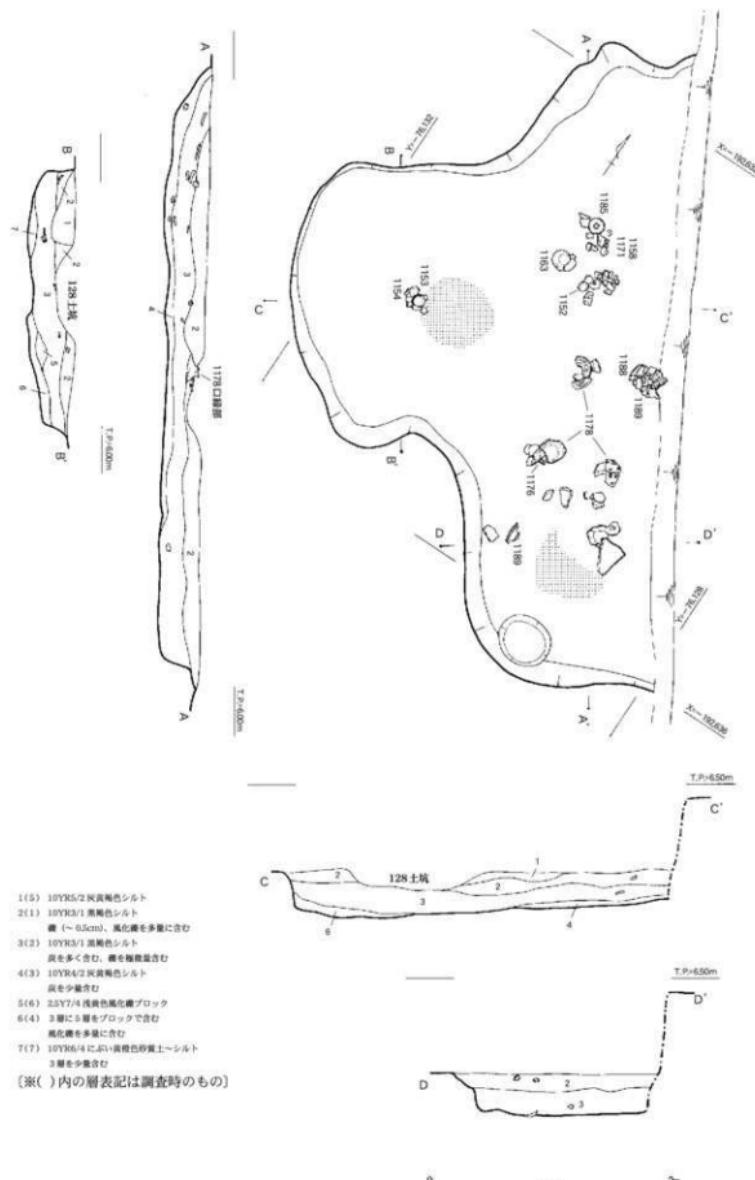


図121 平井II遺跡 第1次 1区 1土坑実測図

層は、炭を少量含む基盤層に近い灰黄褐色シルトである。壁面は、北側では緩やかに立ち上がるが、中央から南側では垂直あるいは2段掘り状の形状を呈する。基底部には深さ0.05～0.10m前後の浅い凹みが複数箇所で認められる。また、焼土あるいは被熱によるものと思われる赤変した範囲が二箇所に認められる(図121の網掛け部分)が、硬く焼け結ったような状態ではない。また、調査範囲内で柱穴等は確認できなかった。遺物は、古墳時代中期の土師器のほか、初期須恵器が多数出土した。初期須恵器は堆積土全体から出土したが、2層下部(3層上面)からの出土が量的に最も多い。

遺物は、古墳時代中期の土師器小型壺(1151・1152)・坏(1164・1165)・甕(1153～1163)・高坏(1166～1176)・移動式竈(1177)、初期須恵器広口壺(1178・1179・1182)・直口壺(1180・1181)・蓋(1183)・高坏(1184・1185)・器台(1186～1189)などが出土した。

遺物の内、土師器甕の下半部(1163)や移動式竈(1177)の体部は、平行タタキ整形である。土師器高坏の脚台部(1166～1171)は、内面が粘土紐巻き上げ技法による整形であり、時期的に最新の事例となる。

初期須恵器器台(1189)には、筒部から裾部にかけて長方形及び円形の透かし孔と共に櫛描波状文・櫛描組紐文・篦描斜線文等が施される。壺の体部には平行タタキや格子タタキ(1178)が認められる。

### 3 6 土坑(写真図版45)

36土坑は、1-1区の北端に位置する。平面形は、歪な長楕円形を呈する。平面規模は、長軸(北東-南西)2.4m・短軸(北西-南東)1.1mを測り、残存の深さは0.8mである。断面形は、深いU字形を呈する。堆積土は、第3-1層である。遺物が出土していないため時期は不明である。

### 4 土坑(図122・128、写真図版45・106)

4土坑は、1-3区の北端に位置する。平面形は、やや歪な円形を呈し、断面形は二段落ちとなる。平面規模は、長軸(南北)0.70m・短軸(東西)0.60mを測り、残存の深さは0.25mである。

遺物は、土坑の南東側に偏り、法面に接して、土師器皿(1215)が出土した。土師器皿は、形態的特徴から鎌倉時代13世紀後半に帰属するものと考えられる。

### 5 3 柱穴(図123・128、写真図版45・106)

53柱穴は、1-1区の東端に位置する。平面形はほぼ円形で、径南北0.33m・東西0.32mを測り、残存の深さは0.14mである。断面形は、浅いU字形を呈する。

遺物は、柱穴の基底部に接して、瓦器椀(1209)1個体と東播系須恵器捏鉢(1211)約1/2個体が出土した。

### 5 9 柱穴(図124・128、写真図版45・106)

59柱穴は、1-2東区の西端に位置する。平面形はほぼ円形で、径南北0.30m・東西0.31mを測り、残存の深さは0.31mである。断面形は、深いU字形を呈する。

遺物は、柱穴の上位層から、瓦器椀(1212・1213)2個体が折り重なって出土した。また、土師器皿(1214)は、瓦器椀より上位の堆積土から出土した。瓦器椀とは、時期的な差が認められるものである。

### 1 3 溝(図120・128、写真図版41)

13溝は、1-2東区から1-3区にかけて位置する溝で、延長約54m分を検出した。調査区

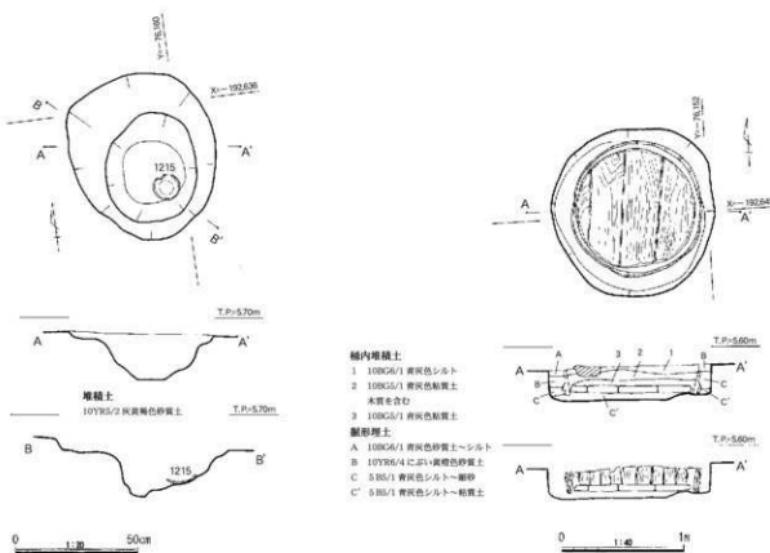


図122 平井II遺跡 第1次 1区  
4土坑実測図

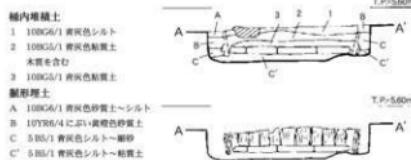


図125 平井II遺跡 第1次 1区 F土坑実測図

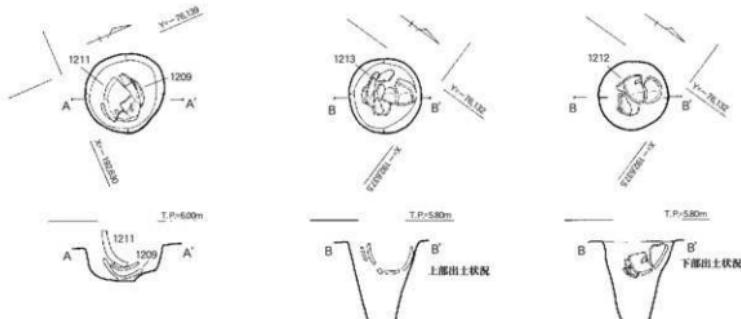


図123 平井II遺跡 第1次 1区  
53柱穴実測図

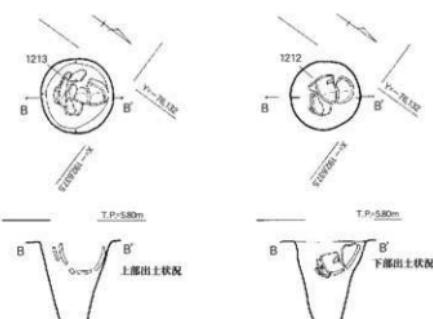


図124 平井II遺跡 第1次 1区 59柱穴実測図

東側で幅0.6m・残存の深さ0.3m、西側では幅0.3m・残存の深さ0.05m前後である。堆積土は第3～1層で、溝の基底部は東から西に向かって0.2m下降する。

遺物は、室町時代と考えられる土師器小皿(1218)、瓦器椀など中世の遺物が出土した。

#### F 17溝(図120・127・128、写真図版106)

17溝は、1～3区の西端に位置し、北北西から南南東方向に延びる。

遺物は、古墳時代中期の須恵器壺身(1190)、鎌倉時代の土師器皿(1219・1220)・小皿(1221～1223)が出土した。

#### F 土坑(図125、写真図版45)

F 土坑は、1～2区の南端に位置する。掘形の平面形は、やや歪な円形を呈する。平面規模は、径南北1.40m・東西1.32mを測り、残存の深さは0.28mである。土坑内に埋桶が遺存していた。桶の内側は、ほぼ円形を呈し、上端径1.10m・残存の深さは0.20mである。底板は最大5.5cmと厚く、4枚の板材の両端を尖らせた木釘で連結していた。側板の幅は8～14cmで16枚残存していた。掘形は東西1.3m×南北1.4mとやや長円形を呈し、残存の深さは0.3mである。

遺物は、少量の土師質土器・陶磁器の細片が出土した。

#### B・G・H 土坑(図120、写真図版45)

第3層上面で検出した円形の土坑群である。同様の形態・規模を有する土坑は、1～2区西半部から1～3区・1～4区にかけて調査区中央部に集中して位置し、全体で20基弱存在する。規模は直径1.4～1.6m前後である。残存の深さは0.2～0.3m程度のものが多いが、中には0.5m前後残存している土坑も存在する。堆積土は一様ではないが、多くは第2層を主体とし、礫や第3～1層及び基盤層が混入する。

全てが同一機能を有するものかどうかは不明であるが、近世陶磁器がまとまって出土することから、第2層の形成に係わった生活痕跡とを考えることができる。

遺物は、近世(18世紀代)の陶磁器類や瓦がまとまって出土した。

#### その他の検出遺構と出土遺物(図127、写真図版105)

その他、1～2区に位置する104小穴から古墳時代中期の須恵器壺(1191)、1～2区に位置する123小穴から須恵器甕(1195)、1～1区に位置する43土坑から初期須恵器台(1203)などが出土した。

#### (2) 遺物包含層と出土遺物

第1次調査の遺物包含層からは、まとめた量の古墳時代と鎌倉・室町時代の遺物が出土した。

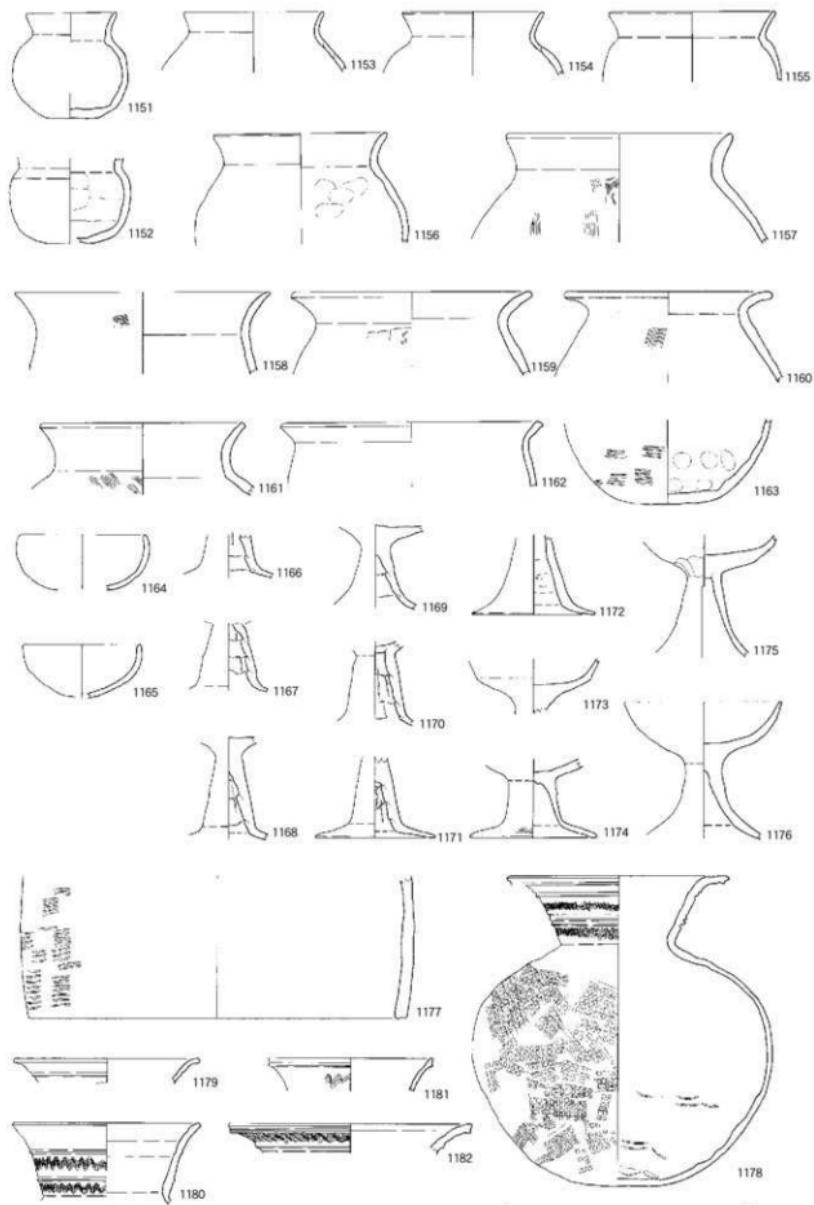
ここでは、基本層序と遺構面との関係から、第3～2層と第3～1層の遺物を区別して扱う。

#### 遺物包含層第3～2層(図127・128・147、写真図版105・108)

遺物包含層第3～2層からは、古墳時代の遺物(1192・1193・1196・1198・1200・1201・1204～1206・1224～1227)を含むものの鎌倉時代を主体とした遺物(1228～1240)が出土した。これらの内、古墳時代中期の初期須恵器の出土量が多い傾向にある。また、弥生時代と考えられるサヌカイト製の石鏃(1368)も出土した。

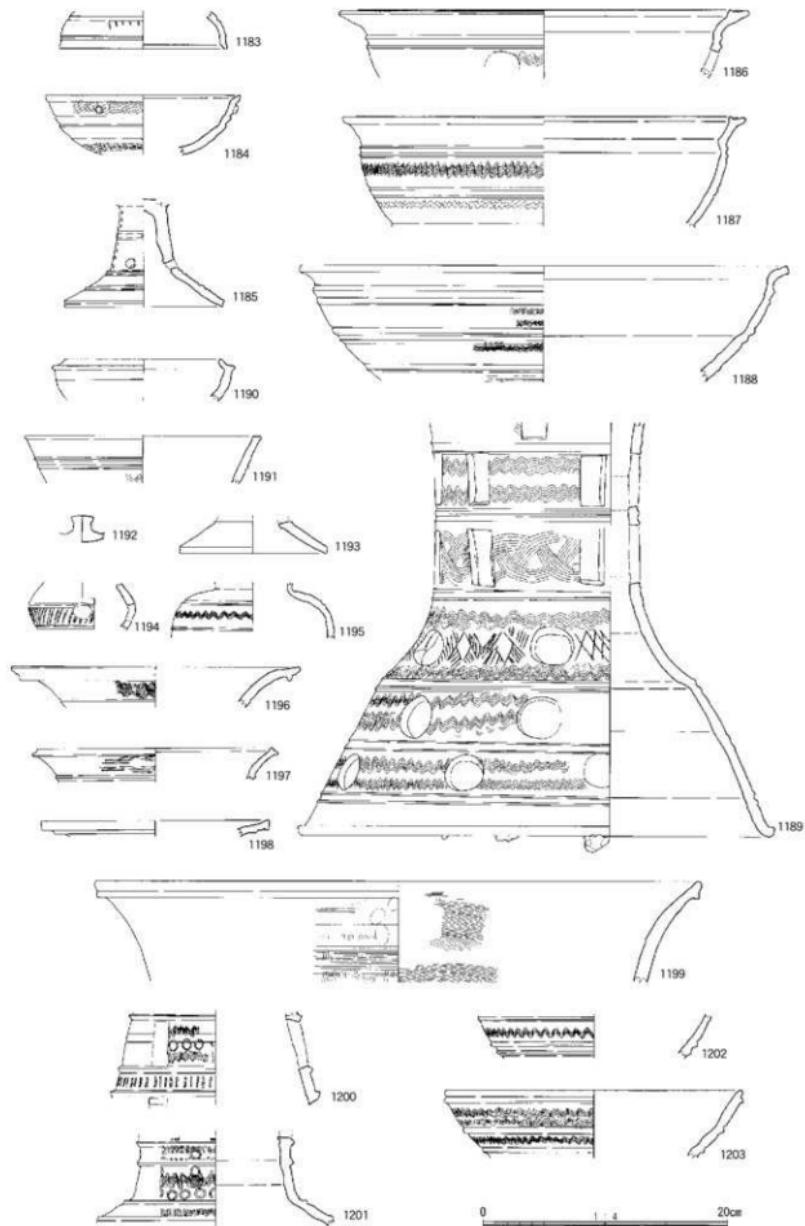
#### 遺物包含層第3～1層(図129、写真図版106)

遺物包含層第3～1層からは、古墳時代の遺物(1249)を含むものの鎌倉時代末から室町時代前期を主体とした遺物(1241～1256)が出土した。



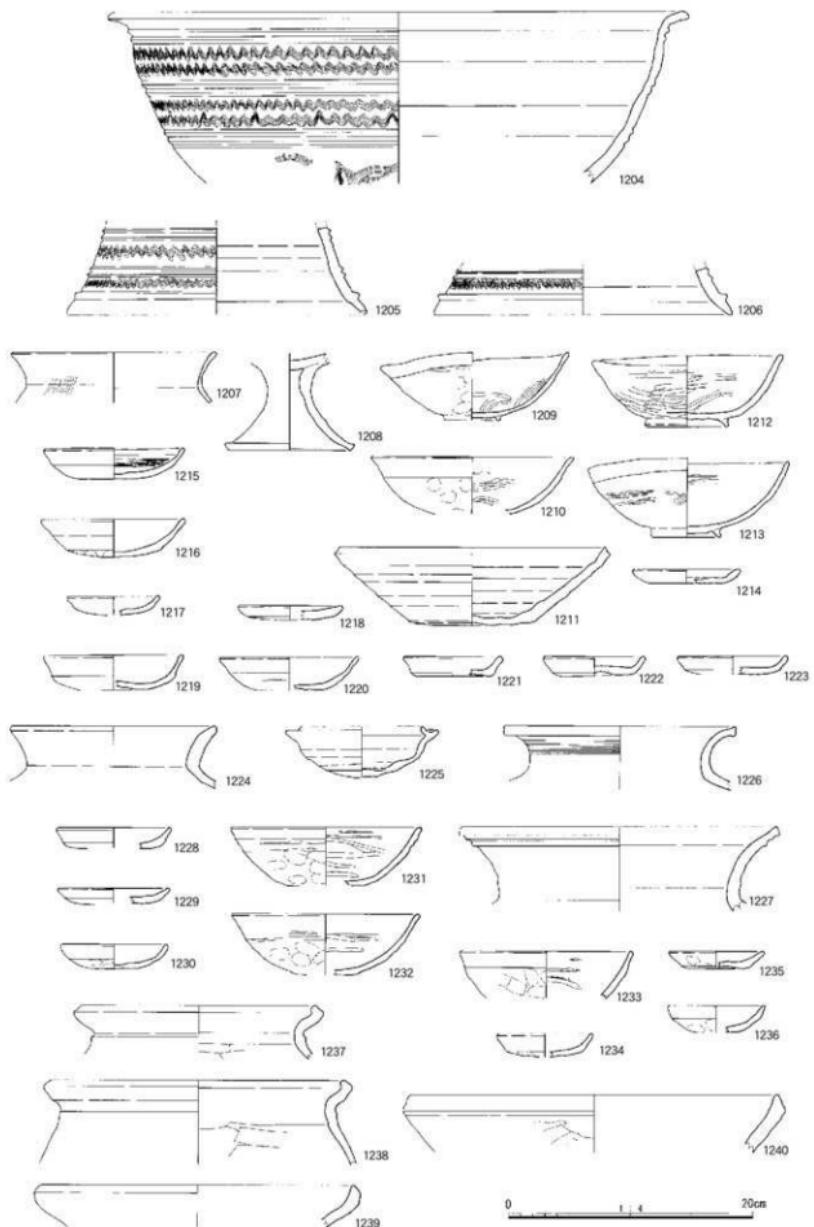
1151~1182: 1土坑

图126 平井II遗迹 第1次 遗构出土遗物实测图



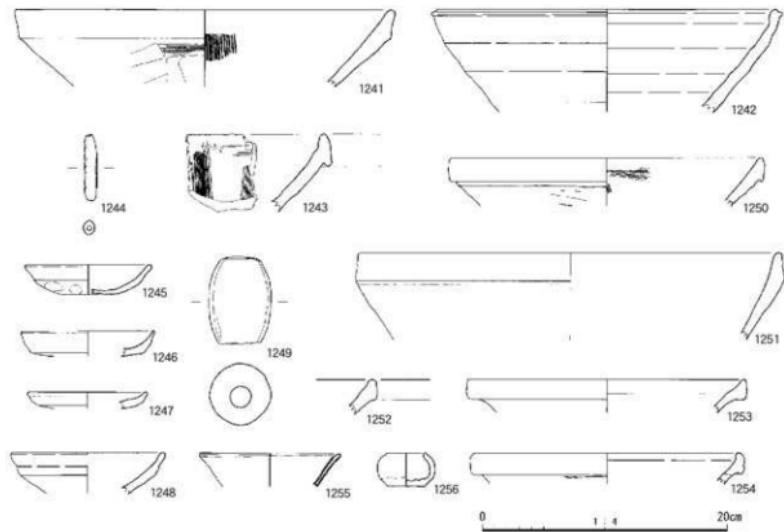
1183～1189：1土坑。1190：17溝。1191：104小穴。1192・1193・1196・1198・1200・1201：遺物包含層第3～2層。1194：機械脂剤。1195：123小穴。1197・1202：サブトレチ。1199：遺物包含層第2層。1203：43土坑

図127 平井II遺跡 第1次 遺構・遺物包含層・他出土遺物実測図



1204～1206・1224～1240：遺物包含層第3～2層。1207・1208：128土坑。1209～1211：53柱穴。1212～1214：59柱穴。1215：4土坑。1216：5土坑。1217：124土坑。1218：13溝。1219～1223：17溝。

图128 平井II遺跡 第1次 遺構・遺物包含層出土遺物実測図



1241～1244：遺物包含層第3～2層、1245～1256：遺物包含層第3～1層

図129 平井II遺跡 第1次 遺物包含層出土遺物実測図

## 第6節 平井II遺跡第2次調査の成果

### 1 第2次調査の概要

第2次調査地は、第1次調査地の南西に位置する。調査地は、調査前には水田であった北側部分と、宅地のあった南側部分とに2分できる。調査区名は、第1次調査の1区に引き続き、北側範囲を2区、南側範囲を3区と呼称した。2区と3区の比高は約1.3mあり、丘陵裾部に近い2区が一段高くなる。第2次調査は、670m<sup>2</sup>の調査を行った。

調査の結果、古墳時代と中世の遺構を検出した。

古墳時代の遺構には土坑と柱穴・小穴がある。土坑からは初期須恵器が少量出土した。中世の遺構には、土坑・柱穴・小穴・溝がある。溝はいずれも素掘りで、水田耕作に伴うものと考えられる。

遺物包含層及び遺構から、古墳時代と中世の時期の遺物が収納コンテナに8箱出土した。古墳時代の遺物には、土師器や初期須恵器のほか埴輪片がある。中世の遺物には、土師器・瓦器・須恵器・陶磁器がある。なお、弥生時代の石庖丁とサヌカイトの剥片が各1点出土した。

2区の遺構面は2面である。第3層上面を検出面とする第1遺構面では、水田耕作に伴うと考えられる溝群を検出した。基盤層面を検出面とする第2遺構面では、古墳時代の土坑等を検出した。

### 2 基本層序と遺構面

2区の基本層序は、第1層(表土層・盛土)・第2層(耕作土・旧耕作土・床土)・第3層に大別することができる。

**第1層:** 表土層としたのは、今回の調査地内に仮置きされていた第1次調査1区及びその南側水田の耕作土の残存層である。殆どは第1次調査前に搬出されていたが、一部が残存していた。

第2層：第2層は、耕作土及び床土である。盛土が行われる以前の水田耕作土である。床土は分層が可能でいずれも黄色系のシルト層である。第2層からは瓦器など中世の遺物と初期須恵器や埴輪などの古墳時代の遺物が少量出土した。

第3層：第3層は、調査区北東部を除く範囲で確認できる。褐灰色系の砂質土で、厚さは10cm前後である。出土遺物は、古墳時代の須恵器や土師器を中心とするが、中世の遺物も含まれている。基盤層は、北側では礫を多く含む黄灰色系のシルト層、南側では黒褐色を呈し縮りのある細砂層である。

3区の基本層序は、表土・耕作土・床土・基盤層の順であるが、耕作土及び床土は部分的

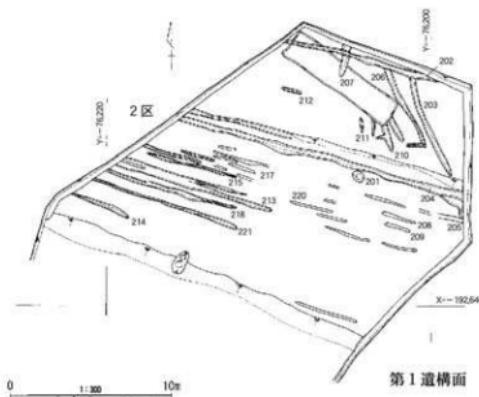
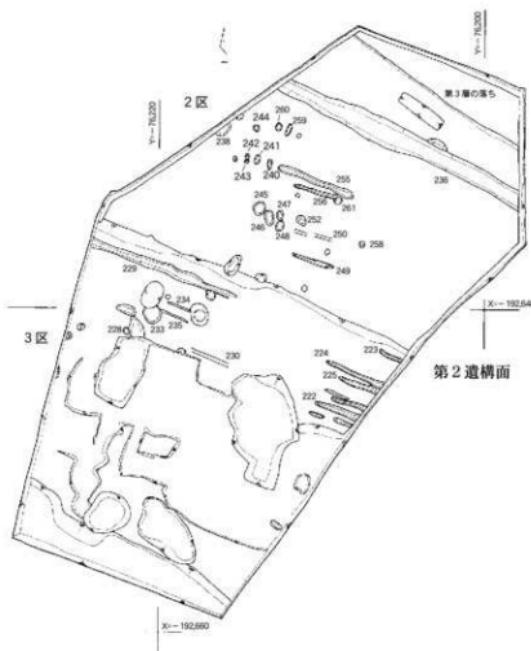


図130 平井II遺跡 第2次 遺構全体平面図

にしか残存しておらず、宅地建設に際し掘削・堆土されたものと考えられる。これらが残存しない範囲では、表土層直下が基盤層面となる。基盤層は、綿まりのない明黄褐色及び黒褐色を呈する砂層(細砂層)である。

### 3 各遺構の調査成果

(1) 第2遺構面の検出遺構と出土遺物(図130～134、写真図版46・47、107)

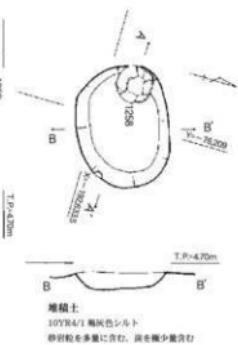
第2遺構面では、土坑・溝、柱穴・小穴を検出した。土坑は、調査区中央部から西側の範囲でのみ検出される。平面形は、円形及び梢円形を呈するものが多い。残存の深さは、残りの良いもので0.2m前後、多くは0.05～0.10mである。平面規模は、0.20～0.70mとばらつきがあり一樣ではない。

遺物は、古墳時代の須恵器及び土師器が出土した。

2.6.1 土坑(図131・134、写真図版107)

261土坑は、2区の中央部に位置する。平面形は、やや歪な梢円形を呈する。平面規模は、長軸(西南西～東北東)0.50m・短軸(西北西～南南東)0.38mを測り、残存の深さは0.07mである。断面形は、皿形を呈し、基底部は平坦である。

遺物は、土坑の西側肩に偏って、古墳時代の



土師器有縁高杯(1258)が出土した。

2.4.0 土坑(図132・134、写真図版46・107)

240土坑は、2区の中央北西寄りに位置する。240・241・242・243土坑が東西に直線状に並んで位置する。240土坑の平面形は、細長く歪な梢

円形を呈する。平面規模は、長軸(南北)0.68m・短軸(東西)0.31mを測り、残存の深さは0.05mである。断面形は、浅い皿形を呈し、基底部は平坦である。

遺物は、土坑の基底部から少し浮いた状態で、古墳時代中期の初期須恵器壺破片(1261・1262)などが折り重なった状態で出土した。壺破片(1261・1262)は、肩部に乳状突起を付した大甕である。

2.4.1 土坑(図132、写真図版46)

241土坑は、2区の中央西寄りの240土坑の西隣りに位置する。平面形は、細長くやや歪な梢円形を呈する。平面規模は、長軸(南北)0.60m・短軸(東西)0.35mを測り、残存の深さは0.05mである。断面形は、浅い皿形を呈し、基底部は平坦である。

遺物は、240土坑同様に、古墳時代中期の初期須恵器壺破片が折り重なって出土した。

2.4.2 土坑(図132、写真図版46)

242土坑は、241土坑の西隣りに位置する。平面形は、やや歪な梢円形を呈する。平面規模は、長軸(南北)0.38m・短軸(東西)0.30mを測り、残存の深さは0.07mである。断面形は、浅いU字形を呈する。

遺物は、240・241土坑同様に、古墳時代中期の初期須恵器壺破片が折り重なって出土した。

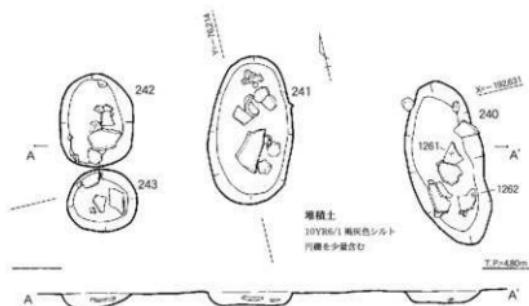


図132 平井II遺跡 第2次 2区 第2遺構面 240～243土坑実測図

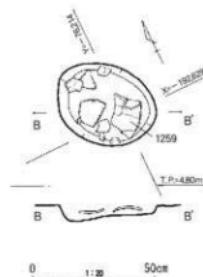


図133 平井遺跡 第2次 2区 第2遺構面 244土坑実測図

#### 2.4.3 土坑(図132、写真図版46)

243土坑は、242土坑の南隣りに位置する。平面形は、ほぼ円形を呈する。平面規模は、径南北0.25m・東西0.29mを測り、残存の深さは0.08mである。断面形は、歪で浅いU字形を呈する。遺物は、240～242土坑同様に、古墳時代中期の初期須恵器甕破片が折り重なって出土した。

#### 2.4.4 土坑(図133・134、写真図版46・107)

244土坑は、240～243土坑の北側に少し離れて位置する。平面形は、やや歪な楕円形を呈する。平面規模は、長軸(南北)0.40m・短軸(東西)0.34mを測り、残存の深さは0.06mである。断面形は、浅い皿形を呈する。

遺物は、古墳時代中期の土師器甕(1259)、初期須恵器甕破片が折り重なって出土した。

以上の土坑から出土した初期須恵器甕の破片は、大振りの破片もあり、同一個体と考えられるが、極めて接合率の悪い状況であった。また、同一個体と考えられる破片は、遺物包含層の内、主に第3層にも含まれ、広範囲に散らばっている状況にあった。これらのことから、初期須恵器甕は、遺物包含層の形成及び後世の造成により原位置から遊離したものと考えられる。

#### 2.3.6 溝(図134)

236溝は、幅1.0～1.2m・残存の深さは0.2m前後で、第1遺構面で検出した溝群同様に水田耕作に伴うものと考えられる。掘削方位はW-25°-Nで、堆積土は第3層と同じ褐色系のシルトである。

遺物は、室町時代と考えられる土師器皿(1263)、鎌倉時代の瓦器碗(1264)が出土した。

#### (2) 第1遺構面の検出遺構と出土遺物(図130、写真図版48・49)

2区の第1遺構面で検出した遺構には、溝・土坑がある。溝はいずれも素掘りで、検出された箇所により、調査区の東と西及び北の3グループに分けることができる。中央東側の溝群は、幅0.20m前後、残存の深さは0.05m以内のものが多く、0.5m前後の間隔で掘削されている。一方、西側の溝群は、幅0.20～0.30mと東方の溝に比べやや広いが、残存の深さは0.05m以内と同様で

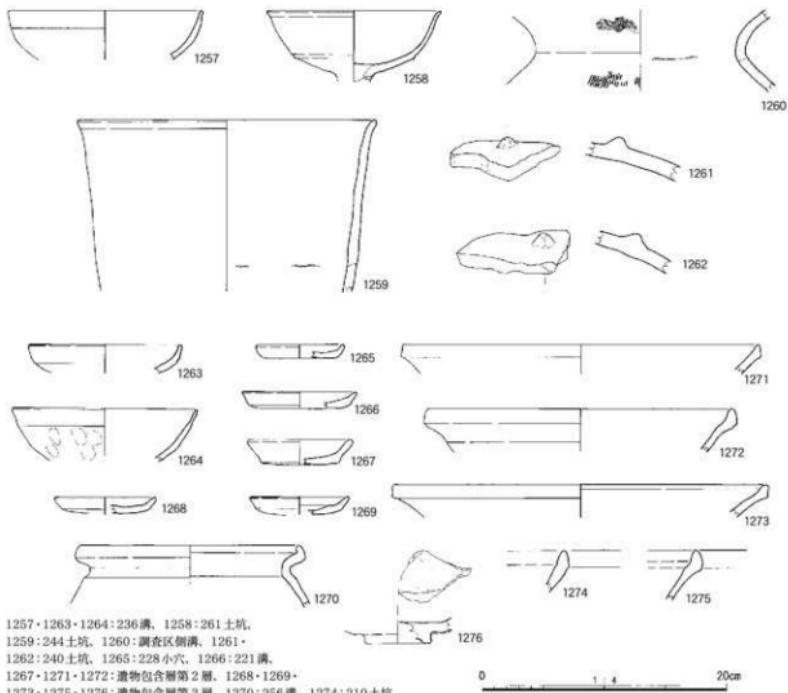


図134 平井Ⅱ遺跡 第2次 遺構・遺物包含層・他出土遺物実測図

ある。掘削間隔は0.20～0.40mとばらつきがある。掘削方向は、現況の水田区画と同様の北西～南東方向(W-20°-N)であるが、西側の一群はW-15°-Nとやや南に振る。検出面が1段高くなる北側で検出した溝群は、掘削方向が上記のものと大きく異なり、南北方向に掘削されているものも見受けられる。幅は0.30m前後が多く、深さも0.10m前後残存するものが多い。これらの溝はいずれも中世以降の水田耕作に伴うものと考えられる。

遺物は、221溝から中世の土師器小皿(1266)、236溝から瓦器椀(1264)を主とし、初期須恵器を含む古墳時代の須恵器(1260)や埴輪片も散見できる。

3区は既述のとおり、調査前の現況は宅地(民家)である。このため、建物の建築及び撤去に伴う重機等による広い範囲での掘削・搅乱が顕著で、遺構が確認できたのは調査区北(東)側の約1/3の範囲に限られる。

3区で検出した遺構には、溝・土坑、柱穴・小穴がある。溝は、2区の第1遺構面で検出した溝と同じく、水田耕作に伴うと考えられるものである。幅は0.30m前後で、残存の深さは0.05m以内と2区で検出した溝と同様である。掘削間隔は0.20～0.30m、掘削方位はW-20°-Nである。遺物の出土する遺構が少ないため時期は不明であるが、2区と同じく中世以降に掘削されたと考えられる。

## 第7節 平井II遺跡第3次調査の成果

### 1 第3次調査の概要

調査は平成24年度の第1次、第2次に引き続き、3,636m<sup>2</sup>を対象に実施した。主として古墳時代・鎌倉時代の遺構や遺物が出土した。

遺構検出は、4・6・7区で1面、5区で2面、8区で3面行った。検出された遺構は中世と古墳時代に帰属し、井戸・土坑・溝・柱穴・小穴・鋤溝等がある。古墳時代に帰属する遺構は北西側の丘陵からの緩斜面で比較的多く検出されたものの、中央から東側では希薄であった。また、中世に帰属する遺構は、調査地中央から東側で比較的多く検出された。出土遺物は極めて少量であり、遺物収納コンテナ23箱分が出土した。古墳時代と推測される遺構は、少量の出土遺物と堆積土の違いから判断している。

#### 4区

調査地で最も低い南東部に位置し、平井II遺跡第2次調査の3区に隣接する。北側丘陵から下つた標高3.8mを測る地区で、宅地等の造成により上面は大きく削平されていた。基盤層面で遺構を検出し、中世の鋤溝や柱穴・小穴、古墳時代の土坑、柱穴・小穴を検出した。

#### 5区

調査地中央の基盤層面で標高4.7～6.0mを測る。第3層上面で中世の井戸、溜槽(木枠組み遺構)、鋤溝状遺構など、基盤層面で古墳時代と考えられる土坑、柱穴・小穴を検出した。

#### 6区

調査地北西側の基盤層面で標高5.0～6.5mを測り、南東に下る地形となる。基盤層面で遺構を検出し、古墳時代と考えられる柵列を伴う掘立柱建物や柱穴・小穴を検出した。

#### 7区

調査地で最も高い北西端に位置し、基盤層面で標高6.5～8.5mの丘陵裾部から南東に下る地形となる。基盤層面で遺構を検出し、調査区の東端部では径0.1～0.3m程度の柱穴・小穴を多数検出した。出土遺物は極めて少量であり、堆積土は上層に堆積した第3層と同様と考えられる。

#### 8区

調査地中央北側の丘陵裾部に位置し、基盤層面で標高6.1～7.3mを測る。第2層下位層で中世の柱穴・小穴、第3層上面で7区から延びる鎌倉時代の溝、基盤層面で古墳時代と考えられる柱穴・小穴などを検出した。

### 2 基本層序と遺構面

基本層序は平井II遺跡第2次調査を踏襲し、第1層から第3層に大別した。

**第1層：**第1層は、盛土、近現代の耕作土及び床土で、調査地のほぼ全域で確認された。

**第2層：**第2層は、黄色系の砂質土及びシルトで、旧耕作土及び床土、整地土と考えられる。古墳時代から近世の遺物を含む。遺物の主体は瓦器など中世の遺物が大半を占める。8区では第3層上面で検出した001溝埋没後の堆積層を第2層下位層とし、中世の柱穴・小穴等を検出した。

**第3層：**第3層は、褐灰色～黒色のシルト層で3層に細分した。土師器などの遺物を僅かに含

む。第3-1層は褐灰色のシルト層で風化礫を少量含む。第3-2層は褐灰色～黒褐色のシルト層で風化礫を少量含む。第3-3層は黒褐色～黒色のシルト層で風化礫を比較的多く含む。第3層上面では、5区で中世の井戸や区画溝などを、8区で7区から延長する中世の溝を検出した。

**第3層以下**：第3層以下は、遺物を含まない基盤層である。基盤層は調査地の北西から中央西側では風化礫を主体とし、北東部周辺では円礫を含む黒色のシルト層である。中央南から南東では黄色系のシルト層である。基盤層面では4・6・7区で古墳時代と中世の土坑、柱穴・小穴などを、5・8区では古墳時代の柱穴・小穴などを検出した。

### 3 各遺構の調査成果

#### (1) 第2遺構面の検出遺構と出土遺物(図135～139・142・143、写真図版50～59・107・108)

##### 006土坑(図135・142、写真図版54・107)

006土坑は、4区の南東端で001～003小溝と重複して位置する。平面形は、楕円形を呈する。平面規模は、長軸(北東～南西)3.2m・短軸(北西～南東)2.0mを測り、残存の深さは0.2mである。基底部は、やや凹凸があるものの、比較的平坦である。

遺物は、土坑の南西隅に偏って、基底部から浮いた状態で、古墳時代中期の須恵器高環(1278)が出土した。また、堆積土から土師器高環、須恵器高環(1277)も出土した。

##### 掘立柱建物・柵列(図137、写真図版51)

掘立柱建物・柵列は、6南区の中央に位置する。南側を除くコの字状の杭列とそれに伴う掘立柱建物と考えられる035～038柱穴を検出した。建物規模は、南北1間(柱間2.43m・2.52m)・東西1間(柱間2.43m・2.52m)となる。主軸方向は、N-15°30' - Eに振る。柱穴の掘形は、歪な円形もしくは楕円形を呈し、径0.24～0.33mを測り、残存の深さは0.12～0.30mである。

杭列は、各々の隅を含めると西列で9基、北列で8基、東列で7基の計22基である。また、東列の東側には同軸の深さ約0.15mの浅い柱穴・小穴4基を検出した。

遺物は、土師器の細片が数点と極めて少量であり、堆積土から判断すると古墳時代に帰属する可能性が考えられる。

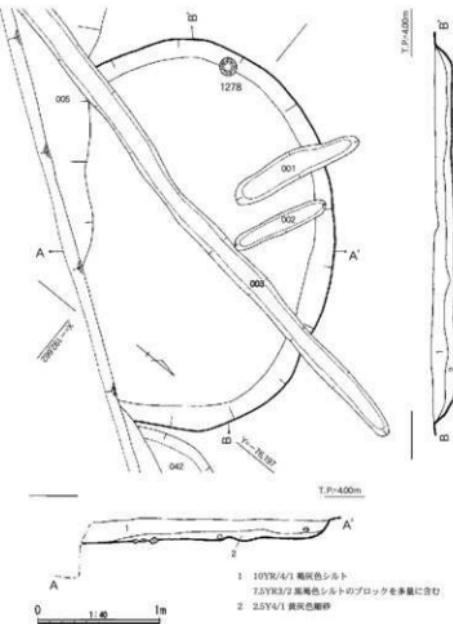


図135 平井II遺跡 第3次 4区 第2遺構面 006土坑実測図

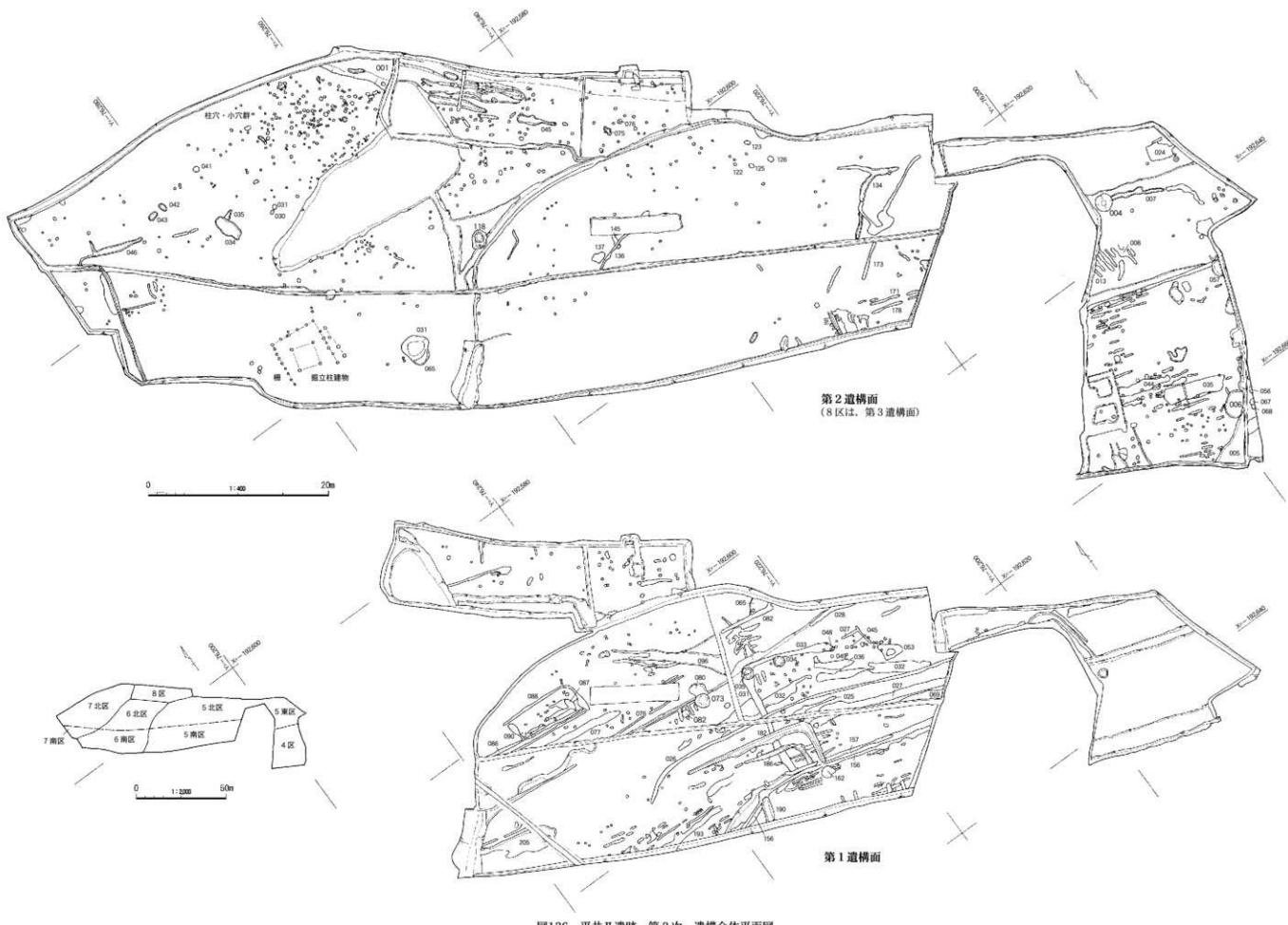


図136 平井II遺跡 第3次 遺構全体平面図

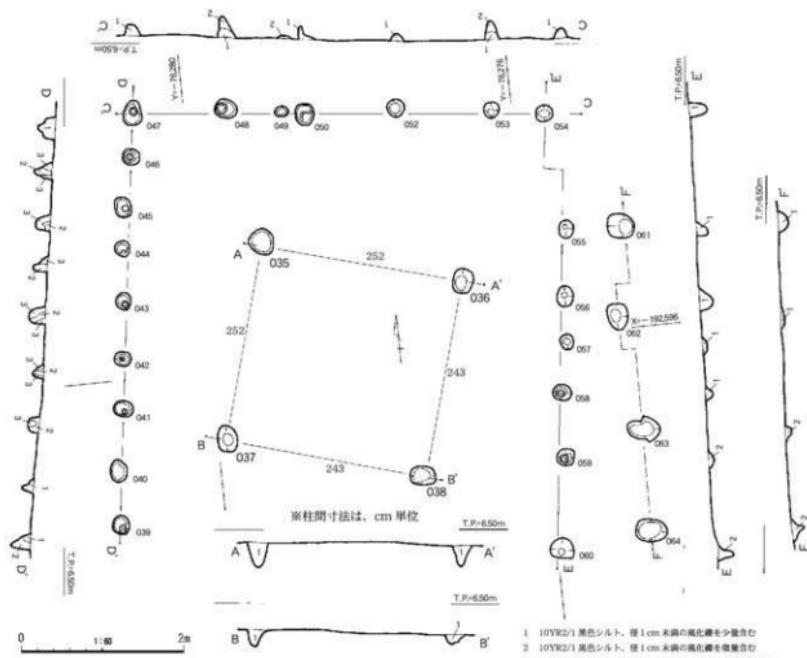


図137 平井II遺跡 第3次 6南区 第2遺構面 掘立柱建物・柵列実測図

### 118井戸(図138・142、写真図版54)

118井戸は、6北区の南東端に位置する。掘形の平面形は、歪な楕円形を呈する。平面規模は、掘形長軸(南北)2.06m・短軸(東西)1.70mを測り、残存の深さは0.72mである。断面形は、南側で一段浅くなり、幅広のU字形を呈する。

遺物は、土坑の南西隅に偏って基底部から浮いた状態で鎌倉時代と考えられる瓦質火舎(1297)

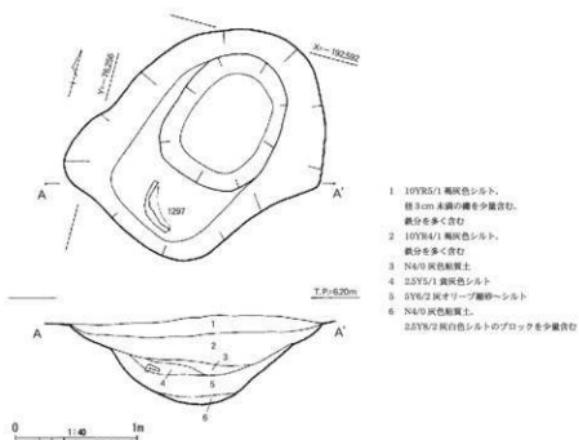


図138 平井II遺跡 第3次 6北区 第2遺構面 118井戸実測図

が出土した。また、堆積土から鎌倉時代の土師器土釜、瓦器椀、瓦質甕、常滑焼甕、青磁碗(1298)などが出土した。これらのことから、118井戸は中世後半頃に埋没したと考えられる。

#### 001溝(図139・143、写真図版52)

001溝は、第3層上面(第2

遺構面)で検出した溝で、7区から8区にかけて位置する。北側の丘陵裾を北西から南東方向に延びる。平面規模は、調査区中央で幅約6.5mを測り、残存の深さは0.7mと調査区8区のほぼ全域を占める。001溝は、断面土層の堆積土の状況から、

下半部に6～8層が堆積した後、新たに掘り込まれた溝に3～5層が堆積したように見受けられ

る。これらの堆積土の状況から判断して、溝の掘り直しがあったものと考えられるが、時期的な差は不明である。

遺物は、鎌倉時代の土師器皿・小皿(1310・1311)・土釜(1321)、瓦器椀(1312～1320)・三足釜、東播系須恵器捏鉢、白磁碗(1322)などが出土した。中層遺物に量的なまとまりが認められる。

#### その他の第2遺構面の検出遺構と出土遺物(図142、写真図版54・107)

その他、5東区に位置する004土坑から鎌倉時代の土師器皿・土釜(1299)、瓦器椀、瓦質甕(1300)、東播系須恵器捏鉢、勧溝群から鎌倉時代の土師器皿、瓦器椀が出土した。

また、4区に位置する勧溝群は、第2遺構面での検出遺構としているが、平井II遺跡第2次調査の2区の第1遺構面で検出した勧溝群と同一の方向性を指向している。

#### (2) 第1遺構面の検出遺構と出土遺物(図140～143、写真図版50～59・107・108)

##### 182区画溝(図135・143、写真図版57)

182区画溝は、5南区の中央東寄りに位置する。区画溝は、東西方向に約14m延び、東側で南北に折れ曲がり約5.2m分を検出した。幅0.4～0.8mを測り、残存の深さは0.14～0.18mである。遺物は、鎌倉時代の土師器皿・小皿・土釜(1324)、瓦器椀・小皿、東播系須恵器捏鉢(1325)、備前焼甕などが出土した。

##### 186区画溝(図135・143、写真図版57)

186区画溝は、5南区の中央東寄りに、182区画溝とほぼ平行して位置する。区画溝は、東西方向に約7.6m延び、東側で南北に折れ曲がり約2.4m分を検出した。幅0.5m前後を測り、残存の深さは0.06～0.08mである。遺物は、古墳時代の土師器壺・高杯を含むものの、鎌倉時代の土師器皿・小皿(1326)、瓦器椀が出土した。

##### 088区画溝(図135、写真図版57)

088区画溝は、5北区の西端に位置する。区画溝は、東西方向に約8m延び、東側で南北に折れ曲がり約3.6m分を検出した。幅0.4前後を測り、残存の深さは0.06～0.10mである。遺物は、鎌倉



図139 平井II遺跡 第3次 7北区 第2遺構面 001溝断面土層図

時代の土師器皿が出土した。

何れの区画溝も、南側に明確な建物としての柱並びを見つけることができなかった。

#### 073井戸(図140・142、写真図版59・107)

073井戸は、5北区の中央南寄りに位置し、第3層上面で検出した。掘形の平面形は、歪な円形を呈する。平面規模は、長軸(東西)1.71m・短軸(南北)1.58mを測り、残存の深さは1.05mである。掘形の南側の大半が二段掘りとなる。掘形の北側に偏って、径45cmの曲物が据えられていた。曲物は、二段分あったものと考えられ、下段の曲物は高さ(深さ)40cm、上段の曲物は高さ(深さ)30cmが残存していた。但し、腐朽が著しく検出時の状態で取り上げることができなかつた。

遺物は、井戸側(曲物)内の下層・中層・上層から、鎌倉時代の土師器皿・小皿(1279~1282)・土釜、瓦器楕(1283~1291)・小皿などがまとめて出土した。これらの遺物から、073井戸は13世紀前半に埋没したものと考えられる。

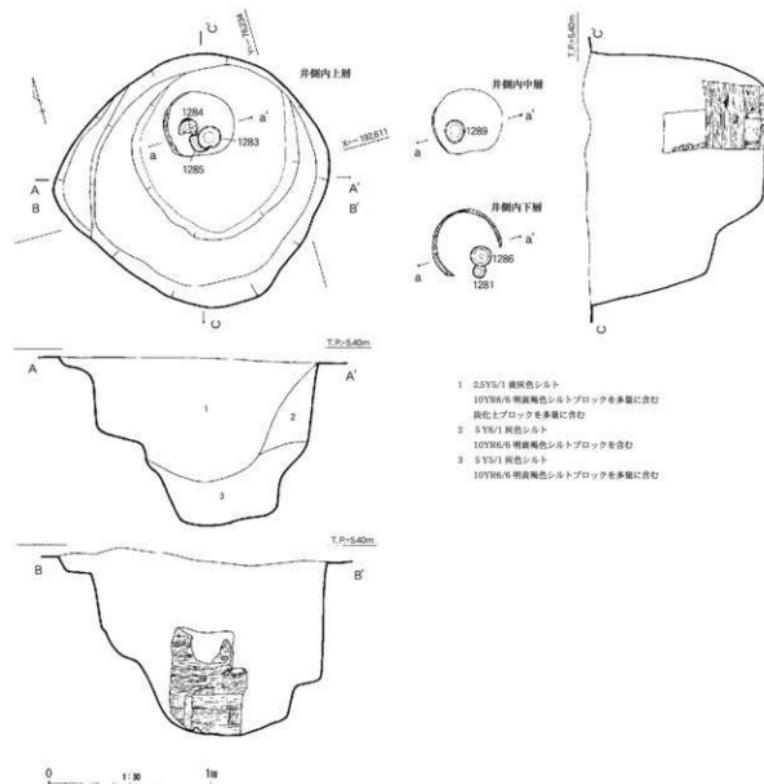


図140 平井II遺跡 第3次 5北区 第1遺構面 073井戸実測図

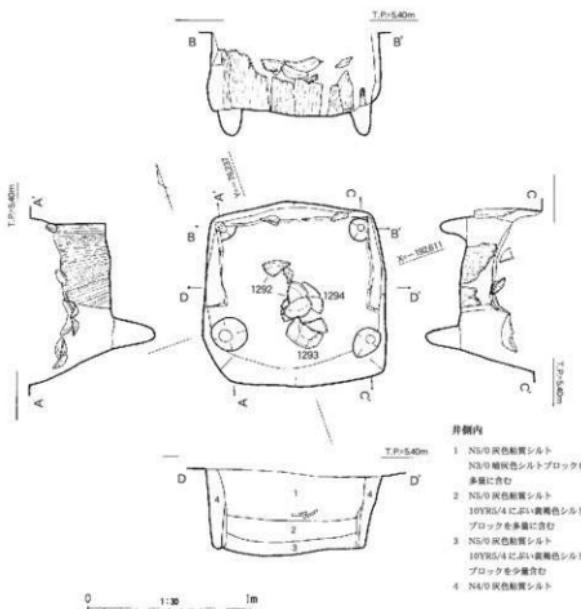


図141 平井II遺跡 第3次 5北区 第1遺構面 082溜樹実測図

遺物は、堆積土の上位層から鎌倉時代の土師器皿、瓦器楕(1292~1294)がまとめて出土した。これらの遺物からみて、082溜樹は073井戸より先行して埋没したものと考えられるが、厳密な機能時期を推し測ることができなかった。

#### その他の第1遺構面の検出遺構と出土遺物(図142・143、写真図版57)

その他、5北区に位置する067土坑から鎌倉時代の土師器皿(1304)、東播系須恵器捏鉢(1303)、036土坑から鎌倉時代の土師器土釜、瓦器楕、東播系須恵器捏鉢(1302)、青磁皿(1301)が出土した。また、5南区から5北区に跨って位置する026溝から鎌倉時代の土師器皿、瓦器楕、青磁碗(1323)、備前焼甕が出土した。

#### (3) 遺物包含層と出土遺物

遺物包含層からは、鎌倉時代を主体とした遺物が出土した。

ここでは、基本層序と遺構面との関係から、第4~1層と第3層の遺物を区別して扱う。

#### 遺物包含層第4~1層(図143、写真図版108)

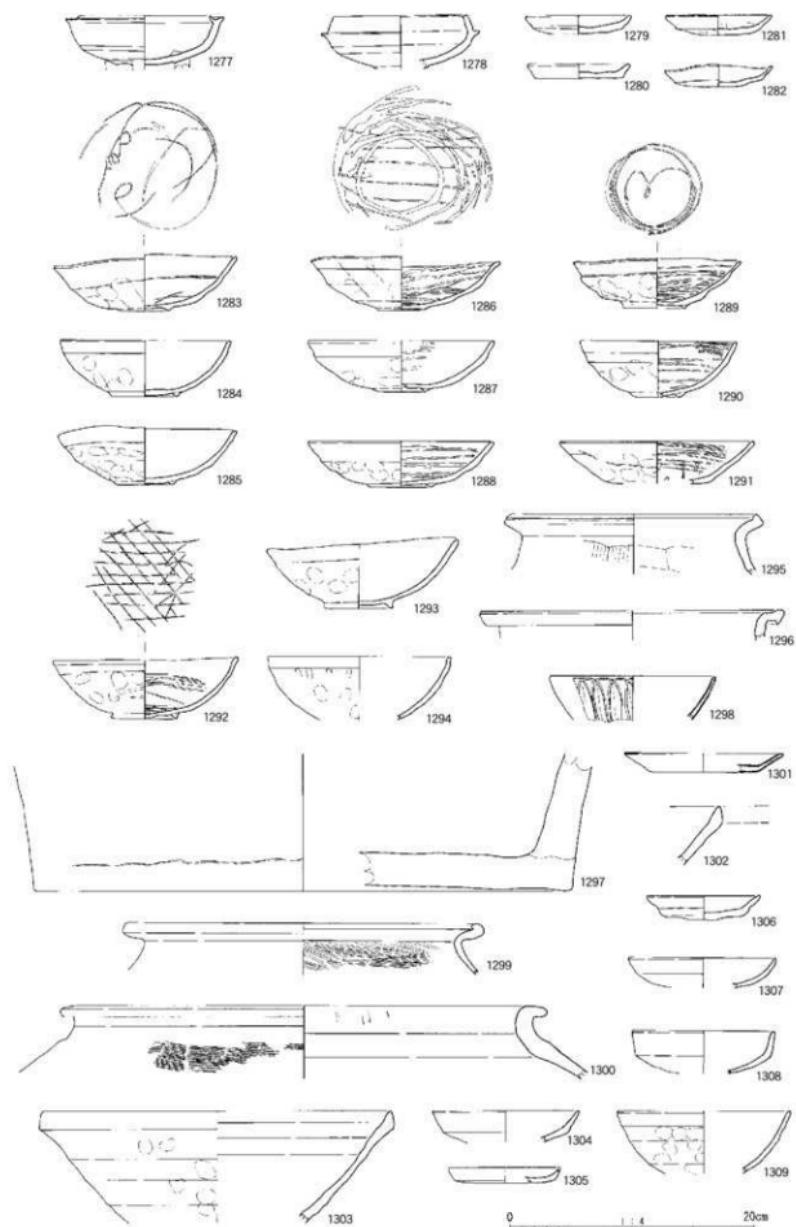
遺物包含層第4~1層からは、鎌倉時代後期を主体とした遺物(1327~1333)が出土した。

#### 遺物包含層第3層(図143、写真図版108)

遺物包含層第3層からは、古墳時代中期と考えられる土師器高杯(1336)、奈良時代と考えられる土師器楕(1337)を含むものの、鎌倉時代後期から室町時代前期を主体とした遺物(1339~1360)が出土した。

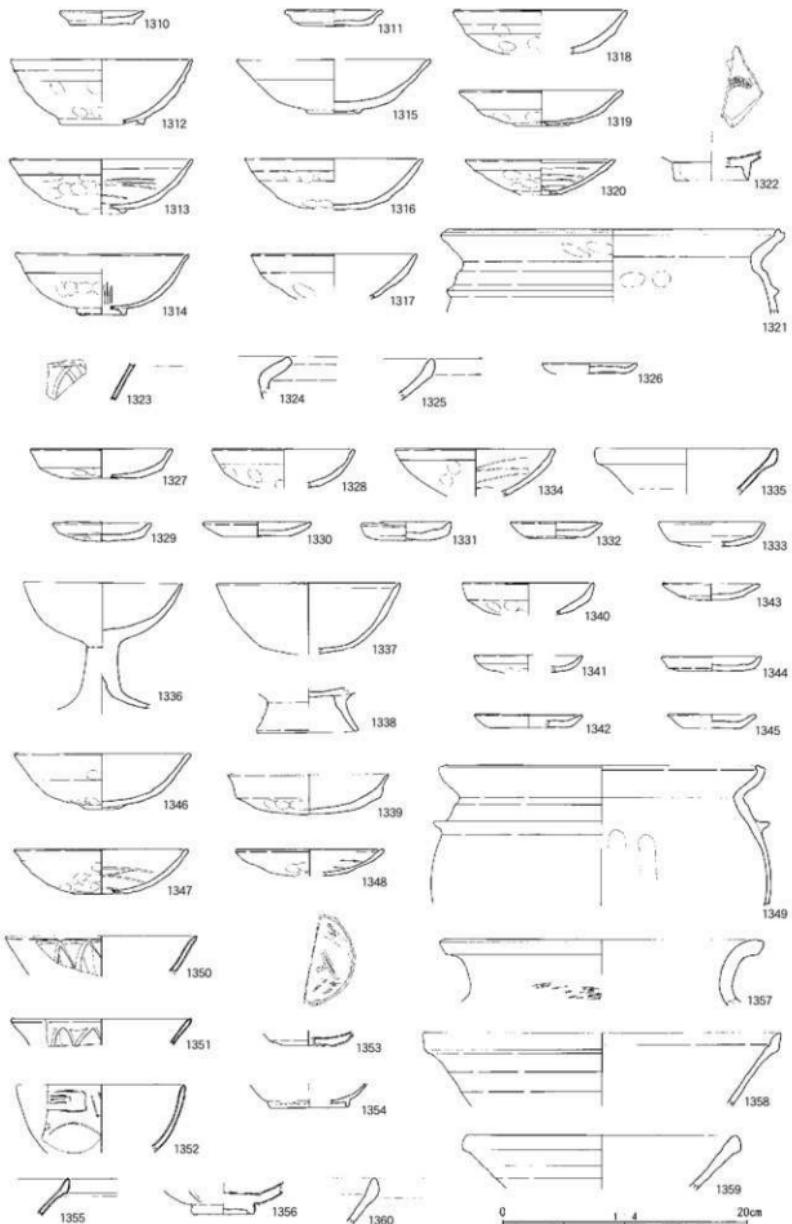
#### 082溜樹(木棒組水溜)(図141・142、写真図版59・107)

082溜樹は、5北区の中央南寄りで073井戸の西隣りに位置し、第3層上面で検出した。掘形の平面形は、方形を呈する。掘形の平面規模は、南北1.5m・東西1.48mを測り、残存の深さは0.7mである。側板は、腐朽が著しいが、一辺に対して4枚ないし5枚が立てかけられていた。掘形の4隅に円形の掘り込みが検出されたことから、支柱を立て、側板を固定していたものと考えられる。



1277・1278: 006土坑、1279～1291: 073井戸、1292～1294: 082灌漑、1295・1296: 065土坑、1297・1298: 118井戸、1299・1300: 004土坑、1301・1302: 036土坑、1303・1304: 067土坑、1305: 049小穴、1306: 122小穴、1307: 045小穴、1308: 048小穴、1309: 30小穴

図142 平井II遺跡 第3次 遺構出土遺物実測図



1310～1322：001溝、1323：026溝、1324・1325：182溝、1326：186溝、1327～1335：遺物包含層第4～1層、1336～1338・1340・1341・1344・1347～1349・1351・1353・1355・1356・1358：遺物包含層第3層、1339・1346・1352・1357：調査区側溝、1342・1345・1360：遺物包含層第2層、1343・1350・1359：遺物包含層、1354：機械掘削。

図143 平井II遺跡 第3次 遺構・遺物包含層・他出土遺物実測図

## 第8節 平井II遺跡第4次調査の成果

### 1 第4次調査の概要

平井II遺跡の第4次調査地は、平井II遺跡から約200m東側の緩斜面の山裾に位置し、平井II遺跡第1次調査の北側に当たる。第4次調査は、309m<sup>2</sup>の調査を行った。

第4次調査は、緩斜面の狭小な平坦面から遺構を検出した。検出した遺構は古墳時代と考えられる土坑と中世の土坑・柱穴・小穴である。

### 2 基本層序と遺構面

調査地の基本土層は上層から表土(腐葉土)、崩落土、整地土、遺物包含層第4層、基盤層となる。

### 3 各遺構の調査成果

#### (1) 検出遺構と出土遺物(図144～146、写真図版60・108)

平井II遺跡第1次調査を実施した北側の丘陵部の調査を実施した。調査地は、北西から南東に傾斜する雑種地である。調査区の北端部と中央部に雑壇状の2箇所の平坦面を確認した。この平坦面の基盤層上から遺構を検出した。北端の平坦面上での遺構検出面は、標高15.4～15.5mである。中央部の平坦面の遺構検出面は、崩落しているため標高11.0～11.9mと大きな幅がある。検出した遺構には土坑・柱穴・小穴がある。

#### 904土坑(図144・146、写真図版60・108)

904土坑は、9区の中央北寄りに位置する。平面形は、東西に長い海鼠状を呈している。平面規模は、長軸(東西)7.65m・短軸(南北)2.55mを測り、残存の深さは斜面地の高い側からみて0.65mである。堆積土は、殆んど単一層の10YR4/1褐灰色シルトで、一部の基底部に厚さ7cm程度の2.5Y6/1黄灰色シルトが貼り付く。

遺物は、堆積土か

ら古墳時代中期と考  
えられる土器師甕  
(1361)・高坏・鍋把  
手が出土した。

#### 905土坑(図145・ 146、写真図版60・ 108)

905土坑は、9区  
の中央南寄りに位置  
する。平面形は、歪  
な隅円長方形を呈す  
る。平面規模は、長  
軸(南北)3.45m・短  
軸(東西)2.55mを測



図144 平井II遺跡 第4次 遺構全体平面図

り、残存の深さは斜面地の高い側からみて1.2mである。堆積土は、大きく中央部と両端部に分けられる。中央部の上層に当たる埋土は10YR6/1褐灰色シルト、両端部は10YR6/3にぶい黄橙色シルトである。

遺物は、堆積土から鎌倉時代の土師器皿(1363)・土釜(1364・1365)、瓦器碗が少量出土した。

#### 柱穴・小穴(図144、写真図版60)

調査区北端の平坦部で8基の柱穴・小穴を検出した。それらの規模は直径0.28~0.40m、残存の深さは0.15~0.25mを測る。柱穴・小穴からは中世遺物が微量出土した。

#### (2) 遺物包含層と出土遺物(図146)

遺物包含層第4層の主体は、鎌倉時代である。遺物量は、極めて少量である。

遺物包含層第4層からは、鎌倉時代の土師器皿(1362)・土釜(1366)などが出土した。

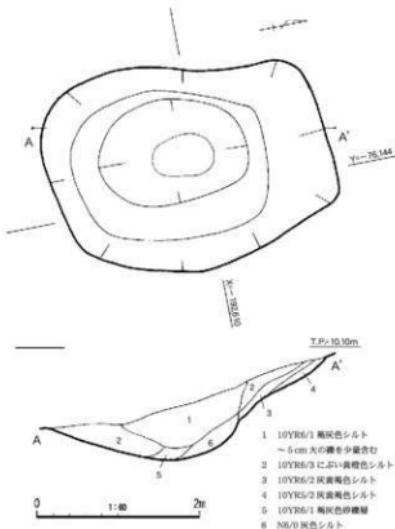


図145 平井II遺跡 第4次 9区 905土坑実測図

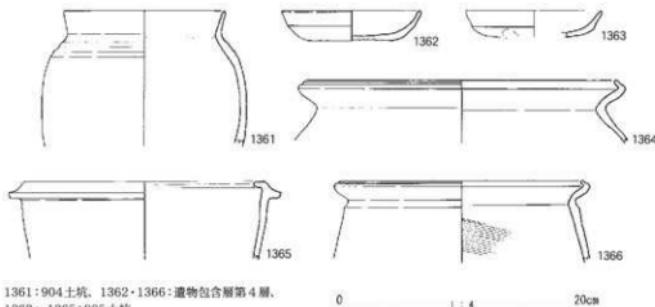


図146 平井II遺跡 第4次 遺構・遺物包含層出土遺物実測図

## 第9節 平井遺跡、平井II遺跡 その他の出土遺物

### 1 石器・石製品(図147・148、写真図版108～110)

**打製石鏃(1367～1370)** 石鏃は、全てサヌカイト製である。石鏃は、図示していないものを含めて、凹基式2点(1367)、平基式1点(1368)、凸基式2点(1369・1370)である。この内、平井遺跡第3次調査の59土坑から出土した石鏃(1370)は、他の石鏃に比較してやや大振りであり、細部調整がかなり粗いことから弥生時代後期に帰属する可能性が高い。59土坑から出土した弥生土器との共伴関係から弥生時代後期紀伊V-1様式段階に比定できるものである。

**磨製石劍(1371)** 磨製石劍は、粘板岩製である。基部側が欠損する。鍔は、表面は比較的認めることができるが、背面は不明瞭である。平井遺跡第3次の遺物包含層第4層から出土した弥生土器との共伴関係から弥生時代中期紀伊IV-1様式段階に比定できるものである。

**磨製石庖丁(1372～1376)** 石庖丁は、図示していないものを含めて7点あり、全て緑泥片岩製である。(1372)のみが両刃で、他は片刃である。紐通し孔の穿孔は、全て両面穿孔である。石庖丁(1374)は、平井遺跡第4次調査の139竪穴建物に重複する136溝からの出土で、弥生土器との共伴関係から弥生時代中期III-2様式からIV-1様式段階に比定できるものである。石庖丁(1375・1376)は、平井遺跡第3次調査の1土坑からの出土で、弥生土器との共伴関係から弥生時代中期III-2様式からIV-1様式段階に比定できるものである。

**石錘(投弾)(1377)** 石錘(投弾)は、粗粒砂岩製である。中央部に敲打による溝状の窪みが廻らされる。石錘(投弾)は、平井遺跡第3次調査の59土坑から出土したものであるが、形態からは弥生時代中期か後期かの判断は付け難い。

**敲石(1379～1385・1389～1391)** 敲石は、礫石器の中で最も多い器種である。図示していないものを含めると倍程の数量になると思われる。敲石は、やや大振りのもの(1379・1389～1391)が粗粒砂岩製の割合が高く、やや小振りのもの(1378・1381・1382～1385)が細粒砂岩製の割合が高い傾向にある。

**磨石(1386～1388)** 磨石も、粗粒砂岩製のもの(1388)と細粒砂岩製のもの(1386・1387)がある。磨石(1386)は、平井遺跡第3次調査の2方形周溝墓から出土したもので、片端に敲打痕が認められる。弥生土器との共伴関係から弥生時代中期紀伊III-2様式からIV-1様式に比定できるものである。

**砥石(1392～1399)** 砥石については、形態・石材種類から時代の判断は付け難い。平井遺跡第3次調査の59土坑から出土した砥石(1397)は、表面に筋状の窪み溝があり、玉砥石と考えられる。

**小玉(1400～1406)** 小玉は、全て平井遺跡第4次調査の横穴式石室の土壤洗浄による出土である。(1400～1403)が珪化木製、(1404～1406)が滑石製である。

**有孔円盤(1407)** 有孔円盤は、図示していないものを含めて2点あり、全て滑石製である。

**石鍋(1408)** 石鍋は、図示していないものを含めて2点あり、全て滑石製である。その内、石鍋転用品(1408)の共伴遺物は、不明である。転用後の製品器種も不明である。

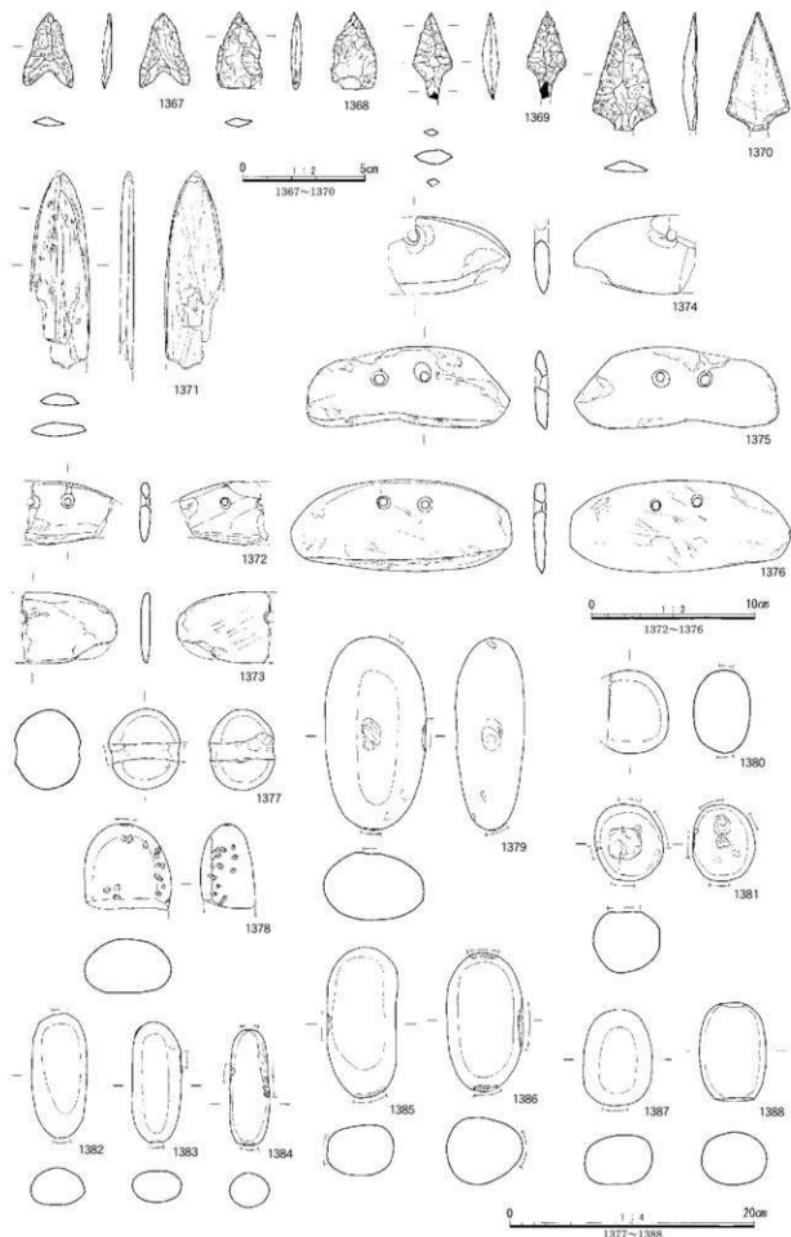


図147 平井遺跡、平井Ⅱ遺跡 遺構・遺物包含層・他出土石器・石製品実測図

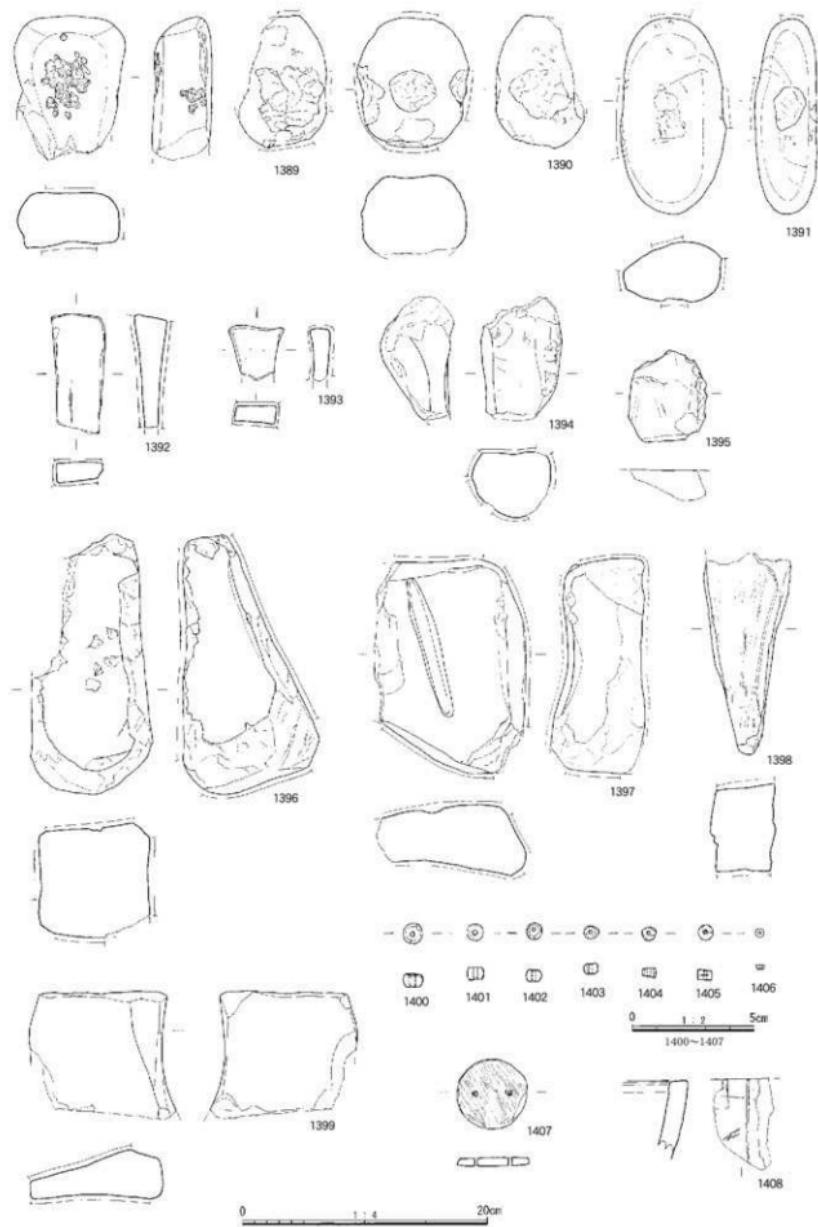


図148 平井遺跡、平井II遺跡 遺構・遺物包含層出土石器・石製品実測図

## 2 木製品(図149～151、写真図版111)

挿図に掲載した実測図は、保存処理前である。また、写真図版に掲載した写真は、保存処理後である。

**泥除木成品(1409・1410)** 2点共に平井遺跡第3次調査の59土坑から出土した。樹種は、コナラ属アカガシ亜属である。木取りは、柾目である。表面に隆起が、背面に抉り込みを入れて瘤みを付けていることから泥除木成品と判断した。

**農具木成品(1411・1412)** 2点共に平井遺跡第3次調査の59土坑から出土した。樹種は、泥除木成品と同様に、コナラ属アカガシ亜属である。木取りは、柾目である。農具の未成品と考えたが、器種は不明である。

**柱材(1413～1416)** 柱材は、図示していないものを含めて9点ある。この内、実測と保存処理に堪え得るもののが4点であった。平井遺跡第1次調査の掘立柱建物4に柱穴から出土したもののが7点である。樹種を同定したものの内、平井遺跡第3次調査の33堅穴建物内の73柱穴から出土した柱材(1413)の樹種がケヤキであるのに対し、平井遺跡第1次調査の掘立柱建物4の588柱穴から出土した柱材(1415)と589柱穴から出土した柱材(1416)の樹種がスギである。また、平井遺跡第3次調査の75柱穴から出土した柱材(1414)は、共伴遺物がないため時期を確定できないが、樹種がスギであることから掘立柱建物4と同じ奈良時代の可能性も考えられる。

**漆器(1417・1418)** 漆器は、2点共に平井遺跡第3次調査のB土坑から出土した。樹種は、ブナ属である。漆器(1417)の体部外面は、朱塗りに黒漆で丸の絵付けが施される。木取りは、横木取りである。

**曲物底板(1419・1420)** 曲物底板(1419)は、平井遺跡第1次調査の029井戸からの出土で、土圧により歪に変形している。樹種は、スギである。曲物底板(1420)の樹種は、コウヤマキである。

## 3 金属製品(図152、写真図版112)

金属製品は、平井遺跡第4次調査の63横穴式石室及び85横穴式石室から出土した鉢・釘が大半を占める。挿図に掲載した実測図は、保存処理前である。また、写真図版に掲載した写真は、保存処理後である。

**耳環(1421～1424)** 耳環は、平井遺跡第4次調査の63横穴式石室から3点(1421～1423)、85横穴式石室から1点(1424)が出土した。何れも原位置から遊離したものである。耳環(1421)は、図の右側半分の鍍銀の剥離が著しく、捲れあがった状態にある。また、耳環(1423)は、銅芯の部分まで錫化の著しい状態にある。

**鉢・釘(1425～1435・1440～1451)** 鉢・釘は、最も多く出土した金属製品である。平井遺跡第4次調査の横穴式石室から出土した鉢・釘の内、頭部の丸いものを鉢とし、頭部の無いものを釘とした。釘としたものも本来は、鉢であった可能性が高いと考えられる。鉢の中には頭部に鍍金を施したもの(1442)もある。

**釘(1454～1458)** 261火葬墓から出土した釘は、形状の把握できたものが16点あり、その内、頭部の残存するものが6点である。

**錢貨(1460・1461)** 錢貨(1460)は、平井遺跡第4次調査の遺物包含層第3層からの出土で、「聖宋元宝」(1101年初鋤)である。同一層位からは、弥生時代・古墳時代・奈良時代・鎌倉時代・室町時代の遺物が混在して出土している。また、平井遺跡第2次の遺物包含層第3層と平井II遺跡

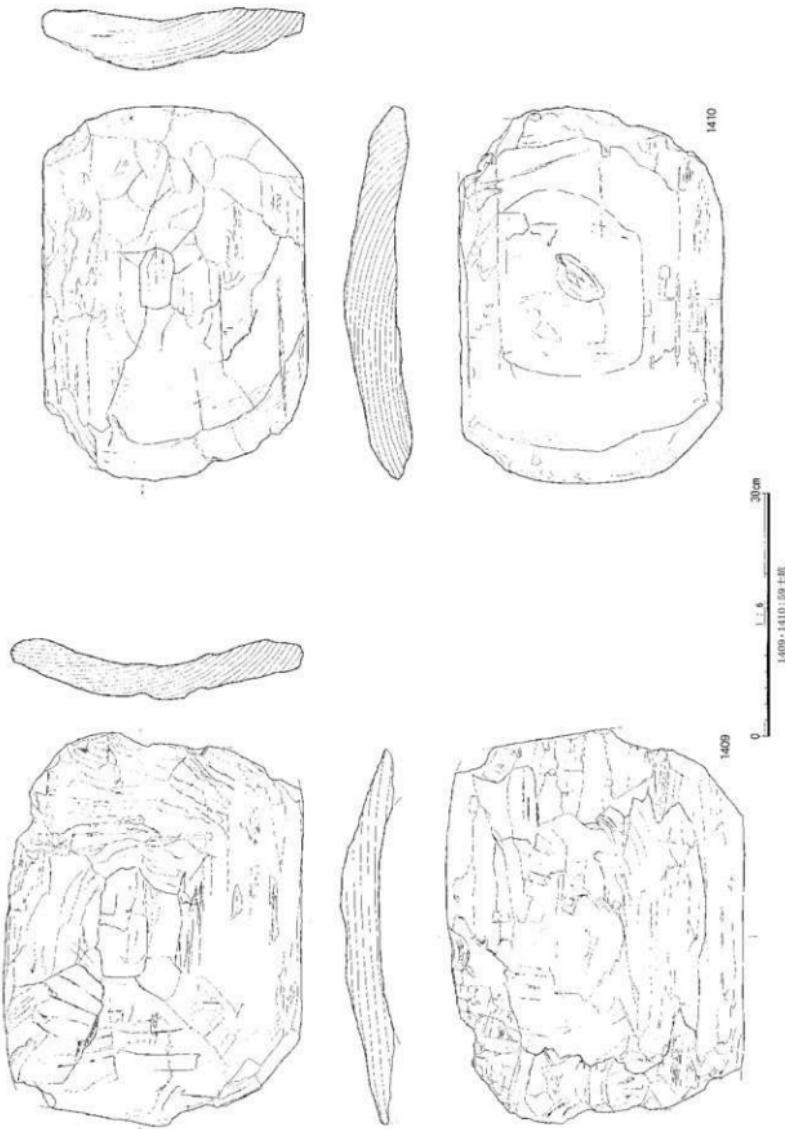
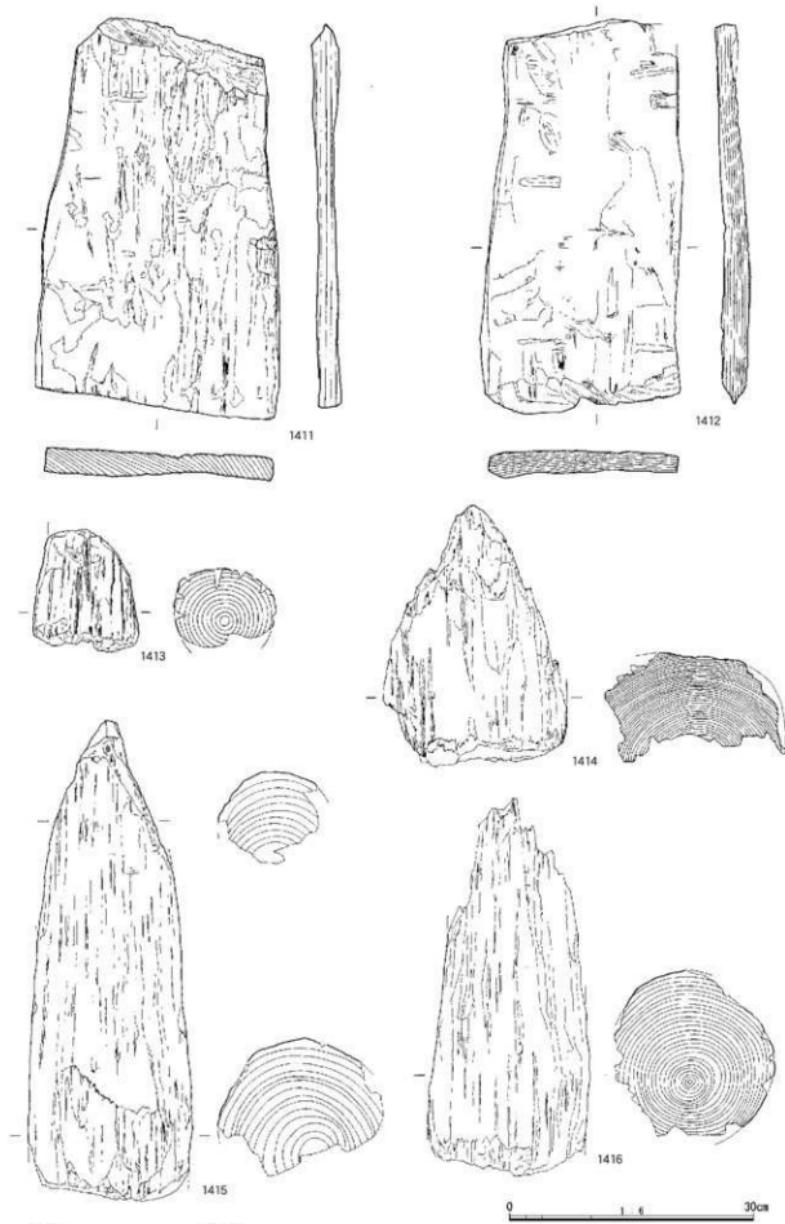


图149 平井遗址 第3次 遗构出土木製品实测图



第1次  
1415-1416：獨立柱建物4

第3次  
1411-1412：59土坑  
1413：33整穴建物  
1414：75柱穴

図150 平井遺跡 第1次・第3次 遺構出土木製品実測図1

第1次調査の第3・2層から「熙寧元宝」(1068年初鑄)が各々1点出土した。何れも鋳化が著しい。その他、寛永通宝が平井遺跡第1次調査の遺物包含層第4層から1点(1461)、平井II遺跡第1次調査で3点が出土した。

その他(1436~1439・1452・1453・1459) その他、金属製品には、平井遺跡第4次調査の63横穴式石室から鞘口金具と考えられる(1439)・鉈(1436・1437)・錐(1438・1451)、85横穴式石室から刀の柄頭の一部と考えられる(1452)・不明鉄製品(1453)がある。

#### 4 動物遺存体(付章 第2節 表2、写真1~3)

今次の平井遺跡、平井II遺跡の調査で出土した動物遺存体は、総計200点を数える。一部については、丸山真史(東海大学)氏に同定を依頼した。(同定結果は、付章 第2節に報告されている。)

人骨 出土量の点数で最も多いのが、平井遺跡第4次調査の63横穴式石室及び85横穴式石室から出土した人骨である。これは検出時に、出土状況から人骨と判断したが、既に脆弱な状態で見つかっており、十分な状態を保つて取り上げることができなかった。結果、細片化したものである。検出時において、位置関係から大腿骨とも考えられる人骨が確認されている。頭蓋骨(B44)は認識されていなかった。また、採取土壤の洗浄によってエナメル質の剥離した人の歯と考えられるものも複数点出土した。

イノシシ 平井遺跡第3次調査の59土坑から出土したイノシシ肩甲骨は、当初、ト骨の可能性も考えられたが、同定の結果、加工された痕跡が認められなかった。その他、59土坑からは、細片が6点出土した。同一個体かどうかの同定は行っていない。

ウマ／ウシ 同定の結果、奈良時代以降の遺物包含層からウマ、ウシ、あるいはウマ／ウシと同定されたものが多く出土した。また、平井遺跡第4次調査の85横穴式石室からは、2点のウマの遊離歯が出土した。但し、B41の出土層位が不明、B42の出土層位が「玄室上層」とあること、また、85横穴式石室の検出面からは、まとまった量の室町時代の遺物が出土していることからウマの遊離歯の帰属時期を限定できない状態にある。

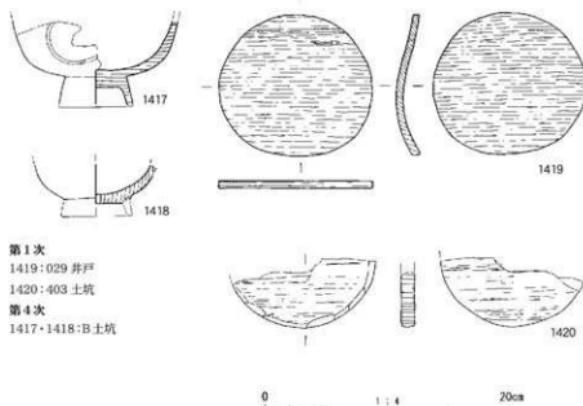
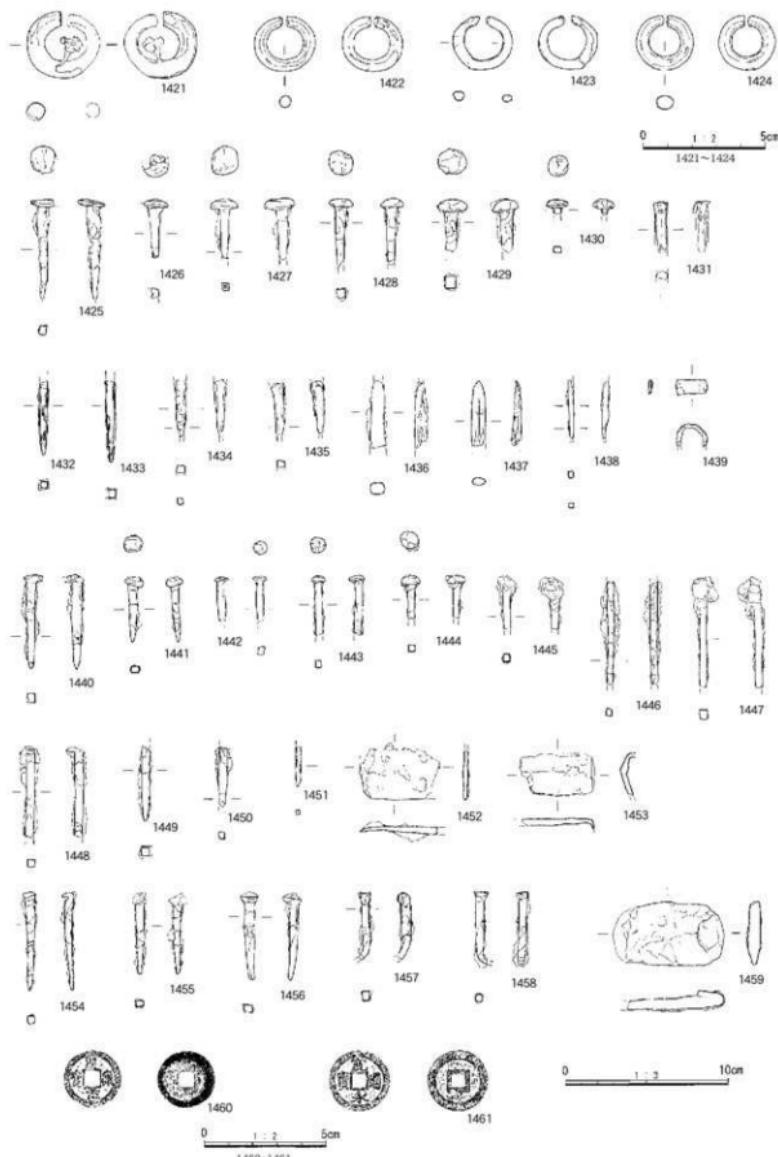


図151 平井遺跡 第1次・第3次 遺構出土木製品実測図2



第1次

- 1454~1458: 1北区 拼接区 261火葬墓  
1459: 5北区 遗物包含层褐色土  
1461: 2南区 遗物包含层第4层
- 1421~1423·1425~1439: 6~2南区 63横穴式石室  
1424·1440~1453: 6~2南区 85横穴式石室  
1460: 6~1北区 遗物包含层第3层

図152 平井遺跡 第1次・第4次 遺構・遺物包含層出土金属製品実測図

## 第V章 まとめ

### 第1節 各調査次数での検出遺構と出土遺物

#### 1 平井遺跡第1次調査(平井遺跡1～5区)

平井遺跡第1次調査では、古墳時代・奈良時代・中世の遺構が検出されている。古墳時代の遺構には、古墳の横穴式石室1基と横穴式石室の痕跡と思われる遺構1基のほか、埴輪窯2基がある。埴輪窯及びその周辺からは奈良時代の遺物包含層に混じって多量の円筒埴輪や形象埴輪が出土した。また、和歌山県内では希少例となる土師質陶棺の破片も多数出土した。奈良時代及び中世の遺構では、掘立柱建物、柱穴・土坑・溝・井戸などが検出され、奈良時代の掘立柱建物の柱穴には柱材が残存するものもある。

#### 陶棺の評価

陶棺は、現在の岡山県から兵庫県西部や奈良県に分布の中心をもち、他の地域では散在的に分布する。このため、陶棺をもつ古墳の被葬者が、これらの地域と関係のある人物の可能性も考えられる。現在のところ、この陶棺と直接関連性の考えられる陶棺の例は確認されていない。

#### 埴輪窯について

3北区の北側側溝を掘削していたところ、222埴輪窯(1号窯)を検出した。調査区外の北側に埴輪窯が延びる可能性や新たな埴輪窯の存在が考えられた。また、1区で検出された古墳の横穴式石室についても、同じく調査区外の北側に延びることから、調査範囲の変更が必要となった。調査の結果、3北区拡張区で新たに257埴輪窯(2号窯)を発見した。1北区拡張区では、古墳の横穴式石室の北側が判明したが、新たな古墳や石室などは発見されなかった。257埴輪窯(2号窯)は、比較的残存状況が良好であったことから、これにより慎重な掘削となった。

また、257埴輪窯(2号窯)は、記録保存措置の一環として第3次調査において剥ぎ取り保存作業を実施した。

#### 埴輪窯の評価

今回の調査は、和歌山県内で埴輪窯が調査された初めての事例である。また、新発見の埴輪窯である。従来知られていた埴輪窯は、和歌山市森小手穂埴輪窯跡であるが、調査はされておらず、全容は不明である。近畿地方では大阪府高槻市新池遺跡や羽曳野市野々上埴輪窯跡、奈良県奈良市菅原東遺跡などが埴輪窯の調査例として知られているが、須恵器窯などに比べて検出例は少ないものである。古墳から多くの埴輪がみつかっているが、埴輪窯の立地に適した丘陵裾部の発掘調査例が少ないため、埴輪窯が発見されることはないのではないかと考えられる。

従来の研究では、古墳時代における紀ノ川北岸の勢力と南岸の勢力との関係について、5世紀の大谷古墳などを造った紀ノ川北岸の紀臣系の勢力から、6世紀の岩橋千塚を造った南岸の紀直系の勢力に中心が移ると考えられている。これは、両者の古墳から出土している埴輪の製作技法及び胎土に違いがあることなどが根拠となっている。今回、平井遺跡で同時に両者の埴輪が出土したことから、その考え方を見直す契機になると考えられる。

さらに、埴輪窯出土の埴輪は、生産地が特定されるので、供給先(古墳出土の埴輪)がわかれれば関連性の明につながる手がかりを得ることができる。

今回、三辻利一・犬木努(大阪大谷大学)氏により出土した埴輪の蛍光X線分析を行い、その結果

は、紀伊における埴輪生産や古墳の展開過程を解明する上で、重要な成果といえる(付章 第1節)。

## 2 平井遺跡第2次調査(平井遺跡7区)

平井遺跡第2次調査で検出された遺構の時期は、奈良時代と中世に大別できる。奈良時代の遺構には柱穴や土坑があり、大型の130土坑からは、須恵器や製塙土器・土錘が多数出土した。中世の遺構には柱穴・土坑・溝があり、瓦器楕2個体が出土した176土坑(地鎮遺構)も検出された。

第2次調査地周辺に限っては古墳時代、奈良時代、中世(鎌倉時代)、近世(江戸時代中期)の時期において画期がみられる。

第1の画期は、古墳時代である。本調査地の西隣において、平井遺跡第1次調査で古墳や埴輪窯を検出したことや、調査地周辺において未確認古墳の存在の可能性が高いことからも言える。また、7区では、古墳時代の遺構は検出されなかったが、遺物包含層から少量ではあるが埴輪や須恵器が出土した。

第2の画期は、奈良時代である。今回の調査では土坑2基と方形の掘形をもつ柱穴を数基検出した。これらは何れも調査区の西半部で検出した。平井遺跡第1次調査の範囲で、7区に隣接した地点では、奈良時代の溝や掘立柱建物が検出されていることから、奈良時代の遺構の展開は第2次調査地より西側に広がる。

第3の画期は、鎌倉時代である。中世の時期の遺物包含層及び遺構がこの辺り一帯に展開し、特に130土坑を検出した調査区北西側の土層は整地土と考えられる堆積を示していることからも中世の時期にも大掛かりに改変されたことが窺えられる。

第4の画期は、江戸時代中期と考えられる。調査区の中央に江戸時代に掘削されたと考えられる池が存在し、この時に調査区の周辺の様相が大きく改変されたと思われる。このことを如実に示しているのは、池の南側と西側あるいは東側に築かれた高さ約2~3m余りの築堤(盛土)である。調査地内で確認された層厚0.2~0.3mの中世遺物包含層の堆積土や遺物の細片がかなりの量で盛土に含まれていた。このことから、この池の築堤時に、遺物包含層あるいは遺構等が削平されたものと考えられる。

## 3 平井遺跡第3次調査(平井遺跡1~2区・2~2区)

平井遺跡第3次調査地は、東西2箇所に分かれ、1箇所は、第1次調査地の西側に位置し、弥生時代と中世の遺構を検出した。他の1箇所は、第1次調査地の埴輪窯の範囲である。

弥生時代の遺構は、竪穴建物2棟、大型の土坑2基、方形周溝墓1基を検出した。竪穴建物の時期は、33竪穴建物が弥生時代中期紀伊Ⅲ-3様式からⅣ-1様式段階、44竪穴建物が中期紀伊Ⅲ-3様式からⅣ-2様式段階と考えられる。土坑は、1土坑と44竪穴建物の東側で検出した大型の59土坑がある。59土坑は、完存品を含む弥生時代中期紀伊Ⅲ-3様式からⅣ-2様式と後期紀伊Ⅴ-1様式に区別できる土器が出土する他、木製品の未成品や獸骨が出土した。2方形周溝墓は、調査地東端部で検出した。周溝からは完存品を含む中期紀伊Ⅲ-3様式からⅣ-2様式の土器が多数出土した。遺物包含層からも、弥生時代中期を主体としたまとまりのある多くの土器が出土した。

中世の遺構は、溝と柱穴・小穴を検出したが、後後に削平を受けたためか、遺構密度は希薄であった。

#### 4 平井遺跡第4次調査(平井遺跡6区)

平井遺跡第4次調査で検出した主要な遺構は、弥生時代の竪穴建物5棟と古墳時代の横穴式石室2基である。

弥生時代の竪穴建物は、第4次調査で5棟、隣接する第3次調査で2棟が検出された。時期は、第4次調査で検出した61竪穴建物が弥生時代中期紀伊IV様式段階、139竪穴建物が中期紀伊IV-1様式段階、117竪穴建物が中期紀伊IV-1様式段階、42竪穴建物は若干新しく後期紀伊V-3・4様式段階、114竪穴建物が後期紀伊V-4・5様式段階と考えられる。

横穴式石室は、平井遺跡第1次調査で002横穴式石室1基を検出し、また、石材が抜き取られたと考えられる003横穴式室痕跡1基が確認されている。今回の2基と合わせれば計4基の古墳に伴う横穴式石室の存在が明らかとなった。何れも基底部が残存していたのみであることを考えれば、更に複数基の存在も想定される。今回検出した2基の時期は、63横穴式石室が陶邑II型式第5段階(7世紀初頭)、85横穴式石室が陶邑II型式6段階(7世紀前半)と考えられる。その他、古墳時代に関係する11土坑・29土坑などがある。

古代～中世の遺構として、柱穴、土坑、溝を検出した。横穴式石室の検出面で多くの中世の遺物が出土したのも特徴的である。63横穴式石室の玄室左側壁の側石上では、室町時代と考えられる89土師器皿群を検出した。完存品で皿9点以上、小皿3点以上が出土し、皿2枚の口縁部を上下に合わせた状態で検出されたことから、地鎮等何らかの祭祀行為に伴うものと考えられる。

#### 5 平井II遺跡第1次調査(平井II遺跡1区)

平井II遺跡第1次調査で検出された遺構で、確実に古墳時代の遺構と考えられるのは、1土坑のみである。1土坑は、主柱穴や造り付け竈、またはそれに類似する施設が調査区内では検出されなかったこと、また、基底部に凹凸があることなどから、竪穴建物である可能性は少ないと考えているが、全体の1/2以上が調査区外になると思われることから断定はできない。

第1次調査では、遺物包含層出土分も含め多数の初期須恵器が出土した。器台には、組紐文(1189・1204)や竹管文(1200・1201)等を施し、楠見遺跡出土の初期須恵器と共通する点も少なくない。これらの初期須恵器は、陶邑I型式1段階(田辺TK73型式)に併行する段階のものと位置付けられる。また、共伴して出土した土師器甕の一部に外面タタキ整形が認められる点や高杯脚台部の整形に粘土巻き上げ痕が認められる点も重要である。

その他、古墳時代の注目すべき遺物に埴輪の出土がある。円筒埴輪及び形象埴輪が出土したが、初期須恵器同様に全てを図化できていない。

中世の遺構は、密度に粗密はあるものの調査区のほぼ全域で検出した。瓦器碗が完存品で出土した53柱穴及び59柱穴は地鎮に関連する遺構と考えられるが、周辺で柱穴の建物並びを復元することはできなかった。

#### 6 平井II遺跡第2次調査(平井II遺跡2・3区)

平井II遺跡第2次調査は、第1次調査の1区に比べ遺構密度は低く、遺物の出土量も少量である。

2区の第1遺構面及び3区で検出できたのは、基本的に水田耕作に伴う遺構のみである。このことは、当該地が、中世に水田化されて以降、水田以外の目的で利用されなかつたことによるものと考えられる。水田は、2区で確認された盛土の存在などから、複数の時期に区画の拡幅などの改変が行われていたようである。

出土遺物の時期は、弥生時代の一部のものを除き古墳時代と中世に帰属するものである。1区で多く出土した近世以降の陶器等は出土しておらず、土地利用の違いによるものと考えられる。瓦器は、1区では、完存品も複数出土し、時期は平安時代後期12世紀前半が主体であるのに対し、2区出土の瓦器は、細片が多く、鎌倉時代13世紀中葉以降が主体であるなどの相違点がみられる。この時期の違いが、水田の変更時期に対応するかどうかは、他地区との調査を併せて検討を行う必要がある。

2区でも、遺物包含層第2層・第3層及び遺構から古墳時代の須恵器が出土した。大半は甕あるいは壺の破片と考えられるもので、断面の色調や調整技法から初期須恵器と判断できる破片も多く含まれている。第2遺構面で検出した、240～244土坑からも複数の初期須恵器が出土しており、なかでも240土坑から出土した大甕の肩部破片2点(1261・1262)には乳状突起が付されている。乳状突起をもつ初期須恵器が出土するのは、和歌山市楠見遺跡や鳴滝遺跡・秋月遺跡など限られた遺跡からのみであり、注目すべき遺物と言える。

## 7 平井II遺跡第3次調査(平井II遺跡4～8区)

平井II遺跡第3次調査地は、丘陵裾部から段丘面にあたり、検出された遺構は古墳時代と考えられる多くの柱穴・小穴や中世の区画溝、井戸などがある。

古墳時代の遺構は4区で検出した006土坑がある。006土坑は比較的大型の楕円形の土坑で、初期須恵器が出土している。検出した位置は、平井II遺跡第1次・第2次調査地や遺跡東側の楠見遺跡に近い地点にある。遺物は出土していないが、類似する堆積土が堆積した遺構も調査地の南東部で検出されている。また、調査地北西側の傾斜地である6・7区では、古墳時代と考えられる褐色～黒色シルトが堆積した柱穴・小穴が多く検出されたが、出土遺物は極めて少ない。中世の遺構は、傾斜地である6・7区では希薄であったものの、平坦地の4・5区では多く検出され、8区では丘陵裾に延びる001溝(自然流路)を検出した。遺構は区画溝や跡溝、井戸などがあり、瓦器碗などの遺物が出土していることから、周辺における生産地と居住域の展開が考えられる。

調査で検出された古墳時代の遺構密度は、後世の削平を考慮しても希薄であるといえる。出土遺物も極めて少量であるため、調査地が生活域の中心地であったとは考えにくい。遺跡の東側に位置する楠見遺跡の過去の都市計画道路西脇山口線での調査でも、古墳時代の遺構は希薄であり、中世以降は比較的多くの遺構が展開している。これまでの調査結果から推測すると、古墳時代の生活の中心は、遺跡の範囲でも、標高の高い北東側に展開すると考えられる。調査地の北東側及び平井II遺跡第1次調査で確認された円礎を含む基盤層からは周辺に南流する小河川の存在が想定され、水の確保が比較的容易で、生活に適した地であると推測できる。標高の低い南側の段丘面が生活域となるのは、中世以降と考えられ、紀ノ川の旧流路が変遷したことが窺える。

## 8 平井II遺跡第4次調査(平井II遺跡9区)

平井II遺跡第4次調査は、平井II遺跡第1次・第2次調査地の北側の丘陵裾部に当たる。

調査地斜面の2段の平坦部分において古墳時代の土坑と中世の土坑、柱穴・小穴を検出した。遺構を検出した平坦地は、元々は今より広い離壇状を形成していたと考えられる。

7区では平井II遺跡2～6区で検出あるいは出土した明確な遺構や、初期須恵器は出土しなかったが、包括的に考えれば、この斜面地も第1次調査及び第2次調査で検出した遺構の一群と考えられる。

## 第2節 平井遺跡出土埴輪について

### 1 円筒埴輪について

平井遺跡出土円筒埴輪について、222埴輪窯（1号窯）、257埴輪窯（2号窯）及び埴輪窯以外出土品と出土位置により区分して、その特徴を概観したい。

#### 2 22 墓輪窯（1号窯）円筒埴輪の概要（図42・43・45、写真図版62・63・65）

3・4段目にスカシ孔を穿孔する4条5段円筒埴輪が、床面1で出土した。いずれも外面調整にナナメハケ、突帯に断続ナデ技法A<sup>1</sup>が確認できる。底部調整には板オサエ<sup>2</sup>が確認でき、V群系<sup>3</sup>と位置付けられる。このほか、明橙色系の色調の軟質な焼成、外面調整Ca種ヨコハケ<sup>4</sup>、特徴的な肥厚する口縁部をもつIV群系の一類型である紀伊型円筒埴輪<sup>5</sup>が床面1から少量出土した。

#### 2 57 墓輪窯（2号窯）円筒埴輪の概要（図48・49・52・53・55・57、写真図版67～70・72・74・75）

4条5段円筒埴輪が床面1で出土し、他の床面帰属の円筒埴輪もほぼ同様の法量を示すことから、同一の段構成の公算が高い。スカシ孔は、3・4段目と2・4段目の穿孔パターンが認められる。外面調整は大半がナナメハケによるが、床面4・5では板ナデ、床面2・3・5ではBd種ヨコハケが出土した。底部調整は床面1・2で222埴輪窯（1号窯）と同様に板オサエが確認できる<sup>6</sup>のに対し、床面4・5では底部調整ではなく床面3でも内面ケズリ1点のみと床面4と3を境として技法や出現率に差がある。突帯には、床面1・2で最下段突帯に押圧技法が一定量認められ、他の突帯には突帯整形の板状工具端部压痕<sup>7</sup>が確認できた（75・89等）。さらに、断続ナデ技法Aはいずれの床面帰属の円筒埴輪にも認められたほか、垂直に粘土紐をオサエ付けて貼り付ける方法（148等）の突帯貼付技法<sup>8</sup>も確認できるが、間隔設定技法の痕跡はない。このように、257埴輪窯（2号窯）出土円筒埴輪はV群系と位置付けられるが、床面3～5と床面1・2では外面調整、押圧技法、底部調整などの製作技法に差異が認められた<sup>9</sup>。

#### 埴輪窯以外出土品の概要（図58・59、写真図版76・77）

全形が判明する個体はないが、3条4段以上構成の円筒埴輪（204）が出土した。埴輪窯帰属円筒埴輪と接合関係も確認でき、突帯に断続ナデ技法A・押圧技法、外面調整にB種ヨコハケ・ナナメハケ・板ナデ、底部調整に板オサエなど埴輪窯帰属の円筒埴輪と同様の特徴が認められ、V群系円筒埴輪（212～220）が主体的だが、埴輪窯以外出土品でも紀伊型円筒埴輪（195～203）が出土した。なお、埴輪窯では222埴輪窯（1号窯）床面1のみの出土で極少量であるのに対し、埴輪窯以外出土品の紀伊型円筒埴輪の出現率は埴輪窯帰属のそれよりも高い傾向が看取される。

埴輪窯帰属円筒埴輪には確認できない特徴として、底部調整タタキ（204～208）が挙げられる。この一群の底部高は、埴輪窯帰属円筒埴輪と比して総じて高い。この一群の突帯には断続ナデ技法Aが確認できる（206）もあることから、V群系の範疇に位置付けられる。このほか、（209）や（221）のように形状・外面調整・焼成・突帯及び製作技法から紀伊型にもV群系にも直ちに位置付けがたい存在も確認した<sup>10</sup>。

#### 平井遺跡出土円筒埴輪の比較（図153）

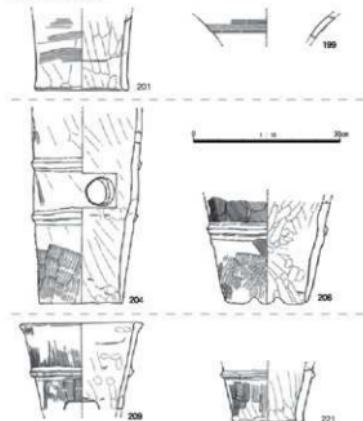
222埴輪窯（1号窯）の円筒埴輪は、外面調整ナナメハケ、断続ナデ技法Aや底部調整板オサエも確認でき、川西編年V期のV群系に該当する。なお、257埴輪窯（2号窯）床面1・2で一定量認められる押圧技法ではなく、床面3～5で認められた外面調整B種ヨコハケや板ナデもない。また、床面1で出土した紀伊型円筒埴輪はその出現時期がM T 15型式期以降に位置付けられる<sup>11</sup>ことから、222埴輪窯（1号窯）床面1は当該時期に位置付けられる。

一方、257埴輪窯(2号窯)の円筒埴輪も、外面調整の大半は1次ナナメハケ、突帶に断続ナデ技法A、底部調整板才サエが確認でき、222埴輪窯(1号窯)同様、川西編年V期のV群系に該当する。ただし、外面調整B種ヨコハケ、突帶貼付技法・板状工具端部圧痕や底部調整の出現率の低さなど222埴輪窯(1号窯)よりも古相の特徴である。さらに、222埴輪窯(1号窯)で出土した紀伊型円筒埴輪が出土しない点<sup>13</sup>も勘案すると、257埴輪窯(2号窯)は222埴輪窯(1号窯)に先行するTK23~47型式期に位置付けられる。

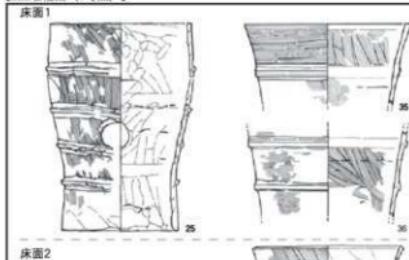
埴輪窯以外出土円筒埴輪には、埴輪窯出土円筒埴輪と一致しない特徴も認められるものの時期的な限定は困難で埴輪窯とほぼ同一時期と想定せざるを得ない。なお、タタキ板を底部調整に利用している点は、釜山古墳群や大谷古墳<sup>14</sup>との関係性が想起される。

以上の円筒埴輪の諸特徴からは、TK23~47型式期頃の257埴輪窯(2号窯)、MT15型式期頃の222埴輪窯(1号窯)、埴輪窯に前後する時期と推定される埴輪窯以外出土品という編年の位置付けに整理できる。

#### 【埴輪窯以外出土】



#### 【222埴輪窯(1号窯)】



#### 【257埴輪窯(2号窯)】

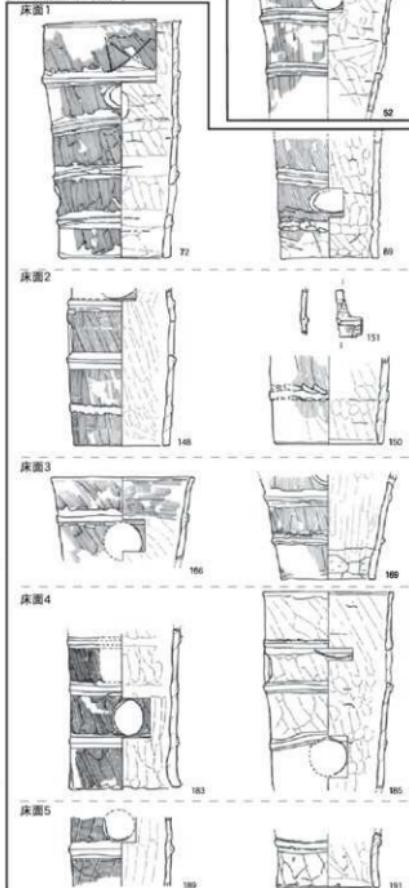


図153 平井遺跡出土の主な円筒埴輪

## 2 形象埴輪の概要について

### 平井遺跡第1次以外出土埴輪(図154)

前章では平井遺跡第1次調査(第3次)で出土した埴輪について報告したが、本報告された他の発掘調査においても、埴輪が出土した。その大部分の特徴は前章報告の埴輪窯以外出土品と一致するが、出土事例が少ない又はない事例として蓋形埴輪笠部(1462)、石見型埴輪(1463)、胡麻形埴輪(1464)及び形象埴輪円筒部(1465)を認めたので、ここで報告する。

### 石見型埴輪について(図155・図156)

形象埴輪のうち一定の出土量のあった石見型埴輪について、前項同様出土位置により区分して、その特徴を最初に概観したい。

**2 5 7 墓輪窯(2号窯)** 形象部全体の形状、規格や文様構成は不明である。形象部はほぼ無文か又は密度の低い乱雑な弧文を施す。中央帶は単条施文具により綾杉文を施文することにより、形象部を上下段の2分割(115)又は4分割(164)する。角状突起はない。なお後述する222埴輪窯(1号窯)の施文具と文様構成による区分では、単条施文具・弧文タイプに位置付けられる。

**2 2 2 墓輪窯(1号窯)** 形象部全体の規格が判明する個体はない。形象部中央帶以外の施文具及び形象部の文様構成により大別した。施文具は単条施文具と多条施文具に大別され、さらに多条施文具は2条一括と3条一括に細分できる。なお、多条施文具のうち3条施文具は単条施文具と共に用されるが、2条施文具は共用されない。文様構成は乱雑な弧文と直線的な文様に大別でき、直線的な文様はさらに文様から菱形タイプ、斜交軸<sup>10</sup>タイプに細分できる。この施文具と文様構成の組み合わせにより、多条施文具・弧文タイプ、多条施文具・菱形タイプ、多条施文具・斜交軸タイプ、単条施文具・弧文タイプの4種類に大別された。

**多条施文具・弧文タイプ** 中央帶が単条施文具による格子目文で、上段帶・上段面は乱雑に3条の施文具で弧文を描き、形象面は線刻により2分割する(67)。また、U字挟り部分に粘土紐貼付の剥離痕跡(56)があることから、上辺加飾が行われるものと想定される。なお、復元される形象部長70cm以上、上辺幅40cm程度を測る。

**多条施文具・菱形タイプ** 上段面を3条施文具により菱形を施文するが、上段帶相当位置に単条施文具により格子目文を施すものの、その側辺は直線状であることから、上段帶が段を付けて広がらない形象部形状(66)と推定される<sup>10</sup>。なお、上辺のうちU字挟りのみ多条施文具で縁取りして加飾するが、角状突起はない。復元される形象部長40cm程度、上辺幅30cm程度とやや小規格である。

**多条施文具・斜交軸タイプ** 上段面のみ確認でき、2条施文具で上段面を斜交軸で区分したのち、各区画を弧文で充填する。後述する埴輪窯以外出土品で多数確認され、同一の特徴とみられる。

**単条施文具・弧文タイプ** 単条施文具で長いスパンの弧文を乱雑に描く。形象部は粘土紐貼付により分割するものの、形象部分割位置は不一致であるため分割数は不明である(37・38・65)。

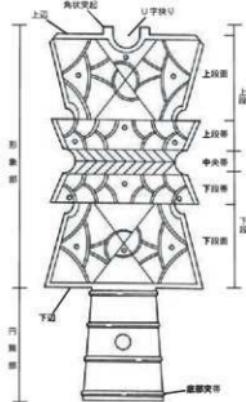


図155 石見型埴輪各部の名称

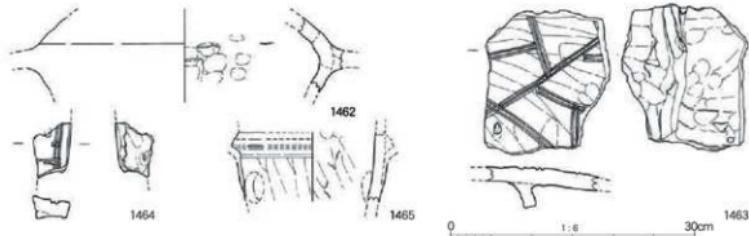


図154 平井遺跡、平井II遺跡出土のその他の形象埴輪

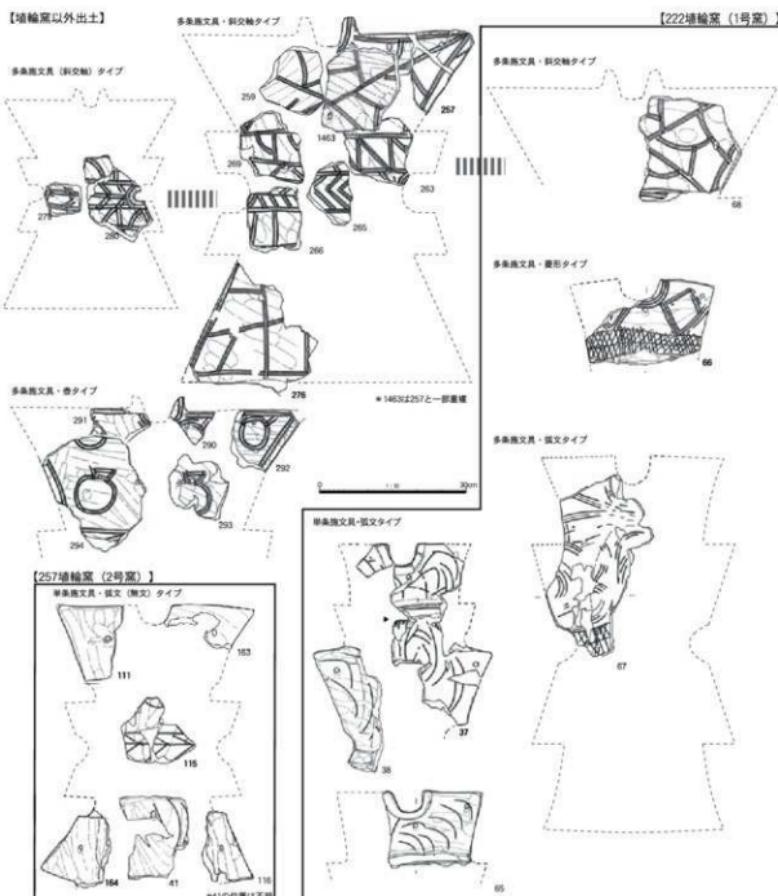


図156 平井遺跡出土の主な石見型埴輪

U字抉りには粘土紐貼付を行うが、角状突起はない(37・65)。形象部上段面側辺や上段帶上辺で屈曲開始する湾曲状況(37・65)や形象部粘土紐貼付による分割位置(67・68)から、中央帶より上位の形象部上段が3分割される公算が高く、さらに上段帶が幅広な特異な形象部の形状に復元できる<sup>17</sup>。復元される形象部長は50cm以上、上辺幅30cm程度を測るとみられるものの、下段の形状が不明なため形象部全形の詳細は不明である。

**埴輪窯以外出土** 形象部全体が判明する個体はないが、222埴輪窯(1号窯)の多条施文具・斜交軸タイプが多量に出土した。形象面は線刻により4分割し、上段面は中央付近で交点をもつ直線で分割した形象面を弧文で充填する。上段帶は、その上下の形象面分割線の間を縦線により区画して正方形の区画を作成したのち、その内部に斜線(263)又は弧文(269)を行う。中央帶は多条施文具により綾杉文を施すが、その中央部分に横線のある(266)とない(265)がある。下段の詳細は不明だが、下段帶は上段帶同様上下分割線の間を縦線で区画するも、内部には施文せず(266)、下段面は直線的な線刻を組み合わせる(276)ようである。なお、上辺には角状突起が確認できること(257)から、このタイプは角状突起を付すと推定される。多条施文具・斜交軸タイプは形象面の各規格を繋げ合わせると復元される形象部長70cm程度、上辺幅60cm程度を測る。

さらに、多条施文具で上段帶：正方形+弧文-中央帶：綾杉文-下段帶：正方形+弧文を行う多条施文具・斜交軸タイプと類似する一群が確認できるが、上段面の文様構成が不明である。なお、中央帶や上下段帶はいずれも6cm未満しかなく、多条施文具・斜交軸タイプの2/3程度の規格とみられ、復元される形象部長は50cm未満と多条施文具・菱形タイプと同様の小規格となる。このほか埴輪窯以外からは多条施文具により形象面を線刻により4分割し、上段面に壺形文様を描く多条施文具・壺タイプが認められる。施文文様以外は、多条施文具・斜交軸タイプに類似する。

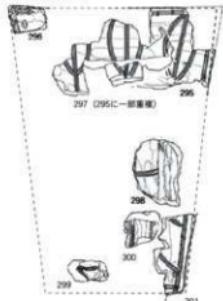
石見型埴輪円筒部の製作技術を確認しておく。円筒部を倒立技法により製作しているのが確認できるのは、222埴輪窯(1号窯)単条施文具・弧文タイプのみである(37)。これに対し、石見型埴輪と限定出来ないが、257埴輪窯(2号窯)には円筒部を正立(119)で製作されたとみられる。また、埴輪窯以外出土品には、形象埴輪円筒部とみられる(315～323)では、倒立技法が採用されており、埴輪窯以外出土品では底部突帯の貼付が認められ、その貼付位置は底面に接するものと接しないものがあるがいずれも無調整ではなくヨコナデ調整が行われる。

以上の平井遺跡出土の石見型埴輪の特徴をまとめたのが、表3である。222埴輪窯(1号窯)の單条施文具・弧文タイプのように形象部上段を3分割したうえで、上段帶を幅広で製作するする形象部の形状の類例は知られていない。ただし、本例は円筒部倒立技法であることから、MT15型式期以降に位置付けられる<sup>18</sup>。一方、257埴輪窯(2号窯)では円筒部正立での製作の公算が高く、222埴輪窯(1号窯)に先行する特徴を示す。

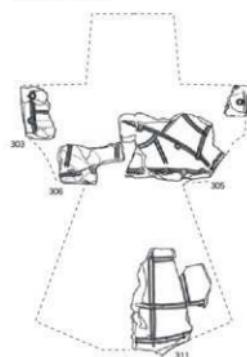
表3 平井遺跡出土石見型埴輪大別一覧

	出土位置	形状	形象部分割数	文様構成	角状突起	施文具	備考
單条施文具・弧文タイプ	2号窯	定型か	2か	弧文か	なし	単	円筒部正立か
單条施文具・弧文タイプ		上段3分割	不明	弧文	なし	単	円筒部倒立技法
多条施文具・弧文タイプ	1号窯	定型	2	弧文	なし	多(3)	
多条施文具・菱形タイプ		上段帶なし	4か	菱形文	なし	多(3)	
多条施文具・斜交軸タイプ		定型	4か	斜交軸	ありか	多(2)	
多条施文具・斜交軸タイプ	埴輪窯以外	定型	4	斜交軸	あり	多(2)	
多条施文具・斜交軸(?)タイプ		定型	4	斜交軸か	ありか	多(2)	小規格
多条施文具・壺タイプ		定型	4か	壺	あり	多(2)	

胡蝶形埴輪  
【埴輪窯以外出土】

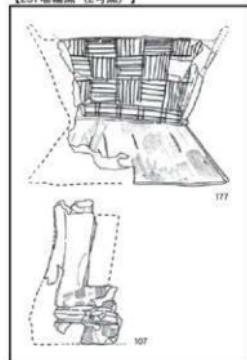


菱形埴輪  
【埴輪窯以外出土】

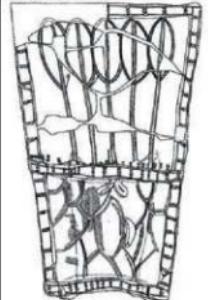


家形埴輪

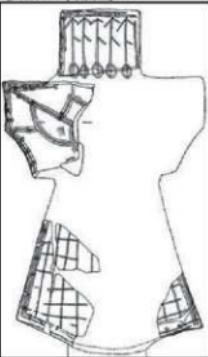
【257埴輪窯(2号窯)】



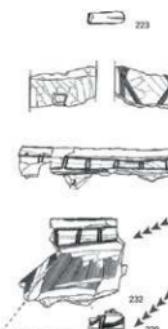
【大日山35号出土】



【大日山35号出土】



【埴輪窯以外出土】

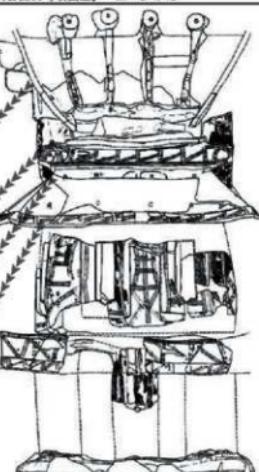


埴輪窯以外出土品の多条施文具・壺タイプは、類例は少ないものの文様が壺形の類例は大和や吉備でも確認されている。さらに、岩橋千塚古墳群の花山2号墳では壺形文様だけでなく多条施文具も一致する類例がある<sup>13</sup>。

222埴輪窯(1号窯)と埴輪窯以外出土品で確認された最も多条施文具・斜交軸タイプは、岩橋千塚古墳群の伝花山地区や前山B117号墳で類例が確認できるものの、段帶の文様は異なる。

以上のとおり、平井遺跡出土石見型埴輪の形象部は、岩橋千塚古墳群を中心とする関係性・共通性が確認されるものの、その表現方法が一致して、平井遺跡との直接的な受給関係等が想定できるような類例は、管見の限り確認できない。

【大日山35号出土】 柴 S=1/15



大日山35号出土形象埴輪：和歌山県教育委員会2013から引用、一部改変)

図157 平井遺跡と大日山35号出土の形象埴輪の比較

### その他の形象埴輪について(図157)

**家形埴輪** 257埴輪窯(2号窯)から妻側の切妻部と寄棟部に円形スカシ孔が穿孔される一体成形の入母屋造(157・177)と平屋の身舎(107)が出土した。屋根部の棟部の網代や障泥板は単条施文具で施文されるが、軒先は加飾されない。一方、埴輪窯以外出土品には分割成形の入母屋造寄棟部(232)、障泥板(227・231)や千木(225)が出土しており、いずれも多条施文具により加飾される。類似する分割成形の家形埴輪は、岩橋千塚古墳群の大日山35号墳で確認されている。また、粘土紐貼付と多条施文具による加飾のある軒先表現(228~230)は、埴輪窯が所在する丘陵の頂部に位置する平井1号墳でも出土している<sup>20</sup>。

**胡籠形埴輪** 多条施文具により矢羽の表現を行う背板(295・297)のほか、方立部(298~301)も出土した。形象部の背板や方立部の縁辺は、多条施文具で直線を縁取り、多点刺突を一定の間隔で行う。この多点刺突は、器財埴輪では盾形埴輪や双脚輪状文形埴輪にも使用されるが、この両埴輪にはない立体的形状を備えていることから方立部が区別できる。胡籠形埴輪の類例は、大谷山22号墳、前山B164号墳、大日山35号墳など岩橋千塚古墳群で確認されている<sup>21</sup>。これらの類例では形象部縁辺部に粘土紐貼付・刺突を行うが、平井遺跡出土例では多条施文具による線刻と刺突による施文に止まり、形象部の表現は一致しない。なお、多点刺突は埴輪窯出土形象埴輪への使用は確認されず、器財埴輪のみならず人物埴輪や馬形埴輪も含めて、平井遺跡では埴輪窯以外出土品のみでその使用が確認できる。

**鞠形埴輪** 形象部を多条施文具で直線と弧文の文様を施す一群が出土した(302~306)。この文様は石見型埴輪の多条施文具・斜交軸タイプと類似するが、その文様内に竹管文を施文する点で異なる。この竹管文を施文する一群の側辺の形状から、鞠形埴輪の形象部と推定した<sup>22</sup>。なお、鞠形埴輪とした竹管文施文の一群も胡籠形埴輪等と同様、埴輪窯以外出土品のみに確認される。また、鞠形埴輪の近隣の類例として大日山35号墳があるが、竹管文は施文されず形象部の表現は一致しない。

**その他の形象埴輪** 222埴輪窯(1号窯)では蓋形・石見型・人物・馬形・四足獸、257埴輪窯(2号窯)では家形・盾形・蓋形・石見型・人物・鶏形・馬形、埴輪窯以外出土品には家形・盾形・蓋形・石見型・双脚輪状文形・胡籠形・人物・馬形・四足獸などの出土が確認できた。上記以外の形象埴輪の特徴的な点について、ここで簡単にまとめておく。

蓋形埴輪は、立飾軸部、笠部や台部の出土は確認されたが、明確な立飾の出土は認められない。そこで、無文ではあるもののその形状の特徴から(54)(55)(235)(236)を立飾と推定した。ただし、これらの形状も定型的な立飾に比して貧弱で、他の形象埴輪の可能性がある。

動物埴輪では、鶏形埴輪の鶏冠(127・339)が出土しているが、大谷山22号墳と比較すると抽象化が著しい。牛形埴輪の角(340・341)が出土したが、県内では大日山35号墳のみの類例で、畿内周辺でも類例は少ない。馬形埴輪では、257埴輪窯(2号窯)の(158)・(159)は鞍部周辺の表現が線刻のみであるのに対し、222埴輪窯(1号窯)では(51-2)・(69)のとおり粘土紐で加飾し、埴輪窓間でも表現方法に差がある。さらに、埴輪窓以外出土品では輪鏡ではなく壺鏡が粘土紐貼付により表現(355)されたり、多条施文具と多点刺突による加飾がある鞍(352・353・358)など埴輪窓出土のそれとは表現が異なる。

人物埴輪は出土量が少量でその様相は判然としないが、257埴輪窯(2号窯)出土の(126)は盾持ち人の盾部の可能性が高い。埴輪窓以外出土品の(325)・(326)は人物埴輪顔部だが、顔面に粘土板を貼付後に顔表現や顔面環状の凹面を施しており、盾持ち人顔部とみられる。

### 3 平井遺跡出土埴輪の位置付け

平井遺跡出土埴輪の特徴を簡単に概観してきた。これらの特徴が示す平井遺跡出土埴輪の位置付けについて、以下に概観する。

#### 編年の位置付け

円筒埴輪は、いずれも川西編年V期に該当する。外面調整、突帯製作技法や底部調整の属性の特徴や紀伊型円筒埴輪の有無などから、257埴輪窯(2号窯)が222埴輪窯(1号窯)に先行してTK23~47型式期頃、222埴輪窯(1号窯)がMT15型式期頃と想定した。形象埴輪の円筒部が、257埴輪窯(2号窯)は正立の製作なのに対して、222埴輪窯(1号窯)が倒立技法であることは、円筒埴輪から想定される埴輪窯の先後関係並びに帰属時期と矛盾しない。

一方、埴輪窯以外出土品には埴輪窯で焼成された埴輪群も含まれているが、埴輪窯では出土しない底部調整タタキの円筒埴輪、分割成形の家形埴輪、多条施文具・壺タイプの石見型埴輪、胡籠形埴輪、韌形埴輪などの形象埴輪が確認した。底部調整タタキは、釜山古墳群や大谷古墳との関係性が想起できるものの、埴輪窯との先後関係は判然としない。一方、形象埴輪に注目すると、埴輪窯で出土していない形象埴輪群の大半はその仔細な表現方法までは一致しないものの、施文具や文様、さらに器種などについて岩橋千塚古墳群、とりわけ大日山35号墳に類似が確認でき、共通性が看取できる。さらに、これらの共通性が紀ノ川下流域を中心とした稀少な事例であることを鑑みると、これらの埴輪窯以外出土品の形象埴輪群の一部の帰属時期は大日山35号墳と大過ないと想定できる。すなわち、大日山35号墳ではTK10型式の須恵器が出土していることから、埴輪窯以外出土品のうち形象埴輪群の一部はTK10型式期頃に帰属すると想定したい。この場合、埴輪窯以外出土品の一部は埴輪窯に後出することとなり、さらに繰り返しになるが多点刺突などの埴輪窯出土品と異なる技法や多彩な形象埴輪群が認められることを併せると、222埴輪窯(1号窯)及び257埴輪窯(2号窯)以外埴輪窯又は当該期の古墳が周辺に存在していたと想定せざるを得ない<sup>23</sup>。

#### 蛍光X線分析との関係性

後掲の付章第1節のとおり、今回、大阪大学の協力を得て、平井遺跡の出土埴輪の蛍光X線分析を実施した。その結果、A~E群の5群の胎土の存在、うちD群は搬入品で

表4 蛍光X線分析と出土位置の関係性

	分析点数	A群	B群	C群	E群	D群
2号窯	184	127	53	1		3
1号窯	41	31		8		2
埴輪窯以外出土品	121	56	1	54	20	10
計	346	214	54	63	20	15

\*A,C,E群は重複するため各群の計と分析点数は一致しない。

あるの対し、その他の4群は在地産の公算が高いという分析結果が提出された。蛍光X線分析の結果と出土位置の区分の相関関係は、表4のとおりである。表4では、257埴輪窯(2号窯)とB群、埴輪窯以外出土品とE群の強い関係性を確認できる。さらに、肉眼観察の結果、平井遺跡出土埴輪のうち胎土に片岩を包含するのは2点を除き、埴輪窯以外出土品であった。このことを勘案して表4をみると、257埴輪窯(2号窯)ではB群・A群、222埴輪窯(1号窯)ではA群・C群、埴輪窯以外出土品:C群・A群(片岩混)が主体的な胎土であったことが分かる。埴輪窯や埴輪窯以外出土品の編年関係を考慮すると、このことは時期別に胎土を選別ないしは変更する必要があったことを示唆する。

さらに、搬入品とされたD群15点のうち13点が紀伊型円筒埴輪であった。紀伊型円筒埴輪とD群に有意の関係性が想定される<sup>24</sup>。この関係性からは焼成段階で222埴輪窯(1号窯)を共用するのに対し、紀伊型埴輪製作者は胎土採取の段階では胎土採取地を異にする可能性が想定される。

## 平井遺跡出土埴輪の位置付け予見

埴輪窯以外出土品の円筒埴輪には、底部調整タキから釜山古墳群や大谷古墳との関係性が看取できる一方、断続ナデ技法Aの存在、底部調整そのものの存在からそれらの古墳よりも後出すると位置付けられる。他方で、形象埴輪の一部は、多条施文具や多点刺突を多用する施文方法や類例が稀少な分割成形の家形・胡蝶形のような形象埴輪が認められる点など岩橋千塚古墳群と一定の関係性が想定できた。また、地理的位置関係から当然ではあるが家形埴輪の軒先表現の共通性を鑑みると平井1号墳の埴輪が含まれることも想定できる。これらのことから、埴輪窯以外出土品にはTK23型式期以降から

TK10型式期の埴輪群が含まれていると理解できる。ただし、このうち多彩な形象埴輪群にはTK10型式期前後の岩橋千塚古墳群と一定の関係性を想定できるものの、直接的な受給関係のような密接な関係性は認めることができなかつた。



大谷古墳：山口13-11

大谷古墳：山口25-8

写真47 大谷古墳円筒埴輪(和歌山県立紀伊風土記の丘所蔵 山口コレクション)

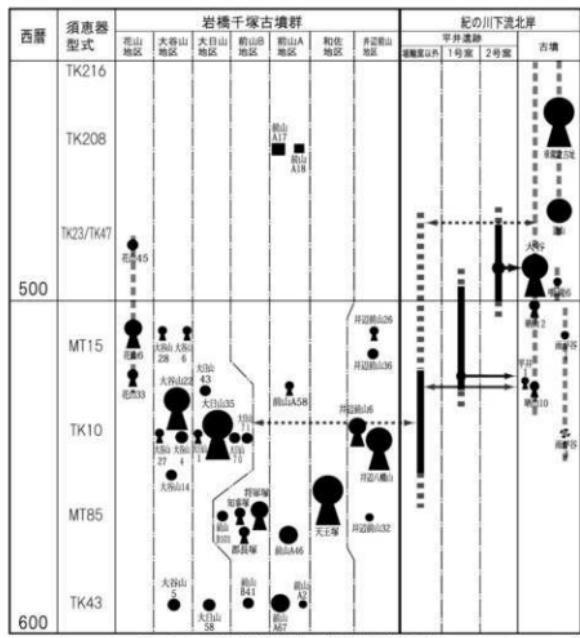


図158 平井遺跡埴輪群の位置付け概念図 (萩野谷2016改変して作成)

222埴輪窯（1号窯）は、円筒埴輪や形象埴輪円筒部の属性からMT15型式期頃に帰属するとした。円筒埴輪に紀伊型円筒埴輪が確認されることから、地理的位置関係とともに同類型の円筒埴輪が確認された平井1号墳への供給も可能性は想定できる。ただし、多様な形状や文様の石見型埴輪の供給先として平井1号墳のみを想定するのは困難で、その他の供給先の存在を想定すべきと考えられることから、周辺の古墳の調査や研究の進展が待たれる。また、石見型埴輪には従来知られていない形象部形状や属性を備える一群や形象部の加飾のあり方などに既往の分布域とは異なることが指摘できる事例の存在することから、今後の分析の進展が待ち望まれる。

257埴輪窯（2号窯）はV群系の円筒埴輪が存在するとともに、B種ヨコハケやIV群とV群の折衷タイプの突帶製作技法の存在や底部調整の出現率から222埴輪窯（1号窯）に先行するTK23～47型式期頃に帰属するとした。また、紀ノ川右岸に所在する先行する古墳群である釜山古墳群で主体的に採用される須恵器技法が採用されていないこと、さらに、底部調整の出現率や外面調整などから床面4・5と床面1～3で技法に差異があることを指摘した。

257埴輪窯（2号窯）出土のV群の円筒埴輪は、4条5段構成で、外面調整ナナメハケのほか、B種ヨコハケ、板ナデや最下段突帶の押圧技法や底部調整ケズリの特徴なども確認された。これらの特徴が確認できる円筒埴輪群は、紀ノ川下流域では大谷古墳で確認できる（写真47）。

大谷古墳には4条5段で外面調整B種ヨコハケ、板ナデ、押圧技法、底部調整板オサエのほかケズリなどが存在し、257埴輪窯（2号窯）で確認される技法のそれと多くの技法が一致する<sup>26</sup>。また、これらの技法的共通性だけでなく、直線距離で500m余のという地理的位置関係からも、大谷古墳は平井遺跡からの供給先の候補として容易に想像され、257埴輪窯（2号窯）の供給先と想定することは許されるであろう。

平井遺跡出土の埴輪群を整理すると、257（2号窯）開窯段階、同床面4から床面3への移行段階、222埴輪窯（1号窯）開窯段階、埴輪窯以外出土埴輪のうち埴輪窯に後出するであろう形象埴輪の一群の段階、という経時的な内的变化だけでは説明が困難な技法や形象埴輪の器種等の4回の変化が想定することができる。これらの4回の変化は、いずれも技法の流入又は器種の要請というような平井遺跡外部からの影響による変化と想定されるが、その影響の背景や発信元などについては、本報告では検討できなかった。

以上のとおり、平井遺跡出土の埴輪群について、若干の検討を加えてきた。埴輪窯の発掘調査事例は、和歌山県内では初めて事例で、近畿地方においても数例を数えるのみである。その事実だけでも、今回の平井遺跡から出土した埴輪群の潜在的価値は計り知れない。しかしながら、近年研究の進展が著しいハケメ配列パターンの同定に基づいた埴輪窯という生産遺跡内の製作者集団の復元や紀ノ川下流域や紀伊、ひいては畿内地域とその周辺地域の供給先の同定や関係性の検討、ひいては古墳時代後期の手工業生産のあり方などの多くの検討課題について、本報告では検討を行えなかった。すなわち、これらの課題の解明に貢献できる可能性を秘めた平井遺跡出土の埴輪群の潜在的価値のほんの一部しか引き出すことが出来なかつこととなる。今後、本報告をもとに多くの研究者の手によりそれらの研究が深化されて、平井遺跡出土の埴輪群が紀伊及び古墳時代の実像の解明に寄与することを期待したい。

(註)

- 1 中島和彦・鐘方正樹ほか1992「菅原東遺跡埴輪窯をめぐる諸問題」『奈良市埋蔵文化財センター紀要1991』
- 2 川西宏幸1978「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』64-2
- 3 222埴輪窯(1号窯)の底部調整出現率は、70%超(未掲載の底部を含め5/7個)に及ぶ。
- 4 河内一浩氏は「V群系」を「畿内型」と呼称し、岩橋千塚古墳群大日山35号墳報告でも、その呼称を採用している。
- 5 鐘方正樹1997「中期古墳の円筒埴輪」『史跡大安寺旧境内I』
- 6 河内一浩2003「古墳時代後期における円筒形埴輪の研究動向と編年」『埴輪論叢』4
- 7 和歌山県教育委員会2013「大日山35号墳発掘調査報告書・特別史跡岩橋千塚古墳群 発掘調査・保存整備事業報告書2-1」
- 8 一瀬和夫1988「古市古墳群における大型古墳埴輪集成」『大水川改修にともなう発掘調査概要』V
- 9 河内一浩1988「古墳時代後期における紀伊の埴輪生産について」『求心能道』
- 10 257埴輪窯(2号窯)底部調整の出現率は、約35%(未掲載の底部を含め床面1:11/31個・床面2:5/15)で、222埴輪窯(1号窯)のほぼ半分に止まる。
- 11 藤井幸司2003「円筒埴輪製作技術の復原的研究—窯窓焼成導入以降を中心に—」『埴輪—円筒埴輪製作技法の観察・認識・分析—』
- 12 突帯製作技法を検討した際に、TK23~47型式期にIV群の製作技法とV群系のそれが併存したり、折衷タイプが出現するとした。257埴輪窯(2号窯)の突帯製作技法はその典型的な状況を示す(藤井2003)。
- 13 外面調整B種ヨコハケが床面2で1点出土したが、床面2造成時に搅拌されて床面3以前の円筒埴輪が床面2帰属層位に包含されたと推定している。床面2以降も残存する可能性は否定できないが、B種ヨコハケも床面3~5帰属円筒埴輪の特徴の1つと理解している。
- 14 紀伊型円筒埴輪以外のIV群系円筒埴輪の一類型である船戸箱山②類のような存在に相当すると考えている。
- 15 藤井幸司2007「小古墳にみる円筒埴輪生産の具体相—和歌山県船戸箱山古墳出土の円筒埴輪製作者の系譜から—『埴輪論考』I
- 16 藤井勝則2006「古墳時代後期における円筒形埴輪の一様相—いわゆる紀伊型(環畿内南部型)埴輪について」『紀伊考古学研究』第9号
- 17 257埴輪窯(2号窯)取上げ埴輪の中に紀伊型円筒埴輪を3片確認したが、そのいずれもが埴輪窯検出面や灰原の縁辺グリッドからの出土の埴輪のみで構成され、その出土状況から257埴輪窯(2号窯)に帰属しないと判断した。
- 18 川西宏幸1988「田身輪の首長」『古墳時代政治史序説』
- 19 和田一之輔2006「石見型埴輪の分布と樹立古墳の様相」『考古学研究』53-3
- 20 上下の段帯が広がらない形象部の形状は、奈良市所在の菅原東埴輪窯でもその形状の存在が指摘されている(中島・鐘方1992)。
- 21 (37)・(65)の形象部左端の湾曲状況(写真図版63・65)と形象部を突帯貼付により分割している位置を勘案して、中央帯想定位置より上位、すなわち上段を3分割(上段帯—上段面1—上段面2—上辺)する形状に復原した。なお、下段は想像の域を出ないが1段のみの形状を想定している。このような特異な形状の形象部が出現した経緯は不明だが、市尾今田2号墳や堂山2号墳のような定型化以前の石見型埴輪の形象部の形状に起因すると推定している。

- 18 東影悠2010「形象埴輪の製作技術—形象基部倒立技法の研究—」『特兼山考古学論集Ⅱ—大阪大学考古学研究室20周年記念論集—』
- 19 ただし、花山2号墳は形象部縁辺部に多点刺突を行うのに対し、平井遺跡の事例では多点刺突は行われないことから、表現方法が完全に一致するわけではない。
- 20 和歌山県教育委員会2015「平井1号墳」『和歌山県埋蔵文化財調査年報—平成25年度—』
- 21 丹野拓・藤森勝則2014「大谷山22号墳の形象埴輪」『紀伊考古学研究』第17号
- 22 鶴形埴輪形象部とみられる(305)には、鉄製の短棒状が刺さった状況が確認できる(写真図版80)。竹管文を行う器財埴輪の器種を検討するうえで、示唆的である。
- 23 古墳では、当該期の古墳として平井1号墳がその候補として挙げられるものの、これらの形象埴輪群の出土範囲は広範囲に及び、丘陵頂部の平井1号墳からの転落によるものとするのは、その出土量とともに困難である。また、大型古墳での出土が多い分割成形の家形埴輪やその他多様な形象埴輪群の全てが墳長22mの前方後円墳の平井1号墳に樹立した風景も想定しがたく、他の古墳の存在又は他の埴輪窯の存在を想定すべきであろう。
- 24 257埴輪窯(2号窯)のD群も紀伊型円筒埴輪であるが、前章報告や注13でも述べたとおり、これらは埴輪窯検出面での出土や埴輪窯に伴い灰原などに設定されたグリッド内出土で、埴輪窯帰属とは位置付けられないとした。しかし、分析の際には発掘調査時の取上げ状況を踏襲していたため、表3のとおりとなった。
- 25 多点刺突も岩橋千塚古墳群と共に通する技法である。しかし、岩橋千塚古墳群での多点刺突のほとんどが方形の刺突文の形状を呈すのに対し、平井遺跡では方形の多点刺突文は一切出土していない。このような点も平井遺跡と岩橋千塚古墳群の形象埴輪群の間に直接的で密接な関係性が想定できない理由の一つである。
- 26 和歌山県立紀伊風土記の丘所蔵資料を実見させていただいた。この資料は河内2013で一部紹介されている。このほか、和歌山市教育委員会所蔵資料にもこれらの技法の一例の存在が確認できる。
- 河内一浩2013「大谷古墳の円筒形埴輪—紀伊風土記の丘資料館蔵品(山口義一採集資料)から—」『紀伊風土記の丘研究紀要』創刊号

# 付 章

## 第1節 平井遺跡出土埴輪の蛍光X線分析

三辻利一・犬木 努(大阪大谷大学)

### 1 はじめに

これまで、全国各地の窯跡群出土須恵器を大量に分析した結果、K、Ca、Rb、Srの4元素が有効に窯跡群の地域差を示す元素であることが実証された。また、窯跡群の後背地の地質を構成する岩石は玄武岩ではなく、花崗岩類であることが多いのは、花崗岩類に由来する粘土が1,000°Cを超える高温で焼成する須恵器の素材として適しているからと考えられる。全国各地の花崗岩類の岩片試料を大量に分析した結果、花崗岩類も両分布図上で地域差があることが実証された。花崗岩類とそれが風化して生成した粘土を素材とした窯跡群出土須恵器の分析値は一致しないが、両者は両分布図上で良好に対応しており、母岩の残渣鉱物(長石類)が粘土中にも残っており、それが窯跡群出土須恵器の地域差を示していると考えられる。したがって、窯跡群出土須恵器の両分布図上における分布位置には母岩の化学特性が反映されており、地球化学的意味をもつことがわかった。地域差の原因が母岩を構成した主成分鉱物、長石類であれば、埴輪、土師器、弥生土器、縄文土器などの胎土中にも長石類は含まれており、長石系因子はそれらの地域差も示すはずである。実際、窯跡出土埴輪や焼成坑出土土師器は両分布図上でまとまって分布し、地域差を示すことが実証されている。このようなデータを背景に、平井遺跡から出土した多数の埴輪の蛍光X線分析をおこなった。埴輪胎土が均質なのか、それとも複数の胎土が含まれるのかという視点から、分析データは解析された。

### 2 分析法

大量の埴輪試料の分析には完全自動式の蛍光X線分析装置、理学電機製RIX2100(波長分散型)を使用した。大量の土器試料や岩石試料を分析する上には、完全自動式の蛍光X線分析装置は不可欠である。K、Ca、Rb、Sr、Fe、Naの6元素を測定した。各元素の分析の標準試料には日本地質調査所から配布された岩石標準試料、JG-1が使用された。分析値はJG-1の各元素の蛍光X線強度を使って標準化された値で表示された。

### 3 分析結果

今回分析した平井遺跡出土埴輪の分析値を表1に示すとともに、このデータからK-Ca、Rb-Srの両分布図を作成した(図1)。図1では多くの埴輪試料を包含するように平井領域を描いている。大部分の試料は両分布図で1カ所に集中して分布しており、これらの埴輪は1カ所で製作された埴輪と考えられる。しかし、両分布図の横軸に沿ったCaとSrは大きくばらついて分布する試料があり、これらは主成分埴輪の素材粘土とは異なる可能性がある。便宜上、Caの分析値が0.32～0.45の試料集団をA群、Caが0.32未満の試料集団をB群、Caが0.46以上の試料集団をC群という3群に分類した。この他、Caが異常に大きな値を示す15点の試料をD群とした。D群埴輪のK-Ca分布図を図2、Rb-Sr分布図を図3に示す。図2・3には、比較対照のため、平井領域と生駒山西麓遺跡群の土器領域を示してある。生駒山西麓遺跡群の縄文土器、弥生土器、土師器

の胎土は I 群、 II 群、 III 群の 3 群に分類されている。 D 群埴輪の分布位置は平井領域から大きくなれば、生駒山西麓遺跡群の第 III 群の土器胎土の分布領域に対応した。生駒山西麓遺跡群で作られたといわれる庄内式甕のほとんどは生駒山西麓遺跡群の第 I 群土器の胎土をもつ。したがって、 D 群埴輪の胎土は、平井遺跡出土の他の埴輪の胎土とは全く異なっており、平井遺跡以外の外部から搬入された埴輪であることは間違いない。

次に、在地産とみられる A 群、 B 群、 C 群埴輪の胎土の違いを示すため、 K-Rb 、 Ca-Sr の両相関図を作成した。図 4 には A 群・ E 群埴輪の両相関図を示す。 K-Rb 相関図では A 群埴輪のはとんどの試料は勾配 (1:1) の直線沿いにまとまって分布し、また、 Ca-Sr 相関図では、多くの試料は勾配 (1:1) と勾配 (1:3) の直線に囲まれた領域にまとまって分布する。これらの埴輪は同じ胎土と考えられるが、これらの試料集団から少し離れて、勾配 (1:1) の直線沿いに分布する 10 数点の試料は別胎土の可能性があるので、それらを A 群から分離し、 E 群とした。

図 5 には、 B 群埴輪の両相関図を示す。 K-Rb 相関図では B 群埴輪は勾配 (1:1) の直線の上側にまとまって分布し、図 4 に示した A 群埴輪の分布とは少し異なることから、 B 群埴輪の胎土が A 群埴輪の胎土と少し異なることを見なされる。他方、 Ca-Sr 相関図でも、 B 群埴輪の集団は勾配 (1:1) と勾配 (1:3) の直線の間に分布するものの、その分布位置は A 群埴輪とは異なり、勾配 (1:3) の直線に近づいて分布する。以上から、 Ca 、 Sr が比較的少ない B 群埴輪の胎土は A 群埴輪の胎土とは異なると判断される。 A 群埴輪とは同一地域内の別場所で作られた埴輪と考えられる。

図 6 には、 C 群埴輪の両相関図を示す。 K-Rb 相関図では図 4 に示した A 群埴輪とほぼ同じ位置に分布するが、 Ca-Sr 相関図では勾配 (1:1) の直線の近くに大きくばらついて分布する。その分布位置は A 群埴輪や B 群埴輪とも大きく異なり、 C 群埴輪の胎土が A 群・ B 群埴輪の胎土と異なることがわかる。以上から、 A 群・ B 群・ C 群埴輪はそれぞれ、同じ地域内の別場所で製作された埴輪と考えられる。

他方、 D 群埴輪の両相関図を図 7 に示す。 K-Rb 相関図、 Ca-Sr 相関図とも、勾配 (1:1) の直線の上側の領域に分布する。 A ~ C 群埴輪の分布とは全く異なっており、母岩が異なることを示す。 D 群埴輪の分布状況は、玄武岩系の岩石に由来する粘土を素材としたと考えられる生駒山西麓遺跡群の土器胎土と類似する。 A ~ C 群埴輪の素材粘土は同じ花崗岩系の岩石に由来するが、 D 群埴輪は玄武岩系の岩石に由来する粘土が素材となっていると考えられ、 A ~ C 群埴輪を在地産と考えると、 D 群埴輪は外部地域からの搬入品と考えられる。

以上の結果、平井遺跡出土埴輪は、明らかに外部地域から搬入されたと考えられる D 群埴輪を除いて在地産と考えられる。また、在地産の埴輪胎土は A ~ C 群と E 群の 4 群に分類できる。ここで、これら 4 群の埴輪の両分布図を提示する。

図 8 には、 A 群埴輪の両分布図を示す。 K-Ca 分布図では試料集団はよくまとまって分布することがわかる。 A 群埴輪が平井遺跡で作られた埴輪の主成分である。ほとんどの試料を包含するように A 群領域を描いている。図 9 には、 B 群埴輪の両分布図を示す。ほとんどの試料を包含するように B 群領域を描いている。比較のため、図 8 に示した A 群領域も描いたが、 B 群領域は明らかに A 群領域とは異なっている。図 10 には、 C 群埴輪の両分布図を示す。ほとんどの試料を包含するようにして、 C 群領域を描いている。比較対照のため A 群領域も描いたが、 C 群領域は

明らかにA群領域とは異なり、Ca、Srが少ないB群の領域とも異なる。かくして、A群、B群、C群の埴輪胎土は異なることが明らかになった。さらに、A群埴輪の両相関図(図4)において、別胎土の可能性が示されたE群埴輪の両分布図を図11に示す。E群埴輪もよくまとまって分布する。ほとんどの試料を包含するように、E群領域を描いた。比較対照のためにA群領域も描いたが、両分布図でA群領域とはずれている。E群埴輪もA群埴輪とは別場所で作られた埴輪であると考えられる。

以上から、在地産と考えられる埴輪の胎土にも、A～C群、E群の4種類の胎土があることがわかる。平井遺跡周辺の4カ所で別々に採取された粘土を素材とした埴輪であることを示す。ただし、これらの埴輪の製作時期の異同については考古学的情報を参考にする必要がある。

なお、D群埴輪については、Caが異常に大きな値を示すことから、外部地域から搬入された埴輪とみなしたが、同様な分析値を示す埴輪が、岩橋千塚古墳群内で確認されている。花山6号墳出土埴輪の胎土は大部分がD群埴輪と同様の数値を示し、大谷山22号墳・大日山35号墳では一部の埴輪がD群埴輪と同様な数値を示す。以上から、平井遺跡D群埴輪については、岩橋千塚古墳群周辺など紀ノ川流域の別場所で製作された可能性を指摘しておきたい(註1)。

このように、平井遺跡出土埴輪を大量に分析した結果、その胎土は均質ではなく、A～E群の5種類の胎土をもつ埴輪が含まれることがわかった。それぞれ別場所で製作された埴輪と推定される。D群埴輪以外はK、Rbの分析値が類似しており、同じ地域内で作られた在地産の埴輪と推定された。D群埴輪は玄武岩に由来する粘土を素材として作られた埴輪であり、岩橋千塚周辺など紀ノ川流域の他地域から運び込まれた埴輪と推定された。

#### (註)

- (1) 平井遺跡出土埴輪の蛍光X線分析とあわせて、和歌山県内の主要古墳出土埴輪の蛍光X線分析も行っており、これらの分析結果については別稿で提示する予定である。

#### 【参考文献】

- 三辻利一 2013『新しい土器の考古学』同成社  
 三辻利一・福永信雄・原田昌則 2008「統計学的手法による古代・中世土器の产地問題に関する研究(第24回)－生駒山西麓遺跡群出土軟質土器の化学特性－」『情報考古学』第13巻第2号、日本情報考古学会、10-23頁

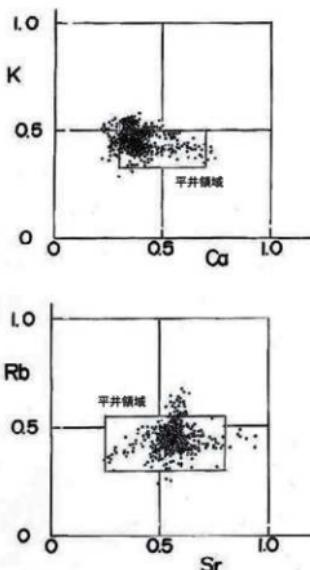


図1 平井遺跡出土埴輪の両分布図

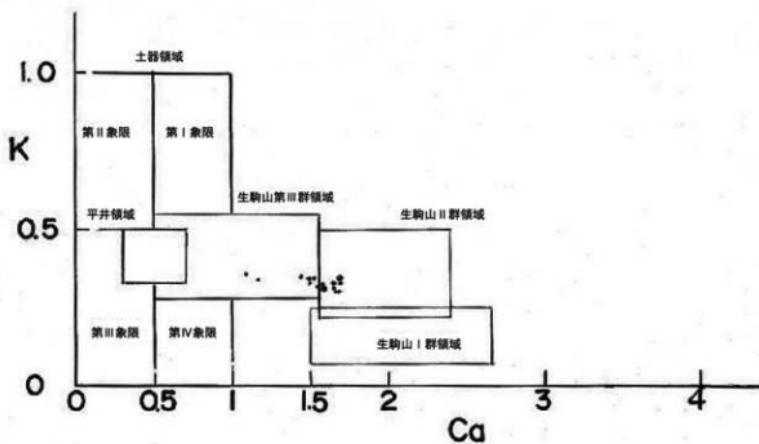


図2 平井遺跡D群埴輪のK-Ca分布図

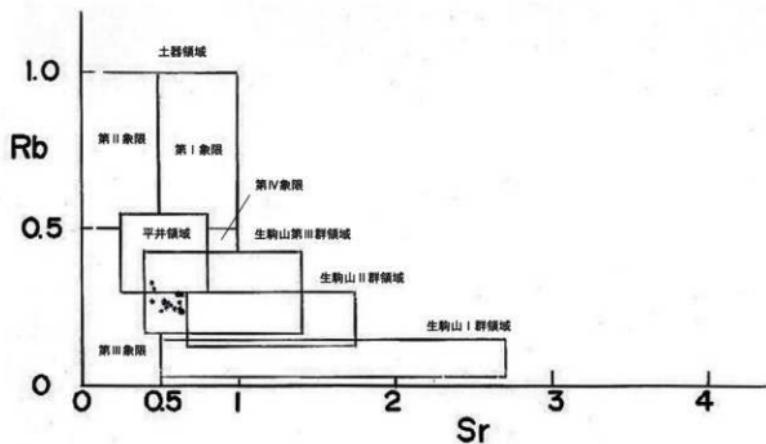


図3 平井遺跡D群埴輪のRb-Sr分布図

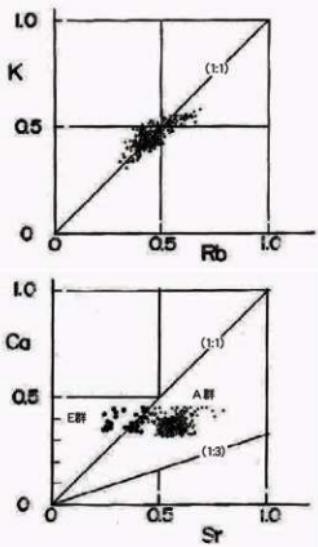


図4 平井遺跡A群・E群埴輪の両相関図

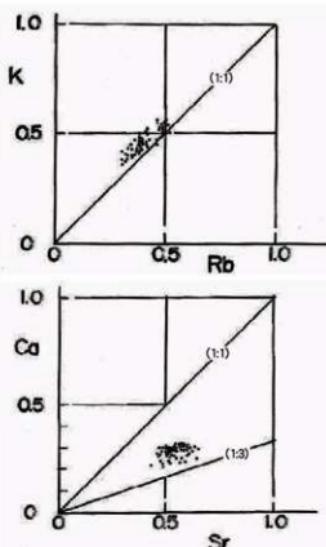


図5 平井遺跡B群埴輪の両相関図

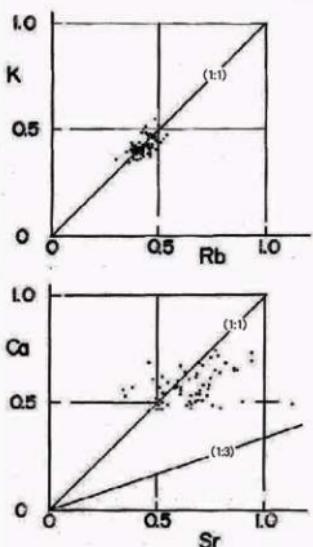


図6 平井遺跡C群埴輪の両相関図

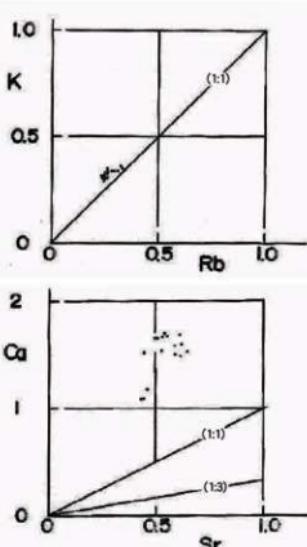


図7 平井遺跡D群埴輪の両相関図

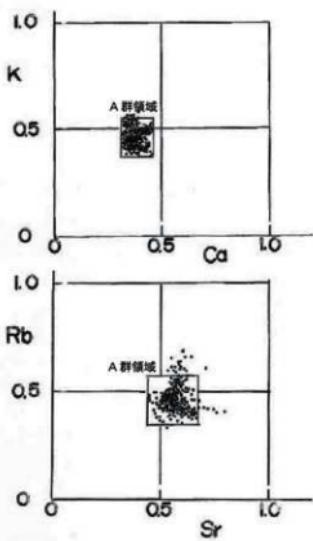


図8 平井遺跡A群埴輪の両分布図

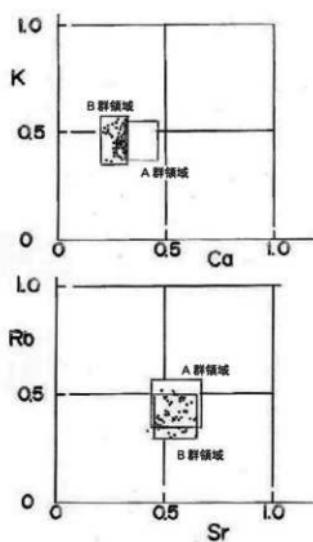


図9 平井遺跡B群埴輪の両分布図

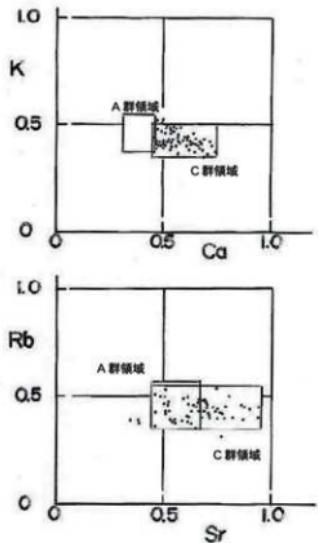


図10 平井遺跡C群埴輪の両分布図

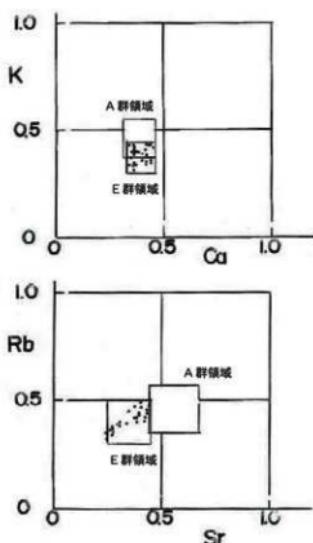


図11 平井遺跡E群埴輪の両分布図

表1 平井遺跡出土埴輪蛍光X線分析値一覧

No. 1

№	三社 研№	報告 書№	出土遺構 ・層位	実測回又は 登録№	分析値						分類
					K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	
1	288	24	222(1号窯)	実ハ374	0.490	0.446	2.91	0.495	0.579	0.370	A
2	273	25	222(1号窯)	実ハ359,370	0.465	0.395	2.68	0.454	0.569	0.368	A
3	284	25	222(1号窯)	実ハ359,370	0.492	0.391	2.46	0.536	0.539	0.391	A
4	280	26	222(1号窯)	実ハ366	0.477	0.410	2.82	0.477	0.552	0.373	A
5	282	27	222(1号窯)	実ハ368	0.485	0.401	3.35	0.486	0.499	0.355	A
6	274	28	222(1号窯)	実ハ360	0.511	0.453	2.80	0.506	0.626	0.383	A
7	283	30	222(1号窯)	実ハ369	0.481	0.392	2.56	0.527	0.569	0.374	A
8	275	31	222(1号窯)	実ハ361	0.488	0.439	2.52	0.365	0.671	0.271	A
9	276	32	222(1号窯)	実ハ362	0.500	0.399	2.90	0.468	0.565	0.361	A
10	277	33	222(1号窯)	実ハ363	0.512	0.428	2.43	0.602	0.589	0.391	A
11	279	34	222(1号窯)	実ハ365	0.507	0.423	2.75	0.541	0.569	0.404	A
12	286	35	222(1号窯)	実ハ372	0.358	1.080	3.13	0.329	0.442	0.393	D
13	287	36	222(1号窯)	実ハ373	0.338	1.170	3.39	0.305	0.458	0.346	D
14	219	38	222(1号窯)	実ハ285	0.492	0.416	2.59	0.552	0.577	0.372	A
15	221	39	222(1号窯)	実ハ286	0.500	0.431	2.56	0.570	0.582	0.399	A
16	211	40	222(1号窯)	実ハ291	0.472	0.554	3.25	0.473	0.703	0.298	C
17	213	41	222(1号窯)	実ハ287	0.520	0.445	2.38	0.572	0.619	0.364	A
18	220	42	222(1号窯)	実ハ288	0.477	0.380	2.58	0.484	0.553	0.346	A
19	256	48	222(1号窯)	実ハ339	0.492	0.440	3.26	0.407	0.575	0.302	A
20	253	50	222(1号窯)	実ハ318	0.497	0.436	2.67	0.411	0.747	0.320	A
21	217	51-1	222(1号窯)	実ハ30	0.494	0.423	2.53	0.404	0.660	0.336	A
22	227	51-2	222(1号窯)	実ハ297	0.486	0.445	3.16	0.379	0.654	0.301	A
23	285	52	222(1号窯)	実ハ371	0.521	0.421	2.80	0.462	0.646	0.350	A
24	281	53	222(1号窯)	実ハ367	0.479	0.393	2.84	0.495	0.598	0.383	A
25	261	54	222(1号窯)	実ハ344	0.485	0.576	3.27	0.436	0.739	0.284	C
26	262	55	222(1号窯)	実ハ345	0.489	0.513	2.92	0.416	0.706	0.319	C
27	214	56	222(1号窯)	実ハ290	0.475	0.536	3.04	0.455	0.696	0.306	C
28	212	57	222(1号窯)	実ハ295	0.509	0.487	2.74	0.431	0.762	0.294	C
29	257	60	222(1号窯)	実ハ343	0.501	0.453	2.64	0.417	0.703	0.289	A
30	222	61	222(1号窯)	実ハ296	0.499	0.401	2.62	0.524	0.558	0.357	A
32	255	62	222(1号窯)	実ハ320	0.504	0.403	2.47	0.531	0.591	0.369	A
33	225	63	222(1号窯)	実ハ299	0.493	0.447	2.53	0.422	0.719	0.301	A
31	223	64	222(1号窯)	実ハ307	0.475	0.528	2.95	0.448	0.728	0.310	C
34	80	65	222(1号窯)	実ハ9,282	0.495	0.441	2.63	0.553	0.613	0.370	A
35	218	65	222(1号窯)	実ハ282	0.526	0.453	2.74	0.458	0.681	0.288	A
36	209	67	222(1号窯)	実ハ273	0.479	0.474	2.68	0.465	0.656	0.301	C
37	210	68	222(1号窯)	実ハ272	0.395	0.476	2.98	0.431	0.505	0.250	C
38	142	69	222(1号窯)	実ハ212	0.481	0.405	2.81	0.437	0.608	0.419	A
39	224	70	222(1号窯)	実ハ298	0.504	0.418	3.02	0.416	0.676	0.318	A
40	215	—	222(1号窯)	実ハ310	0.489	0.411	2.50	0.500	0.582	0.357	A
41	216	—	222(1号窯)	実ハ312	0.477	0.444	2.61	0.407	0.795	0.263	A
42	138	72	257(2号窯)	実ハ191	0.442	0.383	2.72	0.442	0.533	0.320	A
43	183	73	257(2号窯)	実ハ222	0.432	0.274	3.00	0.372	0.459	0.299	B
44	332	74	257(2号窯)	実ハ418	0.418	0.378	2.73	0.484	0.530	0.285	A
45	290	75	257(2号窯)	実ハ376	0.439	0.373	2.56	0.443	0.521	0.325	A
46	314	76	257(2号窯)	実ハ400,421	0.550	0.371	2.94	0.617	0.551	0.389	A
47	335	76	257(2号窯)	実ハ400,421	0.540	0.348	2.71	0.595	0.558	0.393	A
49	317	77	257(2号窯)	実ハ403	0.563	0.340	2.21	0.615	0.608	0.376	A
50	297	78	257(2号窯)	実ハ383	0.481	0.334	2.91	0.490	0.515	0.352	A
51	296	79	257(2号窯)	実ハ382	0.456	0.347	2.27	0.430	0.526	0.364	A
52	321	80	257(2号窯)	実ハ407	0.413	0.331	3.16	0.435	0.479	0.292	A
53	294	81	257(2号窯)	実ハ380	0.485	0.280	2.97	0.489	0.505	0.343	B
54	353	83	257(2号窯)	実ハ439	0.554	0.324	2.71	0.491	0.577	0.357	A
55	159	84	257(2号窯)	実ハ195	0.419	0.384	3.16	0.400	0.649	0.289	A
56	355	85	257(2号窯)	実ハ441	0.453	0.286	2.59	0.406	0.517	0.352	B
57	354	86	257(2号窯)	実ハ440	0.454	0.332	2.53	0.519	0.555	0.337	A
58	305	87	257(2号窯)	実ハ391	0.443	0.347	3.25	0.419	0.512	0.325	A
59	333	88	257(2号窯)	実ハ419	0.477	0.334	2.66	0.482	0.543	0.370	A
60	165	89	257(2号窯)	実ハ197	0.421	0.396	2.75	0.447	0.515	0.292	A
61	166	90	257(2号窯)	実ハ200	0.430	0.282	2.83	0.348	0.499	0.321	B

表1 平井遺跡出土埴輪蛍光X線分析値一覧

No. 2

№	三社 研№	報告 書№	出土遺構 ・層位	実測回又は 登録№	分析値						分類
					K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	
62	347	91	257(2号窯)	実ハ433	0.456	0.353	2.50	0.379	0.617	0.311	A
63	344	92	257(2号窯)	実ハ430	0.509	0.229	2.56	0.485	0.585	0.432	B
64	340	93	257(2号窯)	実ハ426	0.458	0.304	2.32	0.462	0.534	0.332	B
65	349	94	257(2号窯)	実ハ435	0.447	0.348	2.64	0.419	0.626	0.322	A
66	206	95	257(2号窯)	実ハ204	0.494	0.401	2.45	0.498	0.627	0.323	A
67	304	96	257(2号窯)	実ハ390	0.401	0.352	3.06	0.342	0.559	0.242	A
68	311	97	257(2号窯)	実ハ397	0.458	0.303	2.36	0.377	0.615	0.323	B
69	160	98	257(2号窯)	実ハ194	0.420	0.319	2.81	0.379	0.536	0.312	A
70	249	99	257(2号窯)	実ハ309	0.416	0.432	2.88	0.424	0.618	0.297	A
71	248	100	257(2号窯)	実ハ306	0.413	0.340	2.96	0.358	0.516	0.326	A
72	245	102	257(2号窯)	実ハ303	0.397	0.412	3.01	0.388	0.649	0.277	A
73	77	103	257(2号窯)	実ハ18	0.441	0.321	2.56	0.456	0.546	0.357	A
74	246	104	257(2号窯)	実ハ300	0.428	0.375	2.76	0.443	0.560	0.349	A
75	247	105	257(2号窯)	実ハ301	0.430	0.385	3.04	0.410	0.547	0.301	A
76	243	106	257(2号窯)	実ハ305	0.424	0.265	2.41	0.302	0.534	0.269	B
77	242	107	257(2号窯)	実ハ304	0.402	0.313	2.84	0.353	0.502	0.297	B
78	150	108	257(2号窯)	実ハ209	0.439	0.352	2.69	0.467	0.548	0.358	A
79	240	109	257(2号窯)	実ハ315	0.481	0.353	2.29	0.429	0.572	0.330	A
80	241	110	257(2号窯)	実ハ316	0.444	0.365	2.61	0.471	0.532	0.341	A
81	237	111	257(2号窯)	実ハ276	0.479	0.349	2.56	0.461	0.525	0.348	A
82	234	113	257(2号窯)	実ハ277	0.421	0.379	2.42	0.422	0.544	0.317	A
83	79	114	257(2号窯)	実ハ8	0.454	0.338	2.43	0.446	0.556	0.358	A
84	226	115	257(2号窯)	実ハ293	0.480	0.364	2.75	0.555	0.579	0.331	A
85	232	116	257(2号窯)	実ハ278	0.392	0.368	3.00	0.363	0.581	0.277	A
86	254	117	257(2号窯)	実ハ325	0.415	0.406	3.04	0.436	0.556	0.294	A
87	78	119	257(2号窯)	実ハ21	0.428	0.363	2.31	0.440	0.548	0.318	A
88	258	125	257(2号窯)	実ハ333	0.447	0.376	2.57	0.477	0.529	0.356	A
89	250	126	257(2号窯)	実ハ270	0.448	0.376	3.01	0.426	0.561	0.334	A
90	153	130	257(2号窯)	実ハ234	0.468	0.300	2.73	0.380	0.489	0.346	B
91	176	131	257(2号窯)	実ハ230	0.454	0.266	2.88	0.403	0.467	0.319	B
92	171	132	257(2号窯)	実ハ215	0.396	0.266	2.70	0.361	0.470	0.289	B
93	175	133	257(2号窯)	実ハ232	0.422	0.372	2.61	0.423	0.609	0.299	A
94	154	134	257(2号窯)	実ハ233	0.456	0.414	2.52	0.468	0.614	0.340	A
95	203	135	257(2号窯)	実ハ238	0.458	0.348	2.51	0.497	0.539	0.329	A
96	170	136	257(2号窯)	実ハ216	0.494	0.304	2.90	0.489	0.509	0.368	B
97	188	137	257(2号窯)	実ハ218	0.407	0.257	2.50	0.323	0.522	0.330	B
98	187	138	257(2号窯)	実ハ219	0.497	0.206	2.80	0.383	0.486	0.291	B
99	184	139	257(2号窯)	実ハ220	0.441	0.337	2.42	0.372	0.502	0.338	A
100	174	140	257(2号窯)	実ハ231	0.467	0.284	3.02	0.358	0.476	0.277	B
101	168	141	257(2号窯)	実ハ201	0.372	0.221	3.07	0.316	0.431	0.273	B
102	202	142	257(2号窯)	実ハ236	0.439	0.286	2.27	0.391	0.544	0.349	B
103	167	143	257(2号窯)	実ハ198	0.519	0.291	3.00	0.474	0.569	0.349	B
104	185	144	257(2号窯)	実ハ221	0.393	0.263	2.90	0.347	0.505	0.283	B
105	348	145	257(2号窯)	実ハ434	0.438	0.396	2.68	0.477	0.555	0.306	A
106	201	146	257(2号窯)	実ハ235	0.384	0.290	2.72	0.327	0.598	0.316	B
107	204	147	257(2号窯)	実ハ237	0.470	0.385	2.56	0.476	0.598	0.326	A
108	169	148	257(2号窯)	実ハ202	0.446	0.359	2.71	0.457	0.508	0.328	A
109	339	149	257(2号窯)	実ハ425	0.457	0.385	2.59	0.488	0.558	0.315	A
110	350	150	257(2号窯)	実ハ436	0.499	0.216	2.66	0.521	0.485	0.414	B
111	300	151	257(2号窯)	実ハ386	0.549	0.394	2.88	0.620	0.565	0.341	A
112	269	152	257(2号窯)	実ハ355	0.523	0.270	3.63	0.491	0.514	0.368	B
113	189	153	257(2号窯)	実ハ239	0.415	0.382	2.95	0.374	0.604	0.291	A
114	312	154	257(2号窯)	実ハ398	0.414	0.375	2.71	0.431	0.568	0.328	A
115	278	155	257(2号窯)	実ハ364	0.488	0.376	2.46	0.452	0.625	0.326	A
116	143	157	257(2号窯)	実ハ207	0.462	0.356	3.44	0.409	0.514	0.326	A
117	173	158	257(2号窯)	実ハ213	0.435	0.374	2.47	0.373	0.653	0.303	A
118	252	159	257(2号窯)	実ハ274	0.435	0.401	2.60	0.400	0.621	0.314	A
119	152	160	257(2号窯)	実ハ210.29.153	0.462	0.394	1.99	0.412	0.655	0.321	A
120	238	161	257(2号窯)	実ハ314	0.460	0.275	2.68	0.414	0.516	0.296	B
121	268	162	257(2号窯)	実ハ354	0.459	0.363	2.83	0.465	0.557	0.337	A

表1 平井遺跡出土埴輪蛍光X線分析値一覧

No. 3

№	三社 研№	報告 書№	出土遺構 ・層位	実測団又は 登録№	分析値						分類
					K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	
122	233	163	257(2号窓)	実ハ275	0.418	0.440	2.85	0.383	0.627	0.277	A
123	231	164	257(2号窓)	実ハ279	0.385	0.358	2.59	0.395	0.583	0.276	A
124	148	166	257(2号窓)	実ハ266	0.517	0.335	3.56	0.438	0.506	0.336	A
125	181	167	257(2号窓)	実ハ229	0.556	0.276	2.77	0.464	0.626	0.331	B
126	207	168	257(2号窓)	実ハ205	0.475	0.327	3.19	0.441	0.620	0.376	A
127	205	169	257(2号窓)	実ハ203	0.479	0.377	2.67	0.482	0.598	0.349	A
128	186	170	257(2号窓)	実ハ217	0.466	0.282	2.31	0.425	0.506	0.354	B
129	182	171	257(2号窓)	実ハ224	0.542	0.335	3.00	0.542	0.557	0.361	A
130	179	173	257(2号窓)	実ハ228	0.556	0.315	3.51	0.497	0.560	0.358	B
131	178	174	257(2号窓)	実ハ226	0.485	0.337	2.92	0.475	0.596	0.385	A
132	180	175	257(2号窓)	実ハ227	0.540	0.304	3.23	0.502	0.553	0.359	B
133	301	176	257(2号窓)	実ハ387,389	0.508	0.381	2.97	0.593	0.573	0.325	A
134	303	176	257(2号窓)	実ハ387,389	0.523	0.326	2.80	0.477	0.645	0.310	A
135	151	177	257(2号窓)	実ハ208,52	0.419	0.388	2.87	0.393	0.561	0.336	A
136	251	178	257(2号窓)	実ハ271	0.406	0.305	2.81	0.379	0.540	0.326	B
137	239	179	257(2号窓)	実ハ313	0.424	0.350	2.25	0.428	0.569	0.367	A
138	260	181	257(2号窓)	実ハ311	0.461	0.305	2.93	0.382	0.565	0.283	B
139	146	182	257(2号窓)	実ハ192	0.527	0.227	2.72	0.471	0.515	0.330	B
140	149	183	257(2号窓)	実ハ193	0.547	0.355	3.12	0.539	0.598	0.418	A
141	190	184	257(2号窓)	実ハ206	0.548	0.371	2.17	0.662	0.636	0.353	A
142	172	185	257(2号窓)	実ハ214	0.544	0.254	2.51	0.478	0.575	0.341	B
143	199	186	257(2号窓)	実ハ190	0.533	0.336	3.08	0.562	0.547	0.394	A
144	327	187	257(2号窓)	実ハ413,415	0.558	0.364	2.53	0.639	0.588	0.356	A
145	329	187	257(2号窓)	実ハ413,415	0.537	0.368	2.54	0.620	0.592	0.348	A
146	198	188	257(2号窓)	実ハ248	0.528	0.330	3.10	0.513	0.577	0.357	A
147	307	189	257(2号窓)	実ハ393	0.546	0.369	2.92	0.560	0.623	0.344	A
148	351	191	257(2号窓)	実ハ437	0.543	0.321	3.16	0.514	0.538	0.391	B
149	244	233	257(2号窓)	実ハ302	0.516	0.232	2.52	0.417	0.567	0.433	B
150	145	—	257(2号窓)	実ハ264	0.538	0.338	3.03	0.561	0.595	0.390	A
151	147	—	257(2号窓)	実ハ265	0.526	0.294	2.69	0.485	0.580	0.342	B
152	177	—	257(2号窓)	実ハ223	0.426	0.263	2.79	0.329	0.600	0.323	B
153	235	—	257(2号窓)	実ハ281	0.413	0.361	2.71	0.387	0.572	0.305	A
154	236	—	257(2号窓)	実ハ280	0.442	0.357	2.41	0.405	0.634	0.274	A
155	289	—	257(2号窓)	実ハ375	0.449	0.372	2.51	0.504	0.559	0.326	A
156	291	—	257(2号窓)	実ハ377(未)	0.389	0.351	2.28	0.414	0.526	0.353	A
157	292	—	257(2号窓)	実ハ378(未)	0.417	0.367	2.68	0.455	0.512	0.309	A
158	293	—	257(2号窓)	実ハ379	0.426	0.339	2.13	0.470	0.520	0.341	A
159	295	—	257(2号窓)	実ハ381(未)	0.425	0.396	2.73	0.479	0.534	0.294	A
160	298	—	257(2号窓)*	実ハ384(未)	0.307	1.660	3.36	0.258	0.531	0.262	D
161	299	—	257(2号窓)*	実ハ385(未)	0.302	1.680	3.26	0.253	0.549	0.285	D
162	302	—	257(2号窓)	実ハ388(未)	0.452	0.373	2.72	0.422	0.525	0.313	A
163	306	—	257(2号窓)*	実ハ392	0.552	0.319	2.32	0.595	0.531	0.397	A
164	308	—	257(2号窓)*	実ハ394	0.310	1.650	3.28	0.236	0.497	0.294	D
165	309	—	257(2号窓)	実ハ395(未)	0.490	0.240	3.06	0.382	0.475	0.292	B
166	310	—	257(2号窓)	実ハ396(未)	0.424	0.439	2.92	0.383	0.599	0.301	A
167	313	—	257(2号窓)	実ハ399(未)	0.464	0.344	2.68	0.427	0.626	0.290	A
168	315	—	257(2号窓)	実ハ401(未)	0.463	0.332	2.58	0.412	0.587	0.319	A
169	316	—	257(2号窓)	実ハ402(未)	0.544	0.334	2.57	0.513	0.657	0.346	A
170	318	—	257(2号窓)	実ハ404(未)	0.527	0.357	2.76	0.535	0.593	0.400	A
171	319	—	257(2号窓)	実ハ405(未)	0.419	0.352	2.88	0.462	0.513	0.338	A
172	320	—	257(2号窓)	実ハ406(未)	0.423	0.441	3.44	0.447	0.613	0.286	A
173	322	—	257(2号窓)	実ハ408(未)	0.436	0.325	2.58	0.435	0.567	0.336	A
174	323	—	257(2号窓)	実ハ409(未)	0.499	0.368	2.39	0.545	0.592	0.369	A
175	324	—	257(2号窓)	実ハ410(未)	0.542	0.350	2.59	0.596	0.621	0.405	A
176	325	—	257(2号窓)	実ハ411(未)	0.549	0.266	2.97	0.458	0.605	0.335	B
177	326	—	257(2号窓)	実ハ412(未)	0.440	0.318	2.23	0.418	0.604	0.379	B
178	328	—	257(2号窓)	実ハ414(未)	0.553	0.357	2.45	0.632	0.584	0.391	A
179	330	—	257(2号窓)	実ハ416(未)	0.466	0.363	3.09	0.419	0.595	0.305	A
180	331	—	257(2号窓)	実ハ417(未)	0.474	0.322	2.41	0.401	0.605	0.299	A
181	334	—	257(2号窓)	実ハ420(未)	0.454	0.300	2.42	0.462	0.533	0.357	B

表1 平井遺跡出土埴輪蛍光X線分析値一覧

No. 4

№	三社 研№	報告 書№	出土遺構 ・層位	実測回又は 登録№	分析値						分類
					K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	
182	336	—	257(2号窓)	実ハ422(未)	0.525	0.329	3.20	0.456	0.673	0.307	A
183	337	—	257(2号窓)	実ハ423(未)	0.451	0.268	2.65	0.377	0.544	0.355	B
184	338	—	257(2号窓)	実ハ424(未)	0.429	0.311	2.18	0.390	0.576	0.337	B
185	341	—	257(2号窓)	実ハ427(未)	0.449	0.339	2.17	0.469	0.597	0.331	A
186	342	—	257(2号窓)	実ハ428(未)	0.447	0.316	3.05	0.340	0.570	0.299	B
187	343	—	257(2号窓)	実ハ429(未)	0.405	0.502	2.60	0.433	0.680	0.283	C
188	345	—	257(2号窓)	実ハ431(未)	0.434	0.366	2.73	0.422	0.535	0.356	A
189	346	—	257(2号窓)	実ハ432(未)	0.382	0.285	3.19	0.304	0.546	0.300	B
190	352	—	257(2号窓)	実ハ438(未)	0.414	0.301	2.34	0.377	0.637	0.318	B
48	356	—	257(2号窓)	実ハ442	0.442	0.350	3.18	0.403	0.601	0.300	A
191	357	—	257(2号窓)	実ハ443(未)	0.508	0.236	2.72	0.413	0.524	0.324	B
192	358	—	257(2号窓)	実ハ444(未)	0.546	0.359	2.37	0.639	0.588	0.335	A
193	359	—	257(2号窓)	実ハ445(未)	0.364	0.246	2.84	0.301	0.651	0.290	B
194	360	—	257(2号窓)	実ハ446(未)	0.478	0.251	3.05	0.391	0.549	0.293	B
195	361	—	257(2号窓)	実ハ447(未)	0.523	0.337	2.95	0.544	0.556	0.388	A
196	92	—	257(2号窓)	1020	0.409	0.340	2.49	0.423	0.549	0.297	A
197	93	—	257(2号窓)	1181—1	0.460	0.339	2.64	0.444	0.554	0.336	A
198	94	—	257(2号窓)	1181—2	0.498	0.368	3.03	0.508	0.646	0.344	A
199	95	—	257(2号窓)	1505.1690	0.465	0.361	2.55	0.477	0.532	0.352	A
200	96	—	257(2号窓)	1693	0.417	0.337	1.91	0.466	0.555	0.333	A
201	97	—	257(2号窓)	1824—1	0.499	0.314	2.33	0.416	0.588	0.302	B
202	98	—	257(2号窓)	1824—2	0.408	0.365	2.71	0.366	0.546	0.270	A
203	99	—	257(2号窓)	1840	0.491	0.341	2.83	0.508	0.533	0.408	A
204	100	—	257(2号窓)	1924	0.473	0.410	2.36	0.538	0.596	0.365	A
205	101	—	257(2号窓)	1933	0.486	0.359	2.15	0.399	0.661	0.326	A
206	102	—	257(2号窓)	1938	0.467	0.355	2.23	0.451	0.547	0.329	A
207	103	—	257(2号窓)	1992	0.525	0.354	2.84	0.556	0.569	0.329	A
208	104	—	257(2号窓)	1993	0.529	0.389	2.02	0.657	0.611	0.364	A
209	105	—	257(2号窓)	1996—1	0.515	0.351	2.66	0.572	0.586	0.365	A
210	106	—	257(2号窓)	1996—2	0.531	0.377	2.54	0.606	0.606	0.332	A
211	107	—	257(2号窓)	1099	0.442	0.340	3.29	0.397	0.595	0.333	A
212	108	—	257(2号窓)	1100—1	0.579	0.385	2.35	0.683	0.598	0.378	A
213	109	—	257(2号窓)	1100—2	0.567	0.371	2.79	0.647	0.554	0.412	A
214	110	—	257(2号窓)	1100—3	0.465	0.399	3.30	0.442	0.589	0.292	A
215	111	—	257(2号窓)	1126—1	0.535	0.380	2.37	0.518	0.569	0.360	A
216	112	—	257(2号窓)	1126—2	0.401	0.311	2.73	0.327	0.598	0.330	B
217	113	—	257(2号窓)	1126—3	0.416	0.303	2.96	0.371	0.495	0.303	B
218	114	—	257(2号窓)	1126—4	0.528	0.335	2.92	0.557	0.575	0.390	A
219	115	—	257(2号窓)	1126—5	0.435	0.350	3.09	0.354	0.604	0.266	A
220	116	—	257(2号窓)	1505	0.370	0.299	3.08	0.341	0.474	0.287	B
221	117	—	257(2号窓)	1509	0.437	0.372	2.55	0.436	0.537	0.318	A
222	118	—	257(2号窓)	1910	0.478	0.289	3.05	0.390	0.647	0.383	B
223	119	—	257(2号窓)*	1915	0.423	0.369	3.21	0.417	0.488	0.325	A
224	120	—	257(2号窓)	1930	0.476	0.403	2.65	0.469	0.553	0.345	A
225	121	—	257(2号窓)	1990	0.533	0.343	2.95	0.544	0.568	0.373	A
226	270	192	黒色土	実ハ356	0.311	1.590	3.74	0.242	0.619	0.248	D
227	271	193	黒色土	実ハ357	0.406	0.416	3.08	0.448	0.426	0.238	A-E
228	272	194	黒色土	実ハ358	0.335	1.690	3.31	0.287	0.611	0.288	D
229	46	198	黒色土	実ハ104	0.327	1.650	3.67	0.265	0.520	0.321	D
230	48	199	黒色土	実ハ106	0.345	1.440	3.26	0.263	0.615	0.259	D
231	40	200	黒色土	実ハ97	0.334	1.500	3.27	0.254	0.589	0.286	D
232	44	201	黒色土	実ハ99	0.324	1.580	3.68	0.247	0.594	0.241	D
233	52	202	黒色土	実ハ110	0.326	1.700	3.50	0.256	0.540	0.287	D
234	43	203	黒色土	実ハ102	0.324	1.550	3.60	0.248	0.525	0.259	D
235	53	204	黒色土	実ハ111	0.344	0.416	3.56	0.348	0.242	0.371	A-E
236	161	205	黒色土	実ハ113	0.404	0.664	2.44	0.456	0.857	0.236	C
237	197	206	包含層	実ハ90	0.362	0.440	3.23	0.392	0.335	0.438	A-E
238	194	207	黒縁層	実ハ241	0.485	0.554	2.63	0.499	0.607	0.272	C
239	196	208	包含層	実ハ240	0.337	0.357	3.39	0.349	0.265	0.430	A-E
240	156	209	黒色土	実ハ117	0.471	0.384	2.73	0.433	0.602	0.350	A

表1 平井遺跡出土埴輪螢光X線分析値一覧

No. 5

№	三社 研№	報告 書№	出土遺構 ・層位	実測図又は 登録№	分析値						分類
					K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	
241	157	210	黒色土ほか	実ハ118	0.518	0.340	2.66	0.557	0.569	0.345	A
242	41	213	黒色土	実ハ101	0.378	0.528	3.47	0.381	0.351	0.471	C
243	158	214	黒色土	実ハ119	0.509	0.381	2.72	0.571	0.630	0.340	A
244	164	215	黒色土	実ハ114	0.375	0.418	3.41	0.398	0.302	0.457	A-E
245	191	216	包含層	実ハ94	0.354	0.429	3.35	0.393	0.300	0.460	A-E
246	163	218	黒色土	実ハ116	0.362	0.569	3.21	0.392	0.379	0.501	C
247	162	219	黒色土	実ハ115	0.421	0.470	2.94	0.473	0.520	0.307	C
248	58	220	褐色土ほか	実ハ137	0.477	0.386	2.50	0.471	0.553	0.364	A
249	51	221	黒色土	実ハ109	0.439	0.611	3.47	0.498	0.481	0.191	C
250	195	222	褐色土	実ハ242	0.418	0.475	2.68	0.463	0.635	0.279	C
251	18	227	3層	実ハ19	0.286	0.300	2.49	0.300	0.293	0.183	B
252	31	230	側溝	実ハ70	0.426	0.435	2.96	0.499	0.441	0.283	A-E
253	56	232	341	実ハ129	0.449	0.428	3.07	0.496	0.469	0.287	A
254	55	233	黒色土	実ハ127	0.430	0.432	2.79	0.484	0.454	0.273	A
255	192	234	灰色粘土	実ハ96	0.552	0.489	2.37	0.478	1.130	0.325	C
256	71	237	緑灰礫	実ハ186	0.518	0.474	2.28	0.497	0.803	0.337	C
257	73	238	灰色土	実ハ188	0.457	0.421	2.43	0.503	0.614	0.347	A
258	72	240	灰色土	実ハ187	0.470	0.359	2.45	0.469	0.543	0.386	A
259	32	243	拂土	実ハ56	0.411	0.682	2.90	0.398	0.822	0.188	C
260	67	244	黒色土	実ハ169	0.364	0.706	3.02	0.400	0.750	0.188	C
261	70	251	黒色土	実ハ181	0.381	0.624	3.89	0.434	0.519	0.183	C
262	263	253	黒色土	実ハ349	0.428	0.517	2.88	0.466	0.502	0.276	C
263	23	255	黄褐色粗砂礫	実ハ40	0.403	0.416	3.15	0.436	0.391	0.213	A-E
264	33	256	353	実ハ72	0.431	0.543	3.42	0.377	0.539	0.182	C
265	76	257	包含層	実ハ57	0.404	0.428	2.96	0.414	0.470	0.251	A
266	17	258	3層	実ハ27	0.390	0.385	3.10	0.463	0.454	0.254	A
267	134	259	南北マグション側溝	実ハ12	0.397	0.369	3.40	0.398	0.381	0.243	A-E
268	139	260	黒色土	実ハ245	0.404	0.389	3.09	0.469	0.479	0.259	A
269	133	262	第4層	実ハ4	0.392	0.400	3.19	0.422	0.421	0.234	A-E
270	129	268	包含層	実ハ71	0.394	0.448	3.00	0.397	0.476	0.276	A
271	140	269	黒色土	実ハ165	0.425	0.361	2.73	0.473	0.396	0.295	A-E
272	141	270	北側溝	実ハ10	0.397	0.429	3.13	0.391	0.481	0.248	A
273	26	272	機械掘削	実ハ67	0.407	0.474	2.81	0.501	0.497	0.320	C
274	63	273	黒縁層ほか	実ハ154	0.439	0.456	2.79	0.511	0.457	0.354	A
275	128	274	第3層	実ハ26	0.401	0.362	3.33	0.415	0.376	0.234	A
276	135	275	黒色土	実ハ262	0.417	0.578	2.21	0.411	0.709	0.211	C
277	127	276	黒色土ほか	実ハ162	0.416	0.621	2.74	0.390	0.684	0.207	C
278	137	277	黒色土	実ハ261	0.424	0.573	3.07	0.388	0.575	0.245	C
279	123	280	黒色土	実ハ167	0.397	0.451	3.09	0.426	0.550	0.265	A
280	122	281	黒色土	実ハ163	0.358	0.397	3.11	0.397	0.418	0.252	A
281	69	283	黒縁層	実ハ171	0.471	0.382	2.80	0.445	0.546	0.316	A
282	229	285	側溝北側窓?	実ハ284	0.471	0.539	2.82	0.478	0.678	0.328	C
283	228	288	側溝北側窓?	実ハ292	0.472	0.486	2.82	0.476	0.660	0.307	C
284	230	289	側溝北側窓?	実ハ294	0.479	0.507	2.71	0.482	0.690	0.301	C
285	65	293	黒色土	実ハ161	0.407	0.401	3.08	0.473	0.445	0.280	A
286	66	294	黒色土	実ハ158	0.385	0.376	3.07	0.450	0.475	0.295	A
287	75	295	黒色土ほか	実ハ175,177	0.463	0.513	2.70	0.531	0.508	0.272	C
288	74	297	第3層ほか	実ハ43,176	0.427	0.343	2.77	0.498	0.415	0.278	A
289	265	298	黒色土	実ハ350	0.448	0.565	2.79	0.488	0.589	0.256	C
290	266	299	黒色土	実ハ351	0.367	0.451	3.13	0.395	0.556	0.266	A
291	27	301	第4層ほか	実ハ55	0.420	0.447	3.10	0.437	0.426	0.276	A-E
292	126	304	黒色土	実ハ253	0.414	0.356	2.93	0.423	0.379	0.275	A-C-E
293	124	305	黒色土ほか	実ハ156,250	0.393	0.355	2.68	0.451	0.341	0.265	A-E
294	267	308	黒縁層	実ハ329	0.430	0.688	2.40	0.453	0.936	0.259	C
295	68	310	黒縁	実ハ170	0.389	0.386	2.64	0.451	0.465	0.311	A
296	64	311	緑黒縁ほか	実ハ157	0.403	0.607	3.04	0.345	0.649	0.170	C
297	208	315	北側溝	実ハ48	0.410	0.629	3.04	0.431	0.630	0.194	C
298	54	316	黒色土	実ハ112	0.434	0.434	2.93	0.468	0.444	0.293	A-E
299	200	317	黒縁層	実ハ123	0.402	0.725	3.08	0.400	0.942	0.201	C
300	259	318	黒色土	実ハ268	0.415	0.502	2.81	0.425	0.462	0.272	C

表1 平井遺跡出土埴輪螢光X線分析値一覧

No. 5

№	三辻 研№	報告 書№	出土遺構 ・層位	実測圓又は 登録№	分析値						分類
					K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	
301	155	319	黒色土	実ハ121	0.418	0.498	2.90	0.457	0.516	0.221	C
302	132	321	黒緑層	実ハ88.260	0.401	0.428	2.78	0.440	0.506	0.338	A
303	144	321	黒緑層	実ハ88.260	0.411	0.423	2.78	0.498	0.475	0.346	A
304	193	322	第4層	実ハ93	0.387	0.498	3.09	0.445	0.648	0.335	C
305	131	323	黒色土	実ハ138	0.373	0.449	3.17	0.377	0.495	0.271	A
306	59	325	黒色土	実ハ140	0.415	0.719	2.41	0.398	0.784	0.212	C
307	36	329	灰色粘土	実ハ81	0.521	0.502	2.29	0.439	0.897	0.337	C
308	30	334	耕土	実ハ68	0.429	0.434	2.64	0.325	0.526	0.260	A
309	21	335	褐色土	実ハ37.348	0.437	0.604	2.70	0.410	0.606	0.195	C
310	264	335	黒色土	実ハ37.348	0.408	0.639	3.05	0.373	0.629	0.195	C
311	60	336	黒色土ほか	実ハ141	0.390	0.465	3.10	0.424	0.512	0.270	C
312	24	337	第4層	実ハ44	0.509	0.373	2.34	0.414	0.656	0.296	A
313	22	338	包含層	実ハ39	0.415	0.670	2.92	0.402	0.708	0.190	C
314	62	347	黒色土	実ハ148	0.381	0.683	2.95	0.459	0.696	0.222	C
315	37	350	耕土中	実ハ79	0.390	0.672	3.68	0.456	0.613	0.196	C
316	57	354	褐色土	実ハ133-2	0.365	0.738	4.32	0.305	0.771	0.172	C
317	19	356	3層	実ハ36	0.425	0.592	2.72	0.387	0.554	0.215	C
318	61	358	黒色土	実ハ143	0.369	0.647	3.01	0.420	0.768	0.204	C
319	16	—	392	実ハ7	0.431	0.526	2.50	0.431	0.659	0.181	C
320	20	—	64	実ハ38(未)	0.469	0.405	2.59	0.399	0.763	0.291	A
321	25	—	耕土	実ハ50	0.400	0.493	2.72	0.387	0.548	0.198	C
322	28	—	第4層	実ハ62	0.436	0.567	2.92	0.375	0.611	0.190	C
323	29	—	耕土	実ハ66	0.403	0.533	2.89	0.466	0.369	0.337	A·E
324	34	—	耕土中	実ハ76	0.423	0.535	2.66	0.391	0.533	0.184	C
325	35	—	南北ヤクシヤ西側	実ハ83	0.400	0.380	3.39	0.431	0.394	0.221	A·E
326	38	—	綠灰(斜面)	実ハ82	0.354	0.693	4.09	0.362	0.464	0.240	C
327	39	—	側溝	実ハ84	0.433	0.610	3.00	0.442	0.749	0.219	C
328	42	—	黒色土	実ハ98	0.365	0.354	3.46	0.324	0.243	0.397	A·E
329	45	—	黒色土	実ハ103	0.344	0.338	3.46	0.359	0.256	0.421	A·E
330	47	—	黒色土	実ハ105	0.402	0.561	3.33	0.387	0.340	0.348	C
331	49	—	黒色土	実ハ107	0.461	0.637	2.33	0.449	0.786	0.243	C
332	50	—	黒色土	実ハ108	0.395	0.536	3.16	0.410	0.610	0.266	C
333	81	—	側溝北側窓	実ハ24	0.477	0.560	2.54	0.541	0.736	0.284	C
334	136	—	黒色土	実ハ263	0.428	0.654	2.49	0.453	0.871	0.209	C
335	125	—	耕土	実ハ61	0.432	0.361	2.89	0.492	0.401	0.289	A·E
336	82	—	黒色土上(褐色土)	925-1	0.341	0.373	3.13	0.372	0.272	0.418	A
337	83	—	黒色土上(褐色土)	925-2	0.405	0.647	2.19	0.489	0.873	0.239	C
338	84	—	黒色土上(褐色土)	927-1	0.352	0.442	3.34	0.390	0.292	0.464	A
339	85	—	黒色土上(褐色土)	927-2	0.330	1.520	3.73	0.265	0.447	0.314	D
340	86	—	黒色土	963	0.336	1.530	3.22	0.285	0.646	0.262	D
341	87	—	黒色土	964-1	0.341	0.368	3.45	0.370	0.272	0.406	A
342	88	—	黒色土	964-2	0.310	0.361	3.61	0.339	0.269	0.408	A
343	89	—	黒色土上(褐色土)	1005	0.429	0.338	1.91	0.459	0.517	0.379	A
344	90	—	黒	2036-1	0.450	0.356	3.11	0.438	0.510	0.377	A
345	91	—	黒	2036-2	0.466	0.386	2.16	0.513	0.541	0.343	A
346	130	—	黒色土	実ハ256	0.406	0.627	2.79	0.403	0.683	0.248	C

\*「出土遺構・層位」欄の「257埴輪窓(2号窓)」は、257埴輪窓として遺物と取上げられたが、「検出面」又は「灰原」縁辺のグリッドから出土した遺物のみで構成されており、257埴輪窓(2号窓)帰属埴輪でないと判断した資料。

\*当該試料の「三辻研№」は、本来、すべて「28-○」という表記であるが、「28-」を省略して、末尾の数字のみ記す。

## 第2節 出土動物遺存体の同定

丸山 真史(東海大学)

### 1 動物遺存体の概要

動物遺存体は、平井遺跡第1次・第3次・第4次調査の遺物包含層及び遺構から出土している。共伴する遺物から推定される年代は、弥生時代中期から室町時代のものである。すべて哺乳類であり、計22点を同定対象とした。そのうち種類や部位が特定できたものは6点に留まる(表1・2)。以下では、調査次数別に、出土した動物遺存体の概要を記載する。

### 2 調査区別の動物遺存体

#### 第1次調査

5北区で奈良時代の遺物包含層(褐色土)から、ウマあるいはウシの四肢骨が1点出土している。また3北区で、奈良時代と思われる礫混入溝1号埴輪窓西側から、ウマとウシを区別できない四肢骨が1点出土している。

#### 第3次調査

動物遺存体は、すべて1-2区から出土している。弥生時代中期～後期の遺物を含む59土坑からイノシシの肩甲骨(左)が1点出土している。加工された痕跡は見られない。弥生時代終末期の遺物包含層(第3-3層)から、ウマとウシを区別できない頸骨から遊離した臼歯(エナメル質の破片)が出土している。室町時代の遺物包含層(第3層)から、頸骨から遊離したウシの上顎臼歯が出土している。咬耗状態から、若齢ないし壮齢のウシと推測される。

なお、機械掘削時に出土した骨片が15点出土しているが、すべて種同定には至らない。いずれも被熱して灰色や白色を呈する。

#### 第4次調査

動物遺存体は、すべて6-2南区の85横穴式石室から出土している。古墳時代終末期の横穴式石室であるが、室町時代までの遺物を含む。頸骨から遊離してウマの上顎右第2後臼歯(M2)、第3後臼歯(M3)が1点ずつ、ヒトの頭蓋骨1点が出土している。馬歯は、咬耗状態から若齢と推定される。第2後臼歯は出土位置の詳細は不明で、第3後臼歯は玄室上層から出土しており、石室が構築されてすぐに埋納されたものとは考えにくい。また、ヒトも第1層・第2層の境界付近で出土しており、原位置を保持していないと思われる。これら石室内から出土した馬歯・人骨は、後世の混入と考えられる。

### 3 まとめ

平井遺跡では、これまでに動物遺存体の出土は知られておらず、今回の一連の調査で出土した資料が初例となる。今回出土した動物遺存体の出土量は多くないが、ウマ、ウシ、イノシシ、ヒトを同定することができた。弥生時代のイノシシは食用と考えられるほか、卜骨の素材である可能性も考えられる。本資料には、卜占の痕跡は見られないが、弥生時代にはイノシシの肩甲骨が

表1 動物遺存体種名表

哺乳綱	Mammalia
寒長目	Primates
ヒト科	Hominidae
ヒト	<i>Homo sapiens</i>
奇蹄目	Perissodactyla
ウマ科	Equidae
ウマ	<i>Equus caballus</i>
偶蹄目	Artiodactyla
ウシ科	Bovidae
ウシ	<i>Bos Taurus</i>
イノシシ科	Suidae
イノシシ	<i>Sus scrofa</i>

ト骨として使用される例は多い。一方、横穴式石室の内部から出土した馬歯のうち、出土位置の詳細が明らかでないものについて、石室内部にウマを供献したものという可能性もあるが、古墳時代以後の堆積が多く、これも外部から混入したものと考えておきたい。

表2 平井遺跡出土動物遺存体一覧

調査 次数	出土遺物 登録番号	骨番号	地区	遺構	層位	時期	小分類	部位	部分	左右
第1次	1016	B-2	5北区 E5k12	—	褐色土	奈良時代	ウマ/ウシ	四肢骨	骨幹部	—
	967	B-1	3北区 E5j11	—	礫混入溝 1号埴輪裏西側	奈良時代？	ウマ/ウシ	四肢骨	骨幹部	—
第3次	—	B-22	1-2区 F5k1	59土坑	—	弥生時代中期～後期	イノシシ	肩甲骨	—	左
	107	B-32	1-2区 F4n24	—	第3-3層	弥生時代終末期	ウマ/ウシ	遊離歯	臼歎	—
	47	B-31	1-2区 F4p23	—	第3層	室町時代	ウシ	遊離歯	上顎後臼歎	右
	47	B-31	1-2区 F4p23	—	第3層	室町時代	ウシ	遊離歯	上顎後臼歎	左
	2	B-30	1-2区	—	機械掘削	不明	不明	不明	—	—
第4次	360	B-41	6-2南区 F4l24	85横穴式石室	—	古墳時代終末期～室町時代	ウマ	遊離歯	上顎M2	右
	347	B-42	6-2南区 F4l24	85横穴式石室	玄室上層	古墳時代終末期～室町時代	ウマ	遊離歯	上顎M3	右
	349	B-44	6-2南区 F4l24	85横穴式石室	第1層と第2層の境	古墳時代終末期～室町時代	ヒト	頸蓋骨	—	—



写真1 第3次調査  
イノシシ肩甲骨



写真2 第4次調査  
ウマ上顎M2



写真3 第4次調査  
ウマ上顎M3

### 第3節 出土木製品の樹種同定

須山 貴史(株式会社 イビソク)

平井遺跡の第1次及び第3次調査で出土した木製品について、保存処理に伴う樹種同定を行った。

#### 1 同定試料と方法

試料は、平井遺跡第1次調査で出土した4点の木製品、第3次調査で出土した8点の木製品の、計12点である。樹種同定は、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(柾目)について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行った。また切片採取前に木取りの確認を行った。

#### 2 同定結果

同定の結果、針葉樹2分類群(コウヤマキ・スギ)、広葉樹3分類群(ケヤキ・ブナ属・コナラ属アカガシ亜属)の、計5分類群がみられた。同定結果一覧を表1に、写真1に光学顕微鏡写真を示す。

#### 3まとめ

弥生時代中期～後期の泥除未成品および農具未成品は、いずれもアカガシ亜属であった。アカガシ亜属は極めて堅硬な樹種で、強度を必要とする農具類に好んで利用された可能性がある。和歌山県では、農具にアカガシ亜属が利用される傾向がみられ、今回の試料も従来から知られている傾向と一致する。

弥生時代中期の柱材はケヤキが1点、奈良時代の柱材はスギが3点であった。スギは木理通直で真っ直ぐに生育する加工性の良い樹種であり、ケヤキは堅硬であるが加工性の良い樹種である。

鎌倉時代の曲物底板2点はコウヤマキとスギが各1点であった。コウヤマキはスギと同様の材質を持ち、特に水温に強い。

室町時代末～江戸時代の漆椀2点はブナ属であった。ブナ属は堅硬であるが、比較的加工性の

表1 出土木製品の樹種同定結果一覧

遺物番号	登録番号	調査次数	種類・器種	樹種	木取り	時期	備考
1409	W 9	第3次	泥除？未成品	コナラ属アカガシ亜属	柾目	弥生時代中期～後期	
1410	W 10	第3次	泥除？未成品	コナラ属アカガシ亜属	柾目	弥生時代中期～後期	
1411	W 7	第3次	農具未成品？	コナラ属アカガシ亜属	柾目	弥生時代中期～後期	
1412	W 8	第3次	農具未成品？	コナラ属アカガシ亜属	柾目	弥生時代中期～後期	
1413	W 11	第3次	柱材・柱基部	ケヤキ	芯持丸木	弥生時代中期	
1414	W 12	第3次	柱材・柱基部	スギ	芯持丸木	奈良時代	
1415	W 1	第1次	柱材・柱基部	スギ	芯持丸木	奈良時代	
1416	W 2	第1次	柱材・柱基部	スギ	芯持丸木	奈良時代	
1417	W 6	第3次	漆椀	ブナ属	横木取り	室町時代末～江戸時代	2つに割れてる
1418	W 5	第3次	漆椀	ブナ属	横木取り	室町時代末～江戸時代	2つに割れてる
1419	W 4	第1次	曲物底板	スギ	追柾目	鎌倉時代	2つに割れてる
1420	W 3	第1次	曲物底板	コウヤマキ	柾目	鎌倉時代	

良い樹種であり、現代でも挽物として多く利用されている。剣物には堅硬で加工性の良い樹種が選択されていたと考えられる。

【引用文献】

- 2011 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂『日本有用樹木誌』238p 海青社  
2012 黒須亜希子「南近畿(1)大阪府・和歌山県」伊東隆夫・山田昌久編『木の考古学—出土木製品用材データベースー』: 241-257 海青社

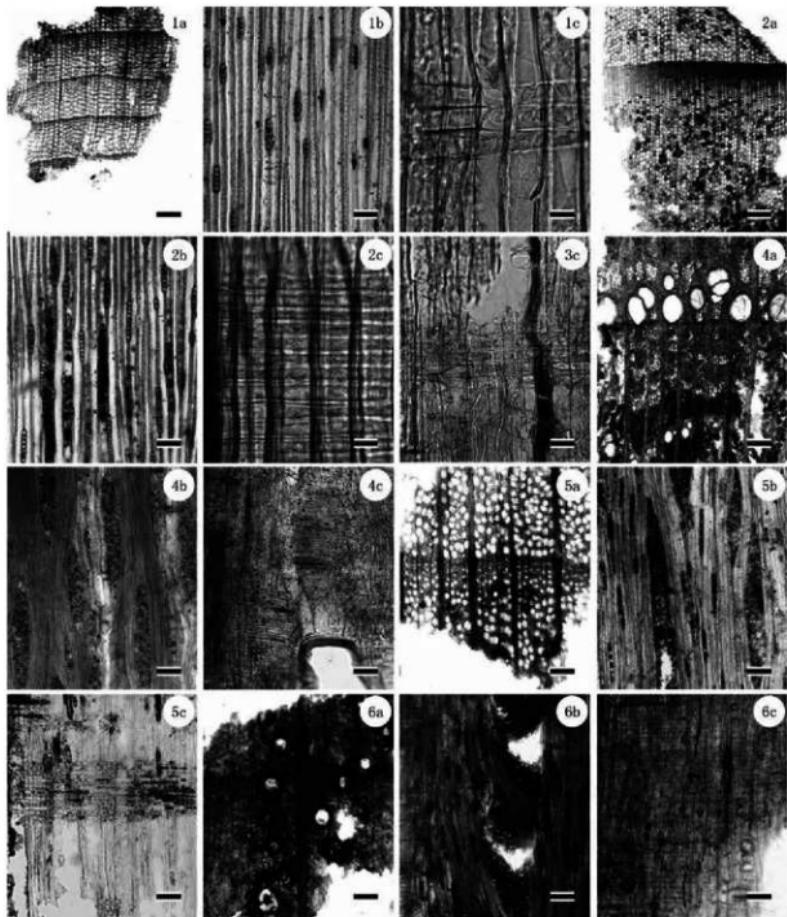


写真1 出土木製品の光学顕微鏡写真 1 (1420)コウヤマキ、2 (1419)・3 (1416)スギ、4 (1413)ケヤキ、5 (1418)ブナ属、6 (1411)コナラ属アカシ亜属  
a 横断面(スケール=250  $\mu\text{m}$ )、b 接線断面(スケール=100  $\mu\text{m}$ )、c 放射断面(スケール=1-3:25  $\mu\text{m}$ ・4-5:100  $\mu\text{m}$ )

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋蔵 番号	写真 版図	遺物名 調査次数	実測値 容積値 容積等級 等級番号	三工部 等級番号	地区 取上区画	遺構面 堆積層位	遺構番号 指標 病原部位	遺物種類	基部	部位	残存率	備考
1 国41	—	平井遺跡 第1次	424	1037	5北区 E5e18	實施牌	—	織文土器	深鉢	口縁部	5%	全体に磨滅して著しいため調整不明確。古墳時代後期、反転復元。難解のため口底不正確。	
2 国41	61	平井遺跡 第1次	225	1774	4南区 E5d13	—	668小穴 第4層	弥生土器	広口壺	口縁部	65%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。内面口部に黒斑あり。外側に斜め凹溝がある。古墳時代中期伊伊V-1様式、一部反転復元。	
3 国41	—	平井遺跡 第1次	81	541	2北区 F5a5	—	057小穴	弥生土器	広口壺	口縁部	20%	全体に磨滅して著しいため調整不明確。口縫部面部に沿って黒斑有り。外側に斜め凹溝がある。古墳時代中期伊伊V-1様式、一部反転復元。	
4 国41	—	平井遺跡 第1次	209	1476	2東区 F5a10	—	559土机	弥生土器	太腹 広口壺	口縁部	15%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。口縫部面部に円形浮出の隙れ有り。有孔有り。弥生時代中期伊伊V-1様式、反転復元。	
5 国41	61	平井遺跡 第1次	78	449 420	2北区 E5y5 E5y6	—	184小穴 第4層	弥生土器	細腰壺	口縫部～ 肩部	64%	瓶底をした形調整不明確。弥生時代中期伊伊V-3様式、一部反転復元。	
6 国41	61	平井遺跡 第1次	211	1489 1314 1476	2南区 F5a10	—	559土机	弥生土器	細腰壺	口縫部～ 底部	75%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。内面全体は瓶底の形のハケ跡が確認される。弥生時代中期伊伊V-1様式、反転復元。	
7 国41	61	平井遺跡 第1次	161	914	3北区 D6a1	—	343溝	弥生土器	直口壺	口縫部～ 肩部	55%	口縫部内面底面のため調整不明確。外口縫部面部に沿って黒斑・隙れ有り。外側に波状波紋が確認され。弥生時代中期伊伊V-1様式、一部反転復元。	
8 国41	61	平井遺跡 第1次	157	918	3東区 D6a3	—	342溝 下層	弥生土器	短腰壺	口縫部～ 肩部	15%	内部に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。口縫部に注口の入り込み有り。弥生時代中期伊伊V-1様式、反転復元。	
9 国41	—	平井遺跡 第1次	80	433	2北区 E5w6	—	199小穴	弥生土器	無理音	口縁部	14%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。口縫部面部に沿って黒斑・隙れ有り。外側に波状波紋が確認される。弥生時代中期伊伊V-3様式、反転復元。	
10 国41	—	平井遺跡 第1次	84	486	2北区 E5v5	—	215小穴	弥生土器	無理音	口縁部	10%	外側に黒斑有り。磨滅して著しいため調整不明確。口縫部面部に沿って黒斑・隙れ有り。外側へラミックか、弥生時代中期伊伊V-3様式、反転復元。	
11 国41	—	平井遺跡 第1次	210	1476	2南区 F5a10	—	559土机	弥生土器	壺	口縫部～ 肩部	14%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。外側へラミックか、弥生時代中期伊伊V-1様式、反転復元。	
12 国41	—	平井遺跡 第1次	63	541	2北区 F5a5	—	057小穴	弥生土器	高环	口縁部	15%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。外側へラミックか、弥生時代中期伊伊V-1様式、反転復元。	
13 国41	61	平井遺跡 第1次	206	1357 1398	4南区 E5a12	—	470小穴	弥生土器	高环	口縁部	90%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。外側へラミックか、弥生時代中期伊伊V-3様式、並み有り。反転復元。	
14 国41	61	平井遺跡 第1次	205	1401	4東区 E5c11	—	465小穴	弥生土器	高环	脚輪部	75%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。外側へラミックか、弥生時代中期伊伊V-1様式、反転復元。	
15 国41	—	平井遺跡 第1次	79	433	2北区 E5w6	—	199小穴	弥生土器	小型壺	口縫部～ 体部	20%	弥生時代中期伊伊V-1様式、反転復元。	
16 国41	61	平井遺跡 第1次	207	1314	2南区 F5a10	—	559土机	弥生土器	複合口縫 脚輪	20%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。外側へラミックか、弥生時代中期伊伊V-1様式、反転復元。		
17 国41	—	平井遺跡 第1次	208	1314	2北区 F5a10	—	559土机	弥生土器	高环	脚輪部	20%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。外側へラミックか、弥生時代中期伊伊V-1様式、反転復元。	
18 国41	—	平井遺跡 第1次	180	1199	2南区 F5b8-9	—	408土机	弥生土器	脚台付鉢	口縁部	5%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。外側へラミックか、弥生時代中期伊伊V-1様式、反転復元。	
19 国41	61	平井遺跡 第1次	186	1294	4南区 E5c15	—	439土机-2	土師器	堆塗土器	脚台部	75%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。外側へラミックか、弥生時代中期伊伊V-1様式、反転復元。	
20 国41	61	平井遺跡 第1次	214	1858	3南区 E5m17	—	648土机	土師器	小型 丸底土器	口縫部～ 底部	90%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。体部の内は焼成陶片、布面式併行窓古段階。一部反転復元。	
21 国41	61	平井遺跡 第1次	213	1650	3南区 E5e17	—	621土机	土師器	小型 丸底土器	口縫部～ 底部	85%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。布面式併行窓古段階。	
22 国41	61	平井遺跡 第1次	217	1647	3南区 E5e17	—	621土机	弥生土器	壺	口縫部～ 底部	50%	全体に剥離・磨滅して著しいため調整不明確。外側面部中央から下部にかけて黒斑・隙れ有り。底面裏面に二次焼成。布面式併行窓古段階。一部反転復元。	
23 国41	—	平井遺跡 第1次	92	670	4北区 E5e11	—	241柱穴	土師器	壺	口縫部	15%	磨滅して著しい。内外面の一部に自然剥離する。外側に重ねた痕跡有り。底面部は圓筒形(ハラウチ)。口縫部方向: 右回り。口底: 右左回り。	
377 国70	—	平井遺跡 第1次	44	1012	1北区 F5e1	—	002 横穴式石室 奥部	土師器	壺	口縫部～ 底部	20%	全体に磨滅して著しいため調整不明確。古墳時代終末期。反転復元。	
378 国70	83	平井遺跡 第1次	42	908	1北区 F5e1	—	002 横穴式石室	須恵器	舟身	口縫部～ 底部	98%	並み著しい。内外面の一部に自然剥離する。外側に重ねた痕跡有り。底面部は圓筒形(ハラウチ)。口縫部方向: 右回り。口底: 右左回り。	
379 国70	83	平井遺跡 第1次	43	907	1北区 F5e1	—	002 横穴式石室 No.1	須恵器	舟身	口縫部～ 底部	98%	並み著しい。内外面の一部に自然剥離する。外側に重ねた痕跡有り。底面部は圓筒形(ハラウチ)。口縫部方向: 右回り。口底: 右左回り。	
380 国70	83	平井遺跡 第1次	125	1034	3北区 D5y20	—	260	土師器	長胴壺	口縫部～ 体部	48%	外側底部から体部中央にかけて黒斑・隙れ有り。底面裏面に二次焼成。舟身: 右回り。舟底: 右左回り。	
381 国70	83	平井遺跡 第1次	96	1035	3北区 D5y20	—	260	須恵器	壺	口縫部～ 底部	98%	外側舟部と舟底輪郭へ切り替わり。口縫部方向: 左回り。舟身: 右回り。舟底: 右左回り。	

### 出土遺物一覽　主器・主製品・瓦類

既報<sup>1</sup>では、図示できた既存部位での割合

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	持 分 番 号	写真 版 図	遺物名 実測値 寸法 容積 数値	地区 取 上 区 画	遺構面 堆積層位	遺構番号 堆積 層位	遺物種類	基盤	部位	残存率	備考		
405 図71	-	平井遺跡 第1次	20	1514 E5n15	3南区	—	建物4 592柱穴	弥生土器	高環	口縁部～ 坪部	8%	全体に壊滅のため調整不正確。庄内式 併用新規形。反転復元	
406 図71	-	平井遺跡 第1次	16	1084	3北区	E5n14	—	建物4 375柱穴	土器器	坪	口縁部	—	全体に壊滅のまま良好。奈良時代、新 規のみ
407 図71	84	平井遺跡 第1次	17	1466 1467 1466	4南区	E5n13	—	建物4 570-216穴 570-18穴 570柱穴	土器器	坪	口縁部～ 高台部	70%	内面に粗い埴有り、幅0.5~1.5mm の凹凸が生る。良質時代、反転復元
408 図71	-	平井遺跡 第1次	15	1466	4南区	E5n13	—	建物4 570柱穴	土器器	瓶	口縁部	10%	口縁端部を内側に突き出すため縁間に 凹凸が生る。良質時代、反転復元
409 図71	-	平井遺跡 第1次	14	1466	4南区	E5n13	—	建物4 570柱穴	土器器	甕	口縁部	5%	全体に壊滅のため調整不正確。奈 良時代、反転復元。縦片のため口径不 正確
410 図71	-	平井遺跡 第1次	19	1516	3南区	E5n14	—	建物4 5894柱穴	土器器	把手	—	焼成前の穿孔。奈良時代、断面と上部 からの笠	
411 図71	-	平井遺跡 第1次	13	1082 1110	3北区	E5n13	—	建物4 378柱穴	土器器	壺	天井部～ 口縁部	10%	全体に壊滅のため調整不正確。奈 良時代、反転復元
412 図71	-	平井遺跡 第1次	18	1492	4南区	E5n-014	—	建物4 5891柱穴	須恵器	鉢形鉢	口縁部～ 体部	15%	ロクロ回転方向：右回り、陶器N型式 第2段鉢(田辺K61型式)、反転復元。
413 図71	-	平井遺跡 第1次	22	1499	4南区	E5n12	—	建物5 4585穴	弥生土器	直口壺	口縁部	10%	全体に壊滅のため調整不正確。弥生 時代中期紀元-3様式。反転復元
414 図71	-	平井遺跡 第1次	23	1499	4南区	E5n12	—	建物5 4558穴	弥生土器	紀伊彌	底部	40%	全体に壊滅のため調整不正確。弥生 時代前期紀元-3様式、反転復元
415 図71	-	平井遺跡 第1次	21	1457	4南区	E5n11	—	建物5 4528柱穴	土器器	高環	口縁部	5%	全体に壊滅のため調整不正確。奈良 時代、反転復元。縦片のため口径不 正確
416 図71	-	平井遺跡 第1次	24	1461	4南区	E5n11	—	建物5 4578柱穴	土器器	皿	口縁部	15%	全体に壊滅のため調整不正確。奈良 時代、反転復元
417 図71	-	平井遺跡 第1次	29	1341	4南区	E5g12	—	建物6 4484穴	土器器	坪	口縁部	10%	全体に壊滅のまま良好。奈良時代、反 転復元。規範のため焼き目不明確
418 図71	-	平井遺跡 第1次	27	1328	4南区	E5p13	—	建物6 463北穴 雨落溝7号	土器器	坪	口縁部～ 体部	5%	内外面崩壊のため調査不正確。奈良 時代、反転復元。縦片のため口径不明確
419 図71	-	平井遺跡 第1次	30	1450	4南区	E5g12	—	建物6 464 雨落溝7号	須恵器	坪身	口縁部～ 体部	—	ロクロ回転方向：右回り、陶器N型式 第3段鉢(田辺TK20型式)、反転復元。
420 図71	84	平井遺跡 第1次	26	1377	4南区	E5p13	—	建物6 463南穴 雨落溝7号	須恵器	坪	口縁部～ 高台部	90%	全体に壊滅のまま良好。ロクロ回転方向： 左回り、奈良時代
421 図71	-	平井遺跡 第1次	28	1450	4南区	E5g12	—	建物6 464 雨落溝7号	須恵器	坪蓋	口縁部	10%	ロロクロ回転方向：左回り、陶器N型式 第2段鉢(田辺TK46型式)、反転復元
422 図71	-	平井遺跡 第1次	25	1388	4南区	E5e12	—	建物6 4503穴	須恵器	坪	口縁部	15%	ロクロ回転方向：右回り、陶器N型式 第1段鉢(田辺MT21型式)、反転復元
423 図71	-	平井遺跡 第1次	34	1446	4南区	E5p16	—	建物7 550穴	土器器	堆积土器	口縁部～ 体部	20%	全体に壊滅のまま良好。奈良時代、反 転復元
424 図71	-	平井遺跡 第1次	32	1473	4南区	E5p16	—	建物7 550穴	須恵器	坪蓋	口縁部	5%	ロクロ回転方向：右回り、陶器N型式 第1段鉢(田辺TK21型式)、反転復元
425 図71	-	平井遺跡 第1次	33	1473	4南区	E5p16	—	建物7 550柱穴	須恵器	坪	口縁部	5%	陶器N型式1段鉢(田辺TK21型式)、 反転復元。縦片のため口径不明確
426 図71	-	平井遺跡 第1次	31	1352	4南区	E5n15	—	建物7 537柱穴	須恵器	杏	口縁部	20%	口縁上端部に自然釉薄く付着する、ロ クロ回転方向：右回り、陶器N型式 第4段鉢(田辺TK46型式)、反転復元
427 図71	-	平井遺跡 第1次	36	1337	4南区	E5p15	—	建物8b 561穴	土器器	坪	口縁部～ 底盤	25%	全体に壊滅のため調査不正確。胎土 に1.5mm程の石斑、チャート、赤色陶 土を多量に含む。奈良時代か、反転 復元。
428 図71	-	平井遺跡 第1次	35	1337	4南区	E5p15	—	建物8b 561柱穴	土器器	甕	底部	5%	奈良時代、反転復元。縦片のため底 部口径不明確
429 図71	-	平井遺跡 第1次	37	1421	2北区	E5w8	—	建物9 420柱穴	土器器	高環	口縁部	5%	奈良時代、反転復元。縦片のため口径 不明確
430 図71	-	平井遺跡 第1次	38	1420	2北区	E5w7	—	建物9 419穴	土器器	甕	口縁部	5%	古墳時代中期、反転復元。縦片のため 口径不明確
431 図71	-	平井遺跡 第1次	39	1565	3南区	E5n16	—	建物10 605柱穴	土器器	皿	口縁部	5%	全体に壊滅のため調査不正確。奈良 時代、反転復元。縦片のため口径不明確
432 図71	-	平井遺跡 第1次	40	1563	3南区	E5n17	—	建物10 609穴	須恵器	坪蓋	口縁部	—	ロクロ回転方向：左回り、陶器N型式 第1段鉢(田辺TK21型式)、一部反転復 元。縦片のため口径不明確
433 図71	-	平井遺跡 第1次	41	1653	3南区	E5n18	—	建物11 613穴	土器器	坪	口縁部	—	全体に壊滅のため調査不正確。外 面环部ハケ調整か、見込みに斜打痕有り。 吉備時代中期か、一部反転復元
434 図72	85	平井遺跡 第1次	70	315	2北区	E5e9	—	105土机	土器器	高環	坪	60%	全体に壊滅のため調査不正確。外 面环部ハケ調整か、見込みに斜打痕有り。 吉備時代中期か、一部反転復元
435 図72	85	平井遺跡 第1次	68	289	2北区	E5e10	—	105土机	須恵器	高環	坪部～ 脚部	85%	脚部に長方形の3方向の孔有り。 脚部歪曲有り。ロクロ回転方向：右回 り。陶器N型式(田辺TK43型式)、一部反 転復元。
436 図72	85	平井遺跡 第1次	69	289	2北区	E5e11	—	105土机	須恵器	坪	口縁部～ 脚部	40%	ロクロ回転方向：左回り、陶器N型式 第1段鉢(田辺MT21型式)、一部反転復 元。
437 図72	85	平井遺跡 第1次	62	546	1北区	F5g1	—	021土机	須恵器	甕	溝部～ 大井部	80%	ロクロ回転方向：左回り、陶器N型式 第1段鉢(田辺MT21型式)、一部反転復 元。

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 場 所 番 号	写真 版 面 番 号	追跡名 調査次数	実測遺物 登録番 号	出土物番 号	地区 取上区画	遺構面 積持存位	遺構番 号・指標 遺構位番	遺物種類	基部	部位	残存率	備考
438	図72	85	平井遺跡 第1次	59	422 167 158 183	1北区 F5g1	第4層	021土机 015土机	須恵器	長縫唇	口縫部～ 体部	58%	口縫端部やや歪つ。体部を除く外側面 縫合部～肩部に自然剥離線付帯する。 ロクロ回転方向：左回り、陶熱IV型式 第6段階(田辺TK47型式後)、一部反 転復元。
439	図72	-	平井遺跡 第1次	61	539 546	1北区 F5g1	—	021土机	須恵器	唇	口縫部～ 体部	60%	底部に自然剥離線付帯する。ロクロ回 転方向：左回り、陶熱IV型式第6段階 (田辺TK47型式)、反転復元。
440	図72	-	平井遺跡 第1次	60	539	1北区 F5g1	—	021土机	須恵器	唇	口縫部～ 体部	58%	内側肩部から体部にかけて縫合状に自然 剥離線付帯する。外側面部は通常タキナ 内面は円文様あり。ロクロ回転方向：左回 り、陶熱IV型式第5段階(田辺TK20型式) 一部反転復元。
441	図72	85	平井遺跡 第1次	85	538	2北区 F5c2	—	223土机	須恵器	脚台付唇	体部～ 脚台部	60%	外張肩部から体部にかけて縫合状に自然 剥離線付帯する。ロクロ回 転方向：左回り、陶熱IV型式第5段階(田 辺TK20型式)、反転復元。
442	図72	-	平井遺跡 第1次	126	1057	3区 D5w23	—	268土机	土師器	腹	口縫部～ 体部	15%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 底部に自然剥離線付帯する。ロクロ回 転方向：左回り、陶熱IV型式
443	図72	-	平井遺跡 第1次	127	1057	3区 D5w23	—	268土机	弥生土器	鉢	脚台部	95%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 庄内併行窓式回転か、一部反転復元。
444	図72	85	平井遺跡 第1次	97	1091	3北区 D5w23	—	268土机 取上2	須恵器	环	天井部～ 口縫部	100%	外張肩部が圓錐形、うなり、ロクロ回 転方向：左回り、陶熱IV型式第6段階(田 辺TK75型式)
445	図72	85	平井遺跡 第1次	98	1091	3北区 D5w23	—	268土机	須恵器	环身	口縫部～ 底部	99%	底面底部は内輪へうなり、ロクロ回 転方向：左回り、陶熱IV型式第6段階(田 辺TK75型式)
446	図72	-	平井遺跡 第1次	104	784	5東区 D6w5	—	301土机-4	土師器	腹	口縫部	16%	底部のため調整不正確、 良食時代、反転復元。
447	図72	-	平井遺跡 第1次	102	1089	3北区 E5j16	—	292土机	土師器	腹	口縫部	13%	底部のため調整不正確、 良食時代、反 転復元。
448	図72	-	平井遺跡 第1次	100	1089	3北区 E5j16	—	292土机	須恵器	唇	頭部～ 肩部	16%	ロクロ回転方向：左回り、型式不明、 良食時代か、反転復元。
449	図72	85	平井遺跡 第1次	105	954	5東区 D6w6	—	302土机 352溝	須恵器	环	口縫部～ 系部	30%	ロクロ回転方向：左回り、陶熱IV型式 第5段階(田辺TK53型式)、反転復元。
450	図72	85	平井遺跡 第1次	106	954 956	5東区 D6w6	—	302土机 352溝	須恵器	腹	口縫部～ 口縫部	95%	内側に火照跡の痕跡有り、ロクロ回転 方向：右回り、陶熱IV型式第5段階(田 辺TK53型式)
451	図72	-	平井遺跡 第1次	108	954	5東区 D6w6	—	302土机	須恵器	腹	口縫部～ 肩部	—	ロクロ回転方向：右回り、型式不明、 良食时代式第2段階(田辺TK1型式)、断面のみ
452	図72	-	平井遺跡 第1次	107	954	5東区 D6w6	—	302土机	土師器	甕状土罐	—	95%	長さ(6.2cm)、幅(1.5cm)、厚(1.4cm)・ 直徑(11cm)、余食時代か、 良食時代。
453	図72	-	平井遺跡 第1次	115	780	5東区 D6w4	—	303土机(東)	土師器	皿	口縫部～ 底部	10%	全体に磨滅のため調整不正確、 良食時代、反転復元。
454	図72	85	平井遺跡 第1次	123	870	5東区 D6w4	—	303土机 取上5 303土机(東)	土師器	环	口縫部～ 底部	50%	見込みルートの画像有り有り、脚柱 付近13個の画像有り有り、良食時代、 反転復元。
455	図72	-	平井遺跡 第1次	121	870	5東区 D6w4	—	303土机	土師器	高环	脚台部	65%	脚台部・難定8面の画取り有り、 良食時代、一部反転復元。
456	図72	85	平井遺跡 第1次	116	780	5東区 D6w4	—	303土机(東)	土師器	腹	口縫部～ 体部	13%	脚部・難定のため調整不正確、 外側体部位から下にかけて縫合付帯す る。良食時代、反転復元。
457	図72	-	平井遺跡 第1次	117	866	5東区 D6w4	—	303土机 取上1	土師器	腹	口縫部～ 肩部	23%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 外側全体に付着した縫合付帯有り、 二次焼成、良食時代、 反転復元。
458	図72	-	平井遺跡 第1次	114	768	5東区 D6w4	—	303土机	土師器	堆积土器	口縫部	10%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 胎土に 泥付有り、トントン、片唇を 多量に含む。良食時代、反転復元。
459	図73	86	平井遺跡 第1次	122	871	5東区 D6w4	—	303土机 取上3	須恵器	腹	佛み部～ 口縫部	98%	ロクロ回転方向：左回り、陶熱IV型式 第1段階(田辺TK1型式)
460	図73	-	平井遺跡 第1次	113	768	5東区 D6w4	—	303土机(東)	須恵器	天井部～ 口縫部	天井部～ 口縫部	10%	ロクロ回転方向：右回り、陶熱IV型式 第1段階(田辺TK1型式)、反転復元。
461	図73	86	平井遺跡 第1次	120	869	5東区 D6w4	—	303土机 取上4	須恵器	环	口縫部～ 高台部	55%	底面底部は内輪へうなり、瓦焼成、 ロクロ回転方向：左回り、陶熱IV型式第 3段階(田辺TK53型式)、反転復元。
462	図73	86	平井遺跡 第1次	119	868	5東区 D6w4	—	303土机 取上3	須恵器	环	口縫部～ 高台部	40%	ロクロ回転方向：左回り、陶熱IV型式 第4段階(田辺TK73型式)、反転復元。
463	図73	86	平井遺跡 第1次	118	867	5東区 D6w4	—	303土机 取上2 303土机(東)	須恵器	环	口縫部～ 高台部	60%	瓦焼成、ロクロ回転方向：左回り、 陶熱IV型式第2段階(田辺TK16型式)
464	図73	-	平井遺跡 第1次	110	802	5東区 D6w4	—	315土机	土師器	堆积土器	口縫部～ 体部	20%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 良食時代、反転復元。
465	図73	-	平井遺跡 第1次	112	911	5東区 D6i-u1	—	346土机	土師器	堆积土器	口縫部～ 体部	16%	全体に刻劃・磨滅著しいため調整不 正確、良食時代、反転復元。
466	図73	86	平井遺跡 第1次	109	774	5東区 D6i6	—	309土机	須恵器	环	口縫部～ 底部	50%	ロクロ回転方向：左回り、陶熱IV型式 第3段階(田辺TK48型式)、一部反転復 元。
467	図73	-	平井遺跡 第1次	183	1294	4東区 E5i5	—	439土机-2	土師器	环	口縫部～ 底部	20%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 良食時代、反転復元。
468	図73	-	平井遺跡 第1次	184	1292	4東区 E5o15	—	439土机 セクション	土師器	腹	口縫部～ 体部	22%	内部の刻劃・磨滅著しいため調整不 正確、外側腹部以下に斜めの細かいヶ ヶ跡が施される。良食時代、反転復元。
469	図73	-	平井遺跡 第1次	187	1294	4東区 E5i5	—	439土机-2	土師器	腹	口縫部～ 肩部	16%	外側腹部以下に斜めの細かいヶ跡が 施される。良食時代、反転復元。
470	図73	-	平井遺跡 第1次	185	1293	4東区 E5e15	—	439土机-1	土師器	腹	口縫部～ 体部	13%	内部共に磨滅著しいため調整不 正確、良食時代、反転復元。

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 場所	写真 版図	遺物名 実測値 寸法 測定 数	三工 部 分 辨 能 力 等 級 番 号	地区 取 上 区 画	遺構面 堆積層位	遺構名 確認 有無	遺物種類	基盤	部位	残存率	備考	
471	図73	86	平井遺跡 第1次	199	1380 1326	4東区 E5p14 E5p13	—	458土坑南 458土坑-1	土師器	皿	口縁部～ 底部	27%	全体に剥離・磨耗著しいため調整不明確。 底部底面は黒炭化の黒色をした範 囲が認められる。痕跡時代、反転復元
472	図73	86	平井遺跡 第1次	197	1379 1298	4東区 E5p14 E5p13-14	—	458土坑南 458土坑-2	土師器	杯(鉢)	口縁部～ 底部	43%	全体に剥離・磨耗著しいため調整不明確。 胎土は極めて密で精良。痕跡時代、 反転復元
473	図73	—	平井遺跡 第1次	195	1298	4東区 E5p13-14	—	458土坑-2	土師器	鉢	口縁部～ 体部	8%	全体に剥離のため調整不明確。内面立 らんにより内文有り。外周面部に楕 円形・体部に輪郭のラミガキの痕跡有 り。痕跡時代、反転復元
474	図73	—	平井遺跡 第1次	196	1298	4東区 E5p13-14	—	458土坑-2	土師器	甕	口縁部～ 底部	53%	全体に剥離のため調整不明確。 外底底部の一部に保護付く付着する。 外周面部は輪郭のハバ調整が施される。 痕跡時代、反転復元
475	図73	86	平井遺跡 第1次	202	1370	4東区 E5e13	—	458土坑南	土師器	甕	口縁部～ 底部	60%	内部口縁部から外周面部～体部～ 底部にかけて保護付く付着する。痕跡 時代、一部反転復元
476	図73	86	平井遺跡 第1次	193	1293	4東区 E5p13-14	—	458土坑-1	土師器	甕	口縁部～ 体部	15%	底面のため調整不不明確。 外底底部以内～外周にかけて二次 的のため変形化する。痕跡時代、 反転復元
477	図73	—	平井遺跡 第1次	198	1326	4東区 E5p13	—	458土坑-1	須恵器	壺	天井部～ 口縁部	12%	外周面部に自然剥離付く付着する。口 縁部下方に右回転・左回転・周辺型式第 2種類(田辺TK45型式)、反転復元
478	図73	86	平井遺跡 第1次	189	1298	4東区 E5p13-14	—	458土坑-2	須恵器	壺	天井部～ 口縁部	60%	丸やや直い。口回転方向:左 回転・周辺型式第3種類(田辺TK44型 式)、一部反転復元
479	図73	—	平井遺跡 第1次	191	1298	4東区 E5p13-14	—	458土坑-2	須恵器	壺	天井部～ 口縁部	13%	外周面部に自然剥離付く付着する。全 体に歪み直し。口回転方向:右 回転・周辺型式第3種類(田辺TK44型 式)、反転復元
480	図73	—	平井遺跡 第1次	188	1298	4東区 E5p13-14	—	458土坑-2	須恵器	坏	口縁部～ 高台部	22%	ロクロ回転方向:左回り、陶器IV型式第 1段階(田辺TK21型式)、反転復元
481	図73	—	平井遺跡 第1次	201	1376	4東区 E5p13	—	458土坑-1	須恵器	坏	口縁部～ 高台部	20%	外底底部から高台の一部にかけて自然 剥離付く付着する。ロクロ回転方向: 右回り、陶器IV型式第2段階(田辺TK16 型式)、反転復元
482	図73	86	平井遺跡 第1次	204	1381	4東区 E5p14	—	458土坑南	須恵器	坏	口縁部～ 底部	80%	底面底面は剥離へたり、ロクロ回転 方向:右回り、周辺型式第5種類(田 辺TK21型式)、一部反転復元
483	図73	—	平井遺跡 第1次	190	1298	4東区 E5p13-14	—	458土坑-2	須恵器	坏	口縁部～ 底部	27%	底面底面は剥離へたり、周辺型式第5種類(田 辺TK45型式)、反転復元
484	図73	86	平井遺跡 第1次	203	1371	4東区 E5e13	—	458土坑北	須恵器	高坏	口縁部～ 底部	65%	全体にやや歪み直し。ロクロ回転方向: 右回り、陶器IV型式第2段階(田辺TK46 型式)、一部反転復元
485	図73	—	平井遺跡 第1次	192	1298	4東区 E5p13-14	—	458土坑-2	須恵器	壺	口縁部～ 高台部	80%	ロクロ回転方向:右回り、底面へたり、ロクロ回転 方向:右回り、周辺型式第5種類(田 辺TK21型式)、一部反転復元
486	図73	86	平井遺跡 第1次	194	1298	4東区 E5p13-14	—	458土坑-2	須恵器	壺(底)	口縁部～ 体部	20%	ロクロ回転方向:左回り、型式不明。 痕跡時代、反転復元
487	図73	86	平井遺跡 第1次	111	906	6東区 D6v5	—	345柱穴	土師器	堆塗土器	口縁部～ 体部	40%	全体に剥離著しいため調整不正確。 痕跡時代、反転復元
488	図73	—	平井遺跡 第1次	71	414	4北区 E5p10	—	133小穴	土師器	有孔土器	—	90%	長(5.8cm)・幅(1.4cm)・厚み1.2cm・ 直径(10cm)。奈良時代
489	図73	—	平井遺跡 第1次	77	416	4北区 E5p11	—	159小穴	須恵器	坏	口縁部～ 底部	8%	ロクロ回転方向:左回り、陶器IV型式第 1段階(田辺TK21型式)、反転復元
490	図74	—	平井遺跡 第1次	51	1014	I区 F5c1	—	011溝	土師器	壺	口縁部	5%	全体に底面著しいため調査不正確。 痕跡時代前斯波布施式行舟古段階、 反転復元
491	図74	—	平井遺跡 第1次	49	1014	I区 F5c1	—	011溝	土師器	高坏	口縁部～ 底部	5%	全体に剥離・磨耗著しいため調査不正確。 古墳時代前斯波布施式行舟古段階、 反転復元
492	図74	—	平井遺跡 第1次	50	1014	I区 F5c1	—	011溝	土師器	小型壺 類器	口縁部～ 底部	16%	全体に底面著しいため調査不正確。古 墳時代前斯波布施式行舟古段階、 反転復元
493	図74	—	平井遺跡 第1次	46	764	1北底区 E5w2	—	008溝	土師器	杯(鉢)	高台部	50%	全体に底面著しいため調査不正確。 痕跡時代、反転復元
494	図74	87	平井遺跡 第1次	45	144	1北区 E5y2	—	008溝	土師器	高坏	脚台部	70%	全体に底面著しいため調査不正確。古 墳時代中段、一部反転復元
495	図74	—	平井遺跡 第1次	47	764	1北底区 E5w2	—	008溝	土師器	甕	口縁部～ 体部	12%	全体に剥離著しいため調査不正確。 痕跡時代、反転復元
496	図74	—	平井遺跡 第1次	48	765	1北底区 E5w3	—	008溝	須恵器	壺	口縁部～ 体部	14%	内面に自然剥離付く付着する。ロクロ回 転方向:右回り、周辺型式第4種類(田 辺TK22型式)か、反転復元
497	図74	87	平井遺跡 第1次	73	303	2北区 E5o7 E5w8	—	103溝	土師器	甕	口縁部～ 体部	24%	外周口縁部から体部下にかけて保護 付く付着する。外周底面から体部中央に かけて黒斑有り。古墳時代中段、反転 復元
498	図74	87	平井遺跡 第1次	67	363	2北区 E5o8	—	103溝	須恵器	坏	口縁部～ 底部	48%	受け部に厚く、体部に自然剥離付く付着 する。底面部は黒斑有り、ロクロ回転 方向:右回り、周辺型式第5種類(田 辺TK22型式)か、反転復元
499	図74	87	平井遺跡 第1次	66	302	2北区 E5n8	—	103溝	須恵器	坏	口縁部～ 底部	50%	底面に自然剥離付く付着する。ロクロ回 転方向:右回り、周辺型式第5種類(田 辺TK22型式)か、反転復元
500	図74	—	平井遺跡 第1次	76	408	4北区 E5p11	—	157溝	土師器	坏	口縁部～ 底部	19%	全体に底面著しいため調査不正確。 痕跡時代、反転復元

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 場所	写真 版図	遺物名 調査 回数	実測値 参考値 等級 等級番号	三工 部 等級 等級番号	地区 取上区画	遺構面 堆積層位	遺構番号 堆積 深度	遺物種類	基準	部位	残存率	備考	
501	図74	-	平井遺跡 第1次	75	400	4北区 E5p10	—	157層	土師器	有孔土縫	—	80%	長さ(5.65cm)・幅1.25~1.4cm・厚み 1.3cm・重量(13g)。奈良時代。	
502	図74	87	平井遺跡 第1次	153	975 938	3東区 D6v3 D6v3	—	341層 セクション4 第1層	土師器	口縫部～ 底部	—	35%	全体に磨滅著しいため調整不明確。底 部表面に「T」字の絞り有り。奈良時 代。一部反転復元。	
503	図74	-	平井遺跡 第1次	151	975	3東区 D6v3	—	341層 取上5	土師器	口縫部～ 体部	—	27%	内部磨滅のため調整不明確。外 面底部はアラカケ目調査が施される。 奈良時代。反転復元。	
504	図74	87	平井遺跡 第1次	154	975	3東区 D6v3	—	341層 取上5	土師器	口縫部～ 底部	—	40%	内部磨滅のため調整不明確。外 面底部はアラカケ目調査が施され る。奈良時代。反転復元。	
505	図74	-	平井遺跡 第1次	152	986 975	3東区D6v3 D6v3 D6v3	—	341層 石密集帯の下 下層 取上5	土師器	口縫部～ 体部	—	20%	外面頭部以下に粒状の粗いハケ調整、 内面ハケ目が元にある機器のハケ調整 が施される。奈良時代。反転復元。	
506	図74	87	平井遺跡 第1次	138	886	5東区 D6v5	—	341層 上層	土師器	口縫部～ 体部	—	60%	全体に剝離・磨滅のため調整不明確。 外全体表面2次洗削のため変形する。 外全体表面ハケ調整が施される。奈良 時代。一部反転復元。	
507	図74	-	平井遺跡 第1次	140	904	3東区 D6v4 D6v3	—	341層 上層石密集帯 取上1付近下	土師器	口縫部	—	28%	外全体頭部以下に粒状の粗いハケ調整 が施される。奈良時代。反転復元。	
508	図74	-	平井遺跡 第1次	139	922 885	5東区D6v5 3東区D6v4	—	341層 下層	土師器	口縫部	—	25%	全体に磨滅著しいため調整不明確。 外全体表面下に粒状の粗いハケ調整 が施される。奈良時代。反転復元。	
509	図74	-	平井遺跡 第1次	150	974	3東区 D6v3	—	341層 取上4付近下	土師器	口縫部	—	20%	外全体頭部以下に粒状の粗いハケ調整 が施される。奈良時代。反転復元。	
510	図74	-	平井遺跡 第1次	160	986 976	3東区 D6v3	—	341層 石密集帯の下 341層 取上5付近	土師器	口縫部～ 体部	—	15%	外全体頭部以下に粒状の粗いハケ調整 が施される。内面全体は斜め上上がりの 粗いハケ調整が施される。奈良時代。 反転復元。	
511	図74	-	平井遺跡 第1次	141	886 937	5東区 D6v5	—	341層 上層 セクション2 第1層	土師器	口縫部～ 体部	—	15%	全体に磨滅著しいため調整不明確。 奈良時代。反転復元。	
512	図74	-	平井遺跡 第1次	128	883	3東区 D6v4	—	341層 上層	土師器	製陶土器	体部～ 底部	—	60%	全体に磨滅著しいため調整不明確。 奈良時代。反転復元。
513	図74	-	平井遺跡 第1次	131	890	5東区 D6v6	—	341層 上層	土師器	製陶土器	口縫部	20%	全体に磨滅著しいため調整不明確。 奈良時代。反転復元。	
514	図74	87	平井遺跡 第1次	130	890	5東区 D6v6	—	341層 上層	土師器	製陶土器	口縫部～ 底部	75%	全体に磨滅著しい。平安時代前期か 後。	
515	図74	-	平井遺跡 第1次	132	920	3東区 D6v3	—	341層 上層	土師器	製陶土器	口縫部～ 底部	35%	全体に磨滅著しいため調整不明確。 奈良時代。一部反転復元。	
516	図74	-	平井遺跡 第1次	129	885	3東区 D6v4	—	341層 下層	土師器	製陶土器	口縫部～ 底部	46%	全体に磨滅著しいため調整不明確。2 点出点は同一個体と想われる。 奈良時代。一部反転復元。	
517	図74	-	平井遺跡 第1次	135	975	3東区 D6v3	—	341層 取上5	土師器	製陶土器	体部～ 底部	20%	全体に磨滅著しいため調整不明確。 奈良時代。一部反転復元。	
518	図74	-	平井遺跡 第1次	133	938	3東区 D6v3	—	341層 セクション3 第1層	土師器	製陶土器	体部～ 底部	20%	全体に磨滅著しいため調整不明確。 奈良時代。一部反転復元。	
519	図74	-	平井遺跡 第1次	134	971	3東区 D6v3	—	341層 取上2	土師器	製陶土器	底部	10%	全体に磨滅著しいため調整不明確。 奈良時代。	
520	図74	-	平井遺跡 第1次	136	883	3東区 D6v4	—	341層 上層	土師器	有孔土縫	—	50%	全体に磨滅著しいため調整不明確。 長さ(3cm)・幅1.4cm・厚み1.1cm・重 量(3g)。	
521	図74	-	平井遺跡 第1次	137	890	5東区 D6v6	—	341層 上層	土師器	有孔土縫	—	80%	全体に磨滅著しいため調整不明確。 長さ(6.7cm)・幅1.45cm・厚み1.5cm・重 量(15g)。	
522	図75	-	平井遺跡 第1次	146	938	3東区 D6v3	—	341層 セクション4 第1層	須恵器	天井部～ 口縫部	—	30%	外表面全体に剥離著しい。外側天井部 は開口へ取り、ロクロ回転方式(左回 り、陶色)。日式第6段階(田辺TK79型式)。 反転復元。	
523	図75	-	平井遺跡 第1次	142	890 887 884 578	5東区D6v6 3東区D6v3 D6v4 第4層	—	341層 341~342層 上層	須恵器	天井部～ 口縫部	—	20%	外側受け口部分自前自然輪廓付垂 する。ロクロ回転方式(右回り、陶熱 日式第3段階(田辺TK45型式)、反転 復元)。	
524	図75	-	平井遺跡 第1次	143	891	5東区 D6v6	—	341層 下層	須恵器	口縫部 高台部	—	12%	中央瓦質焼成がみられ、ロクロ回転方 向:右回り、陶熱N型式3段階(田辺TK53 型式)、反転復元。	
525	図75	-	平井遺跡 第1次	149	970	3東区 D6v3	—	341層 取上1付近下	須恵器	口縫部	—	20%	ロクロ回転方向:左回り、陶熱N型式3 段階(田辺TK51型式)、反転復元。	
526	図75	-	平井遺跡 第1次	145	939	3東区 D6v4	—	341層 セクション3 第1層	須恵器	口縫部	—	12%	口縫部表面から内面全体に自然輪廓く 付垂する。ロクロ回転方向:右回り、 陶熱N型式1段階(田辺MT21型式)、一部 反転復元。	
527	図75	87	平井遺跡 第1次	147	968	5東区 D6v5	—	341層 第1層	須恵器	頭部～ 体部	—	70%	内面頭部及び外側全体に自然輪廓く 付垂する。ロクロ回転方向:右回り、 陶熱N型式1段階(田辺MT21型式)、一部 反転復元。	
528	図75	-	平井遺跡 第1次	148	971	3東区 D6v3	—	341層 341層 取上2	須恵器	口縫部 底部 (高台部)	—	95%	ロクロ回転方向:右回り、陶熱N型式1 段階(田辺MT21型式)、一部反転復元。	
529	図75	-	平井遺跡 第1次	144	973 904 575	3東区D6v6 3東区D6v5 3東区D6v5	—	341層 341層 上層石密集	須恵器	口縫部～ 肩部	—	14%	ロクロ回転方向:右回り、型式不明。 奈良時代か、反転復元。	

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 場所	写真 版図	遺物名 調査 回数	実測 寸法 容積 等級 番号	三土物 等級 番号	地区 取上区画	遺構面 堆積層位	遺物番号 標記 直前後位	遺物種類	基壇	部位	残存率	備考
530 国75	-	平井遺跡 第1次	158	944	3 東区 D6v2	—	342溝 セクション5 第1層	土師器	高	脚柱部	70%	全体に磨滅をさむため調整不正確。脚柱頭10面の面取り有り。奈良時代	
531 国75	-	平井遺跡 第1次	156	882 638	3 東区 D6v4 D6v4	第4層	342溝 上層	須恵器	坏	口縁部～ 高台部	25%	外面部縁部から体部にかけて自然な施薄く付せる。ロクロ回転方向：左回り。内面部縁部から体部にかけて施薄く付せる。ロクロ回転方向：左回り。脚柱頭3面の面取り有り。奈良時代、反転復元。	
532 国75	-	平井遺跡 第1次	155	917	3 東区 D6v3	—	342溝 上層	須恵器	坏	口縁部～ 高台部	15%	底面底面は回転へきり、ロクロ回転方向：右回り。脚柱頭3面の面取り有り。奈良時代、反転復元。	
533 国75	-	平井遺跡 第1次	159	884 904 938	3 東区 D6v4 3 東区 D6v4 3 東区 D6v3	—	341～342溝 上層 341溝上層右 肩 341溝セクション4-1 層	須恵器	壺	体部～ 高台部	33%	内面部に自然な施薄く付せる。ロクロ回転方向：左回り。奈良時代、反転復元。	
534 国75	-	平井遺跡 第1次	173	956	5 東区 D6v6	—	352溝	土師器	坏	口縁部～ 体部	13%	全体にやや磨滅をさむため調整不正確。奈良時代、反転復元。	
535 国75	-	平井遺跡 第1次	166	956	5 東区 D6v6	—	352溝	土師器	皿	口縁部～ 底部	12%	内面部縁部のため調整不正確。奈良時代、反転復元。	
536 国75	-	平井遺跡 第1次	171	956	5 東区 D6v6	—	352溝	土師器	皿	口縁部～ 底部	18%	外面部縁部は弱いへきりで施薄く付せる。奈良時代、反転復元。	
537 国75	-	平井遺跡 第1次	169	956	5 東区 D6v6	—	352溝	土師器	皿	口縁部～ 底部	5%	内面部縁部は弱いへきりで施薄く付せる。奈良時代、反転復元。	
538 国75	-	平井遺跡 第1次	162	956	5 東区 D6v6	—	352溝	土師器	皿	口縁部～ 底部	18%	全体にやや磨滅をさむため調整不正確。奈良時代、反転復元。	
539 国75	-	平井遺跡 第1次	174	956	5 東区 D6v6	—	352溝	土師器	坏	底部	20%	全体に磨滅をさむため調整不正確。奈良時代、反転復元。	
540 国75	-	平井遺跡 第1次	164	956 954	5 東区 D6v6	—	352溝 302上机	土師器	壺	口縁部～ 肩部	28%	全体に磨滅をさむため調整不正確。外面部縁部以下に施薄く付せる。外面部縁部以下に施薄く付せる。内面部縁部から体部にかけて施薄く付せる。内面部縁部から体部にかけて施薄く付せる。奈良時代、反転復元。	
541 国75	-	平井遺跡 第1次	163	956954	5 東区 D6v6	—	352溝 302上机	土師器	壺	口縁部～ 体部	15%	外面部縁部及び内面部にへきり調整が施されたる磨滅のため不正確。奈良時代、反転復元。	
542 国75	-	平井遺跡 第1次	172	956	5 東区 D6v6	—	352溝	土師器	甕状土罐	—	100%	全体に磨滅をさむため調整不正確。長さ6.3cm・幅1.6cm・深さ1.5cm・重量13g。	
543 国75	87	平井遺跡 第1次	167	1002 956	5 東区 D6v6	—	352溝	須恵器	壺	口縁部～ 底部	20%	ロクロ回転方向：右回り。陶瓶N型式第1段階(田辺TK7型式)。一部反転復元。	
544 国75	87	平井遺跡 第1次	165	956 979	5 東区 D6v6	—	352溝 352溝 セクション	須恵器	壺	嘴み部～ 底部	60%	外面部天井部から口縁部にかけて自然な施薄く付せる。陶瓶N型式第4段階(田辺TK7型式)。	
545 国75	-	平井遺跡 第1次	170	956	5 東区 D6v6	—	352溝	須恵器	壺	天井部～ 底部	45%	ロクロ回転方向：右回り。陶瓶N型式第1段階(田辺TK7型式)。反転復元。	
546 国75	87	平井遺跡 第1次	215	1766 1768	3 東区 E5v14	—	665溝	土師器	皿	口縁部～ 底部	90%	全体に削除・磨滅してさむため調整不正確。奈良時代。	
547 国75	-	平井遺跡 第1次	216	1768	3 東区 E5v14	—	665溝	須恵器	壺	口縁部～ 底部	25%	周間に自然な施薄く付せる。周部の盛り出しをさむ。奈良時代か、反転復元。	
548 国75	-	平井遺跡 第1次	223	1776	3 東区 E5v18	—	667溝	土師器	壺	口縁部～ 肩部	10%	外面部縁部から体部にかけて施薄く付せる。内面部縁部から体部にかけて施薄く付せる。奈良時代か、反転復元。	
549 国75	-	平井遺跡 第1次	218	1771	3 東区 E5v18	—	667溝 セクション	土師器	壺	口縁部～ 肩部	10%	全体に剥離・磨滅してさむため調整不正確。奈良時代、反転復元。	
550 国75	-	平井遺跡 第1次	224	1773 1771	3 東区 E5v18	—	667溝下端 667溝 セクション	土師器	壺	火口 袖部	—	全体に磨滅をさむため調整不正確。奈良時代、複数実測。	
551 国75	-	平井遺跡 第1次	221	1771	3 東区 E5v18	—	667溝	須恵器	壺	口縁部	5%	ロクロ回転方向：右回り。陶瓶M型式第2段階(田辺TK4型式か)。反転復元。	
552 国75	-	平井遺跡 第1次	220	1773	3 東区 E5v18	—	667溝	須恵器	壺	口縁部	5%	ロクロ回転方向：左回り。陶瓶M型式第2段階(田辺TK4型式か)。反転復元。	
553 国75	-	平井遺跡 第1次	179	950	5 東区 D6v2	—	353落ち込み	土師器	壺	嘴み部～ 大井部	25%	全体に剥離・磨滅してさむため調整不正確。奈良時代、一部反転復元。	
554 国75	-	平井遺跡 第1次	176	950	5 東区 D6v2	—	353落ち込み	土師器	皿	口縁部～ 高台部	7%	全体に磨滅をさむため調整不正確。奈良時代、反転復元。	
555 国75	-	平井遺跡 第1次	177	950	5 東区 D6v2	—	353落ち込み	土師器	壺	口縁部～ 体部	12%	外面部縁部以下に施薄く付せる。外面部縁部以下に施薄く付せる。内面部縁部から体部にかけて施薄く付せる。内面部縁部から体部にかけて施薄く付せる。奈良時代か、反転復元。	
556 国75	-	平井遺跡 第1次	226	797	3 東区 D6v2	—	落ち込み	土師器	堆塗土器	部	100%	全体に磨滅をさむため調整不正確。長さ6.3cm・幅1.6cm・深さ1.5cm。	
557 国75	-	平井遺跡 第1次	227	948	5 東区 D6v1	—	落ち込み	土師器	有孔土罐	—	100%	全体に磨滅をさむため調整不正確。長さ6.3cm・幅1.6cm・深さ1.5cm。	
558 国75	-	平井遺跡 第1次	90	618	4 北区 E5p11	—	229 溜积	土師器	皿	口縁部～ 体部	14%	施薄くさむため調整不正確。内面部に何らかの施薄くさむ。奈良時代か、反転復元。	
559 国75	-	平井遺跡 第1次	91	618	4 北区 E5p11	—	229 溜积	土師器	皿	口縁部～ 体部	10%	全体に盛り込み。平成時代後期。反転復元。組合せたため調査不正確。	
560 国75	88	平井遺跡 第1次	87	647	4 北区 E5p11	—	229 溜积下層	瓦器	壺	口縁部～ 底部	85%	内面部にヒミガキ、浸込みに直槽子状の施薄くさむ。平安時代後期。	

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 年 代	写真 版 面	遺物名 調査次数	実測遺物 番号	三工種 番号	地区 取上区画	遺構面 堆積層位	遺構番号 堆積 面番号	遺物種類	基部	部位	残存率	備考
561	國76	88	平井遺跡 第1次	88	647 682 683	4北区 E5p11	—	229 瀬津下層 229-2 229中-2	瓦器	椭	口縁部～ 底部(高台)	55%	内面にヘラミガキ留、見込に棒子状の 鉛文有り、平安時代後期、反転復元
562	國76	88	平井遺跡 第1次	89	681	4北区 E5p11	—	229 瀬津上層	瓦器	椭	口縁部～ 底部(高台)	80%	内面にヘラミガキ留、見込に堆縁状の 鉛文有り、平安時代後期
563	國76	88	平井遺跡 第1次	86	618	4北区 E5p9	—	229中層	青白磁	合子身	口縁部～ 底部	90%	外側口縁部の立ち上がりと底面部には 鉛文有り、平安時代後期
564	國76	—	平井遺跡 第1次	181	1209	4北区 E5p9	—	426上机	白磁	椭	口縁部～ 体部	12%	内面に細かい入模で多数有り、 平安時代後期、反転復元
565	國76	—	平井遺跡 第1次	228	295	2北区 E5u6	—	上層構 石密集帯	土師器	小口	口縁部～ 底部	40%	全体に磨滅していいため調整不正確、 平安時代か、反転復元
566	國76	—	平井遺跡 第1次	230	295	2北区 E5u6	—	上層構 石密集帯	瓦器	椭	口縁部～ 体部	40%	口縁部に有り、全体に磨滅していいた め調整不正確、平安時代後期、反転復元。 口縁部の茎のため口は不明確
567	國76	—	平井遺跡 第1次	229	295	2北区 E5u6	—	上層構 石密集帯	無釉陶 器	撲鉢	口縁部～ 体部	10%	外側口縁部の直線に直す。10YR 7/4にぶ る黄色地が底面に認める。乗岡中世6期 (開成V期)か、反転復元
568	國76	—	平井遺跡 第1次	232	295	2北区 E5u6	—	上層構 石密集帯	土師器	曾伏土罐	—	90%	全体に磨滅していいため調整不正確、長 さ48cm・幅5cm・厚み5.5mm・重 量10g、平安時代後期か
569	國76	—	平井遺跡 第1次	231	295	2北区 E5u6	—	上層構 石密集帯	瓦	丸瓦	玉縁部～ 脚部	—	団は玉縁部から脚部にかけて布目 有り、凸面は目タマ付し、後にナデ消 され、錆跡有り
570	國76	88	平井遺跡 第1次	99	1088	3北区 E5i16	—	292上机 292土内 擾乱	瓦器	椭	口縁部～ 底部(高台)	97%	口縁部のみ著しい、内面に細かいヘラ ミガキ、見込にジグザグの鉛文有 り、平安時代後期
571	國76	—	平井遺跡 第1次	101	1088	3北区 E5i16	—	292下坑 292土内 擾乱	瓦器	小口	口縁部～ 底部	14%	口縁部のみ著しい、内面にジグザグの 鉛文有り、平安時代後期、反転復元、至 みのため口は不明確
572	國76	88	平井遺跡 第1次	64	257	2北区 E5r7	—	062小穴	土師器	小口	口縁部～ 底部	90%	見込に「十字彫痕」の墨書き有り、室町 時代。
573	國76	88	平井遺跡 第1次	57	589	2北区 E5w5	—	0299戸 上層	土師器	小口	口縁部～ 底部	95%	見込から内面立ち上がりにかけてハケ 調整が施される。室町時代
574	國76	—	平井遺跡 第1次	56	589	2北区 E5w5	—	0299戸 上層	土師器	小口	口縁部～ 底部	33%	見込から内面立ち上がりにかけてハケ 調整が施される。室町時代、反転復元
575	國76	—	平井遺跡 第1次	55	589	2北区 E5w5	—	0299戸 上層	土師器	小口	口縁部～ 底部	73%	内面磨滅のため調整不正確、室町時代
576	國76	—	平井遺跡 第1次	54	589	2北区 E5w5	—	0299戸 上層	土師器	皿	口縁部～ 底部	35%	見込から内面立ち上がりにかけてハケ 調整が施される。室町時代、反転復元
577	國76	88	平井遺跡 第1次	58	589	2北区 E5w5	—	0299戸 上層	瓦	密蓋か	体部	20%	外表面にハニカミを施す。室町時代、 反転復元、上部で帯んじてくび接形
578	國76	—	平井遺跡 第1次	52	188	2北区 E5w5	—	0299戸 上層	土師器	皿	口縁部～ 底部	50%	見込にハケ調整が施される。室町時代
579	國76	—	平井遺跡 第1次	53	189	2北区 E5w5	—	0299戸 井戸内	土師器	皿	口縁部～ 底部	15%	見込にハケ調整が施される。室町時代、 反転復元
580	國76	88	平井遺跡 第1次	72	399	4北区 E5o10	—	136戸井 常滑	無釉陶 器	皿	口縁部～ 底部	5%	外表面全体に自然釉を付着する。室町 時代中期か、反転復元
581	國76	—	平井遺跡 第1次	74	412	4北区 E5o10	—	137戸井 常滑	無釉陶 器	撲鉢	体部～ 底部	15%	埋込部は本半周、器面の外側面に 黒褐色のN/G色を呈する。室町時代 か、反転復元
582	國76	—	平井遺跡 第1次	83	436	2北区 E5w7	—	206小穴	土師器	皿	口縁部～ 底部	20%	焼成時代後期か、反転復元
583	國76	—	平井遺跡 第1次	82	436	2北区 E5w7	—	206小穴	土師器	小口	口縁部～ 底部	65%	焼成時代後期か、反転復元
584	國76	—	平井遺跡 第1次	65	280	2北区 E5s7	—	081小穴	土師器	小口	口縁部～ 底部	40%	見込にハケ調整が施される。室町時代 か、一部反転復元
585	國76	88	平井遺跡 第1次	212	1460	4東区 E5r12	—	583溝	土師器	小口	口縁部～ 底部	95%	見込にハニカミを施す。内面立ち上がり にかけてハニカミテテナリ。室町時代によ り引き継がれる。室町時代
586	國77	89	平井遺跡 第1次	366	469	2北区 E5r8	第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部～ 底部	60%	全体に磨滅していいため調整不正確、 口縁部に横接状態で底張付、内面に脚部上 部に繩状排列の鉛文有り。弥生時代中期紀 伊豆-3様式、反転復元
587	國77	89	平井遺跡 第1次	335	151	1北区 F5z1	第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部～ 底部	15%	全体に刻痕・磨滅していいため調整不 正確、弥生時代中期紀伊豆-1様式、反転復 元
588	國77	—	平井遺跡 第1次	409	557	4北区 E5g9	第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部～ 底部	33%	全体に刻痕・磨滅していいため調整不 正確、弥生時代中期紀伊豆-1様式、反転復 元
589	國77	—	平井遺跡 第1次	378	1185	2北区 E5y9	第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部～ 底部	25%	全体に刻痕・磨滅していいため調整不 正確、弥生時代中期紀伊豆-1様式、反転復 元
590	國77	89	平井遺跡 第1次	380	1202	2北区 F5c6	第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部～ 底部	33%	全体に磨滅していいため調整不正確、 外側底部に保有していいため調整不正確、 口縁部に横接状態で底張付、内面に脚部上 部に繩状排列の鉛文有り。弥生時代中期紀 伊豆-3様式、反転復元
591	國77	—	平井遺跡 第1次	374	1155	2南区 F5e7	第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部～ 底部	15%	全体に磨滅していいため調整不正確、 口縁部に横接状態で底張付、内面に脚部上 部に繩状排列の鉛文有り。弥生時代中期紀 伊豆-3様式、反転復元
592	國77	—	平井遺跡 第1次	346	299	2北区 E5e4	第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	13%	全体に刻痕・磨滅していいため調整不 正確、弥生時代中期紀伊豆-3様式、反転復 元
593	國77	—	平井遺跡 第1次	414	1584	4北区 E5e15	第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	10%	全体に刻痕・磨滅していいため調整不 正確、弥生時代中期紀伊豆-1様式、反転復 元

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 年 代	写真 版 面	遺物名 調査次数	実測遺物 登録番号	三次工藝 登録番号	地区 取上区画	遺構面 堆積層位	遺構番号 堆積 層位	遺物種類	基部	部位	残存率	備考
594 国77	-	平井遺跡 第1次	379	1257	2北区 F5c8	第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	20%	全体に削減著しいため調整不正確。内 面底部は堆積層位点が漏れるが層 間にめ不規則。弥生時代中期紀伊Ⅲ- 1様式。反転復元。	
595 国77	-	平井遺跡 第1次	375	1155	2北区 F5c7	第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	18%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅲ-1様式。反転復元。	
596 国77	-	平井遺跡 第1次	333	151	1北区 F5c2	第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	14%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅲ-1様式。反転復元。	
597 国77	89	平井遺跡 第1次	369	472 360 324	2北区E5v7 2北区E5v6 2北区E5v5	第4層 遺構付む 第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部～ 頸部	45%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅲ-1様式。反転復元。	
598 国77	89	平井遺跡 第1次	376	1155	2北区 F5b7	第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	25%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅲ-1様式。反転復元。	
599 国77	-	平井遺跡 第1次	362	360	2北区 E5v7	第4層 遺構付む	—	弥生土器	広口壺	口縁部	10%	全体に削減著しいため調整不正確。口 縁部は堆積層位点が漏れるが層 間にめ不規則。弥生時代中期紀伊Ⅲ-1 様式。反転復元。	
600 国77	89	平井遺跡 第1次	413	1584	4南区 E5c15	第4層	—	弥生土器	直口壺	口縁部	17%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅲ-1様式。反転復元。	
601 国77	-	平井遺跡 第1次	356	323	2北区 E5v6	第4層	—	弥生土器	直口壺	口縁部	10%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅲ-1様式。反転復元。	
602 国77	89	平井遺跡 第1次	411	1159	4南区 E5c10	第4層	—	弥生土器	直口壺	口縁部	18%	全体に削減著しいため調整不正確。外 面底部は堆積層位点が漏れるが層 間にめ不規則。弥生時代中期紀伊Ⅲ-1 様式。反転復元。	
603 国77	89	平井遺跡 第1次	358	340	2北区 E5v6	第4層	—	弥生土器	紀伊彫畫	口縁部～ 体部	20%	全体に削減著しいため調整不正確。外 面底部は全体のハラケで整形が施さ れる。弥生時代中期紀伊Ⅲ-1様式。反 転復元。	
604 国77	-	平井遺跡 第1次	339	297	2北区 E5v5	第4層	—	弥生土器	紀伊彫畫	口縁部～ 体部	18%	全体に削減著しいため調整不正確。外 面底部のハラケで整形の方向不明。 反転復元。	
605 国77	-	平井遺跡 第1次	365	420	2北区 E5v6	第4層	—	弥生土器	壺	口縁部	4%	全体に削減著しいため調整不正確。外 面底部は全体のハラケで整形が施さ れる。弥生時代中期紀伊Ⅲ-1様式。反 転復元。	
606 国77	-	平井遺跡 第1次	363	360	2北区 E5v7	第4層 遺構付む	—	弥生土器	紀伊彫畫	底部	98%	全体に削減著しいため調整不正確。外 面底部は全体のハラケで整形が施さ れる。弥生時代中期紀伊Ⅲ-1様式。一部 反転復元。	
607 国77	-	平井遺跡 第1次	360	359	2北区 E5v6	第4層 遺構付む	—	弥生土器	紀伊彫畫	底部	50%	全体に削減著しいため調整不正確。外 面底部は堆積層位点が漏れるが層 間にめ不規則。弥生時代中期紀伊Ⅲ-1 様式。反転復元。	
608 国77	-	平井遺跡 第1次	368	472	2北区 E5v7	第4層	—	弥生土器	無縫唇	口縁部	20%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅲ-1様式。反転復元。	
609 国77	-	平井遺跡 第1次	334	151	1北区 F5c2	第4層	—	弥生土器	脚付手付鉢	鉢部	12%	全体に削減著しいため調整不正確。外 面底部は堆積層位点が漏れるが層 間にめ不規則。弥生時代中期紀伊Ⅲ-3 様式。反転復元。	
610 国78	-	平井遺跡 第1次	361	359	2北区 E5v6	第4層 遺構付む	—	弥生土器	壺	口縁部～ 体部	25%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅲ-1様式。反転復元。	
611 国78	-	平井遺跡 第1次	417	1713	4南区 E5a11	第4層	—	弥生土器	壺	口縁部～ 体部	10%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅲ-1様式。反転復元。	
612 国78	89	平井遺跡 第1次	382	1202	2北区 F5c6	第4層	—	弥生土器	壺	口縁部～ 体部	15%	全体に削減著しいため調整不正確。内 外底部は斜位のハラケ調節が施さ れるが漏れるため不規則。弥生時代中 期紀伊Ⅳ-1様式。反転復元。	
613 国78	-	平井遺跡 第1次	345	299	2北区 E5w4	第4層	—	弥生土器	壺	口縁部	5%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅳ-1様式。反転復元。 周辺たる口縁不規則。	
614 国78	-	平井遺跡 第1次	412	1583	4南区 E5p15	第4層	—	弥生土器	壺环	壺部	8%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅳ-1様式。反転復元。	
615 国78	-	平井遺跡 第1次	344	299	2北区 E5w4	第4層	—	弥生土器	壺环	壺部	10%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅳ-1様式。反転復元。	
616 国78	-	平井遺跡 第1次	355	314	2北区 E5x7	第4層	—	弥生土器	壺环	壺部	15%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅳ-1様式。反転復元。	
617 国78	-	平井遺跡 第1次	342	299	2北区 E5w4	第4層	—	弥生土器	壺环	壺部	12%	全体に削減著しいため調整不正確。弥 生時代中期紀伊Ⅳ-1様式。反転復元。	
618 国78	-	平井遺跡 第1次	370	590	2北区 E5w4	第5層	—	弥生土器	壺环 (鉢)	壺部	45%	外壺底から底部にかけて裏底有り。 全体に削減著しいため調整不正確。 弥生時代中期紀伊Ⅳ-1様式。反転復元。	
619 国78	-	平井遺跡 第1次	381	1253	2北区 F5a10	第4層	—	弥生土器	壺环	壺部～ 脚部	52%	全体に削減著しいため調整不正確。 外面底部に裏底有り。弥生時代中 期紀伊Ⅳ-1様式。一部反転復元。	
620 国78	-	平井遺跡 第1次	341	298	2北区 E5w4	第4層	—	弥生土器	壺环	脚部	75%	外面全体に削減著しいため調整不正確。 内面脚部及び鉢部は色変化する。弥 生時代中期紀伊Ⅳ-1様式。一部反転復 元。	
621 国78	-	平井遺跡 第1次	350	309 306	2北区E5v7 2北区E5v7	第4層 第3層	—	弥生土器	脚部	脚部	50%	全体に削減著しいため調整不正確。 弥生時代中期紀伊Ⅳ-1様式。反転復 元。	
622 国78	-	平井遺跡 第1次	373	1143	2北区 F5c7	第4層	—	弥生土器	鉢	口縁部	10%	全体に削減著しいため調整不正確。 周辺底部に裏底有り。弥生時代中 期紀伊Ⅳ-1様式。一部反転復元。	
623 国78	-	平井遺跡 第1次	348	348 294	2北区E5v5 2北区E5v5	第4層 第4層	—	弥生土器	脚付鉢	脚部	40%	全体に削減著しいため調整不正確。 外面全体に裏底有り。弥生時代中 期紀伊Ⅳ-2様式。一部反転復元。	

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	推定 年号	遺物名 現状	実測値 容積 容積 数値	三輪土器 等級 等級 番号	地区 取上区画	遺構面 種類 層位	遺物種類	器種	部位	残存率	備考	
624	国78	平井遺跡 第1次	372	1139	2東区 F5b7	第4層	——	弥生土器	器台	脚部	18%	全体に磨滅をいため調整不正確、非生時代中期伊賀V-1様式、反転復元
625	国78	平井遺跡 第1次	340	299	2東区 E5a4	第4層	——	弥生土器	器台	脚部	20%	全体に磨滅をいため調整不正確、透かし彫り復元
626	国78	平井遺跡 第1次	371	1135	2東区 E5y10	第4層	——	弥生土器	高环	脚柱部	55%	全体に磨滅をいため調整不正確、非生時代中期伊賀V-1様式、一部反転復元
627	国78	89 平井遺跡 第1次	332	117	1北区 F5d1	第4層	——	弥生土器	広口壺	口縁部～ 颈部	25%	全体に磨滅をいため調整不正確、非生時代後期伊賀V-4様式、反転復元
628	国78	平井遺跡 第1次	343	299 67	2北区 E5w4 2北区 E5y4	第4層 第5層	——	弥生土器	広口壺	口縁部	20%	全体に磨滅をいため調整不正確、非生時代後期伊賀V-1様式、反転復元
629	国78	平井遺跡 第1次	415	1699	4東区 E5w11	第4層	——	弥生土器	広口壺	口縁部	25%	全体に磨滅をいため調整不正確、非生時代後期伊賀V-5様式、反転復元
630	国78	平井遺跡 第1次	377	1156 1165	2南区 F5b8 2南区 F5a7	第4層 第5層	——	弥生土器	小型壺	口縁部～ 体部	17%	全体に磨滅をいため調整不正確、内部には持存部位の細いケ裂調整が施される。庄内式行南古式。反転復元
631	国78	89 平井遺跡 第1次	410	685 654	4北区 E5m2 4北区 E5m12	196柱穴付近 第4層より下 (建物1)下層	196柱穴 (建物1)下層	弥生土器	高环	口縁部～ 脚部	65%	全体に磨滅をいため調整不正確、脚部内面に透かし彫りの痕跡が遺存する。弥生時代後期伊賀V-1様式、一部反転復元
632	国78	平井遺跡 第1次	338	297	2北区 E5v5	第4層	——	弥生土器	高环	脚部	90%	全体に剥離、磨滅をいため調整不明確、非生時代後期伊賀V-3様式、一部反転復元
633	国78	平井遺跡 第1次	351	311	2北区 E5v4	第4層	——	弥生土器	——	脚部	20%	全体に磨滅をいため調整不正確、脚部内面から形態から見て埋入の可能性が高い。弥生時代後期後半、反転復元
634	国78	平井遺跡 第1次	416	1710	4東区 E5e16	第4層	——	弥生土器	高环	脚部	65%	全体に磨滅をいため調整不正確、非生時代後期伊賀V-5様式、反転復元
635	国79	平井遺跡 第1次	384	581	3東区 D6e3	第4層	——	土師器	环	口縁部～ 底部	10%	全体に磨滅をいため調整不正確、非生時代、反転復元、絹片のため口径不明確
636	国79	90 平井遺跡 第1次	406	827	3東区 D6u1	第4層	——	土師器	环	口縁部～ 底部	60%	全体に磨滅をいため調整不正確、底部や歪つた表面に上から埋立位の粗いハラキリ整形が施され、奈良時代
637	国79	平井遺跡 第1次	387	675	3東区 D6e5	第4層	——	土師器	壺	口縁部～ 体部	14%	全体に磨滅をいため調整不正確、外側面部以下埋立位の粗いハラキリ整形が施される。奈良時代、反転復元
638	国79	平井遺跡 第1次	400	675	3東区 D6e6	第4層	——	土師器	壺	口縁部	15%	全体に剥離、磨滅をいため調整不明確、外側面部以下埋立位の粗いハラキリ整形が施される。奈良時代、反転復元
639	国79	平井遺跡 第1次	421	698	5東区 D6w2	第4層	——	土師器	壺	口縁部～ 体部	5%	全体に磨滅をいため調整不正確、外側面部に剥離あり、奈良時代、反転復元
640	国79	平井遺跡 第1次	385	535	3東区 D6v2	第4層	——	土師器	壺	口縁部～ 肩部	12%	全体に磨滅をいため調整不正確、外側面部以下埋立位の粗いハラキリ整形が施される。奈良時代、反転復元
641	国79	90 平井遺跡 第1次	399	875	3東区 D5v24	第4層	——	土師器	壺	口縁部～ 体部	25%	全体に剥離、磨滅をいため調整不明確、奈良時代、反転復元
642	国79	平井遺跡 第1次	419	689	5東区 D6v5	第4層	——	土師器	堆塗土器	口縁部～ 体部	25%	全体に磨滅をいため調整不正確、奈良時代、反転復元
643	国79	平井遺跡 第1次	398	491	3東区 D6e2	第4層	——	土師器	堆塗土器	口縁部	55%	全体に磨滅をいため調整不正確、奈良時代、反転復元、全體に歪め口徑不明確
644	国79	平井遺跡 第1次	396	628	3東区 D6u3	第4層	——	土師器	堆塗土器	口縁部	20%	全体に磨滅をいため調整不正確、奈良時代、反転復元
645	国79	平井遺跡 第1次	393	491	3東区 D6e2	第4層	——	土師器	堆塗土器	口縁部～ 体部	12%	全体に磨滅をいため調整不正確、外側面部に歪み、奈良時代、反転復元
646	国79	平井遺跡 第1次	420	699	5東区 D6e4	第4層	——	土師器	堆塗土器	底部	40%	全体に磨滅をいため調整不正確、奈良時代、一部反転復元
647	国79	平井遺跡 第1次	394	531	3東区 D6e1	第4層	——	土師器	堆塗土器	底部	53%	全体に磨滅をいため調整不正確、奈良時代、一部反転復元
648	国79	平井遺跡 第1次	395	532	3東区 D6e2	第4層	——	土師器	堆塗土器	底部	52%	全体に磨滅をいため調整不正確、奈良時代、一部反転復元
649	国79	平井遺跡 第1次	392	581	3東区 D6e3	第4層	——	土師器	曾呂土罐	——	70%	全体に磨滅をいため調整不正確、長さ4.9cm・幅1.3cm・高さ11cm、奈良時代不明
650	国79	平井遺跡 第1次	390	532	3東区 D6e2	第4層	——	土師器	曾呂土罐	——	50%	全体に磨滅をいため調整不正確、長さ7.3cm・径2.9×2.0cm・高さ33cm、奈良時代
651	国79	平井遺跡 第1次	391	578	3東区 D6e4	第4層	——	土師器	有孔土罐	——	98%	全体に磨滅をいため調整不正確、長さ8.1cm・幅1.3~1.8cm・厚み1.3cm・重量14g、奈良時代
652	国79	平井遺跡 第1次	408	837	3東区 D6e2	第4層	——	土師器	有孔土罐	——	85%	全体に磨滅をいため調整不正確、長さ8.65cm・幅1.5cm・厚み1.4cm・重量11g、奈良時代
653	国79	平井遺跡 第1次	405	795	3東区 D6e2	第4層	——	土師器	有孔土罐	——	80%	全体に磨滅をいため調整不正確、長さ8.65cm・幅1.2cm・厚み1.5cm・重量9g、奈良時代
654	国79	平井遺跡 第1次	389	527	3東区 D6v25	第4層	——	土師器	有孔土罐	——	80%	全体に磨滅をいため調整不正確、長さ8.2cm・幅1.2cm・厚み1.5cm・重量8g、奈良時代から
655	国79	平井遺跡 第1次	423	859	5東区 D6e4	第4層	——	須恵器	环	口縁部～ 底部	20%	全体に磨滅をいため調整不正確、口径方向：左回り、胸高1.5cm・底深1.5cm・重量15g、G2TK50型式、反転復元

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 場所	写真 版図	遺物名 調査次数	実測遺物 登録番号	三工法 登録番号	地区 取上区画	遺構面 積積算位	遺構番号・種類 遺構面積位	遺物種類	基盤	部位	残存率	備考
656 国79	-	平井遺跡 第1次	401	899	3東区 D6e1	第4層	—	須恵器	坏	口縁部～ 底部	30%	底部底面は回転へうり、ロクロ回転 方式：右回り、陶器Ⅱ型式2段階(田辺 KM146型式)、口縁部の姿をさした み口縁不規則。	
657 国79	90	平井遺跡 第1次	422	699	5東区 D6e4	第4層	—	須恵器	坏	口縁部～ 高台部	38%	底部底面は回転へうり、「×」字のへうら足付有り、ロクロ回 転方式：右回り、陶器Ⅱ型式2段階(田辺 KM16型式)、反転復元。	
658 国79	90	平井遺跡 第1次	383	578	3東区 D6e4	第4層	—	須恵器	坏	口縁部～ 底部	50%	側面全体はやや軟質化。ロクロ回転方 向：右回り、陶器Ⅱ型式2段階(田辺 KM16型式)、一部反転復元。	
659 国79	-	平井遺跡 第1次	386	582	3東区 D6e4	第4層	—	須恵器	坏	口縁部～ 高台部	25%	外腹全体に自然縮れく付着するも、ロク ロクロ回転方向：左回り、陶器Ⅳ型式第2 段階(田辺TK16型式)、反転復元。	
660 国79	-	平井遺跡 第1次	388	582	3東区 D6e4	第4層	—	須恵器	坏	体部～ 高台部	18%	ロクロ回転方向：左回り、陶器Ⅳ型式 第2段階(田辺TK3型式)、反転復元。	
661 国79	-	平井遺跡 第1次	404	772	3東区 D5e24	第4層	—	須恵器	畫	縹印部～ 縁部	12%	外腹全体に自然縮れく付着するも、ロク ロクロ回転方向：左回り、陶器Ⅳ型式第2 段階(田辺TK46型式)、反転復元。	
662 国79	-	平井遺跡 第1次	407	796	3東区 D6e3	第4層	—	須恵器	畫	天井部～ 縁部	10%	ロクロ回転方向：右回り、陶器Ⅳ型式 第2段階(田辺TK21型式)、反転復元。	
663 国79	-	平井遺跡 第1次	402	875	3東区 D5e24	第4層	—	須恵器	畫	口縁部	12%	外腹全体に自然縮れく付着するも、ロク ロクロ回転方向：左回り、陶器Ⅳ型式第2 段階(田辺TK46型式)、反転復元。	
664 国79	90	平井遺跡 第1次	418	688	4東区 D6v3	第4層	—	須恵器	畫	縹印部～ 縁部	35%	ロクロ回転方向：左回り、陶器Ⅳ型式 第2段階(田辺TK16型式)、反転復元。	
665 国79	90	平井遺跡 第1次	403	676	3東区 D6e5	第4層	—	須恵器	畫	縹印部～ 縁部	25%	側面遺存やや軟質化する。全腹に難滅 著しいため調整不正確。ロクロ回転方 向：右回り、陶器Ⅳ型式第2段階(田辺 KM16型式)、一部反転復元。	
666 国79	90	平井遺跡 第1次	397	873	3東区 D6e24	第4層	—	須恵器	畫	体部～ 底部	53%	内腹体部下部及び外腹体部上部に自然 縮れく付着するも、ロクロ回転方向：左 回りか、陶器Ⅳ型式第1段階(田辺TM21 型式)、一部反転復元。	
667 国79	-	平井遺跡 第1次	354	313	2北区 E5w6	第4層	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	25%	全体にやや難滅著しいため調整不正確。 縫合時初期、反転復元。	
668 国79	90	平井遺跡 第1次	359	341	2北区 E5v6	遺構C	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	45%	全体に難滅著しくみたため調整不正確。縫合 時中期、反転復元。	
669 国79	-	平井遺跡 第1次	353	313	2北区 E5w6	第4層	—	土師器	(小型鉢)	口縁部～ 底部	7%	側面遺存は良好、内部見込みから口縁部 立上部がりにかけた事で難滅しないハケ 跡を確認する。縫合時初期か、反 転復元。	
670 国79	90	平井遺跡 第1次	367	470	2北区 E5w6	第4層	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	33%	側面遺存は良好、外腹側部に粘土接合 部有り、右回りか、反転復元。	
671 国79	-	平井遺跡 第1次	352	313	2北区 E5w6	第4層	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	30%	全体にやや難滅著しいため調整不正確。 縫合時初期か、反転復元。	
672 国79	90	平井遺跡 第1次	364	419	2北区 E5y5	第4層	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	45%	全体にやや難滅著しいため調整不正確。 縫合時初期、反転復元。	
673 国79	90	平井遺跡 第1次	347	306	2北区 E5u7	第4層	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	75%	全体に難滅著しいため調整不正確。 縫合時初期が、反転復元。	
674 国79	90	平井遺跡 第1次	357	328	2北区 E5v7	第4層	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	82%	全体に難滅著しいため調整不正確。見 落時後期。	
675 国79	-	平井遺跡 第1次	349	309	2北区 E5v7	第4層	—	須恵器	理鉢	口縁部	—	側面遺存はやや軟質化。東播磨式第3期 第1段階、断面式実測	
676 国79	-	平井遺跡 第1次	337	294	2北区 E5u5	第4層	—	鹿児島系 青磁	碗	体部～ 底部	50%	外腹体部下部に難滅り有り、底部底面 は反転。	
677 国80	-	平井遺跡 第1次	310	1231	4東区 E5t11	第3層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	15%	全体に難滅著しいため調整不正確。非 生時代中期伊賀1-1式、反転復元。	
678 国80	-	平井遺跡 第1次	258	112	1北区 F5g2	第3層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	15%	全体に難滅著しいため調整不正確。非 生時代中期伊賀1-1式、反転復元。	
679 国80	-	平井遺跡 第1次	309	1231	4東区 E5t11	第3層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	25%	全体に難滅著しいため調整不正確。非 生時代中期伊賀1-1式、反転復元。	
680 国80	-	平井遺跡 第1次	306	1226	4東区 E5t12	第3層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	10%	内腹口縁に黒墨りあり、全体に難滅著 する。外腹側部に難滅り有り、底部底面 は反転。	
681 国80	-	平井遺跡 第1次	313	1235	4東区 E5t12	第3層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	15%	全体に難滅著しいため調整不正確。 底部底面に黒墨り有り、全体に難滅著 する。外腹側部に難滅り有り、底部底面 は反転。	
682 国80	-	平井遺跡 第1次	264	177	2北区 E5x4	第3層	—	弥生土器	直口壺	口縁部	20%	全体に難滅著しいため調整不正確。 非生時代中期伊賀1-2式、反転復元。	
683 国80	-	平井遺跡 第1次	237	62	2北区 E5x5	—	弥生土器	畫	口縁部～ 体部	10%	全体に難滅著しいため調整不正確。 弥生時代中期伊賀1-1式、反転復元。		
684 国80	-	平井遺跡 第1次	314	1235	4東区 E5t12	第3層	—	弥生土器	紀伊形壺	口縁部～ 体部	20%	全体に難滅著しいため調整不正確。 弥生時代中期伊賀1-2式、外腹体部の ハラケアリ形が不明、反転復元。	
685 国80	-	平井遺跡 第1次	246	2014	4東区 E5t13	調査区南壁 55m附近	—	弥生土器	畫	口縁部～ 体部	15%	全体に難滅著しいため調整不正確。 弥生時代中期伊賀1-3式、反転復元。	
686 国80	-	平井遺跡 第1次	305	1222	4東区 E5t14	第3層	—	弥生土器	高環	口縁部～ 环部	20%	外腹口縁に黒墨り有り、全体に難滅著 する。したがって調整不正確。弥生時代 中期伊賀1-1式、反転復元。	
687 国80	90	平井遺跡 第1次	312	1232	4東区 E5t12	第3層	—	弥生土器	直口壺	口縁部	65%	全体に難滅著しいため調整不正確。 底部底面に黒墨り有り、弥生時代中期伊 賀1-3-IV-1様式、一部反転復元。	

### 出土遺物一覽　主器・主製品・瓦類

高橋有事は、開示不全たる有価証券での割合

遺物 番号	出土 場所 番号	写真 図版	遺物名 調査次数	出土遺物 登録番号	出土遺物 登録番号	地区 取上区画	遺構名 堆積層位	遺物番号・位置 地盤部位	遺物種類	器種	部位	残存率	備考	
													全般	個別
688 図80 - 平井遺跡 第1次 307 1228 4南区 E5s14 第3層 —— 有生土器 器台 脚部 20% 全般に磨滅著しいため調整不正確。二期後半から、一期後半伊伊V-1様式。反転復元。														
689 図80 - 平井遺跡 第1次 247 2015 4南区 E5u13 4E5u13南端部 上層面55cm地点 —— 有生土器 脚台竹脚 器台部 60% 全般に磨滅著しいため調整不正確。二期後半から、一期後半伊伊V-3様式。一部反転復元。														
690 図80 - 平井遺跡 第1次 265 177 2北区 E5x4 第3層 —— 有生土器 広口壺(器台) 口縁部 18% 口縁部裏面に黒褐色有り、全般に磨滅著しいため調整不正確。二期後半から、一期後半伊伊V-4様式。														
691 図80 - 平井遺跡 第1次 242 336 3東区 D5e25 北側溝 —— 有生土器 鉢 口縫部～底部 63% 全般に磨滅著しいため調整不正確。二期後半から、一期後半伊伊V-5様式。一部反転復元。														
692 図80 - 平井遺跡 第1次 317 1452 4南区 E5g14 第3層 —— 有生土器 製塙土器 底部 60% 全般に二次削成が可能被る。脚台部、底座部、脚台部古墳式。反転復元。														
693 図80 - 平井遺跡 第1次 244 1217 4南区 E5g11 南側溝 —— 土師器 製塙土器 脚台部 55% 全般に磨滅著しいため調整不正確。脚台部、底座部、脚台部古墳式。反転復元。														
694 図80 90 平井遺跡 第1次 253 98 上層東側斜面 —— 土師器 小型壺 口縫部～底部 50% 外周部から内部下部にかけて底張り有り。外周部は底盤は底盤の組合ひばり型調整。内周部は底盤は底盤の組合ひばり型調整。古墳時代中期から、一期反転復元。														
695 図80 - 平井遺跡 第1次 256 105 1北区 F5g2-1 第3層 —— 土師器 磁碗 壁部 30% 全般に剥離・磨滅著しいため調整不正確。古墳時代中期から、反転復元。														
696 図80 - 平井遺跡 第1次 260 47 2北区 F5g4 上街 —— 土師器 磁碗 壁部 20% 内口縫部裏位の組合ひばり型調整。外周部裏位の組合ひばり型調整が施される。古墳時代前期から、反転復元。														
697 図80 - 平井遺跡 第1次 315 1262 4南区 E5o14 第3層 —— 磁恵器 坏身 口縫部～底部 20% 口回転方式：右回り、陶器 II型式第3段階(田辺TK209式)。反転復元。														
698 図80 - 平井遺跡 第1次 239 2038 3北区 E5n14 南側溝 —— 磁恵器 直井 周回転方式～口縫部 25% 外周部裏位の自然輪廓有り付する有り。口回転方式：右回り、周回転方式～口縫部直井(田辺TK43式)。反転復元。														
699 図80 90 平井遺跡 第1次 241 2038 3北区 E5n14 南側溝 —— 磁恵器 磁碗 壁部 75% 全般にやや丸み有り、ロクロ回転方式：左回り、周回転 II型式第6段階(田辺TK79式)。反転復元。														
700 図80 90 平井遺跡 第1次 238 601 3北区 U5g21 北側溝 —— 磁恵器 磁碗 脚台部 75% 外周全体に磨滅著しく付する有り。透し孔3孔方式、ロクロ回転方式：右回り、周回転 I型式第5段階(田辺TK209式)。反転復元。														
701 図80 - 平井遺跡 第1次 324 860 5東区 D6u6 第3・4層 —— 土師器 磁碗 口縫部 40% 全般に磨滅著しいため調整不正確。無時代か、反転復元。														
702 図80 - 平井遺跡 第1次 300 384 4北区 E5o11 第3層 —— 土師器 直井 口縫部～底部 10% 全般に磨滅著しいため調整不正確。無時代か、反転復元。														
703 図80 - 平井遺跡 第1次 296 344 4北区 E5e10 第3層 —— 土師器 直井 口縫部～底部 23% 全般に磨滅著しいため調整不正確。無時代か、反転復元。														
704 図80 - 平井遺跡 第1次 297 344 4北区 E5o10 第3層 —— 土師器 直井 口縫部～底部 20% 全般に磨滅著しいため調整不正確。無時代か、反転復元。														
705 図80 - 平井遺跡 第1次 257 112 1北区 F5g2 第3層 —— 土師器 磁碗 口縫部～底部 14% 全般に凹み著しく、全体に磨滅著しいため調整不正確。魚形時代か、反転復元。														
706 図80 - 平井遺跡 第1次 325 660 5東区 D6u6 第3・4層 —— 土師器 磁碗 口縫部 15% 全般に磨滅著しいため調整不正確。魚形時代か、反転復元。														
707 図80 - 平井遺跡 第1次 322 1946 5南区 E5h20 第3・4層 —— 土師器 磁碗 口縫部 9% 全般に磨滅著しいため調整不正確。魚形時代か、反転復元。														
708 図80 - 平井遺跡 第1次 298 344 4北区 E5o10 第3層 —— 土師器 磁碗 口縫部～肩部 10% 全般に磨滅著しいため調整不正確。内周部裏位に埋没有り以下は底盤の組合ひばり型調整が施される。魚形時代か、反転復元。														
709 図81 91 平井遺跡 第1次 299 346 4北区 E5o10 第3層 —— 土師器 鉢 口縫部 17% 外周部裏位から底盤にかけて底張り有り。内周部裏位以下は底盤の組合ひばり型調整。内周部裏位以下は底盤の組合ひばり型調整が施される。魚形時代か、反転復元。														
710 図81 - 平井遺跡 第1次 320 1555 5南区 E5e20 3南区 E5k18 第3層 第3層 —— 土師器 磁碗 口縫部 15% 全般に磨滅著しいため調整不正確。外周部裏位以下は底盤の組合ひばり型調整の底跡有り。魚形時代か、反転復元。														
711 図81 91 平井遺跡 第1次 282 253 2北区 E5o6 第3層 —— 土師器 磁碗 口縫部～体部 10% 全般に磨滅著しいため調整不正確。外周部裏位以下は底盤の組合ひばり型調整が施される。魚形時代か、反転復元。														
712 図81 - 平井遺跡 第1次 290 1508 3南区 E5j17 第3層 —— 土師器 製塙土器 口縫部 30% 全般に磨滅著しいため調整不正確。無時代か、反転復元。														
713 図81 - 平井遺跡 第1次 291 1508 3南区 E5j17 第3層 —— 土師器 製塙土器 口縫部 30% 全般に磨滅著しいため調整不正確。無時代か、反転復元。														
714 図81 - 平井遺跡 第1次 292 1508 3南区 E5j17 第3層 —— 土師器 製塙土器 口縫部 16% 全般に磨滅著しいため調整不正確。無時代か、反転復元。														
715 図81 - 平井遺跡 第1次 289 1508 3南区 E5j17 第3層 —— 土師器 製塙土器 口縫部 23% 全般に磨滅著しいため調整不正確。無時代か、反転復元。														
716 図81 - 平井遺跡 第1次 245 723 南北側溝 —— 土師器 製塙土器 体部～底部 70% 全般に磨滅著しいため調整不正確。奈良時代か、一部反転復元。														
717 図81 91 平井遺跡 第1次 317-2 1264 4南区 E5q11 第3層 —— 土師器 磁瓶車 —— 45% 全般に磨滅著しいため調整不正確。幅3.5cm・高さ4.1cm・重量(96g)。無時代か。														
718 図81 91 平井遺跡 第1次 308 1230 4南区 E5t10 4南区 E5t11 第3層 第3層 —— 土師器 管状土器 —— 40% 全般に磨滅著しいため調整不正確。長さ17cm・幅5.2cm・厚み4.2cm・重量(123g)。古墳時代か。														
719 図81 - 平井遺跡 第1次 316 1264 4南区 E5q11 第3層 —— 土師器 管状土器 —— 95% 全般に磨滅著しいため調整不正確。長さ19.5cm・幅7.9cm・厚み1.8cm・重量(22g)。奈良時代か。														

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 年 代	遺 物 名	実 測 寸 寸 数 測定 次 数	三 工 種 別 分 類 番 号	地 区 取 上 区 画	遺 構 面 堆 積 位 置	遺 構 面 番 号 被 覆 部 位	遺 物 種 類	基 礎	部 位	残 存 率	備 考
720 図81	-	平井遺跡 第1次	331 691	5東区 D6x2	第3・4層	—	土師器	土	—	—	90%	全体に磨滅著しいため調整不確、長さ約10cm・幅約1.1~1.3cm・重量(10kg)、良質時代。
721 図81	91	平井遺跡 第1次	273-2 186	2北区 E5r6	—	—	土師器	陶	焚き口 袖部	—	—	全体に磨滅著しいため調整不確、良質時代、部分実測
722 図81	91	平井遺跡 第1次	273-1 172	2北区 E5v4	第3層	—	土師器	陶	焚き口 袖部	—	—	全体に磨滅著しいため調整不確、良質時代、部分実測
723 図81	-	平井遺跡 第1次	330 690	5東区 D6w3	第3・4層	—	須恵器	坏	口縁部～ 底部	—	25%	底部底面は陶転へつり、ロクロ回転方:右回り、陶転Ⅲ型式2段階(田辺TK46型式)。
724 図81	-	平井遺跡 第1次	293 342	4北区 E5n10	第3層	—	須恵器	坏	口縁部～ 底部	—	22%	底部底面は陶転へつり、ロクロ回転方:右回り、陶転Ⅲ型式1段階(田辺TK217型式)、反転復元。
725 図81	-	平井遺跡 第1次	262 107	2北区 F5a4	第3層	—	須恵器	坏	口縁部～ 底部	—	25%	底部底面は陶転へつり、ロクロ回転方:右回り、陶転Ⅲ型式2段階(田辺TK46型式)。
726 図81	91	平井遺跡 第1次	302 501	4北区 E5e12	第3層	—	須恵器	坏	口縁部～ 底部	—	70%	底部底面は陶転へつり、ロクロ回転方:右回り、陶転Ⅳ型式3段階(田辺TK46型式)、反転復元。
727 図81	-	平井遺跡 第1次	303 501	4北区 E5e12	第3層	—	土師器	坏	口縁部～ 底部	—	15%	全体に磨滅著しいため調整不確、良質時代、反転復元。
728 図81	-	平井遺跡 第1次	321 1945	5南区 E5v19	第3・4層	—	須恵器	坏	口縁部～ 底部	—	22%	ロクロ回転方:右回り、陶転Ⅳ型式1段階(田辺TK21型式)、反転復元。
729 図81	-	平井遺跡 第1次	255 105	F北区 F5g2-1	第3層	—	須恵器	坏	口縁部～ 高台部	—	30%	ロクロ回転方:右回り、陶転Ⅳ型式4段階(田辺TK21型式)、反転復元。
730 図81	-	平井遺跡 第1次	328 660	5東区 D6w6	第3・4層	—	須恵器	坏	口縁部～ 底部	—	23%	ロクロ回転方:右回り、陶転Ⅳ型式3段階(田辺TK53型式)、反転復元。
731 図81	-	平井遺跡 第1次	294 344	4北区 E5e10	第3層	—	須恵器	坏	口縁部～ 高台部	—	28%	ロクロ回転方:右回り、陶転Ⅳ型式1段階(田辺TK21型式)、反転復元。
732 図81	-	平井遺跡 第1次	249 2068	—	砂土	—	須恵器	坏	口縁部～ 高台部	—	16%	外壁全体会:自然釉薄く付着する、良質時代、反転復元。
733 図81	-	平井遺跡 第1次	323 658	5南区 D6e	第3・4層	—	須恵器	畫	天部～ 口縁部	—	20%	天部全体会:自然釉薄く付着する、ロクロ回転方:右回り、陶転Ⅲ型式2段階(田辺TK46型式)、反転復元。
734 図81	91	平井遺跡 第1次	281 253	2北区 E5e6	第3層	—	須恵器	畫	拂ひ部～ 口縁部	—	98%	外壁全体会:自然釉薄く付着する、ロクロ回転方:右回り、陶転Ⅲ型式2段階(田辺TK46型式)、反転復元。
735 図81	-	平井遺跡 第1次	286 1317	3南区 E5m18	第3層	—	須恵器	畫	拂ひ部～ 口縁部	—	65%	ロクロ回転方:右回り、陶転Ⅳ型式1段階(田辺TK21型式)、一部反転復元。
736 図81	-	平井遺跡 第1次	319 1555	5南区 E5k20	第3層	—	須恵器	畫	天部～ 口縁部	—	1%	ロクロ回転方:左回り、陶転Ⅳ型式2段階(田辺TK16型式)、反転復元。
737 図81	-	平井遺跡 第1次	329 674	5東区 D6v6	第3・4層	—	須恵器	畫	天部～ 口縁部	—	20%	ロクロ回転方:左回り、陶転Ⅳ型式2段階(田辆TK16型式)、反転復元。
738 図81	-	平井遺跡 第1次	327 660	5東区 D6w6	第3・4層	—	須恵器	畫	天部～ 口縁部	—	20%	ロクロ回転方:左回り、陶転Ⅳ型式1段階(田辆TK21型式)、反転復元。
739 図81	-	平井遺跡 第1次	259 47	2北区 F5e4	第3層 上面	—	須恵器	畫	天部～ 口縁部	—	10%	外壁天井部:自然釉薄く付着する、ロクロ回転方:左回り、陶転Ⅲ型式2段階(田辆TK16型式)、反転復元。
740 図81	-	平井遺跡 第1次	248 1299	—	砂土	—	須恵器	圓面鏡	体部～ 鋸削部	—	10%	外壁全体会:自然釉薄く付着する、良質時代、反転復元。
741 図82	-	平井遺跡 第1次	318 1496	4東区 E5o15	第3層	—	須恵器	畫	口縁部	—	8%	ロクロ回転方:左回り、陶転Ⅳ型式4段階(田辆TK21型式)、反転復元。照片のため口径不明。
742 図82	-	平井遺跡 第1次	287 1218	3南区 E5m15	第3層	—	須恵器	畫	口縁部	—	5%	ロクロ回転方:右回り、型式不明。良質時代か、反転復元。このため口径不明。
743 図82	-	平井遺跡 第1次	252 52	F5g2南側廻	第3層	—	須恵器	畫	口縁部～ 肩部	—	10%	内壁全縁部から外周面部にかけて自然釉薄く付着する。
744 図82	91	平井遺跡 第1次	269 203	2北区 E5r5	第3層	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	—	80%	全体に剥離、磨滅著しいため調整不明確。平安時代後期、反転復元。
745 図82	91	平井遺跡 第1次	266 177	2北区 E5z4	第3層	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	—	48%	全体に磨滅著しいため調整不明確。内壁込込に板状工具によるナジマセが施される。鎌倉時代、反転復元。
746 図82	91	平井遺跡 第1次	235 39	1北区 F4g2	東側溝 (西~10m)	—	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	—	20%	全体に磨滅著しいため調整不明確。鎌倉時代、反転復元。
747 図82	-	平井遺跡 第1次	274 246	2北区 E5v7	第3層	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	—	35%	全体に歪み著しい。鎌倉時代、反転復元。
748 図82	-	平井遺跡 第1次	263 177	2北区 E5x4	第3層	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	—	80%	全体に歪み著しい。全体に磨滅著しいため調査不確、全体状況による放射状ナジマセが施される。鎌倉時代。
749 図82	-	平井遺跡 第1次	254 101	1北区 E5x3	第3層	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	—	40%	全体に磨滅著しいため調整不明確。室町時代か、反転復元。
750 図82	-	平井遺跡 第1次	236 60	2北区 E5y6	2南側溝内 側面	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	—	40%	全体に磨滅著しいため調整不明確。鎌倉時代、一部反転復元。
751 図82	-	平井遺跡 第1次	234 38	1北区 F4t25	西側溝 (中央)	—	瓦器	楕(皿)	口縁部～ 底部	—	70%	全体に歪み著しい。全体に磨滅著しいため調査不確。平安時代後期。
752 図82	91	平井遺跡 第1次	277 246	2北区 E5v7	第3層	—	瓦器	楕(皿)	口縁部～ 底部	—	50%	内壁縁部から立ち上がりに横穴の粗いハコ形が施される。椎茸状構造はやや軟質、鎌倉時代、反転復元。
753 図82	91	平井遺跡 第1次	295 344	4北区 E5o10	第3層	—	瓦器	皿	口縁部～ 底部	—	12%	内壁部は横穴の粗いハコ形が施される。室町時代前期、反転復元。

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 年 代	写 真 版 番 号	真 遺 物 名	実 測 寸 数	三 三 井 物 語 書 番 号	地 区 取 上 区 画	遺 物 面 積 積 算 数 表 面 積 度 位	遺 物 面 積 積 算 数 持 存 部 位	遺 物 種 類	基 礎	部 位	残 存 率	備 考
754 図82	-	平井遺跡 第1次	288	1320	3南区 E5e17	第1・2層	—	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	30%	全体に磨滅著しいため調整不正確、底 時代前期、反転復元
755 図82	91	平井遺跡 第1次	285	671	2北区 E5e6	第3・4層	—	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	50%	全体に磨滅著しいため調整不正確、底 時代前期、一部反転復元
756 図82	-	平井遺跡 第1次	284	270	2北区 E5e9	第3層	—	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	45%	全体に磨滅著しいため調整不正確、底 時代前期、反転復元
757 図82	-	平井遺跡 第1次	268	194	2北区 E5e5	第3層	—	—	土師器	土壺	口縁部	25%	外表面部以下に保溝・付着する、外表面 体部は板状で真ん中の縦部の下部調整が 見られる。室町時代か、反転復元
758 図82	-	平井遺跡 第1次	276	246	2北区 E5v7	第3層	—	—	須恵器	徑鉢	口縁部	17%	焼成度はやや良質化、束縛系第Ⅲ期 後段、反転復元
759 図82	-	平井遺跡 第1次	279	251	2北区 E5e9	第3層	—	—	白磁	碗	底部～ 高台部	50%	輪郭のみうり、外表面下部擦痕から底部 底面にかけて露胎、室町時代か、反転復元
760 図82	-	平井遺跡 第1次	278	246	2北区 E5v7	第3層	—	—	青磁	碗	体部～ 高台部	50%	内表面に細かい入糸多数有り、裏付け と底部底面は露胎、室町時代か、一部 反転復元
761 図82	-	平井遺跡 第1次	267	194	2北区 E5e5	第3層	—	—	龍泉窯系 青磁	碗	(高台部)	95%	見込みに片切認によりよ花文様、疊付け と底部底面は露胎、室町時代
762 図82	-	平井遺跡 第1次	271	236	2北区 E5e7	第3層 第3層	—	—	青磁	鉢	口縁部～ 体部	25%	内表面に細かい入糸多数有り、釉厚 が薄く無い、室町時代前期か、反転復元
763 図82	91	平井遺跡 第1次	311	1231	4北区 E5c11	第3層	—	—	無釉陶器 削器	鏪鉢	口縁部～ 底部	10%	外表面縁部から内面にかけて露胎から自然 剥離付着する、東周中世3期(開墾壁 A期)、室町時代前期、反転復元
764 図82	-	平井遺跡 第1次	304	1221	4北区 E5c13	第3層	—	—	無釉陶器 削器	鏪鉢	口縁部	15%	内表面から自然剥離付着する、東周 中世4期(開墾壁B期)、反転復元、細片 のため口径不明瞭
765 図82	-	平井遺跡 第1次	251	2068	—	拂土	—	—	無釉陶器 削器	鏪鉢	口縁部	5%	外表面縁部に重ね燒き有り、併置中 5期(開墾壁IV期)、反転復元、細片 のため口径不明瞭
766 図82	-	平井遺跡 第1次	283	269	2北区 E5k9	第3層	—	—	無釉陶器 削器	鏪鉢	口縁部～ 体部	20%	外表面縁部から内面にかけて自然剥離 付着する、東周中世5期(開墾壁V 期)、反転復元
767 図82	-	平井遺跡 第1次	250	1299	—	拂土	—	—	無釉陶器 削器	壺	口縁部～ 肩部	18%	内表面縁部から外表面全体にかけて自然 剥離付着する、東周中世4期(開墾壁 B期)、反転復元
768 図82	-	平井遺跡 第1次	336	243	2北区 E5t8	第3層	—	—	無釉陶器 削器	器利	頭部～ 底部	95%	外表面縁部から底部にかけて自然釉厚く 付着する、室町時代後期か、一部反転 復元
769 図82	-	平井遺跡 第1次	270	209	2北区 E5n7	第3層	—	—	肥前系 灰陶	碗	口縁部～ 高台部	65%	外表面縁部から全体にかけて一重網目 文、疊付けは露胎、江戸時代
770 図89	-	平井遺跡 第1次	475	240	7区 D5e25	—	130土机	土師器	环	口縁部～ 体部	20%	全体に剝離、磨滅著しいため調整不確 定、明治、反転復元	
771 図89	92	平井遺跡 第2次	476	240	7区 D5e25	—	130土机	土師器	环	口縁部～ 底部	20%	全体に磨滅著しいため調整不確 定、内 側底辺から縁部立ち上がりにかけて 自然剥離状況有り、魚舟時代、反転復元	
772 図89	-	平井遺跡 第2次	481	249	7区D5e25 7区D5e25	—	130土机	土師器	环	口縁部～ 底部	25%	全体に磨滅著しいため調整不確 定、魚舟時代、反転復元	
773 図89	-	平井遺跡 第2次	477	242	D5e25	—	130土机	土師器	环	口縁部	10%	全体に磨滅著しいため調整不確 定、魚舟時代、反転復元	
774 図89	92	平井遺跡 第2次	479	246	7区 D5e25	—	130土机	土師器	皿	口縁部～ 底部	25%	全体に磨滅著しいため調整不確 定、魚舟時代、反転復元	
775 図89	92	平井遺跡 第2次	480	250	7区 D5e25	—	130土机	土師器	皿	口縁部～ 底部	50%	全体に磨滅著しいため調整不確 定、内 側底辺から縁部立ち上がりにかけて 自然剥離状況有り、魚舟時代、一部反 転復元	
776 図89	92	平井遺跡 第2次	478	246	7区 D5e25	—	130土机	土師器	皿	口縁部～ 底部	20%	全体に磨滅著しいため調整不確 定、内 側底辺から縁部立ち上がりにかけて 自然剥離状況有り、魚舟時代、反転復元	
777 図89	92	平井遺跡 第2次	474	236	7区 D5e25	—	130土机	土師器	皿B	口縁部～ 底部	30%	全体に磨滅著しいため調整不確 定、魚舟時代、反転復元	
778 図89	92	平井遺跡 第2次	482	246	7区D5e25 7区D5e25	—	130土机	土師器	高环	口縁部～ 底部	50%	全体に磨滅著しいため調整不確 定、内 側底辺に連結状態波文の痕跡有り、魚 舟時代、一部反転復元	
779 図89	-	平井遺跡 第2次	483	264	7区 D5e25 取上D 7区D5e25 取上D	—	130土机	土師器	高环	口縁部	25%	全体に磨滅著しいため調整不確 定、魚 舟時代、反転復元	
780 図89	92	平井遺跡 第2次	484	250	7区 D5e25	—	130土机	土師器	鉢	口縁部～ 体部	20%	全体に磨滅著しいため調整不確 定、魚 舟時代、反転復元	
781 図89	-	平井遺跡 第2次	485	264	7区 D5e25	—	130土机	土師器	妻	口縁部～ 体部	15%	全体に磨滅著しいため調整不確 定、魚 舟時代、反転復元	
782 図89	92	平井遺跡 第2次	487	251	7区D5e25 7区D5e25	—	130土机	土師器	妻	口縁部～ 体部	45%	全体に磨滅著しいため調整不確 定、魚 舟時代、反転復元、其耳把手あるが 接合部不明	
783 図89	-	平井遺跡 第2次	486	249	7区 D5e25	—	130土机	土師器	妻	口縁部～ 体部	15%	全体に磨滅著しいため調整不確 定、魚 舟時代、反転復元	
784 図89	-	平井遺跡 第2次	496	265	7区 D5e25	—	130土机	土師器	堆塗土器	口縁部～ 体部	20%	外表面二次焼成、全体に磨滅著しいため 調整不確、魚舟時代、反転復元、口 縫部の歪み著しいため口徑不正	
785 図89	-	平井遺跡 第2次	498	268	7区 D5e25	—	130土机	土師器	堆塗土器	口縁部～ 体部	30%	外表面二次焼成、魚舟時代、反転復元、口 縫部の歪み著しいため口徑不正	

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 年 代	写真 版面	遺物名 直訳名	実測値 容積 容積 数値	三工 部 分 別 検 査 番 号	地区 取 扱 上 区 画	遺構面 堆積層位	遺構番号 確認 度	遺物種類	基種	部位	残存率	備考
786 国89	-	平井遺跡 第2次	491	248	7区 D5e25	—	130土机	土師器	製陶土器	口縁部	25%	全体に磨滅著しいため調整不正確。痕 跡時代、反転復元	
787 国89	-	平井遺跡 第2次	490	248	7区 D5e25	—	130土机	土師器	製陶土器	口縁部～ 体部	25%	全体に磨滅著しいため調整不正確。痕 跡時代、反転復元	
788 国89	-	平井遺跡 第2次	500	273	D5e25	—	130土机	土師器	製陶土器	口縁部～ 体部	10%	外壁二次焼成。全体に磨滅著しいため 調整不正確。痕跡時代、一部反転復元	
789 国89	92	平井遺跡 第2次	493	255	7区 D5e25	—	130土机	土師器	製陶土器	口縁部～ 底部	62%	内外面全体に二次焼成。全体に磨滅著 しいため調整不正確。痕跡時代、一部 反転復元	
790 国89	-	平井遺跡 第2次	499	268	7区 D5e25	—	130土机	土師器	製陶土器	口縁部～ 体部	10%	全体に磨滅著しいため調整不正確。痕 跡時代、反転復元	
791 国89	-	平井遺跡 第2次	489	243	7区 D5e25	—	130土机	土師器	製陶土器	体部～ 底部	50%	外壁底部二次焼成。全体に磨滅著しい ため調整不正確。痕跡時代、一部反転 復元	
792 国89	-	平井遺跡 第2次	492	250	7区 D5e25	—	130土机	土師器	製陶土器	体部～ 底部	60%	外壁底部二次焼成。全体に磨滅著しい ため調整不正確。痕跡時代、一部反転 復元	
793 国89	-	平井遺跡 第2次	495	262	7区 D5e25	—	130土机	土師器	製陶土器	口縁部～ 底部	20%	外壁底部二次焼成。全体に磨滅著しい ため調整不正確。痕跡時代、一部反転 復元	
794 国89	92	平井遺跡 第2次	501	249	7区 D5e25	—	130土机	須恵器	口縁部～ 底部(高台)	口縁部	27%	須恵遺存はやや軟質化。ロクロ回転方 向：右回り。陶色IV型式第1段階(田辺 MT21型式)、反転復元	
795 国89	-	平井遺跡 第2次	503	255	7区 D5e25	—	130土机	須恵器	口縁部	15%	内外面全体に自然釉薄く付着する。 ロクロ回転方向：左回り。陶色IV型式 第1段階(田辺MT21型式)、反転復元		
796 国89	92	平井遺跡 第2次	505	251	7区 D5e25	—	130土机	須恵器	鉄鉢形跡	口縁部～ 体部	20%	須恵遺存はやや軟質化。ロクロ回転方 向：右回り。陶色IV型式第2段階(田辺 KM16型式)、反転復元	
797 国89	-	平井遺跡 第2次	502	242	7区 D5e25	—	130土机	須恵器	口縁部	10%	内外面全体に自然釉薄く付着する。ロ クロ回転方向：左回り。陶色IV型式第 2段階(田辺MT21型式)、反転復元		
798 国89	92	平井遺跡 第2次	507	241 246 249 273	7区 D5e25 D5e25 D5e25 D5e25	—	130土机	須恵器	口縁部～ 底部	口縁部	60%	須恵遺存はやや軟質化。ロクロ回転方 向：右回り。陶色IV型式第2段階(田辺 KM16型式)、一期反転復元。未接合破 片に体部・底部有り	
799 国89	92	平井遺跡 第2次	508	265 266 256 240 248 259 235 243 254 263 267 272	7区 D5e25 D5e25 D5e25 D5e25 D5e25 D5e25 D5e25 D5e25 D5e25 D5e25 D5e25 D5e25	—	130土机 取上D 取上B 取上B 底の方 取上A	須恵器	口縁部～ 肩部	口縁部	70%	焼き歪み認めめて著しい。外面部口縁部か ら裏面にかけて自然釉薄く付着する。 ロクロ回転方向：左回り。陶色IV型式 第2段階(田辺KM16型式)、未接合破片 に体部・底部有り	
800 国90	93	平井遺跡 第2次	504	263 265 273	7区 D5e25	取上B 取上C	130土机	須恵器	短環唇	口縁部～ 体部	20%	外面部肩から体部にかけて自然釉厚く 付着する。ロクロ回転方向：右回り。 陶色IV型式第2段階(田辺KM16型式) 、反転復元	
801 国90	93	平井遺跡 第2次	506	259 235 277 240 244	7区 D5e25 D5e25 D5e25 D5e25 D5e25	—	130土机	須恵器	口縁部	体部～ 底部	30%	足部に自然釉厚く付着する。底部面 に亀裂の発着有り。痕跡時代、一部 反転復元	
802 国90	93	平井遺跡 第2次	466	345 358	7区 D6e8	—	180溝 223(火)	弥生土器	口縁部	肩部	15%	全体に磨滅著しいため調整不正確。痕 跡時代中盤伊伊2型式、反転復元	
803 国90	93	平井遺跡 第2次	470	345	7区 D6e8	—	180溝	弥生土器	高环	脚部	25%	全体に斜削。磨滅著しいため調整不 正確。痕跡時代中盤伊伊2型式(痕跡 V-4型式の可能性有り)、反転復元	
804 国90	93	平井遺跡 第2次	471	347	7区 D6e7	—	180溝	弥生土器	口縁部	肩部	25%	全体に斜削。磨滅著しいため調整不 正確。庄内式円筒形段階、反転復元	
805 国90	-	平井遺跡 第2次	461	184	7区 D6e4	—	80土机	土師器	口縁部	体部	20%	全体に磨滅著しいため調整不正確。痕 跡時代、反転復元	
806 国90	-	平井遺跡 第2次	464	186	7区 D6e1	—	131土机	須恵器	口縁部	肩部	15%	ロクロ回転方向：左回り。陶色IV型式 第1段階(田辺MT21型式)か、反転復元	
807 国90	-	平井遺跡 第2次	458	188	7区 D6e7	—	20土机	土師器	脚台付鉢	脚台	15%	全体に磨滅著しいため調整不正確。痕 跡時代か、反転復元	
808 国90	-	平井遺跡 第2次	462	159	7区 D6e22	—	110落ち込み	須恵器	口縁部	肩部	25%	外面部縫合及び縫隙の一部に自然釉 厚く付着する。ロクロ回転方向：左回 り。陶色IV型式第2段階(田辺MT21型 式)か、反転復元	
809 国90	-	平井遺跡 第2次	460	223	7区 D6e6	—	58小穴	土師器	製陶土器	底部	60%	全体に磨滅著しいため調整不正確。痕 跡時代	
810 国90	-	平井遺跡 第2次	451	178	7区 D6e7	—	10土机	土師器	口縁部	底部	25%	全体に斜削。磨滅著しいため調整不 正確。痕跡時代、反転復元	
811 国90	-	平井遺跡 第2次	453	187	7区 D6e7	—	10土机	土師器	小皿	口縁部	25%	全体に磨滅著しいため調整不正確。痕 跡時代前半、反転復元	
812 国90	-	平井遺跡 第2次	459	213	7区 D6e8	—	10土机	土師器	小皿	口縁部	25%	全体に磨滅著しいため調整不正確。痕 跡時代前半、反転復元。口縁部の歪 みため口縁部	
813 国90	-	平井遺跡 第2次	450	178	7区 D6e7	—	10土机	土師器	小皿	口縁部	20%	全体に磨滅著しいため調整不正確。痕 跡時代、反転復元	

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

※現存率は、現元できた残存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 年 代	写 真 版 面 番 号	直 通 名 称	実測 寸 寸 物 理 的 的 性 質 と 特 徴 の 記 述	出土 地 點 番 号	地区 取 上 画 面	遺 構 面 地 積 層 位	遺 構 面 号 種 別 遺 構 位	遺 物 種 類	器 種	部 位	残 存 率	備 考
814	昭和90	-	平井遺跡 第2次	456 210	7区 D6e7	—	10土机	瓦器	椭	口縁部～ 体部	15%	全体に磨滅著しいため調整不正確、内 面に直し上がりに傾く無いラブガギが 見られる。鍛造時代、反転復元。	
815	昭和90	-	平井遺跡 第2次	455 187	7区 D6e7	—	10土机	瓦器	椭	口縁部～ 体部	23%	全体に磨滅著しいため調整不正確、内 面に直し上がりに傾くラブガギが 見られる。鍛造時代、反転復元。	
816	昭和90	-	平井遺跡 第2次	454 187	7区 D6e7	—	10土机	瓦器	椭	底部 (高台)	55%	全体に磨滅著しいため調整不正確、見 出式に直し上がりに傾くラブガギが 見られる。鍛造時代、反転復元。	
817	昭和90	93	平井遺跡 第2次	452 178	7区 D6e7	—	10土机	須恵器	壺	口縁部～ 体部	5%	クロロ回転方向：左回り、平安時代、 反転復元。柄部の内凹部不正確不鋭 角。	
818	昭和90	-	平井遺跡 第2次	456 172	7区 D6e3	—	146小穴 149小穴	瓦器	椭	口縁部～ 底盤(高台)	18%	全体に磨滅著しいため調整不正確、鍛 造時代、反転復元。	
819	昭和90	-	平井遺跡 第2次	463 165	7区 D6e2	—	137土机	瓦器	椭	口縁部～ 底盤(高台)	20%	全体に磨滅著しいため調整不正確、鍛 造時代、反転復元。	
820	昭和90	93	平井遺跡 第2次	468 351	7区 D6e7	—	176土机	瓦器	椭	口縁部～ 底盤(高台)	100%	全体に歪み著しい、全体に磨滅著しい ため調整不正確。鍛造時代	
821	昭和90	93	平井遺跡 第2次	469 373	7区 D6e7	—	176土机	瓦器	椭	口縁部～ 底盤(高台)	99%	全体に歪み著しい、全体に磨滅著しい ため調整不正確。鍛造時代	
822	昭和90	-	平井遺跡 第2次	467 341	7区 D6e7	—	185土机	土師器	小皿	口縁部～ 底部	25%	全体に磨滅著しいため調整不正確、鍛 造時代、反転復元。	
823	昭和90	-	平井遺跡 第2次	472 339	7区 D6e8	—	185土机	土師器	土釜	口縁部	5%	外表面頭部などに採付跡の痕跡有り、全 体に磨滅著しいため調整不正確。鍛造 時代、反転復元。組立のため口凹部不明	
824	昭和90	93	平井遺跡 第2次	473 339	7区 D6e8	—	185土机	須恵器	狸鉢	口縁部	5%	側面進存はや軟質化。クロロ回転方 向：左回り、東漢N型式第1回転、反 転復元。組立のため口凹部不明。	
825	昭和90	93	平井遺跡 第2次	522 54	7区 D6e4	第3層	—	土師器	有孔土鏡	—	100%	側面進存はや軟質化。クロロ回転方 向：左回り、東漢N型式第1回転、反 転復元。重量17g、平安時代。	
826	昭和90	93	平井遺跡 第2次	523 54	7区 D6e4	第3層	—	土師器	有孔土鏡	—	100%	全体に磨滅著しいため調整不正確、長 径8.6cm・幅1.4cm・厚み1.5cm・重 量15g、平安時代。	
827	昭和90	93	平井遺跡 第2次	520 54	7区 D6e4	第3層	—	土師器	有孔土鏡	—	80%	全体に磨滅著しいため調整不正確、長 径8.0cm・幅1.7cm・厚み1.5cm・重 量12g、奈良時代。	
828	昭和90	93	平井遺跡 第2次	519 54	7区 D6e4	第3層	—	土師器	有孔土鏡	—	75%	全体に磨滅著しいため調整不正確、長 径8.5cm・幅1.5cm・厚み1.5cm・重 量12g、奈良時代。	
829	昭和90	-	平井遺跡 第2次	521 54	7区 D6e4	第3層	—	土師器	有孔土鏡	—	20%	全体に磨滅著しいため調整不正確、長 径8.2cm・幅1.7cm・厚み0.9cm・重 量9g、奈良時代。	
830	昭和90	-	平井遺跡 第2次	524 48	7区 D6e2	第3層	—	土師器	製塙土器	部部～ 底部	—	全体に磨滅著しいため調整不正確、奈 良時代、反転復元。	
831	昭和90	93	平井遺跡 第2次	525 54	7区 D6e4	第3層	—	須恵器	环	口縁部～ 底部	70%	底盤底面は板状へらり、ロコロ回転 方向：左回り、陶器N型式第1回転(田 辻MT2型式)。	
832	昭和90	-	平井遺跡 第2次	535 117	7区 D6e5	7区 D6e5	第3層	—	須恵器	环	口縁部～ 底盤(高台)	18%	底盤底面は板状へらり、側面進存は やや軟質化。ロコロ回転方向：左回り、 陶器N型式第1回転(由辻MT2型式)。 反転復元。
833	昭和90	93	平井遺跡 第2次	543 72	7区 D6e5	第3層	—	須恵器	环	口縁部～ 底部	97%	見込みは板状工具によるナメ調整が施 される。側面進存はやや軟質化。外内 面に直し上がりに傾くラブガギ。内面 に凹部5.5mm・6種類。外内面に5.5mm1/2 程度SRSR5色。外内面に5.5mm1/2程度 陶器N型式第1回転(由辻MT2型式)。 反転復元。	
834	昭和90	-	平井遺跡 第2次	530 117	7区 D6e5	第3層	—	須恵器	环	口縁部～ 底部	10%	底盤底面は板状へらり、ロコロ回転 方向：右回り、陶器N型式第1回転(田 辻MT2型式)。反転復元。	
835	昭和90	-	平井遺跡 第2次	542 72	7区 D6e5	第3層	—	須恵器	环	口縁部～ 底部	70%	ロコロ回転方向：右回り、陶器N型式 第2回転(由辻MT1型式)。	
836	昭和90	-	平井遺跡 第2次	536 36	7区 D6e4	第3層	—	須恵器	小型 短縁壺	口縁部～ 底部	20%	ロコロ回転方向：右回り、陶器N型式 第2回転(由辻MT1型式)。反転復元。	
837	昭和90	-	平井遺跡 第2次	513 134	7区 D6e4	第3層	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	20%	全体に磨滅著しいため調整不正確、鍛 造時代、反転復元。	
838	昭和90	-	平井遺跡 第2次	541 66	7区 D6e7	第3層	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	50%	全体に磨滅著しいため調整不正確、鍛 造時代、反転復元。口縁部の内凹を著 しいため口凹部不明。	
839	昭和90	-	平井遺跡 第2次	509 145	7区 D6e2	第3層	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	40%	全体に磨滅著しいため調整不正確、鍛 造時代、反転復元。	
840	昭和90	-	平井遺跡 第2次	540 59	7区 D6e8	第3層	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	23%	内外面口縁部に握りく付する、全 体に歪み著しいため調整不正確。鍛造 時代。	
841	昭和90	-	平井遺跡 第2次	511 47	7区 D6e4	第3層	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	40%	全体に磨滅著しいため調整不正確、内 外裏に余分な地衣の有り、鍛造時代、 全体に歪み著しいため口凹部不明。	
842	昭和90	-	平井遺跡 第2次	547 136	7区 D6e4	側溝	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	25%	全体に磨滅著しいため調整不正確、鍛 造時代、反転復元。全体に歪み著しい ため口凹部不明。	
843	昭和90	-	平井遺跡 第2次	515 298	7区 D6e9	第3層	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	30%	全体に刻痕、磨滅著しいため調整不 正確、鍛造時代、反転復元。	
844	昭和90	-	平井遺跡 第2次	514 298	7区 D6e9	第3層	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	25%	全体に刻痕、磨滅著しいため調整不 正確、鍛造時代、反転復元。	
845	昭和90	-	平井遺跡 第2次	510 42	7区 D6e4	第3層	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	65%	全体に磨滅著しいため調整不正確、鍛 造時代	

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

※残存率は、認定できた残存部位での割合。

遺物番号	埋蔵年	写真版	直通名	実測直通名	三土種類名	取上区画	遺構面地積層位	遺構番号・種類	遺物種類	器種	部位	残存率	備考
846 国90	-	平井遺跡 第2次	512	118	7区 D6e7	第3層	—	土師器	小皿	口縁部～底部	25%	全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代、反転復元	
847 国90	-	平井遺跡 第2次	544	73	7区 D6e5	第3-2層	—	土師器	小皿	口縁部～底部	85%	全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代、全体にやわらか	
848 国90	-	平井遺跡 第2次	546	66	7区 D6e7	第3-1層	—	土師器	小皿	口縁部～底部	90%	全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代	
849 国90	-	平井遺跡 第2次	518	108	7区 D6e6	第3層	—	土師器	土釜	口縁部～肩部	10%	全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代、反転復元	
850 国90	-	平井遺跡 第2次	517	301	7区 D6e9	第3層	—	土師器	土釜	口縁部～肩部	11%	外側全体に剥離する。全体に磨滅をさういため調整不正確、室町時代、反転復元	
851 国91	-	平井遺跡 第2次	516	151	7区 D6e2	第3層	—	土師器	土釜	口縁部～肩部	8%	全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代、反転復元	
852 国91	-	平井遺跡 第2次	549	37	7区 D6e-a1	堅地土 (廃落土)	—	土師器	土釜	口縁部～肩部	10%	外壁全体に剥離する。全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代、反転復元	
853 国91	-	平井遺跡 第2次	550	328	7区 D6-e-10	Dセクション-H4	—	土師器	土釜	口縁部～肩部	9%	全体に磨滅をさういため調整不正確、室町時代、反転復元	
854 国91	-	平井遺跡 第2次	527	135	7区 D6e2-3	第3層	—	瓦器	椭	口縁部～底部 底部高台	30%	全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代、反転復元、全体に剥離する。ため口径不正確	
855 国91	-	平井遺跡 第2次	528	297	7区 D6e7	第3層	—	瓦器	椭	口縁部～底部 底部高台	13%	全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代、反転復元、全体に剥離する。ため口径不正確	
856 国91	-	平井遺跡 第2次	529	300	7区 D6e8	第3層	—	瓦器	椭	口縁部～底部 底部高台	10%	全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代、反転復元	
857 国91	-	平井遺跡 第2次	533	300	7区 D6e8	第3層	—	瓦器	椭	口縁部～体部	18%	全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代、反転復元	
858 国91	-	平井遺跡 第2次	532	42	7区 D6e4	第3層	—	瓦器	椭	口縁部～底部	45%	全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代、反転復元、全体に剥離する。ため口径不正確	
859 国91	-	平井遺跡 第2次	534	301	7区 D6e9	第3層	—	瓦器	椭	口縁部～底部	8%	全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代、反転復元	
860 国91	-	平井遺跡 第2次	526	80	7区 D6e5	第3層	—	瓦器	椭	口縁部～底部	25%	全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代、反転復元	
861 国91	-	平井遺跡 第2次	538	299	7区 D6e8	第3層	—	瓦器	小皿	口縁部～底部	55%	全体に磨滅をさういため調整不正確、錫倉時代	
862 国91	-	平井遺跡 第2次	537	109	7区 D6e7	第3層	—	漆器	漆鉢	口縁部～体部	10%	漆器底存耳はやわらか化。ロクロ回転方向左回り、東屋第三期漆器段階前。反転復元	
863 国91	-	平井遺跡 第2次	531	298	7区 D6e9	第3層	—	漆器	漆鉢	口縁部～体部	9%	漆器底存耳はやわらか化。ロクロ回転方向左回り、東屋第三期漆器段階前。反転復元、照片のため口徑不正確	
864 国91	-	平井遺跡 第2次	553	217	7区	耕土中	—	白磁	椭	体部～底部	40%	夷から直角底存耳にかけて剥離仕上げ。平安時代後期、一部反転復元	
865 国91	-	平井遺跡 第2次	552	354	7区 D6e9	櫻丸の漢 木造繩紋壇	—	青磁	椭	口縁部～体部	8%	口夷。室町時代。反転復元	
866 国91	-	平井遺跡 第2次	539	113	7区 D6e9	第3層	—	龍泉窯青磁	椭	口縁部～体部	—	内外面細かい買入多数有り、錫倉時代、断面のみ	
867 国91	-	平井遺跡 第2次	551	317	7区 D6e11	日焼チ瓦所 近世整地土	—	無釉陶器 陶器	口縁部～体部	—	ロクロ回転方向:右回り、東屋編年中 世5期[開窓16期]IV式]、断面のみ	—	
868 国91	-	平井遺跡 第2次	545	69	7区 D6e5	第3-2層	—	無釉陶器 陶器	柾	体部～底部	35%	内外面底部から見出でて自然施設に付着する。ロクロ回転方向:左回り、室町時代。一部反転復元	
869 国99	94	平井遺跡 第3次	654	346	1-2区F4n3	33堅穴建物 33堅穴道場	—	弥生土器	細縁器	口縁部～体部	80%	全体に磨滅をさういため調整不正確、奈 良時代中期伊弉3-2様式、始上に片岩若 木をまない、反転復元	
870 国99	94	平井遺跡 第3次	656	346	1-2区 F4n23	—	33堅穴建物	弥生土器	紀伊彌慶	口縁部～体部	10%	全体に磨滅をさういため調整不正確、奈 良時代中期伊弉3-2様式、始上に片岩若 木をまない、反転復元	
871 国99	94	平井遺跡 第3次	657	346	1-2区 F4n23	—	33堅穴建物	弥生土器	高环	口縁部～底部	25%	全体に二重構造成る。全体に剥離、 施設者としたため調整不正確、弥生時代 中期伊弉3-2様式、反転復元	
872 国99	94	平井遺跡 第3次	658	364	1-2区 F4e25	44堅穴建物 東西セクション中 44堅穴道場	—	弥生土器	広口壺	口縁部～体部	50%	全体に磨滅をさういため調整不正確、 施設者としたため調整不正確、弥生時代 中期伊弉N-1式、反転復元	
873 国99	94	平井遺跡 第3次	659	360	1-2区 F4e25	—	44堅穴建物 南北西	弥生土器	直口壺	口縁部～体部	5%	全体に磨滅をさういため調整不正確、 施設者のため調整不正確、南北西時代 中期伊弉N-1式、反転復元	
874 国99	-	平井遺跡 第3次	660	359	1-2区 F4e25	—	44堅穴建物 南北東	弥生土器	壺	口縁部～肩部	28%	外側口縁部以下に剥離付着する。全 体に磨滅をさういため調整不正確、弥 生時代中期伊弉N-1式、反転復元	
875 国99	-	平井遺跡 第3次	655	376	1-2区 F4e25	—	70柱穴 44堅穴建物 主柱	弥生土器	壺	口縁部～体部	13%	外側口縁部と肩部以下に剥離付着す る。全体に磨滅をさういため調整不正確、 弥生時代中期伊弉N-1式、反転復元	
876 国99	-	平井遺跡 第3次	661	364	1-2区 F4e25	—	44堅穴建物 東西セクション中	弥生土器	壺	口縁部～肩部	20%	外側口縁部以下に剥離付着する。全 体に磨滅をさういため調整不正確、弥 生時代中期伊弉N-2式、反転復元	
877 国99	-	平井遺跡 第3次	662	364	1-2区 F4e25	—	44堅穴建物 東西セクション中	弥生土器	壺	口縁部～体部	15%	外側口縁部と肩部以下に剥離付着す る。全体に磨滅をさういため調整不正確、 弥生時代中期伊弉N-1式、反転復元	
878 国99	94	平井遺跡 第3次	663	363	1-2区 F4e25	—	44堅穴建物 東西セクション中	弥生土器	壺	口縁部～体部	—	外側口縁部から体部にかけて剥離有り、 全体に磨滅をさういため調整不正確、 弥生時代中期伊弉N-2式、反転復元	

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

出土地点は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	持 分 番 号	写真 版 図	遺物名 調査次 第3次	実測遺物 寸法 参考番号	三工種物 参考番号	地区 取上区画	遺構面 地盤位	遺構名 指標 底面位	遺物種類	基盤	部位	残存率	備考
879 国99	94	平井遺跡 第3次	665	364 360	1-2区 F4e25	—	44穴建物 東西セクション半 44穴建物東西	弥生土器	唐	口縁部～ 体部	30%	外面部縁部と肩部以下に保険付着する。全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-2様式、反転復元。	
880 国99	94	平井遺跡 第3次	664	364	1-2区 F4e25	—	44穴建物 東西セクション半	弥生土器	唐	口縁部～ 体部	25%	外面部縁部と肩部以下に保険付着する。全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-2様式、反転復元。	
881 国99	—	平井遺跡 第3次	666	367	1-2区 F4e25	—	44穴建物 東西	弥生土器	高环	环部	10%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
882 国99	—	平井遺跡 第3次	618	229	1-2区 F4e22	—	—	35周	弥生土器	広口壺	口縁部	15%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不明確。内面部の黒色を有する。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。
883 国99	—	平井遺跡 第3次	622	255	1-2区 F5k1	—	60土坑	弥生土器	小型 縦置容器	口縁部	6%	全体に磨滅著めていたため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-2式対応、生駒山西墓地出土。反転復元。	
884 国99	—	平井遺跡 第3次	620	255	1-2区 F5k1	—	60土坑	弥生土器	高环	环部	5%	全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
885 国99	94	平井遺跡 第3次	619	249 248	1-2区 F4e25	—	54土坑セクション 54土坑	弥生土器	唐	口縁部～ 体部	80%	外面部縁部と肩部以下に保険付着する。全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、一部反転復元。	
886 国99	—	平井遺跡 第3次	621	247	1-2区 F4e25	—	54土坑	弥生土器	高环	口縫部	10%	脚部部端に黒斑り有り、全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
887 国99	94	平井遺跡 第3次	623	266	1-2区 F4e22	—	72小穴	弥生土器	紀伊彌妻	口縁部～ 体部	23%	外面部縁部と肩部以下に保険付着する。全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-3様式、胎内に片岩を含まない。反転復元。	
888 国99	—	平井遺跡 第3次	616	226	1-2区 F4e23	—	32周	弥生土器	紀伊彌妻	口縁部～ 肩部	25%	外面部縁部と肩部以下に保険付着する。全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-3様式、胎内に片岩を含まない。反転復元。	
889 国99	—	平井遺跡 第3次	617	226	1-2区 F4e23	—	32周	弥生土器	唐	口縁部	7%	外面部縁部と肩部以下に保険付着する。全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
890 国99	—	平井遺跡 第3次	615	226	1-2区 F4e23	—	32周	弥生土器	高环	脚台部	25%	全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代後期紀伊V-1様式、反転復元。	
891 国100	95	平井遺跡 第3次	697	287	2-2区 F5h4	—	1土坑-2 第3層	弥生土器	広口壺	口縁部～ 肩部	20%	全体に磨滅著めていたため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
892 国100	95	平井遺跡 第3次	700	300 277	2-2区 F5h4	—	1土坑-2第 1層 1土坑-2上	弥生土器	広口壺	口縁部	40%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
893 国100	95	平井遺跡 第3次	695	290	2-2区 F5h4-5	—	1土坑-2 第3層	弥生土器	広口壺	口縁部	50%	全体に磨滅著めていたため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
894 国100	95	平井遺跡 第3次	699	296 279	2-2区 F5h5	—	1土坑-2上1 第1層	弥生土器	広口壺	口縁部～ 肩部	65%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
895 国100	95	平井遺跡 第3次	698	282	2-2区 F5i4	—	1土坑 第1層	弥生土器	直口壺	口縁部	12%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-3様式、反転復元。	
896 国100	95	平井遺跡 第3次	703	276	2-2区 F5h4	—	1土坑 第1層	弥生土器	唐	口縁部～ 肩部	15%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
897 国100	—	平井遺跡 第3次	704	283	2-2区 F5h4	—	1土坑 第2層	弥生土器	唐	口縁部～ 肩部	15%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
898 国100	95	平井遺跡 第3次	706	287 285	2-2区 F5h4 2-2区F5h5	—	1土坑-2第3層 1土坑-2第2層	弥生土器	唐	口縁部～ 肩部	25%	外面部縁部と肩部以下に保険付着する。全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
899 国100	—	平井遺跡 第3次	702	275	2-2区 F5h4	—	1土坑 第1層	弥生土器	唐	口縁部～ 肩部	15%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
900 国100	95	平井遺跡 第3次	709	283 300 275 276	2-2区 F5h4	—	1土坑-2上2 1土坑-2上4 1土坑-2上7 1土坑-2上8	弥生土器	唐	口縁部～ 肩部	40%	外面部縁部と肩部以下に保険付着する。全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-3様式、胎内に片岩を含まない。反転復元。	
901 国100	—	平井遺跡 第3次	705	283	2-2区 F5h4	—	1土坑 第1層	弥生土器	紀伊彌妻	口縁部～ 肩部	10%	全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-2式、胎内に片岩を含まない。反転復元。	
902 国100	95	平井遺跡 第3次	707	284	2-2区 F5h4	—	1土坑 第2層	弥生土器	紀伊彌妻	口縁部～ 体部	50%	全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-3式、胎内に片岩を含まない。反転復元。	
903 国100	95	平井遺跡 第3次	708	298	2-2区 F5h4	—	1土坑-2取上2 1土坑-2取上2	弥生土器	紀伊彌妻	口縁部～ 体部	40%	内部の肩部以下に剥離付着する。外面部縁部と肩部以下に保険付着する。全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
904 国100	95	平井遺跡 第3次	701	289	2-2区 F5h4	—	1土坑-2 第3層	弥生土器	高环	口縁部	20%	全体に剥離・磨滅著めて了したため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元。	
905 国100	—	平井遺跡 第3次	696	297	2-2区 F5h5	—	1土坑-2 取上1下	弥生土器	器台	体部～ 底部	30%	全体に剥離著してたため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-3式、胎内に片岩を含まない。反転復元。	
906 国100	95	平井遺跡 第3次	710	286	2-2区 F5h5	—	1土坑 第2層	弥生土器	椭形 口縁部	口縁部	70%	内面部縁部に保険付着する。全体に剥離著してたため調整不明確。胎内に片岩を含まない。反転復元。	
907 国101	96	平井遺跡 第3次	676	380	1-2区 F5k1	—	59土坑-2	弥生土器	広口壺	口縁部	20%	全体に磨滅著めて了したため調整不明確。弥生時代中期紀伊V-2式様式、反転復元。	

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 年 代	写真 版 面	遺物名 実測値 寸法 測定 数	実測値 参考値 寸法 測定 数	地区 取上区画	遺構面 堆積層位	遺構番号 堆積 層位	遺物種類	基部	部位	残存率	備考
908 国101	96	平井遺跡 第3次	671	388	1-2区 F5k1	—	59土坑-4	弥生土器	広口壺	口縁部	20%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代中期伊弉-2様式。反転復元。反転復元。
909 国101	96	平井遺跡 第3次	677	392	1-2区 F5k1	—	59土坑 南北セクション	弥生土器	広口壺	口縁部	24%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代中期伊弉-1様式。反転復元。
910 国101	96	平井遺跡 第3次	675	382	1-2区 F5k1	—	59土坑-2	弥生土器	広口壺	口縁部	15%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代中期伊弉-1様式。反転復元。
911 国101	—	平井遺跡 第3次	669	393	1-2区 F5k1	—	59土坑 第5層	弥生土器	広口壺	口縁部	13%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代中期伊弉-1様式。反転復元。
912 国101	—	平井遺跡 第3次	667	388	1-2区 F5k1	—	59土坑-4	弥生土器	広口壺	口縁部	10%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代中期伊弉-1様式。反転復元。
913 国101	—	平井遺跡 第3次	672	388	1-2区 F5k1	—	59土坑-4	弥生土器	広口壺	口縁部	25%	全体に剥離、磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期伊弉-2様式。反転復元。
914 国101	—	平井遺跡 第3次	674	382	1-2区 F5k1	—	59土坑-2	弥生土器	細腰罐	頸部	20%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代中期伊弉-3様式。反転復元。
915 国101	—	平井遺跡 第3次	668	391	1-2区 F5k1	—	59土坑 東西セクション	弥生土器	直口壺	口縁部	23%	全体に剥離、磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期伊弉-3様式。反転復元。
916 国101	96	平井遺跡 第3次	678	391	1-2区 F5k1	—	59土坑 東西セクション 第5層	弥生土器	壺	口縁部～ 体部	25%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代中期伊弉-2様式。反転復元。
917 国101	96	平井遺跡 第3次	682	388	1-2区 F5k1	—	59土坑-4	弥生土器	高环	环部	15%	全体に剥離、磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期伊弉-2様式。反転復元。
918 国101	96	平井遺跡 第3次	688	392	1-2区 F5k1	—	59土坑 南北セクション 東西セクション 59土坑-3	弥生土器	高环	环部	45%	口縁部下方に黒斑あり。全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代中期伊弉-3様式。反転復元。
919 国101	96	平井遺跡 第3次	684	391	1-2区 F5k1	—	59土坑 東西セクション	弥生土器	高环	环部～ 颈部	50%	外壁底部に小黒斑あり。全体に磨滅著しいため調整不明確。弥生時代中期伊弉-2様式。一部反転復元。
920 国101	96	平井遺跡 第3次	687	392	1-2区 F5k1	—	59土坑 南北セクション	弥生土器	高环	环部～ 颈部	60%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代中期伊弉-2様式。一部反転復元。
921 国101	—	平井遺跡 第3次	692	379	1-2区 F5k1	—	59土坑-1	弥生土器	鉢	口縁部～ 体部	10%	外壁全体に黒斑あり。全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代中期伊弉-1様式。反転復元。
922 国101	96	平井遺跡 第3次	673	382	1-2区 F5k1	—	59土坑-2	弥生土器	広口壺	口縁部	25%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代後期伊弉-1様式。反転復元。
923 国101	96	平井遺跡 第3次	670	392	1-2区 F5k1	—	59土坑 南北セクション	弥生土器	細腰 直口壺	口縁部～ 肩部	90%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代後期伊弉-1様式。胎土は国101-926(実681)に類似する。一部反転復元。
924 国101	—	平井遺跡 第3次	680	392	1-2区 F5k1	—	59土坑	弥生土器	壺	口縁部～ 肩部	30%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代後期伊弉-1様式。胎土は国101-926(実681)に類似する。反転復元。
925 国101	—	平井遺跡 第3次	679	392	1-2区 F5k1	—	59土坑	弥生土器	壺	口縁部～ 体部	10%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代後期伊弉-1様式。胎土は国101-926(実681)に類似する。反転復元。
926 国101	96	平井遺跡 第3次	681	388	1-2区 F5k1	—	59土坑-4	弥生土器	高环	环部	30%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代後期伊弉-1様式。胎土は国101-926(実681)に類似する。反転復元。
927 国101	—	平井遺跡 第3次	685	392	1-2区 F5k1	—	59土坑 南北セクション	弥生土器	高环 (脚台鉢)	环部～ 脚台部	40%	全体に達虫状態は良好。弥生時代後期伊弉V-1様式。胎土は国101-926(実681)に類似する。一部反転復元。
928 国101	96	平井遺跡 第3次	686	391	1-2区 F5k1	—	59土坑 東西セクション 59土坑-4	弥生土器	高环	环部	70%	外壁表面から内部にかけて黒斑有り。全体に達虫状態は良好。弥生時代後期伊弉V-1様式。胎土は国101-926(実681)に類似する。一部反転復元。
929 国101	96	平井遺跡 第3次	694	391	1-2区 F5k1	—	59土坑 東西セクション	弥生土器	高环	环部～ 基部	75%	外壁表面から基礎にかけて黒斑有り。全体に達虫状態は良好。弥生時代後期伊弉V-1様式。胎土は国101-926(実681)に類似する。一部反転復元。
930 国101	—	平井遺跡 第3次	689	391	1-2区 F5k1	—	59土坑 東西セクション	弥生土器	壺部 ～ 口縁部	壺部～ 口縁部	40%	内面全体に剥離有り。全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代後期伊弉V-1様式。胎土は国101-926(実681)に類似する。一部反転復元。
931 国101	—	平井遺跡 第3次	683	393	1-2区 F5k1	—	59土坑 第5層	弥生土器	鉢	脚台部	80%	内面全体に剥離有り。全体に磨滅著しいため調整不正確。伊弉V-1様式。一部反転復元。
932 国101	—	平井遺跡 第3次	693	392	1-2区 F5k1	—	59土坑 南北セクション 東西セクション	弥生土器	鉢	口縁部～ 体部	27%	全体に磨滅著しいため調整不正確。内丸端成形鉢乳孔。弥生時代後期伊弉V-1様式。胎土は国101-926(実681)に類似する。
933 国101	—	平井遺跡 第3次	691	391	1-2区 F5k1	—	59土坑	弥生土器	小型高环	脚台部	90%	内面环部は黒斑有り。全体に磨滅著しいため調整不正確。伊弉V-1様式。胎土は国101-926(実681)に類似する。
934 国101	—	平井遺跡 第3次	690	388	1-2区 F5k1	—	59土坑-4	弥生土器	小型鉢	口縁部～ 底部	65%	全体に磨滅著しいため調整不正確。伊弉V-1様式。一部反転復元。
935 国102	97	平井遺跡 第3次	625	332	2-2区 F5d3	—	2方形 周溝基 取上9	弥生土器	広口壺	口縁部	35%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代中期伊弉-1様式。反転復元。
936 国102	97	平井遺跡 第3次	652	336	2-2区 F5d3	—	2方形 周溝基 取上9	弥生土器	口縁部～ 底部	80%	全体に磨滅著しいため調整不正確。弥生時代中期伊弉-3様式。	

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 年 代	写真 版 図	遺物名 或 者 名	実測値 容積 数 量	三工種 分類 番 号	地区 取 扱 上 区 画	遺構面 堆積層位	遺構番号 被指 定病害位	遺物種類	基種	部位	残存率	備考
937 国102	97	平井遺跡 第3次	624	322	2-2区 F52	—	2方形周溝基	弥生土器	広口壺	口縁部	20%	全体に磨滅著しいため調整不正確、非生時代中期伊弉-1様式、反転復元	
938 国102	97	平井遺跡 第3次	635	324	1-2区 F52	—	2方形周溝基	弥生土器	広口壺	口縁部～ 体部	20%	全体に剥離・磨滅等で著しいため調 整不明、弥生時代中期伊弉N-1様式、 反転復元	
939 国102	97	平井遺跡 第3次	631	324	1-2区 F52	—	2方形周溝基	弥生土器	広口壺	口縁部	30%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-1様式対応、生駒山 西遺跡出土、反転復元	
940 国102	—	平井遺跡 第3次	638	324	1-2区 F52	—	2方形周溝基	弥生土器	広口壺	口縁部	25%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-1様式、反転復元	
941 国102	—	平井遺跡 第3次	639	330	2-2区 F53	—	2方形周溝基 取上3	弥生土器	広口壺	口縁部～ 肩部	25%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-1様式、反転復元	
942 国102	—	平井遺跡 第3次	628	317	2-2区 F53	—	2方形周溝基	弥生土器	広口壺	口縁部	28%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-2様式、反転復元	
943 国102	97	平井遺跡 第3次	653	328	2-2区 F52 2-2区F52	—	2方形周溝基	弥生土器	把手付壺	口縁部～ 体部	70%	外縁周縁から底部下にかけて裏面有 り、全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-2様式、反転復元	
944 国102	97	平井遺跡 第3次	629	324	1-2区F5/2 1-2区F5/1	—	2方形周溝基	弥生土器	直口壺	口縁部	40%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-2様式、反転復元	
945 国102	—	平井遺跡 第3次	637	324	1-2区 F52	—	2方形周溝基	弥生土器	直口壺	口縁部	15%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-3様式、反転復元	
946 国102	—	平井遺跡 第3次	626	327	2-2区 F53	—	2方形周溝基	弥生土器	直口壺	口縁部～ 肩部	20%	外縁周縁と腹部に裏面有り、全体に磨 滅著しいため調整不正確、非生時代 中期伊弉-2様式、反転復元	
947 国102	—	平井遺跡 第3次	627	322	2-2区 F5/2	—	2方形周溝基	弥生土器	圓状 口縁部	口縁部	9%	外縁周縁に黒斑有り、全体に磨滅著 しいため調整不正確、非生時代中期伊 弉-1様式、反転復元	
948 国102	—	平井遺跡 第3次	642	330	2-2区 F5/3	—	2方形周溝基 取上3	弥生土器	壺	口縁部～ 体部	10%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-1様式、反転復元	
949 国102	97	平井遺跡 第3次	644-2	315	1-2区 F52	—	2方形周溝基 取上6	弥生土器	紀伊彌慶	底部	90%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-3様式、輪に片岩 を含まない、一部反転復元、圓102- 950(実642)同一個体	
950 国102	97	平井遺跡 第3次	644	335	2-2区F5/2	—	2方形周溝基 取上6 取上6	弥生土器	紀伊彌慶	口縁部～ 体部	50%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-1様式、輪に片岩 を含まない、反転復元	
951 国103	—	平井遺跡 第3次	641	310	1-2区 F5/2	—	2方形周溝基	弥生土器	壺	口縁部～ 肩部	15%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-1様式、反転復元	
952 国103	—	平井遺跡 第3次	645	315	1-2区 F5/1	—	2方形周溝基	弥生土器	壺	口縁部～ 体部	5%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不 正確、非生時代中期伊弉-1様式、反転 復元	
953 国103	—	平井遺跡 第3次	640	322	2-2区 F5/2	—	2方形周溝基	弥生土器	紀伊彌慶	口縁部～ 肩部	10%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-3様式、輪に片岩 を含まない、反転復元	
954 国103	—	平井遺跡 第3次	650	317	2-2区 F5/3	—	2方形周溝基 SベルトW2	弥生土器	高坏	口縁部	10%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不 正確、非生時代中期伊弉-1様式、反転 復元	
955 国103	—	平井遺跡 第3次	630	324	1-2区 F5/2	—	2方形周溝基	弥生土器	高坏	高坏	23%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不 正確、非生時代中期伊弉-1様式、反転 復元	
956 国103	97	平井遺跡 第3次	648	334	1-2区 F5/2	—	2方形周溝基 取上3	弥生土器	高坏	高坏	27%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-1様式、反転復元	
957 国103	—	平井遺跡 第3次	646	337	1-2区 F5/1	—	2方形周溝基 取上10	弥生土器	高坏	高坏～ 底部	60%	外縁部裏面に黒斑有り、全体に磨滅著 しいため調整不正確、非生時代中期伊 弉-3様式、一部反転復元	
958 国103	—	平井遺跡 第3次	647	338	1-2区 F5/1	—	2方形周溝基 取上11	弥生土器	高坏	輪柱部 (底に転用)	95%	内面裏部裏面に黒斑有り、全体に剥離・ 磨滅著しいため調整不正確、非生時代 中期伊弉-1様式、反転復元	
959 国103	—	平井遺跡 第3次	632	324	1-2区 F5/2	—	2方形周溝基	弥生土器	高坏	輪柱部 (底に転用)	35%	内面裏部裏面に黒斑有り、全体に剥離・ 磨滅著しいため調整不正確、非生時代 中期伊弉-1様式、反転復元	
960 国103	—	平井遺跡 第3次	649	321	1-2区 F5/1	—	2方形周溝基 SベルトW2	弥生土器	高坏	脚部部	65%	外縁部裏面に黒斑有り、全体に磨滅著 しいため調整不正確、非生時代中期伊 弉-1様式、一部反転復元	
961 国103	—	平井遺跡 第3次	636	324	1-2区 F5/2	—	2方形周溝基	弥生土器	蓋台	楕部	20%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不 正確、非生時代中期伊弉N-1様式、 反転復元	
962 国103	97	平井遺跡 第3次	651	309	2-2区 F5/2	—	2方形周溝基	弥生土器	鉢	口縁部～ 体部	10%	外縁部裏面に黒斑有り、全体に磨滅著 しいため調整不正確、非生時代中期伊 弉-1様式、3種式、反転復元	
963 国103	98	平井遺跡 第3次	730	164	2-2区 F5/2	第4-2 層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	25%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-1様式、反転復元	
964 国103	98	平井遺跡 第3次	726	161	2-2区 F5/4	第4-2 層 第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	12%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 非生時代中期伊弉-1様式、反転復元	
965 国103	98	平井遺跡 第3次	727	161	2-2区 F5/4	第4-2 層 第4層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	30%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 文様不明、非生時代中期伊弉N-1様式、 反転復元	
966 国103	98	平井遺跡 第3次	731	166	2-2区F5/2 2-2区F5/3	第4-2 層	—	弥生土器	広口壺	口縁部	50%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 文様不明、非生時代中期伊弉N-1様式、 反転復元	
967 国103	98	平井遺跡 第3次	729	161	2-2区 F5/4	第4-2 層	—	弥生土器	脚台付鉢	脚台部	50%	全体に磨滅著しいため調整不正確、 文様不明、非生時代中期伊弉-3様式、 反転復元	

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該査定は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 年 代	写真 版 面	遺物名 或 者 記 号	実測値 容積 単位 容 積 数 値	三工 部 分 等 級 番 号	地 区 上 下 区 画	遺 留 面 積 積 度 位	遺 留 面 積 積 度 位	遺 物 種 類	基 礎	部 位	残 存 率	備 考
968 図103	—	平井遺跡 第3次	728	161	2-2区 F5h4	第4-2層 残査	—	—	弥生土器	唐	口縁部～ 肩部	5%	外面部縁部から肩部以下に底面有り、 全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
969 図103	98	平井遺跡 第3次	732	163	2-2区 F5h5	第4-2層 残査	—	—	弥生土器	高环	环部	5%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
970 図104	98	平井遺跡 第3次	717	140	2-2区 F5i3	第4層	—	—	弥生土器	広口壺	口縁部	20%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
971 図104	98	平井遺跡 第3次	716	140	2-2区 F5i3	第4層	—	—	弥生土器	広口壺	口縁部	25%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
972 図104	—	平井遺跡 第3次	722	155	2-2区 F5j2	第4層 残査	—	—	弥生土器	紀伊形壺	口縁部～ 肩部	20%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、片唇を残すまない、反転復元
973 図104	—	平井遺跡 第3次	720	144	2-2区 F5j3	第4層	—	—	弥生土器	紀伊形壺	口縁部～ 肩部	8%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-2様式、片唇に片唇を残すまない、反転復元
974 図104	—	平井遺跡 第3次	721	138	2-2区F5z2 2-2区F5z3	第4層	—	—	弥生土器	壺	口縁部～ 肩部	25%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
975 図104	—	平井遺跡 第3次	715	185	2-2区 F5j3	大セクション 第4-1層	—	—	弥生土器	唐	口縁部～ 体部	30%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
976 図104	—	平井遺跡 第3次	723	153	2-2区 F5j3	第4層 残査	—	—	弥生土器	壺	口縁部～ 肩部	8%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
977 図104	—	平井遺跡 第3次	719	137	2-2区F5h4 2-2区F5h3	第4層 第4層	—	—	弥生土器	高环	口縁部	8%	全体に剥離してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-2様式、反転復元
978 図104	—	平井遺跡 第3次	718	137	2-2区 F5h4	第4層	—	—	弥生土器	鉢	口縁部	5%	全体に剥離してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
979 図104	98	平井遺跡 第3次	724	151	2-2区 F5h4	第4層残査 第4-2層残査	—	—	弥生土器	脚台付鉢	脚台	45%	外面部裏に黒斑有り、全体に磨滅著しく いたため調査不正確、弥生時代中期紀伊 V-1様式、反転復元
980 図104	—	平井遺跡 第3次	589	101	1-2区 F4m24	第3-3層	—	—	弥生土器	広口壺	口縁部	25%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
981 図104	—	平井遺跡 第3次	588	97	1-2区 F4e25	第3-3層	—	—	弥生土器	広口壺	口縁部	10%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
982 図104	—	平井遺跡 第3次	595	116	1-2区F4e22 1-2区F4e23	第3-3層	—	—	弥生土器	太頭 広口壺	口縁部	15%	全体に剥離してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
983 図104	—	平井遺跡 第3次	591	91	1-2区 F4e25	第3-3層	—	—	弥生土器	広口壺	口縁部	10%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
984 図104	—	平井遺跡 第3次	603	114	1-2区 F4e23	第3-3層	—	—	弥生土器	広口壺	口縁部	5%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-2様式、生駒山 土産粉々、反転復元
985 図104	98	平井遺跡 第3次	592	112	1-2区 F4e23	第3-3層	—	—	弥生土器	直口壺	口縁部	25%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-2様式、反転復元
986 図104	—	平井遺跡 第3次	596	113	1-2区 F4e23	第3-3層	—	—	弥生土器	直口壺	口縁部	5%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
987 図104	98	平井遺跡 第3次	601	117	1-2区 F4e22	第3-3層	—	—	弥生土器	壺	口縁部～ 体部	15%	外面部裏に黒斑有り、内面部体部に粗 いケルヒ形の剥離有り、全体に磨滅著しく いたため調査不正確、弥生時代中期紀伊 V-1様式、反転復元
988 図104	98	平井遺跡 第3次	604	116	1-2区 F4e22	第3-3層	—	—	弥生土器	壺	口縁部～ 体部	20%	外面部裏に黒斑有り、内面部体部に粗 いケルヒ形の剥離有り、全体に磨滅著しく いたため調査不正確、弥生時代中期紀伊 V-1様式、反転復元
989 図104	—	平井遺跡 第3次	598	85	1-2区 F5i1	第3-3層 周溝底面上	—	—	弥生土器	鉢	口縁部	5%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-2様式、反転復元
990 図104	—	平井遺跡 第3次	602	119	1-2区 F4e21	第3-3層	—	—	弥生土器	唐	口縁部～ 体部	15%	外面部裏に黒斑有り、全体に磨滅著しく いたため調査不正確、弥生時代中期紀伊 V-1様式、反転復元
991 図104	—	平井遺跡 第3次	590	88	1-2区 F5i1	第3-3層	—	—	弥生土器	壺	口縁部～ 肩部	10%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
992 図104	—	平井遺跡 第3次	597	113	1-2区 F4e23	第3-3層	—	—	弥生土器	壺	口縁部	20%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
993 図105	98	平井遺跡 第3次	593	113	1-2区 F4e23	第3-3層	—	—	弥生土器	長頸壺	口縁部	20%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代後期紀伊V-3様式、反転復元
994 図104	—	平井遺跡 第3次	599	95	1-2区 F5k1	第3-3層	—	—	弥生土器	壺	口縁部～ 肩部	15%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代後期紀伊V-3様式、反転復元
995 図105	98	平井遺跡 第3次	605	113	1-2区F4e23 1-2区F4e23 1-2区F4e22	第3-3層	—	—	弥生土器	高环	坪部	20%	全体に剥離してさしたため調査不正確、 弥生時代後期紀伊V-1様式、反転復元
996 図105	98	平井遺跡 第3次	607	94	1-2区 F5k1	第3-3層	—	—	弥生土器	高环	坪部	10%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代後期紀伊V-2様式、反転復元
997 図105	—	平井遺跡 第3次	606	95	1-2区 F5k1	第3-3層	—	—	弥生土器	小型高环	脚台	30%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代後期紀伊V-3様式、反転復元
998 図105	98	平井遺跡 第3次	594	116	1-2区F4e22 1-2区F4e23	第3-3層	—	—	弥生土器	壺	複数	20%	全体に磨滅してさしたため調査不正確、 弥生時代後期紀伊V-3様式、反転復元

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

出土地点は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 年 代	真 跡 名	実 測 値 目 数	三 土 工 作 者 等 級 番 号	地 区 取 上 区 画	遺 跡 面 積 積 算 面 積 度	遺 跡 番 号 種 別 直 接 或 者 不 可 知	遺 物 種 類	基 礎	部 位	残 存 率	備 考	
999 国105	-	平井遺跡 第3次	714	120	2-2区	機械廻所	—	弥生土器	広口壺	口縁部	45%	全体に磨滅して著しいため調整不確、弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元	
1000 国105	-	平井遺跡 第3次	712	120	2-2区	機械廻所	—	弥生土器	広口壺	口縁部	15%	全体に磨滅して著しいため調整不確、弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元	
1001 国105	99	平井遺跡 第3次	633	323	2-2区 F52	—	2方形周溝基 大セクション1層	弥生土器	広口壺	口縁部	20%	全体に磨滅して著しいため調整不確、弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元	
1002 国105	-	平井遺跡 第3次	577	82	1-2区 F52	第3-2層	—	弥生土器	直口壺	口縁部	15%	全体に磨滅して著しいため調整不確、弥生時代中期紀伊V-3様式、反転復元	
1003 国105	-	平井遺跡 第3次	574	77	1-2区 F52	第3-2層	—	弥生土器	直口壺	口縁部	17%	全体に磨滅して著しいため調整不確、弥生時代中期紀伊V-3様式、反転復元	
1004 国105	-	平井遺跡 第3次	725	124	2-2区 F53-4	側溝 第3-2層	—	弥生土器	直口壺	口縁部	5%	全体に磨滅して著しいため調整不確、弥生時代中期紀伊V-3様式、反転復元	
1005 国105	99	平井遺跡 第3次	713	120	2-2区	機械廻所	—	弥生土器	直口壺	口縁部	30%	全体に磨滅して著しいため調整不確、弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元	
1006 国105	99	平井遺跡 第3次	609	178	1-2区 F52	サブトレ 大セクション 第4-2層	—	弥生土器	直口壺	口縁部	50%	外側底部直下に擦痕擴散状の痕跡有り、全体に剝離、磨滅して著しいため調査不明確、外側底部に矢羽根模様の縫合き文様有り、弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元	
1007 国105	99	平井遺跡 第3次	634	323	2-2区 F52	—	2方形周溝基 大セクション1層	弥生土器	壺	頸部～ 肩部	25%	全体に磨滅して著しいため調査不明確、外側底部に矢羽根模様の縫合き文様有り、弥生時代中期紀伊V-2様式、反転復元	
1008 国105	99	平井遺跡 第3次	583	4	1-2区	機械廻所	2	—	弥生土器	段状 口縁壺	口縁部	15%	全体に磨滅して著しいため調査不明確、弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
1009 国105	99	平井遺跡 第3次	643	323	2-2区F52 2-2区F53	—	2方形周溝基 大セクション1層 2方形周溝基	弥生土器	壺	口縁部～ 肩部	30%	全体に磨滅して著しいため調整不正確、弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元	
1010 国105	-	平井遺跡 第3次	600	176	1-2区 F51	サブトレ 第3層	—	弥生土器	壺	口縁部～ 体部	20%	全体に磨滅して著しいため調査不明確、弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元	
1011 国105	-	平井遺跡 第3次	611	179	1-2区 F52	サブトレ	—	弥生土器	高环	脚部	25%	全体に磨滅して著しいため調査不明確、弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元	
1012 国105	-	平井遺跡 第3次	711	120	2-2区	機械廻所	—	弥生土器	壺	脚部	10%	全体に磨滅して著しいため調査不明確、弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元	
1013 国105	99	平井遺跡 第3次	576	80	1-2区 F52	第3-2層	—	弥生土器	短腹壺	口縁部～ 底部	99%	外側底部下から底部裏面にかけて擦痕、全体に磨滅して著しいため調査不明確、弥生時代後期紀伊V-4様式	
1014 国105	-	平井遺跡 第3次	610	174	1-2区 F425	サブトレ	—	弥生土器	高环	脚部	80%	全体に磨滅して著しいため調査不明確、弥生時代後期紀伊V-4様式、一部反転復元	
1015 国105	-	平井遺跡 第3次	587	6	1-2区 F4m25	側溝	—	弥生土器	高环	脚部	40%	全体に磨滅して著しいため調査不明確、弥生時代後期紀伊V-4様式、一部反転復元	
1016 国106	99	平井遺跡 第3次	575	77	1-2区 F52	第3-2層	—	須恵器	壺	口縁部	98%	内側全面に凹凸付する、ロクロ回転方式付する、ロクロ回転方式：右回り、陶器IV型式第2段階（田辺式M16式）	
1017 国106	99	平井遺跡 第3次	584	2	1-2区	機械廻所	—	須恵器	短腹壺	口縁部～ 肩部	15%	外表面底部以下に自然剥落付する、ロクロ回転方式：左回り、陶器IV型式第2段階（田辺式T16式）	
1018 国106	-	平井遺跡 第3次	561	75	1-2区 F4p23	難壺 第3層	—	須恵器	鉢	底部	60%	底面底面に凹凸付する、足跡から内側立ち上がりにかけたハケ調理跡付する、難壺形式でか、一部反転復元	
1019 国106	-	平井遺跡 第3次	563	40	1-2区 F4m25	第3層	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	45%	内側口縁部に凹凸付する、足跡から内側立ち上がりにかけたハケ調理跡付する、見込みにハケ調整跡が衝れる、全体に磨滅して著しいため調査不明確、難壺形式	
1020 国106	-	平井遺跡 第3次	565	11	1-2区 F4m25	側溝 第3層	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	30%	見込みにハケ調整跡が衝れる、全体に磨滅して著しいため調査不明確、難壺形式、反転復元	
1021 国106	-	平井遺跡 第3次	608	176	1-2区 F5j1	サブトレ 第3層	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	25%	全体に磨滅して著しいため調査不明確、定期代後期、反転復元	
1022 国106	-	平井遺跡 第3次	585	1	1-2区	機械廻所	—	土師器	皿	口縁部～ 底部	75%	全体に磨滅して著しいため調査不明確、定期代後期	
1023 国106	-	平井遺跡 第3次	568	40	1-2区 F4m25	第3層	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	100%	全体に磨滅して著しいため調査不明確、難壺形式	
1024 国106	-	平井遺跡 第3次	586	1	1-2区	機械廻所	—	土師器	小皿	口縁部～ 底部	85%	見込みにハケ調整跡が衝れる、全体に磨滅して著しいため調査不明確、定期代後期	
1025 国106	-	平井遺跡 第3次	614	217	1-2区 F4e21	—	21小穴	土師器	皿	口縁部～ 底部	60%	全体に磨滅して著しいため調査不明確、定期代後期、一部反転復元	
1026 国106	-	平井遺跡 第3次	612	217	1-2区 F5e21	—	21小穴	土師器	皿	口縁部～ 底部	30%	底面底面は斜面切り、全体に磨滅著しくしたため調査不明確、健全体で反転復元	
1027 国106	99	平井遺跡 第3次	578	76	1-2区 F5j1	第3-2層	—	瓦器	板	口縁部～ 底部(高台)	90%	内側立ち上がりはヘラミガキ見、込込正弦子の横模様り、全体に磨滅著しくしたため調査不明確、平安時代後期	
1028 国106	-	平井遺跡 第3次	581	76	1-2区 F5j1	第3-2層	—	瓦器	板	口縁部～ 底部(高台)	30%	全体に磨滅して著しいため調査不明確、見込みに連続輪郭の縦舟飾り有り、平安時代後期、一般反転復元	
1029 国106	-	平井遺跡 第3次	580	76	1-2区 F5j1	第3-2層	—	瓦器	板	口縁部～ 底部(高台)	85%	全体に磨滅して著しいため調査不明確、難壺形式の縦舟飾り、ヘラミガキ不不明、平安時代後期	

### 出土遺物一覽　主器・主製品・瓦類

既存率は、露示できた既存部位での割合

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 年 代	写真 版 面	遺 物 名	実 測 値 容 積 度 数 量	三 土 工 作 者 等 級 番 号	地 区 取 上 画	遺 物 場 所 地 理 位 置	遺 物 場 所 名 稱 及 其 他 特 徴	遺 物 種 類	基 礎	部 位	残 存 率	備 考
1061 国116	-	平井遺跡 第4次	824 411	6-1北区 F4x17	—	45土机	弥生土器	唐	口縫部～ 肩部	唐	口縫部～ 肩部	10%	全体に磨滅して著しいため調整不確。 弥生時代中期紀伊V-2様式、反転復元
1062 国116	-	平井遺跡 第4次	826 411	6-1北区 F4x17	—	45土机	弥生土器	高坏	脚台裾部	高坏	脚台裾部	70%	全体に磨滅して著しいため調整不確。 弥生時代中期紀伊V-2様式、反転復元
1063 国116	-	平井遺跡 第4次	828 416	6-1南区 F4x17	—	73土坑or溝	弥生土器	小型壺	口縫部～ 底部	唐	口縫部～ 底部	40%	外表面底部から底部底面にかけて墨斑有り、全体に磨滅して著しいため調整不確。 弥生時代中期紀伊V-2様式、反転復元
1064 国116	-	平井遺跡 第4次	799 503	6-2南区 F4x20	—	185小穴	弥生土器	壺形甕	脚部～ 体部	唐	脚部～ 体部	5%	全体に磨滅して著しいため調整不確。 弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
1065 国116	-	平井遺跡 第4次	800 298	6-2南区 F4x22	—	205土机	弥生土器	唐	口縫部～ 底部	唐	口縫部～ 底部	70%	外表面底部から底部底面にかけて墨斑有り、外表面全体に墨斑有り、全体に磨滅して著しいため調整不確。弥生時代中期紀伊V-1様式、一部反転復元
1066 国116	100	平井遺跡 第4次	779 298	6-2北区 F4x22	—	205土机	弥生土器	唐	口縫部～ 体部	唐	口縫部～ 体部	10%	全体に磨滅して著しいため調整不確。弥生時代中期紀伊V-3様式、反転復元
1067 国116	100	平井遺跡 第4次	795 500	6-2北区 F4x20	—	136溝	弥生土器	広口壺	口縫部	唐	口縫部	15%	全体に磨滅して著しいため調整不確。文様不規、弥生時代中期紀伊V-3様式、反転復元
1068 国116	-	平井遺跡 第4次	796 501	6-1南区 F4x20	—	136溝	弥生土器	高坏	脚部基部	唐	脚部基部	85%	全体に磨滅して著しいため調整不確。弥生時代中期紀伊V-2様式か、一部反転復元
1069 国116	-	平井遺跡 第4次	829 418	6-1南区 F4x17	—	74小穴	弥生土器	唐	口縫部～ 体部	唐	口縫部～ 体部	20%	外表面体部の一部に墨斑有りする。全体に磨滅して著しいため調整不確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
1070 国116	-	平井遺跡 第4次	783 242	6-2東区 F4x21	—	123溝	弥生土器	広口壺	口縫部	唐	口縫部	20%	全体に磨滅して著しいため調整不確。弥生時代後期紀伊V-1様式、反転復元
1071 国116	-	平井遺跡 第4次	780 236	6-2南区 F4x22	—	123溝	弥生土器	広口壺	口縫部	唐	口縫部	10%	全体に磨滅して著しいため調整不確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
1072 国116	-	平井遺跡 第4次	759 206	6-1北区 F4x14	—	81小穴	弥生土器	鉢	口縫部～ 体部	唐	口縫部～ 体部	5%	内表面底部から底部底面にかけて墨斑有り、全体に磨滅して著しいため調整不確。弥生時代後期紀伊V-3様式、反転復元
1073 国117	-	平井遺跡 第4次	781 236	6-2南区 F4x22	—	123溝	弥生土器	壺	口縫部～ 体部	唐	口縫部～ 体部	10%	全体に磨滅して著しいため調整不確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
1074 国117	-	平井遺跡 第4次	782 240	6-2南区 F4x20	—	123溝	弥生土器	脚台	脚部～ 底部	唐	脚部～ 底部	15%	全体に磨滅して著しいため調整不確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
1075 国117	-	平井遺跡 第4次	794 484	6-1南区 F4x18	—	128溝	弥生土器	唐	口縫部	唐	口縫部	10%	全体に磨滅して著しいため調整・文様不明確。弥生時代中期紀伊V-1様式、反転復元
1076 国117	-	平井遺跡 第4次	793 482	6-1南区 F4x18	—	128溝	弥生土器	高坏	坏部	唐	坏部	10%	全体に削痕・崩落して著しいため調整不確。弥生時代後期紀伊V-3様式か、反転復元
1077 国117	100	平井遺跡 第4次	792 479	6-1南区 F4x-y19	—	128溝	弥生土器	高坏	脚部柱状部	唐	脚部柱状部	90%	全体に磨滅して著しいため調整不確。弥生時代中期紀伊V-1様式
1078 国117	100	平井遺跡 第4次	791 474	6-1南区 F4x17	—	127溝	土師器	二重 口縫部	口縫部	唐	口縫部	15%	全体に削痕・崩落して著しいため調整不確。文様不明、古代的鉄器と瓦式行脚古期反転復元
1079 国117	-	平井遺跡 第4次	790 474	6-1南区 F4x17	—	127溝	土師器	高坏	脚台部	唐	脚台部	60%	全体に削痕・崩落して著しいため調整不確。古代的鉄器と瓦式行脚古期反転復元
1080 国117	100	平井遺跡 第4次	775 214	6-2南区 F4x21	—	93溝	土師器	唐	口縫部～ 体部	唐	口縫部～ 体部	30%	全体に磨滅がみるため調整不確。布式行脚新規断頭、反転復元
1081 国117	101	平井遺跡 第4次	801 324	6-2南区 F4x22	—	63横六式石室 取上1	土師器	丸底 短縫部	口縫部～ 底部	唐	口縫部～ 底部	99%	外表面全体が底に墨斑有りする。全体に削痕・崩落して著しいため調整不確。古代的鉄器と瓦式行脚第5段頭(田辺TK209型式)、一部反転復元
1082 国117	101	平井遺跡 第4次	802 325	6-2南区 F4x22	—	63横六式石室 取上2	土師器	丸底 短縫部	口縫部～ 底部	唐	口縫部～ 底部	99%	全体に削痕・崩落して著しいため調整不確。文様不明、古代的鉄器
1083 国117	101	平井遺跡 第4次	807 328	6-2南区 F4x22	—	63横六式石室 取上5 石と岩の 組合せ	須恵器	脚台付 短縫部	脚部	脚台付	脚台付	50%	外表面全体の一部に墨斑有りする。ロクロ回転方向：右回り、陶器II型式5段頭(田辺TK209型式)、一部反転復元
1084 国117	101	平井遺跡 第4次	806 319 315 317	6-2南区 F4x22	—	63横六式石室 取前1 63横六式石室	須恵器	高坏	口縫部～ 脚台部	脚台付	脚台付	90%	外表面全体の一部に墨斑有りする。ロクロ回転方向：右回り、陶器II型式5段頭(田辺TK209型式)
1085 国117	101	平井遺跡 第4次	805 327	6-2南区 F4x22	—	63横六式石室 取上4	須恵器	高坏	口縫部～ 脚台部	脚台付	脚台付	98%	外表面全体が底より上位に自然釉厚く付着する。ロクロ回転方向：右回り、陶器II型式5段頭(田辺TK209型式)
1086 国117	101	平井遺跡 第4次	808 326	6-2南区 F4x22	—	63横六式石室 取上3	須恵器	平瓶	口縫部～ 脚台部	脚台付	脚台付	98%	外表面全体が底より上位に自然釉厚く付着する。ロクロ回転方向：左回り、陶器II型式5段頭(田辺TK209型式)
1087 国117	101	平井遺跡 第4次	823 356	6-2南区 F4x24	—	85横六式石室 取上3	土師器	丸底 粗縫部	口縫部～ 底部	脚台付	脚台付	99%	外表面口縫部と体部に墨斑有り、全体に磨滅して著しいため調整不確。古時代鉄器
1088 国117	102	平井遺跡 第4次	816 352	6-2南区 F4x24	—	85横六式石室 底下3層	土師器	高坏	脚部～ 底部	脚台付	脚台付	55%	全体に磨滅して著しいため調整不確。古時代鉄器
1089 国117	101	平井遺跡 第4次	821 358	6-2南区 F4x24	—	85横六式石室 取上5	須恵器	高坏	口縫部～ 底部	脚台付	脚台付	100%	底面墨斑が軒轅になり、ロクロ回転方向：左回り、陶器II型式5段頭(田辺TK209型式)
1090 国117	101	平井遺跡 第4次	822 354 522 523	6-2南区F4x24 6-2南区F4x24	—	85横六式石室 取上5 85横六式石室 -4第3層	須恵器	高坏	口縫部～ 底部	脚台付	脚台付	95%	外表面全体に自然釉厚く付着する。底盤は墨斑をうきり、口縫部の墨斑をうきり、ロクロ回転方向：右回り、陶器II型式6段頭(田辺TK79型式)

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋蔵 番号	写真 版図	遺物名 調査次数	実測値 参考値	出土標 記番号	地区 取上区画	遺構面 堆積層位	遺構番号 種類 発現部位	遺物種類	基部	部位	残存率	備考
1091	国117	101	平井遺跡 第4次	820	355	6-2南北 F4/24	—	85機六式石室 玄室下層	須恵器	壺蓋	天井部～ 口縫部	100%	天井部外面は回転へラケザリ。天井部 外壁は墨書きらしい。ロクロ回転方向： 右回り、陶器Ⅱ型式第6段階(田辺TK79 型式)、陶器Ⅲ型式第1段階のもの身の可 能性もあり。
1092	国117	102	平井遺跡 第4次	818	352 517	6-2南北 F4/24 6-2南北	—	85機六式石室 玄室下層	須恵器	壺蓋	天井部～ 口縫部	30%	内全体に自然輪廓で薄く付着する。 ロクロ回転方向：右回り、陶器Ⅱ型 式第5段階(田辺TK209型式)、反転復 元。
1093	国117	102	平井遺跡 第4次	819	357 539 523 524 525	6-2南北 F4/24 6-2南北 F4/24 6-2南北 F4/24 6-2南北 F4/24	—	85機六式石室 玄室上4 第3層 -4第3層 -5第2層	須恵器	脚台付音	口縫部～ 脚台部	90%	ロクロ回転方向：右回り、陶器Ⅱ型式 第6段階(田辺TK79型式)
1094	国117	—	平井遺跡 第4次	817	352	6-2南北 F4/24	—	85機六式石室 玄室下層第3層	須恵器	脚台付音	脚台板部	25%	外全体に自然輪廓で付着する。ロク ロクロ回転方向：右回り、陶器Ⅱ型式第5 段階(田辺TK209型式)、反転復元。
1095	国117	—	平井遺跡 第4次	813	360	6-2南北 F4/24	—	85機六式石室 被出部	土師器	小皿	口縫部～ 底部	95%	全体に刻痕、磨滅微弱で著しいため調 整不明、鍛冶時代。
1096	国117	—	平井遺跡 第4次	803	332	6-2南北 F4/24	—	63機六式石室	瓦器	檐	口縫部～ 高台部	20%	焼成遺存はやや軟質化。全体に磨滅微 弱で著しいため調整不明確、鍛冶時代、 反転復元。
1097	国117	—	平井遺跡 第4次	814	360	6-2南北 F4/24	—	85機六式石室 被出部	瓦器	小皿	口縫部～ 底部	35%	焼成遺存はやや軟質化。全体に磨滅微 弱で著しいため調整不明確、鍛冶時代、 反転復元。
1098	国117	—	平井遺跡 第4次	815	360	6-2南北 F4/24	—	85機六式石室 被出部	瓦器	檐	口縫部～ 底部(高台)	25%	焼成遺存はやや軟質化。全体に磨滅微 弱で著しいため調整不明確、鍛冶時代、一部 反転復元。
1099	国117	103	平井遺跡 第4次	812	359	6-2南北 F4/24	—	85機六式石室 被出部	瓦質土器	漆鉢	口縫部	10%	全体に磨滅がみのため調整不明確、鍛 冶時代、反転復元。
1100	国117	103	平井遺跡 第4次	811	359	6-2南北 F4/24	—	85機六式石室 被出部	無物陶器	漆鉢	口縫部～ 体部	14%	ロクロ回転方向：右回り、樂中世6a 期(開創V期)、反転復元。
1101	国118	—	平井遺跡 第4次	778	287	6-2南北 F4/25	—	183土坑	土師器	長胴甕	口縫部～ 體部	20%	全体に磨滅がみのため調整不明確、古 墳時代後半、反転復元。
1102	国118	102	平井遺跡 第4次	777	301 300	6-2南北 F4/24	—	11土坑 (石室?)	須恵器	瓶	口縫部～ 底部	90%	外表面縁部から底面まで片側面に 自然輪廓で付着する。ロクロ回転方 向：左回り、陶器Ⅱ型式第5段階(田辺 TK209型式)、反転復元。
1103	国118	102	平井遺跡 第4次	756	314 306	6-2南北 F4/21	—	29土坑取上4 29土坑	土師器	壺	口縫部～ 底部	60%	外全体から底面まで片側面にかけて 自然輪廓で付着する。ロクロ回転方 向：左回り、陶器Ⅱ型式第5段階(田辺 TK209型式)、反転復元。
1104	国118	102	平井遺跡 第4次	755	311	6-2北区 F4/21	—	29土坑 取上1	須恵器	平瓶	口縫部～ 體部	60%	内口縫部から外口縫部、腹部にか けて自然輪廓で付着する。ロクロ回転 方向：左回り、陶器Ⅱ型式第2段階(田 辺TK46型式)。
1105	国118	102	平井遺跡 第4次	757	310 309	6-2北区 F4/21	—	29土坑取上3 29土坑 29土坑	須恵器	横瓶	口縫部～ 底部	85%	内全体部と脚部に自然輪廓で付着する。 ロクロ回転方向：左回り、陶器Ⅲ型式 第2段階(田辺TK46型式)。
1106	国118	102	平井遺跡 第4次	754	312 310 306	6-2北区 F4/21 6-2北区 F4/21 6-2北区 F4/21	—	29土坑取上2 29土坑 29土坑	須恵器	壺	口縫部～ 底部	45%	内口縫部から外口縫部、腹部にか けて自然輪廓で付着する。ロクロ回転 方向：左回り、陶器Ⅱ型式第2段階(田 辺TK46型式)。
1107	国118	—	平井遺跡 第4次	786	248	6-2南北 F4/25	—	141溝	土師器	壺	口縫部～ 底部	10%	全体に磨滅がみのため調整不明確、 奈良時代、反転復元。
1108	国118	—	平井遺跡 第4次	785	250	6-2南北 F4/24	—	141溝	土師器	壺	口縫部～ 体部	5%	ロクロ回転方向：左回り、堅式不明 反転復元。細部のめ口底に引き裂き不 明。
1109	国118	—	平井遺跡 第4次	788	251	6-2南北 F4/24	—	141溝	須恵器 (脚台付)	口縫部	—	5%	内口縫部全体、他の約半分に自然 輪廓で付着する。ロクロ回転方向：左 回り、陶器Ⅱ型式第5段階(田辺TK209 型式)、一部反転復元。
1110	国118	—	平井遺跡 第4次	787	250	6-2南北 F4/24	—	141溝	須恵器	長胴甕	口縫部	75%	内全体に自然輪廓で付着する。ロクロ 回転方向：左回り、陶器Ⅱ型式第2段階 (田辺TK46型式)、一部反転復元。
1111	国118	—	平井遺跡 第4次	789	252	6-2南北 F4/24	—	141溝	須恵器	壺蓋	脚台部	80%	内全体に自然輪廓で付着する。ロクロ 回転方向：右回り、陶器Ⅱ型式第5段階 (田辺TK209型式)。
1112	国118	—	平井遺跡 第4次	744	144	6-2北区 F4/23	—	9土坑	土師器	皿	口縫部～ 体部	8%	内全体に磨滅がみのため調整不明確、 奈良時代、反転復元。
1113	国119	—	平井遺跡 第4次	752	147	6-2北区 F4/24	—	9土坑	土師器	皿	口縫部～ 底部	25%	内全体に磨滅がみのため調整不明確、 奈良時代。
1114	国119	103	平井遺跡 第4次	746	146	6-2北区 F4/24	—	9土坑	土師器	皿	口縫部～ 体部	30%	内全体に磨滅がみのため調整不明確、 奈良時代。
1115	国119	—	平井遺跡 第4次	753	147	6-2北区 F4/24	—	9土坑	土師器	皿	口縫部～ 体部	20%	内全体に磨滅がみのため調整不明確、 奈良時代。
1116	国119	103	平井遺跡 第4次	748	146	6-2北区 F4/24	—	9土坑	土師器	小皿	口縫部～ 底部	95%	内全体に歪みややわらかい。全体に磨 滅がみのため調整不明確、鍛冶時代。
1117	国119	103	平井遺跡 第4次	742	144	6-2北区 F4/23	—	9土坑	土師器	小皿	口縫部～ 底部	35%	内全体に歪みややわらかい。全体に磨 滅がみのため調整不明確、鍛冶時代。
1118	国119	—	平井遺跡 第4次	749	146	6-2北区 F4/24	—	9土坑	土師器	小皿	口縫部～ 底部	25%	内全体に磨滅がみのため調整不明確、 鍛冶時代、反転復元。
1119	国119	103	平井遺跡 第4次	743	144	6-2北区 F4/23	—	9土坑	土師器	小皿	口縫部～ 底部	70%	内全体に磨滅がみのため調整不明確、 鍛冶時代。
1120	国119	—	平井遺跡 第4次	745	144	6-2北区 F4/23	—	9土坑	瓦器	檐	口縫部～ 体部	10%	焼成遺存はやや軟質化。全体に歪みやや わらかいため口底に歪みややわらかい。

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 年 代	写真 版 面	遺物名 別名	実測値 寸法 参考値	三工種 分類 参考値	地区 取上区画	遺構面 堆積層位	遺構名 堆積 層位	遺物種類	基盤	部位	残存率	備考
1121 国119	-	平井遺跡 第4次	750	146	6-2北区 F4n24	—	9土机	瓦器	檐	口縁部～ 全体	20%	全体に磨滅著しいため調整不正確。縫合時代、反転復元	
1122 国119	103	平井遺跡 第4次	751	146	6-2北区 F4n24	—	9土机	瓦器	檐	口縁部～ 全体	35%	被底遺存はやや良好、全体に磨滅著しいため調整不正確。縫合時代、一部反転復元	
1123 国119	103	平井遺跡 第4次	741	144	6-2北区 F4n23	—	9土机	瓦器	小口	口縁部～ 全体	70%	被底遺存はやや良好、全体に歪みや 変形著しい、全体に磨滅著しいため調整不正確。縫合時代、一部反転復元	
1124 国119	103	平井遺跡 第4次	747	146	6-2北区 F4n24	—	9土机	瓦器	小口	口縁部～ 全体	9%	被底遺存はやや軟質化。全体に磨滅著 しいため調整不正確。縫合時代	
1125 国119	-	平井遺跡 第4次	810	338	6-2北区 F4n22	—	84腰群	瓦器	檐	口縁部～ 全体	25%	被底遺存はやや軟質化。全体に磨滅著 しいため調整不正確。縫合時代、反転復元	
1126 国119	-	平井遺跡 第4次	809	336	6-2北区 F4n22	—	84腰群	瓦器	小口	口縁部～ 底部	95%	被底遺存はやや良好、口縁部に歪み著 しい、縫合時代	
1127 国119	-	平井遺跡 第4次	763	149	6-2北区 F4n24	—	91土机	土器器	皿	口縁部～ 底部	60%	全体に磨滅著しいため調整不正確。縫合 時代	
1128 国119	-	平井遺跡 第4次	764	150	6-2北区 F4n25	—	91土机	瓦器	檐	口縁部～ 全体	28%	全体に磨滅著しいため調整不正確、全 体歪み著しいため縫合不正確。縫合時代、 反転復元、全体に歪み著しいため口縁不 正確	
1129 国119	-	平井遺跡 第4次	761	149	6-2北区 F4n24	—	91土机	土器器	小口	口縁部～ 底部	80%	全体に歪み著しい、全体に磨滅著 しいため調整不正確。縫合時代	
1130 国119	-	平井遺跡 第4次	762	149	6-2北区 F4n24	—	91土机	土器器	小口	口縁部～ 底部	28%	全体に磨滅著みのため調整不正確、全 体歪み著しいため縫合不正確。縫合時代、 反転復元	
1131 国119	-	平井遺跡 第4次	760	208	6-2北区 F4n24	—	90土机	土器器	土壺	口縁部～ 肩部	5%	外側口縁部以下に偏厚付する、全 体に磨滅著しいため調整不正確。縫合 時代、反転復元	
1132 国119	103	平井遺跡 第4次	769	196	6-2北区 F4n23	—	66土机	土器器	小口	口縁部～ 底部	50%	全体に磨滅著しいため調整不正確、全 体歪み著しいため縫合不正確。縫合 時代、反転復元	
1133 国119	103	平井遺跡 第4次	771	198	6-2北区 F4n23	—	66土机	土器器	皿	口縁部～ 全体	50%	全体に磨滅著しいため調整不正確、縫 合時代、一部反転復元	
1134 国119	-	平井遺跡 第4次	770	193	6-2北区 F4n22	—	65.5机	東西セクション	土器器	口縁部～ 底部	25%	全体に磨滅著しいため調整不正確、全 体歪み著しいため縫合不正確。縫合 時代、反転復元	
1135 国119	103	平井遺跡 第4次	772	198	6-2北区 F4n23	—	66土机	南北セクション	土器器	口縁部～ 全体	35%	全体に磨滅著みのため調整不正確、全 体歪み著しいため縫合不正確。口 縁部やや重つた口付近	
1136 国119	103	平井遺跡 第4次	773	195	6-2北区 F4n23	—	66土机	瓦	丸瓦	広腹端	50%	縫合時代	
1137 国119	103	平井遺跡 第4次	774	195	6-2北区 F4n23	—	66土机	瓦	軒平瓦	瓦当	25%	縫合時代	
1138 国119	103	平井遺跡 第4次	840	345	6-2北区 F4n22	—	89土器器上部 取上7 取上8	土器器	皿	口縁部～ 底部	90%	口縁部やや歪み有り、全体に剥離・磨 滅著しいため調整不正確。見込みに磨 滅著有り、室町時代	
1139 国119	103	平井遺跡 第4次	832	340	6-2北区 F4n22	—	89土器器上部 取上2	土器器	皿	口縁部～ 底部	70%	全体に磨滅著しいため調整不正確、室 町時代、一部反転復元	
1140 国119	103	平井遺跡 第4次	830	339	6-2北区 F4n22	—	89土器器上部 取上1	土器器	皿	口縁部～ 底部	90%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不 正確。室町時代	
1141 国119	103	平井遺跡 第4次	838	343	6-2北区 F4n22	—	89土器器上部 取上5	土器器	皿	口縁部～ 底部	95%	口縁部やや歪み有り、全体に剥離・磨 滅著めで著しいため調整不正確。室町 時代	
1142 国119	103	平井遺跡 第4次	831	339	6-2北区 F4n22	—	89土器器上部 取上1	土器器	皿	口縁部～ 底部	50%	全体に磨滅著しいため調整不正確、見 込みに墨書き有り、室町時代、反転復元	
1143 国119	103	平井遺跡 第4次	841	346	6-2北区 F4n22	—	89土器器上部 取上5 上7	土器器	皿	口縁部～ 底部	85%	全体に磨滅著しいため調整不正確、室 町時代	
1144 国119	103	平井遺跡 第4次	834	341	6-2北区 F4n22	—	89土器器上部 取上5 上7 上8	土器器	皿	口縁部～ 底部	100%	口縁部やや歪み有り、全体に剥離・磨 滅著めで著しいため調整不正確。室町 時代	
1145 国119	-	平井遺跡 第4次	837	343	6-2北区 F4n22	—	89土器器上部 取上5	土器器	皿	口縁部～ 底部	95%	口縁部やや歪み有り、全体に剥離・磨 滅著めで著しいため調整不正確。室町 時代	
1146 国119	-	平井遺跡 第4次	833	340	6-2北区 F4n22	—	89土器器上部 取上2	土器器	皿	口縁部～ 底部	70%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不 正確。室町時代、一部反転復元	
1147 国119	-	平井遺跡 第4次	835	341	6-2北区 F4n22	—	89土器器上部 取上3 上2	土器器	皿	口縁部～ 底部	70%	全体に剥離・磨滅著しいため調整不 正確。室町時代	
1148 国119	103	平井遺跡 第4次	839	344	6-2北区 F4n22	—	89土器器上部 取上5	土器器	小口	口縁部～ 底部	95%	口縁部やや歪み有り、全体に剥離・磨 滅著めで著しいため調整不正確。室町 時代	
1149 国119	-	平井遺跡 第4次	836	342	6-2北区 F4n22	—	89土器器上部 取上4	土器器	小口	口縁部～ 底部	50%	全体に剥離・磨滅著めで著しいため調 整不正確。室町時代	
1150 国119	103	平井遺跡 第4次	776	222	6-2北区 F4n22	—	102土机	無輪陶器 備前	壹	口縁部～ 全体	75%	外側全体に自然輪状・右回り、掌間中 指幅(約2mm)、一部反転復元	
1151 国126	104	平井2号 第1次	901	1078	1-1裏区 B7h9	—	1土机-A	土器器	小型壹	口縁部～ 底部	98%	全体に磨滅著めて著しいため調整不 正確。古墳時代中期	
1152 国126	104	平井2号 第1次	912	1055	1-1裏区 B7h9	—	1土机-I	土器器	小型壹	口縁部～ 底部	35%	全体に磨滅著めて著しいため調整不 正確。古墳時代中期、反転復元	
1153 国126	-	平井2号 第1次	910	1074	1-1裏区 B7h9	—	1土机-L	土器器	壹	口縁部～ 全体	25%	全体に剥離・磨滅著めて著しいため調 整不正確、古墳時代中期、反転復元	
1154 国126	-	平井2号 第1次	911	1072	1-1裏区 B7h9	—	1土机-L	土器器	壹	口縁部～ 全体	40%	全体に剥離・磨滅著めて著しいため調 整不正確、古墳時代中期、反転復元	
1155 国126	-	平井2号 第1次	904	1033	1-1裏区 B7h9	—	1土机-E1 第1層	土器器	壹	口縁部～ 底部	15%	全体に剥離・磨滅著めて著しいため調 整不正確、古墳時代中期、反転復元	

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

遺物 番号	埋 蔵 年 代	写 真 版 面 番 号	真 跡 名 称	実 物 番 号	三 土 器 物 類 別 番 号	地 区 取 扱 方 面	遺 構 面 堆 積 層 位	遺 物 種 類	基 礎	部 位	残 存 率	備 考	当該存率は、開示できた持存部位での割合。	
													実物番号	堆積層位番号
1156	國126	-	平井三重輪 第1次	909	1069	1-2東区 B7h9	—	1土坑-S2 第2層	土器部	裏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。反転復元	15%		
1157	國126	104	平井三重輪 第1次	913	1029	1-1東区 B7h9	—	1土坑-D	土器部	裏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。反転復元	30%		
1158	國126	-	平井三重輪 第1次	903	1072	1-1東区 B7h9	—	1土坑-J	土器部	裏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。反転復元	9%		
1159	國126	104	平井三重輪 第1次	905	1015	1-1東区 B7h9	—	1土坑-1 第1-2層	土器部	裏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。反転復元	25%		
1160	國126	-	平井三重輪 第1次	908	1068	1-2東区 B7h9	—	1土坑-S2 第1層	土器部	裏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。反転復元	15%		
1161	國126	-	平井三重輪 第1次	906	1054	1-1東区 B7h9	—	1土坑-N2 第1層	土器部	裏(面)	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。反転復元	10%		
1162	國126	-	平井三重輪 第1次	907	1001	1-1東区 B7h9	—	1土坑-6 第1層	土器部	裏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。反転復元	15%		
1163	國126	104	平井三重輪 第1次	902	1030	1-2東区 B7h9	—	1土坑-K	土器部	裏	全体から底部までにかけて保護なく付 着する。全体に磨滅で著しいため調 整不明。古墳時代中期。一部反転復元	80%		
1164	國126	-	平井三重輪 第1次	916	1041	1-1東区 B7h9	—	1土坑-N3 第1層	土器部	坏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。反転復元	25%		
1165	國126	104	平井三重輪 第1次	924	1012	1-2東区 B7h9	—	1土坑-4 第1-2層	土器部	坏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。反転復元	50%		
1166	國126	104	平井三重輪 第1次	921	1001	1-1東区 B7h9	—	1土坑-6 第1層	土器部	裏坏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。一部反転復元	40%		
1167	國126	104	平井三重輪 第1次	920	1001	1-1東区 B7h9	—	1土坑-6 第1層	土器部	裏坏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。一部反転復元	50%		
1168	國126	-	平井三重輪 第1次	922	1013	1-1東区 B7h9	—	1土坑-7 第1-2層	土器部	裏柱部	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。一部反転復元	90%		
1169	國126	-	平井三重輪 第1次	917	1008	1-2東区 B7h9	—	1土坑-4 第1層	土器部	裏坏	口縁部～ 全体に磨滅で著しいため調整不規 古墳時代中期	80%		
1170	國126	-	平井三重輪 第1次	923	1060	1-1東区 B7h9	—	1土坑-E1 第2層	土器部	裏柱部	口縁部～ 全体に磨滅で著しいため調整不規 古墳時代中期。一部反転復元	90%		
1171	國126	-	平井三重輪 第1次	927	1072	1-1東区 B7h9	—	1土坑-J	土器部	裏坏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。一部反転復元	60%		
1172	國126	-	平井三重輪 第1次	915	1016	1-2東区 B7h9	—	1土坑-2 第1-2層	土器部	裏坏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。反転復元	80%		
1173	國126	-	平井三重輪 第1次	918	1004	1-2東区 B7h9	—	1土坑-B5 第1-2層	土器部	裏坏	口縁部～ 全体に磨滅で著しいため調整不規 古墳時代中期	30%		
1174	國126	-	平井三重輪 第1次	919	1001	1-1東区 B7h9	—	1土坑-E 第1層	土器部	裏坏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。一部反転復元	47%		
1175	國126	104	平井三重輪 第1次	925	1014	1-2東区 B7h9	—	1土坑-6 第1層	土器部	裏柱部	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。一部反転復元	60%		
1176	國126	104	平井三重輪 第1次	926	1051	1-1東区 B7h9	—	1土坑-F	土器部	裏柱部	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。一部反転復元	65%		
1177	國126	-	平井三重輪 第1次	914	1060	1-1東区 B7h9	—	1土坑-E1 第2層	土器部	裏	口縁部～ 全体に刺繡・磨滅焼で著しいため調 整不明。古墳時代中期。反転復元	15%		
1178	國126	104	平井三重輪 第1次	939	1053	1-2東区 B7h9	—	1土坑-E2 第2層	土器部	裏柱部	口縁部～ 全体共に自然釉薬で付着する。特に 内面口縁部に自然釉薬で付着する。内 面全体部は工具痕で底面に磨りぬかしが無 くある。外表面部は棒状の柱子状のタキの 後に磨りぬかしがある。クロコ回転 方式：左回り、陶器：I型式第1段階(田辺 T7K3型式)、反転復元。細片 のため口縫不明規	70%		
1179	國126	-	平井三重輪 第1次	932	1061	1-1東区 B7h9	—	1土坑-E2 第2層	土器部	広口音	口縁部～ 全体共に自然釉薬で付着する。特に 内面口縁部に自然釉薬で付着する。内 面全体部は工具痕で底面に磨りぬかしが無 くある。外表面部は棒状の柱子状のタキの 後に磨りぬかしがある。クロコ回転 方式：右回り、陶器：I型式第1段階(田辺 T7K3型式)、反転復元	5%		
1180	國126	104	平井三重輪 第1次	931	1004	1-2東区 B7h9	—	1土坑-B 第1-2層 1土坑	土器部	直口音	口縁部～ 内面口縫部に自然釉薬で付着する。口 クロコ回転方式：左回り、陶器：I型式第 1段階(田辺TK73型式)、反転復元。	27%		
1181	國126	-	平井三重輪 第1次	930	1064	1-2東区 B7h9	—	1土坑-W2 第2層	土器部	広口音	口縁部～ 機械造形はやや軟弱である。ロクロ回転 方式：右回り、陶器：I型式第1段階(田辺 TK73型式)、反転復元。細片 のため口縫不明規	5%		
1182	國126	-	平井三重輪 第1次	934	1012	1-2東区 B7h9	—	1土坑-4 第1-2層	土器部	広口音	口縁部～ 内面口縫部に自然釉薬で付着する。ロ クロ回転方式：右回り、陶器：I型式第 1段階(田辺TK73型式)、反転復元。細片 のため口縫不明規	20%		
1183	國127	-	平井三重輪 第1次	933	1008	1-2東区 B7h9	—	1土坑-4 第1層	土器部	裏	口縁部～ 内面口縫部に自然釉薬で付着する。ロ クロ回転方式：右回り、陶器：I型式第 1段階(田辺TK73型式)、反転復元。細片 のため口縫不明規	5%		
1184	國127	105	平井三重輪 第1次	929	1073	1-1東区 B7h9	—	1土坑-J	土器部	裏坏	口縁部～ 内面口縫部に自然釉薬で付着する。ロ クロ回転方式：右回り、円錐透し孔 機械造形はやや軟弱である。ロクロ回転 方式：右回り、陶器：I型式第1段階(田辺 TK73型式)、反転復元	20%		
1185	國127	105	平井三重輪 第1次	928	1073	1-1東区 B7h9	—	1土坑-J	土器部	裏柱部	口縁部～ 内面全体に自然釉薬で付着する。ロ クロ回転方式：右回り、円錐透し孔 機械造形はやや軟弱である。ロクロ回転 方式：右回り、陶器：I型式第1段階(田辺 TK73型式)、反転復元	98%		

出土遺物一覽 土器・土製品・瓦類

高橋有事は、開示不能た株有額位での割合

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋蔵 番号	写真 版図	遺物名 調査次数	実測値 参考値	出土物 参考値	地区 取上区画	遺構面 堆積層位	遺構番号・種類 遺構面位	遺物種類	基部	部位	残存率	備考
1209	国128	106	平井Ⅲ遺跡 第1次	973	1080	1-1東区 B7j8	—	53柱穴-2	瓦器	楕	口縁部～ 底部	95%	口縁部の歪み著しい、全体に壊滅して著しいため調整不正確、内面立ち上がりに複数の太いラミガキが施される。内面裏面に不規則の絞り跡が僅か認められる。平安時代後期
1210	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	969	532	1-1区 B7j8	—	53柱穴 皿盛り	瓦器	楕	口縁部～ 底部	10%	全体に崩落して著しいため調整不正確、平安時代後期、反転復元
1211	国128	106	平井Ⅲ遺跡 第1次	975	1079	1-1東区 B7j8	—	59柱穴 取上1	須恵器	楕	口縁部～ 底部	30%	側面存存はや軟質化。底面部は粗い凹凸がある。ロクロ回転方式：左回り、内面裏面に複数の太いラミガキが施される。反転復元
1212	国128	106	平井Ⅲ遺跡 第1次	972	1082	1-2東区 B7h10	—	59柱穴 取上2	瓦器	楕	口縁部～ 底部	95%	口縁部や底面に歪み有る。全体に壊滅して著しいため調整不正確、内面裏面に複数の太いラミガキが施される。内面裏面に絞り跡が僅か認められる。平安時代後期
1213	国128	106	平井Ⅲ遺跡 第1次	974	1081	1-2東区 B7h10	—	59柱穴 取上1	瓦器	楕	口縁部～ 底部	90%	口縁部の歪み著しい、全体に壊滅して著しいため調整不正確、内面裏面共に横位の太いラミガキが施されるが歪曲のため不明確、内面裏面に縦文が施される。平安時代後期
1214	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	966	596	1-2区 B7h10	—	59柱穴	土器器	小皿	口縁部～ 底部	30%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、健倉時代、反転復元
1215	国128	106	平井Ⅲ遺跡 第1次	968	595	1-3区 B7s10	—	4土坑	土器器	皿	口縁部～ 底部	98%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、内面裏面共に横位の太いラミガキが施される。健倉時代
1216	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	961	450	1-3区 B7s10	—	5土坑	土器器	皿	口縁部～ 底部	30%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、健倉時代、一部反転復元
1217	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	967	678	1-3区 B7e11	—	124土坑	土器器	小皿	口縁部～ 底部	50%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、健倉時代、反転復元
1218	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	959	491	1-2区 B7h11	—	13溝	土器器	小皿	口縁部～ 底部	25%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、平安時代、反転復元
1219	国128	106	平井Ⅲ遺跡 第1次	960	483	1-3区B7h10	—	17溝	土器器	皿	口縁部～ 底部	30%	全体に削除、壊滅して著しいため誤認不正確、健倉時代、反転復元
1220	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	965	496	1-3区 B7h9	—	17溝	土器器	皿	口縁部～ 底部	30%	全体に削除、壊滅して著しいため誤認不正確、健倉時代、反転復元
1221	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	963	495	1-4区 B7h9	—	17溝	土器器	小皿	口縁部～ 底部	20%	全体に削除して著しいため調整不正確、健倉時代、反転復元
1222	国128	106	平井Ⅲ遺跡 第1次	962	484	1-3区 B7h11	—	17溝	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	60%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、健倉時代
1223	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	964	484	1-3区 B7h11	—	17溝	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	30%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、健倉時代、反転復元
1224	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	1002	244	1-4区 B7e8	第3-2層	—	土器器	甕	口縁部	20%	全体に削除、壊滅して著しいため誤認不正確、古墳時代の頃か、反転復元
1225	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	1004	269	1-1区 B7k9	第3-2層	—	須恵器	甕	口縁部～ 底部	30%	底面裏面は削除へ切り替わり、ロクロ回転方式：右回り、陶器Ⅱ式5段階解説(TK79式)、一部反転復元
1226	国128	106	平井Ⅲ遺跡 第1次	1003	244	1-4区 B7e8	第3-2層	—	須恵器	甕	口縁部～ 底部	40%	内面裏面共に自然縮締く付着する。ロクロ回転方式：左回り、陶器Ⅱ式5段階解説(TK79式)、一部反転復元
1227	国128	106	平井Ⅲ遺跡 第1次	1001	393	1-2区 B7m11	第3-2層	—	須恵器	甕	口縁部～ 底部	10%	内面裏面共に自然縮締く付着する。ロクロ回転方式：右回り、陶器Ⅱ式5段階解説(TK79式)、一部反転復元
1228	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	991	302	1-2区 B7h11	第3-2層	—	土器器	小皿	口縁部～ 底部	10%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、健倉時代、反転復元
1229	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	989	300	1-2区 B7g11	第3-2層	—	土器器	小皿	口縁部～ 底部	20%	全体に壊存はまま良好、健倉時代、反転復元
1230	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	988	293	1-2区 B7l10	第3-2層	—	土器器	小皿	口縁部～ 底部	20%	全体に壊存はまま良好、室町時代か、反転復元
1231	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	1008	281	1-1区 B7j8	第3-2層	—	瓦器	楕	口縁部～ 底部	10%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、平安時代後期、反転復元
1232	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	1005	281	1-1区 B7j8	第3-2層	—	瓦器	楕	口縁部～ 底部	45%	側面存存はや軟質化。全体に壊滅して著しいため調整不正確、平安時代後期、反転復元
1233	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	992	303	1区 B7e11	第3-2層	—	瓦器	楕	口縁部～ 底部	12%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、健倉時代、反転復元
1234	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	990	303	1区 B7e11	第3-2層	—	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	20%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、健倉時代、反転復元
1235	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	998	368	1-2区 B7j2	(第3-2層 (復合含む))	—	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	28%	側面存存はや軟質化。全体に壊滅して著しいため調整不正確、健倉時代、反転復元
1236	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	1006	298	1-1東区 B7j8	第3-2層	—	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	20%	側面存存はや軟質化。全体に壊滅して著しいため調整不正確、健倉時代、反転復元
1237	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	1000	380	1-2区 B7m11	第3-2層	—	土器器	土釜	口縁部	7%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、室町時代か、反転復元。照片のため口径不明
1238	国128	106	平井Ⅲ遺跡 第1次	999	376	1-2区 B7e12	第3-2層	—	土器器	土釜	口縁部～ 底部	12%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、室町時代か、反転復元
1239	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	1007	317	1-3区 B7e10	第3-2層	—	土器器	楕	口縁部	8%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、室町時代、反転復元。照片のため口径不明
1240	国128	—	平井Ⅲ遺跡 第1次	996	367	1-2区 B7h9	第3-2層	—	瓦質土器	楕	口縁部	6%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、室町時代、反転復元。照片のため口径不明
1241	国128	106	平井Ⅲ遺跡 第1次	993	358	1-2区 B7j10	第3-2層	—	瓦質土器	楕	口縁部～ 底部	15%	全体に壊滅して著しいため調整不正確、室町時代、反転復元

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋 蔵 年 代	写真 版 面	遺物名 実測値 容積 計数 次数	地区 取上区画	遺構面 堆積層位	遺構番号 確認 痕跡部位	遺物種類	基部	部位	残存率	備考	
1242 国129	-	平井Ⅱ 遺跡 第1次	995	361	1-2区 B7x9	第3-2層	——	須恵器	匣鉢	口縁部～ 体部	供成遺存はまさ良好。ロクロ回転方向：左回り、東播系第Ⅰ期第2段階、反転復元。絶対的ため口径不明確。	
1243 国129	106	平井Ⅱ 遺跡 第1次	997	368	1-2区 B7x12	第3-2層 (現立む)	——	無釉陶器 備前	匣鉢	口縁部	ロクロ回転方向：右回り、東播系第Ⅲ期第5段階、反転復元。絶対的ため口径不明確。	
1244 国129	-	平井Ⅱ 遺跡 第1次	994	361	1-2区 B7x9	第3-2層	——	土師器	甕状土罐	——	全體に磨滅してしまったため調整不正確。縫合時代か、長さ54.5cm・径10.0cm×1.1cm・重量7g。	
1245 国129	-	平井Ⅱ 遺跡 第1次	980	214	1-2区 B7x10	第3-1層	——	土師器	皿	口縁部～ 底部	20% 全体に磨滅してしまったため調整不正確。縫合時代か、反転復元。	
1246 国129	-	平井Ⅱ 遺跡 第1次	982	219	1-2区 B7x9	第3-1層	——	土師器	皿	口縁部～ 底部	18% 全体に磨滅してしまったため調整不正確。縫合時代か、反転復元。	
1247 国129	-	平井Ⅱ 遺跡 第1次	977	196	1-2区 B7x9	第3-1層	——	土師器	小皿	口縁部	15% 全体に磨滅してしまったため調整不正確。縫合時代か、反転復元。	
1248 国129	-	平井Ⅱ 遺跡 第1次	979	205	1-2区 B7x9	第3-1層	——	瓦器	楕	口縁部～ 底部	8% 全体に磨滅してしまったため調整不正確。縫合時代か、反転復元。	
1249 国129	106	平井Ⅱ 遺跡 第1次	987	429	1-2区 B7x11	第3-1層	——	土師器	甕状土罐	——	98% 全体に磨滅してしまったため調整不正確。長さ7.2cm・幅5.0cm・厚み5.0cm・重量(150g)。古縫合時代。	
1250 国129	-	平井Ⅱ 遺跡 第1次	981	216	1-2区 B7x10	第3-1層	——	瓦質土器	匣鉢	口縁部	5% 供成遺存はまさ良好。ロクロ回転方向：左回り、室町期後期第2段階、反転復元。絶対的ため口径不明確。	
1251 国129	106	平井Ⅱ 遺跡 第1次	985	226	1-2区 B7x11	第3-1層	——	瓦質土器	匣鉢	口縁部～ 体部	10% 供成遺存はやや軟質化。全体に磨滅してしまったため調整不正確。ロクロ回転方向：右回り、室町期後期第2段階、反転復元。絶対的ため口径不明確。	
1252 国129	-	平井Ⅱ 遺跡 第1次	978	202	1-3区 B7x10	第3-1層	——	須恵器	匣鉢	口縁部	— ロクロ回転方向：右回り、東播系第Ⅲ期第1段階、絶対的ため調査範囲のみ。	
1253 国129	-	平井Ⅱ 遺跡 第1次	976	197	1-3区 B7x9	第3-1層	——	須恵器	匣鉢	口縁部	7% 供成遺存はやや軟質化。ロクロ回転方向：左回り、室町期後期第1段階、反転復元。絶対的ため口径不明確。	
1254 国129	-	平井Ⅱ 遺跡 第1次	983	221	1k11区 B7k11	第3-1層	——	須恵器	匣鉢	口縁部～ 底部	7% ロクロ回転方向：右回り、東播系第Ⅲ期第2段階、反転復元。絶対的ため口径不明確。	
1255 国129	-	平井Ⅱ 遺跡 第1次	984	226	1-2区 B7x11	第3-1層	——	白磁	皿	口縁部	10% ロクロ回転方向：左回り、透孔口先げきタイプ。肥厚・鉄斑。反転復元。	
1256 国129	-	平井Ⅱ 遺跡 第1次	986	229	1-2区 B7x9	第3-1層	——	無釉陶器 備前	手盤	口縁部～ 底部	50% ロクロ回転方向：左回り、底部内側は回転角切り。縫合時代か、反転復元。	
1257 国134	-	平井Ⅱ 遺跡 第1次	1024	144	2区 C7x8	——	236溝	土師器	坏	口縁部	8% 全体に刻難・磨滅してしまったため調整不正確。古縫合時代から、反転復元。絶対的ため口径・縫合不明確。	
1258 国134	107	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1031	213	2区C7x9 2区C7x9	——	261土机	土師器	坏坏	坏部	90% 外面全體に自然陶輪付する。陶器1/3に磨痕跡あり。全体に刻難・磨滅してしまったため調整不正確。古縫合時代中期か、一部反転復元。	
1259 国134	107	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1027	200	2区 C7x8	——	244土坑-1	土師器	瓶	口縁部～ 体部	15% 全体に刻難・磨滅してしまったため調整不正確。古縫合時代中期か、反転復元。	
1260 国134	-	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1035	19	2区	——	側溝西	須恵器	壺	口縁部～ 肩部	15% ロクロ回転方向：左回り、式型不明、反転復元。	
1261 国134	107	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1028	168	2区 C7x9	——	240土坑-2	須恵器	壺	肩部	— 内面全體に自然陶輪付する。陶器1型式。側溝I型式。陶器I型式1段階(田辺TK73型式)。絶対的ため口断面のみ。	
1262 国134	107	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1029	169	2区C7x8 2区C7x8	第2層	——	240土坑-2	須恵器	壺	肩部	— 外面全體に自然陶輪付する。陶器I型式1段階(田辺TK73型式)。絶対的ため口断面のみ。
1263 国134	-	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1025	161	2区 C7b8	——	236溝	土師器	皿	口縁部	10% 全体に磨滅してしまったため調整不正確。縫合時代か、反転復元。	
1264 国134	-	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1026	163	2区 C7a8	——	236溝	瓦器	楕	口縁部	25% 全体に磨滅してしまったため調整不正確。縫合時代か、反転復元。絶対的ため口径不明確。	
1265 国134	-	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1023	116	3区 C7f11	——	228小穴	土師器	小皿	口縁部～ 底部	25% 全体に磨滅してしまったため調整不正確。縫合時代か、反転復元。	
1266 国134	-	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1022	97	2区 C7d9	——	221溝 セラシング	土師器	小皿	口縁部～ 底部	5% 全体に磨滅してしまったため調整不正確。縫合時代か、反転復元。絶対的ため口径不明確。	
1267 国134	-	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1032	22	2区 C7d8	第2層	——	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	15% 全体に磨滅してしまったため調整不正確。縫合時代か、反転復元。	
1268 国134	-	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1038	107	2区 C7d9	第3層	——	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	12% 供成遺存はやや軟質化。全体に磨滅してしまったため調整不正確。縫合時代か、反転復元。	
1269 国134	-	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1039	122	2区 C7a9	第3層	——	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	25% 供成遺存はやや軟質化。全体に磨滅してしまったため調整不正確。縫合時代か、反転復元。	
1270 国134	-	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1030	211	2区 C7e9	——	256溝	土師器	土釜	口縁部～ 肩部	7% 全体に磨滅してしまったため調整不正確。縫合時代か、反転復元。絶対的ため口径不明確。	
1271 国134	-	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1034	36	2区 C7a9	第2層	——	須恵器	匣鉢	口縁部	5% 口縁部周囲に自然陶輪付する。東播系第Ⅱ期第2段階、反転復元。絶対的ため口径・縫合不明確。	
1272 国134	-	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1033	33	2区 C7a-b8	第2層	——	須恵器	匣鉢	口縁部	6% 口縁部周囲に自然陶輪付する。東播系第Ⅱ期第2段階、反転復元。絶対的ため口径・縫合不明確。	
1273 国134	-	平井Ⅱ 遺跡 第2次	1036	103	2区 B7y8	第3層	——	須恵器	匣鉢	口縁部	5% 供成遺存はやや軟質化。ロクロ回転方向：右回り、東播系第Ⅲ期第1段階、反転復元。絶対的ため口径・縫合不明確。	

### 出土遺物一覽　主器・主製品・瓦類

高野在喜は、開示不全な権利制約での割合

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋蔵 番号	写真 版図	直通名 実測値 寸法	実測値 容積 寸法	三土器 番号	地区 取上区画	遺構面 堆積層位	遺構番号 確認 度	遺物種類	基盤	部位	残存率	備考
1303	国142	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1071	221	5北区 C7e4	—	067土坑 取上1	須恵器	匣鉢	口縁部～ 底部	20%	供成遺存はやや瓦質み。ロクロ回転 方式:石引目、東播系第三期第1段階。 反転復元
1304	国142	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1070	220	5北区 C7e4	—	067土坑	土器器	小皿	口縁部～ 底部	14%	全体にやや瓦質み。全体に磨滅著しいた め調整不正確。健倉時代、反転復元
1305	国142	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1069	210	5北区 C7e-14	—	049小穴	土器器	小皿	口縁部～ 底部	8%	全体にやや瓦質み。全体に磨滅著しいた め調整不正確。健倉時代、反転復元
1306	国142	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1079	272	5北区 C7e2	—	122小穴	土器器	小皿	口縁部～ 底部	50%	全体にやや瓦質み。全体に磨滅著しいた め調整不正確。平 安時代後期、一部反転復元
1307	国142	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1067	207	5北区 C7e4	—	045小穴	土器器	皿	口縁部～ 底部	10%	全体にやや瓦質み。全体に磨滅著しいた め調整不正確。健倉時代、反転復元
1308	国142	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1068	209	5北区 C7e4	—	048小穴	土器器	皿(环)	口縁部～ 底部	10%	全体にやや瓦質み。全体に磨滅著しいた め調整不正確。健倉時代、反転復元
1309	国142	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1063	38	4区 C7e15	—	30小穴	瓦器	椭	口縁部～ 底部	12%	全体にやや瓦質み。全体に磨滅著しいた め調整不正確。健倉時代、反転復元
1310	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1103	401	8区 O6m20-21	—	001溝 中層	土器器	小皿	口縁部～ 底部	30%	全体に磨滅著しいため調整不正確。健 倉時代、反転復元。口縁部の主のみた め不正確
1311	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1104	401	8区 O6m20-21	—	001溝 中層	土器器	小皿	口縁部～ 底部	80%	全体に磨滅著しいため調整不正確。健 倉時代、反転復元
1312	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1107	409	8区 O6e22	—	001溝 上層	瓦器	椭	口縁部～ 底部(高台)	30%	供成遺存はやや軟質化。全体に磨滅著 しいため調整。繪文不明。健倉時代、 反転復元
1313	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1102	400	8区 O6e21-22	—	001溝 中層	瓦器	椭	口縁部～ 底部(高台)	23%	供成遺存はやや軟質化。全体に磨滅著 しいため調整。繪文不明。内面凹凸 に連結跡の繪文跡有り。健倉時代、 反転復元
1314	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1098	143	7北区 C6m19	—	001溝 中層	瓦器	椭	口縁部～ 底部(高台)	25%	供成遺存はやや軟質化。全体に磨滅著 しいため調整。繪文不明。健倉時代、 反転復元
1315	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1101	400	8区 O6e21-22	—	001溝 中層	瓦器	椭	口縁部～ 底部(高台)	40%	供成遺存はやや軟質化。全体に磨滅著 しいため調整。繪文不明。健倉時代、 反転復元
1316	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1096	136	7北区 C6e18-19 O6n19-20	—	001溝	瓦器	椭	口縁部～ 底部	28%	供成遺存はやや軟質化。全体に磨滅著 しいため調整。繪文不明。高台判明。 健倉時代、反転復元
1317	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1106	401	8区 O6m20-21	—	001溝 中層	瓦器	椭	口縁部～ 底部	25%	供成遺存はやや軟質化。全体に磨滅著 しいため調整。繪文不明。健倉時代、 反転復元
1318	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1097	136	7北区 C6e18-19 O6n19-20	—	001溝	瓦器	椭	口縁部～ 底部	15%	供成遺存はやや軟質化。全体に磨滅著 しいため調整。繪文不明。健倉時代、 反転復元
1319	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1108	410	8区 O6m21	—	001溝 上層	瓦器	椭	口縁部～ 底部(高台)	40%	供成遺存はやや軟質化。全体に磨滅著 しいため調整。繪文不明。健 倉時代、反転復元
1320	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1099	357	8区 O6e25	—	001溝 第4-1層	瓦器	椭(皿)	口縁部～ 底部	25%	供成遺存はやや軟質化。全体にやや變 形みのため調整。繪文不明。健 倉時代、反転復元
1321	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1105	401	8区 O6m20-21	—	001溝 中層	土器器	土釜	口縁部～ 底部	14%	外輪頭部の一部に崩落付着する。全 ての底面は露呈。平安時代後期、 反転復元
1322	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1100	393	8区 O6e23	—	001溝 中層	白磁	椭	底部 (高台)	28%	外輪頭部の一部に崩落付着する。高台 及び底面は露呈。平安時代後期、 反転復元
1323	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1091	496	5南区 C7e-5	—	026溝 龍泉窯系 青磁	碗	体部	—	花の絹を持たない。室町時代、細片 のため断片のみ	
1324	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1088	493	5南区 C7e6	—	182溝	土器器	土釜	口縁部	—	全体に磨滅著しいため調整不正確。 健倉時代が、細片のため断片のみ
1325	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1089	491	C7 j - k5	—	182溝	須恵器	匣鉢	口縁部	—	ロクロ回転式:立引目、東播系第三 期第1段階か、細片のため断片のみ
1326	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1090	494	5南区 C7e6	—	186溝	土器器	小皿	口縁部～ 底部	30%	全体に斜削。崩落して著しいため調整 不正確。健倉時代、反転復元
1327	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1127	359	O6e21-22	第4-1層	—	土器器	皿	口縁部～ 底部	25%	全体に崩落して著しいため調整不正確。 健倉時代、反転復元
1328	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1134	337	8区 C6e23-24	第4-1層	—	土器器	皿	口縁部～ 底部	24%	全体に磨滅著しいため調整不正確。 健倉時代、反転復元
1329	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1129	359	8区 O6e21-22	第4-1層	—	土器器	小皿	口縁部～ 底部	75%	全体に磨滅著しいため調整不正確。 健倉時代、反転復元
1330	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1124	344	8区 O6e23	第4-1層	—	土器器	小皿	口縁部～ 底部	30%	全体に斜削。崩落して著しいため調整 不正確。平安時代後期、反転復元
1331	国143	108	平井Ⅱ 亂層 第3次	1135	336	8区 C6e23-24 C6e24	第4層	—	土器器	皿	口縁部～ 底部	95%	全体に磨滅著しいため調整不正確。 健倉時代
1332	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1126	360	8区 O6m21-22	第4-1層	—	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	20%	全体に磨滅著しいため調整不正確。 健倉時代、反転復元
1333	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1128	359	8区 O6e21-22	第4-1層	—	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	27%	全体に磨滅著しいため調整不正確。 平安時代後期、反転復元
1334	国143	-	平井Ⅱ 亂層 第3次	1125	360	8区 O6m21-22	第4-1層	—	瓦器	椭	口縁部～ 底部	25%	供成遺存はやや軟質化。全体に磨滅著 しいため調整不正確。健倉時代、反 転復元
1335	国143	108	平井Ⅱ 亂層 第3次	1130	335	8区 O6h24-25	第4-1層	—	白磁	椭	口縁部～ 底部	15%	内面口縁部に施釉り有り、外側全体下 部は露呈。平安時代後期～健倉時代、 反転復元

## 出土遺物一覧 土器・土製品・瓦類

当該存率は、開示できた持存部位での割合。

遺物 番号	埋蔵 番号	写真 版図	遺物名 調査次数	実測値 参考値	三工部 参考値	地区 取上区画	遺構面 面積	遺構番号・種類 遺構面積	遺物種類	基盤	部位	残存率	備考
1336 図143	108	平井Ⅲ遺跡 第3次	1109	163	5北区 C7e6・7	第3層の 底下層	——	土師器	窯坪	窯坪～ 脚部	50%	全体に倒壊・廢棄場で著しいため調 整不明、古墳時代中期か、一部反転復 元	
1337 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1095	432	5南区 C7f6	第2層	——	土師器	輪	口縁部～ 底部	25%	二次焼成を示ける。全体に廢棄場で著 しいため調整不明、高台倒壊、痕跡 時代か、反転復元	
1338 図143	108	平井Ⅲ遺跡 第3次	1083	91	5東区 B7w11	第3層	——	土師器	窯か	底部 (高台)	77%	全体に廢棄場で著しいため調整不明、 平安時代後期～鎌倉時代か、一部反転復 元	
1339 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1131	292	6区	東側溝	——	土師器	皿	口縁部～ 底部	30%	全体に倒壊・廢棄場で著しいため調 整不明、平安時代後期～鎌倉時代、 反転復元	
1340 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1121	277	8区東側	第3層(試掘)	——	土師器	皿	口縁部～ 底部	20%	全体に倒壊場で著しいため調整不明、 痕跡時代、反転復元	
1341 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1082	91	5東区 B7w11	第3層	——	土師器	小皿	口縁部～ 底部	18%	全体に倒壊場で著しいため調整不明、 痕跡時代、反転復元	
1342 図142	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1092	362	5南区 C7d7	第2層	——	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	15%	陶或遺存はや軟質化。二次焼成を被ける。 全体に廢棄場で著しいため調整不明、 痕跡時代、反転復元	
1343 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1116	134	6北区	包含層	——	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	27%	陶或遺存はや軟質化。全体に廢棄場 で著しいため調整不明確、全体に倒壊・ 痕跡時代、反転復元	
1344 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1117	283	8区西側	第3層(試掘)	——	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	25%	陶或遺存はや軟質化。全体に倒壊場 で著しいため調整不明確、痕跡時代、反 転復元	
1345 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1094	367	5南区東側 C7g8	第2層	——	瓦器	小皿	口縁部～ 底部	30%	陶或遺存はや軟質化。全体に倒壊場 で著しいため調整不明確、口縁部の歪み が認められるため口縁不明確	
1346 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1133	294	8区	北側溝 (西側)	——	瓦器	輪	口縁部～ 底部	33%	陶或遺存はや軟質化。全体に倒壊場 で著しいため調整不明確、口縫時代、 反転復元、歪みのため口縫不明確	
1347 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1119	283	8区西側	第3層(試掘)	——	瓦器	輪	口縁部～ 底部	20%	陶或遺存はや軟質化。全体に倒壊場 で著しいため調整不明確、痕跡時代、 反転復元、歪みのため口縫不明確	
1348 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1085	97	5東区 C7a・b6	第3層	——	瓦器	輪(皿)	口縁部～ 底部	10%	陶或遺存はや軟質化。全体に倒壊場 で著しいため調整不明確、痕跡時代、 反転復元	
1349 図143	108	平井Ⅲ遺跡 第3次	1113	251	5北区 C7f5	第3層	——	土師器	土釜	口縁部～ 底部	23%	全体に倒壊・廢棄場で著しいため調 整不明確、痕跡時代、反転復元	
1350 図143	108	平井Ⅲ遺跡 第3次	1110	193	5北区 東端	灰色土	——	難泉宮系 青磁	碗	口縁部	12%	花弁は幅広、痕跡時代、反転復元	
1351 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1118	283	8区西側	第3層(試掘)	——	難泉宮系 青磁	碗	口縁部	10%	花弁の縁はあまり明確でない、痕跡時 代、反転復元	
1352 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1115	81	6東区	——	北側溝	難泉宮系 青磁	輪	口縁部～ 底部	12%	内面全体に細かい入出多数有り、痕 跡時代、反転復元	
1353 図143	108	平井Ⅲ遺跡 第3次	1120	283	8区西側	第3層(試掘)	——	同安宮系 青磁	皿	底部	50%	輪でぎざみのため見出る文様は不明確、 底面は輪脚、痕跡時代、反転復元	
1354 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1114	69	7東区	機械廻所	——	白磁	皿	底部 (高台)	18%	外面部輪に輪脚有り、蓋付は輪脚、 輪付に輪脚の付有り、室町時代か、 反転復元	
1355 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1084	96	5東区 B7w11 C7a11	第3層	——	白磁	輪	口縁部	—	外面部輪に輪脚有り、蓋付は輪脚、 輪付に輪脚の付有り、室町時代か、 反転復元	
1356 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1122	277	8区東側	第3層(試掘)	——	難泉宮系 青磁	碗	体部～ 底部	27%	花弁の形状は口縫有り、蓋付は輪脚、 輪付に輪脚の付有り、室町時代、反 転復元	
1357 図143	108	平井Ⅲ遺跡 第3次	1132	293	8区	北側溝 (東側)	——	瓦質土器	唐	口縁部	20%	内面全体に輪脚有り、輪付は輪脚、 輪付に輪脚の付有り、室町時代か、 反転復元	
1358 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第3次	1123	277	8区東側	第3層(試掘)	——	須恵器	涅鉢	口縁部	—	クロコ回転紋：右回り、東漢系第2 段階1段階か、反転復元。細片のため 口縫、引き足	
1359 図143	108	平井Ⅲ遺跡 第3次	1112	193	5北区 東端	灰色土	——	須恵器	涅鉢	口縁部	12%	口縫端部に自然輪付有りする。ロ クロコ回転紋：右回り、東漢系第2 段階1段階か、反転復元。細片のため 口縫、引き足、反転復元	
1360 図143	—	平井Ⅲ遺跡 第4次	1093	365	5南区 C7f1	第2層	——	須恵器	涅鉢	口縁部	—	クロコ回転紋：右回り、東漢系第2 段階1段階か、反転復元。細片のため 口縫、引き足	
1361 図146	108	平井Ⅳ遺跡 第4次	1146	17	9区 B7e2	第4層	——	904土机 S+AH 904土机	土師器	唐	口縁部～ 底部	23%	内面全体に輪脚有り、輪付は輪脚、 輪付に輪脚の付有り、室町時代中 期か、反転復元
1362 図146	—	平井Ⅳ遺跡 第4次	1141	5	9区 B7e2	第4層	——	土師器	皿	口縁部～ 底部	35%	全体に倒壊場で著しいため調 整不明確、痕跡時代か、反転復元	
1363 図146	—	平井Ⅳ遺跡 第4次	1145	16	9区 B7e3	——	905土机	土師器	皿	口縁部～ 底部	15%	全体に倒壊場で著しいため調 整不明確、痕跡時代か、反転復元	
1364 図146	108	平井Ⅳ遺跡 第4次	1144	14	B7k・v3	——	905土机	土師器	土釜	口縁部～ 底部	20%	全体に倒壊場で著しいため調 整不明確、痕跡時代か、反転復元	
1365 図146	108	平井Ⅳ遺跡 第4次	1143	14	9区 B7k・v3	——	905土机	土師器	土釜	口縁部～ 底部	8%	外面部縁部から体部にかけて薄く付 着する、全体に倒壊場のため調 整不明確、痕跡時代か、反転復元	
1366 図146	—	平井Ⅳ遺跡 第4次	1142	5	9区 B7k2	第4層	——	土師器	土釜	口縁部～ 底部	15%	外面部縁部から体部にかけて薄く付 着する、全体に倒壊場のため調 整不明確、痕跡時代か、反転復元	

## 出土遺物一覧 壁輪

遺物番号	排図番号	写真図版	遺物名 調査回数	実測番号	出土位置 使用年号	地区 取上区画	層位	遺物名 種類 遺物番号	器種	部位	目録 番号 並び	色調	胎土 分析 片岩	備考
24		62	平井遺跡 第1次	八374	1624 1664 1741 1742 2085 2098 2102 809	3北区 E5h-i2-13	—	222 (1号室)	円筒	—	27.7 44.0 19.6	灰黄褐 10YR6/2 —黃褐 7.5YR7/8	A	反転復元 4条5段 3・4段目スカシ孔 断続ナデ技法A
25		62	平井遺跡 第1次	八359 八370	1587 1590	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	円筒	—	28.8 42.3 23.8	橙 5YR6/8～灰白 N7/	A	反転復元 4条5段 3・4段目スカシ孔 断続ナデ技法A
26		62	平井遺跡 第1次	八366	1955	3北区 E5h-i2	—	222 (1号室)	円筒	口縁部	26.2 — —	橙 2.5YR6/8～褐 灰 10YR6/1	A	口縁部から2段目ス カシ孔
27	42	62	平井遺跡 第1次	八368	1183 1587 1590 1623 1637 1665	3北区 E5h-i2-13	—	222 (1号室)	円筒	口縁部	40.0 — —	橙 7.5YR7/6～灰 10Y6/1	A	反転復元 口縁部から2段目ス カシ孔
28		—	平井遺跡 第1次	八360	1862	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	円筒	口縁部	30.8 — —	橙 7.5YR7/6	A	反転復元
29		—	平井遺跡 第1次	八46	1628	3北区 E5h-i2	—	222 (1号室)	円筒	体部	— —	灰 5Y6/1～ぶい 黃褐 10YR7/4	—	—
30		62	平井遺跡 第1次	八369	1587	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	円筒	底部	— — 19.0	灰 5Y6/1～橙 7.5YR7/6	A	反転復元 3条4段以上 3段目スカシ孔 断続ナデ技法A
31		62	平井遺跡 第1次	八361	1628 2107 379	3北区 E5h-i2	—	222 (1号室)	円筒	体部	— —	黃褐 7.5YR7/8～ 灰白 2.5YB/2	A	反転復元 3条4段以上
32		63	平井遺跡 第1次	八362	1630 1191 1588 1590 1665 1313	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	円筒	底部	— — 17.5	橙 7.5YR7/6	A	反転復元 3段目スカシ孔 底部調整板オサエ
33		63	平井遺跡 第1次	八363	1623 1624	3北区 E5h-i2	—	222 (1号室)	円筒	底部	— — 18.5	灰 N6/	A	2段目スカシ孔 底部調整板オサエ
34	43	63	平井遺跡 第1次	八365	1589 1664 1665 1955 2106	3北区 E5h-i2-13	—	222 (1号室)	円筒	底部	— — 25.0	にぶい黃褐 10YR7/2～褐灰 10YR5/1	A	反転復元 2・3段目スカシ孔 底部調整板オサエ
35		63	平井遺跡 第1次	八372	2013 1749	3北区 E5h-i2-13	—	222 (1号室)	円筒	口縁部	34.0 — —	明赤褐 5YR5/8	D	反転復元 紀伊型円筒埴輪
36		63	平井遺跡 第1次	八373	1171	3北区 E5h-i2	—	222 (1号室)	円筒	体部	— —	明赤褐 2.5YR5/8	D	反転復元 紀伊型円筒埴輪
37		63	平井遺跡 第1次	八283	1313 1191 1192 1313 1412 1589 1590	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	石見型	形象部 上段面	— —	橙 5YR6/8～黃灰 2.5Y6/1	A	単条施文具・張文 形象部粘土絆貼付 円筒側立技法
38		64	平井遺跡 第1次	八285	1589	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	石見型	形象部 上段面～中央帶	— —	にぶい黃褐 10YR7/3～褐灰 10YR6/5	A	単条施文具・張文 形象部粘土絆貼付
39		64	平井遺跡 第1次	八286	1589	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	石見型	形象部 上段面～中央帶	— —	にぶい黃褐 10YR7/3～褐灰 10YR6/4	A	単条施文具・張文 形象部粘土絆貼付
40		—	平井遺跡 第1次	八291	1215	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	石見型	形象部 上段面～中央帶	— —	灰白 2.5Y8/1～橙 7.5YR6/6	C	多条(3条)施文 具・張文
41		64	平井遺跡 第1次	八287	1215	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	石見型	形象部 上段面	— —	灰白 2.5Y8/1～橙 7.5YR6/3	A	単条施文具・張文
42		—	平井遺跡 第1次	八288	1183	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	石見型	形象部 下段面	— —	灰白 2.5Y7/1	A	単条施文具・張文
43		64	平井遺跡 第1次	八338	2098	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	人物	美豆良	—	明赤褐 5YR5/6	—	—
44		64	平井遺跡 第1次	八337	2010	3北区 E5h-i2	—	222 (1号室)	人物	美豆良	—	橙 5YR6/8	—	—
45	44	64	平井遺跡 第1次	八336	1411	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	人物	顔面部	— —	にぶい黒 7.5YR5/4～灰白 2.5Y7/1	—	—
46		—	平井遺跡 第1次	八321	1411	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	人物か	肩部	— —	橙 7.5YR6/6	—	繪剥離痕
47		—	平井遺跡 第1次	八342	1741	3北区 E5h-i2-13	—	222 (1号室)	人物か	帯か	— —	橙 7.5YR7/6	—	格子文
48		—	平井遺跡 第1次	八339	2105	3北区 E5h-i2	—	222 (1号室)	人物	背部 裏面	— —	橙 5YR6/6	A	—
49		64	平井遺跡 第1次	八319	1743	3北区 E5h-i3	—	222 (1号室)	動物	耳	— —	橙 7.5YR7/6	—	—
50		64	平井遺跡 第1次	八318	2100 1860	3北区 E5h-i2	—	222 (1号室)	動物	右耳	— —	橙 7.5YR7/6	A	—

## 出土遺物一覧 壁輪

遺物番号	排番号	写真版	踏跡名	測定番号	出土位置番号	地区	取上区画	層位	遺物番号 種類 遺物部位	器種	部位	目録 番号	色調	胎土 分析 片前	備考
51-1		B1	平井遺跡 第1次	八30	379 1191 1586 1741 2008	3北区	E5h-i12-13	—	222	馬形	右後背部	—	橙 5YR6/8	A	—
51-2	図44	64	平井遺跡 第1次	八297	2099 1259 1411 1742 1749 1861 1875	3北区	E5i12-13	—	222 (1号室)	動物	四足獸 前脚	—	橙 5YR6/8	A	—
52		65	平井遺跡 第1次	八371	1664 1206 1246 1663 1665 1742 1861 1955 2008 2100 2101	3北区	E5h-i12-13	—	222 (1号室)	円筒	口縁部	29.4	にぶい黄褐 — 10Yr7/2～棕 — 5YR7/8～灰白 — 5Y7/1	A	3条4段以上 口縁部から2-3段目 スカシ孔
53		—	平井遺跡 第1次	八367	1741	3北区	E5i12-13	—	222 (1号室)	円筒	口縁部	39.0	にぶい褐 — 7.5YR6/4～灰 — 5Y5/1	A	口縁部から2段目ス カシ孔
54		65	平井遺跡 第1次	八344	1665	3北区	E5i13	—	222 (1号室)	董形	立飾か	—	橙 5YR6/6～淡黄	C	無文
55		65	平井遺跡 第1次	八345	1665	3北区	E5i13	—	222 (1号室)	董形	立飾か	—	橙 5YR6/6～淡黄	C	無文
56	図45	—	平井遺跡 第1次	八290	1630	3北区	E5i13	—	222 (1号室)	石見型	象形部 上段面	—	灰白 2.5Y8/1～橙 — 7.5YR6/6	C	多条(3条)施文 具・弧文
57		—	平井遺跡 第1次	八295	1663	3北区	E5i13	—	222 (1号室)	石見型	象形部 上段面	—	にぶい黄褐 — 10YR7/4	C	多条(3条)施文 具・彌文
58		64	平井遺跡 第1次	八340	1665	3北区	E5i13	—	222 (1号室)	人物	美濃又 は鳥	—	明赤褐 2.5YR5/6	—	—
59		65	平井遺跡 第1次	八341	1665 1749	3北区	E5i12-13	—	222 (1号室)	人物	較か	—	橙 5YR6/6	—	單条施文具/列点
60		65	平井遺跡 第1次	八343	1665	3北区	E5i13	—	222 (1号室)	人物	立像 股部	—	橙 5YR6/6	A	—
61		—	平井遺跡 第1次	八296	1809	3北区	E5i13	—	222 (1号室)	馬形	顔部	—	灰白 2.5Y7/1～に ぶい褐 7.5YR7/4	A	面繋及び手綱
62		—	平井遺跡 第1次	八320	1664 1665	3北区	E5i13	—	222 (1号室)	動物	獸腹部	—	灰白 5Y7/1～浅黃 — 2.5Y7/3	A	—
63		—	平井遺跡 第1次	八299	1665	3北区	E5i13	—	222 (1号室)	動物	四足獸 脚部	—	橙 5YR6/8	A	破損後、被熟
64		—	平井遺跡 第1次	八307	1665	3北区	E5i13	—	222 (1号室)	動物	四足獸 脚部	—	にぶい褐 — 7.5YR5/4～灰黃 — 2.5Y/2	C	反転復元
65		65	平井遺跡 第1次	八282	1626 1412	3北区	E5i12-13	—	222 (1号室)	石見型	形象部 上段面	—	橙 7.5YR6/6～灰 白 7.5YR8/1～に ぶい黄褐 — 10YR8/3～灰 N5/	A	単条施文具・弧文 U字抉り粘土紐貼付 形象部粘土紐貼付
66	図46	65	平井遺跡 第1次	八289	1627	3北区	E5i12	—	222 (1号室)	石見型	形象部 上段面～ 上段帶	—	橙 5YR6/6	—	多条(3)施文具・ 彌形+単条施文具/ 格子目文
67		66	平井遺跡 第1次	八273	2104 1213	3北区	E5h-i12	—	222 (1号室)	石見型	形象部 上段面～ 中央帯	—	橙 5YR6/6	C	上段:多条施文具・ 弧文+中央帯:単条 施文具・格子目文
68		65	平井遺跡 第1次	八272	2102	3北区	E5i12	—	222 (1号室)	石見型	形象部 上段面	—	橙 7.5YR6/6	C	○ 多条施文具・斜交輪
69	図47	66	平井遺跡 第1次	八212	1182 1638 1749 2105 1665 1876 1663 1664 1313 1000	3北区	E5h-i12-13	—	222 (1号室)	馬形	鞍部	—	にぶい褐 — 7.5YR7/4～灰白 — 10YR8/2	A	障泥粘土板貼付表現 刺突
70		—	平井遺跡 第1次	八298	1742	3北区	E5i12-13	—	222 (1号室)	馬形	脚部	—	橙 7.5YR6/6	A	下端部粘土帶貼付

出土遺物一覽 填繪

地物 番号	持団 番号	写真 図版	測量名 調査次数	実測 番号	土地 上土物 登録番号	地区 取上区画	層位	土壤名 種類 地質層位	器種	部位	口絞 取扱 直角	胎土		備考	
												分析	片岩		
71	47	66	平井透脚 第1次	H211	2010 1664 2102 2009 2085 2099 2100	3北区 E5h12 i12-13	—	222 (1号窓)	馬形	尻部	-	にぶい緑 7.5YR7/4	-	-	
72	48	67	平井透脚 第1次	H191	1793 1017 1018 1176 1181 1507 1689 1694 1695 1738 1739 1753 1754 1787 1801 1829 1833 1837 1839 1923 1924 1925 1929 1931	3北区 E5b-c-d16-17- 20 3北区抵禰区 (1793-1787)	床面1	257 (2号窓)	円筒	—	28.9 49.0 23.5	にぶい緑 5YR6/3 ~褐灰 5YR5/1~ 褐灰 10YR5/1	A	-	4条5段 2・4段目スカシ孔 断続ナデ技法A 口縁部へラ記号
73	48	67	平井透脚 第1次	H222	1672 1095 1126 1573 1738 1723 1857	3北区抵禰区 E5b-c-d15-16	—	257	円筒	—	27.0 46.6 22.5	灰 2.5Y7/2~灰褐 7.5YR6/2	B	-	4条5段 2・4段目スカシ孔 断続ナデ技法A
74		67	平井透脚 第1次	H418	1017 1125 1505 1690 1689 1754 1831 1833 1837	3北区 E5c16-d16-17	—	257 (2号窓)	円筒	口縁部	37.6 — —	黄灰 2.5Y6/1~に ぶい黄褐 10YR7/4	A	-	反転復元 口縁部へラ記号
75		68	平井透脚 第1次	H376	1175 1174 1180 1736 1829 1926	3北区 3北区抵禰区 (1180) E5e16-17	—	257 (2号窓)	円筒	口縁部	27.2 — —	にぶい黄褐 10YR7/3~にぶい 黄 7.5YR7/4	A	-	口縁部から2段目ス カシ孔 断続板状工具端部压 痕 口縁部内面へラ記号
76		68	平井透脚 第1次	H400	1178 1668 1720 1793 1993	3北区抵禰区 3北区(1993) E5c16-b15- d17	—	257 (2号窓)	円筒	口縁部	22.6 — —	褐 5YR6/B~明黄 10YR7/6	A	-	口縁部から2段目ス カシ孔 口縁部へラ記号 構成亞大
77		67	平井透脚 第1次	H403	1099 1100	3北区抵禰区 E5c16	—	257 (2号窓)	円筒	口縁部	31.6 — —	にぶい緑 7.5YR7/4~褐灰 5YR6/1	A	-	断続ナデ技法A 口縁部から2段目へ ラ記号
78		68	平井透脚 第1次	H383	1126 1803 1856 1904	3北区抵禰区 E5c16	—	257 (2号窓)	円筒	口縁部	32.6 — —	褐 7.5YR7/6~褐 7.5YR5/1	A	-	反転復元 断続ナデ技法A 口縁部から2・3段 目スカシ孔
79		-	平井透脚 第1次	H382	1731	3北区抵禰区 E5c16	—	257 (2号窓)	円筒	口縁部	27.8 — —	5YR6/8褐	A	-	反復復元 2段目専門スカシ孔
80		-	平井透脚 第1次	H407	1795	3北区抵禰区 E5c16	—	257 (2号窓)	円筒	体部	-	灰黄 2.5Y6/2~にぶい 黄褐 10YR7/4	A	-	断続ナデ技法A
81		69	平井透脚 第1次	H380	1666 1866	3北区抵禰区 E5b15	—	257 (2号窓)	円筒	体部	-	褐 7.5YR6/6~褐 5YR6/8	B	-	断続ナデ技法A
82	49	-	平井透脚 第1次	H196	1099	3北区抵禰区 E5c16	—	257 (2号窓)	円筒	底部	-	灰白 2.5Y7/1	-	-	反復復元 2段目スカシ孔 底部調整板オサエ
83		69	平井透脚 第1次	H429	1100	3北区抵禰区 E5c16	—	257 (2号窓)	円筒	底部	17.0 — —	褐 7.5YR7/6~灰 5Y6/1	B	-	
84		69	平井透脚 第1次	H195	1807	3北区抵禰区 E5c16	—	257 (2号窓)	円筒	底部	- 18.2 —	褐 7.5YR6/1~ 褐 5YR7/6	A	-	反転復元 3段目以上 2段目スカシ孔

## 出土遺物一覧 墓輪

遺物番号	排図番号	写真版面	測量番号 測量表記	実測番号	出土位置 空き番号	地区 取上区画	層位	遺物名 種類 測量番号	器種	部位	目次 部頭 部尾	色調	胎土 分析 剖面	備考
85		69	平井遺跡 第1次	八441	1674	3北区祇園区 E5b15	—	257 (2号室)	円筒	底部	— 18.8	橙 7.5YR6/8	B	反転復元 3条4段以上 — 3段目スカシ孔 断続ナデ技法A
86		—	平井遺跡 第1次	八440	1600 1607	3北区祇園区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	底部	— 15.0	橙 5YR6/8	A	—
87		—	平井遺跡 第1次	八391	1099	3北区祇園区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	底部	— 17.4	褐灰 10YR6/1	A	反転復元 2段目スカシ孔
88		—	平井遺跡 第1次	八419	1788	3北区祇園区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	底部	— 19.0	橙 7.5YR7/6	A	反転復元 2段目スカシ孔
89		69	平井遺跡 第1次	八197	1126 1017	3北区祇園区 E5c d16-17	—	257 (2号室)	円筒	底部	— 19.8	黄灰 2.5Y5/1~明 黄褐 10YR7/6	A	反転復元 2段目スカシ孔 断続ナデ技法A・押 圧技法 底部調整板オサエ
90		—	平井遺跡 第1次	八200	1856	3北区祇園区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	底部付近	—	橙 7.5YR7/6~褐 灰 7.5YR6/1	B	2段目スカシ孔 押圧技法 底部調整板オサエ
91	四 49	70	平井遺跡 第1次	八433	1505 1833	3北区 E5d16-17	—	257 (2号室)	円筒	底部	— 13.8	橙 5YR6/6	A	反転復元 押圧技法 底部調整板オサエ
92		69	平井遺跡 第1次	八430	1177	3北区祇園区 E5c15	—	257 (2号室)	円筒	底部	— 19.0	橙 7.5YR7/6~褐 灰 7.5YR5/1	B	反転復元 押圧技法 底部調整板オサエ
93		—	平井遺跡 第1次	八426	1675	3北区祇園区 E5b15	—	257 (2号室)	円筒	底部	—	灰黄褐 10YR5/2 — 橙 7.5YR7/6~ 暗灰青 2.5Y5/2	B	2段目スカシ孔 押圧技法 底部調整板オサエ
94		—	平井遺跡 第1次	八435	1857	3北区祇園区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	底部	—	橙 7.5YR7/6	A	2段目スカシ孔 底部調整板オサエ
95		—	平井遺跡 第1次	八204	1738 1732 1693	3北区 E5d16-17	—	257 (2号室)	円筒	底部	—	橙 7.5YR6/6~に ぶい黄褐 10YR7/3	A	反転復元
96		70	平井遺跡 第1次	八390	1100	3北区祇園区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	底部	—	淡黄 2.5Y7/3~灰 白 2.5Y7/1	A	ナデ 圓形筒箭部の可能性 あり
97		—	平井遺跡 第1次	八397	1856	3北区祇園区 E5c16	—	257 (2号室)	朝顔	口縁部	—	橙 7.5YR7/6	B	外側：1次口縁ハ ケ、2次口縁ナデ調 整
98		70	平井遺跡 第1次	八194	1098 1126 1857 1175	3北区祇園区 3北区 E5c d16	—	257 (2号室)	朝顔	肩部	—	橙 7.5YR7/6~灰 褐 7.5YR6/2	A	断続ナデ技法A 肩部B種ヨコハケ
99		—	平井遺跡 第1次	八309	1693 1017 1739	3北区 E5d16-17	—	257 (2号室)	家形	切妻部 破風	—	橙 7.5YR7/6	A	—
100		—	平井遺跡 第1次	八306	1856	3北区祇園区 E5c16	—	257 (2号室)	家形	梯飾か	—	橙 7.5YR7/6	A	—
101		—	平井遺跡 第1次	八13	1509	3北区 E5d16	—	257 (2号室)	家形	堅魚木	—	橙 7.5YR7/6	—	—
102		71	平井遺跡 第1次	八303	1728	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	家形	楕圓突帯	—	橙 5YR6/6	A	—
103		71	平井遺跡 第1次	八18	1505	3北区 E5d16	—	257 (2号室)	家形	楕圓突帯	—	橙 7.5YR6/8	A	—
104		71	平井遺跡 第1次	八300	1753 1125 1929 1732	3北区 E5c d16-17	—	257 (2号室)	家形	楕圓突帯	—	明黄褐 10YR7/6	A	円形スカシ
105	四 50	—	平井遺跡 第1次	八301	1174	3北区 E5d16	—	257 (2号室)	家形	楕圓突帯	—	にぶい黄橙 — 10YR7/3~灰黃 2.5Y7/2	A	—
106		70	平井遺跡 第1次	八305	1723 1099 1606	3北区祇園区 E5c16	—	257 (2号室)	家形	身舎	—	橙 7.5YR7/6	B	—
107		70	平井遺跡 第1次	八304	1723 1099 1856	3北区(1723) 3北区祇園区 (1099-1856) E5c16	—	257 (2号室)	家形	身舎	—	橙 7.5YR7/6	B	— 平側円形スカシ
108		70	平井遺跡 第1次	八209	1857 1692 1206	3北区祇園区 3北区 E5c16 d17-i13 黒色土	—	257 (2号室)	家形	身舎	—	にぶい橙 — 7.5YR7/4	A	—
109		—	平井遺跡 第1次	八315	1100	3北区祇園区 E5c16	—	257 (2号室)	董形	笠部	—	橙 5YR7/8	A	反転復元
110		71	平井遺跡 第1次	八316	1825	3北区 E5d16	—	257 (2号室)	董形	笠部	—	橙 5YR6/6	A	反転復元
111	71	—	平井遺跡 第1次	八276	1735 1505	3北区 E5d16	—	257 (2号室)	石見型 形象部 上段面	—	淡黄 2.5Y7/3~橙 — 7.5YR6/	A	無文	
112		—	平井遺跡 第1次	八25	1507	3北区 E5d17	—	257 (2号室)	石見型 形象部 上段面	—	橙 5YR6/6	—	無文	
113		—	平井遺跡 第1次	八277	1125	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	石見型 形象部 上段面	—	灰白 7.5Y7/1~明 黄褐 10YR7/6	A	無文	
114		—	平井遺跡 第1次	八8	1507	3北区 E5d17	—	257 (2号室)	石見型 形象部 上段面	—	灰黄褐 10YR5/2	A	無文 形象部ハケ調整	

## 出土遺物一覧 墓輪

通物 番号	排回 番号	写真 図版	測定 番号	実測 番号	出土位置 使用品番号	地区 取上区画	層位	遺物名 種類 遺物部位	器種	部位	目録 番号 測定値	色調	胎土 分析 片前	備考
115		71	平井遺跡 第1次	八293	1094 1568	3北区 E5c15	—	257 (2号室)	石見型 形象部 中央部	—	橙 7.5YR6/6	A	-	單条文具・練杉文
116		71	平井遺跡 第1次	八278	1100 1509	3北区 E5c-d16	—	257 (2号室)	石見型 形象部 下段面	—	反黄 2.5Y7/2~に ぶい黄褐 10YR7/4	A	-	無文か
117		71	平井遺跡 第1次	八325	1835 1509	3北区	—	257 (2号室)	器財	灰か	淡黄 2.5Y8/3~灰 白 2.5Y7/1	A	-	無文か
118		—	平井遺跡 第1次	八146	1094	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	器財	灰又は 墨か	明赤褐 5YR5/6	-	-	單条文具
119		—	平井遺跡 第1次	八21	1505	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	器財	円筒部	灰黄 2.5Y6/1	A	-	反転復元
120		71	平井遺跡 第1次	八322	1179	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	器財	不明	灰黄 2.5Y7/2~明 黄褐 10YR7/6	-	-	穿孔
121		71	平井遺跡 第1次	八323	1098	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	器財	不明	橙 5YR7/8	-	-	「—」縫刻
122		—	平井遺跡 第1次	八334	1181	3北区 E5c17	—	257 (2号室)	人物	坐髪	橙 5YR6/6	-	-	
123		—	平井遺跡 第1次	八149	1176	3北区 E5c17	—	257 (2号室)	人物	右腕	橙 5YR6/6	-	-	
124	51	71	平井遺跡 第1次	八331	1509	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	人物	左足 足根背面	明赤褐 5YR5/6	-	-	
125		—	平井遺跡 第1次	八333	1690	2北区 E5d16	—	257 (2号室)	人物	坐髪	にぶい黄褐 10YR6/4~暗灰黄 2.5Y5/2~明黄褐 10YR7/6	A	-	反転復元
126		71	平井遺跡 第1次	八270	1733 1835 1903 1910 1931 1924	3北区 E5c-d16	—	257 (2号室)	人物	盾持人 肩部	にぶい黄褐 10YR7/3~橙 7.5YR7/6~反 N5/	A	-	ハケ 裏面内簡部貼付補強 突帯
127		—	平井遺跡 第1次	八335	1803	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	鳥	馬冠	黄褐 7.5YR7/8	-	-	
128		—	平井遺跡 第1次	八327	1847	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	人物か	武人か	にぶい黄褐 10YR7/4~暗黄褐 10YR5/2	-	-	甲冑表現か
129		—	平井遺跡 第1次	八330	1857	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	馬形	蟹	橙 5YR6/6	-	-	
130		—	平井遺跡 第1次	八234	1864 2080 1963	3北区 E5c-c15-16	—	257 (2号室)	円筒	口縁部	26.4 — 橙 7.5YR7/8	B	-	口縁から2段目スカラシ孔
131		—	平井遺跡 第1次	八230	1885 1884 1899	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	口縁部	31.4 — 黄褐 7.5YR7/8	B	-	反転復元
132		72	平井遺跡 第1次	八215	1868	3北区 E5b15	—	257 (2号室)	円筒	口縁部	31.0 — 橙 7.5YR7/6~灰 褐 7.5YR5/2	B	-	反転復元 新続ナデ技法A
133		—	平井遺跡 第1次	八232	1883	3北区 E5c15	—	257 (2号室)	円筒	口縁部	26.4 — 橙 5YR6/6	A	-	反転復元 口縁部内面へラ記号
134		72	平井遺跡 第1次	八233	1889	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	口縁部	24.2 — 橙 2.5YR6/8	A	-	反転復元 口縁部内面ヘラ記号 内面タテハケ
135		—	平井遺跡 第1次	八238	1865	3北区 E5b15	—	257 (2号室)	円筒	口縁部	20.3 — にぶい黄褐 5YR5/4	A	-	反転復元 内面タテハケ
136		—	平井遺跡 第1次	八216	1901 1872	3北区 E5c15-16	—	257 (2号室)	円筒	底部	— — 橙 5YR6/8	B	-	反転復元 3段目スカラシ孔
137	52	—	平井遺跡 第1次	八218	1885	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	底部	— — 橙 7.5YR7/6~橙 5YR7/6	B	-	反転復元 2段目スカラシ孔
138		—	平井遺跡 第1次	八219	1872	3北区 E5c15	—	257 (2号室)	円筒	底部	— — 橙 7.5YR7/8~橙 5YR6/8	B	-	反転復元 3段目スカラシ孔
139		—	平井遺跡 第1次	八220	1866	3北区 E5b15	—	257 (2号室)	円筒	底部	— — 橙 7.5YR7/6	A	-	反転復元 2段目スカラシ孔
140		—	平井遺跡 第1次	八231	1870	3北区 E5b15	—	257 (2号室)	円筒	底部	— — 橙 5YR6/8	B	-	反転復元 2・3段目スカラシ孔
141		72	平井遺跡 第1次	八201	1868	3北区 E5b15	—	257 (2号室)	円筒	底部	— — 揭褐 7.5YR4/1	B	-	反転復元 二段目スカラシ孔
142		—	平井遺跡 第1次	八236	1907	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	底部	— — 灰 N5/	B	-	反転復元 2段目スカラシ孔 新続ナデ技法A
143		—	平井遺跡 第1次	八198	1863	3北区 E5b15	—	257 (2号室)	円筒	底部	— — 橙 5YR6/6	B	-	
144		—	平井遺跡 第1次	八221	1884	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	底部	— — 黄褐 7.5YR7/8	B	-	反転復元 底部端ユビオサエ
145		—	平井遺跡 第1次	八434	1838 1754	3北区 E5d16-17 5北区 E5c20	—	257 (2号室)	円筒	底部	— — 黄褐 2.5Y6/1	A	-	反転復元 2段目スカラシ孔 新続ナデ技法A

## 出土遺物一覧 墓輪

遺物番号	排番号	写真版面	測定番号	実測番号	出土位置	地区取上区画	層位	遺物名	器種	部位	目測	色調	胎土	備考
146	52	-	平井遺跡第1次	八235	1908	3北区E5c16	—	257(2号室)	円筒	底部	- 18.8	にぶい黄褐色 10YR7/4~褐灰 10YR5/1	B	- 反転復元 2段目スカシ孔
147	72	平井遺跡第1次	八237	1890	1795	3北区E5c16	—	257(2号室)	円筒	底部	- 15.9	橙 7.5YR6/6	A	- 反転復元 底部調整板オサエ
148	72	平井遺跡第1次	八202	1872 1895 1905 1880	3北区E5c15	—	257(2号室)	円筒	底部	- 19.4	橙 7.5YR7/6~褐 灰 10YR6/1	A	4条5段以上 3~4段目スカシ孔 押庄抜法	
149	-	平井遺跡第1次	八425	1824	3北区E5c16	—	257(2号室)	円筒	底部	-	黄灰 2.5Y6/1~に ぶい黄褐色 10YR7/4	A	- 押庄抜法	
150	-	平井遺跡第1次	八436	1952 1868	3北区E5c15	—	257(2号室)	円筒	底部	- 22.2	橙 7.5YR7/6	B	- 反転復元 断続ナデ抜法A 押庄抜法 底部調整板オサエ	
151	72	平井遺跡第1次	八386	1935	3北区E5c17	—	257(2号室)	円筒	体部	-	浅黄 2.5Y7/4	A	- Bd埋ヨコハケ	
152	72	平井遺跡第1次	八355	1887	3北区E5c16	—	257(2号室)	円筒か	体部か	-	橙 7.5YR6/8	B	- 小方形孔穿孔	
153	53	平井遺跡第1次	八239	1871 1604 1679 1681 1682 1802	3北区E5c15-16	—	257(2号室)	輪郭形	口縁部部	43.2 -	黄橙 7.5YR7/8~ 橙 5YR6/6	A	外面:1次口縁ハ ケ、2次口縁ナデ調 整	
154	-	平井遺跡第1次	八398	1897	3北区E5c16	—	257(2号室)	輪郭形	口縁部部	41.0 -	橙 7.5YR6/6	A	外面:1次口縁ハ ケ、2次口縁ナデ調 整	
155	-	平井遺跡第1次	八364	1933	3北区E5d16-17	—	257(2号室)	輪郭形	口縁部部	-	橙 5YR6/6	A	-	
156	-	平井遺跡第1次	八308	1829	3北区E5d16	—	257(2号室)	家形	堅魚木	-	橙 5YR6/6	-	-	
157	73	平井遺跡第1次	八207	1931 1017 1610 1733 1835 1922 1923 1924 2056	3北区E5b-c d16-17	—	257(2号室)	家形	入母屋造 切妻部	-	橙 7.5YR6/6~黄 橙 7.5YR7/8	A	網代模様/單条施文 具 壹側凹形スカシ孔 一体成形	
158	73	平井遺跡第1次	八213	1610 1017 1018 1020 1507 1801 1838 1923 1937	3北区E5d16-17	—	257(2号室)	馬形	頭部~ 鞍部 左側面	-	橙 5YR6/6	A	單条施文具 鞍周辺線刻表現が 158と一致。同一個 体か	
159	-	平井遺跡第1次	八274	1831 1932 1835 1931 1924	3北区E5d16	—	257(2号室)	馬形	鞍部 鞍付近	-	橙 5YR6/8	A	-	
160	54	平井遺跡第1次	八210 八29 八153	1507 1019 1923 1924 1926 1931 1021 1174 1610 1018 1610 1693 1738 1739 1754 1831 1837 1838 1929 1932 1933	3北区E5c-d16-17 D5y23	—	257(2号室)	馬形	鞍部 右側面~ 下半身	-	にぶい橙 5YR6/4	A	單条施文具 鞍周辺線刻表現が 158と一致。同一個 体か	
161	55	平井遺跡第1次	八314	1898	3北区E5c16	—	257(2号室)	董形	笠部	-	橙 5YR6/8	B	- 反転復元	
162	73	平井遺跡第1次	八354	1898	1881	3北区E5c16	—	257(2号室)	董形	台脚	- 20.4	灰褐 10YR5/1	A	-

## 出土遺物一覧 壁輪

通物 番号	排図 番号	写真 版面	測定 番号 測定表番号	実測 番号	出土遺物 番号	地区 取上区画	層位	遺物名 種類 遺物番号	器種	部位	目録 番号 復元復原	色調	胎土 分析 片剖	備考				
163	図55	73	平井遺跡 第1次	八275	1932	3北区 E5d16	—	257 (2号室)	石見型 形象部 上段面	—	灰黄 10YR7/6~ 黄 2.5Y4/1	A	-	無文か				
164		73	平井遺跡 第1次	八279	1931	3北区 E5d16	—	257 (2号室)	石見型 形象部 下段面	—	浅黄 2.5Y7/3~黄 2.5Y6/1	A	-	無文か				
165		-	平井遺跡 第1次	八324	1881	3北区底塗区	—	257 (2号室)	人物	胸部	—	棕 5YR6/6	-	筋目				
166		-	平井遺跡 第1次	八266	2084 12 (第3次)	3北区底塗区 E5b15_c16	—	257 (2号室)	円筒	口縁部	29.4	—	棕 5YR6/8	-	反転復元 口縁部から2段目スカシ孔			
167		-	平井遺跡 第1次	八229	2079	3北区底塗区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	体部	—	棕 2.5YR6/6~黄 10YR8/6	B	-	反転復元			
168		74	平井遺跡 第1次	八205	1957 1958 1979	3北区底塗区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	底部	—	棕 7.5YR7/6~灰 NS/	A	○	反転復元 3段目スカシ孔			
169		74	平井遺跡 第1次	八203	1956	3北区底塗区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	底部	—	にぶい黄褐 10YR7/4	A	-	3段目スカシ孔 断続ナデ技術A 底部調整内墨ケズリ			
170		74	平井遺跡 第1次	八217	1966	3北区底塗区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	底部	—	褐灰 7.5YR5/1~ 黄褐 7.5YR7/8	B	-	反転復元			
171		-	平井遺跡 第1次	八224	1972	3北区 E5d17	—	257 (2号室)	円筒	底部	—	灰白 N8/~/にぶい 黄褐 10YR7/3	A	-	-			
172		-	平井遺跡 第1次	八225	1973	3北区 E5d17	—	257 (2号室)	円筒	底部	—	にぶい 黄褐 7.5YR6/4~灰褐 7.5YR5/2	-	-	反転復元			
173		-	平井遺跡 第1次	八228	1960	3北区底塗区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	体部	—	淡黄褐 10YR8/3 —黄褐 7.5YR7/8~ 灰 5Y6/1	B	-	反転復元 外面板ナダ			
174		-	平井遺跡 第1次	八226	1958	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	体部	—	棕 7.5YR7/6~褐 灰 7.5YR5/1~棕	A	-	外面板ナダ			
175		-	平井遺跡 第1次	八227	2125	3北区 E5d17	—	257 (2号室)	円筒	底部	—	黄褐 7.5YR7/8~ 灰白 10YR8/2	B	-	反転復元 外面板ナダ			
176		74	平井遺跡 第1次	八387 八389	1943 1181	3北区 E5d17	—	257 (2号室)	円筒	体部	—	棕 7.5YR7/6	A	-	外面板ヨコハケ			
177	図56	74	平井遺跡 第1次	八208 八52	1175 1509 1824 1922 1973 1099 1732 1100 1790 1723 1856 1608 1932 1938 1098 1924 1794	3北区 3北区底塗区 3南区 5南区 E5c16 E5d16 + 17	— — — — — — — — — —	257 (2号室)  622	家形 岩盤直上 3・4層 視灰砂土 南北セクション	入舟屋造 底板 — — — — — — — — —	— — — — — — — — — —	棕 5YR6/6 にぶい棕 7.5YR7/4	A	網代模様/半条施文具 寄棟妻面円形スカシ孔 一体成形				
178					1755	3南区 E5o17												
179					755	3北区底塗区 E5g12												
180					1949	5南区 E5d23												
181					1036	3北区 E5c16												
182					1642	3北区底塗区 E5e15												
183					74	平井遺跡 第1次	八271	1963	—	257 (2号室)	盾形	肩面	—	棕 7.5YR7/6~黄 7.5YR7/8	B	-	単条施文具/練杉文	
					74	平井遺跡 第1次	八313	1964 1804	—	257 (2号室)	董形	立峰 軸部	—	棕 5YR6/8~/にぶい 黄褐 10YR7/3	A	-	-	
					-	平井遺跡 第1次	八326	1962	—	257 (2号室)	人物	美豆良	—	灰黄褐 10YR6/2	-	-	弓の可能性有	
					-	平井遺跡 第1次	八311	1927	—	257 (2号室)	馬形	馬具	—	棕 5YR6/6	B	-	側面形杏葉の一部	
					75	平井遺跡 第1次	八192	2143 2142	—	257 (2号室)	円筒	口縁部	31.6 —	棕 5YR7/6	B	-	口縁から2段目スカシ孔	
					75	平井遺跡 第1次	八193	2145 2115 2133 1977	3北区底塗区 3北区(12) E5b-c15-16	—	257 (2号室)	円筒	底部	— 21.9	棕 5YR7/8	A	-	4条5段以上 2・4段目スカシ孔
					75	平井遺跡 第3次	12	—	—	—	—	—	—	—				

## 出土遺物一覧 壁輪

遺物番号	排図番号	写真版面	測量名 測量点数	実測番号	出土位置番号	地区 取上区画	層位	測量番号 標高 測量単位	器種	部位	目録 番号 並用	色調	胎土 分析 片岩	備考	
184	75		平井遺跡 第1次	2135 2133 2137 2121	八206	3北区 E5c-d15-16-17	—	257 (2号室)	円筒	口縁部	34.8 — — —	灰白 5Y7/2~棕 5YR7/8~灰 10Y6/1	A	4条5段以上 2・4段目スカシ孔 断続ナデ技術A 口縁部から2段目へ る記号 外面板ナデ	
185	75		平井遺跡 第1次	2146 1967 2083 2138 2143	八214	3北区 E5c-b15	—	257 (2号室)	円筒	口縁部	26.6 — —	棕 5YR6/6	B	4条5段以上 2・4段目スカシ孔 断続ナデ技術A 口縁部から2段目へ る記号 外面板ナデ	
186	57		平井遺跡 第1次	2130	八190	3北区 E5c15 3北区 E5d16	—	257 (2号室)	円筒	口縁部	26.8 — —	棕 5YR6/6~にぶ い棕 7.5YR7/4	A	反転復元 4条5段以上 2・4段目スカシ孔 断続ナデ技術A 口縁部へ記号 外面板ナデ	
187	68		平井遺跡 第1次	1720	八415	3北区 E5c15 3北区 E5c16,d16	—	257 (2号室)	円筒	体部	— — —	にぶい黄棕 10YR7/3~黄灰 2.5Y5/1	A	3条4段以上	
188	—		平井遺跡 第3次	14 10 3	八248	3北区 E5c-d16-17	—	257 (2号室)	円筒	口縁部	— — —	浅黄棕 10YR8/4	A	反転復元	
189	75		平井遺跡 第3次	14	八393	3北区 E5d16	—	(2号室)	円筒	体部	— — —	棕 5YR6/6	A	外面板ヨコハケ	
190	75		平井遺跡 第3次	14	八448	3北区 E5d16	—	257 (2号室)	円筒	底部	— — 20.2	棕 5YR6/6	— —	反転復元 外面板ヨコハケ	
191	—		平井遺跡 第1次	15 (第3次)	八437	3北区 E5c16	—	257 (2号室)	円筒	底部	— — 21.0	明黄褐 10YR7/6	B	反転復元 2段目スカシ孔 外面板ナデ	
192	76		平井遺跡 第1次	963	八356	3北区 D5y19-20 E5a18-19	黒色土	—	円筒	体部	— — —	にぶい黄棕 10YR7/3~灰黃 2.5Y5/2	D	Bd槽ヨコハケ	
193	76		平井遺跡 第1次	927	八357	3北区 D5y20-21 E5a19-20	黒色土上 (褐色土)	—	円筒	体部	— — —	明黄褐 10YR7/6	A,E	B槽ヨコハケ	
194	76		平井遺跡 第1次	964	八358	3北区 E5g-b18-19	黒色土	—	円筒	体部	— — —	棕 7.5YR7/6	D	B槽ヨコハケ	
195	76		平井遺跡 第1次	928	八100	3北区 D5y21-22 E5c21-22,d20-21	黒色土	—	円筒	口縁部	— — —	にぶい黄棕 10YR7/4	D	反転復元 紀伊型円筒埴輪	
196	76		平井遺跡 第1次	2059	八243	5北区 E5c21	褐色土	—	円筒	口縁部	— — —	棕 5YR6/8	D	紀伊型円筒埴輪	
197	76		平井遺跡 第1次	2045	八89	3北区 E5c21	黒色土	—	円筒	口縁部	— — —	棕 5YR6/6	D	紀伊型円筒埴輪 口縁部へ記号	
198	76		平井遺跡 第1次	935	八104	3北区 E5c17	黒色土	—	円筒	体部	— — —	棕 5YR6/8	D	紀伊型円筒埴輪	
199	76		平井遺跡 第1次	963	八106	3北区 D5y19-20 E5a18-19	黒色土	—	朝顔形	口縁部	— — —	にぶい黄棕 10YR7/4	D	反転復元 紀伊型円筒埴輪	
200	76		平井遺跡 第1次	926	八97	3北区 D5y19-20 E5b19-c20	黒色土	—	円筒	朝顔形	肩部	— — —	にぶい赤褐 5YR5/4~淡黄 2.5Y5/4	D	反転復元 紀伊型朝顔形埴輪
201	76		平井遺跡 第1次	926	八99	3北区 E5b19-c20	黒色土	—	円筒	底部	— — 18.0	明赤褐 5YR5/6	D	O 反転復元 紀伊型円筒埴輪	
202	58		平井遺跡 第1次	964	八110	3北区 E5a-b18-19	黒色土	—	円筒	底部	— — 19.7	にぶい棕 7.5YR6/4	D	反転復元 紀伊型円筒埴輪	
203	76		平井遺跡 第1次	928	八102	3北区 D5y20-21	黒色土	—	円筒	底部	— — —	棕 5YR6/8	D	O 反転復元 紀伊型円筒埴輪	
204	76		平井遺跡 第1次	928	八111	3北区 D5y20-21	黒色土	—	円筒	底部	— — 16.9	棕 7.5YR7/6	AE	O 反転復元 底部調整タキ	
205	76		平井遺跡 第1次	985 964	八113	3北区 E5g-b18-19-21	黒色土	—	円筒	底部付近	— — —	にぶい棕 7.5YR7/3	C	反転復元 底部調整タキ	
206	76		平井遺跡 第1次	2111	八90	3北区 D5y20	包含層	—	円筒	底部	— — 16.8	灰 N4/ ~にぶい黄 10YR5/4	AE	反転復元 2段目スカシ孔 底部調整タキ	
207	—		平井遺跡 第1次	2062	八241	5北区 D5y23	黒縞層	—	円筒	底部付近	— — —	灰 N4/	C	底部調整タキ	
208	—		平井遺跡 第1次	2110	八240	3北区 D5y20	包含層	—	円筒	底部	— — 16.7	灰 N4/	AE	反転復元 底部調整タキ	
209	77		平井遺跡 第1次	991 992	八117	3北区 E5f-g14-15	黒色土	—	円筒	口縁部	— — —	にぶい黄 10YR7/4	A	反転復元 口縁部から2段目スカシ孔	
210	—		平井遺跡 第1次	1782 1644	八118	3北区 E5e16-17	黒色土	—	円筒	口縁部	—<br				

## 出土遺物一覧 壁輪

遺物番号	排図番号	写真版面	測量番号 測量表記	実測番号	出土位置番号	地区 取上区画	層位	測量番号 標高 測量標高	器種	部位	日付 測定年月	色調	胎土 分析片剖	備考
212		-	平井遺跡 第1次	八120	925	3北区 E5b19-c20	黒色土上 (褐色土)	—	円筒	口縁部	28.0 —	浅黄緑 7.5YR8/3	-	反転復元
213		-	平井遺跡 第1次	八101	963	3北区 E5y19-20 E5a18-19	黒色土	—	円筒	口縁部	-	灰 7.5YR6/1	C	断続ナデ技法A
214		77	平井遺跡 第1次	八119	2039	5北区 E5c20e19	黒色土	—	円筒	体部	-	浅黄緑 7.5YR8/6	A	反転復元 外画面ナデ
215		-	平井遺跡 第1次	八114	964	3北区 E5a-b18-19	黒色土	—	円筒	体部	-	褐灰 10YR5/1～ にぶい緑 5YR5/4	A-E	反転復元 断続ナデ技法A
216		-	平井遺跡 第1次	八94	2110	3北区 E5y20	包含層	—	円筒	体部	-	灰 N6/	A-E	反転復元 胎土発泡気泡
217		-	平井遺跡 第1次	八122	927	3北区 E5y20-21	黒色土上 (褐色土)	—	円筒	体部	-	にぶい緑 7.5YR6/4	-	反転復元
218		-	平井遺跡 第1次	八116	985	3北区 E5a21	黒色土	—	円筒	体部	-	灰 5Y5/1	C	断続ナデ技法A
219		-	平井遺跡 第1次	八115	964	3北区 E5y19-20 E5a18-19	黒色土	—	円筒	体部	-	にぶい黄緑 10YR7/4	C	反転復元 断続ナデ技法A
図 59	77	平井遺跡 第1次	八137	2057 2061 2048 1029 1024 960	5北区 E5a23-e-f g16 ～19 g13-14	褐色土 黒褐色土 黄褐色土 黑色土 (褐色土)	—	円筒	底部	-	橙 7.5YR7/6 17.6	A	反転復元 2段目スカラシ孔 押抜法 底部調整板オサエ	
221		77	平井遺跡 第1次	八109	964	3北区 E5a-b18-19	黒色土	—	円筒	底部	-	橙 7.5YR6/6～浅黄 7.5YR8/3 11.3	C	反転復元
222		-	平井遺跡 第1次	八242	2061	5北区 E5f16-17	褐色土	—	円筒	底部	-	明黄緑 10YR7/6 14.6	C	反転復元 底部調整板オサエ
223		-	平井遺跡 第1次	八80	1532	5北区 E5d20	機械削削	—	家形	堅魚木	-	にぶい黄緑 10YR6/4	-	
224		-	平井遺跡 第1次	八128	2057	5北区 E5e-f18-19	褐色土	—	家形	堅魚木	-	橙 7.5YR6/6	-	O
225		77	平井遺跡 第1次	八16	1123	3北区 E5b20	—	392	千本	-	浅黄緑 7.5YR8/4	-	多条施文具	
226		-	平井遺跡 第1次	八124	963	3北区 E5y19-20 E5a18-19	黒色土	—	家形	切妻 破風	-	橙 7.5YR7/6	-	分割成形か 多条施文具
227		-	平井遺跡 第1次	八19	856	3北拡張区 E5e13	第3層	—	家形	障泥板	-	橙 7.5YR7/6	B	O 分割成形 多条施文具
228		77	平井遺跡 第1次	八126	2062	5北区 E5y23	黒褐色土	—	家形	屋根 軒先	-	にぶい緑 7.5YR7/4～にぶい 黄緑 10YR7/3	-	多条施文具
229		77	平井遺跡 第1次	八125	2063	5北区 E5a22	黒褐色土	—	家形	屋根 軒先	-	橙 7.5YR7/6	-	多条施文具
230		-	平井遺跡 第1次	八70	2046	5北区 E5c22	側溝	—	家形	屋根 軒先	-	橙 7.5YR7/6	A-E	多条施文具
231		77	平井遺跡 第1次	八130	981	3北区 E5a20-a-b18-19	黒色土	—	家形	入舟屋造 障泥板	-	にぶい緑 7.5YR7/4	-	分割成形 多条施文具
232		78	平井遺跡 第1次	八129	983	3東区 E5d3	—	341	家形	入舟屋造 荷檻部	-	浅黄緑 7.5YR8/6	A	O 分割成形 多条施文具
233		77	平井遺跡 第1次	八127	984	3北区 E5y23	黒色土	—	家形	屋根	-	浅黄緑 7.5YR8/6	A	O 屋根単条施文具縦刻
234		-	平井遺跡 第1次	八96	2017	3北区 E5g15	灰色粘土	—	家形	荷檻部	-	灰白 10YR8/2～ にぶい緑 5YR7/4	C	-
235		78	平井遺跡 第1次	八185	984	3北区 E5a-b18-19	黒色土	—	家形	立脚か	-	にぶい黄緑 10YR7/4	-	ナデ
236		-	平井遺跡 第1次	八184	984	3北区 E5e-b18-19	黒色土	—	家形	立脚か	-	にぶい緑 7.5YR7/4	-	ナデ
237		-	平井遺跡 第1次	八186	1054	5北区 E5g16	綠反覆	—	董形	立脚～ 瓦脚	-	橙 5YR7/6	C	反転復元
238		-	平井遺跡 第1次	八188	1000	3北区 E5h-i6	灰色土	—	董形	笠部	-	橙 5YR6/6	A	-
239		-	平井遺跡 第1次	八74	1817	3北拡張区 E5j-k13-14	地山上 精霊塗 池埋土	—	董形	笠部	-	橙 5YR6/6	-	-
240		-	平井遺跡 第1次	八187	1000	3北区 E5h-i6	灰色土	—	董形	台部	-	橙 2.5YR6/6 17.8	A	反転復元 ナデ
241		78	平井遺跡 第1次	八346	925	3北区 E5b19-c20	黒色土上 (褐色土)	—	盾形	盾面	-	にぶい緑 7.5YR6/4	-	多条施文具多点剥突
242		-	平井遺跡 第1次	八155	984	3北区 E5a-b18-19	黒色土	—	盾形	盾面	-	橙 5YR6/6	O	多条施文具/多点剥突
243		78	平井遺跡 第1次	八56	2068	—	排水	—	盾形	盾面	-	淡黄 2.5YB8/3	C	多条施文具/多点剥突
244		-	平井遺跡 第1次	八189	925	3北区 E5b19-c20	黒色土	—	盾形か	盾面	-	浅黄緑 10YR8/3	C	多条施文具/多点剥突
245		-	平井遺跡 第1次	八173	964	3北区 E5a-b18-19	黒色土	—	盾形か	盾面	-	橙 5YR7/6	O	多条施文具/多点剥突
246		-	平井遺跡 第1次	八54	1946	5南区 E5h20	第3・4層	—	盾形か	盾面	-	橙 7.5YR7/6	O	多点剥突
247		78	平井遺跡 第1次	八179	984	3北区 E5a-b18-19	黒色土	—	双脚輪 杖文	脚部	-	浅黄緑 7.5YR8/6	O	多条施文具/多点剥突
248		78	平井遺跡 第1次	八183	984	3北区 E5a-b18-19	黒色土	—	双脚輪 杖文	脚部	-	にぶい緑 5YR6/4	O	多条施文具/多点剥突

## 出土遺物一覧 壁輪

通物 番号	排回 番号	写真 版面	測定 番号	出土位置 測定番号	地区 取上区画	層位	測量番号 種類 測定部位	器種	部位	目録 番号 測定部位	色調	胎土 分析 剖面	備考
249		78	平井遺跡 第1次	八180	2048	5北区 E5117	黒泥層	—	双脚輪 状文	脚部	- 淡棕	5YR8/4	- ○ 多条施文具/多点刺突
250	図 61	78	平井遺跡 第1次	八178	983	3北区 D5y22 E5a-b18-19	黒色土	—	双脚輪 状文	形象部	- 棕	5YR6/6	- ○ 多条施文具/多点刺突
251		-	平井遺跡 第1次	八181	931	3北区 E5b-c17-18	黒色土上 (褐色土)	—	双脚輪 状文	形象部	- 棕	5YR6/6	C ○ 多条施文具/多点刺突
252		-	平井遺跡 第1次	八352	2048	5北区 E5117 2049	黒褐	—	双脚輪 状文	形象部	- にぶい橙	7.5YR7/4	- ○ 多条施文具/多点刺突
253		78	平井遺跡 第1次	八349	928	3北区 D5x20-21	黒色土	—	双脚輪 状文	形象部	- 明黄褐	10YR7/6	C ○ 多条施文具/多点刺突
254		78	平井遺跡 第1次	八47	505	3東区 D5y24	第3層	—	双脚輪 状文	形象部	- にぶい黄褐	10YR7/4	- ○ 多条施文具/多点刺突
255		-	平井遺跡 第1次	八40	528	3東区 D5w23	黄褐色砂 様	—	双脚輪 状文	形象部	- 棕	7.5YR7/6	A(E ○ 多条施文具/多点刺突
256		-	平井遺跡 第1次	八72	950	5東区 D6x2	—	353	双脚輪 状文	形象部	- 淡黄褐	7.5YR8/4	C ○ 多条施文具/多点刺突
257		78	平井遺跡 第1次	八57	2109	3北区 D5y20	包含層	—	石見型	形象部上 段面	- にぶい黄褐	10YR7/4	A ○ 多条施文具/斜交輪 状突起
258		-	平井遺跡 第1次	八27	520	3北区 D5y21	第3層	—	石見型	形象部上 段面	- 棕	7.5YR7/6	A ○ 多条施文具
259		-	平井遺跡 第1次	八12	574	南北セグメント D5w23	—	石見型	形象部上 段面	- 棕	5YR7/6	A(E ○ 多条施文具	
260		-	平井遺跡 第1次	八245	930	3北区 D5y21	黒色土上 (褐色土)	—	石見型	形象部上 段面	- 棕	7.5YR6/6	A ○ 多条施文具
261		-	平井遺跡 第1次	八6	624	3東区 D5x24	—	石見型	形象部上 段面	- 棕	7.5YR7/6	- ○ 多条施文具	
262		-	平井遺跡 第1次	八4	527	3東区 D5y25	第4層	—	石見型	形象部上 段面	- 棕	7.5YR7/6	A(E ○ 多条施文具
263	図 62	-	平井遺跡 第1次	八164	929	3北区 D5y21	黒色土	—	石見型	形象部上 段面	- 黄褐	7.5YR7/8	- ○ 多条施文具
264		-	平井遺跡 第1次	八59	2040	5北区 E5a23	第4層	—	石見型	形象部	- にぶい橙	7.5YR7/4	- ○ 多条施文具
265		79	平井遺跡 第1次	八168	964	3北区 E5a-b18-19	黒色土	—	石見型	形象部中央 部	- にぶい橙	7.5YR7/4	○ 多条施文具/中央部 織杉文
266		79	平井遺跡 第1次	八2	518	3北区 D5w21	第3層	—	石見型	形象部中央 部下段面	- 棕	7.5YR7/6	○ 多条施文具/中央部 織杉文
267		-	平井遺跡 第1次	八5	505	3東区 D5x24	第3層	—	石見型	形象部中央 部下段面	- 棕	7.5YR7/6	- ○ 多条施文具/刺突
268		-	平井遺跡 第1次	八71	2110	3北区 D5y20	包含層	—	石見型	形象部上 段面	- 棕	7.5YR7/6	A - 多条施文具/刺突
269		79	平井遺跡 第1次	八165	930	3北区 D5y21	黒色土上 (褐色土)	—	石見型	形象部段 部	- 棕	7.5YR7/6	A(E ○ 多条施文具/中央部 織杉文
270		-	平井遺跡 第1次	八10	729	3北区 D5y21	北側溝	—	石見型	形象部段 部	- 棕	7.5YR7/6	A ○ 多条施文具/中央部 織杉文
271		-	平井遺跡 第1次	八166	929	3北区 D5y21	黒色土	—	石見型	形象部段 部	- 棕	7.5YR7/6	- ○ 多条施文具
272		-	平井遺跡 第1次	八67	2041	3北区 D5w23	機械掘削	—	石見型	形象部下 段面	- 棕	7.5YR7/6~7.5YR6/6	C ○ 多条施文具
273		79	平井遺跡 第1次	八154	542	3北区 D5y1-23 5北区 E5z24	北側溝 黒泥層 第3層	—	石見型	形象部中央 部下段	- 棕	5YR6/6	C ○ 多条施文具/多点刺突
274		-	平井遺跡 第1次	八26	591	3東区 D5x24	第3層	—	石見型	形象部下 段面	- 棕	7.5YR6/6	A ○ 多条施文具
275	図 63	-	平井遺跡 第1次	八262	1006	5北区	黒色土上 (褐色土)	—	石見型	形象部	- にぶい橙	7.5YR7/4	C ○ 多条施文具
276		79	平井遺跡 第1次	八162	926	3北区 D5y20-21 E5a-b18-19	黒色土上 (褐色土)	—	石見型	形象部下 段面	- 7.5YR6/4~7.5YR7/6	C ○ 多条施文具	
277		-	平井遺跡 第1次	八261	964	3北区 E5a-b18-19	黒色土	—	石見型	形象部下 段面	- にぶい橙	7.5YR6/4	- ○ 多条施文具
278		-	平井遺跡 第1次	八249	930	3北区 D5y21	黒色土上 (褐色土)	—	石見型	形象部中央 部下段	- 棕	7.5YR7/6	- ○ 多条施文具/多点刺突 小規格
279		-	平井遺跡 第1次	八247	983	3北区 D5y22	黒色土	—	石見型	形象部中央 部下段	- にぶい黄褐	10YR7/4	- ○ 多条施文具/中央部 織杉文+多点刺突 小規格
280		79	平井遺跡 第1次	八167	964	3北区 E5a-b18-19	黒色土	—	石見型	形象部上 段面~下 段面	- 棕	7.5YR6/6	A ○ 多条施文具/中央 部: 織杉文+多点刺突 小規格
281	図 64	-	平井遺跡 第1次	八163	927	3北区 D5y20-21	黒色土上 (褐色土)	—	石見型	形象部上 段面	- 棕	5YR7/8	A ○ 单条施文具·弧文か ら
282		-	平井遺跡 第1次	八267	927	3北区 D5y20-21	黒色土上 (褐色土)	—	石見型	形象部上 段面	- 棕	7.5YR7/6	- ○ 单条施文具·弧文か ら
283		-	平井遺跡 第1次	八171	2029	5北区 E5117	黒泥層	—	石見型	形象部上 段面	- 淡黄褐	7.5YR8/6	A - 单条施文具·弧文か ら
284		-	平井遺跡 第1次	八60	2040	5北区 E5w23	第4層	—	石見型	形象部上 段面	- 棕	5YR6/6	- ○ 单条施文具·弧文か ら

## 出土遺物一覧 壁輪

遺物番号	排図番号	写真版面	測量名 測量表記	実測番号	出土位置 位置番号	地区 取上区画	層位	測量名 種類 測量単位	器種	部位	目録 番号 記述	色調	胎土 分析 剖面	備考
285	図64	-	平井遺跡 第1次	八284	338	3北区 E5c16	側溝北側 窓か	—	石見型	形象部 上段自 U字抉り	-	橙 7.5YR6/6	C	- 単条施文具・弦文
286		-	平井遺跡 第1次	八11	846	3東区 D5v24	黒墨層	—	石見型	形象部	-	橙 5YR7/6	-	O 単条施文具・弦文
287		-	平井遺跡 第1次	八75	965	3北区 E5h12	第3層	—	石見型	形象部 上段面	-	にぶい褐 7.5YR5/4	-	多条(3)施文具・弦文
288		-	平井遺跡 第1次	八292	338	3北区 E5c16	側溝北側 窓か	—	石見型	形象部	-	橙 5YR6/6	C	多条(3)施文具・弦文
289		-	平井遺跡 第1次	八294	338	3北区 E5c16	側溝北側 窓か	—	石見型	形象部 中央帶	-	橙 7.5YR6/6~に ぶい黄橙 10YR7/4	C	単条施文具・格子目
290		79	平井遺跡 第1次	八159	925	3北区 E5b-c19-20	黒色土上 (褐色土)	—	石見型	形象部 上段面 U字抉り	-	橙 7.5YR6/6	-	O 多条施文具・壹 角状突起
291	79	平井遺跡 第1次	八160	928	3北区 D5v20-21	黒色土	—	石見型	形象部 上段面	-	橙 7.5YR6/6	-	O 多条施文具・壹	
292	79	平井遺跡 第1次	八158	2109	3北区 D5y20	包含層	—	石見型	形象部 上段面	-	にぶい黄橙 10YR7/4~黃灰 2.5Y5/1	-	多条施文具・壹	
293	-	平井遺跡 第1次	八161	963	3北区 D5v19-20 E5a18-19	黒色土	—	石見型	形象部 上段面	-	橙 7.5YR6/4	A	多条施文具・壹	
294	79	平井遺跡 第1次	八158	985	3北区 E5a21	黒色土	—	石見型	形象部 上段面	-	橙 7.5YR6/6	A	多条施文具・壹	
295	図65	79	平井遺跡 第1次	八175 八178	963 2062 1030	D5-E5a-y18~ 20 5北区 D5y23 E5c19	黒色土 黒墨層 黒墨層	—	胡麻形	形象部 方立部	-	橙 7.5YR7/6	C	O 多条施文具・多点刺 突 矢羽縫刻
296		79	平井遺跡 第1次	八3	875	3東区 D5v24	第4層	—	胡麻形	形象部 方立部	-	橙 7.5YR7/6	-	O 多条施文具・多点刺 突
297		-	平井遺跡 第1次	八43 八177	507 1029	5北区 E5a24-20	第3層 黒色土	—	胡麻形	形象部 方立部	-	明黄褐 10YR7/6	A	O 多条施文具・多点刺 突 矢羽縫刻
298		-	平井遺跡 第1次	八350	928	3北区 D5v20-21	黒色土	—	胡麻形	形象部 失態部	-	浅黄橙 10YR8/4	C	O 多条施文具
299		-	平井遺跡 第1次	八351	928	3北区 D5v20-21	黒色土	—	胡麻形	形象部 失態部	-	浅黄橙 10YR8/4	A	O 多条施文具
300		-	平井遺跡 第1次	八45	524	3東区 D5v22	南北セヒヨ 少無透	—	胡麻形	形象部 失態部	-	にぶい黄橙 10YR7/4	-	多条施文具
301	-	平井遺跡 第1次	八204 八205	2040 2040 2068	5北区 E5a23-d20	側溝 堆土	—	胡麻形	形象部 失態部	-	明黄褐 10YR7/6	A.E	多条施文具・多点刺 突	
302	-	平井遺跡 第1次	八254	951	3北区 D5v21	黒色土上	—	鞠形か	形象部 上半部	-	にぶい黄橙 10YR7/4	-	O 多条施文具・多点刺 突	
303	-	平井遺跡 第1次	八42	507 924	5区 E5a24 3北区 E5c20	第3層 北側側溝 底	—	鞠形か	形象部 上半部	-	橙 7.5YR7/6	-	多条施文具・竹管文	
304	-	平井遺跡 第1次	八253	935 929	3北区 E5e17 D5v21	黒色土	—	鞠形か	形象部 上半部	-	明黄褐 10YR7/6	A.C E	O 多条施文具・竹管文	
305	80	平井遺跡 第1次	八156 八250	927 924 844	D5v19~21 3東区 D5w25	3北区 (褐色土) 側溝 底	—	鞠形か	形象部 上半部	-	橙 7.5YR7/6	A.E	O 多条施文具・竹管文	
306	80	平井遺跡 第1次	八252	927	3北区 D5v20-21	黒色土上 (褐色土)	—	鞠形か	形象部 上半部	-	にぶい黄橙 10YR7/4	C	O 多条施文具・竹管文	
307	-	平井遺跡 第1次	八63	2040 963	D5z3-19-20 5北区 D5-E5a18-19	第4層 黒色土	—	鞠形か	形象部 下部か	-	橙 7.5YR7/8	-	O 多条施文具	
308	-	平井遺跡 第1次	八329	2062	5北区 D5y23	黒墨層	—	器財	商周又は 胡麻形	-	橙 7.5YR7/6	C	O 多条施文具・多列点 刺	
309	-	平井遺跡 第1次	八174	2059	5北区 E5c20-21	褐色土	—	器財	商周又は 胡麻形	-	橙 5YR7/6	-	多条施文具・多点刺 突	
310	-	平井遺跡 第1次	八170	1024	5北区 E5a23	黒緑	—	器財	形象部 下半部	-	橙 7.5YR6/6	A	O 単条施文具 鉢・石豆形下半部か	
311	図66	80	平井遺跡 第1次	八157	894 523 744	3東区 D5y21 3北区 D5y21 D5w25	黒墨層 第3層 北側溝	—	器財	形象部 下半部	-	橙 5YR7/4	C	O 多条施文具・多点刺 突 鉢・石豆形下半部か
312		-	平井遺跡 第1次	八332	2062	5北区 D5y23	黒緑層	—	器財	不明	-	にぶい褐 7.5YR7/4	-	O 大刀か
313		-	平井遺跡 第1次	八65	2040	5北区 E5a23	第4層	—	器財	不明	-	にぶい褐 7.5YR6/4	-	O 单条施文具
314		80	平井遺跡 第1次	八347	993 959	3北区 E5h13-14	黒色土	—	器財	不明	-	橙 7.5YR6/6	-	单条施文具
315		80	平井遺跡 第1次	八48	601	3北区 D5u2	北側溝	—	器財	円筒部	-	橙 5YR7/6~浅黄 15.5 10YR8/4	C	- 倒立技法
316		-	平井遺跡 第1次	八112	964	3北区 E5a-b18-19	黒色土	—	器財	円筒部	-	浅黄褐 10YR8/4	A.E	O 倒立技法 底部突帯B

## 出土遺物一覧 壁輪

遺物番号	捲回数	写真版面	測量名 測量表番号	実測番号	出土位置 発掘番号	地区 取上区画	層位	測量番号 標高 測量単位	器種	部位	目録 部類 測定値	色調	胎土 分析 剖面	備考
317	図66	-	平井遺跡 第1次	八123	1025 2062 2063	5北区 E5a22-b20 D5y23	黒層	-	器財	円筒部	-	にぶい黄橙 10YR7/3	C	-
318		80	平井遺跡 第1次	八268	982	3北区 E5b20	黒色土上 (褐色土)	-	器財	円筒部	-	にぶい黄橙 10YR7/4 20.8	C	反転復元 倒立技法 底部突帯B
319		-	平井遺跡 第1次	八121	982	3北区 E5b20	黒色土上 (褐色土)	-	器財	円筒部	-	明黄褐 10YR7/6 18.7	C	反転復元 倒立技法 底部突帯B
320		-	平井遺跡 第1次	八257	928	3北区 E5b20-21	黒色土	-	器財	円筒部	-	明黄褐 10YR7/6	-	倒立技法 底部突帯B
321		80	平井遺跡 第1次	八88 八260	2031 2062	5北区 E5a24-D5y23	南側溝 黒層	-	器財	円筒部	-	にぶい緑 7.5YR7/4 25.6	A	反転復元 倒立技法 底部突帯A
322		-	平井遺跡 第1次	八93	2040	5北区 E5a23	第4層	-	器財	円筒部	-	緑 7.5YR6/6～に ぶい黄橙 17.5 10YR7/4	C	倒立技法 底部突帯A
323	-	平井遺跡 第1次	八138	964	3北区 E5a-b18-19	黒色土	-	器財	円筒部	-	にぶい黄橙 10YR7/4 19.5	A	反転復元 倒立技法 底部突帯A	
324	-	平井遺跡 第1次	八328	2035	5北区 E5d19	黒色土	-	人物	頭部	-	緑 5YR6/6	-	頂部	
325	-	平井遺跡 第1次	八140	1101	5北区 E5j21	黒色土	-	人物	頭部	-	灰黄褐 10YR6/2	C	顔面(理伏)	
326	-	平井遺跡 第1次	八353	2064	5北区 E5e19	黒色土	-	人物	頭部	-	浅黄褐 10YR8/4	-	顔面(理伏)	
327	-	平井遺跡 第1次	八139	985	3北区 E5a21	黒色土	-	人物	頭部～ 肩部	-	灰黄褐 10YR6/2 7.5YR6/4	-	多角形文具・列点刺 ・円形浮文	
328	-	平井遺跡 第1次	八41	674	5東区 D6v6	第3・4層	-	人物	肩部	-	黄橙 10YR7/4	-	単条施文具・刺突	
329	-	平井遺跡 第1次	八81	2017	3北区 E5d20	灰色粘土	-	人物	筋か	-	緑 5YR6/6	C	列点文	
330	-	平井遺跡 第1次	八182	959	3北区 E5h13-14	黒色土	-	人物か	筋か	-	にぶい緑 7.5YR7/4	-	馬形埴輪妻表現の可 能性あり	
331	-	平井遺跡 第1次	八317	2149	5北区 E5d19	褐灰色土	-	人物か	筋か	-	緑 5YR7/8	-	甲冑表現か	
332	-	平井遺跡 第1次	八142	964	3北区 E5a-b18-19	黒色土	-	人物	右手	-	緑 7.5YR7/6	-	腕飾剝離痕	
333	-	平井遺跡 第1次	八49	1169	5北区 E5d20	南北セクション側	-	人物	右手	-	浅黄褐 10YR8/4	-	腕飾剝離痕	
334	図67	-	平井遺跡 第1次	八68	2068	-	培土	-	人物	脛部	-	緑 7.5YR7/6	A	円形浮文 盛装男子か
335		81	平井遺跡 第1次	八37	601	3北区 D5u21-y20-21	北側溝 黒色土上 (褐色土)	-	人物	脣部	-	緑 5YR7/6	C	多角施文具・多点刺 ・突 盛装男子か
336		81	平井遺跡 第1次	八141	964	3北区 E5a-b-c17-19	黒色土上 (褐色土)	-	人物	脣部 裾部	-	明黄褐 10YR7/6	C	-
337		-	平井遺跡 第1次	八44	358	2北区 E5e6	第4層	-	人物	足女 家室	-	緑 5YR7/6	A	-
338		-	平井遺跡 第1次	八39	2113	3北区 D5y20	包含層	-	人物	台部か	-	緑 5YR6/6	C	O
339		-	平井遺跡 第1次	八151	964	3北区 E5a-b18-19	黒色土	-	鳥形	頭冠	-	緑 7.5YR7/6	-	-
340	-	平井遺跡 第1次	八32	702	5東区 D6x1	第3・4層	-	牛形	角	-	淡黄 2.5YR8/3	-	-	
341	-	平井遺跡 第1次	八35	209	2北区 E5d7	第3層	-	牛形	角	-	浅黄褐 7.5YR8/6	-	-	
342	-	平井遺跡 第1次	八147	2149	褐灰色土	-	馬形	頭	-	緑 5YR6/6	-	透L字彎曲+反対側 付加により製作		
343	B1	平井遺跡 第1次	八136	1053	5北区 E5h16	綠灰疊	-	馬形	脣部 右目附近	-	緑 5YR6/6	-	辻金具列点文	
344	-	平井遺跡 第1次	八135	931	3北区 E5b17-c17-18	黒色土上 (褐色土)	-	馬形	辻金具	-	緑 5YR6/6	-	-	
345	-	平井遺跡 第1次	八150	1030	5北区 E5c19	黒草灰 底?	-	馬形	右目附近	-	緑 5YR6/6	-	辻金具等剥離	
346	-	平井遺跡 第1次	八131	928	3北区 D5y20-21	黒色土	-	馬形	右目附近	-	緑 5YR6/6～淡黄 10YR8/3	-	辻金具等剥離	
347	-	平井遺跡 第1次	八148	964	3北区 E5a-b18-19	黒色土	-	馬形	脣部 左脣	-	緑 7.5YR7/6	C	鏡板等剥離	
348	-	平井遺跡 第1次	八189	2035	5北区 E5d19	黒色土	-	馬形	鞍部	-	緑 5YR7/8	-	-	
349	-	平井遺跡 第1次	八152	925	3北区	黒色土上 (褐色土)	-	馬形	顔部左	-	緑 5YR6/6	-	多角施文具	
350	-	平井遺跡 第1次	八79	1008	3北区	培土中	-	馬形	馬鐸	-	緑 5YR6/6	-	-	
351	-	平井遺跡 第1次	八73	1168	5区 E5c19	大セグション	-	馬形	馬鈴	-	にぶい緑 5YR6/4	-	-	
352	-	平井遺跡 第1次	八134	981	E5a20	褐色土	-	馬形	舌茎	-	緑 5YR6/6～にぶ い緑 7.5YR7/3	-	多角施文具・多点刺 ・突	
353	-	平井遺跡 第1次	八133	2061	5北区 E5f16-17	褐色土	-	馬形	右目附近	-	緑 5YR6/6～にぶ い緑 7.5YR7/4	-	多角施文具・多点刺 ・突	
354	-	平井遺跡 第1次	八133-2	2057	5北区 E5e18-19	褐色土	-	馬形	右目附近	-	緑 5YR6/6	C	多角施文具・多点刺 ・突	
355	B1	平井遺跡 第1次	八132	1054	5北区 E5g16	綠灰複層	-	馬形	左顎部	-	緑 5YR7/6～淡黄 10YR8/7	-	多角施文具・多点刺 ・突	
356	-	平井遺跡 第1次	八36	742	3北区 E5y19	第3層	-	動物	脚部	-	緑 5YR7/6	C	-	

## 出土遺物一覧 墓輪

遺物 番号	排図 番号	写真 版面	遺跡名 調査回数	実測 番号	出土遺物 登録番号	地区 取上区画	層位	遺構番号 種類 遺構層位	器種	部位	目録 番号 並表	胎土 分析 片前		備考	
												胎土 分析 片後	胎土 分析 片後		
357	図68	-	平井Ⅱ遺跡 第12次	ハ34	367	2北区 E515	—	113	動物	脚部	-	橙	7.5YR7/6	-	-
358		B1	平井Ⅱ遺跡 第12次	ハ143	931 964	3北区 E5a-b c17~19	黒色土上 (褐色土) 黑色土	—	馬形	左後脚	-	明赤褐	2.5YR5/6 ~浅黃褐 10YR8/3	C	○ 民窯/多点刺突
1462	図154	-	平井Ⅱ遺跡 第3次	ハ450	447	8区 C6-i j 23-24	包含層 第4-1層	—	董形	笠部	-	橙	5YR6/6~にぶい 黄褐10YR7/2	-	-
1463		-	平井Ⅱ遺跡 第22次	ハ449	264	7区 D5e25	—	130	石見型	形象部 上段画	-	明赤褐	5YR5/6	-	○ 多条施文具・斜軸
1464		-	平井Ⅱ遺跡 第22次	ハ451	21	7区 D5v25	崩落土	—	胡芦形	形象部 矢箇部	-	橙	7.5YR7/6	-	○ 多条施文具/多点刺突
1465	-	-	平井Ⅱ遺跡 第12次	ハ452	423	1-3区 B7f11	第3-1層	—	器財	円筒部	-	橙	SYR7/8	-	○

出土遺物一覽 腹棺

造物番号	設査番号	写真 図版	道路名 調査回数	実測地盤 高さ位置	土質 種類	地区 取上区画	道構面 地層位置	測量者・施設 地層位置	道物理組	基理	部位	胎土	備考
359	図69	—	平井道路 第1次	陶10	2150	5区	砂土	—	土師質	陶槽	椎茎 体部	C <sup>1</sup>	内面は継ぎ目みの斜位のユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則、上端に方形孔の一部が遺存する。
360	図69	82	平井道路 第1次	陶17	試掘 19	県試掘平井道路 和歌山第3次 2th(3-2)	第3層下層	—	土師質	陶槽	椎茎	C <sup>1</sup>	内面は継ぎ目みの斜位のユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則、基盤部面に施設の圧痕がある。
361	図69	82	平井道路 第1次	陶18	538 44 5	1北区F5c2 1北区F5c2 1北区	—	223土块 —	土師質	陶槽	椎茎	C <sup>1</sup>	内面は継ぎ目みの斜位のユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則、基盤部面に施設の圧痕があり。
362	図69	82	平井道路 第1次	陶2	4	—	—	—	複乱	土師質	陶槽	D <sup>1</sup>	外面上は丁寧なナデ調整が施される。
363	図69	82	平井道路 第1次	陶3	20	1北区 F5d2	トレラン 第3層	—	土師質	陶槽	椎茎	C <sup>1</sup>	内面はやや継ぎ目みの斜位の強ユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則、下端に方形孔の一部が遺存する。
364	図69	82	平井道路 第1次	陶1	4	1北区	—	—	複乱	土師質	陶槽	C <sup>1</sup>	内面は継ぎ目みの斜位のユビナデ調整が施される。外面上は斜位のナデ調整が施された後に施設が付される。
365	図69	—	平井道路 第1次	陶13	試掘 19	県試掘平井道路 和歌山第3次 2th(3-2)	第3層下層	—	土師質	陶槽	椎茎	C <sup>1</sup>	内面はやや継ぎ目みの斜位の強ユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則、左端に方形孔の一部が遺存する。
366	図69	82	平井道路 第1次	陶15	試掘 19	県試掘平井道路 和歌山第3次 2th(3-2)	第3層下層	—	土師質	陶槽	椎茎	C <sup>1</sup>	内面は継ぎ目みの斜位のユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則、上端に方形孔の一部が遺存する。
367	図69	82	平井道路 第1次	陶6	421	1北区 F5c2	—	172土块	土師質	陶槽	椎茎 体部	C <sup>1</sup>	内面は斜位のユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則、外面上全般に赤色斑点の剥離有り。
368	図69	82	平井道路 第1次	陶14	試掘 19	県試掘平井道路 和歌山第3次 2th(3-2)	第3層下層	—	土師質	陶槽	椎茎	C <sup>1</sup>	内面は斜位のユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則、外面上全般に赤色斑点の剥離有り。
369	図69	—	平井道路 第1次	陶7	421	1北区 F5c2	—	172土块	土師質	陶槽	椎身 底盤 口縁部	C <sup>1</sup>	内面は斜位のユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則、口縫部面に施設の圧痕あり。
370	図69	83	平井道路 第1次	陶16	試掘 19	県試掘平井道路 和歌山第3次 2th(3-2)	第3層下層	—	土師質	陶槽	椎身	C <sup>1</sup>	内面は斜位のユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則。後合部有り。
371	図69	83	平井道路 第1次	陶8	421	1北区 F5c2	—	172土块	土師質	陶槽	椎身 (底盤) 口縁部	C <sup>1</sup>	内面は斜位のユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則、口縫部面に施設の圧痕有り。
372	図69	83	平井道路 第1次	陶5	1015	1北区 F5d1	第4層	—	土師質	陶槽	椎身 口縁部	C <sup>1</sup>	内面はやや継ぎ目みの斜位のユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則、口縫部面端に施設の圧痕有り。
373	図69	—	平井道路 第1次	陶9	2068	県試掘平井道路 和歌山第3次 2th(3-2)	夢土 第3層下層	—	土師質	陶槽	椎身 口縁部	C <sup>1</sup>	内面はやや継ぎ目みの斜位のユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則、口縫部面端に施設の圧痕有り。
374	図69	83	平井道路 第1次	陶11	2150	5区	砂土	—	土師質	陶槽	椎身 体部 複合型	C <sup>1</sup>	内面は斜位のユビナデ調整が施される。外面上は施設者らしいため調整不規則、外面上全般に斜位のナデ調整が施される。外面上全般に口縫部面端に施設の圧痕有り。
375	図69	—	平井道路 第1次	陶4	209	2北区 E5n1	第3層	—	土師質	陶槽	椎身 脚部	C <sup>1</sup>	施設内面は一定方向のユビナデ調整が施される。外面上は斜位のナデ調整が施される。外面上全般に斜位のナデ調整が施される。外面上全般に口縫部面端に施設の圧痕有り。
376	図69	83	平井道路 第1次	陶12	2068	1北区	夢土	—	複乱	土師質	陶槽	C <sup>1</sup>	施設内面は一定方向のユビナデ調整が施される。外面上は斜位のナデ調整が施される。外面上全般に斜位のナデ調整が施される。外面上全般に口縫部面端に施設の圧痕有り。

### 出土遺物一覽 石器・石製品(S)

形数値の( )付は、複数値を示す。

遺物番号	埋蔵基層番号	真写反版	遺物名	遺物識定番号	土壌剖面	取上区分	遺構番号	遺構面	遺構層	遺物種類	器種	法量				石材	備考
												長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)		
1367	図147	106	平井遺跡 第2次	59	46	78cm D5g25	—	—	第3層	石器	石錐	3.0	2.1	0.35	1.75	サスカイト	幽密、全体に器面の風化が進んでいる。
1368	図147	108	平井遺跡 第1次	843	260	1-18cm B7g9	—	—	第3-2層	石器	石錐	3.1	1.9	0.4	(2.48)	サスカイト	微密、表面に細かい縦筋状剥離が施される。
1369	図147	108	平井遺跡 第1次	57	688	5東面 D6v3	—	—	第4層	石器	石錐	3.55	0.6- 1.55	0.3- 0.6	(2.44)	サスカイト	微密、底面が僅かに欠損する。
1370	図147	108	平井遺跡 第3次	516	385	1-28cm F5k1	59土坑-3	—	—	石器	石錐	4.8	1.8	0.45	(5.37)	サスカイト	密密、一部が頭部に僅かに欠損する。
1371	図147	108	平井遺跡 第3次	529	140	2-28cm F5d3	—	—	第4層	石製品	石劍	(11.9)	(3.6)	0.7- 0.9	(42)	粘板岩	頭部は弱い、茎は太重
1372	図147	108	平井遺跡 第1次	55	1015	1北面 F5d1	—	—	第4層	石製品	石庖丁	(5.4)	4.8	0.6	(22)	泥片岩	通じ出し孔主に奥側に位置する。奥側から出る孔は表裏に亘る。
1373	図147	109	平井遺跡 第3次	528	120	2-28cm	—	—	機械削面	石製品	石庖丁	(5.8)	4.3	0.6	(26)	泥片岩	通じ出し奥側面からの中空部。片刃
1374	図147	109	平井遺跡 第4次	533	496	6-28cm F4v18	136周	—	—	石製品	石庖丁	(7.4)	4.8	0.9	(49)	泥片岩	通じ出し奥側面からの中空部。片刃

## 出土遺物一覧 石器・石製品(S)

三数値の( )付は、残存値を示す。

遺物 番号	拂田 番号	写真 図版	出土遺物 登録番号	出土遺物 登録番号	取上 面番号	遺構番号 層位	遺構面 層積	遺物種類	器種	法量	石材	備考	
										高さ(cm) 幅(cm)	厚み(cm) 重さ(g)		
1375	図147	109	平井遺跡 第3次	S27	286	2-2区 F5e5	1土坑 第2層	——	石製品	石盾	12.4	4.9	0.85 (76)
1376	図147	109	平井遺跡 第3次	S26	307	2-2区 F5e4	26土坑 (1-2内)	——	石製品	石盾	12.4	5.6	0.75 101
1377	図147	109	平井遺跡 第3次	S17	393	1-2区 F5e3	59土坑 第5層	——	石製品	石錐 (抜神)	6.6	5.9	5.3 266
1378	図147	109	平井遺跡 第3次	S13	102	1-2区 F4n24	——	第3-3層	石製品	敲石	(7.0)	7.2	4.5 (302)
1379	図147	109	平井遺跡 第1次	S4	690	5重区 D6w3	——	第3-4層	石製品	敲石	15.7	8.2	5.5 1,032
1380	図147	109	平井遺跡 第1次	S6	700	3重区 D6v2	——	第4層	石製品	敲石	6.8	(5.0)	4.7 (247)
1381	図147	109	平井遺跡 第3次	S23	392	1-2区 F5e1	59土坑 南北サンド	——	石製品	敲石 (磨石)	6.3	5.6	5.1 257
1382	図147	109	平井遺跡 第3次	S20	392	1-2区 F5e1	59土坑 南北サンド	——	石製品	敲石	10.2	4.4	3.0 218
1383	図147	109	平井遺跡 第3次	S19	388	1-2区 F5e1	59土坑-4	——	石製品	敲石	9.9	4.1	2.6 153
1384	図147	109	平井遺跡 第4次	S22	269	6-2区 F4n20	162小穴	——	石製品	敲石	19.5	3.3	2.8 136
1385	図147	109	平井遺跡 第4次	S31	269	6-2区 F4n20	162小穴	——	石製品	敲石	12.3	5.5	4.1 446
1386	図147	109	平井遺跡 第3次	S15	324	1-2区 F5e2	2方形底圓盤	——	石製品	磨石	(11.2)	6.3	5.5 (525)
1387	図147	109	平井遺跡 第3次	S12	76	1-2区 F5j1	——	第3-2層	石製品	磨石	8.0	5.5	4.0 281
1388	図147	109	平井遺跡 第4次	S42	428	6-1区 F4y18	114號穴圓盤 底圓盤	——	石製品	磨石 (敲石)	8.1	5.4	4.4 (310)
1389	図148	110	平井遺跡 第3次	S14	315	1-2区 F5i1	2方形底圓盤	——	石製品	敲石	(11.8)	8.4	4.0 (698)
1390	図148	110	平井遺跡 第3次	S18	388	1-2区 F5k1	59土坑-4	——	石製品	敲石	10.6	9.1	6.5 (912)
1391	図148	110	平井遺跡 第3次	S22	392	1-2区 F5e2	59土坑 南北サンド	——	石製品	敲石	15.0	8.7	5.0 929
1392	図148	110	平井遺跡 第3次	S2	421	1北区 E5c2	172大坑	——	石製品	砾石	(9.8)	3.9	1.1- 2.6 (138)
1393	図148	110	平井遺跡 第3次	S3	919	3重区 D6w3	341奥 上層	——	石製品	砾石	(4.5)	2.7- 4.5 (38)	1.2- 1.6 荒灰岩から 使用面4面
1394	図148	110	平井遺跡 第3次	S21	393	1-2区 F5e1	59土坑 第5層	——	石製品	砾石	10.1	6.6	5.3 454
1395	図148	110	平井遺跡 第3次	S24	392	1-2区 F5e1	59土坑 南北サンド	——	石製品	砾石	(7.5)	(6.3)	(2.5) (116)
1396	図148	110	平井遺跡 第2次	S10	270	7区 D5e25	130土坑	——	石製品	砾石	21.4	9.9	11.1 (2,520)
1397	図148	110	平井遺跡 第3次	S25	392	1-2区 F5e1	59土坑 南北サンド	——	石製品	砾石 (玉頭石)	17.6	(12.4)	5.8 (2,090)
1398	図148	110	平井遺跡 第4次	S30	366	6-1区 F4v17	42壁穴圓盤	——	石製品	砾石	(16.6)	7.1	7.2 (820)
1399	図148	—	平井遺跡 第4次	S41	391	6-1区 F4v17	42穴圓盤 6壁溝	——	石製品	砾石	(0.6)	12.1	4.0 (634)
1400	図148	110	平井遺跡 第4次	S39	—	6-2南区 F4n22	63縦穴式 石室-4	——	石製品	小玉	0.9	0.8	0.55 0.43
1401	図148	110	平井遺跡 第4次	S34	—	6-2南区 F4n22	63縦穴式 石室-2	——	石製品	小玉	0.6	0.65	0.5 0.31
1402	図148	110	平井遺跡 第4次	S38	—	6-2北区 F4n22	63縦穴式 石室-4	——	石製品	小玉	0.65	0.6	0.5 0.28
1403	図148	110	平井遺跡 第4次	S36	—	6-2南区 F4n22	63縦穴式 石室-5	——	石製品	小玉	0.5	0.6	0.45 0.19
1404	図148	110	平井遺跡 第4次	S37	—	6-2南区 F4n22	63縦穴式 石室-4	——	石製品	小玉	0.5	0.55	0.4 0.28
1405	図148	110	平井遺跡 第4次	S35	—	6-2北区 F4n22	63縦穴式 石室-5	——	石製品	小玉	0.65	0.6	0.45 0.36
1406	図148	—	平井遺跡 第4次	S40	—	6-2南区 F4n24	85縦穴式 石室-5	——	石製品	小玉	0.4	0.35	0.2 0.03
1407	図148	110	平井遺跡 第3次	S44	364	5南区東端 C7e8	——	第2層	石製品	有孔円盤	2.85	2.95	0.35 (4,62)
1408	図148	—	平井遺跡 第1次	S1	261	2北区 E5e7	060土坑	——	石製品	石錐	(6.5)	—	— (78)

### 出土遺物一覽 木製品(W)

遺物 番号	備註 番号	写真 版面	遺物名 調査次数	東日本電 気開業年	出土地點 登録番号	取上 区画	遺構番号 層位	遺構面 堆積層	遺物種類	器種	部位	参考情報の（）付は、残存状を示す。		樹種 (材質)
												未確認	既確認	
1409	図149	111	平井遺跡 第3次	W9	—	1-2区 F5k1	59土坑 取上1	—	工具	尖頭?	未完成?	○	高さ(表土)37.0cm、幅48.6cm、厚 み約5.8~7.7cm。断面形状は良好	コラ風 アカガシ風
1410	図149	111	平井遺跡 第3次	W10	—	1-2区 F5k1	59土坑 取上4	—	工具	尖頭?	未完成?	○	高さ(表土)32.8cm、幅45.6cm、厚 み約7.7~8.3cm。断面形状は良好	コラ風 アカガシ風
1411	図150	111	平井遺跡 第3次	W7	—	1-2区 F5k1	59土坑 取上2	—	工具	尖頭?	未完成?	○	高さ49.7cm、幅30.0cm、厚 み約4.0~4.5cm。直面形状は良好	コラ風 アカガシ風
1412	図150	111	平井遺跡 第3次	WB	—	1-2区 F5k1	59土坑 取上3	—	工具	尖頭?	未完成?	○	高さ49.1cm、幅24.8cm、厚み3.3 cm、直面形状は良好	コラ風 アカガシ風
1413	図150	111	平井遺跡 第3次	W11	—	1-2区 F4o24	73柱穴 33穴六建物	—	建築部材	柱材	柱基部	○	高さ(15.3cm)、幅(13.1cm)、厚 み12.7~9.6cm。全体に不均整し い、断面約1/3欠損	ケヤキ アカガシ風
1414	図150	111	平井遺跡 第3次	W12	—	1-2区 F5h1	75柱穴	—	建築部材	柱材	柱基部	○	高さ(32.4cm)、幅(22.4cm)、厚 み(13.5~22.4cm)。全体に不均整し い、断面約1/2欠損	スギ アカガシ風
1415	図150	111	平井遺跡 第3次	W1	1985	4南区 E5n4	58柱穴6 立柱建物6	—	建築部材	柱材	柱基部	○	高さ(5.9cm)、幅(21.0cm)、厚 み(11.3~17.1cm)。上部不均整し い	スギ アカガシ風
1416	図150	111	平井遺跡 第1次	W2	1984	4南区 E5n4	58柱穴6 立柱建物6	—	建築部材	柱材	柱基部	○	高さ(4.81cm)、幅(20.01cm)、厚 み(20.4~19.5cm)。上部不均整し い	スギ アカガシ風
1417	図151	111	平井遺跡 第3次	W6	—	2-2区 F5g3	8土坑	—	容器	漆桶	—	○	高さ(7.0cm)、底径(6.0cm)。朱 漆仕上げ。内側も朱漆仕上げで、外 側は一部しか剥落らず。	ブナ風 アカガシ風
1418	図151	111	平井遺跡 第3次	W5	—	2-2区 F5g3	8土坑	—	容器	漆桶	—	○	高さ(3.2cm)、底径(7.6cm)。朱漆 仕上げ。内側も朱漆仕上げで朱塗り残 る。2片を接着	ブナ風 アカガシ風
1419	図151	111	平井遺跡 第3次	W4	588	2北区 E5v5	029戸下 下層	—	容器	曲物	底板	○	高さ11.6cm、幅12.5cm、厚み0.6 cm。土圧のためかねがれが著しい。 2片を接着	スギ アカガシ風
1420	図151	111	平井遺跡 第3次	W3	1201	2南区 F5g6	403土坑 (小穴)	—	容器	曲物	底板	○	高さ(5.3cm)、幅(11.7cm)、厚 み1.1cm。直存形状は良好。裏面に 剥離した跡が多い。	コウヤマキ アカガシ風

### 出土遺物一覽 金属製品(M)

※残存率は、図示された残存部位での割合。数値の（ ）付は、残存値を示す。  
重量は、保存処理前の値。

遺物番号	持回番号	写真図版	遺物名 実測値 調査次数	出土位置 古墳番号	取上区画	遺構番号 層位	遺構面 堆積層	遺物種類	器種	部位	備考(長さ・幅・厚み)			
											外径	内径		
1421	図152	112	平井遺跡 第4次	M55	M55	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 東西セクション	——	銅製品	銅芯耳鍍 耳環	95%	○	外径2.7×(2.95)cm・芯外径0.7~0.55cm・重量(16.17g)・表面が削除し捲れ上がる、土質・土壤洗浄から抽出	
1422	図152	112	平井遺跡 第4次	M62	M62	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 東南・東西南北 土層固留位置	——	銅製品	銅芯耳鍍 耳環	98%	○	外径2.2×2.5cm・芯外径0.5×0.5cm・重量(6.01g)・やや鋏化が進む、中空	
1423	図152	112	平井遺跡 第4次	M56	M56	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 東西セクション	——	銅製品	銅芯耳環	落なしで 100%	○	外径2.2~2.4cm・芯外径0.4~0.45cm・重量(5.16g)・全表面削除・中空・土壤洗浄から抽出	
1424	図152	112	平井遺跡 第4次	M63	M63	6-2南区 F4i25	85横穴式石室	——	銅製品	銅芯金鍍 耳環	99%	○	外径2.2×2.3cm・芯外径0.5×0.7cm・重量(5.79g)・遺存状態は良好・中空	
1425	図152	112	平井遺跡 第4次	M58	M58	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 -1	——	鉄製品	頭部～ 先端部	95%	○	長さ(6.0cm)・頭幅0.5cm・厚み0.5mm・頭幅14.5cm・頭部厚み1.7cm・重量(0.56g)・3片を接着・鋏化しない、土壤洗浄から抽出	
1426	図152	112	平井遺跡 第4次	M57-2	M57	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 -1	——	鉄製品	頭部～ 頭部	70%	○	長さ(3.5cm)・頭幅0.5cm・厚み0.65cm・頭幅14.2cm・3片を接着・鋏化しない、土壤洗浄から抽出	
1427	図152	112	平井遺跡 第4次	M61	M61	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 -5の下	——	鉄製品	頭部～ 頭部	80%	○	長さ(3.7cm)・頭幅0.45cm・厚み0.4cm・頭幅16.5cm・頭部厚み1.75cm・重量(6.25g)・頭部残存・鋏化しない、土壤洗浄から抽出	
1428	図152	112	平井遺跡 第4次	M84-1	M84	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 石室下層	——	鉄製品	頭部～ 頭部	80%	○	長さ(4.1cm)・頭幅0.7cm・厚み0.8cm・頭幅15.5cm・頭部厚1.5cm・重量(4.7g)・先端丸	
1429	図152	112	平井遺跡 第4次	M83	M83	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 前室内	——	鉄製品	頭部～ 頭部	60%	○	長さ(3.3cm)・頭幅0.95cm・厚み1.05cm・頭部厚1.9cm・頭部厚1.5cm・重量(3.4g)	
1430	図152	112	平井遺跡 第4次	M59	M59	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 -3	——	鉄製品	頭部～ 頭部	20%	○	長さ(0.9cm)・頭幅0.55cm・厚み0.45cm・重量(1.73g)・遺存状態は良好・土壤洗浄から抽出	
1431	図152	112	平井遺跡 第4次	M52-2	M52	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 東西セクション	——	鉄製品	釘 (頭)	頭部～ 頭部	80%	○	長さ(3.1cm)・頭幅0.75cm・重量(3.15g)・頭部は現存・土壤洗浄から抽出
1432	図152	112	平井遺跡 第4次	M84-3	M84	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 石室下層	——	鉄製品	頭部～ 頭部	60%	○	長さ(4.55cm)・頭幅0.6cm・厚み0.7cm・重量(3.35g)・頭部丸・木質残る?	
1433	図152	112	平井遺跡 第4次	M84-2	M84	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 石室下層	——	鉄製品	釘 (頭)	頭部～ 頭部	70%	○	長さ(4.95cm)・頭幅0.6cm・厚み0.7cm・重量(4.51g)・頭部丸・木質残る?
1434	図152	112	平井遺跡 第4次	M57-1	M57	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 -1	——	鉄製品	頭部～ 頭部	70%	○	長さ(3.5cm)・頭幅0.6cm・厚み0.45cm・重量(2.79g)・頭部丸・土壤洗浄から抽出	
1435	図152	112	平井遺跡 第4次	M87	M87	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 中層	——	鉄製品	釘 (頭)	頭部	60%	○	長さ(3.2cm)・頭幅0.5cm・厚み0.45cm・重量(2.6g)・頭部丸・土壤洗浄から抽出

## 出土遺物一覧 金属製品(Ⅲ)

※残存率は、図示できた残存部での割合。

数値の( )付は、残存部を示す。  
量は、保存処理前の量。

遺物 番号	写真 図版 番号	遺跡名 調査次数	実測物 目録番号	出土物 目録番号	取上 区画	遺構番号 層位	遺構面 堆積層	遺物種類	器種	部位	保存 処理	備考(長さ・幅・厚み)	
1436 図152	112	平井遺跡 第4次	M54-2	M54	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 東西セイション	——	鉄製品	鍔 (刀子)	刃部 50%	○	長さ(4.15cm)・幅(0.8cm)・厚み(0.7cm) 重量(5.36g)。鍔ぶくれらしい。土塗洗 浄から抽出	
1437 図152	112	平井遺跡 第4次	M54-1	M54	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 東西セイション	——	鉄製品	鍔	刃部 70%	○	長さ(4.05cm)・幅(0.9cm)・厚み(0.4cm) 重量(2.57g)。他の形状は分るが銅化著 しい。土塗洗浄から抽出	
1438 図152	112	平井遺跡 第4次	M54-3	M54	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 東西セイション	——	鉄製品	鍔	刃部 80%	○	長さ(3.55cm)・幅(0.35cm)・厚み(0.35~ 0.4cm)・重量(1.19g)。進存状態は良好 か。土塗洗浄から抽出	
1439 図152	112	平井遺跡 第4次	M52-1	M52	6-2南区 F4n22	63横穴式石室 東西セイション	——	鉄製品	頭口金具 か	80%	○	外径(1.5cm)・幅(0.95cm)・厚み(0.25cm) 重量(1.67g)。頭部空室か。内径は鏡 付裏。土塗洗浄から抽出	
1440 図152	112	平井遺跡 第4次	M70	M70	6-2南区 F4/25	85横穴式石室 -3 第3層	——	鉄製品	鍔頭～ 先端部 98%	——	○	長さ(5.5cm)・幅(0.5cm)・厚み(0.4cm) 頭部幅(1.2cm)・頭部厚(0.10cm)・重量 (5.97g)。ほぼ完形。銅化著しい。土塗 洗浄から抽出	
1441 図152	112	平井遺跡 第4次	M67	M67	6-2南区 F4/25	85横穴式石室 -2	——	鉄製品	鍔	98%	○	長さ(4.0cm)・幅(0.55cm)・厚み(0.5cm) 頭部幅(0.5cm)・頭部厚(0.15cm)・重量 (2.86g)。ほぼ完形。3片を接着。土塗 洗浄から抽出	
1442 図152	112	平井遺跡 第4次	M66	M66	6-2南区 F4/25	85横穴式石室 -2	——	鉄製品	鍔頭～ 頭部 70%	——	○	長さ(2.8cm)・頭幅(0.45cm)・頭厚(0.5 cm)・頭部幅(0.8cm)・頭部厚(0.3cm)・重 量(1.77g)。進存状態は良好。頭部に鏡 金有り。土塗洗浄から抽出	
1443 図152	112	平井遺跡 第4次	M68-1	M68	6-2南区 F4/25	85横穴式石室 -2	——	鉄製品	鍔頭～ 頭部 80%	——	○	長さ(3.65cm)・頭幅(0.4cm)・厚み(0.45 cm)・頭部幅(0.95cm)・頭部厚(0.95cm) ・長さ(0.4cm)・重量(2.54g)。3片を接着。 進存状態は良好。土塗洗浄から抽出	
1444 図152	112	平井遺跡 第4次	M72-1	M72	6-2南区 F4/25	85横穴式石室 -3 第3層	——	鉄製品	鍔頭～ 頭部 75%	——	○	長さ(2.65cm)・頭幅(0.4cm)・厚み(0.4cm) ・重量(2.51g)。先端部欠損。土塗洗浄か ら抽出	
1445 図152	112	平井遺跡 第4次	M75-2	M75	6-2南区 F4/25	85横穴式石室 -4 第3層	——	鉄製品	鍔頭～ 頭部 60%	——	○	長さ(3.2cm)・頭幅(0.4cm)・厚み(0.45cm) ・重量(3.97g)。頭部は銀が確認できるが 頭部は銅化著しい。土塗洗浄から抽出	
1446 図152	112	平井遺跡 第4次	M68-2	M68	6-2南区 F4/25	85横穴式石室 -2	——	鉄製品	釘 (紙)	頭部 80%	○	長さ(2.62cm)・頭幅(0.4cm)・厚み(0.45cm) ・重量(7.11g)。頭部空室いい。土塗洗浄か ら抽出	
1447 図152	112	平井遺跡 第4次	M75-1	M75	6-2南区 F4/25	85横穴式石室 -4 第3層	——	鉄製品	釘 (紙)	頭部～ 頭部 80%	○	長さ(6.7cm)・頭幅(0.5cm)・厚み(0.6cm) ・重量(8.94g)。頭部の銅化著しい	
1448 図152	112	平井遺跡 第4次	M86	M86	6-2南区 F4/24	85横穴式石室 五重宝冠 (第3層)	——	鉄製品	釘 (紙)	頭部～ 頭部 80%	○	長さ(5.55cm)・頭幅(0.5cm)・厚み(0.5cm) ・重量(7.88g)。銅化著しい	
1449 図152	112	平井遺跡 第4次	M72-2	M72	6-2南区 F4/25	85横穴式石室 -3 第3層	——	鉄製品	釘 (紙)	頭部～ 先端部 80%	○	長さ(4.6cm)・頭幅(0.85cm)・厚み(0.8cm) ・重量(4.06g)。先端部欠損。土塗洗浄か ら抽出	
1450 図152	112	平井遺跡 第4次	M77	M77	6-2南区 F4/25	85横穴式石室 -6 第3層	——	鉄製品	釘 (紙)	頭部 60%	○	長さ(3.7cm)・頭幅(0.4cm)・厚み(0.45cm) ・重量(3.85g)。銅化著しい。土塗洗浄か ら抽出	
1451 図152	112	平井遺跡 第4次	M65	M65	6-2南区 F4/25	85横穴式石室 -1	——	鉄製品	鍔	頭部～ 先端部 70%	○	長さ(2.5cm)・幅(0.55cm)・厚み(0.3cm) ・重量(0.64g)。頭部空窓好。土塗洗浄か ら抽出	
1452 図152	112	平井遺跡 第4次	M75-3	M75	6-2南区 F4/25	85横穴式石室 -4 第3層	——	鉄製品	刀の柄頭	30%	○	長さ(4.9cm)・幅(3.4cm)・厚み(0.3~0.4 cm)・重量(15.19g)。銅化著しい。2片を接着	
1453 図152	112	平井遺跡 第4次	M75-4	M75	6-2南区 F4/25	85横穴式石室 -4 第3層	——	鉄製品	不明	10%	○	長さ(6.8cm)・幅(2.6cm)・厚み(0.15~ 0.4cm)・重量(10.22g)。一部銅化。原頭 が遺存しない。土塗洗浄から抽出	
1454 図152	112	平井遺跡 第1次	M25-1	M25	1北長區 E5u1	中世火葬墓	261	鉄製品	釘	98%	○	長さ(6.0cm)・幅(0.5cm)・厚み(0.55cm) ・頭部幅(0.8cm)・頭部厚(0.15cm)・重量 (3.4g)。ほぼ完形。2片を接着	
1455 図152	112	平井遺跡 第1次	M25-2	M25	1北長區 E5u1	中世火葬墓	261	鉄製品	釘	85%	○	長さ(4.95cm)・幅(0.55cm)・厚み(0.55cm) ・重量(3.11g)。頭部が遺存している か不明。2片を接着	
1456 図152	112	平井遺跡 第1次	M25-3	M25	1北長區 E5u1	中世火葬墓	261	鉄製品	釘	95%	○	長さ(5.35cm)・幅(0.6cm)・厚み(0.45cm) ・頭部幅(1.1cm)・頭部厚(0.15cm)・重量 (3.24g)。頭部空窓好。銅化著しい。	
1457 図152	112	平井遺跡 第1次	M25-4	M25	1北長區 E5u1	中世火葬墓	261	鉄製品	釘	90%	○	長さ(4.1cm)・幅(0.7cm)・厚み(0.7cm)・頭 部幅(0.75cm)・頭部厚(0.15cm)・重量 (3.93g)。先端が少し欠損する。先端部が ある	
1458 図152	112	平井遺跡 第1次	M25-5	M25	1北長區 E5u1	中世火葬墓	261	鉄製品	釘	90%	○	長さ(4.6cm)・幅(0.5cm)・厚み(0.6cm) ・頭部幅(1.0cm)・頭部厚(0.15cm)・重量 (3.8g)。先端が少し欠損する。先端部が ある	
1459 図152	112	平井遺跡 第1次	M32	M32	5北区 E5u-f 18-19	褐色土	——	褐色土	鉄製品	鍔先	90%	○	長さ(6.2cm)・幅(3.5cm)・厚み(0.75cm) ・重量(34.64g)。銅化著しい。側縁巻き 込み不明確
1460 図152	112	平井遺跡 第4次	M81	M81	6-1北区 G4b14	——	第3層	鉄製品	鋼鐵	100%	○	往(2.4cm)×横(2.35cm)・厚み(0.15cm)・重量 2.0g。茎葉完好。進存状態は良好	
1461 図152	—	平井遺跡 第1次	M26	M26	2南区 F5e9	——	第4層	鉄製品	鋼鐵	100%	—	往(2.5cm)×横(2.5cm)・厚み(0.15cm)・重量 3.75g。茎葉完好。銅化やや著しい	

写 真 図 版



写真図版 1 平井遺跡 第1次、平井II遺跡 第3次 調査遺構



平井遺跡、平井II遺跡の調査地と周辺の地形(北西上空から: 左側が北東)



1区～5区 第1遺構面 調査構構全景(真上空から: 左側が北東 モザイク写真)



1 1北区・2北区・4北区 第1遺構面 調査遺構全景(北西上空から)



2 4北区・2北区・1北区 第1遺構面 調査遺構全景(南東上空から)



3 2南区・4南区・3南区・5南区 第1遺構面 調査遺構全景(北西上空から)



1 3北区・3北区拡張区・5北区 第1遺構面 調査遺構全景(南東上空から)



2 3北区・3北区拡張区・5北区 第1遺構面 調査遺構全景(南東から)



3 3東区・5東区(第2次 7区含む) 第1遺構面 調査遺構全景(北西から)



1 4南区・3南区・5南区・3北区・3北区拡張区 第1遺構面 調査遺構全景(南西上空から)



2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222・257 増輪窯(南西上空から)



3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222・257 増輪窯床面 1(西から)





1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222 増輪窯床面 2 完掘状況(南西から)



2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222 増輪窯床面 2 燃焼部・焼成部(南西から)



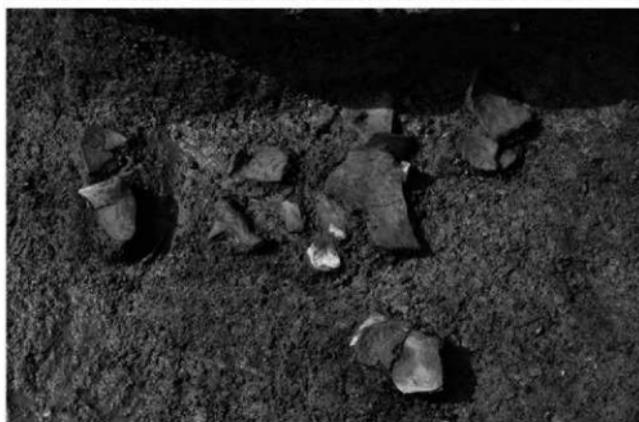
3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222 増輪窯床面 2 燃焼部(南西から)



1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222 埴輪窯床面3 (南西から)



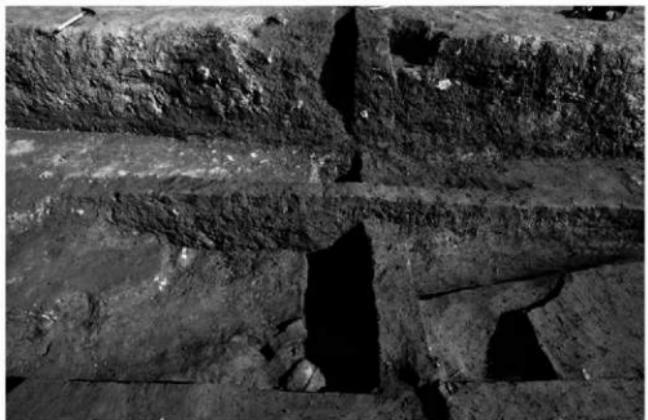
2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222 埴輪窯床面3 焚口～焼成部遺物出土状況(南西から)



3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222 埴輪窯床面3 焚口遺物出土状況細部(南東から)



1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222 増輪窯断面土層(南西から)



2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222 増輪窯東西断面土層(南西から)



3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 222 増輪窯燃焼部南北断面土層細部(北西から)



1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 増輪窯床面1(西から)



2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 増輪窯床面1 遺物出土状況細部(南西から)



3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 増輪窯床面1 灰原遺物出土状況(南東から)



1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 墓輪窯床面2(西南西から)



2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 墓輪窯床面2 遺物出土状況細部(南西から)



3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 墓輪窯床面2 灰原遺物出土状況(南西から)



1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 墓輪窯床面3(南西から)



2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 墓輪窯床面3 遺物出土状況(南西から)



3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 墓輪窯床面3 遺物出土状況細部(南西から)



1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 墓輪窯床面4(南西から)



2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 墓輪窯床面4(南西から)



3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 墓輪窯床面4 遺物出土状況(西から)



1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 増輪窯床面5(南西から)



2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 増輪窯床面5 遺物出土状況(南西から)



3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 増輪窯床面5 遺物出土状況細部(南東から)



1 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 墓輪窯焼成部4区(セク3)検出面～床面2 東西断面土層(南西から)



2 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 墓輪窯焼成部4区(セク3)床面1～2 東西断面土層(南西から)



3 3北区・3北区拡張区 第1遺構面 257 墓輪窯4区南東側 床面1～基盤層南北断面土層(東から)



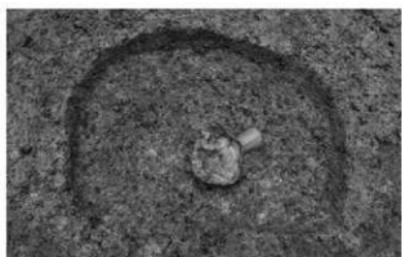
1 1北区 第1遺構面 002 横穴式石室・003 横穴式石室痕跡(真上上空から)



2 1北区・1北区拡張区 第1遺構面 002 横穴式石室(南西から)



3 1北区 第1遺構面 003 横穴式石室痕跡(南東から)



1 2 南区 第1遺構面 559 土坑遺物出土状況  
(南から)



2 3 南区 第1遺構面 621 土坑遺物出土状況  
(南西から)



3 3 北区 第1遺構面 268 土坑遺物出土状況  
(南東から)



4 3 北区 第1遺構面 268 土坑遺物出土状況細部  
(西から)



5 3 北区 第1遺構面 260 竪穴系小石室  
遺物出土状況(南西から)



6 3 北区 第1遺構面 260 竪穴系小石室  
遺物出土状況(南東から)



7 3 北区 第1遺構面 260 竪穴系小石室  
(南西から)



8 1 北区 第1遺構面 172 土坑遺物出土状況  
(西から)



1 3南区・4南区 第1遺構面 掘立柱建物群(真上上空から)



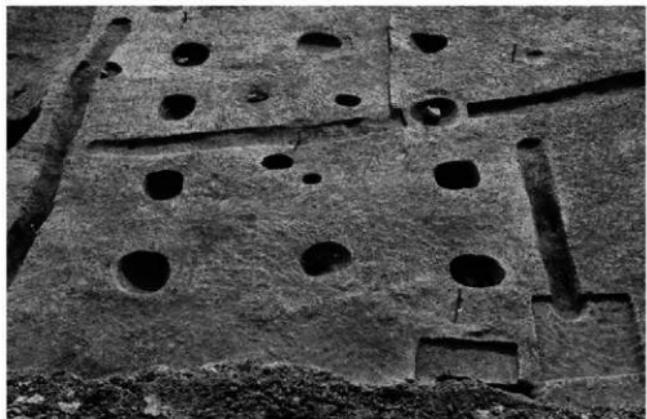
2 3南区・4南区 第1遺構面 掘立柱建物群(北から)



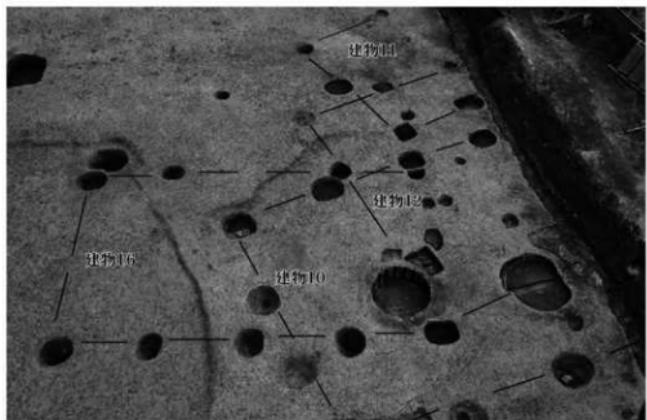
3 3南区・4南区 第1遺構面 掘立柱建物 4(南西から)



1 4南区 第1遺構面 挖立柱建物 5(北東から)



2 4南区 第1遺構面 挖立柱建物 6(北東から)



3 3南区 第1遺構面 挖立柱建物 10~12・16(北西から)



1 3 東区 第1遺構面 341・342 溝重複部掘削状況(北から)



2 5 東区 第1遺構面 303 土坑遺物出土状況  
(南西から)



3 4 南区 第1遺構面 458 土坑断面土層及び  
遺物出土状況(南から)



4 4 北区 第1遺構面 229 淀樹遺物出土状況  
(西から)



5 1 北区拡張区 第1遺構面 261 火葬墓  
鉄釘出土状況(北東から)



6 2 北区 第1遺構面 029 井戸検出状況(東から) 7 2 北区 第1遺構面 029 井戸石組み断ち割り状況  
(東から)





3 東区・5 東区・7 区 調査遺構全景(真上空から: 左側が北北東 モザイク写真)



1 3 東区・5 東区・7 区上段・下段西半部 調査遺構全景(北西上空から)



2 7 区上段・下段西半部・5 区東・3 区東 調査遺構全景(東南東上空から)



3 7 区下段東半部 調査遺構全景(北西上空から)



1 3 東区・5 東区・7 区西端 調査遺構全景(北東から)



2 7 区 130 土坑遺物出土状況(南から)



3 7 区 130 土坑遺物出土状況(北西から)



1 7区下段西端 調査遺構全景(南東から)



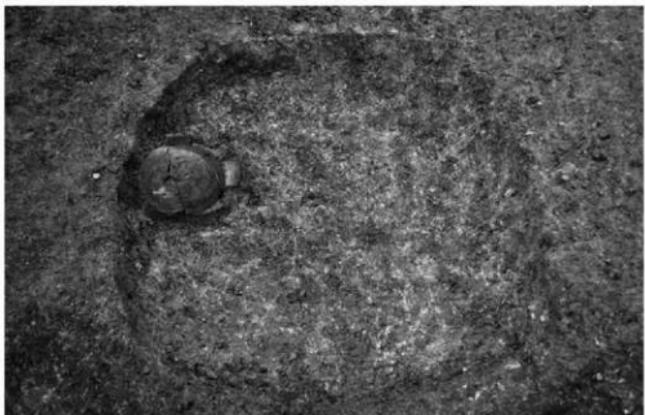
2 7区 20 土坑断面土層(南から)



3 7区 80 土坑断面土層(西南西から)



1 7区下段東半部 調査遺構全景(東南東から)



2 7区 176土坑(地鎮遺構)遺物出土状況(南から)



3 7区 池の排水施設(西から)



1 1-2区西半部 調査区南西壁断面土層(北東から)



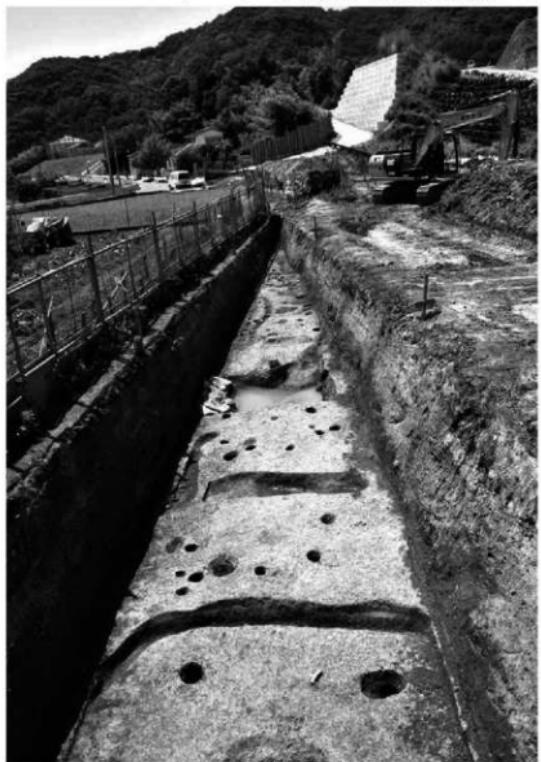
2 1-2区 調査区南西壁断面土層(北東から)



3 2-2区 調査区南西壁断面土層(北東から)



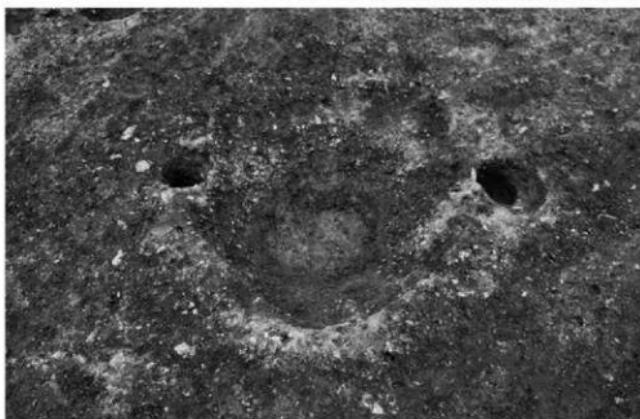
1 1-2区・2-2区 第2遺構面 調査遺構全景(南東から)



2 1-2区西半部 第2遺構面 調査遺構全景(南東から)



1 1-2区 第2遺構面 33 竪穴建物（南東から）



2 1-2区 第2遺構面 33 竪穴建物 41 中央炉・小穴（北東から）



3 1-2区 第2遺構面 44 竪穴建物（北東から）



1 2-2区 第1遺構面 1土坑(北東から)



2 1-2区 第2遺構面 59 土坑木製品出土状況(北から)



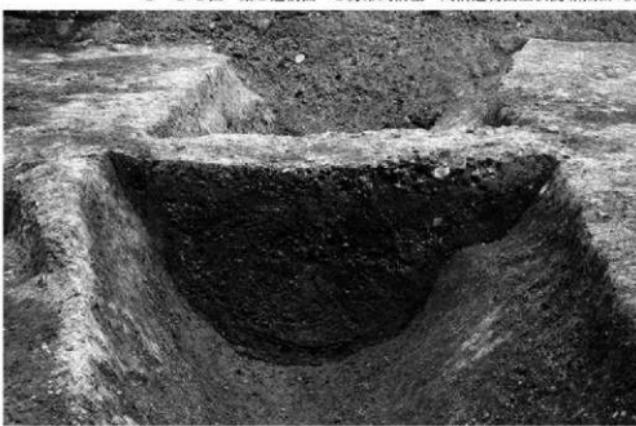
3 1-2区 第2遺構面 59 土坑東西断面土層(南東から)



1 1-2区・2-2区 第2遺構面 2方形周溝墓(北西から)



2 2-2区 第2遺構面 2方形周溝墓 周溝遺物出土状況(南東から)



3 1-2区 第2遺構面 2方形周溝墓周溝断面土層(南南西から)



6区 第2遺構面 調査遺構全景(真上上空から:左側が北北東 モザイク写真)



1 6-1 北区 第2遺構面 調査遺構全景(西北西上空から)



2 6-1 南区・6-2 南区 第2遺構面 調査遺構全景(西北西上空から)



3 6-1 南区・6-2 南区 第2遺構面 調査遺構全景(西北西から)



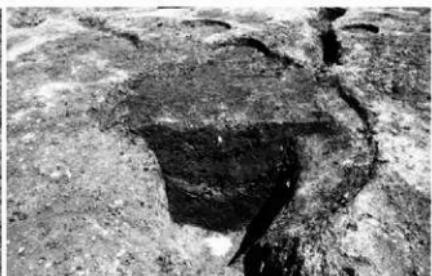
1 6-2 南区東半部 第2遺構面 調査遺構全景(西北西から)



2 6-1 北区・南区 第2遺構面 42・61 壺穴建物(南東から)



3 6-1 北区・南区 第2遺構面  
42 壺穴建物内 62 中央炉(西北西から)



4 6-1 北区・南区 第2遺構面 42 壺穴建物内  
62 中央炉断面土層(西北西から)



1 6・1 南区 第2遺構面 114・117 竪穴建物(北西から)



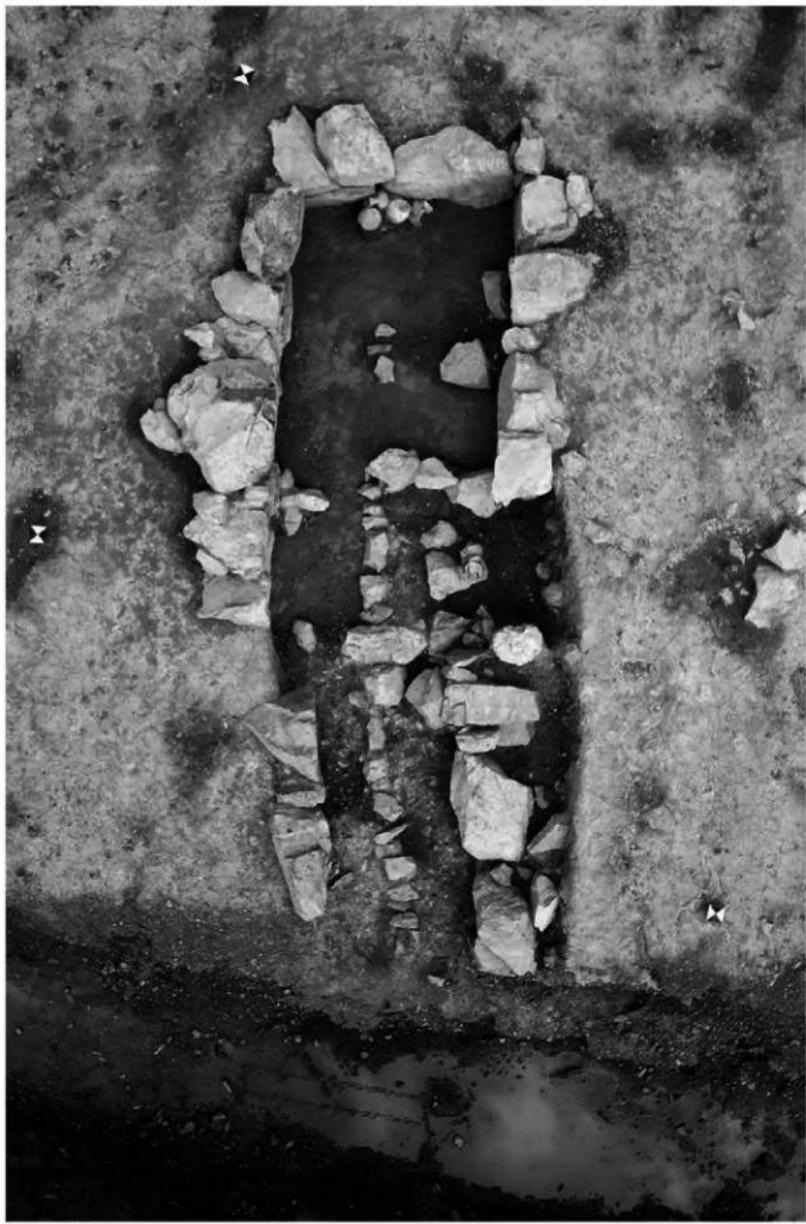
2 6・1 南区 第2遺構面 114・117 竪穴建物(北北東から)



3 6・1 南区・6・2 南区 第2遺構面 139 竪穴建物(北から)



6区 第1遺構面 調査遺構全景(真上空から: 左側が北北東 モザイク写真)



6-2 南区 第1遺構面 63 横穴式石室(真上上空から: 上側が北北東)



1 6-2 南区 第1遺構面 63横穴式石室玄室遺物出土状況(南南西から)



2 6-2 南区 第1遺構面 63横穴式石室小室遺物出土状況(南東から)



3 6-2 南区 第1遺構面 63横穴式石室玄室奥壁(南南西から)



4 6-2 南区 第1遺構面 63横穴式石室玄室右側壁(西北西から)



5 6-2 南区 第1遺構面 63横穴式石室玄室左側壁(東南東から)



6-2 南区 第1遺構面 85 横穴式石室(真上上空から: 上側が北北東)



1 6-2 南区 第1遺構面 85 横穴式石室玄室遺物出土状況(北北東から)



2 6-2 南区 第1遺構面 85 横穴式石室玄室遺物出土状況(北東から)



3 6-2 南区 第1遺構面 85 横穴式石室玄室奥壁(南南西から)



4 6-2 南区 第1遺構面 85 横穴式石室玄室右側壁(西北西から)



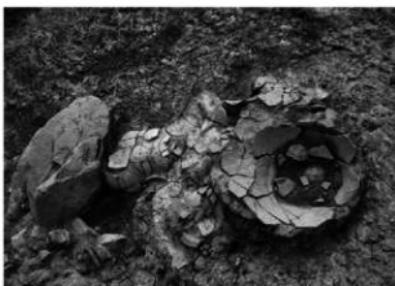
5 6-2 南区 第1遺構面 85 横穴式石室玄室左側壁(東南東から)



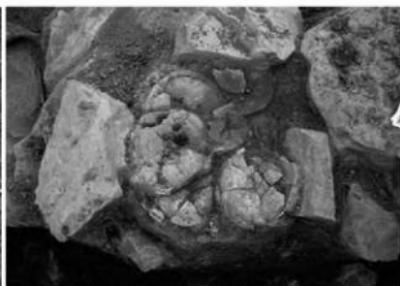
1 6-2 南区 第1遺構面 11 土坑(北西から)



2 6-2 南区 第1遺構面 29 土坑遺物出土状況(北東から)



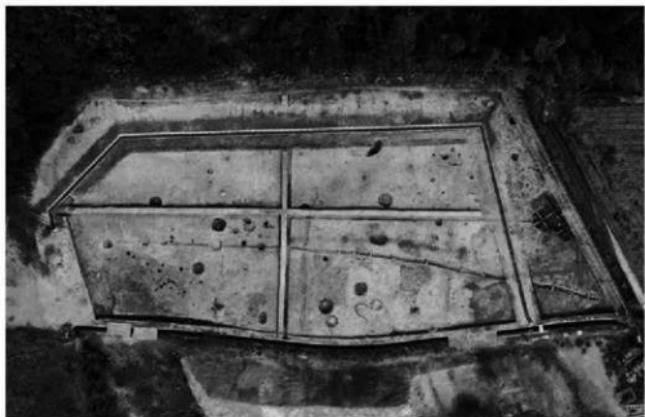
3 6-2 南区 第1遺構面 29 土坑遺物出土状況細部(東から)



4 6-2 南区 第1遺構面 89 土師器皿群出土状況細部(西北西から: 63 横穴式石室)



1 1区 調査地遠景(西から)



2 1区 調査遺構全景(真上上空から: 上側が北)



3 1区 調査遺構全景(南東から)



1 1-2 東区 セクションベルト東西断面土層(南から)



2 1区 1土坑遺物出土状況(南西から)



3 1区 1土坑遺物出土状況(南東から)



1 1区 1 土坑遺物出土状況(南西から)



2 1区 1 土坑遺物出土状況(北西から)



3 1区 1 土坑遺物出土状況(北西から)



1 1区 1土坑遺物出土状況細部(南西から)



2 1区 1土坑遺物出土状況細部(北東から)



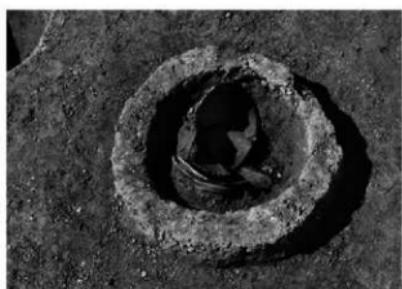
3 1区 1土坑遺物出土状況細部(南西から)



1 1区 53柱穴遺物出土状況(北から)



2 1区 53柱穴遺物出土状況(北西から)



3 1区 59柱穴遺物出土状況(南東から)



4 1区 59柱穴遺物出土状況(北東から)



5 1区 4土坑遺物出土状況(東から)



6 1区 36土坑完掘状況(南東から)



7 1区 B·G·H土坑完掘状況(南東から)



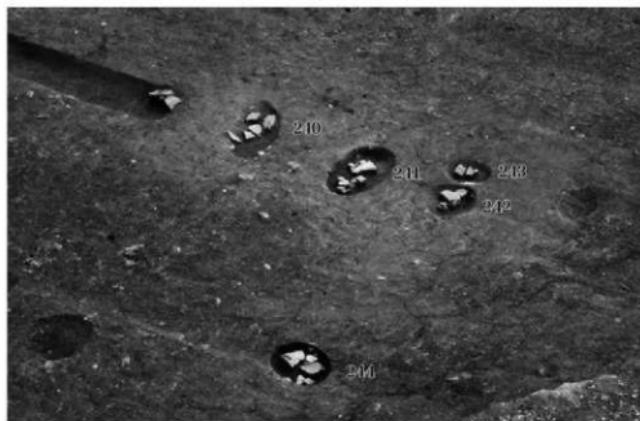
8 1区 F土坑桶内完掘状況(南から)



1 2区 第2遺構面 調査遺構全景(南東から)



2 2区 第2遺構面 調査遺構全景(北西から)



3 2区 第2遺構面 240~244 土坑遺物出土状況(北西から)



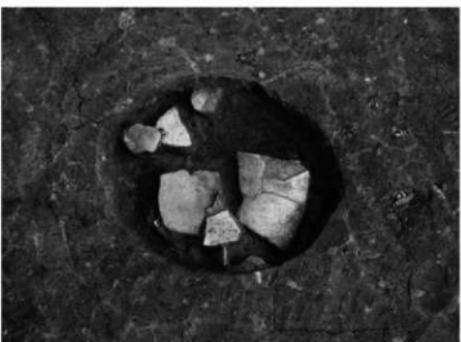
1 2区 第2遺構面 240 土坑遺物出土状況(東から)



2 2区 第2遺構面 241 土坑遺物出土状況(東から)



3 2区 第2遺構面 242・243 土坑遺物  
出土状況(東から)



4 2区 第1遺構面 244 土坑遺物出土状況(南から)



1 2区 第1遺構面 調査遺構全景(南東から)



2 2区 第1遺構面 調査遺構全景(北西から)



3 2区北半部 第1遺構面 調査遺構(南東から)



1 2区南半部 第1遺構面 調査遺構(東から)



2 3区 調査遺構全景(北東から)



3 3区 調査遺構全景(北から)



5南区・5北区・5東区・8区 第2遺構面 調査遺構全景(真上上空から:左側が北北東 モザイク写真)



1 7 北区・6 北区 第2遺構面、5 北区 第1遺構面 調査遺構全景(北西から)



2 7 南区・6 南区 第2遺構面、5 南区 第1遺構面 調査遺構全景(北西上空から)



3 6 南区 第2遺構面 捜立柱建物・柵列(南上空から)



1 8区 第3遺構面 調査遺構全景(北西上空から)



2 8区 第3遺構面 調査遺構全景(北西から)



3 5北区・6北区 第2遺構面 調査遺構全景(北西から)



1 5北区・6北区 第2遺構面 調査遺構全景(南東から)



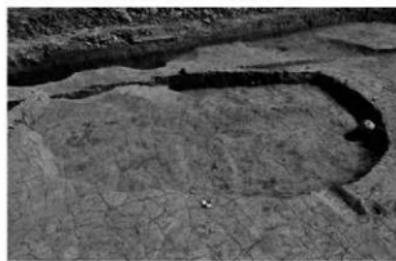
2 7北区 第2遺構面 調査遺構全景(東から)



3 5東区 第2遺構面 調査遺構全景(東から)



1 4区 第2遺構面 調査遺構全景(北東から)



2 4区 第2遺構面 006 土坑遺物出土状況  
(北西から)



3 4区 第2遺構面 006 土坑遺物出土状況細部  
(北東から)



4 6 北区 第2遺構面 118 井戸遺物出土状況  
(北西から)



5 6 北区 第2遺構面 118 井戸遺物出土状況細部  
(北から)



6 5 東区 第2遺構面 004 土坑完掘状況(東から)



7 5 東区 第2遺構面 磁溝完掘状況(南東から)



4～8区 第2遺構面及び第1遺構面 調査遺構全景  
(真上上空から：左側が北北東 モザイク写真)



1 5北区 第1遺構面、6北区・7北区 第2遺構面 調査遺構全景(南東上空から)



2 5北区 第1遺構面、6北区・7北区 第2遺構面 調査遺構全景(北西上空から)



3 4区 第2遺構面、5東区 第1遺構面 調査遺構全景(南東上空から)



1 5南区 第1遺構面、6南区・7南区 第2遺構面 調査遺構全景(南東上空から)



2 5南区 第1遺構面 調査遺構全景(南東から)



3 5北区 第1遺構面 中世の区画溝完掘状況(東から)



1 8区 第1遺構面 調査遺構全景(西から)



2 5北区 第1遺構面 073 井戸・082 深樹完掘状況(南東から)



3 5北区 第1遺構面 柱穴・小穴列(南東から)



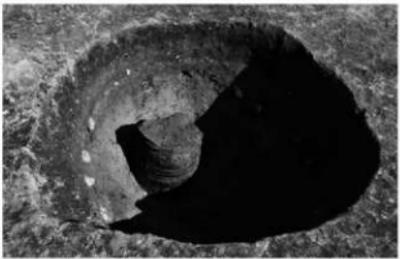
1 5北区 第1遺構面 073 井戸上層遺物  
出土状況(北東から)



2 5北区 第1遺構面 073 井戸曲物・遺物  
出土状況(南東から)



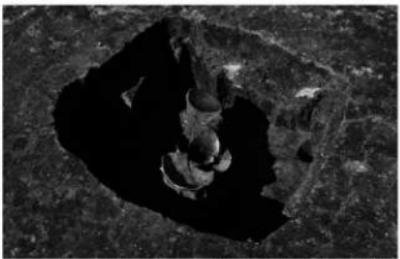
3 5北区 第1遺構面 073 井戸曲物・遺物  
出土状況細部(南から)



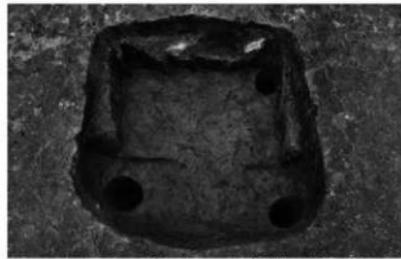
4 5北区 第1遺構面 073 井戸曲物検出状況  
(南西から)



5 5北区 第1遺構面 073 井戸曲物内遺物  
出土状況細部(南東から)



6 5北区 第1遺構面 082 溜樹遺物出土状況  
(東から)



7 5北区 第1遺構面 082 溜樹木組み状況(南から)



8 5北区 第1遺構面 082 溜樹完掘状況(東から)



1 9区 調査遺構全景(南東上空から)



2 9区 調査遺構全景(北西から)



3 9区 調査遺構全景(東から)



2 : 668 小穴、5 : 184 小穴、6・16 : 599 土坑、7 : 343 滝、8 : 342 滝、13 : 470 小穴、14 : 465 小穴、19 : 439 土坑、20 : 648 土坑、21・22 : 621 土坑



24



25



26



27



30



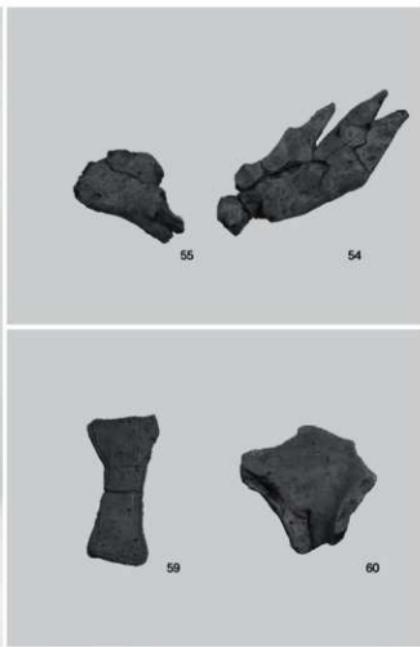
31

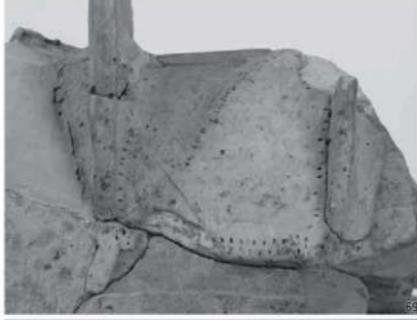
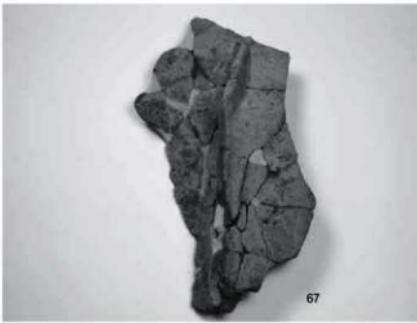
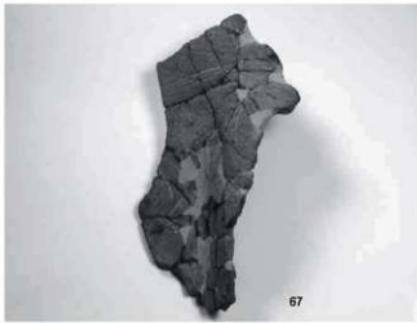


3 北区・3 北区埴器区 第1遺構面 222 塩輪窯(1号窯) 床面 1



58以外：3北区・3北区埴輪区 第1造構面 222 塩輪窯（1号窯） 床面1、58：同 床面2

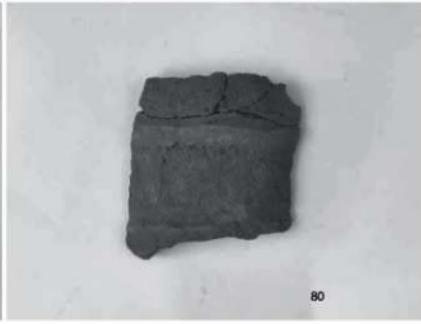
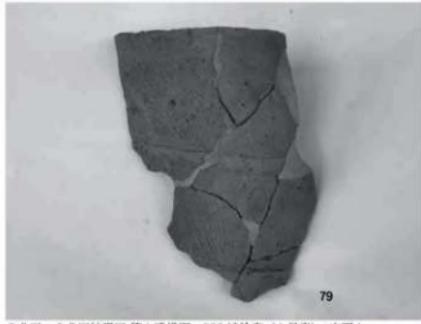




3北区・3北区振張区 第1造横面 222 墓輪窯（1号窯）床面3



3 北区・3北区竈張区 第1遺構面 257 塗輪窯(床面1)







91



96



98



106



107



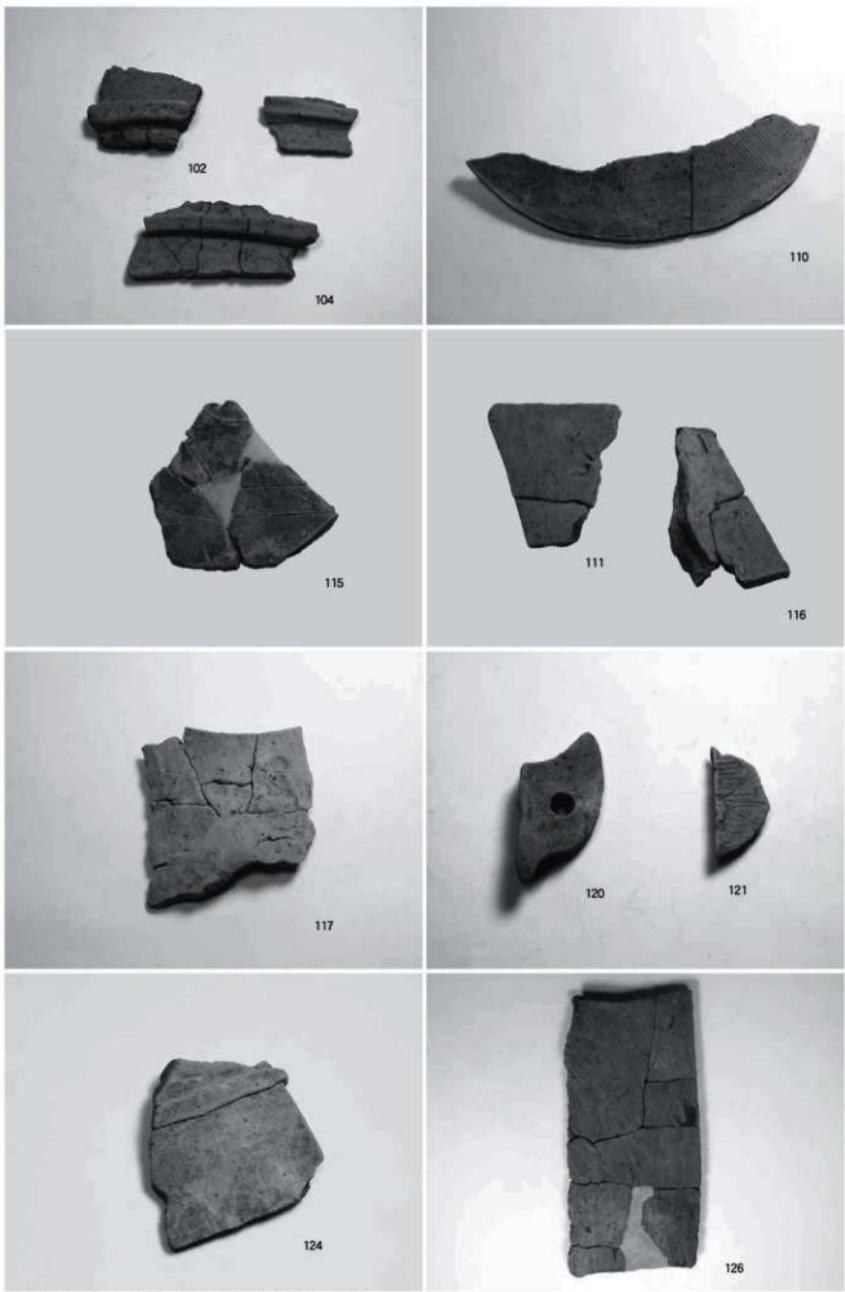
107



108



108





132



134



141



147



148



151



152



153







182



183



184



185



186



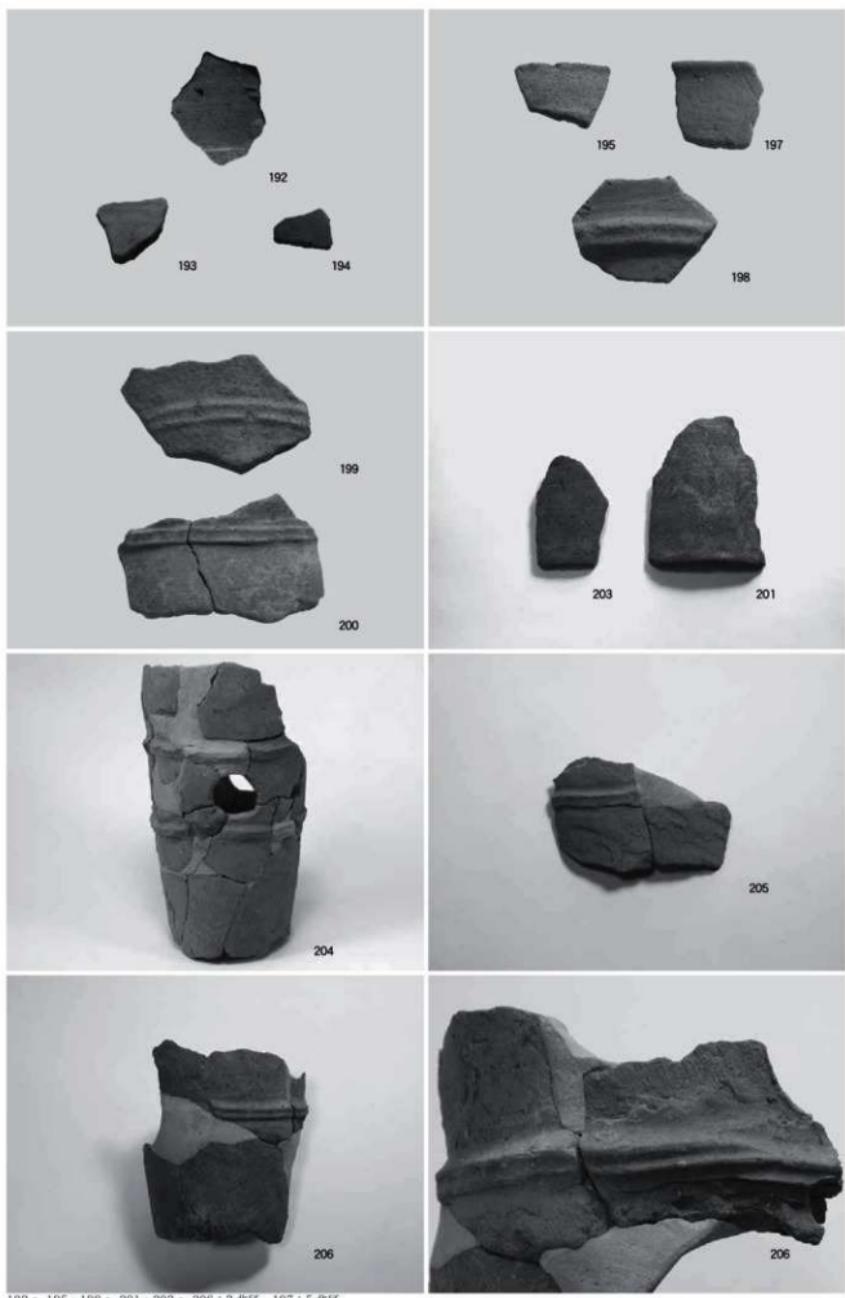
187



189



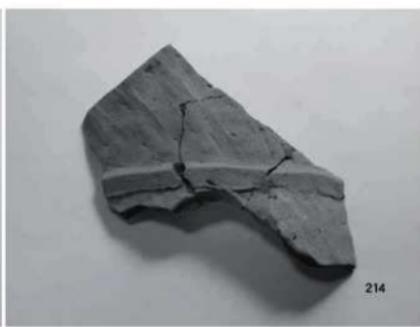
190



192～195・198～201・203～206：3 北区、197：5 北区



209



214



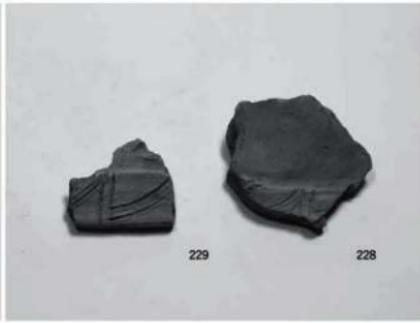
220



221

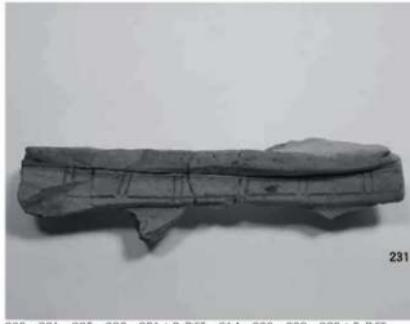


225



229

228



231



232

209・221・225・226・231：3 北区、214・220・228・229：5 北区



247



248



249



250



253



254



257

235・241・247・248・250・253・257：3 北区、232・254：3 東区、249：5 北区、243：埴土



269

265

266



273



276



280



291

290

292



294



295



296

265・266・269・276・280・290～292・294：3 北区。295：3 北区+5 北区。273・296：3 東区



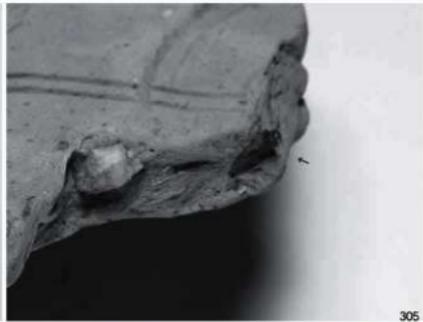
301



306



305



305



311



314



315



318

321

306・314・315：3 北区、305・311：3 北区+3 東区



325



332

333



335



336



340



341



343

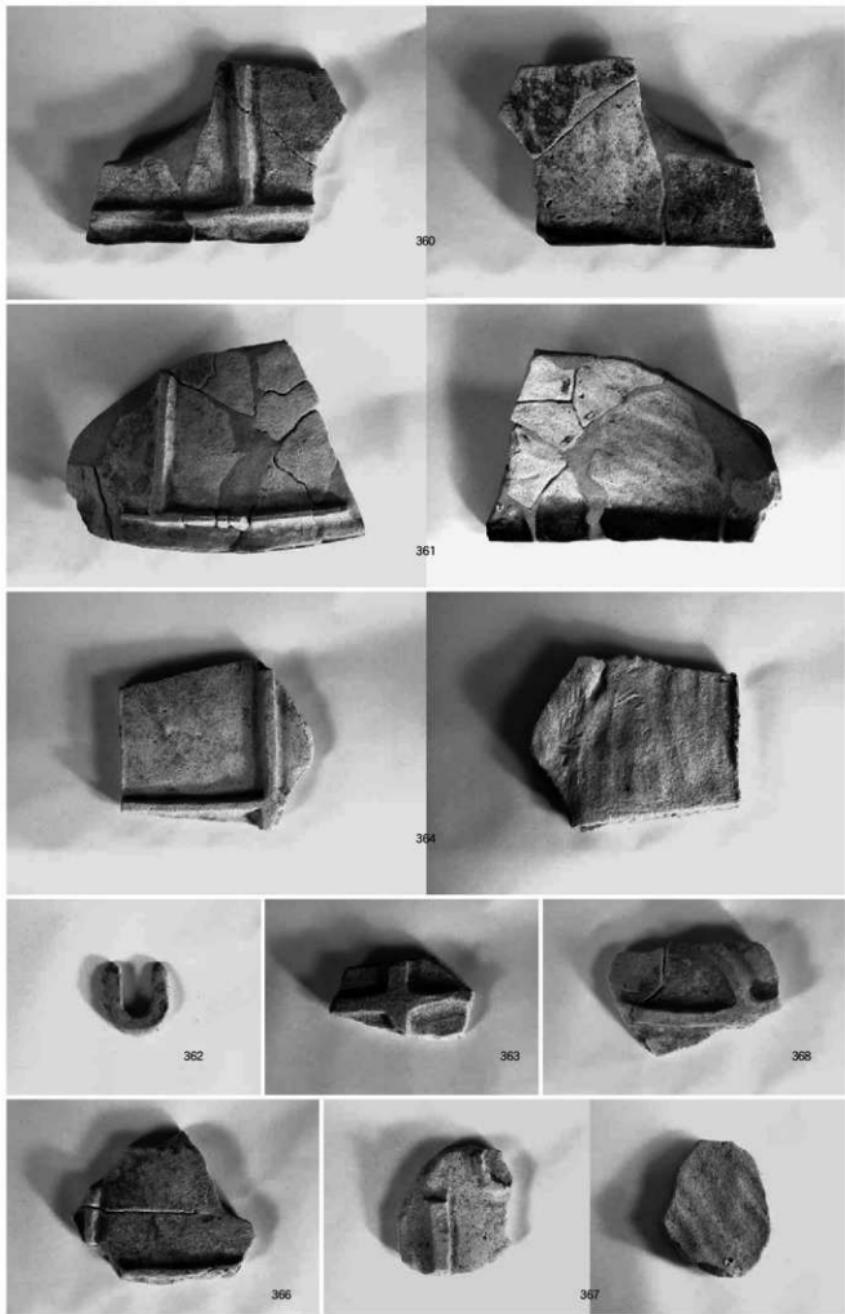


355



358

325・332・335・336・358：3北区、333・343・355：5北区、340：5東区、341：2北区



360・366・368：第3次試掘確認調査2トレンチ第3層下層、361：233土坑、362・364：複数、363：遺物包含層第3層、367：172土坑



370：第3次試掘確認調査2トレンチ第3層下層、371：172土坑、372：遺物包含層第4層、374：排土、376：擾乱、378-379：002横穴式石室、  
380-381：260堅穴系小石室



382



387



383



384



386



389



390



390



391



407



420

382～384：260 穴系小石室、386・387：257 塚輪窓検出面、389：222 塚輪窓床面1 燐族部他、390・391：222 塚輪窓検出面～基盤層他。  
407：掘立柱建物4、420：掘立柱建物6



434~436 : 105 土坑。437・438 : 021 土坑。441 : 223 土坑。444・445 : 268 土坑。449・450 : 302 土坑。454・456 : 303 土坑



459



461



462



463



466



471



472



475



476



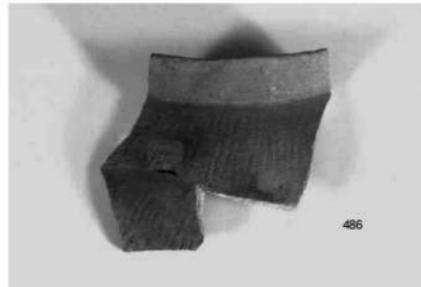
478



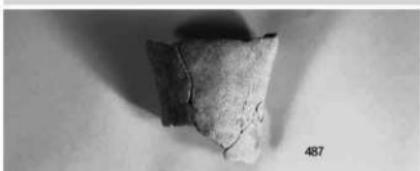
482



484



486



487

459・461～463 : 303 土坑、466 : 309 土坑、472・475・476・478・482・484・486 : 458 土坑、487 : 345 柱穴



494



498



499



497



502



504



506



514



543



527



544



546

494 : 008 滋、497~499 : 103 滋、502~504·506·514·527 : 341 滋、543·544 : 352 滋、546 : 665 滋



560



562



563



563



563



561



570



572



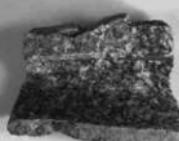
573



585

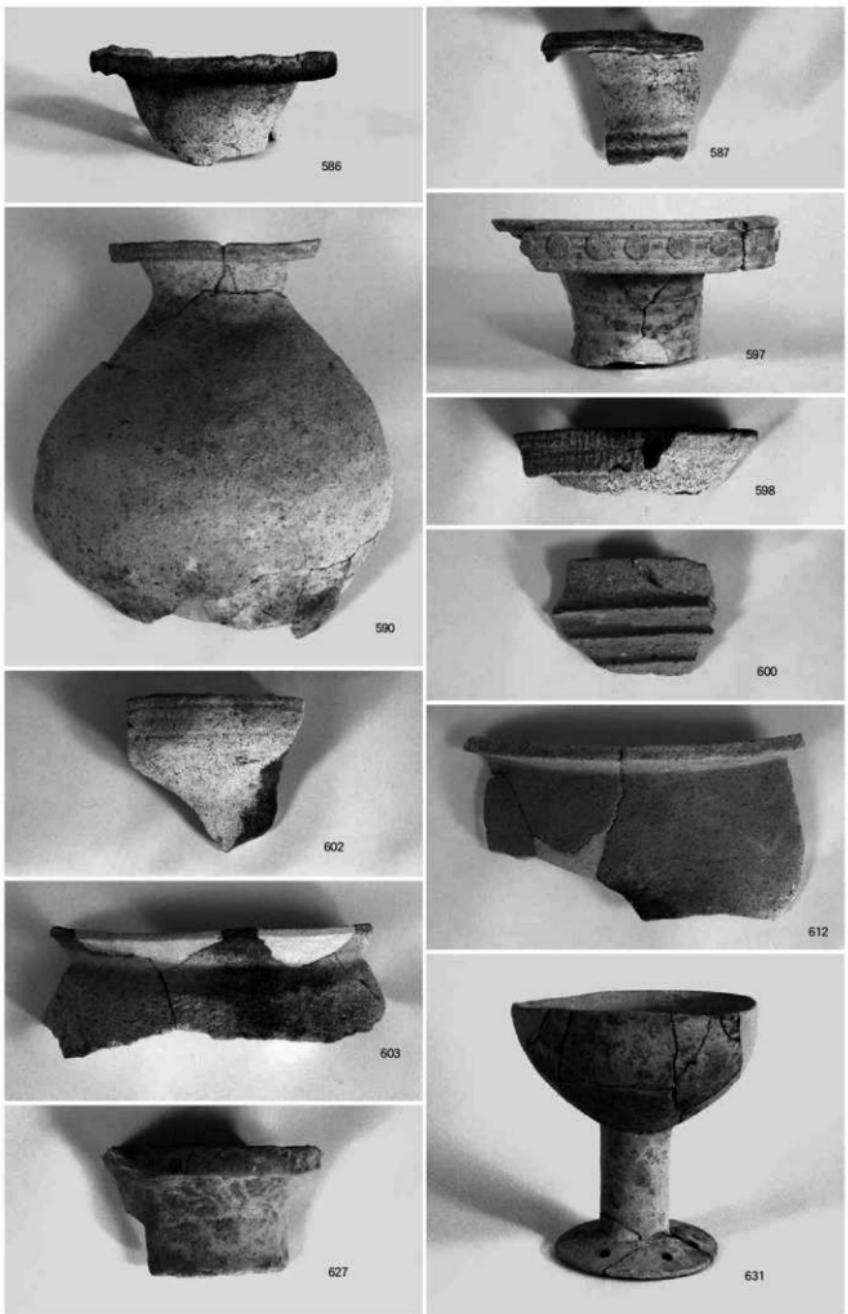


577

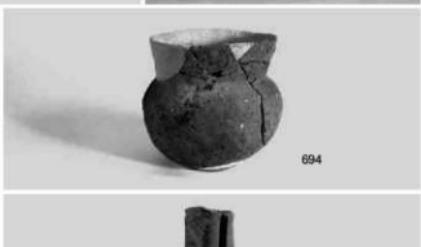
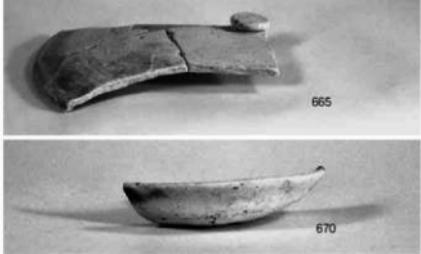
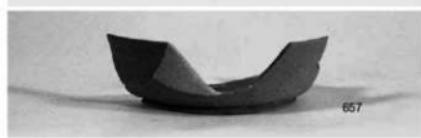


580

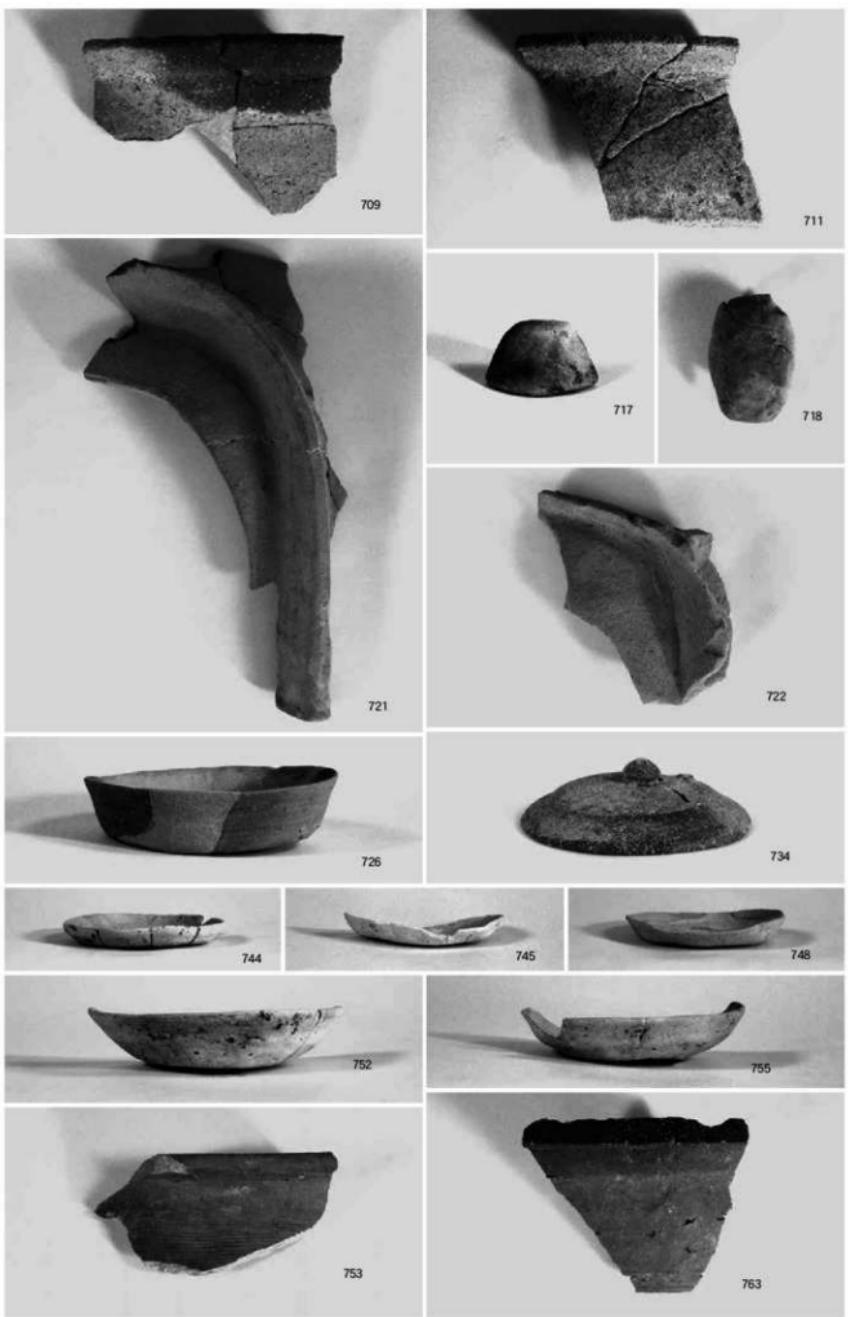
560～563：229 瓦桶、570：292 土坑内亂瓦。572：062 小火、573～577：029 井戸、580：136 井戸、585：583 潟



586・587・590・597・598・600・602・603・612・627：遺物包含層第4層、631：遺物包含層第4層より下



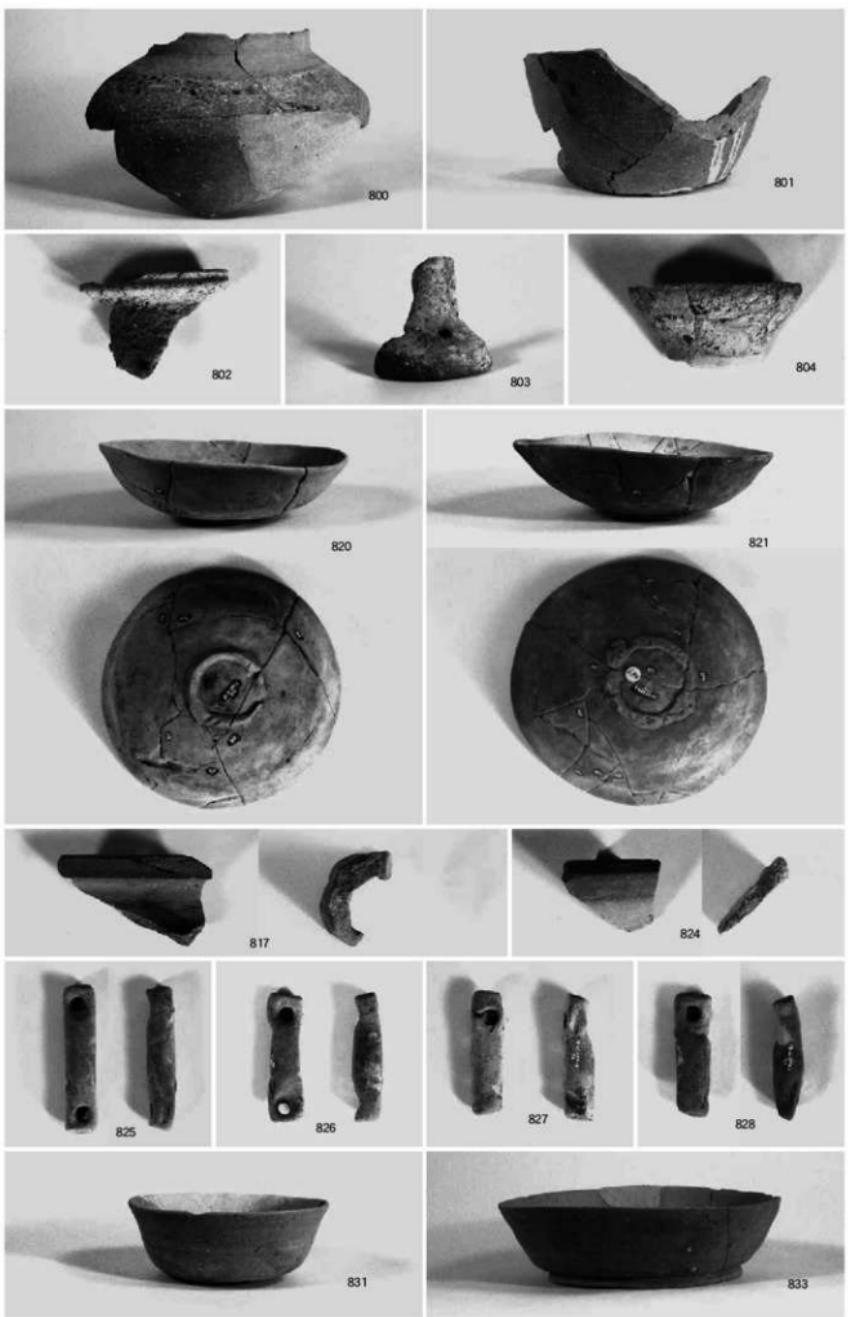
636・641・657～659・664～666・668・670・672～674：遺物包含層第4層、687・694：遺物包含層第3層、699・700：調査区側溝



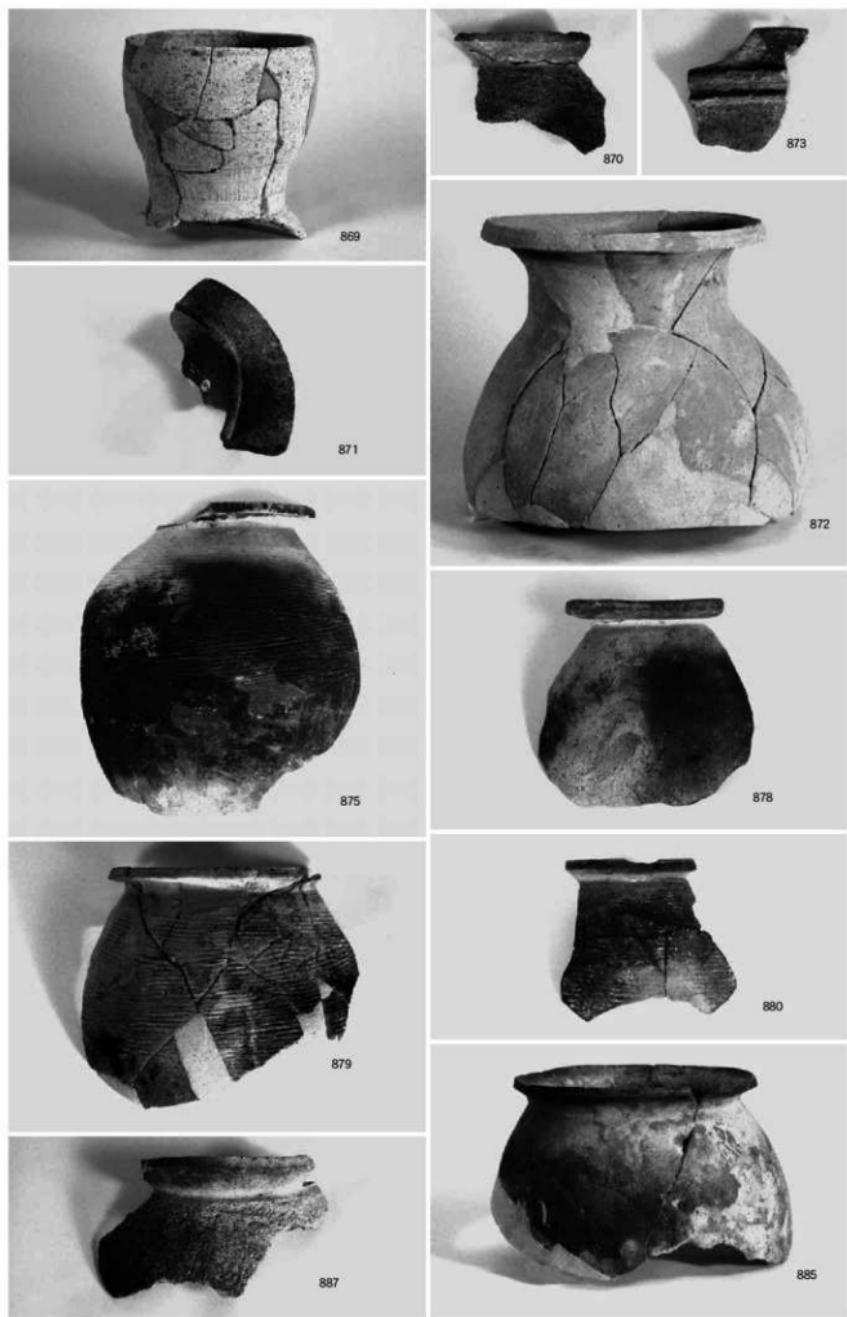
709・711・717・718・722・726・734・744・745・748・752・753・763：遺物包含層第3層、721：層位不明、755：遺物包含層第3・4層



771・774～778・780・782・789・794・796・798・799：130 土坑



800・801：130 土坑、802～804：180 潟、820・821：176 土坑（地軸遺構）、817：10 土坑、824：185 土坑、825～828・831・833：遺物包含層第3層



891

892

893

895

896

894

898

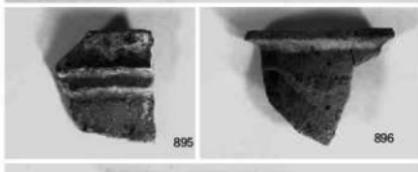
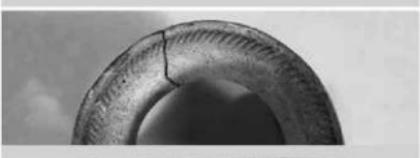
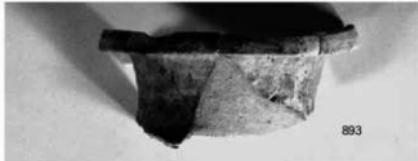
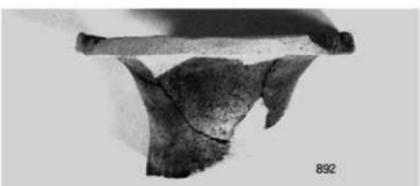
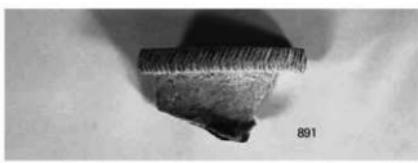
902

900

903

904

906



891~896・898・900・902~904・906：1 土坑



907~910・916~920・922・923・926・928・929 : 59 土坑



935



937



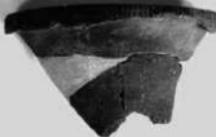
938



936



943



939



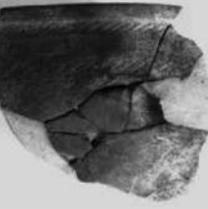
944



950



949

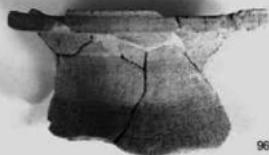


956

949



963



965



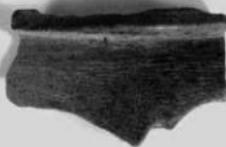
967



971



979



987



993



995



964



966



969



970



985



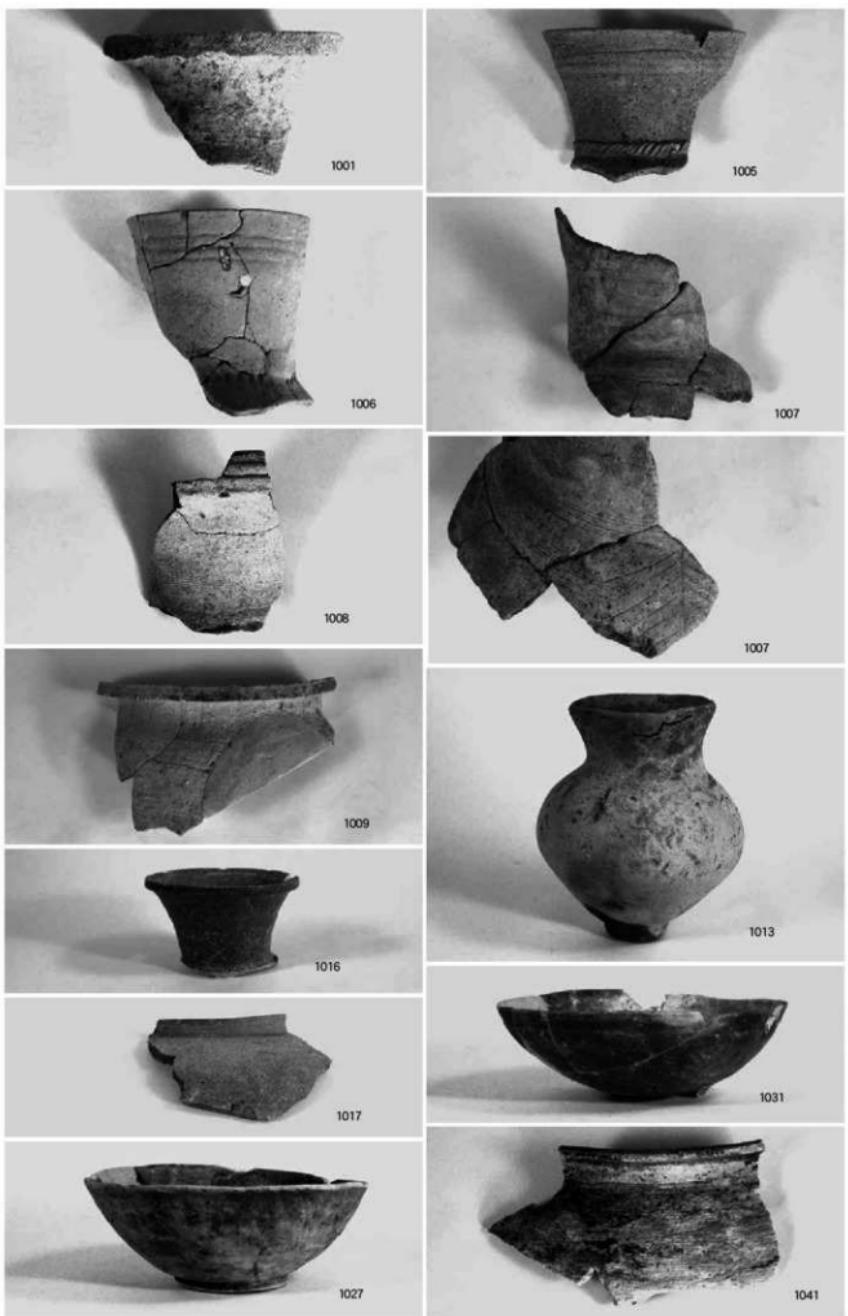
988



996



963～967・969：遺物包含層第4～2層、970・971・979：遺物包含層第4層、985・987・988・993・995・996・998：遺物包含層第3～3層



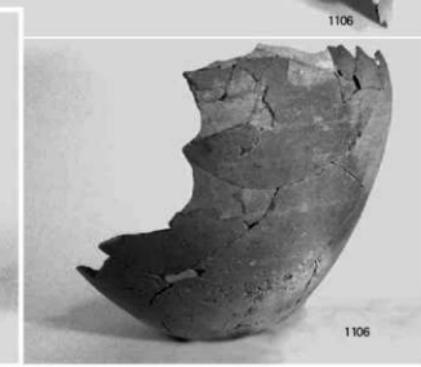
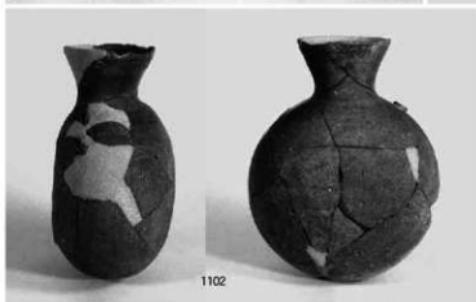
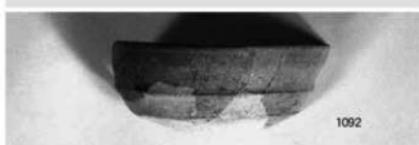
1001-1007・1009: 2方形周溝墓。1005・1008・1017: 機械潤滑剤。1006: サブレンチ。1013・1016・1027・1031: 遺物包含層第3-2層。  
1041: 遺物包含層第3層



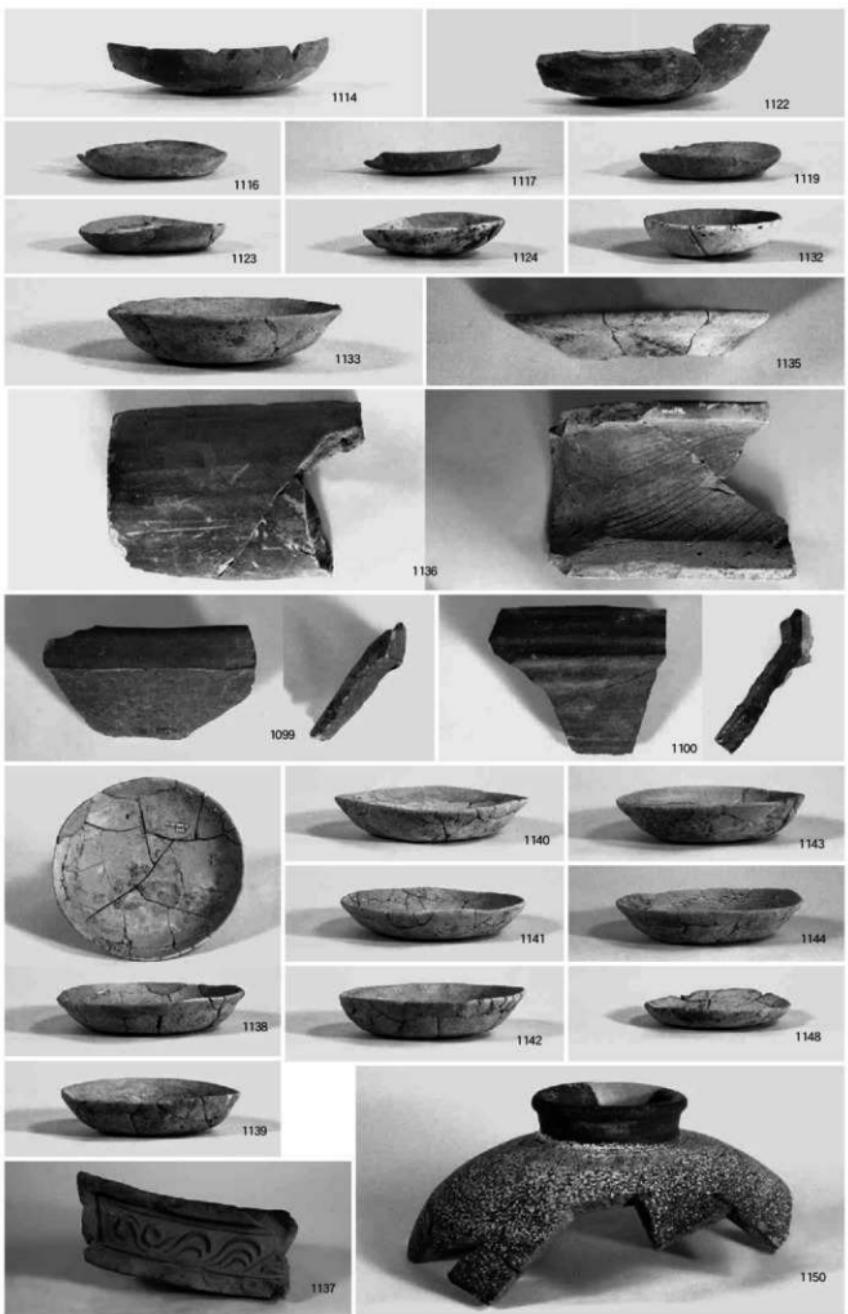
1042～1045：42 窑穴建物、1049～1051・1053・1054・1056・1058・114 窑穴建物、1058：139 窑穴建物、1065・1066：205 土坑、1067：136 潟、  
1077：128 潟、1078：127 潟、1080：93 潟

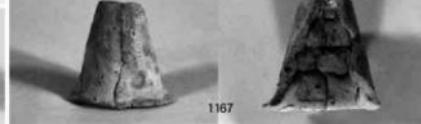
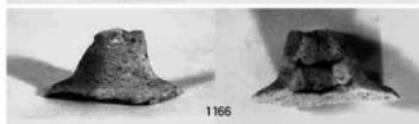


1081～1086 : 63 横穴式石室。1087・1089～1091 : 85 横穴式石室

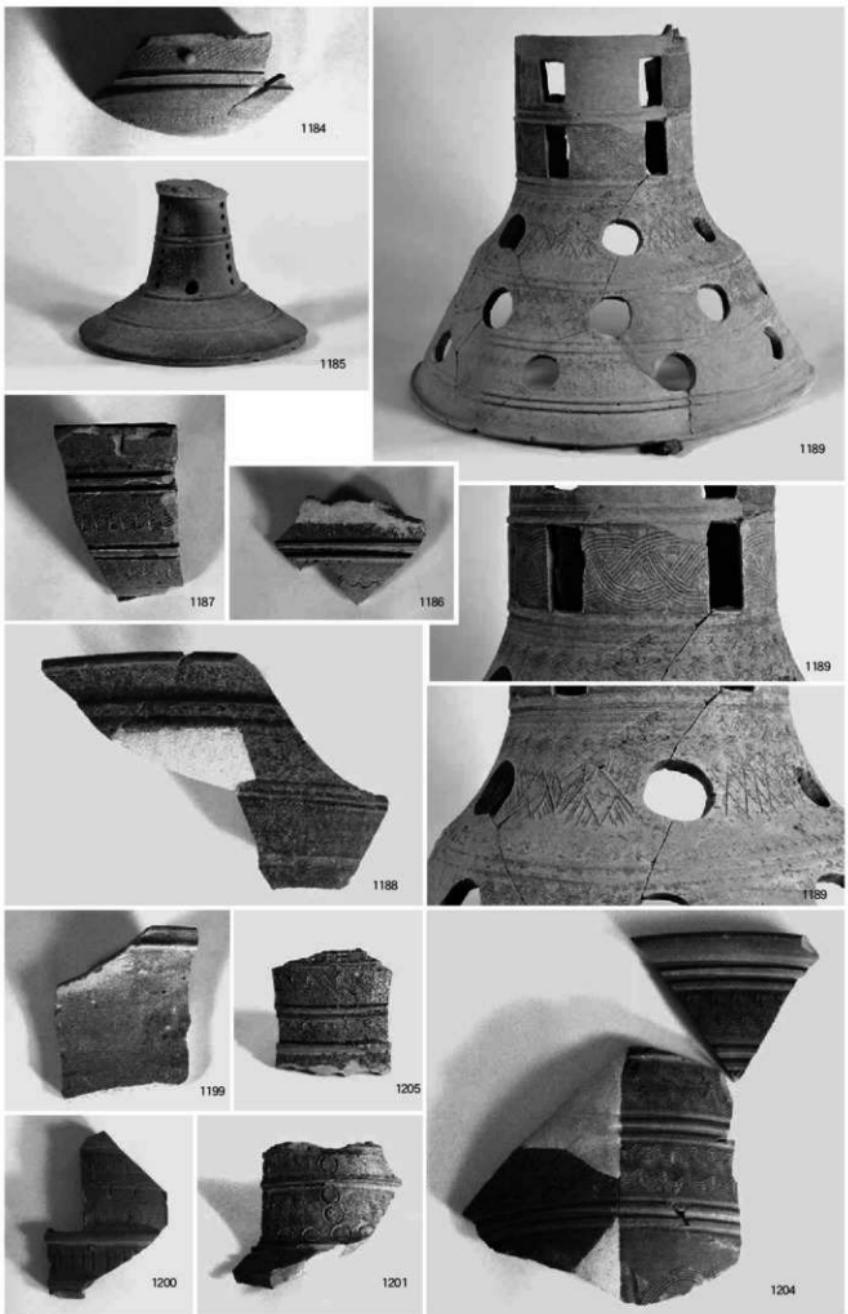


1088・1092・1093 : 85 横穴式石室、1102 : 11 土坑、1103~1106 : 29 土坑





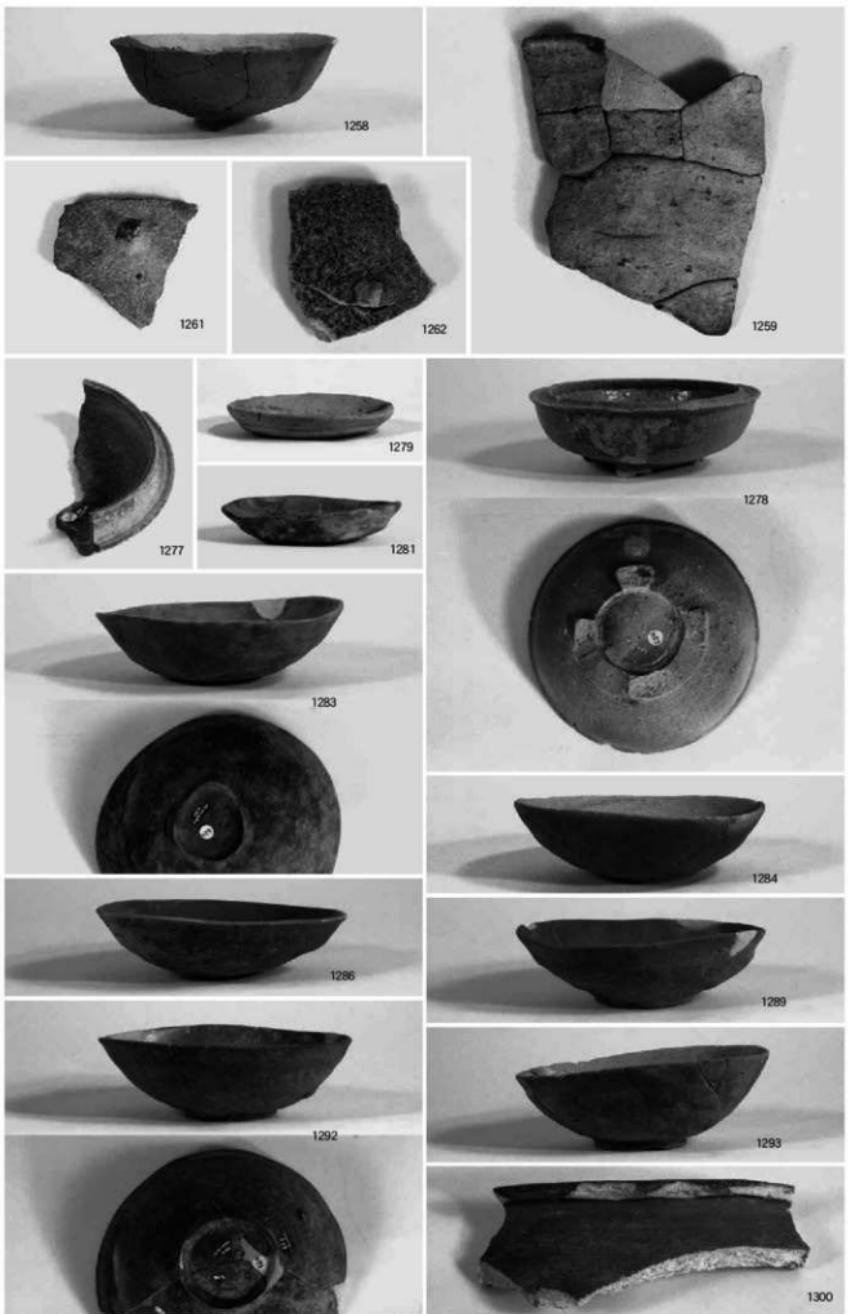
1151・1152・1157・1159・1163・1165～1167・1175・1176・1178・1180：1 土坑



1184-1185～1189：1土坑。1199：遺物包含層第2層。1200-1201・1204-1205：遺物包含層第3-2層

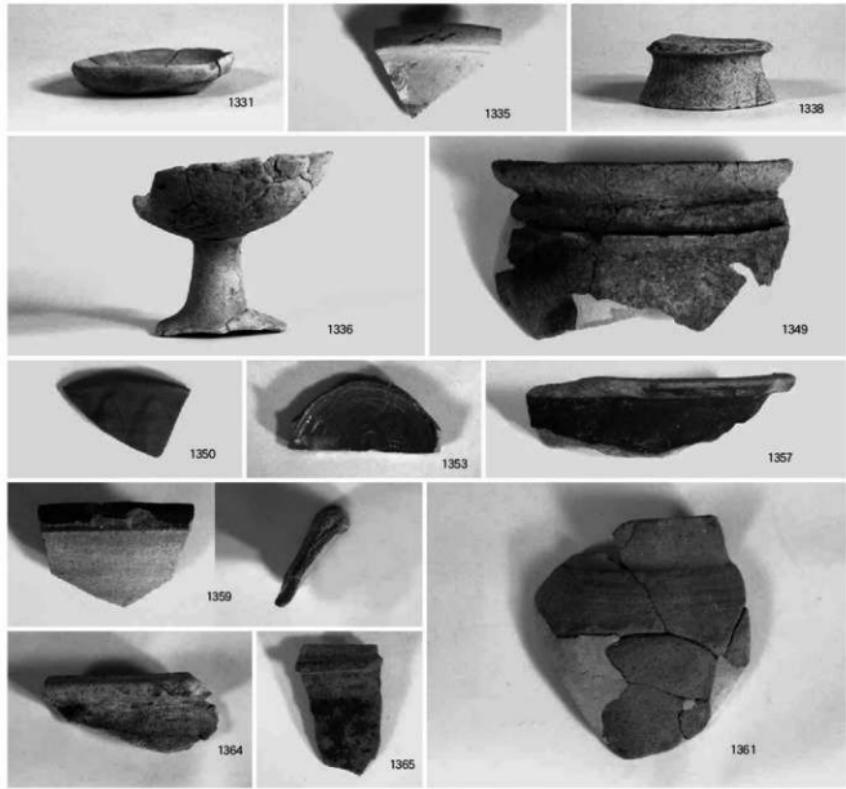


1208 : 128 土坑。1209-1211 : 53 柱穴。1212-1213-59 柱穴。1215 : 4 土坑。1219-1222 : 17 槽。  
1226-1227-1238-1241-1243 : 遺物包含層第3-2層。1249-1251 : 遺物包含層第3-1層

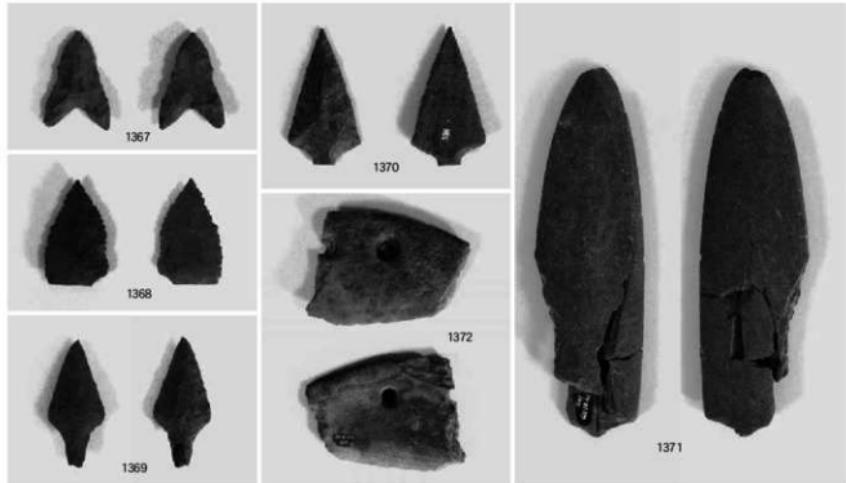


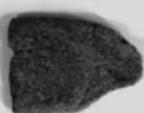
第2次 1258:261 土坑、1259:244 土坑、1261・1262:240 土坑

第3次 1277-1278:006 土坑、1279-1281-1283-1284-1286-1289:073 井戸、1292-1293:082 漏斗、1300:004 土坑

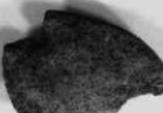


第3次 1331・1335：遺物包含層第4—1層、1336・1338・1349・1353：遺物包含層第3層、1350・1359：遺物包含層、1357：調査区側溝  
第4次 1361：904土机、1364・1365：905土机

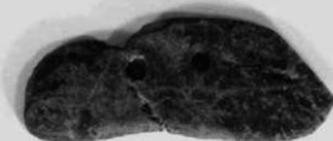




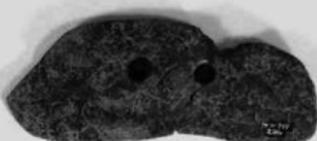
1373



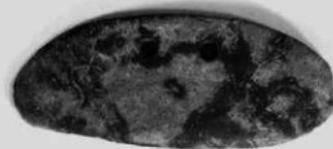
1374



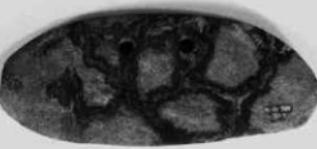
1375



1376



1377



1378



1379



1380



1381



1382



1383



1384



1385



1386

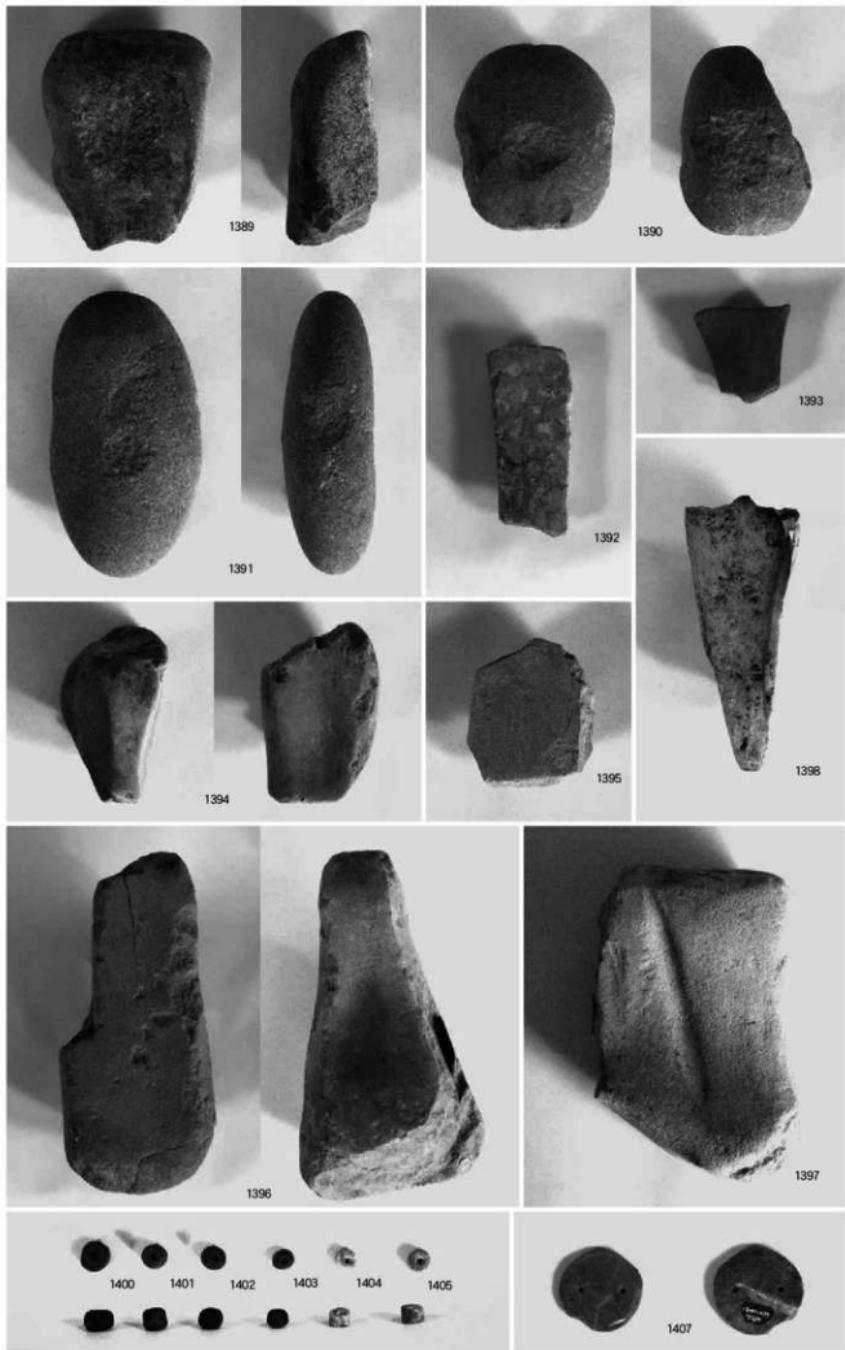


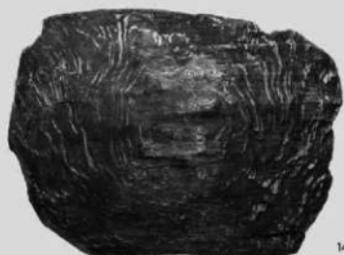
1387



1388

1388





1409



1410



1411



1412



1413



1414



1415



1416



1417



1418



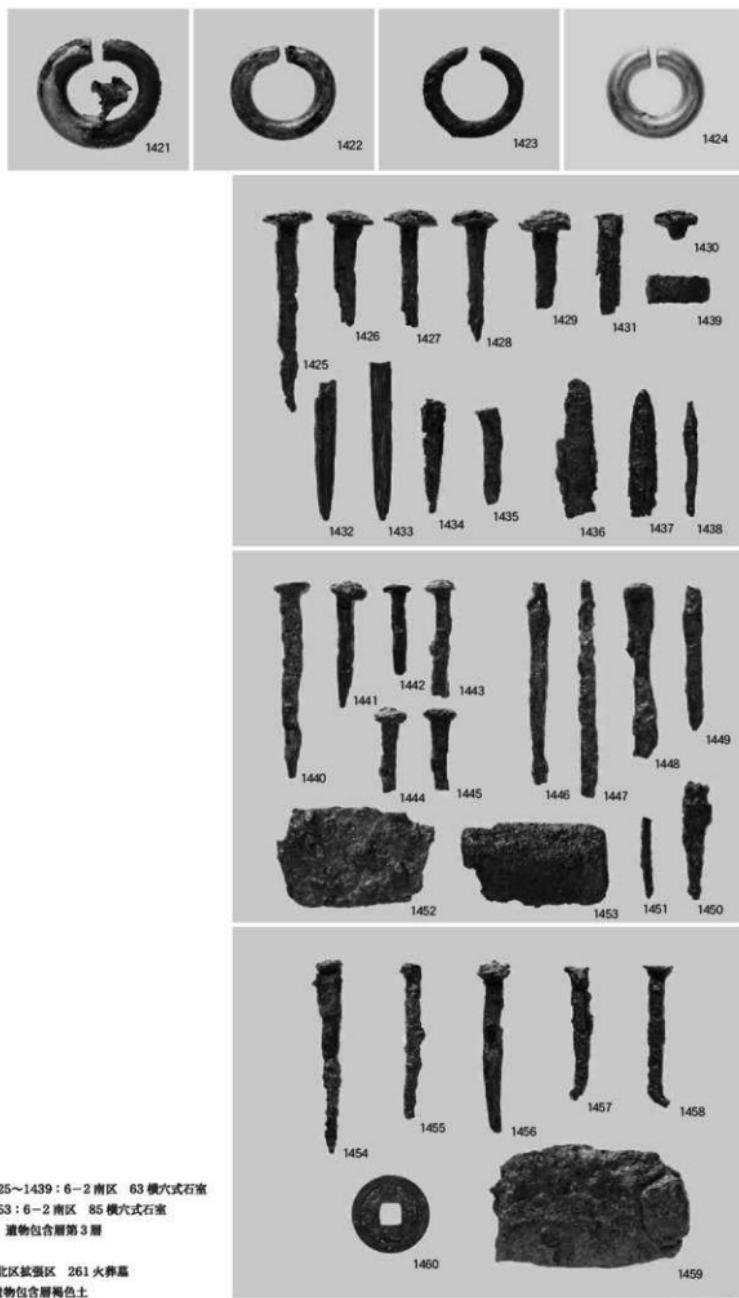
1419



1420

第1次 1415・1416: 振立柱建物 4、1419: 029 井戸、1420: 403 土坑

第3次 1409~1412: 59 井戸、1413: 33 壁穴建物、1414: 75 住穴、1417~1418: B土坑



## 第4次

1421~1423: 1425~1439: 6-2 南区 63 横穴式石室

1424~1440~1453: 6-2 南区 85 横穴式石室

1460: 6-1 北区 遺物包含層第3層

## 第1次

1454~1458: 1 北区 火葬墓 261 火葬墓

1459: 5 北区 遺物包含層褐色土

図152に対応

## 報告書抄録

ふりがな 書名 副書名 巻次 シリーズ名 シリーズ番号 編著者名 編集機関 所在地 発行年月日	ひらいせいき、ひらいにいせき 平井遺跡、平井II遺跡 第二阪和国道建設に伴う発掘調査報告書 第一 土井孝之 公益財團法人 和歌山県文化財センター 〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1 TEL 073-472-3710 西暦2017年3月31日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
ひらいせいき 平井遺跡	わかやまけん 和歌山県 わかやまし ひらい 和歌山市平井	3020150	399	34° 15' 44"	135° 10' 12"	第1次調査 20130702～ 20140311	6,495
						第2次調査 20131003～ 20140223	1,884
						第3次調査 20140417～ 20140707	673
						第4次調査 20140606～ 20140910	1,685
						第二阪和国道建設	
ひらいにいせき 平井II遺跡	わかやまけん 和歌山県 わかやましひらい 和歌山市平井	3020150	437	34° 15' 38"	135° 10' 20"	第1次調査 20120614～ 20121007	1,059
						第2次調査 20130110～ 20130228	670
						第3次調査 20130702～ 20140311	3,636
						第4次調査 20131003～ 20140223	309
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
平井遺跡	集落跡 墓跡	弥生時代	竪穴建物、方形周溝墓	弥生土器、木製品、獸骨	居住域の縁辺部に墓域が形成される		
		古墳時代	埴輪窓、横穴式石室、堅穴系小石室	円筒埴輪・形象埴輪、土師器、須恵器、金属製品、木製品、人骨	埴輪窓の操業 埴輪窓の操業終焉後に付近に古墳群が形成される		
		奈良時代	掘立柱建物、土坑、溝	土師器、須恵器、建物柱材	付近一帯が大掛かりな整地作業が行われ、建物が構築される		
		鎌倉時代	掘立柱建物、井戸、火葬墓、土坑	土師器、瓦器、陶磁器、漆碗、曲物	建物、井戸、溝で構成された屋敷地が展開する		
		江戸時代	井戸、溜槽、土坑	土師器、陶磁器、漆椀など	付近一帯が大掛かりな整地作業が行われる		
平井II遺跡	集落跡	古墳時代	土坑	土師器、須恵器など	付近一帯から一定量の初期須恵器が出土する		
		鎌倉時代	掘立柱建物、井戸、土坑	土師器、瓦器、陶磁器	一部に耕作地が展開する		
		江戸時代	井戸、溜槽、土坑	土師器、陶磁器	付近一帯が大掛かりな整地作業が行われる		
要約		平井遺跡では、調査地の西側に偏って弥生時代中期の竪穴建物と方形周溝墓が検出され、居住域の縁辺部に墓域が展開する様相が明らかになりつつある。古墳時代中期後半から後期前半には、2基の埴輪窓が操業され、多くの埴輪資料が出土している。埴輪窓の終焉からしばらく間を置いて終末期の古墳が築造される。奈良時代には、周辺で大掛かりな整地作業が行われ、調査地の中央部で掘立柱建物が構築されると共に、大量の遺物が廃棄される。鎌倉時代には、掘立柱建物・土坑・溝で構成される屋敷地が形成されている。江戸時代にも周辺で大掛かりな整地作業が行われ、溜槽・土坑などが検出され、規模が縮小したことは言え、生活域と生産域の様相が明らかとなっている。					
		平井II遺跡では、初期須恵器の出土が顕著で、土坑からまとまって初期須恵器が出土している。初期須恵器には、近隣の精見遺跡や鳴滝遺跡との関連性を窺うことができる甕や器台・高壙が散見され、注目される。鎌倉時代では、平井遺跡の東半部に続く生活構造を垣間見ることができると共に生産域の様相を把握することも可能になっている。また、江戸時代の井戸・溜槽・土坑などが検出され、一定の生活域と見做される。					

## 平井遺跡、平井II遺跡

－第二阪和国道建設に伴う発掘調査報告書－

発行年月日：2017年3月31日

編集・発行：公益財団法人和歌山県文化財センター  
和歌山県和歌山市岩橋1263番地の1

印刷・製本：初田印刷株式会社  
和歌山県和歌山市吹上5丁目4-40





